平成３０年６月　１日　開会

平成３０年６月２８日　閉会

平成３０年６月定例会

美 作 市 議 会 会 議 録

平成３０年第３回６月定例会目次

◎　第１日（６月１日開会）

1.　議　事　日　程……57
2.　出　席　議　員……57
3.　欠　席　議　員……57
4.　会議録署名議員……57
5.　出 席 説 明 員……58
6.　出席事務局職員……58
　　開　　会……59
　　散　　会……87

◎　第２日（６月１１日再開）

1.　議　事　日　程……89
2.　出　席　議　員……89
3.　欠　席　議　員……89
4.　出 席 説 明 員……89
5.　出席事務局職員……89
　　開　　議……90
　　延　　会…… 142

◎　第３日（６月１２日再開）

1.　議　事　日　程…… 143
2.　出　席　議　員…… 143
3.　欠　席　議　員…… 143
4.　出 席 説 明 員…… 143
5.　出席事務局職員…… 143
　　開　　議…… 144
　　延　　会…… 213

◎　第４日（６月１３日再開）

1.　議　事　日　程…… 215
2.　出　席　議　員…… 215
3.　欠　席　議　員…… 215
4.　出 席 説 明 員…… 215
5.　出席事務局職員…… 215
　　開　　議…… 216
　　延　　会…… 267

◎　第５日（６月１４日再開）

1. 議　事　日　程…… 269
2. 出　席　議　員…… 269
3. 欠　席　議　員…… 269
4. 出 席 説 明 員…… 269
5. 出席事務局職員…… 269
開　　議…… 270
散　　会…… 351

◎　第６日（６月２８日再開）

1. 議　事　日　程…… 353
2. 出　席　議　員…… 353
3. 欠　席　議　員…… 353
4. 出 席 説 明 員…… 353
5. 出席事務局職員…… 353
開　　議…… 354
閉　　会…… 410

◎　その他資料

一般質問…… 411

平成３０年６月１日

（第　　１　　号）

1. 議　事　日　程（初日）

（平成30年第３回美作市議会６月定例会）

平成30年６月１日
午 前 10 時 開議
於　　議　　場

日程第１　会議録署名議員の指名

日程第２　会期の決定

追加日程第１　監査請求に関する動議

日程第３　諸般の報告

日程第４　文教厚生委員会委員長の中間報告について

日程第５　議会改革特別委員会委員長の中間報告について

日程第６　陳情第１号（委員長報告・質疑・討論・採決）

日程第７　報告第３号　平成29年度美作市一般会計繰越明許費繰越計算書

報告第４号　平成29年度美作市一般会計事故繰越し繰越計算書

報告第５号　平成29年度美作市下水道事業会計予算繰越計算書

日程第８　議案第53号　美作市附属機関設置条例の一部を改正する条例について

議案第54号　美作市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について

議案第55号　美作市消防団条例の制定について

議案第56号　市道路線の認定について

議案第57号　市道路線の変更について

議案第58号　美作市過疎地域自立促進市町村計画の変更について

議案第59号　美作市内の辺地に係る総合整備計画の策定について

議案第60号　平成30年度美作市一般会計補正予算（第２号）

議案第61号　平成30年度美作市水道事業会計補正予算（第１号）

議案第62号　平成30年度美作市下水道事業会計補正予算（第１号）

2. 出席議員は次のとおりである（18名）

１番	青　山　　慶	２番	和　田　広　宣
３番	岩　﨑　清　治	４番	岡　野　鉄　舟
５番	中　山　忠　明	６番	倉　地　重　夫
７番	重　平　直　樹	８番	安　藤　　功
９番	金　谷　のり子	10番	岡　本　泰　介
11番	山　本　雅　彦	12番	萬　代　師　一
13番	山　本　重　行	14番	尾　髙　誉　久
15番	岩　江　正　行	16番	日　笠　一　成
17番	内　海　健　次	18番	鈴　木　悦　子

3. 欠席議員は次のとおりである（なし）

4. 会議録署名議員

13番	山　本　重　行	14番	尾　髙　誉　久

16番　　日　笠　一　成

5. 地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名（20名）

市長	萩原　誠司	副市長	横山　博光
教育長	大川　泰栄	政策参与	山下　亨
政策審議監	春名　利亮	総務部長	岡本　和之
危機管理監	藤原　陽二	総合戦略監兼まち・ひと・しごと創生室長	大森　洋平
市民部長	角南　良雄	環境部長	宿野　豊彦
経済部長	遠藤　宏一	保健福祉部長	江見　勉
建設部長	真野　弘紀	教育次長	山名　浩二
消防長	皆木　佳久	会計管理者	山本　和毅
秘書課長	長畑　真吾	総務課長	春名　竜也
税務課長	玉櫛　哲也	農村整備課長	菊池　広幸

6. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名（３名）

議会事務局長	尾崎　功三
課長	坂元　省吾
係長	金谷　裕子

午前10時00分　開会

議長（鈴木　悦子君）

皆さんおはようございます。

携帯電話の電源を切っていただきますようお願いいたします。

傍聴者の方は、傍聴規則第８条にもありますように傍聴席にあるときは静粛にしていただきますようお願いいたします。傍聴席においての写真撮影、録音等は禁止されております。

今定例会中、報道機関より取材のため録音及び撮影をしたいとの申し出がありましたので、これを許可いたしております。なお、携帯電話、その他電子機器の電源はお切りください。傍聴者の方が傍聴規則を守れない場合は、議場より退席をしていただきます。

定刻が参りましたので、ただいまより平成30年第３回６月美作市議会定例会を開会いたします。

全員の出席です。

定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

今定例会に説明員が随時出席をいたしますので、これを許可しております。

日程第１　　会議録署名議員の指名

議長（鈴木　悦子君）

日程第１、「会議録署名議員の指名」を行います。

会議録署名議員は、会議規則第88条の規定により13番山本重行議員、14番尾髙誉久議員を指名いたします。

日程第２　　会期の決定

議長（鈴木　悦子君）

日程第２、「会期の決定」を議題といたします。

先般、本定例会の運営について議会運営委員会が開催されておりますので、委員長の報告を受けます。

尾髙委員長。

１４番（尾髙　誉久君）〔登壇〕

皆さんおはようございます。

ただいまから議会運営委員会の委員長報告を行います。

去る５月23日午前10時から、議員控室におきまして議長、委員、市長、副市長、政策参与、政策審議監、担当部長出席のもと議会運営委員会を開催し、６月定例会の運営について協議いたしましたので、その結果を報告いたします。

まず、会期につきましては、本日６月１日から６月28日までの28日間とし、会議日程は既にお手元に配付のとおりでございます。

続きまして、市長から送付されました議案は報告３件、条例の制定改正３件、市道認定１件、市道変更１件、計画の変更１件、計画の策定１件、補正予算３件の計13件でございます。

本日の第１日目は、議案上程の後、市長による所信表明及び提案説明を受け、即決案件のみ委員会付託を省略し、質疑、討論、採決といたします。

続いて、２日目の６月11日から15日の５日間を代表質問及び一般質問、議案質疑を予定しております。なお、議案質疑終了後、各議案を委員会付託といたします。

最終日は６月28日とし、委員長報告、報告に対する質疑を受けた後、討論、採決を行うことといたします。

次に、質問についてでありますが、申し合わせにより行っていただきます。代表質問は通告期限を６月４日午後５時までといたします。発言の順番は通告順であり、一括質問とし質問回数は３回まで、質問時間は45分であります。一般質問につきましては発言の順番は通告順であり、質問回数は１通告事項で３回まで、質問時間は45分、ダブって報告になりますが、議案質疑については通告期限は６月11日午後５時までといたします。なお、通告をしない者の質疑は通告した者の後に行うこととし、１議案について１件といたします。議案の質問回数は３回までといたします。各議案は委員会付託されますので、所属委員会に属する質疑は控えていただきますようお願いいたします。

次に、請願・陳情ですが、５月22日までに受理した請願１件、陳情１件であり、委員会付託とし、審議をお願いいたします。

休会日は６月５日から６月８日、６月25日から６月27日とし、予備日は６月４日と６月18日、６月22日としております。なお、５月１日よりクールビズとし、ノーネクタイ、ノー上着の軽装としておりますので、よろしくお願いいたします。

以上で議会運営委員会の委員長報告といたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

議会運営委員長の報告が終わりました。

会期についてお諮りいたします。

ただいま議会運営委員長の報告がありましたように、本定例会の会期を本日１日から28日までの28日間と決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。よって、本定例会の会期は本日１日から28日までの28日間と決定いたしました。

〔４番岡野鉄舟君「議長、動議」と呼ぶ〕

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

地方自治法第98条第２項に規定されております議会としての監査委員に対する「監査請求を求める動議」を提出させていただきたいと思います。本件に関しましては、所定の議員の署名人数以上の文書による動議を提出いたすように考えております。その動議の内容を説明させていただいてよろしいでしょうか。

議長（鈴木　悦子君）

説明は簡潔にお願いいたします。

４番（岡野　鉄舟君）

実は、去る５月11日付で一市民の方から匿名のはがきが私に届きました。知る限りでは他の２名の議員にも届いているということを承知しております。その内容でございますが、職員から聞いたという前提のもとで職員の中に遅刻が常態化し職務怠慢であるという、タイムカードを半分以上空白であると、こういったものが書かれておりまして。タイムカードにつきましては、出張などで物理的に押せない場合もありましょうし、その場合は出張命令などで説明できるかと思います。御承知のように、現在国においてはＰＫＯ日報の

隠蔽、森友学園への国有地払い下げ、加計学園の獣医学部新設など、文書の管理のあり方で……。

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員、余り長くなりそうなので、文書でただいまより。岡野議員より申し出がありました文書があるんですね。その文書を確認するために暫時休憩したいと思います。暫時休憩します。

午前10時08分　休憩

午前10時25分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

先ほど岡野議員から提出された「監査請求に関する動議」をお手元に配付しております。配付漏れはございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

この動議について１名以上の賛成者の署名がございますので、会議規則第16条の規定により動議は成立いたしました。

次に、追加日程についてお諮りします。

「監査請求に関する動議」を日程第３の前に追加し、追加日程第１として議題とすることに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成多数。したがって、この動議を日程第３の前に追加し、追加日程第１として議題とすることは可決されました。

追加日程第１　　監査請求に関する動議

議長（鈴木　悦子君）

それでは、追加日程第１、「監査請求に関する動議」を議題といたします。

これより提出者の説明を求めます。

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）〔登壇〕

「監査請求に関する動議」。

地方自治法第98条第２項の規定に基づき、下記の事項について監査委員の監査を求め、その結果の報告を請求いたします。

記、１、監査を求める事項でございます。なお、申しおくれましたが、本件の動議につきましては私以外２名の議員、私の知る限りでは岩﨑議員と重平議員に届いております。そのことを申し添えておきます。戻りまして監査を求める事項でございますが、職員の勤務実態でございます。

１、対象職員は全職員。監査対象となる期間は平成29年４月１日から本年４月30日まで。監査の方法でございますが、タイムカード結果の分析による勤務実態調査でございます。４、監査の内容でございますが、２つございます。１つはタイムカード処理のあったかないか。そして２つ目でございますが、ない場合の原

因とその処理内容でございます。２、監査結果の報告期限でございますが、平成30年６月25日月曜日まで。

次に、なぜこの動議を提出するかでございますが、読ませていただきます。

〔以下朗読〕

そこで、まず本件の投書はがきを踏まえまして事実かどうかの実態解明のため、お手元にありますように発議に賛成される議員の署名を添えて監査委員による事務監査を請求するものでございます。慎重審議のほどお願い申し上げます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

説明が終わりました。

ここで報告期限に関して、念のため申し上げます。

地方自治法第98条第２項に基づく監査請求は報告期限に関する規定がございません。よって、要望として記載された期限内での報告を求めるものでございます。

それでは、これより質疑を行います。

質疑はございませんか。

山本議員。

１１番（山本　雅彦君）

質疑の前に確認をしたいことがございます。と申しますのも、私は議選で監査委員の任命を受けております。その立場上、この本件の監査請求に対する動議についてのことについて、今の私の立場でこれを審議あるいは採決等まで入っていけるのかどうかと、そこのあたりを確認したいと思いますので暫時時間をいただけませんでしょうか。暫時時間をください、確認しますので。よろしいか。

議長（鈴木　悦子君）

それでは、暫時休憩いたします。

午前10時31分　休憩

午前10時39分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

山本議員。

１１番（山本　雅彦君）

中断をして失礼しました。先ほど確認をさせていただきましたところ、本件について審議、採決等に参加することは監査委員個人を特定したものではないということでございましたので、このまま私は審議に参加したいと思います。ありがとうございました。

議長（鈴木　悦子君）

それでは、岡野議員の動議に対して質疑をお受けいたします。

質疑ございませんか。

尾髙議員。

１４番（尾髙　誉久君）

ようわからんのんじゃけど、このマジックというか、ここには何が書いてあるんですか。下から２行目に個人を特定しての追求が難しいなら全員について調査するよう議会で追及してくださいと書いてある。それで匿名で来てると。これ１つ間違えたら人権問題になるんじゃないだろうな。私もよく不適切な発言をして

取り消しするからわかるけど、岡野議員に対して陳謝したように、岡野議員が本当にこのことが手続上、きちっとしたことがなされとって、それを議会で取り上げて、その人権という問題に発展し、その進退を持って８名の議員、それで岡野鉄舟さんの鉄舟の「舟」の字が雪舟の「舟」でなくてふねへんに別の「船」が書いてある。非常に岡野鉄舟議員に対する間違いというようなことがあってはならないようなはがきが、非常に議員をばかにしとるような、中山何番地も書いてない。それでその中で職員が言ったって。職員には守秘義務がないの。ここに３人並んで、ＯＢなんだけど、公務員として守秘義務がある、医者に守秘義務があるように。そんなものについて取り上げて、遅刻、例えば早退、そういうことをチェックするんだけど、その手続を踏んでおった場合、どうするわけ。議会が責任とるわけ。とるというたら減俸するわけ、議員の。それぐらいの性根入れてやりょうるわけ。私は議会運営委員長として何を言ようるかというたら、議会がスムーズに行くために報告したんじゃけど、朝一番からこの状態。みまちゃん見ようる市民の皆さんが、この美作議会をどう思ってるかと非常に危惧します。ここに書いてるのは個人名が書いてあるかだけ教えて。

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

多岐にわたる質問であったと思いますが、まず第１点目の個人名が書いてあるかということですが、個人名が書いてありました。なぜ私がそれをマスキングをしたかということでございますが、これは若干時間をいただきたいと思いますが、何からお話ししましょうかというふうに考えているんですが。我々議員は、いや議会は二元代表制の機関として、市長とは違った機関として、そして18人の議員はそれを構成する二元代表制の機関として行政を監視し、ある場合は政策を提案するという重大な義務がございます。それを尾髙議員もこのことは御理解をされてると思いますが、まずそれを冒頭申し上げまして。

次ですが、なぜこれを取り上げるかということなんですが、御承知のように地方公務員法35条だったと思いますが、職務専念義務がございます。つまり８時半から始まれば５時15分まで職務に専念をすると。かといって、二日酔いで疲れる場合もありましょうし、あるいは家で子育てをする、イクメンといいますか、そういったこともありましょう。そういったときは、当然休まなければいけないというワーク・ライフ・バランスの中で仕事と仕事以外をうまく両立させて職場をうまくするという、これは企業だけでなくて我々公務員にもあります。そういったことは私は否定をしてないんですが、一市民の方が匿名であったとしても、某職員から聞かれたということの中で出てるということは、これはそれぞれ地方の事務に関することです。先ほど私が理由の中で申し上げましたように、市民の方からの不信を招いてはなりません。つまり、匿名であってもそういう指摘があったことに対して、いや、これはこういう理由でタイムカードが押せていなかったんだよと。出張の場合は当然物理的に押せないわけです。それは出張命令で確認をするとか、そういったことができるんですが、市民の方はそれはわからないかもしれません。職員の方から聞かれたというだけで、なっていたということも推測できます。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

尾髙議員。

１４番（尾髙　誉久君）

それでそういう場合、岡野議員または岩﨑議員、重平議員に同じものが来てたと。宛名は違うんでしょうけど。ここに載ってるのは岡野議員だけのものですね。先ほど言うた整合性の上でいうと、岩﨑議員と重平議員には重平議員、岩﨑議員宛てのものが来てたように言われましたね。その整合性はここに添付されてな

いのはどういうわけなのか。これじゃ、ちょっと待ってください。

それと個人名。数人が書いてなくて１人の名前が書いてあると。これはその方が特定できるわけで、その後これが来たときに今日までの日数があるわけですけど、私なら市会議員としてその人に会って、その職場で言うんじゃなくて個室に呼んでこういう事実があったのかなかったのか。そのようなことは当然確かめられてやってるんだと思うんですけど。職務規程というもんがあって、職務規程にのっとってそのことがなされてたら、どういうふうになるのか。頭は振っとられるから、岩﨑議員や重平議員の。これなくて受けるわけですか、このことを。さっき言うたことがあるなら、３名の人のはがき出さないといけないんじゃないん。１名あったらいいわけ、それも匿名で。

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

会議規則の16条には、発議者が１名以上の賛同者を得てということで、それはあればあったにこしたことはないでしょうが、別に御本人２人から確認をしているわけですから添付する必要はないと思います。

議長（鈴木　悦子君）

尾髙議員。

１４番（尾髙　誉久君）

いや、添付する必要がないかあるかというのは、さっき言ようる遅刻したかしないかと同じように、その事実を言っているのは３名に来たと言われたでしょう。だから、裏づけとして３名に来たものを出してくださいよ。出さなかったら、１人のもんでやってるじゃない。そういうような作曲編曲する話になってるんじゃないようにするためには、３名の議員に来てるということをちゃんとしたほうがいいと思うで、その話の中で。だったら、そこのとこ削除しなきゃ。３名に来てる言うたんだもん、じゃないの。私は単純な質問よ。だから、手続を踏んでやっとることをきっちりやりなさいよ。タイムカードを押しなさいよ、それを言うんだったら、さっき言うたように３名の議員に来てるんでしょ。私は３名の議員のを慎重にやるためにそれ見たいもん、きっちり。

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員、先ほどの尾髙議員の質問の中でこのはがきの中のここ、消してある部分の方に確認したかということを聞かれたと思うんですけども。

〔「聞いとるわけがないがな」と呼ぶ者あり〕

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

尾髙議員が公益通報制度ということを御存じなんでしょうかね。つまり、今国で問題になっているということは、最初文科省の前田次官が卑しくも官僚として通告をされたのが加計学園の獣医学部のが発端であります。つまり、個人の人権はいろいろ議会と執行部の議論をする中で守らなければいけないというのは常識でしょう。これをああだこうだというふうにはならんと思います。それは極めて議員として正しく理解をされてない発言だと思います。

議長（鈴木　悦子君）

尾髙議員。

１４番（尾髙　誉久君）

いや、議員としてというて、わかんないから聞いとんよ。じゃけん、職員じゃったら部長がおって課長が

おるわけじゃから、職員呼んで注意しなさいよと。いや、そういうことがあったら部長に言うて、職員の人に徹底すりゃいいんじゃないの。それをしちゃいけんのじゃとか言ようるけど、だから私が言よんのは念には念を入れてこの写しを、岡野鉄舟さんだけでなしに岩﨑さんにも重平君にも来てる写しが欲しいと言よん、私は。それだけ。それからまた、どうせ必要な、全協なら全協を開いて聞かんとわからんこと多いが。ほいじゃけん、この書類がこれでいいっていうんじゃなしに、後でいいから出してほしい。出せるじゃろ、来とると言うたんだから。出さなくていいという話じゃないが。

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員、どうですか、今の尾髙議員の。

４番（岡野　鉄舟君）

それは議長の判断にお任せします。

議長（鈴木　悦子君）

ほかに質疑はございませんか。

金谷議員。

９番（金谷のり子君）

議員としての調査権というものがある程度あると私は認識しておりますが、岡野議員はある程度の調査をなさってこれでは一般質問等でもできないという判断を持って監査請求ということにされたのか。どういうことで監査請求に至ったのかというところを質問させていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

調査権は国政と違いましてダイレクトにはありませんよ、地方自治法上は。つまり、それは議会を通して一般質問、議案質疑を通してやるというのが地方議会のルールです。それが１点と。そういったことで、私はあえてなぜ１人の人に聞かなかったということは、我々がどうするかというときには住民監査請求があり、それからその98条１項の検査権があり、それから２項の事務監査請求がある。それを動議で出すかどうかということなんですが。したがって、その選択肢をその３つの中を考えましたが、やはり識見豊かな監査委員が公平にされるだろうという期待を持ちつつ、しかも制度がそれしかないから今回こういう選択をしたということです。しかも、その根底には二元代表制の議員として、やはり声なき声をこれだけ言っておられるということは重大視をしたということでございます。

議長（鈴木　悦子君）

金谷議員。

９番（金谷のり子君）

それでは、ある程度の事情も何も把握せずに、このはがきのみで監査請求をされたということでよろしいですか。

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

そのとおりであります。だから、私は最後に申し上げましたように、事実かどうかということを事務監査請求を通してやっていただきたいと、そういうことです。

議長（鈴木　悦子君）

金谷議員。

９番（金谷のり子君）

それで議会の冒頭に、６月議会に動議としてなされるべき重大事項であると判断されて動議を出されたということで理解してよろしいですか。

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

お見込みのとおりでございます。

議長（鈴木　悦子君）

ほかに質疑はございませんか。

中山議員。

５番（中山　忠明君）

そもそも宛名がない、いわゆる差出人の不明の出したはがきを、これを大事な議会で諮ってまでするようなことではないと私は思います。

以上。

〔４番岡野鉄舟君「答弁は要りますか、今のは意見のようですが」と呼ぶ〕

議長（鈴木　悦子君）

答弁は要りますか。

中山議員。

５番（中山　忠明君）

これを受けて、ずっとこのまま、作為を持ったとまでは言いませんが、差出人がわからないようなはがきを議会にかけて、この大事な時間を、市民のために使わなければならない時間に、差出人をはっきりしてするべきだと思うんですけど、そこのとこはどうなんですか。

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

２つのことをお話しします。

１つは、冒頭申し上げましたように、美作市議会は美作市長と同じように二元代表制の機関です。そして我々18人はその構成員です。何をするかということは、行政が適切なか、あるいはそれを踏まえた政策を提案するということです。

じゃあ２つ目に対するお答えですが、匿名であるようなものを議会に取り上げてこの大事な時間を浪費してという今発言がございましたが、極めて残念な発言だろうと思います。問題なのは、こういった意見が出るということが組織内にあるということは、それは公務員の勤務実態の中で市民の方が疑念を持たれます。したがって、それをどうするかということは18人がそれぞれ適切に判断をするわけです。私の発議のもと７名の議員に賛同いただいて、こうやって提出しているわけですが、これは予算を審議するのも大事ですが、私から考えればもっと大事なことです。美作市の根幹にかかわる組織内のあり方です。これがないからうまくいかないというような疑念も市民の方からも持たれております。したがって、どっちが大事かといえば、私はこういった問題を、襟を正すことのほうが予算を審議するよりも大事だろうと思います。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

中山議員。

５番（中山　忠明君）

二元代表制というのは執行部、それからもう一つ、我々市会議員が一つになってという意味なんでしょうか。私はこの問題はきょう初めて聞きました。何の相談も、何の話もありません。それで果たして二元代表制と言えるんでしょうか。

以上。

〔４番岡野鉄舟君「議長、答弁要りますか」と呼ぶ〕

議長（鈴木　悦子君）

答弁要りますか。

５番（中山　忠明君）

要りません。

議長（鈴木　悦子君）

ほかに質疑ございますか。

岩江議員。

１５番（岩江　正行君）

これなるほどなという、その怪文書、こればっかしじゃなしに。自分とこにも名前のないのがよう来ます。ことしも２回ぐらい来ました。それでここへ出すまでに、なぜ私も、自分もこれ署名しとんですよ。なぜ署名したかというのは、はがきも見ました、名前も知っとります、名前も知っとる。それと一応はそこの前の人やこ、岡野議員は相談に行ったんじゃないん。何もなしにあんたらに相談、調査もせずにずばっと出しとるようなことじゃないように思いますよ。何もかにもは、それは明るみに出すんだったら、それは今言ようる監査委員のとこに十分監査していただきたいというお話やから。こがんなことが市民の血税がどんどん知らんようなええころの形の中で、来たり来なんだりして、タイムカードを押したり押さなんだりして給料だけ払いよったんじゃ、これはもう大変な問題なんじゃ。ですから、そのことに対して十分な監査していただきたいというての動議を出しておるわけですから。これのどこがいけんのですか。個人情報、ヘイトスピーチじゃ個人情報じゃというて……。

〔14番尾髙誉久君「議長、意見だったら意見で言わな」と呼ぶ〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員の提出者に対しての質疑。

１５番（岩江　正行君）

だから、私が言よんのは、提出者じゃけど、提出者というのは私も名前を書いとるから言よんじゃ。

〔14番尾髙誉久君「じゃけん、意見言うことができるんなら言うぞ」と呼ぶ〕

〔「議長、賛同者に求めちゃいけんが」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

そうですね。

〔15番岩江正行君「余り横道にそれとるけん、言よんじゃ」と呼ぶ〕

ほかには質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

質疑なしと認め、質疑を終了します。

次に、本件の委員会付託省略についてお諮りいたします。

本件は会議規則第37条第３項の規定に基づき、委員会付託を省略し、直ちに本会議において採決することにしたいと思いますが、これに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成多数。よって、追加日程第１、「監査請求に関する動議について」は、委員会付託を省略し、直ちに本会議において採決することに決定しました。

これより討論を行います。

まず、本件に反対の方の討論はございますか。

尾髙議員。

１４番（尾髙　誉久君）

全くこのようなことをしょったら議会運営委員長としてもう運営ができない。匿名が来たたんびをこんなものを取り上げてやりょうたら、本当このことはできないわ。まず、今回は４月は骨格予算であったけども、今度の予算というのは事業の予算。これが市民密着の予算である大事な６月定例の当初において、職務規程は本当に大事。大事だけど、もっと大事なのは市民の皆さんにつながっているこの大きな予算を一刻も早く皆さんにお知らせして、それを審議することが我々の最も大事な責務と考えます。それと何度も言うように、このことは手続上きっちり踏んでやらないと、刑法的に言うとあれです。一つ間違ったら名誉毀損ですよね。岡野議員は自分の進退かけてやっておられるふうがあるんで、本当にこのことに非があったときはそれなりの、自分の進退までかけてやられとんかなと。本当に職員の人の名前は知ってる方が８名もおられて、そのことを書いてるということは公務員にあってはならないことです。その事実が事実でなかったときには、その人だけでなくて、家族の人やその人にもしも子どもさんが、小学校、中学校へ行かれてたら、その人に対する冤罪的な行為だと私は思うんで。本当にもっと慎重に。大体怪文書っていうのは取り扱わないことにしてるはずなんです。匿名大事だから、それも何度も言うように岡野議員の名前を意図的になのか、ただ名前を知らなかったのかのようなはがきをこれは重要なんだという取り上げ方をすること自体、本当に情けない。もう全く反対ですから。そういうことです。

それと金谷議員が質問されたように、これを本当に緊急動議として出すほどのことなのか。まさに一般質問でこういうことがあると。気をつけるようにしてくださいよと。権利があれば義務があるように、義務は当然あるんだけど、権利もあるんですからね。有給っていうのは、職務専念の義務はある、だけど有給休暇っていうものはきちっととれる。ちなみに何か岡山県では厚生労働省のほうが13件目の何か法人を非常に環境がいい会社だというようなことで表彰していただいたそうですけど、そういうことじゃないかな。大きな意味の法人だから、市行政というもんも。ものをものを難しゅう難しゅう考えるんじゃなくて、犬養さんが言うんじゃないけど、話せばわかるんじゃないの。話せばわかるようなことをこういう議会でやること自体が私はなってないと思う。

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

先ほど私の名前が何回か出ましたんで、私のほうからも言わせていただきます。

まず、このはがきにつきましては私のほうにも参りました。私が文書を熟読したところ、まず文書そのものを見ますと、職員の方が一般市民の方に言われた。内部事情をよく知っている方が言われたというふうに理解できるわけです。この文書の中の最後のところに、おとしめる可能性もあるんで事実かどうかの確認をしてくださいと。私自身がこの文書をいただいたときに、一番簡単なのは私が総務のほうに行って、見せてください、こういう文書来ました、見せてください。これは多分総務のほうの答えは聞かなくてもわかってますけど、見せることはできません、個人情報ですということですぐはねられると思います。各部署がどういうふうにして、どう見せられるかわからないんですけど、基本的には、先ほど議員の話もありましたけど、議員が職員の勤務の状況を個人的におかしいどうのこうの言うべきではない。そしてタイムカードにつきましては、出張とか遅刻とかという場合については全てゴム印が用意してあって、今あるかないかは知りませんけど、めいめい押すようになってるわけです。それを担当課長が集めて、それを１つの課の分を全部まとめて、もちろん判こを押したり手書きがしてあった場合については上司が判こを押してあるわけです。その集めたものを今度は各部長が集めて、それをチェックして、その後総務部長がまたチェックする、総務課長なり総務部長がチェック、こういうシステムだと思うんです。このシステムを知ってる者が、私知ってるわけですから、知ってる者がなぜこういうはがきが来たかということはできてない可能性が非常に高い。だから、正式な第三者、監査委員のほうに見てもらうしか仕方がないんかなという意味で賛同をいたしました。これは先ほど岡野議員が提案説明のときにも言いましたけれども、文書が来てどうのこうのというだけではなしに、こういう部分が内部から出てくるということ自体は、事実かどうかはわかりません、それから陥れる可能性もあります。慎重にしなきゃいけない。だから、私たち議員が見るのではなく、それ相当の監査委員さんなり行政の中で見ていただきたいなと。そっから先のことは知りません。襟を正していただければいいです。ただ、こういうものが私どものとこに来た場合に信憑性をある程度見て、それで判断すべきと。この内容については、多少思い違いや行き違いがあると思いますけれども、大分信憑性が高いという中で私は賛成ということで署名もいたしました。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

次に、反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

反対討論ございますか。

金谷議員。

９番（金谷のり子君）

私も岡野議員がはがきを受け取られたときにはがきを見せていただきました。金谷さんのとこには来てませんかということで、うちには来ておりませんということをお答えして、個人名が書いてありましたので、そういうことについては個人を特定してありましたので、それを上司のほうに言えば、それなりに考えてもらえることではなかったのかと判断して、監査請求までする必要はないかと考えますので、反対いたします。

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決いたします。

追加日程第１、「監査請求に関する動議について」、本件に賛成の方の起立を求めます。

〔起立少数〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成少数。よって、この動議は否決されました。

それでは、議事に戻ります。

日程第３　　諸般の報告

議長（鈴木　悦子君）

日程第３、「諸般の報告」を行います。

例月出納検査の結果報告、平成29年度定期監査結果報告書、公共用地取得に関する事務の監査結果報告書はお手元に配付しております資料をもって報告にかえます。

次に、一部事務組合議会については、勝田郡老人福祉施設組合議会、勝英衛生施設組合議会、勝英農業共済事務組合議会、柵原、吉井、英田火葬場施設組合議会の４組合議会から、お手元に配付いたしております資料をもとに報告を行います。

まず最初に、勝田郡老人福祉施設組合議会の報告を内海健次議員よりいたします。

内海議員。

１７番（内海　健次君）

おはようございます。

平成30年第１回勝田郡老人福祉施設組合議会定例会。

去る２月15日に開催されました平成30年第１回勝田郡老人福祉施設組合議会定例会について、報告をさせていただきます。

組合議会定例会への出席議員は８名全員の出席であり、上程されました議案は５件でありました。

内容については、まず議案第１号「平成29年度勝田郡老人福祉施設組合一般会計補正予算（第１次）について」は、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ567万2,000円を追加し、歳入歳出の総額を歳入歳出それぞれ１億9,674万6,000円とするもので、主な内訳は、歳入では市町村委託金を350万円減額し、繰越金917万2,000円増額するものです。歳出では社会福祉費を165万円増額し、予備費を402万2,000円増額するものです。

次に、議案第２号「平成29年度勝田郡老人福祉施設組合訪問介護事業所会計補正予算（第１次）について」は、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ92万4,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ1,478万円とするもので、主な内訳は、歳入では繰越金を92万4,000円増額するもので、歳出では予備費を92万4,000円増額するものです。

次に、議案第３号「平成30年度勝田郡老人福祉施設組合一般会計予算について」は、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ１億8,163万6,000円と定めるもので、主な内訳は、歳入では分担金及び負担金を6,753万8,000円、市町村支出金を9,190万4,000円、サービス収入を1,842万円、繰越金を350万円、諸収入を27万4,000円とするもので、歳出では議会費を19万3,000円、総務費を23万2,000円、民生費を１億5,445万1,000円、公債費を2,476万円、予備費を200万円とするものです。

次に、議案第４号「平成30年度勝田郡老人福祉施設組合訪問介護事業所会計予算について」は、歳入歳出の総額を歳入歳出それぞれ1,304万円と定めるもので、主な内訳は、歳入では事業収入を1,284万円、繰越金を20万円とするもので、歳出では民生費を1,284万円、予備費を20万円とするものです。

次に、議案第５号「職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について」は、主な内容は平成29年度人事院勧告に伴い当組合職員の給与改定を行うもので、月例給は平均0.1％引き上げ、一時金は勤勉手当について0.1月分引き上げ、また再任用職員の期末手当について条例中に規定を新設し、勤勉手当について0.05月分引き上げるものです。なお、実施時期は平成29年４月１日からとなるものです。

以上の５つの議案については、全て原案のとおり可決されました。

以上で平成30年第１回勝田郡老人福祉施設組合議会定例会の報告といたします。

議長（鈴木　悦子君）

続きまして、勝英衛生施設組合議会、安藤功議員より報告をいたします。

安藤議員。

８番（安藤　　功君）

おはようございます。それでは、報告をさせていただきます。

去る２月28日午前11時より、勝央町役場３階議場におきまして開催されました平成30年第１回勝英衛生施設組合議会定例会について報告をさせていただきます。

今定例会への出席議員は14名で、２名の欠席でございました。上程された議案は３件でございました。冒頭に管理者の挨拶があり、続いて会議録署名議員の指名、会期の決定を経て議案審議に入りました。

主な審議内容といたしまして、議案第１号「勝英衛生施設組合の監査委員選任につき同意を求める事について」は、監査委員の任期満了に伴い、学識経験を有する監査委員として宮本政行氏を再選するものでございました。

次に、議案第２号「平成29年度勝英衛生施設組合一般会計歳入歳出補正予算（第２号）について」は、主な内容として歳入歳出の総額は変わりませんが、歳出において諸支出金の基金費を297万7,000円増額し、予備費を297万7,000円減額するものでございます。

次に、議案第３号「平成30年度勝英衛生施設組合一般会計歳入歳出予算について」ですが、主な内容は歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ9,800万円と定めるもので、内訳については、歳入では分担金及び負担金を9,000万円、財産収入を２万8,000円、繰越金を795万2,000円、諸収入を２万円とするものでございます。歳出では、議会費を70万2,000円、総務費を2,579万3,000円、衛生費を6,988万9,000円、公債費を10万円、諸支出金を１万6,000円、予備費を150万円とするものでございます。

上程されました議案については、出席議員全員の賛成により原案のとおり同意、可決をされました。

以上、平成30年第１回勝英衛生施設組合議会定例会の報告とさせていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

続きまして、勝英農業共済事務組合議会、山本重行議員より報告をいたします。

山本議員。

１３番（山本　重行君）

それでは、去る２月28日午後１時より勝央町役場３階議場におきまして開催されました平成30年勝英農業共済事務組合議会第１回定例会について報告をいたします。

本定例会への出席議員は16名全員であり、上程された議案は７件でありました。

主な審議内容といたしまして、議案第１号「勝英農業共済事務組合損害評価会委員の委嘱の同意について」は、損害評価会委員の任期満了に伴い58名中52名について、農業共済事務組合農業共済条例第163条の規定により議会の同意を求めるもので、残り６名は調整中につき、決定次第専決処分を行うものでございます。

次に、議案第２号「勝英農業共済事務組合農業共済条例の一部を改正する条例」については、現在、果樹、畑作物、園芸施設共済において県知事の定める基準共済掛金率をもとに全ての農業者に対し一律の掛金率で引き受けを行っているが、それにより生じる不公平を緩和するために農業者ごとにその被害率に応じた農業共済掛金率を設定するため改正を行うもので、また農作物共済、水稲につきましては、家畜共済においては、また既に導入している危険段階別掛金率を被害率にあわせて見直しをするものでございます。

次に、議案第３号「平成30年度果樹共済無事戻しについて」は、平成26年度から平成28年度までの３カ年の引き受けを受けた農家の３名が対象となり、総額３万570円を交付するものでございます。

次に、議案第４号「特別積立金取り崩しについて」は、平成30年度の損害防止事業に係る助成金に充てるため、農作物特別積立金の取り崩し額を955万4,905円以内に設定するものでございます。

次に、議案第５号「平成30年度勝英農業共済事務組合農業共済事務費の賦課総額及び賦課単価について」は、勝英農業共済事務組合の共済条例により水稲、麦、家畜、果樹、畑作物、施設園芸の事務費の賦課総額を1,967万4,000円とし、事務費の賦課単価については平成29年度と変更はしない内容でございました。

次に、議案第６号「平成29年度勝英農業共済事務組合農業共済事業会計補正予算（第２号）」については、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ51万7,000円を減額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ３億7,384万9,000円と定められるもので、決算見込みにより各勘定ごとに増減の補正をするものでございます。

次に、議案第７号「平成30年度勝英農業共済事務組合農業共済事業会計予算」については、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ３億9,506万8,000円と定めるもので、予算規模において前年比5.8％の増額予算となっております。

上程されました７議案全て原案のとおり同意、可決されました。

以上で平成30年勝英農業共済事務組合議会第１回の定例会の報告とさせていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

続きまして、柵原、吉井、英田火葬場施設組合議会、青山慶議員より報告をいたします。

青山議員。

１番（青山　　慶君）

それでは、去る平成30年３月26日に開催されました平成30年第１回柵原、吉井、英田火葬場施設組合議会定例会について報告をさせていただきます。

今定例会への出席議員は９名全員の出席であり、上程された議案は２件でありました。

主な審議内容としまして、まず議案第１号「平成29年度柵原、吉井、英田火葬場施設組合会計補正予算（第２号）について」ですが、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ23万円を減額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ1,735万3,000円とするものです。主な内訳については、歳入では使用料及び手数料の

使用料を23万円減額し、歳出については火葬場施設費を23万円減額するものです。

次に、議案第２号「平成30年度柵原、吉井、英田火葬場施設組合会計予算について」ですが、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ1,611万2,000円と定めるものです。主な内容については、歳入では分担金及び負担金を1,028万4,000円、使用料及び手数料を350万円、財産収入を１万9,000円、繰越金を230万8,000円、諸収入を1,000円とし、歳出では議会費を26万6,000円、総務費を269万4,000円、火葬場施設費を1,295万2,000円、予備費を20万円とするものです。

上程されました２議案については、全て原案のとおり可決されました。

以上で平成30年第１回柵原、吉井、英田火葬場施設組合議会定例会の報告とさせていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

以上で諸般の報告を終わります。

次に、市長から送付されております議案の送付書につきましてはお手元に配付をしておりますのでごらんください。

日程第４　　文教厚生委員会委員長の中間報告について

議長（鈴木　悦子君）

日程第４、「文教厚生委員会委員長の中間報告について」を議題といたします。

文教厚生委員会委員長より中間報告をしたいとの申し出があります。

お諮りします。

本件は申し出のとおり報告を受けることにしたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。したがって、文教厚生委員会委員長の中間報告を受けることに決定しました。

それでは、金谷委員長。

９番（金谷のり子君）

文教厚生委員会委員長の中間報告をいたします。

３月定例会から６月定例会までの閉会中に文教厚生委員会を開催いたしましたので報告いたします。

去る５月14日午前10時30分より、委員全員、議長、執行部より市長、副市長、教育長、政策参与、関係職員出席のもと、文教厚生委員会を開催しました。本年４月に大原保育園の保護者からクアガーデン跡地を利用し、大吉保育園との統合も視野に入れながら早急に大原保育園の建設を望む要望書が提出されたことから、教育委員会としても新大原保育園の建設候補地として検討したい旨の説明を受け、協議をしました。

委員から、認定こども園として開園するのかとの質疑があり、執行部から、認定こども園として開園したいとの答弁がありました。委員から、開園までのタイムスケジュールについて質疑があり、執行部から、地元や保護者の声を聞き、その結果をもとにその後設計、建設を行いたい、平成32年秋ごろには開園したいと考えていると答弁がありました。委員から、新大原保育園の整備には東粟倉幼稚園の統合も視野に入れているのかと質疑があり、執行部から、東粟倉幼稚園については別として考えているとの答弁がありました。委員から、園舎建設に係る必要面積について質疑があり、執行部から、年齢ごとに園児１人当たりの必要面積が決まっており、基準に合わせて計画するとの答弁がありました。また、委員から、観光施設が周辺にあり、園児の安全・安心面で心配はないのかとの質疑があり、執行部から、旧讃甘保育園が武蔵の里に設置さ

れていた当時においても安全・安心面において問題はなかった、また湯郷こども園においても観光拠点の中心にあるが、今のところ問題は発生していない、建築が決まれば不審者対策については警察の意見を聞きながら防犯カメラ等の安全対策を行っていきたいとの答弁がありました。委員から、老朽化している英田幼児園について今後どのように考えているかとの質疑があり、執行部から、英田幼児園は幼稚園と保育園が離れたところにあるため１つの施設にまとめていきたいと考えており、用地の取得も含め建てかえを進めていきたいとの答弁がありました。委員から、平成29年度において調査委託の予算をつけ、クアガーデンを保育園として利用するための調査研究を行った結果を聞いていない、クアガーデンが使えるのか使えないのか結果を教えてほしいとの質疑があり、執行部から、施設の一部を残し利用することは可能なのかを調べた結果、クアガーデンを利用することは保育園施設として適しておらず、またコスト面からも全部を解体して新築したほうがよいという結果の報告があったことから、その結果も踏まえて今回の説明となっているとの答弁がありました。委員から、大原断層の真上にあり、合併当初から園舎の移転が懸案事項となっていた、地域や保護者への説明が終わり理解が得られれば、一刻も早く事業を進めるよう要望もありました。

そのほかに委員より質疑はなく、文教厚生委員会を終了しました。

以上、文教厚生委員会委員長の中間報告とさせていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

以上で文教厚生委員会委員長の中間報告を終わります。

日程第５　　議会改革特別委員会委員長の中間報告について

議長（鈴木　悦子君）

次に、日程第５、「議会改革特別委員会委員長の中間報告について」を議題といたします。

議会改革特別委員会委員長より中間報告をしたいとの申し出があります。

お諮りします。

本件は申し出のとおり報告を受けることにしたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。したがって、議会改革特別委員会委員長の中間報告を受けることに決定いたしました。

それでは、日笠委員長お願いします。

日笠議員。

１６番（日笠　一成君）

改めまして、皆様におはようございます。

議長や皆さんの許可を得ましたので、これより議会改革特別委員会委員長の中間報告をさせていただきます。

去る４月24日、議員控室におきまして委員１名欠席で17名の委員出席のもと議会改革特別委員会を開催し、前回に引き続き各委員から提出された議題について協議いたしましたので、この中間報告をいたします。

前回、執行部に改善を求めることとした議場のカメラにつきましては平成30年度中に改修されるとの報告がありました。今回は、引き続きマイクや議場内の照明について協議を行い、マイクの改善や照明のＬＥＤ

化などについて執行部に申し入れることを決定しました。当日の委員会で全ての議題について一通りの検討が終了しましたが、引き続き検討することとなった議題につきましては引き続き当委員会で検討することといたしました。また、委員会の中で新たに意見が出されました次回の市議会議員選挙に向けての定員削減や議員報酬の見直しについても今後検討を行うこととしました。

以上で議会改革特別委員会委員長の中間報告といたします。なお、議会閉会中も引き続き調査が必要ですので御承認いただきますようにお願いをいたします。

議長（鈴木　悦子君）

議会改革特別委員会委員長の中間報告が終わりました。

ただいまの議会改革特別委員会委員長報告において、委員会で調査中の事件について、会議規則第111条の規定により、閉会中も引き続き調査終了まで継続調査したい旨申し出がありました。

お諮りします。

委員長から申し出のとおり、閉会中の継続調査とすることに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。したがって、委員長からの申し出のとおり閉会中の継続調査とすることに決定をいたしました。

日程第６　　陳情第１号（委員長報告・質疑・討論・採決）

議長（鈴木　悦子君）

次に、日程第６、「陳情第１号（委員長報告・質疑・討論・採決）」についてを議題といたします。

陳情第１号につきましては、平成30年第１回３月定例会において上程し、総務委員会に付託し継続審査となっております。このたび総務委員会において審査終了の旨報告があり、審査結果報告書はお手元に配付のとおりであります。

この際、総務委員会委員長から審査結果の報告を求めることといたします。

安藤委員長。

８番（安藤　　功君）

それでは、失礼をいたします。ただいまから総務委員会の委員長報告をさせていただきます。

去る４月24日火曜日午前９時から、議員控室において委員全員出席のもと、総務委員会を開催をいたし、平成30年３月定例会で本委員会に付託された陳情で継続審査となっておりました陳情第１号「ＮＨＫ第一及び第二放送及び山陽放送のＡＭラジオ電波をＦＭ電波に変換してケーブル回線に乗せることに関する陳情書」につきまして審議いたしましたので、その結果を御報告申し上げます。

その件につきまして委員に意見を求めましたところ、美作市ケーブルテレビ回線を活用することにより緊急時の情報伝達の確保や難聴地域の解消につながり、市民の安心・安全と利便性の向上が図られるものであるので採択すべきと考えるとの意見があり、討論はなく、採決の結果、全員賛成で採択することに決定いたしました。

以上、総務委員会委員長報告とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

議長（鈴木　悦子君）

総務委員長からの審査結果の報告はただいまお聞きのとおりであります。

これより総務委員長の審査結果の報告への質疑を行います。

委員長の報告に対する質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

質疑はないようですので、これで委員長報告に対する質疑を終了いたします。

続きまして、陳情第１号「ＮＨＫ第一及び第二放送及び山陽放送のＡＭラジオ電波をＦＭ電波に変換してケーブル回線に乗せることに関する陳情書」について、討論に入ります。

まず、反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

討論がないようですので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は採択です。

陳情第１号「ＮＨＫ第一及び第二放送及び山陽放送のＡＭラジオ電波をＦＭ電波に変換してケーブル回線に乗せることに関する陳情書」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、陳情第１号は委員長の報告どおり採択されました。

日程第７　報告第　３号「平成２９年度美作市一般会計繰越明許費繰越計算書」
報告第　４号「平成２９年度美作市一般会計事故繰越し繰越計算書」
報告第　５号「平成２９年度美作市下水道事業会計予算繰越計算書」

日程第８　議案第５３号「美作市附属機関設置条例の一部を改正する条例について」
議案第５４号「美作市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について」
議案第５５号「美作市消防団条例の制定について」
議案第５６号「市道路線の認定について」
議案第５７号「市道路線の変更について」
議案第５８号「美作市過疎地域自立促進市町村計画の変更について」
議案第５９号「美作市内の辺地に係る総合整備計画の策定について」

議案第６０号「平成３０年度美作市一般会計補正予算（第２号）」
議案第６１号「平成３０年度美作市水道事業会計補正予算（第１号）」
議案第６２号「平成３０年度美作市下水道事業会計補正予算（第１号）」

議長（鈴木　悦子君）

次に、日程第７、報告３件、日程第８、議案10件、報告第３号から報告第５号、議案第53号から議案第62号を一括議題といたします。

この際、市長から所信表明を求めます。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

議長からお許しをいただきまして、６月定例会における所信表明と市政の現状に対する認識と今後の市政運営についての所信の一端を申し上げたいと思います。

まず、多くの自治体で最も関心が強い人口の動態について申し上げます。

この点につきましては、我が国全体で少子・高齢化という、いわば国難と呼ぶべき危機的な状況にある中で、私どもとしても例外ではなく、人口の減少に直面しております。自然減、すなわち我々が生まれたりあるいは他界するという、その自然増減でございますが、ここの件につきましてはなかなか簡単に変更することができない年齢層の構成上あるいは立地というようなことがありまして、短期的な問題としては改善が難しいわけでございますが、一方で他の自治体とのやりとりということになります社会増減、これにつきましてはさまざまな努力、政策努力によって変化が可能であるということだと考えております。そこで、私どもとしては地方創生の総合計画に基づきながら専門学校等の誘致や、あるいは定住促進住宅の整備、そして暮らしやすさを前進するために近隣の市町村と比べて劣っているところを直していく等々の取り組みを継続してまいりましたが、ようやくその効果が具体的に出つつあります。最終的にはマイナス86ということで年度間を通じて減少になりましたが、これまで合併以後大体10年間で年間100人から200人、平均しますと150人程度の転出があったわけでございますが、これがほぼ半分程度になってきた、顕著に減少幅が減少しておると。まだまだ胸を張れる状況ではございませんけれども、一定の変化が出始めております。本年度につきましては５月末、昨日でございますけども、現在で４月も５月もプラスで両方合わせまして29人の転入超過となっております。ちなみに昨年の同期でありますとプラス16、その前はマイナスが続いておったことがございますので、割合ここには明るい日差しがあり、私どもとしましてはことしこそ１年度間を通じてプラスになるようにあらゆる施策の努力をしてまいりたいと思っております。

また、財政の状況につきましては、平成26年度から取り組んでございます財政の総点検におきまして年を重ねるごとに各種の指標の改善が見てとれるようになってございまして、今後の収支見通しにつきましても地方交付税の一本化、一本算定が始まる平成32年度においても収支の不足は生じないという見込みになっております。このことは交付税や交付金、補助金など、外部財源の積極的な導入というようなことがある程度の効果をあらわしていることに加えまして、大型事業所の進出による市税の増加、殊に法人市民税の増加あるいは公債費の抑制、電力の見直しによる経費削減、その他のさまざまな経営的な努力が総合的にあらわれたものと考えています。

次に、今後の政策の方向でございますけれども、住んで得になる町を目指したいということでございますが、４年前の所信表明でも、美作市は山に囲まれているんだけれども、これは使い方によってはすばらしい資産になるんだというようなことをお話をさせていただいた記憶がございますけども、その一例が皆さん御案内の美しい里山公園でございまして、栄町、朽木、楢原下、北原からのそれぞれ進入路ができまして、それに遊歩道がほぼ接続されております。今7.6キロぐらいの園路で散策が可能となっております。加えて更新伐ということもやっておりまして、この結果として眺望が非常に開けた美しい里山が公園ということで再生をされつつあります。ここの里山公園の拡大によりまして29年度末の都市公園面積が約330ヘクタールということになりましたもんですから、交付税算入額としては約１億2,000万円強、このまま330ヘクタールが続けばずっと１億2,000万円強でございますけども、この面積を拡大すればそれにつろくしてこの交付税が増加するということになり、我々の福祉に活用できると考えます。したがいまして、この果実を住んで得をしたと、できれば実感を市民の方々にしていただけるようにしたいと思っておりますが、市民アンケートを一昨年実施をさせていただきましたが、その御要望の高かった分野、これにまずは投入をする。具体的には介護保険につきましては平成30年度から、今年度でございますけども、３年間の第７期の介護保険事業計画期がありますが、この期におきまして65歳以上の介護保険料の基準月額が6,150円となりました。これは先ほど申し上げた介護保険期におきまして里山公園の交付税財源などを繰り入れることによりまして前期の6,450円から300円の引き下げということになっております。県下の市の中で最も高かった保険料でございますが、県下で５番目というところまで下がりました。大体県平均6,000円強でございます。これに近い水準にまで戻ってまいりました。

次に、女性の方々にとって優しい町にしたいという強い思いについてお話をさせていただきたいと思います。

国では、女性が輝く社会、あるいは年齢を越えてお年寄りや若者も障がいや難病のある方々の誰もが生きがいを感じ、そして社会に貢献する、いわゆる一億総活躍社会と国では言ってますけども、これに向けての取り組みがなされておりますが、人口の半分以上を占めておられる女性の方々の活躍というのは美作市の発展のためには欠くことができない。特に、消滅可能性自治体においては女性の視点というのはとっても大切であります。一方で、現状を点検しますと、女性が活躍できる社会の実現につきましては、まだまだ十分にはできてないというところも虚心坦懐、反省をしなければなりません。そして、私どもとしましては仕事における女性の活躍をもちろん推進するわけでございますが、これに終わることなく、社会全体が社会において子育て環境を整備するなどの社会的対応ということをとることが非常に重要である。また、そこには市政としての大きな役割があるというふうに考えているところであります。単に優しいというよりも多くの女性の方々の声をしっかり聞いて、とっても優しい町にするんだという気持ちで今後の４年間を過ごしていきたいと。あるいは、その気持ちを皆さんに御理解をいただいた上で御提言を頂戴しながら、その実現方また努めていきたいというふうに考えておりますので、議会の皆さんにおかれましてもぜひ御協力をお願いしたい。

最近の展開としての具体的な施策の一例で申し上げますと、今年度新たに母子保健コーディネーターという名称でございますが、産前産後のケアの充実等のために、これを配置する。あるいは、産後ヘルパー事業や母乳相談事業というもの、これ結構大切です、これ。私どもの家庭の中でも孫ができましたけども、この母乳の問題というのは本当に大きな悩みになっているのを実感しましたが、この問題や、あるいは産前産後の心の問題、例えば産後鬱という言葉がございますけども、これの予防に努めていく。そして全体として、美作市に来ると周囲のほかの町に比べても割合安心して子育てができるんだなということを実感してもらえ

るような体制にしていきたい、そういうふうに考えております。これにあわせまして平成29年度から、これも市民要望に基づいて実施をしました出産祝い金事業につきましても、子育て世帯の経済的負担の軽減の一助となりますように引き続き実施をしていこうと思っておりまして、これにつきましては29年度から実施したことを踏まえて市議会、皆さんからの御意見も賜っておきたいと考えております。

また、本年４月からは子育て支援センター機能を併設しておりますところの湯郷こども園が市内初の認定こども園として正式に開園をいたしております。当市の就学前教育のさらなる充実を図るために他の幼児園の認定こども園化を始めまして東粟倉幼稚園及び土居幼稚園の認定こども園化などについても研究をしていかなければならない。これについては先ほどの委員長の報告にもございました。

このように、子育て支援につきましては周辺の自治体はもとより、願わくば県下でも最高の水準というふうになりたいなと念願をしております。地域で活き活きと暮らせるように文化面における事業の拡充も図る。今年度は市内各地域の公民館等を会場とした岡山交響楽団岡フィルや、あるいはバイオリン、ピアノ等のディオまたはソロの演奏会といったものも計画をさせていただいてございまして、子育ての世代の方々や女性の癒やし、あるいはあすへの活力ということを市民の方々がこういった文化活動を通じて感じていただけるような文化講演も増やしていきたいというふうに考えております。

次に、私どもとしては障がいのある方々を問わず、あるなしを問わず、サービスの拡大をしましたことに障がいのある方々が住みやすい町にするということは、このノーマライゼーションの思想の原点でございますけども、障がいのある方にとって住みやすい町は誰にとっても住みやすい町なんだという考え方がございます。これは私どもが今後の市政の中で目指すべきある種の究極の姿であろうというふうに考えておりまして、障がいをお持ちの方が必要な支援を受けながら障がいを持っているかどうかは別として他の市民の方々とひとしく美作市に生をうけ、そして育って、そして美作市で活躍し貢献し、よかったなといって人生を終えられるように我々としても積極的にこの問題については頑張っていきたいと思います。

私も個人的に障がい者の方々の親の会、これは議員の方も御参加の方もいらっしゃいますけれども、クリスマスの会であるとか七夕の会、定例的に御招待いただくこともございますけれども、そういった場でも保護者の皆さんから障がい者を持ってる身として自分たち親が今後高齢化をしていくことについて、将来に対して切実な不安の声というものをお持ちである。そのこともよく聞いております。今後、どうしようかということでいろいろ考えたわけでございますが、今回豊野地区にこの４月に開設していただきました小規模多機能型の居宅介護施設に併設されてございますサービス付き住宅、あえてサービス付き高齢者住宅と言わなかったのはサービス付き住宅でございまして、この中には障がい者用住宅も整備をさせていただきました。つまり、サービス付き高齢者住宅が普通なんだけども、サービス付き障がい者高齢者住宅ということで整備をさせていただきました。私どもとしましてはこういったことを一つの出発点としながら、親亡き後のことも含めて安心ができる、あるいは頼りになる町、そういうふうにしていきたいと思っております。

次に、日本体育大学との連携の中での特別支援学校の設立の件でございますが、これまでの専門学校等設立準備室の名称を、これは主に滋慶学園の誘致を念頭に置いておりましたので専門学校という名称、専門学校等設立準備室ということになっておったわけでございますが、今後は学校等設立準備室というふうに改めまして、特別支援学校の設立準備等の事務を追加するなど事務分掌を見直しまして、４月より新しい体制で事務の推進に当たっているところでございます。特別支援学校の設立に向けて、認可申請に必要な整備計画あるいは教育カリキュラム等の関係書類案の作成、さらには関係機関からの情報収集、分析、そして岡山県教育委員会などとの意見交換は既に始まってございまして、そういう意見交換を見るにつけ平成33年４月の開校に向けて今さらながらに努力をしていかなきゃいけない、そういう決意でございます。

なお、ノーマライゼーションの実現につきましては、市民の皆様お一人お一人の人権に対する理解と実践が非常に重要であるということは言うまでもございません。人権教育の推進につきましては、今年度中に邑久光明園、長島愛生園と並ぶあれでございますけども、邑久光明園入所者の方々に講演会を開催していただき、そして地域や学校でハンセン病に対する正しい理解あるいは人権意識の高揚に寄与させていただきたいと思っております。また、来年１月にはダウン症を持っている中で書道家として活躍し有名になっておられる金澤翔子さんという方がおられるんですが、このお母様を講師に迎えて障がい者への理解や共生社会の実現に向けた講演会も実施させていただきたいと、こう考えております。また、市内全小・中学校で取り組んでいる２０２０、つまりオリンピックの年でございますけども、２０２０教育プログラムでは障がい者スポーツをテーマに障がい者理解の学習を進めており、現在御案内のパラリンピック、せんだっての韓国でも行われたパラリンピックでとっても感動的な活躍、成績をおさめていただいた林野高校出身の新田選手に子どもたちを対象にした講演の依頼を行っており、大体日程も整理されつつある状況でございます。

次に、私どもとしましては、今林野高校の話を申し上げましたが、学ぶ子どもたち、人にとってより魅力的な町が必要かと思います。本年は明治150年ということでございますが、基本的には国の力っていうのは日本の場合には国土の資源というよりも、その国土に暮らす私たち、日本国民の力、その集合体である。国の力は人にあるということでありますが、この言葉につきましてはさまざまに引用をされておりまして、殊さら繰り返すまでもありません。私どもとしましては、この誇りある日本国の一員として多様な学びの場を市内につくって、そして美作市で学びたい、あるいはだから美作市に行って美作市に住んで学びたいというような気持ちを持っていただけるぐらいのレベルにし、そのことによって市勢の発展とそして国力の充実に寄与していきたい、こう考えているわけであります。私どもとしては、学校を核とした地域活性化ということが社会で活躍できる人材の輩出及び地域のために両方の価値を一石二鳥でこなす重要な視点かと思っております。

その観点から、ことし４月にはスポーツ医療看護専門学校と通信制高等学校が開校いたしました。学園関係者や学生の流入、周辺店舗での経済活動などが見た目にも変わってきたということを大原地域の方々から伺っている状況でございます。入学者の状況につきましては、専門学校の入学者数は入学時点で39名、高校の入学者数はその時点で127名というふうにお聞きしておりますが、逐次増えているとの話もあるようでございます。また、認可がおくれておりますというか、10月開校を目指して日本語学科の準備が進んでおりまして、それが整いますことによってさらなる生徒数の、学生数の増大ということも期待できるかと思います。

また、自衛隊体育学校につきましては、今年度も引き続き努力を継続していくつもりでございますけれども、１つには今回も同体育学校から７人制女子ラグビーのチームと、そして競歩のチーム、これにつきましては去年の倍ぐらいの規模で当市を合宿地として選ぶということもございます。私どもとしては、今後の防衛計画の大綱や、あるいは中期防衛計画といったものを念頭に置きながら防衛省に対して積極的に要請を継続する。そのために、できれば私としても今月の市長会の機会を捉えて防衛省の高級幹部とまたお話をさせていただきたいというふうに考えております。

一方で、足元の義務教育における学びの質でございますが、これは教育長が非常に一生懸命頑張っております。私どもとしても心血を注いで応援している事項でございますが、この際、小学校では、これも御案内の方多いと思いますけども英語というものが改めて教科ということになります。そして、平成32年度から本格実施となります。そこで、今まで以上にも増して充実した指導が必要と考えておりまして、外国人の方々による発音や会話を通して英語を学ぶために、今まで２名であった英語指導助手を1.5倍とか１名ですが、

３名に増員をし、英語の習得環境の充実につなげていきたいと思っております。中学校では、４割の中学校３年生が英語検定３級程度の英語力を持つという全国調査の結果があるんですけれども、市内の中学校でも英語検定の資格を持つ生徒を増やすことを目指して、年３回市内の会場での英語検定が、市内で英語検定が受けられるというふうにしておるという状況でございます。

次に、就学前の教育でございますが、就学前から小学校、中学校と学習内容と指導体制の連携を目指して、どの中学校区でも保育園、幼稚園、小・中学校連携教育を推進して、つまり保育園に行ったか、幼稚園に行ったか問わず、上級学校である小学校、中学校等の連携がどの学区でもできるということを私たちの目標として、子どもたちの支援と学力の向上を、小さいところ、つまり就学前から見ていかなければいけないと考えております。勝田中学校区では小中一貫教育として教育計画や指導の連携の研究、大原中学校区では授業と学習環境のユニバーサルデザイン化の研究、美作中学校区では規律を守り学力向上を目指した研究、作東中学校区では学校と園がスムーズにつながる体制の研究、そして英田中学校区でも協同的探求型学習の研究と学校運営協議会の推進ということになってます。この協同的探求型学習っていうのは今後の学習指導要領のテーマの一番大きなところであります。ディープラーニングという、深く学ぶためには協同でディスカッションしながらということで協同的という言葉が入ってるんですが、自分の頭で考え、自分の頭で学べる、人の頭をかりながらより深く学べる、そういう子どもたちをつくっていきたい。このように全ての中学校区において、知育、徳育、体育の調和がとれて、そして自立した子どもたちをつくるための研究活動あるいは教育改革活動が進んでおりますが、さらにその中でもそれぞれの地域の特徴も踏まえた取り組みがされているということを報告させていただきます。

次に、働く人々、我々の多くが働いてる人でありますけれども、安定した職場が提供できる地域であるということも大変大切でございます。市内の産業雇用の場となる企業誘致についてでございますけども、御案内のとおり作東産業団地は完売となりまして、雇用の拡大はこれから続いてくるというふうに思っております。そこで、今後は新たな産業団地整備に向けての南部産業団地開発調査に取り組むことは前々からお話をしているとおりでございます。また、ヘルス産業の推進や起業・創業の支援等の地場企業の活力創生につきましても引き続き積極的に取り組んでいこうと考えております。農林業の分野につきましては、農林業作業の負担軽減、利便性の向上等を目的に次世代につながる農林業の構築に向けて、さまざまな国県補助事業に取り組み、積極的にハード面での整備を図りたい、そう思っております。また、野菜の栄養評価事業やジビエ関連事業に加えてもち麦の栽培普及など、美作市の特産品としての販売促進、これを図り、もうかる、そして消費者に貢献できる農林業につなげていきたいと考えております。

なお、市内の生産者が道の駅彩菜茶屋及び彩菜茶屋箕面店へ出荷する場合の手数料につきまして引き下げを行うよう有限会社特産館みまさかに依頼をしておりまして、来年４月からそのような実施、つまり市内の方々は市外の方々よりも手数料が安くなると、こういうことがほぼ決定をしてるというふうに伺っておりますので御披露をさせていただきます。

ところで、ニート、ひきこもりの問題がございますが、これも働くことの裏返しでございますけれども、これまで余り目を向けられることがなく効果的な施策がなされておらなかった分野、当市だけでなく国全体としてなかなか難しい分野ということでございましたが、これによる経済的損失は非常に大きいものというふうに言われるようになりました。昨年度から私どもとしては取り組みを行っておりますニート・ひきこもり等若年者就労支援事業というものがございまして、これは週５日間の事業所への勤務や中間的就労への従事等の成果を求めているものでございますけども、これは相応の成果が上がりつつございまして、今年度も引き続き実施し、若者の方々がこの場を通じて本格的な自立に向かえる支援をしていきたいと考えておりま

す。

そして、交通福祉という言葉がございますが、障がいがあるなし、あるいは高齢であるなしを問わず、多くの市民の方々、全ての方々にとって足回りのいい町という方向性も追求をしていきたいと思っております。

まず、道路関係でございますけれども、岡山美作道路を初めとして国・県道の整備促進に向けた要望活動、あるいは美岡道の北部延伸に向けた取り組み、これは今積極的に、今ちょうど時期でございまして、週２回ぐらいこの件では動かせていただいております。また、市道では昨年度から３カ年計画で集中的にやろうとしております区画線整備、つまり真白い白線事業、あるいは修繕維持、道路改良等を引き続き、これは具体的に進めていくつもりでございます。

今年度からの新たな取り組みとしまして、昨年の台風時期にこの問題は市民の方々から多く提起されたわけでございますけども、赤線や青線を含めたいわゆる法定外公共物などにつきましては、農業用受益があるものなど一部を除きまして維持修繕には地元の負担が必要と、こういう形で行われてまいりましたが、災害で被災をし、特に公共性が高い施設について、地元、個人的負担というばかりじゃないわけでありますから、これについて助成をする制度を創設させていただきました。具体的に思い当たる方もおられると思います。地区みずからが実施する補修等の負担を軽減して適正な維持管理につなげることで、それぞれの地域の安全や生活環境の維持向上に寄与したいと考えてございます。

また、交通弱者対策として昨年７月から市営バスの運行がない作東地域を対象としてタクシー利用補助事業の実証実験を開始し、その後、12月からは一部利用条件を制限して市内全域に対象を拡大してございますけれども、各地域からの御要望に応え、そして実証実験の成果を踏まえて、本年６月１日から条件の緩和をいたしまして全市域で利用が可能というふうにきょうからなります。御案内のとおり４月補正で所要の措置をお認めいただきましたもんで、早急に準備をした結果、きょうから、きょうからタクシー利用の半額助成が可能となっております。これはテレビをごらんの方にも御認識をいただくため、やや繰り返し申し上げるんですが、きょうからでございます。

次に、やはり安全な町、とっても安全な町というのは生活の基盤でございます。今でも災害、犯罪両面で美作市はどちらかというと安全な町というふうに日本の中でも言うことができますけれども、今後とも警察との協力あるいは防災のための公共事業や、さらに加えますと消防団の強化ということで、今回も議案上程してございますけども消防団条例を改正し、学生消防団の導入などということで消防団の充実、さらには雪害対策なども災害の観点から正面から捉えて安全な町のための施策を積み重ねていきたいと思っております。

防災情報等の告知につきましては、さまざまな手段で伝達することによって到達率を高めることが必要です。告知で流したからよかろうがということにならないわけでありまして、スマホでも見える、あるいはテレビでも見える。いろんな形で伝達することによって到達率を上げると。昨年は一斉メールやスマホアプリの利用、これによって個人への情報発信システムの構築がようやく着手されましたけども、今年度、平成30年度につきましては屋外拡声器の拡充と音声告知放送の更新を進め、さらなる情報伝達力の向上、伝達率の向上を図っていく所存であります。

なお、新しい告知放送端末の設置工事につきましては、広報みまさか５月号の折り込みチラシ等で市民の方々にお知らせをいたしているとともに４月下旬から当市の各地域で順次告知端末設置説明会を開催いたしてございます。説明会では、設置方法等についてできるだけわかりやすい丁寧な説明を行うよう関係者にお願いしております。市民の皆様に御理解をいただいた上で端末設置を行うよう設置業者の主体でございます

みまちゃんネルの方々にもそのようにお願いし、同社と連携して円滑に事業を進めてまいりたいと思っておりますが、何かございましたら遠慮なく当市にお申し出いただき、あるいは地域の市会議員の方にこんなことでどうなんだという部分があったらお申し出をいただき、その処理をともに協力する中で円滑にしていきたいと思っております。

安全な生活を支えるインフラの整備等についてでございますけども、上水道事業と簡易水道事業、つまり普通の水道と簡水でございますが、これの経営統合が求められておりますが、これにつきましてはさまざまな要素を考慮しながら、今後美作市水道事業中期計画、これは今でもあるんですが３年の経過がしておりますので、これを再策定をするとともに管路を初めとする水道施設の老朽化に伴う更新などを行っていきたいと思います。また、できれば供給水質の改善も図れればありがたいということも考えさせていただきたいと思います。

また、下水道事業につきましては、引き続き農業集落排水施設を統合する。この統合作業を進めるための設計作業に取り組んでございますが、埋設、布設から30年を経過している美作処理区の下水道管について管更生を実施して管渠の長寿命化と不明水対策にも努めていこうと考えております。また、各処理場の機械、機器等の更新ということも計画的に行う中で、トータルコストを下げていく工夫をしていきたい、そう考えております。

クリーンセンターの関連事業でございますけども、昨年度から最終処分場の建設をしてございます。今年度末の完成予定をしておるところであります。また、美作市南部環境美化センター及び北部環境美化センターにつきましては、本年度から２カ年間で解体撤去を行う予定になってございます。

この間にも行政懇談会や折に触れての市民アンケートなどを通しまして、さまざまな課題をこれからも聞いていきたいというふうに考えておりますし、絶えずさまざまな御意見も寄せられているところであります。例えば、子どもの皆さんのインフルエンザ予防接種への公的助成についても意見があり、あるいは壮年期からの歯周病検診の実施という意見もありました。本定例会で、これらにつきましては補正予算を計上いたしております。ぜひ実施に向けて必要な予算、御審議を賜りますようにお願いをいたします。

また、集落近くに繰り返し出没をしておりますツキノワグマ対策として、岡山県と協議をしておりました有害鳥獣捕獲の権限の移譲につきまして、ことし４月、つまり今年度から許可権限が岡山県から美作市に移譲されることになって開始されております。このことによりまして迅速な対応が可能となり、市民の方々の安心・安全の確保がさらに充実すると思っております。

美作市は人口が少ない町でございますんで、小さなことをおろそかにしては絶対なりません。市民の方々お一人お一人の思いや困り事に関して、できれば本当に隅々まで気を配りまして丁寧にそして確実に、できれば迅速に問題の解決をしていきたい。そのこと全体が暮らしやすさにつながると思っております。

今や、美作市は消滅の危機を脱し、新たな発展を目指すスタートラインに着けたものと確信を深めてございますが、これからは岡山市や津山市など、他の自治体と競い合う、いわゆる都市間競争に生き残るために、あるいは勝ち抜くためにこのふるさと美作市をもっともっと住みやすい町にしていこうと思っております。ふるさとを守り育てていくことが私並びに職員の使命であり、この観点から私としては市政伸長のために、発展のために今後４年間、全身全霊で取り組みたい、そう決意をいたしております。

さて、この際、若干の報告でございますけれども、まずＮＨＫ「のど自慢」でございますが、御案内のとおり来る７月８日日曜日、宮本武蔵顕彰武蔵武道館で開催されるわけでございますけども、相当強い関心がございます。準備は進んでおります。出場、歌いたいという人の応募はもう締め切られております。この会場にもひょっと御応募された方がおられるかもしれませんが、713組の方から応募があったということで相

当な高倍率であろうと思います。前日の予選会、リハーサルを含め市内外を問わず多くの方々が美作市に来られる、そしてお泊まりになる方もおられると思います。当市にとって大きなＰＲ効果、あるいは若干の経済効果も期待をさせていただいております。市民の方々には市外からのお客様をお迎えいただく、その協力をよろしくお願いいたします。なお、当日観覧の申込期限が６月14日、あと２週間でございますが、これは出場するんじゃなくて見るほうですけれども、観覧の申込期限が６月14日となっております。漏れなく御応募いただきますようにお願いいたします。

以上、若干の報告もございましたけども所信の一端を申し述べて、議会の審議、そして市民の皆様の当市の政策、行政に対する御理解と御支援の一助にさせていただきたい。御清聴ありがとうございました。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

これより休憩をいたします。

１時15分まで休憩します。

午後０時20分　休憩

午後１時15分　再開

議長（鈴木　悦子君）

それでは、休憩前に戻り会議を開きます。

日程第７、報告第３号「平成29年度美作市一般会計繰越明許費繰越計算書」について、市長より提案説明を求めます。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

それでは、ただいま御上程になりました報告第３号「平成29年度美作市一般会計繰越明許費繰越計算書」について、報告をいたします。

平成29年度美作市一般会計補正予算（第５号）におきまして、繰越明許費として可決承認を頂戴しました現年農地災害復旧事業、そして現年農業用施設災害復旧事業、さらに現年公共土木施設補助災害復旧事業、さらに現年公共土木施設単独災害復旧事業の４つの事業につきまして、地方自治法施行令第146条第２項の規定に基づきまして繰越明許の報告を行うものでございますが、繰越額の総額が7,567万6,000円となりました。

以上、報告といたします。よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

提案理由の説明が終わりました。

これより質疑に入ります。

質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

質疑なしと認め、質疑を終了し、以上で報告第３号を終わります。

続きまして、報告第４号「平成29年度美作市一般会計事故繰越し繰越計算書」について、市長より提案説明を求めます。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

報告第４号「平成29年度美作市一般会計事故繰越し繰越計算書」でございますが、平成29年度美作市一般

会計事務事業のうちで小型動力ポンプつき積載車整備事業が不測の理由によりまして年度内に事業が完了しなかったため、地方自治法第220条第３項ただし書きに基づきまして事故繰越を行い、地方自治法施行令第150条第３項の規定に基づいて報告をいたします。繰越額の総額は620万円となっております。どうぞよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

提案理由の説明が終わりました。

これより質疑に入ります。

ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

質疑がないようでございます。質疑を終了し、以上で報告第４号を終わります。

続きまして、報告第５号「平成29年度美作市下水道事業会計予算繰越計算書」について、市長より提案説明を求めます。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

報告第５号「平成29年度美作市下水道事業会計予算繰越計算書」でございます。

本件は資本的支出予算の下水道環境更生事業におきまして、施工時に発生する臭気対策の調整に不測の日数を要したことから、地方公営企業法の第26条第１項の規定に基づきまして予算を繰り越したものでございますが、同法第26条第３項の規定により報告をいたします。本件についての繰越額の総額は6,600万円でございます。どうぞよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

提案理由の説明が終わりました。

これより質疑に入ります。

質疑ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

質疑がないようでございます。質疑を終了し、以上で報告第５号を終わります。

次に、日程第８、議案第53号から議案第62号について市長より提案説明を求めます。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

それでは、ただいま御上程になりました議案第53号から議案第62号について説明をいたします。

まず、議案第53号「美作市附属機関設置条例の一部を改正する条例について」でございますが、現在美作市介護保険運営協議会、美作市介護保険事業計画策定委員会、美作市地域包括支援センター運営協議会、美作市地域密着型サービス運営委員会という４つの協議体、そして委員会がございます。効率的な運用を図るためにも美作市介護保険運営協議会に統合することとし、それぞれの協議会、委員会の要綱を廃止して新たに美作市介護保険運営協議会規則を制定いたします。このことに伴い、関連する美作市附属機関設置条例の一部を改正するものであります。

次に、議案第54号「美作市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について」でございますが、放課後児童支援員の要件に関する国の基準が改正されたため、当市の基準条例についても改正を行うものであります。放課後児童支援員の要件を学校教育法の規定による教諭

となる資格を有する者から教職員免許法に規定する免許状を有する者に改正いたします。また、５年以上実務経験があり、市長において適当と認めた者も新たにこの対象に追加をすることとなります。

次に、議案第55号「美作市消防団条例の制定について」でございます。不足する消防力の補完を目的に学生消防隊を新規設置することとし、消防団員を基本消防団員及び機能別消防団員として条例で定めるものといたします。機能別団員の年齢を15歳以上と定め、学生消防隊員の報酬額を4,000円とすることなど、必要な事項を整備することとなります。このことに伴い、美作市消防団条例美作市消防団員の任免、報酬、服務に関する条例、そして消防団員服務規律及び懲戒条例を統合し、美作市消防団条例の全部を改正するものであります。また、美作市消防団条例の全部改正に伴い、美作市消防団規則を同条例を施行規則として全部改正を行います。同様に、複数に分かれている他の消防団規則を統合し、機能別消防団員の組織、機構などについて具体的に規定するものであります。

次に、議案第56号「市道路線の認定について」でございますが、公共性が高い道路を市道に認定したいということで、道路法第８条第２項の規定により提案をさせていただきます。当該路線は市道認定基準に適合するもので湯郷地内１路線、岩見田地内１路線、合計の２路線でございます。

次に、議案第57号「市道路線の変更について」でございますが、公共性が高い道路を既存市道にかえて市道に認定するということで、道路法第10条第２項の規定に基づく路線変更として同法第10条第３項の規定によって準用する同法第８条第２項の規定により提案をするものであります。当該路線は市道認定基準に適合する鳥渕地内の１路線でございまして、既存市道の終点を延伸し認定することといたしたいと存じます。

次に、議案第58号「美作市過疎地域自立促進市町村計画の変更について」であります。美作市過疎地域自立促進市町村計画の変更につきましては、産業の振興などの分野において新たに事業を進めるに当たり、過疎地域自立促進特別措置法に基づく事業として位置づけ、より効果的に事業を実施するために美作市過疎地域自立促進市町村計画に各事業を追加し、計画の変更を行うものであります。主な変更事業といたしましては、産業振興の分野では大芦高原国際交流村バンガロー解体事業、交通通信体系の整備、情報化及び地域間交流の促進の分野につきましては市道１路線の改良舗装の追加及び市道２路線の内容変更ほか１件、生活環境の整備分野では市営住宅解体事業、高齢者等の保健及び福祉の向上の増進の分野ではいきいきゆうゆうの里の改修事業、教育の振興の分野では幼稚園空調設備整備事業ほか４件を計画させていただいております。

次に、議案第59号「美作市内の辺地に係る総合整備計画の策定について」でございますが、辺地に係る公共的施設の総合整備のための財政上の特別措置等に関する法律の規定に基づき、美作市の辺地総合整備計画の策定を行うものであります。真殿辺地、小房辺地では、地域住民の車両の安全な通行が確保できるよう道路を拡幅するなど、市道の改良舗装を行います。東谷上辺地につきましては、積雪による集落の孤立が懸念されることから迅速かつ効果的な除雪作業を行うため、小型除雪機械の更新整備をいたしたいと思います。中谷辺地につきましては、林業振興のため、林道竹の頭ダルガ峰みはらし線開設舗装を行います。

次に、議案第60号「平成30年度美作市一般会計補正予算（第２号）」でございます。平成30年度美作市一般会計補正予算（第２号）につきましては、骨格予算と編成してございました当初予算にいわゆる肉づけ予算として政策的事業を追加計上するものでございますが、歳入歳出それぞれ10億2,819万6,000円を追加し、総予算額を212億106万4,000円とするものでございまして、債務負担行為の追加、地方債の追加及び変更も行ってございます。歳出における追加補正の主なものは、総務費ではＡＥＤ機器リース料235万7,000円、自治創生事業補助金1,000万円、民生費では児童発達支援事業等拡大促進事業助成金354万8,000円、衛生費では歯周病疾患予防検診事業171万6,000円、インフルエンザ予防接種促進事業387万7,000円、農林水産業費ではジビエ倍増モデル整備事業１億3,924万8,000円、担い手確保経営強化事業補助金では1,145万6,000円、農

地耕作条件改善事業で6,000万円、商工費では地域活力創生事業雇用促進補助金1,350万円、土木費では道路橋梁新設改良事業２億2,284万円、都市公園整備事業では7,649万1,000円、消防費では公共無線ＬＡＮ環境整備事業6,260万円、教育費では小学校スクールバス整備事業830万円、湯郷Ｂｅｌｌｅ支援補助金が1,000万円、大芦高原グラウンドゴルフ場造成工事及び野球場防球ネット設置工事が6,100万円などとなっております。

なお、今回の補正予算の財源は消防防災施設等整備国庫補助金3,374万8,000円、農地耕作条件改善事業県補助金3,880万円、財政調整基金繰入金２億6,779万6,000円、過疎対策事業債３億2,130万円などとなっております。

次に、議案第61号「平成30年度美作市水道事業会計補正予算（第１号）」でございますが、収益的収支予算の支出を574万6,000円増額し、総額を６億4,886万4,000円とするものであります。支出の内容は、平成28年８月から施行されたポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法に基づき、ポリ塩化ビフェニル、いわゆるＰＣＢですが、ポリ塩化ビフェニル廃棄物の検査、処理に伴う委託料を計上するものであります。

次に、議案第62号「平成30年度美作市下水道事業会計補正予算（第１号）」でございます。資本的収支予算におきまして2,550万円を収入し、それぞれ増額補正するものでございます。補正の内容につきましては、脱水機器等の更新及び公共ますの新規取り出し事業費を計上してございまして、事業費の財源としては一般会計からの出資金を計上してございます。

以上、議案について説明を申し上げました。御審議のほど、よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

提案理由の説明が終わりました。

以上で本日の日程は全部終了しました。

本日はこれで散会します。

再開は６月11日午前10時からです。

御苦労さまでした。

午後１時31分　散会

平成３０年６月１１日

（第　　２　　号）

1. 議　事　日　程（２日目）

（平成30年第３回美作市議会６月定例会）

平成30年６月11日

午 前 10 時 開議

於　　議　　場

日程第１　代表質問

日程第２　一般質問

2. 出席議員は次のとおりである（18名）

１番	青　山　　慶	２番	和　田　広　宣
３番	岩　﨑　清　治	４番	岡　野　鉄　舟
５番	中　山　忠　明	６番	倉　地　重　夫
７番	重　平　直　樹	８番	安　藤　　功
９番	金　谷　の り 子	10番	岡　本　泰　介
11番	山　本　雅　彦	12番	萬　代　師　一
13番	山　本　重　行	14番	尾　髙　誉　久
15番	岩　江　正　行	16番	日　笠　一　成
17番	内　海　健　次	18番	鈴　木　悦　子

3. 欠席議員は次のとおりである（なし）

4. 地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名（20名）

市　　長	萩　原　誠　司	副 市 長	横　山　博　光
教 育 長	大　川　泰　栄	政策参与	山　下　　亨
政策審議監	春　名　利　亮	総務部長	岡　本　和　之
危機管理監	藤　原　陽　二	市民部長	角　南　良　雄
環境部長	宿　野　豊　彦	経済部長	遠　藤　宏　一
保健福祉部長	江　見　　勉	建設部長	真　野　弘　紀
教育次長	山　名　浩　二	消 防 長	皆　木　佳　久
会計管理者	山　本　和　毅	市民課長	藤　井　千　枝
営業課長	栃　岡　雅　之	企画振興部次長	春　名　信　明
企画振興部次長	平　田　幸　春	健康づくり推進課長	山　下　富貴子

5. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名（３名）

議会事務局長	尾　崎　功　三
課　　長	坂　元　省　吾
係　　長	金　谷　裕　子

午前10時00分　開議

議長（鈴木　悦子君）

皆さんおはようございます。

携帯電話の電源を切っていただきますようお願いいたします。

傍聴者の方は、傍聴規則第８条にもありますように傍聴席にあるときは静粛にしていただきますようお願いいたします。傍聴者の方が傍聴規則を守れない場合は議場より退席をしていただきます。

６月１日に引き続き会議を開きます。

欠席者の報告をいたします。岩江正行議員が通院のため午前中欠席です。大森総合戦略監が病気療養のため、今会期中は欠席です。

代理で平田企画振興部次長と、春名企画振興部次長が出席されております。

定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

日程第１　　代表質問

議長（鈴木　悦子君）

はじめに日程第１、「代表質問」を行います。

代表質問の方法につきましては、申し合わせにより、総括質問は登壇して行い、再質問については、質問席で行うこととなっております。

なお、質問の回数は３回までとし、一括質問方式で行うことになっております。

質問時間は45分とすることになっておりますので、御承知願います。

それでは、通告順に発言を許可いたします。

通告順番１番、公明党美作市議団、議席番号11番山本雅彦議員の発言を許可いたします。

山本議員。

１１番（山本　雅彦君）〔登壇〕

皆さん、おはようございます。

心配されました台風も、被害がなく安堵しているところでございます。

今年も大きな被害がないことを祈るばかりでございます。まず、萩原市長におかれましては、本年４月に行いました美作市長選挙において２期目の当選を果たされましたことをお祝いを申し上げます。

既に２カ月が経過しており、随分と過去のことと思われますが、改めて申し上げておきたいと思います。

選挙結果を踏まえ、より丁寧でそして慎重な市政運営に取り組まれるよう御期待を申し上げるものでございます。

さて、みなづきに入ります。田に植えられた苗が風にそよぐ様子が何とも心地よく、感じられるきょうこのごろでございます。

みなづきは夏至に当たる月でもあり、これ以降、徐々に日が短くなってきますので、一年としてはこの半分が経過をするわけであり、時の流れの速さを今更ながら感じるものであります。

私を含め、働き方改革をそれぞれが推進しながら、日々楽しんでいけるよう頑張ってまいりたいと、このように思うところでございます。

さて、先般、市長の所信表明をお聞きいたしました。消滅可の自治体候補の中にいるこの美作市でありますが、市長は所信表明では、脱却を示唆、あるいは脱却をしつつある、このように表現されたと思いますけ

れども、少しずつ明るさが見えてきた昨今という印象は確かにあると思います。しかし、この流れを確かなものにしていくためには、より一層の取り組み、努力を重ねていかねばなりません。類似している他の自治体も含め、どこの自治体も必死になって取り組んでいるわけでありますから、美作市としてもそれ以上にやっていかなければなりません。まず、人口が増え、交流人口も増加しなければ、街としての活力が出ないわけであります。

それでは、私ども公明党美作市議団として、代表質問に入りますが、質問事項は基本的には市長の所信表明に基づくものでございますが、一部過去４年間の中でも課題となったものもございますので、念のため申し上げております。

また、代表質問の性格上、広く浅くということになりますけれども、基本的には１回のこの質問で済むように答弁のほうをよろしくお願いしたいと思います。

あえて、２回目があるかどうか、これは答弁を聞いてみないとわかりませんけれども、そういった考えでおりますので、まず申し上げておきたいと思います。

１点目は、人口増へ向けての取り組みとして、市では定住促進住宅の整備を行い、一定の入居者数になっておるようでございます。

しかし、まだまだ空室があり、さらに取り組みをしていく必要があると思われます。市内全ての市営住宅の戸数は、約773戸と聞いております。

せっかくの市の財産でございますので、しっかりと活用しなければなりません。それぞれの状況を確認し、有効に活用することが必要かと思われます。

また、市内の空き家対策も重要であります。これらについても積極的な施策を行っていくことが必要と思われます。

過日のテレビ番組、ＮＨＫのドキュメンタリー番組では萩原市長を初め、美作市の地方創生への取り組みとしてベトナム国との交流は取り上げられております。この番組の中で市長は、美作市における外国人居住者を3,000人程度にまで拡大をしたいと、このようにお考えを述べておられました。減少する人口に対し、どこかで歯どめをかけなければなりません。もちろん国内でのＵＩＪターンでは限界もあるわけですから、この外国人居住者、そしてＵＩＪターン、そして出生率を上げていくという、この３つの政策をさらに進めていくべきと考えますが、現状の課題と今後の取り組みをお尋ねをいたします。

２点目に財政についてでございますが、交付税の一本算定に向けてこれまで取り組んでこられました。市長も積極的に国より交付金、補助金等を獲得してこられたわけでありまして、結果としてそのことが美作市にとって基金の積み増しにつながっているというところはあるかと思います。しかし、国としても昨今、各自治体の基金の増につきましては指摘をされておるようでございますから、美作市としても2019年度以降の財政運営について、それぞれがそれぞれのバランスをとりながら取り組んでいく必要があると、このように考えますが、いかがでございましょうか。と申しますのも、合併特例債がさらに５年間延長されました。美作市として懸案でありました新庁舎や新文化施設、また大原保育園の新築移転などの建設を検討されておられると思います。加えて作東地域の特別支援学校設置についてもその構想があり、これらによって多額の財源が必要になるかもしれないからであります。これらを踏まえ、お考えをお聞きいたします。確認の意味でお尋ねをいたしますが、現在の合併特例債の起債可能額は幾らになっておりますでしょうか。

また、新たな財源確保として、都市計画区域内での里山公園の整備にも積極的に取り組んでこられました。平成29年度末で公園面積330ヘクタール、交付税算入額として約１億2,000万円とありました。当初の計画を達成できるのか、また当初計画にかかわらず、その範囲はどの程度まで現在検討をされているのか、そ

して順次これが公園として整備されていくわけでありますけれども、その管理運営費として例えば平成30年度にはどの程度の管理運営費を見込んでおられるのか、お尋ねをしたいと思います。改めて都市計画区域に関する現在のお考えを確認をしておきたいと思います。

３点目です。近年、市内２カ所に設置されました病児・病後児保育――これは平成29年度は52名が登録をされておるようでありますけれども――や妊婦への美作市電子母子手帳、これ母子モというんですね。母子モの導入、そして障がい児、障がい者福祉にも積極的に取り組まれていると思います。今年度、新たに母子保健コーディネーターの配置や認定こども園の拡充など、その他多くの施策を実施されております。そして、市長の所信表明でありましたノーマライゼーションの実現に向けて積極的に取り組んでいくという姿勢は高く評価できます。また、美作市の保健福祉部関係は、大変一生懸命やっていらっしゃるというふうに私は認識をしております。その中でお聞きいたしますけれども、１点目として、重度障がい者の方々の受け入れ施設については、今どういうお考えでいらっしゃるでしょうか。これについては数年前から議会でも議題になり、また請願を委員会付託を受けて可決した経過もあったと思います。こういったことで受け入れ施設の整備について、議会としても申し入れをしているというところでございますけれども、現在の状況についてお尋ねをしたいと思います。

また、就労支援施設のＡ型、Ｂ型については、県内で施設を運営しておりました事業者が突然解雇、閉鎖という事態になったことは皆様方も記憶に新しいと思います。まことに残念なことでありましたが、美作市の事業者の方々は、こういった経営環境が厳しい中で堅実な経営をされているようにお聞きしているところでございます。その就労支援施設は今後十分であるのかどうか、そしてその課題についてお考えをお尋ねしたいと思います。

５点目が、女性が活躍できる美作市の実現についてということであります。子育てをするなら美作市でしたい、そう思っていただけるような政策の充実へ向けて女性の声をしっかり聞くということを所信表明でも述べておられました。どういった取り組みをしていかれるのか、改めてお尋ねをしたいと思います。

６点目は、地域包括ケアシステムについてであります。実は、この件につきましては、私たちは党としてこの地域包括ケアシステムを含めた介護関係のアンケート調査をこの二、三カ月やってまいりました。その中で、この地域包括ケアシステムの名前、こういったネーミング、これを御存じの方は余りいなかったんです。少なかったということです。これは一体どういうことなんですかということをよく聞かれました。そこで、こういったことについて、この地域包括ケアシステムについて今後周知またはこの制度の充実というものを図っていく必要があると思いますが、現状とその課題についてお尋ねをしておきます。

７点目でございます。子どもの貧困について。これはよくテレビや新聞、雑誌などで見られる、いわゆる飢餓、食料難による飢餓という貧困ではなくて、生活はできるんでありますけれども、十分な教育、そして食事などが受けられにくい子どもたちのことであります。全国的なもので数年前の資料によりますと、数年前といっても４年ほど前ですけども、その資料によりますと、いわゆる可処分所得です、この可処分所得額で言えば、例えば親一人子一人の世帯で年間収入が約170万円程度の方々が対象になっております。もちろんこれ以下の方々もあるわけでありますけれども、いわゆる相対的貧困と言われるこの世帯は、美作市では現在どのように把握をされていらっしゃるか、またその方々に対する支援策というものをどのようにお考えになっていらっしゃるか、こういったことについてもお聞きしておきたいと思います。

８点目であります。特別支援学校の設立に向けた取り組みについてでございます。作東地区に設立を予定されている特別支援学校について、これは市長のマニフェストにもあったわけでありますけども、岡山県との協議、そして認可の見込みはどうなっておりますでしょうか。また、全体の事業費の見積額、そして日本

体育大学との連携はどこまで進んでいるのか。また、この特別支援学校はどのような教育を目指していくのか、いま一つ私には理解ができておりません。例えば北海道の網走市に設立された日本体育大学の高等支援学校はアスリートを養成すると、そういった専門学校であります。そのアスリートを養成するのか、あるいは発達障がいの方々が対象なのか、また知的障がいをお持ちの方々なのか、そういったことがいま一つ明確でないような気がしております。そのお考えをお尋ねしたいと思います。

９番目には、自衛隊体育学校の美作市誘致についてであります。2020年東京オリンピック・パラリンピックの後でないとこれは誘致が進まないと、私はそのように思っておりました。ただ、先日の所信表明の中で、今年度後半に策定される中期防衛力整備計画に盛り込めることを目指していると、このように市長もおっしゃっておられます。このことについて、その可能性としてはどのように思われているか、またそれが可能なら、市内の適地はどこに求めるのか、このあたりもお聞きしておきたいと思います。

10番目でございます。ベトナム社会主義共和国ダナン大学との交流は、同国の元国家元首で国民から敬愛されている故ホー・チ・ミン主席の像の設置にまで現在は発展をしております。萩原市長は、このダナン大学、そしてベトナム国との交流は、その一応の到達点をどこに求めておられるのか、今後の展望についてお尋ねをしたいと思います。

11番目でございます。以前、数年前ですけど、６市町村の首長などの方々が台湾へ行き、美作市への旅行客の増加に向けて積極的にＰＲ活動をされてこられた経緯があります。そのこともあり、近年、美作市への外国人の誘客、これは主に台湾だそうでありますけども、誘客が進んでおります。また、市内の娯楽施設などでは、韓国などからのお客様が増加をしております。すごい数が今お見えになっておりますね。こうしたことから、本市といたしましても、その内外のお客様を積極的に市内観光や宿泊などに結びつけていくような政策を行っていく必要があると思います。積極的な支援策あるいは政策を考えていかれるのかどうか、お考えをお尋ねします。

12番目でございます。新告知放送については、順次各地区でこの４月より説明会が始まっているようでございます。以前の端末では約10年間で更新が必要とのことでありましたが、このたびの更新によって今後はどの程度のその有効期間を見ておられるのか。例えば前回は10年ということでありましたが、市内通話が無料であるというのをかなりコマーシャルされまして、その加入を促進をされてこられたという経緯があったと思いますけども、この件について総額としてはどの程度になるのか。また、広報紙にもありましたけれども、自分で設置すれば、ケーブテレビ料金を3,060円、つまり月額1,020年掛ける３カ月分、これを減免するとありましたが、市民の方にわかりやすく説明をしていただきたいと、このように思うわけでございます。

13番目でございます。南部産業団地整備について、市長が答弁の中で触れておられました。この開発調査に取り組むとのことでございます。その需要を現在どの程度見込んでおられるのか。また、その規模やコストについて、さらに人材面での見通しはどのようにお考えでしょうか。慎重に検討していくことが必要であると思われます。現在、英田インターから吉井インターまでのルートについては、これは難航しております。このルート間がつながるめどがまだまだ難しいんだろうというふうに思いますけれども、これはいつかはつながるんでしょうね。ただ、それがいつになるかわからないというだけでありまして、相当時間がかかるんじゃないかなというふうに思っております。と申しますのも、この美岡インターが開通することによって南部産業団地をもし整備されたとすれば、恐らく有効であろうというふうに思います。しかしながら、このルートがまだ確定しない場合は、中国道勝央インターからあそこまで行くしかないということでありますので、その利便性というのは少し半減するんだろうと思います。そういったことも含めて、まず整備をするんだというお考えなんでしょうけども、そのあたりの見通しをお尋ねしておきたいと思います。

14番目でございます。特産館みまさかについて触れておられました。確かに手数料の引き下げは生産者にとってはメリットがあります。ただ、いまだに美作市としては毎年約1,700万円、これは店舗、そして第１駐車場の土地の借り上げ料、これを拠出しておりますけれども。そして、生産者の方々は市内、市外といらっしゃります。全体的に整合性、バランスを考えてそういった取り組みはされるべきではないかというふうに思います。現在、市内の方がどの程度の生産物を出荷しておられるのか、あるいは市外の方がどの程度出荷しておられるのか、そういったことを踏まえながらバランスを考えていただきたいということを申し上げております。もちろん手数料の引き下げについては、これは生産者にとってみればメリットがありますので、そこら辺は特に私はあれこれ言うものではございません。また、その他の農林業に関してさらなる特産品の開発や、加えて林業への支援策の拡充がさらに必要と考えます。そのあたりもお聞きします。もち麦でございますけれども、今や多くの自治体がこれを取り組んでおりまして、今後価格競争が懸念されるのではないかというふうに私は思っております。そういった意味から、こういった特産物について、農産物については積極的に６次化を行っていきながら、この民間事業者ともともに研究をして、これらを育てていくという、そういう政策も考えていかれてはどうかと、このように思うわけでございます。

15番目でございます。観光振興について少し触れます。先ほども少し申し上げましたが、市内に内外から多くのお客様が少しずつではありますが、来られるようになりました。美作市の魅力をさらにアピールしていかなくてはなりません。また、湯郷温泉街を初め、市内各所の空き店舗をもっと積極的に活用していくこと、そして交流人口を拡大していくことができないかと思われます。どのような政策をお考えでしょうか。私は、この美作市はまず湯郷温泉が元気になっていくことが大事だと思います。その上で東粟倉地域や大原地域、勝田地域や作東地域、そして英田地域がそれぞれ持っている資源を生かすことができると、このように考えます。例えば、10代、20代、30代の若い世代の方々の意見や考えを聞いて、そしてこれを政策に反映できるようにＰＴなどをつくって、これを研究してもらう、あるいは提言をしてもらうと、そういったことも有効ではないかというふうに思うわけでございます。あわせてお尋ねをしたいと思います。

16番目でございます。有害鳥獣についてでございますが、特に熊の捕獲については、その権限の移譲が本年４月より美作市に移譲されたということでございました。迅速な対応がとれるということは極めてありがたい話でありますけれども、ただ私たち市民、つまり市民の皆様方から見た、その流れがどういうふうな流れになって、それが進められていくのかということがいま一つわかりにくいということであります。従来は捕獲したら、すぐ県に連絡して、県の対応を待っていたということでありますけども、今回は市にそれが権限が移譲されたわけでありますから、市としてこういうフローチャートのようなものがあって、わかりやすいように市民の方にお知らせするということを考えていただきたいということでございます。そこは改めてお聞きしておきます。

17番目でございますが、何年かかけて、つまり数年前から市内のため池や橋梁の点検等を調査されてきたわけであります。その調査結果と今後の対応についてでございますが、まずため池については、防災重点箇所が11カ所、要詳細調査が４カ所となっております。また、橋梁については、その調査結果による区分３の早期措置段階のものが22カ所となっておりました。順次計画を立てておられると思います。また、既に対応済みもあるかと思われますが、今後の計画についてお尋ねをしておきます。

昨年、福岡県の朝倉市で豪雨災害で多くのため池が決壊し、甚大な被害が発生をしております。そして、今その牽制があるために、ため池について予算の関係もあり、十分な対応ができていないというのが地元の役所の方のお話でございまして、防災対策の面からもこの対応が急がれるわけでありますけれども、いかがお考えでございましょうか。

18番目でございます。災害対策について、特にこれは河川のしゅんせつについてでございますが、県管理の河川のしゅんせつの要望もたくさんあるようでございます。市での対応をしていかなければならない河川のしゅんせつもあります。県管理の河川しゅんせつ及び市管理の河川しゅんせつについてのお考えをお尋ねをしておきたいと思います。

19番目でございます。市道管理とその安全対策についてお尋ねします。市道管理では、通行中の車が被害に遭い、美作市として損害賠償の請求をよく受けております。これをできるだけ減らしていくために、またなくすためにどのようにお考えでしょうか。また、道路脇の立木が繁茂し、見通しも悪いところが多くあります。計画的な伐採等を行っているのでしょうか、お尋ねをします。

20番目でございます。クリーンセンターの最終処分場の建設についてでございます。その現在の進捗率と完成年度及び稼働見込みはいつごろになるのか、また施設が稼働しても焼却灰、いわゆる主灰、飛灰については引き続き三重県の伊賀市や兵庫県の赤穂市の施設に搬入されるのですが、その費用は毎年どれぐらいで推移をしてきておりますでしょうか。また、今回の所信表明にもございましたが、長期包括運営委託業務については、このクリーンセンターの業務の中でどこまでの範囲を考えておられるのか、お尋ねをしたいと思います。

21番目でございます。美作水道事業所についてでございますが、現在の施設は設置後、かなり年数がたっております。老朽化もしておりますけれども、新しいこの水道事業所の建設整備というのはお考えにあるのでしょうか、どうでしょうか。

22番目で、上下水道についてでございますが、美作市の水道事業長期計画の策定とありましたが、こういった事業については、これは私の提言でございますけども、いわゆるコンセッション、公共施設等の運営権というものを導入する、このコンセッション方式による民間委託を検討してみてはどうでしょうか。民間委託では指定管理とか運営委託とか、いろいろあるわけでありますけれども、こういった公共施設の運営権をそういった専門業者に持たせるということで、市の施設を今運営している自治体が少しずつではありますが、増えてまいりました。将来の人口減あるいは人手不足、人材不足、そういったことにも関係してくるんだろうというふうに思います。これは今の上下水道で言えば、浄水場あるいはポンプ場、浄化センターなどがこの方式の導入が考えられるというふうに思っております。例えば水道では、施設の老朽化による財源確保、将来の水道使用料の減少による減収、水道事業にかかわる職員の技術継承などを考えてみると、検討していく必要があるというふうに思いますが、お考えをお尋ねします。

23番目でございますが、タクシー利用補助事業の制度を早期に確立したいとのことでありました。美作市のような中山間地域では、どの地域にも同じように福祉バス等を運行させることは大変厳しいんじゃないかというふうに思います。例えば、幹線道路などでのバスによる通勤、通学の足というのは、これは確保していくことは重要なんでありますけれども、それ以外の交通手段としてはタクシーが適しているんではないかというふうに思うわけであります。美作市として一定の補助ができれば大変有効であろうというふうに思いますが、この件についてどうお考えでしょうか。

24番目でございます。市民の安全・安心について。これは私ども市議団の和田議員も後から質問がありますけれども、それとは違う点２点に絞ってお尋ねをしておきます。近年は凶悪犯罪が頻発しております。特に幼い子どもたちが犠牲になるケースが大変多い、憂慮しておるわけであります。そうした中で防犯カメラは大変有効なものでありまして、犯罪の予防あるいは起きたときの重要な情報にもなります。市内の一定の箇所には設置してあります。今年度の予算案にも３台分を計上していると、このようなお話でございましたけれども、この設置数をさらに拡大していくことも市民の皆様の安全・安心につながっていくのではないか

と思われます。現在の設置数と今後の計画をお聞きいたします。また、これはいろんな関係団体からの話もありましたけれども、災害現場や火災現場などでの迅速な対応のためにドローンの活用を進めていくべきというふうに思いますが、どのようにお考えでしょうか。

25番目でございますが、学力の向上については、この数年間で少し上昇してきたと、このように聞いております。さらに、義務教育における学びの質を高めていくことの大切さを語っておられます。これは同感であります。教育現場での対応は万全でしょうか。また、市長の所信表明にもございましたが、それぞれの中学校区で特色のある研究をされるようでございます。ただ、これについては教職員は仕事時間が大変多いと聞いております。よく学校の前なんかを通りますと、夜遅くまで電灯がともっているのを見かけることがあります。一部の人の話には、今や学校はブラック企業ではないかというふうにやゆされる、そういう方もあるようであります。教育現場に過重な負担がかからないように配慮しながら取り組んでいただきたいと、このように思います。お考えをお聞きしておきます。

26番目でございます。教育環境整備について。これはエアコンのことでございますけれども、教育環境の整備というのは大変重要な施策であります。今年度は各中学校の普通教室に設置されるというふうにお聞きしております。次に、各小学校への普通教室への設置についてはどのようにお考えでしょうか。また、少しこれは気になるからお尋ねするんですけれども、市内全ての教育施設、幼稚園、保育園、あるいはこども園、小学校、中学校のエアコン、これを全て稼働させた場合の電力費用というのはどのぐらい見積もっておられるのか、わかる範囲でお尋ねをしたいというふうに思います。

27番目でございます。ユニバーサルデザイン教育についてお尋ねをします。市内の小学校で取り組んでこられたユニバーサルデザイン教育については現在どのような成果が生まれておりますでしょうか。また、現在の状況とその実績について検証されていると思いますけれども、どのようにお考えか、このことについてもお尋ねをしておきたいと思います。

以上、市政全般についてお尋ねをいたしました。先ほど、冒頭申し上げましたが、代表質問でございますので余り詳しくは入っていきませんが、できれば１回目で全て終われるように答弁をお願いしたいと、もう少し残るようでしたら、２回目があるかもしれませんけども、そのあたりを踏まえた答弁をよろしくお願いをして、１回目の質問とさせていただきます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

それでは、山本議員の代表質問27項目ありますが、そのうち私から幾つかお答えします。

まず、項目の番号で言うと２番目の財政問題ですけれども、お尋ねの中にもあったとおり、過去４年間で相当財政が改善をし、結果としてさまざまな指標がいい水準に達しました。殊に財政調整基金を含む基金の残高が相当程度拡大をし、さらにこれもお尋ねにありましたように、国からちょっと多過ぎやせんかというようなことも言われる状況になってまいりました。

一方で、なぜ基金を積んできたかというと、当然ですけれども今後さまざまな私どもとして必要な事業があるということを念頭に置いての基金の積み増しでありますから、それが次第に今度は基金を少し使いながら市民生活の向上のために必要な幾つかの事業分野に展開をされていくと。しかし、一方で余りやり過ぎすると今度はきつくなりますんで、一定程度のところでこれは我慢をしながら時間を待っていくと、こういう普通のことが起きるわけでございますが、議員が御指摘になられた幾つかの事業につきましては、そもそも降って湧いたものではなくて、大分前からいろんなことで考えておりましたので、当然のことでございます

けども、いわゆる新庁舎を除けば、大体もうその中に入って議論はされているということであります。

一方で、新庁舎につきましては、これは助成手段が合併特例債しか基本的にはないということでございますので、合併特例債の有無が私どもの財政に与える影響が大変大きいということは論をまたない。そして、合併特例債が５年延長された。ちなみにお尋ねにあった使用可能額でございますけども、現在までに74億円使っていて、計画として既に10億円ぐらいは、例えばこれも出しますけども、旧環境センターの解体撤去その他を含めて約10億円については予定がございます。そういたしますと、もともと発行限度額が180ですから、95.何ぼうと、95億円強があとの使用可能額ということになります。これ全部使うかどうかについては、恐らく使わないだろうと思います。といいますのが、合併特例債といえども当然でありますけど、裏負担が３割は残ってまいります。３割ということになりますと、過疎債と同じ、一方で過疎債のほうが充当率が100なもんですから、これは若干有利でございます。辺地債と比べると、当然ですけども、条件がさらに悪くなると。私どものように過疎債が相当広範囲に使える自治体においては、その点も考慮しながら合併特例債でしか使えないものを最優先をし、過疎債発行限度額が来てて、それが使えないから当面合併特例債だというような順序をきちっと守りながら、これを活用することによって市民負担を最小限に抑える努力をしていきたいと思っております。

次に、障がい者の方々に対する福祉の関係、特に重度障がいの件でありますが、まず障がい者福祉につきましては、私どもの政策あるいは美作市の社会福祉協議会の努力あるいは美作市の社会福祉協議会とそれから事業者の方々のさまざまな政策努力を通じて、私が見る限り、県内でも相当良い水準になってきている。あえて申し上げますと、岡山県の中でこの分野で注目されていたのが総社市ですけれども、最近では総社市と美作市かなっていうような感じにだんだんなってまいりました。ただし、お尋ねの重度障がいというところに私どもとしてのまだまだ足りない部分があります。これは間違いない。

これについて見ますと、当然ですがかなり難しい技術であり人材確保であり、いろんな条件がありますので、県外で岡山市以外で展開されているところ、あるいは岡山市も含めてですけど、結局ノウハウのある社会福祉法人Ａ荘ですか、もう申し上げていいのかな、旭川荘がやっぱり進出できるかどうかによって決まっていって、ほとんど。旭川荘の展開を見てますと、県北では真庭に行っていたり、あるいは笠岡に行っていたり、瀬戸内に行ってらっしゃる。そういうことの中で全体のネットワークがもう形成をされていて、大体これで旭川荘として見れば一応形になったのかなということになっている。

一方で、ほかにこの重度障がいについての対応がしっかりできる事業体が県内にあるかというと、ここしか実はないというのが今の状況なんです。私どもがもしこの面について15年ぐらい前に決心をしていれば、ひょっとしたら旭川荘の問題について、真庭ではなくて、あるいは瀬戸内でなくて、この地域で実現できていた可能性はありますけども、今その問題についてはなかなか難しいと思います。

しかしながら、この重度障がいについての思いというか、〔聴取不能〕思いというものを断ち切る必要は全くなくて、粘り強くほかにやってくれる人がいるかどうかも含めて研究はしていかなければならない、痛い質問であります。障がい者福祉について全県で、あるいは県北で一番いい水準にしたいと思っている中で最も悩ましい部分がここであるという御指摘だと思います。諦めずに努力をしていきたいと思います。

それから次に、女性の方々の活躍できる町ということで、４月の補正予算あるいは今回の補正予算につきましてもこの点に配慮したさまざまな事業があります。幾つか申し上げますと、放課後児童クラブの拡充や病児・病後児保育、あるいは産前産後のケア、認定こども園、さらには放課後デイみたいなことも含めていろいろなことをやっていくことで子育てを担っていらっしゃる若い世代、特に女性の方々に対して住みよい町にしていきたいという思いは当然あるわけであります。

これについては、既に活躍をされている方々、例えば子育てサロンのメンバーの方や、あるいは愛育委員会とか栄養委員会とか、それから民生児童委員の方々みたいな、もう既にこの問題についてある程度御認識を持っていらっしゃる方々との対話は当然やっているんですけども、それだけでは多分不十分だろうと思っておりまして、実は今月中に多くの女性の方々に集まっていただいて問題提起をして一緒に考えていく運動を始めていきたい。場合によっては、その後の展開によりますけども、ＰＴをつくるとか、あるいは視察研修にお互いに行くとかというようなことで具体の動きを起こし、そしてともに考えながら具体的な政策づくりに反映をさせていきたいというふうに考えております。

次に、子どもの貧困問題なんですが、これは世間的に言われているほど対策が楽ではありません。相対的貧困ですから、なかなか捉え切れないだけではなくて、施策に結びつけにくい。そこで、私どもとしては、ごらんのとおり児童福祉法にある要保護児童という、その制度があります。これは典型的に言うと、虐待防止とかあるいは親御さんがいらっしゃらないとか、そういうところから来るわけですが、私どもとしてはこの要保護児童政策というものを割合担当部局でもって積極的に運用すると、見て見ぬふりをするんじゃなくて、むしろ要保護児童の枠にお入りになったらどうだということを積極的に対応してきているというのが非常に大きな他市との違いではないかと、あるいは自慢すべきところではないかというふうに考えております。

ちなみに数字で申し上げますと、平成29年度の要保護児童登録者の方々の数、子どもの数ですけれども、94人になっておりまして、おおむね18歳未満の方々の市民の人口の中で2.6ということになってまして、これはどういう数字か微妙なんですが、津山が2.5％、真庭で1.7、新見市で1.5というようなことになっておりまして、これは高いことを嘆く必要は全くないと思っておりまして、私どもの施策がこの分野において積極的に動いているんだと、そのことによって次の対策、つまり要保護になればいろんなものが免除されたりしますし、生活保護法であるとか生活困窮者自立支援法とか、いろんな取り組みにつながっていく可能性が出てまいりますので、政策として支援ができるところへ持っていくという意味でこの対策を積極的に活用しているというのが私どもの思いであります。私どもとしては、先ほど言いましたように、この福祉の状況について言うと、県内でもいいところに持っていきたい、したがってこの問題については就労支援というのは非常に重要であるので、社会福祉課の中に２名の就労支援を配置をしておりますが、これも多分この辺では一番しっかりした対応になっているということであろうかと思っております。

いずれにしましても非常に重要なことは、この要保護をしっかりやることによって、その子どもたちの将来がより明るくなっていく、未来に対する大きな投資だというところを市民の方ともども共通の認識として持つべきであろうという点でございます。

次に、自衛隊の体育学校の件でございますけれども、所信表明で申し上げましたとおり、ことしから来年にかけて中期防が策定をされます。明示的に書くかどうかは別として、中期防の考え方の中に防衛省として幾つかの施設整備を念頭に置いてもらう必要が当然ございます。実は１月だったと思いますけれども、議員の方々も含めて、小野寺大臣のところに行ってお話をいたしました。そのときも１つは、オリンピックがあるから、そこまでは無理よという話とともに、選挙に受かってからもう一回来なさいという話がありまして、せんだって全国市長会の機を捉えて、大臣はお忙しかったんで、官房長とお話をしてまいりましたが、簡単に言うと、１番目によくまた来ていただいたと、そしてオリンピックということがあるんで、当然難しい問題はあるんだけども、両者とも諦めないでこれを考えていこうじゃないかという、かなり前向きというか、いいお話を頂戴をしていて、そして３番目に、それもあるので、ことしの夏の美作市への合宿については、防衛省の本省としても体育学校に対して積極的にこれを拡充するようにというふうに指導をしています

との話がありました。その結果として、競歩の方々は去年の倍ぐらいの数でお越しになられるということにもなっているようであります。

そして３番目に、そういうこともあるので、ぜひ美作市の防衛協力会の関係の方々や心ある議員の方々も含めて、この機にまた体育学校に御視察においでいただきたいと、こういう話も頂戴しておりまして、そういう意味では割合防衛省としてもこの問題については少なくとも否定的には考えていないという状況が読み取れたようなわけであります。

いずれにしましても、私どもとしては全部と言っておりますけども、機能の大部分、一部も含めてどうだとか、いろんなことも言いながら、粘り強く国に働きかけを続けていくべきだろうというふうに判断をしております。

それから次に、13項目めでありますけども、南部産業団地でありますが、これは背景としては、御案内のとおり作東の産業団地が完売をしたということであります。もう一個の背景は、南部に割合企業の増設、工場の増設に対する意気込みが既にあるというのが２点目、それから３点目は、美岡道の湯郷インターから英田インターまでの工事がおっつけ進みますけども、そのときに出てくる残土の処理を一体どうするんだという問題があって、県としても残土処理が必要ですから、それを残土処理をした結果として団地になったというのは、これは非常にお互いありがたいストーリーというようなことがあるというのが３つの背景であります。

そういう意味では、私どもとしてはオーダーメード方式といいまして、立地企業のほうが先に決まってて、その後、うちが団地を整備するというようなことも含めて、この南部産業団地については前に進め、そして県の御都合の中で進めるほうは、これはオーダーメードになりません。さらに言うと、時間がいつまで続くかわかりませんから、これは最少コストでの団地造成という形で、ある程度見えてきた段階で募集をかけていくということになろうかというふうに思います。

一方で、お尋ねにもあったように、この団地の魅力が県南にじかに通じる美岡道全通というものがあれば倍加するのは間違いないんですが、おっつけできるだろうというんで、先物買いという魅力もあるだろう、殊に旧吉井町から乗れることに来年度なりますので、そうしますと事業効果の何割かは確実に獲得ができることになるだろうということも含めて、悪い立地ではなかろうかと思います。

これについては議員も御案内のとおり、せんだって開会をされた誘致進出企業会でも話をして、若干色めき立った企業もあったわけでありますので、そう心配をすることはないかなぐらいの、今感覚で見させていただいております。

次に、14項目め、特産館みまさかでありますけども、お尋ねのように毎年1,700万円、ずっと我々が負担をしているわけであります。これについて、会社の決算には出ない形になっているんですけども、これについて目をつぶったまま値下げをするというのはどうかという、バランスに欠けているという話があるのは、まことにおっしゃるとおりなんです。私が知っている限りにおきましては、最近の３年間ぐらいの決算を見ておりますと、大体1,800万円ぐらいの経常収益があって、600万円ぐらいの各種の税金を払っていると、こういう形になっているわけです。私としては、この1,700万円については何らかの形で会社に負担をしてもらうことによって、言いにくいんですが、節税にもなるし、ぎりぎり赤字にもならない、内部留保も相当してますから。そういう中で来年の４月に実行できるように今準備をしておりますけども、市内の生産者の方々向けの手数料の引き下げというものを実施をしていただきたいと、こんなふうに考えているところであります。まさにお尋ねの趣旨を正確に我々としても今までも議論をしてきましたが、共有する中でこの議論をしていきたいなというふうに考えているところでございます。

それから熊なんですが、これは16項目めですか、熊についてはこの４月から私どもが権限移譲を受けてます。今のところの権限移譲のスタイルというのは、錯誤捕獲された個体について、いわゆる射殺をする許可を出すことであります。今までは現場に行って、我々が押さえているわけ、我々って私はしませんけども、職員が行って押さえたりしていて、何かついているかどうかとか、タグがついているかどうかというようなことを言って、そこへ県の人がどこか遠いところから来て、一定の条件、つまりかつての非行があったかとか、あるいは集落、村落への執着がある個体かどうか、つまり村落との距離がどれぐらいかとかというようなことを判断して、それでアウトになると、悪いけども捕獲をさせていただく。セーフの場合には、どこか遠くの山奥へ行って、できれば北のほうに向いていってくれと祈りながら離すと、こんな形になっているんです。

これが今までのスタイルなんですけれども、最近状況が変わってまいりまして、去年から私も委員やっているんですけども、東中国個体群といって、熊の集団がいるんですが、これやっぱり増え過ぎていると、集団を守る、維持存続する以上にようけいおるんで、年間何十頭かは各県協力して射殺をさせていただくということになっているわけです。その猟期が11月の一月ぐらいになっているわけです。ところが、11月の一月に、去年やっているときに１頭しかとれなかった。理由はいろいろあって、十数年間熊はとったことはないんで、犬もよう追わんとか、どうやってとったらいいんかがわからんとかということになってる。そうすると、今度は個体数を減らすときに、錯誤捕獲で捕まった個体についてもそれの対象に加えるべきじゃないかという議論が当然出てきて、それはそうだということになったわけです。そうだということになっているにもかかわらず、まだ県の今までの基準が使われるもんですから、ちょっと不明になってないかという今問題提起を県に対してしておりまして、それがしっかり明らかになってくると簡単に言えるんです。今年度の枠が例えば30頭ある、その枠の中であれば許可がほぼ自動的におろすことができると非常に言いやすい文言になるんです。今は行ってみないとわからないという、相変わらずやや難しいことになっているんで、この辺を今県に対して整理をしていただくようにお願いをしております。

次に、私どもが県に対して申し上げていることの中で若干御披瀝をしておきますと、錯誤捕獲で射殺をした個体については、何と岡山県の言い方は一般廃棄物であると。狩猟、つまり有害捕獲でとったやつは、これは個人の所有だから有価品であるという、全くわけのわからないことになっていて、それでいろんな県を見てますと、兵庫県では害はあったといっても貴重な命でありますんで、それを研究目的にセンターに集めてどういう生活をしているんだという解剖しての情報収集などに活用している。うちはすぐに埋めようです、岡山県は。これはあんまりだということで、その辺の取り扱いについても岡山県の考え方を普通の誰が聞いても耐えられる形につくり直してはいかがでしょうかということも今お願いをしているところであります。

以上、一部でございますけども、お答えをいたします。残余の論点につきましては、各担当部長からお話をさせていただきますので、よろしくお願いをいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

ここで10分間休憩します。

午前11時00分　休憩

午前11時12分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

それでは、答弁から始めたいと思います。

企画振興部次長、どうぞ。

企画振興部次長（春名　信明君）〔登壇〕

それでは代表質問、山本議員の御質問にお答えさせていただきます。

１番目の人口増へ向けての取り組みについてでございます。

人口増へ向けて外国人居住者、ＵＩＪターン者、出生率を上げる、この３つに対する取り組みについての御質問ですが、本市では、美作市まち・ひと・しごと総合戦略とあわせて、平成27年８月に美作市人口ビジョンを策定しております。その中で、合計特殊出生率を2020年までに1.80、2025年までに2.10とし、2040年の人口を２万5,000人以上とすることを目標にしております。これまでの人口動態は、毎年度100人から230人の転出超過となっており、28年度までの平均転出超過は165人でありましたが、平成29年度は初めてマイナス100人を下回る結果となっております。

年々増加傾向にある外国人居住者につきましては、先月には美作署管内国際対策化協議会総会が開催されました。そこでは、生活面などの外国人支援に向け新たな事業計画が承認されたところであります。報道によりますと、国においては人手不足が深刻な農業、建設、宿泊、介護、造船の５つの業界を対象に外国人労働者の受け入れを拡大する方向にあることから、市としましても新たに創設される在留資格により、市内企業が必要とする外国人労働者の拡大を図っていきたいと考えております。

市内の空き家は727戸とお聞きしておりまして、ＵＩＪターン者につきましては昨年から取り組んでおります定住促進住宅の取り組みで、北山住宅の団地60戸では、退去後の補修を要する６戸を除いてほぼ満室になっております。また、真加部団地につきましては、当初４世帯でありましたが、現在は36世帯まで増加しております。入居者の傾向は、６割以上が市外からの転入で、平均年齢は38歳と若年層が多い傾向にあります。このことは若者の定住促進への寄与が伺えます。これらを踏まえ、引き続き、美作市に住んでみたい、住み続けたいと思っていただけるよう、子育て支援策や空き家バンク制度などを紹介しまして、みまさか暮らしの質改善プランの周知に努め、市内へのＵＩＪターンを進めていきたいと考えております。

また、合計特殊出生率につきましては、平成27年度の1.44から平成28年度には1.47と若干上昇しております。今年度に入り、５月末現在で29人の転入超過という明るい兆しも見え始めております。この状態を維持できますよう、子育てがしやすい環境づくりや婚活イベントなどを引き続き実施して、若者世代、子育て世代の移住・定住に向けた取り組みを進めてまいりたいと考えております。

それでは、10番のベトナム国との交流の一応の終着点はどのあたりかについての御質問でございます。

美作市では、少子・高齢化等の影響により人口の減少が著しい中、市内在住の外国人の人口は年々増加傾向にあり、その中でも外国人技能実習制度を利用したベトナム人の人口が増加している状況にあります。美作市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、市内で技能実習を行う外国人の数を500人にすることを目標としておりまして、将来的にはベトナム国立ダナン大学大学院の日本校を美作市内に設置することも目指しております。そのためには、市内在住のベトナム人の方々が安心して暮らせるまちづくりの構築や文化、教育、観光等において交流を図ることにより相互の理解を深め、さらなるベトナム人の定住化や観光客の増加を目指すことを目的に、ベトナムとの交流事業を今後も推進していきたいと思っております。

続きまして、12番の新告知放送についてでございます。

事業の完成時期と総額等についての御質問ですが、まず今回の更新によりまして設置いたします告知放送端末はどの程度の有効期間を見ているのかとの御質問ですが、購入業者から10年間は保守修理を対応する保証をいただいておりまして、最低でも10年間は使用できるということでございます。今後は、購入業者と端

末の保守修理期間の延長の協議を行っていきたいと思っております。

次に、事業費総額と完成時期についての御質問ですが、告知通信施設整備事業が約４億7,000万円、屋外拡声器設置事業が約１億5,600万円、合計６億2,600万円を見込んでおります。平成30年度末事業完了予定ということでございます。

次に、御自分で端末を設置された場合のケーブルテレビ料金の減免についてでございますが、ケーブルテレビ加入者宅への設置については、設置作業が簡易なことから加入者御自身が端末を設置した場合に、直近の請求額から3,060円、これは基本コースの３カ月分というものでございますが、これを減免するものでございます。ただし、加入者設置によるケーブルテレビ料金の減免につきましては、次の４つの条件を満たしている必要がございます。

１、みまちゃんネルが視聴できるお宅であること、２、集合住宅に居住されていない方、３、ケーブルテレビ料金を支払っていること、４、御自身で設置を行い、告知放送の音声確認ができたこと、以上、４点となります。

今後も地域ごとに順次開催をしております説明会において、設置方法等について丁寧な説明を行うよう心がけ、市民の皆様に御理解をいただいた上で端末の設置を進めるよう、設置業者のみまちゃんネルと連携し円滑に事業を進めてまいります。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）〔登壇〕

山本議員の代表質問の項目２番の財政運営の中の里山公園についてと17番のため池や橋梁について、それから18番の災害対策について、19番の市道管理とその安全対策についてということでお答えをさせていただきます。

まず、財政運営の中の里山公園でございますけれど、事業を実施しているほうから説明をさせていただきます。

美しい里山公園に係る交付税算入面積は、29年度末に約314ヘクタールで、計画の約400ヘクタールに対して78.5％の進捗率となっており、地権者の御協力によりまして当初計画より若干早く進んでいるという状況でございます。未契約の土地につきましては、所有者みずからが利活用を希望される方のほか、所在不明や遠方の所有者等ございますが、引き続き調査と交渉を進めてまいりたいというふうに思っております。

30年度の管理運営費でございます。平成30年度の管理運営費は、園路周辺の草刈り、イベント経費などで約500万円を補正予算で計上させていただいておるというところでございます。

今後どこまで検討しているのかということでございますけれど、里山公園事業は、山が荒廃することで起こる弊害を改善し、その多面的機能を活用するため、美しい里山をつくり育てる条例を平成26年度に制定をいたしまして取り組んでいるところでございます。条例に基づき、都市計画区域内の新たな里山公園の拡充について、地権者や関係者の御意見をお聞きしながら検討したいというふうに考えております。

また、既に整備済みであります塩垂山のラガーコースや湯郷の吉野川河川公園の部分についても、公園指定に向けた調査測量費を計上させていただいておるというところでございます。

都市計画区域に関する考えでございますけれど、交付税算入される都市公園は、都市計画区域内が前提でございます。区域外の山林では、財源を確保した同様の事業は成り立ちません。この都市計画区域の決定は、人口、開発、建設、交通などの都市化の動向を総合的に判断し、県知事が決定し、規制が強化されま

す。里山公園事業を考えた場合、広く都市計画区域が設定されるメリットはございますが、まずは、現在の区域内で活用できる土地の調査に取り組みたいというふうに思っております。

次に、ため池や橋梁についてでございます。

ため池の点検調査につきましては、調査対象でございます327のため池を平成25年度より実施しております。そのうち防災重点ため池が11カ所ございまして、その中で詳細な調査が必要なため池が４カ所となっております。防災重点ため池につきましては、ハザードマップの作成が必要でありまして、平成29年度に９カ所を作成、本年度に２カ所を計画しております。作成を完了したものは、防災・減災対策として関係地域住民への周知に努めているというところでございます。

次に、詳細な調査が必要なため池は、平成29年度に１カ所実施いたしまして、本年度に３カ所を計画しております。調査結果に基づき必要な対応をしてまいりたいというふうに思っております。

今後は、毎年実施しております管理者から提出されるため池点検シートなどにより必要な対策を検討いたしたいというふうに思っております。耕作放棄地が増えておるわけですけれど、それと比例してため池の管理もなかなか難しくなっているというような状況もございますので、ハード、ソフト対策を組み合わせて総合的な防災・減災対策を進めてまいりたいというふうに思っております。

次に、市道で管理しております橋梁でございます。

平成29年12月現在で818橋となっております。道路法施行規則の規定により５年に１度の定期点検を実施しておりまして、点検では橋梁の健全度の判定結果により４区分いたしまして、橋梁の長寿命化計画に基づき対応に当たっておるところでございます。現在の点検結果では、判定区分４に当たる通行どめや通行規制を要する橋梁はございませんが、議員が質問されておられますとおり、区分３の橋梁、これは早期に措置を講ずる必要があるというものが20橋以上ございます。これらにつきましては、美作市道路橋梁維持管理計画を個別でつくっておりますけれど、これによりまして平成29年度から５カ年で順次修繕を行っていくという予定にしております。

定期点検はこれからも引き続き実施してまいりますので、その結果によっては優先順位や追加等の変更も適宜行いながら、交通の安全確保を第一に、橋梁維持に係る経費の縮減や平準化にも努めてまいりたいというふうに思っております。

次に、災害対策でございます。河川のしゅんせつということでございます。

市民の洪水被害に対する意識は高く、各地区から河川のしゅんせつなど多くの要望が出されております。県が管理します河川につきましては、市からこれらの要望を県に伝えるとともに、早期に実現実施が図られるよう強く要望しているというところでございます。これを受けて県では、堆積している土砂の撤去だけではなく、流れを阻害するおそれのある河川内の雑木につきましても伐採を実施するなど、優先度に応じ計画的に順次対策が進めておられるというところでございます。

一方、県が管理する河川の区間は限定しておりまして、その区域以外のもの、いわゆる普通河川とかというものでございますが、これらについては市で対応するということでやっております。実施に当たりましては、河川の流れを堆積物がどのくらい阻害しているか、保全すべき対象物が家屋か、例えば田んぼとか山とか、件数や面積がどうかといった状況を見ながら対応しているところでございます。本議会におきましてしゅんせつを初め、護岸の修繕の費用として河川費の増額補正を計上させていただいておりますので、よろしくお願いいたしたいというふうに思います。

次に19番、市道管理とその安全対策についてということでございます。

市道の安全管理につきましては、日常の道路パトロールや地区からの情報提供などにより状況把握に努

め、危険箇所の重点パトロール、緊急修繕や補修などの対策をとりながら安全性の向上を図っているところでございます。ことしの２月には、日本郵政株式会社と地域における協力に関する協定ということで、道路の異常を発見した場合などは通報してもらうというような協定もさせていただいております。

そのほか、例えばのり面対策では、点検をもとに損傷状況や危険度、通行量や通学路の有無など諸条件を勘案し、優先度により順次対策を行っているというところでございます。

次に、道路脇の支障木などについては、道路パトロールや地域住民の皆さんからの情報や要望を受け、対応しているというところでございます。枝葉の除去程度であれば道路パトロールで随時対応しているというところではございますけれど、支障となる立木が道路敷地内か民地地内かで異なり、民地地内では、原則管理者である所有者に伐採をお願いをすることになります。しかし、危険などが認められる場合は、道路法で道路管理者は道路を一般交通に支障がないよう努めなければならないとされていることから、所有者の了解を得た上で市において対処する場合もございます。また、倒木等で直ちに危険を及ぼすような場合は、緊急措置として所有者に予告なく伐採することもございます。

市道の管理では、地域の皆さんの協力のもと、道路愛護事業や情報提供などいただきながら、安全で円滑な交通が確保できるよう一層取り組んでまいりたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）〔登壇〕

それでは、私のほうからは保健福祉部関係にいただきました御質問のうちの就労支援施設Ａ、Ｂ型の施設の課題と、それから６番の地域包括ケアシステムの周知、充実についてお答えをさせていただきます。

まず、４番の就労継続支援施設Ａ型、Ｂ型の課題についてですが、市内の就労継続支援施設につきましては、現在Ａ型事業所が２カ所、Ｂ型事業所が２カ所あり、Ａ型で37名、Ｂ型で41名の市内の障がい者の方が就労をしておられます。施設の利用登録者数ではどの施設もまだ余裕があり、利用者を増やせる状況にありまして、各施設の作業につきましても仕事がなくて困っているという施設はありません。いずれにいたしましても、施設を閉鎖したいというような事業所は現在のところ聞いてはおりません。

また３月議会で中山議員からの御質問にお答えいたしましたが、Ａ型事業所に問い合わせをしたところ、おおよそ半数の方が家族との扶養関係になく、多くの方が経済的に自立しているという状況も伺っているところでございます。

一方、１日当たりの実利用者数が定員を大きく下回っている施設もあり、積極的に利用者を増やしたいという声に応えるため、市といたしましても、施設利用が可能な障がい者の就労や生産品の購入等、事業所の経営の安定や利用者の工賃アップにつながるよう協力を続けてまいりたいと考えているところでございます。

次に、６番の地域包括ケアシステムの周知、充実についてでございます。

平成27年度の介護保険制度改正に向けた介護保険法等の改正の中で、国は地域包括ケアシステムの理念を規定し、医療、介護、介護予防、住まい及び自立した日常生活の支援が包括的に確保される体制の推進が国及び地方公共団体の努力義務としました。美作市では、高齢者の相談支援がより身近でできるよう、地域包括支援センターの地域ステーションを美作保健センター及び各総合支所に置き、職員を配置して相談支援に対応しております。お困り事があれば、まず御相談をいただきたいと思います。

また、高齢者が住みなれた地域で自分らしく自立した生活が営めるよう、介護だけでなく、各分野の人が

連携して地域全体で、できる人ができることで支え合う仕組みをつくり上げていく必要があり、平成30年度から第７期介護保険事業計画の中で地域包括ケアシステムの深化、推進と地域共生社会の実現を目指すこととしております。

６月20日発行の広報みまさか７月号の特集で、「支え合うまち」と題して、第７期介護保険事業計画の概要と高齢者の支援策を紹介します。地域包括ケアシステムの充実を図りながら、その内容をわかりやすく言葉で紹介し、周知に努めたいと思います。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、企画振興部次長。

企画振興部次長（平田　幸春君）〔登壇〕

私のほうからは、８点目の特別支援学校設立に向けた取り組みについて御答弁させていただきます。

平成29年４月に学校法人日本体育大学が網走市に開校いたしました知的障がいのある高校生、男子高校生を対象にしたスポーツや農業、芸術活動を通した人間形成が目的の日本体育大学附属高等支援学校の美作市設置に向けた誘致活動や、同校と連携した特別支援学校の誘致について、市、大学及び文部科学省との間で検討を進めてきたところでございます。また、制度面において平成29年度からは当市の要望によって過疎債における対象施設として特別支援学校が追加されたことや、国家戦略特区の活用を視野に入れながら、特別支援学校の誘致、整備に向けた検討を行ってきたところでございます。その中で、文部科学省より整備費について、私立の特別支援学校として誘致するよりも、美作市立の特別支援学校として整備していくほうが、過疎債の対象となり、かつ運営費についても交付税の対象となるなど、財源として有利となる可能性があるとの御指摘がありました。こうした経緯を経て、平成30年４月から、美作市立特別支援学校の整備計画案や教育プログラム案などの検討を始めております。

対象とする生徒は、本市において特別支援学級等の在籍児童・生徒の割合が高い、発達障がいや知的障がいのある生徒を考えております。

岡山県との協議、認可の見込みについてでございますが、平成33年４月開校を目指し、認可申請に必要な特別支援学校の整備計画案や教育カリキュラム案等の関係書類の作成等について、岡山県教育委員会と協議を進めているところであり、関係機関からの情報収集、分析を行うとともに、本年８月ごろをめどに内諾を得られるよう事務作業を進めているところでございます。

次に、事業費の見積額、日本体育大学との連携はどこまで進んでいるのかとの御質問ですが、まず全体の事業費の見積額につきましては、特別支援学校の整備計画案、教育カリキュラム案等がおおむね決定してから、必要な教室等の施設設備を検討したいと考えておりますので、岡山県から内諾が得られた後に概算事業費を積算してまいりたいと考えております。

次に、日本体育大学との連携につきましては、去る５月11日に日本体育大学の今村常務とお会いし、美作市立の特別支援学校の計画概要を説明し、設立に向け快く御協力いただけるとの確認ができております。今後、整備計画全体の内容、協議の状況などにつきましては、議会の皆様、市民の皆様へお知らせしてまいりたいと考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

経済部関係につきまして答弁をさせていただきます。

まず、11番の外国人観光客の誘客についてでございますが、美作市まち・ひと・しごと創生総合戦略のインバウンド推進事業では、重要業績評価指標、ＫＰＩというものでございますが、年間の外国人宿泊者数１万人を達成することができました。これは２年ほど前からインバウンド活動に本格的に取り組みを始め、三県境の首長による台湾へのトップセールスや、台湾、香港、中国等の旅行社を招聘したスタディーツアー、訪日取扱旅行社と地元観光事業者との商談会など積極的にインバウンド活動を進めてきた結果だというふうに思います。また、空のアクセスも充実され、台北からの岡山空港への直行便が充実されまして、現在では毎日運行しています。韓国においてもゴルフ客が増加したことも大きな要因であると思います。このことから、台湾からの宿泊者数が3,430人、全体の31.6％、韓国からの宿泊者数が2,917人、全体の26.9％と、美作市への宿泊者数の過半数以上を占めております。

今後さらに台湾、韓国からの観光客を増加させるためには、岡山空港から美作への二次交通への取り組みが課題であり、レンタカーなどの活用についての補助など、岡山県でも考えられておると聞いております。今後の計画としましては、台湾、韓国はもとより、美作市と交流のあるベトナムを対象にインバウンドの取り組みも検討したいと考えております。５月19日にヴ・トアン・ハイ、ベトナム総領事が表敬訪問された際に、総領事館として美作市の観光の発展に寄与したいとの発言がございました。

また、市内の観光地整備についてでございますが、公衆無線Ｗｉ－Ｆｉの環境整備を計画しておりまして、現在公共施設で整備されていない観光関連施設であります大原古町観光案内所、それからＪＲ林野駅、智頭鉄道大原駅、大芦高原雲海の本館を年度中に整備する予定としております。

続きまして、14番の特産館みまさか、後段の特産品についてでございますけど、新たな特産品ということで、もち麦の生産は２年目を迎えております。１年目の収穫量が19.7トンで、10アール当たり収量は180キログラム程度でございました。収穫後にかかった経費を差し引いた販売実績によりますと、10アール当たりの収益は５万4,000円ということでございまして、これに水田活用の直接払交付金、二毛作助成などを加えますと、合計で９万8,350円というふうになり、水稲に近づいている状況ではあります。今後、収量の増に向けた栽培技術の確立が課題でございまして、10アール当たり300キログラムを目指して取り組んでおります。また、粉としての商品化など、６次産業化については検討課題であるというふうに考えております。

次に、15番目の観光振興についてでございます。

観光振興については、スポーツや自然環境を生かした誘客に取り組んでいるところでございます。湯郷温泉は泉質のよさをアピールしていくことが大切でして、源泉の価値を上げるためのバイオマスの活用を考えているところでございます。

また、空き店舗対策としましては、平成27年度以降、美作市地域活力創生事業補助金の中でスタートアップの支援を行っておりまして、空き店舗対策を含めた新規創業全体を幅広く対応しております。これまで採択した実績は平成29年度までに11件ありますが、このうち空き店舗等を活用した事例は３件で、いずれも湯郷地内における飲食店跡地を改装したものでございました。交流人口の増加は重要なことですので、今後とも支援してまいりたいというふうに考えております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

環境部長。

環境部長（宿野　豊彦君）〔登壇〕

私のほうからは、20番クリーンセンターについて、21番美作水道事業所について、22番上下水道について、環境部関係につきまして御答弁させていただきます。

まず20番ですけども、美作クリーンセンター最終処分場建設につきましては、平成29年３月議会におきまして契約の御承認をいただき、工期内完了に向けて建設を進めております。現在、躯体の基礎部分を施工しており、進捗率は12％で、ほぼ工程どおり進んでおります。本工事は本年度末の完成を見込んでおりまして、来年の４月には稼働開始予定であります。

次に、主灰、飛灰を合わせた費用の推移についてでございますが、平成27年度の処理費用は3,078万円、平成28年度の処理費用は2,873万2,000円、平成29年度の処理費は2,868万6,000円と、若干ではありますが、減ってきております。

次に、長期包括運営業務委託の範囲についてでございますが、平成31年度からの５年間は、現在業務委託をしております焼却施設の運転管理に加え、法定点検、精密機器検査、機器の修繕、周辺地域のモニタリング調査及び清掃、植栽の管理までで、26年度からの５年間は、定年による職員の自然減により施設内の運営ができなくなるため、追加でマテリアル推進施設の運転管理、法定点検、精密機器検査、機器の修繕、選別残渣の運搬、搬入と両施設の用益費を含んだ包括的な運営業務の委託をするものであります。

次に、21番の美作市水道事業所についてでございますが……

〔11番山本雅彦君「議長、訂正するんなら、今しといたほうがえんじゃないん」と呼ぶ〕

済いません、先ほどの訂正をさせていただきます。

包括管理の中で、「26年度」を「36年度」に訂正願います。失礼しました。

次に、21の美作水道事業所についてでございますが、美作浄水センターにつきましては、昭和50年に完成し43年が経過しております。簡易耐震診断では、外観としては老朽化が見られるが、水槽内面を視認する限りでは大きな問題もなく、機械、電気設備についても適正な維持管理、保守点検が行われており、特に問題はないと診断されております。

現在、新水道事業所の建設は考えてないものの、水道施設の健全性を維持し安定供給を行うためには、耐震性能や老朽化の度合いを詳細に分析し、重要度に応じて耐震診断、耐震補強工事を行い、既存の施設、設備についても現有施設を有効に活用し、施設の長寿命化を図ることで更新投資の節減、投資額の平準化に努めてまいりたいと考えております。

次に、22番の上下水道についてでございますが、施設の老朽化に伴う更新費用の増大、職員の退職に伴う技術継承などの問題に対応するため、国がコンセッション方式を推進しております。上下水道事業でも今後の施設整備の際には、施設の維持管理費も含めたライフサイクルコストの削減が期待できるかなど、民間の資金、ノウハウの活用について検討してまいります。その一環として、当面上下水道施設の運転管理について民間事業者との連携強化と活用に取り組むための包括民間委託を検討してまいりたいと考えております。

以上です。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）〔登壇〕

私のほうからは、23番目のタクシー利用補助制度についてと、24番目の市民の安全・安心についての防犯カメラについてお答えさせていただきます。

市内の公共交通として基幹線を運行している民間バス、地域を循環している各地域循環バス、津山方面への通院や通学に市営バス、土居小学校区デマンドバス、勝田地域で民間事業者によるデマンドタクシーを運行しております。これらのバスは、移動が難しい方々のために６月１日から対象地域を市内全域に拡大し、

タクシー利用補助事業を実施しております。５月末時点での申請者は628人と、多くの方に御利用いただけるものと思っております。市営の地域循環バスでは利用人数が極端に少数の地域があり、１人の乗客を運ぶのにかかった市の負担額に大きな格差が生じております。こうした状況を踏まえ、市営バスの再編やタクシーへの移行も含め、財政負担など総合的に検討してまいりたいと思っております。

次に、防犯カメラの普及は、未然防止や防犯対策の一環で商業施設やコンビニエンスストア、観光施設、金融機関、医療機関、駐車場などに自主的に設置され、普及が進んでいます。また、安価な商品も販売されることになり、一般家庭でも設置が進んでおります。市では、地域の防犯対策として、平成28年度から防犯カメラを地域が設置される場合、対象経費の10分の９、27万円を上限に補助対象として予算化しております。市設置分につきましても、設置場所など美作警察署の協力を得ながら、効果のある場所へ設置を順次行ってまいりたいと考えております。よろしくお願いいたします。

以上です。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

消防長。

消防長（皆木　佳久君）〔登壇〕

それでは、24番後段にございますドローンについての御答弁をさせていただきます。

消防活動におけるドローンの有用性につきましては以前から理解しております。美作市消防本部におきましては、災害調査、行方不明者の捜索などさまざまな活用が考えられ、消防職員、団員の労働負担、受傷危険の軽減が図られる等、効果が期待されるところでございます。

岡山県内の消防本部の導入状況ですが、県内14消防本部中、３消防本部が運用を開始しております。美作市消防本部におきましても導入、運用に向けて研究を行っております。運用に当たっては操作員の養成も必要と考えられ、美作市消防本部では４名から６名の人員が必要と考えております。今後、ドローンの導入に向け最新の情報を常に入手いたしまして研究を重ねてまいりたいと考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

それでは、私のほうからは25番の学力向上についての取り組み、またその中で教員の働き方改革につきまして、26番、教育環境整備について、27番、市内の小学校におけるユニバーサルデザイン教育につきましての３点、お答えをいたします。

まず、学力向上でございますが、本市におきましては、保育園、幼稚園から小・中学校まで15年間を見通して子どもを育てていくため、中学校区ごとの一貫した教育を進めております。これは同じ学区で育つ子どもたちを中学校まででどのように育てるのか、学習や生活のルール、学習支援の方法、豊かな心を育てる取り組みの工夫など、課題に応じた具体的な目標を定め、そのための研究テーマも決めて取り組むものでございます。こうした中で、保育園から小学校、中学校への年齢でのつながり、小学校同士の共通した取り組みへと研究の内容も深まっております。

例えば以前では、小学校１年生に入ってきた、落ちつきがない、幼稚園や保育園でもう少ししつけをしてくれればいいのに、中学校へ入学してきたと、もう少し小学校で学力を補充してくれていたらという、そういうないものづくし、そうではなくてやはりお互いに協力して、どこまでを育てるかということをしっかり先生方が手を組んでやっていただくという形に今変わってきつつあります。

このように教育委員会といたしましては、このゼロ歳から15歳までを見通した教育、滑らかな連携となるよう、それぞれの研究を支援いたしております。こうした研究を進めることで先ほど申しましたようにお互いにマイナス面を見るのではなくて、学校ごとのよい取り組みが共有され、教員の指導力も向上し、学力の向上にもつながっているものと思っております。

また、御心配いただいております教員の負担軽減でございますが、職員へのアンケート調査などで教員が時間をかけたいと感じている教材研究、授業準備などにつきましては、問題データベースの活用で練習問題など簡単につくれるようにしていると、あるいは先輩がつくった問題が簡単に取り出せるようにするなど、効率的に時間が使えるようにしております。また、中学校では部活動で週２日の休養日を設けておりまして、そのほかにも成績処理、書類作成などがまとめてできる校務支援ソフトを導入するなどしております。

いずれにしても、勤務時間の把握、アンケート調査によって十分に実感を把握し、今まで以上に子どもとの触れ合いや授業の充実に結びつくよう工夫をしてまいりたいと考えております。

次に、エアコン整備、教育環境整備でございますが、市内には小学校９校、中学校５校ございます。そのうち、普通教室にエアコンを設置しておりますのは現在は英田小学校及び英田中学校の２校のみでございます。昨年度は全小・中学校におきまして特別支援教室にエアコンを整備いたしました。快適な環境の中、とても落ちついて授業ができたとの御意見をいただいております。また、行政懇談会においてのエアコン整備についての御要望もございます。

そうした中で、中学校については夏休み期間中、補充学習、実力テスト等も実施しております。また、生徒の学習環境の改善につながることから、本年度は英田中学校を除く中学校４校の普通教室にエアコンを整備するということにしております。今後におきましては、小学校の普通教室への設置も大きな課題と捉え、検討を進めてまいりたいと考えております。

なお、御質問がございました幼稚園、保育園、こども園での電気の使用量、29年度の実績でございますが、これは幼稚園まで合わせますと、電気のほうだけで約1,400万円必要となっております。ただ、これは新電力の導入によりまして、前年度よりは約15％程度減となっております。

最後に、ユニバーサルデザイン教育でございます。

平成27年度から２年間、勝田東小学校を研究指定し、研究の成果を全市的に広めております。現在は、美作中学校におきまして、同様の視点で特別支援教育の視点を持った授業づくり研究事業といたしまして、専門性の高い大学講師を招聘し、取り組みを進めております。大きな成果といたしましては、昨年一年間で落ちついた学校生活が戻ってきたことがその一つと考えております。

ほかにも大原中学校においても研究を進めておりまして、毎年１回、広島県立障害者療育支援センター、わかば療育園と申しますが、そこの園長であり児童精神科医、お医者さんでございますが、この先生を毎年お招きし、子どもたちが授業に見通しを持つことができる、内容がわかりやすいと感じられるように授業の流れを示す、あるいは授業での黒板の書き方を統一する、そうした細かいところまで御助言をいただき、おおむね定着してきております。

こうしたさまざまな研究の中、まずは子どもたちが集中して授業に参加できるよう、すっきりとしたわかりやすい教室環境にするなど、こうしたことは今全市的に定着をしております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

山本議員、次の質問、午後からにしてください。

ここで１時まで休憩します。

午後０時01分　休憩

午後１時00分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

山本議員、２回目の質問から始めてください。

１１番（山本　雅彦君）〔質問席〕

代表質問を冒頭に申し上げましたように、基本的には私は１回で終わらせたいというふうに思っておりましたけれども、若干少し気になることがありましたので、改めて２回目の質問をさせていただきたいと思います。

ただ、質問の項目につきましては、こちらから指定をさせていただいて、その上で市長から御答弁いただければいいかなというふうに思いますので、市長よろしくお願いします。

まず最初に、支援学校につきましては、いろいろ説明があったわけでありますけれども、美作市立の学校という位置づけを今お考えになっているということでございましたけれども、これは美作市が運営していくのか、あるいは他のどこか団体が運営していかれるのか、そこら辺の状況がいま一つよく見えないのでありますけれども、内容としては発達支援の方を対象にするというような内容だったと思いますので、その運営主体がどこになるのかなと。今検討中なのかどうか、それを含めてお答えいただけたらというふうに思います。

それから、ベトナム国の今交流でありますけども、先ほどダナン大学の日本校、美作校か日本校かわかりませんが、そこまでぐらいはやりたいんだという市長の答弁だったと思います。市長の答弁というか担当部長の答弁でありますけども、これは市長の思いを共有していらっしゃるということで、そのように理解をさせていただきますけれども。そういったことだけではなくて、他の国、東南アジアも含めて、他の国の方々もぜひ美作市にということもお考えなのかどうか、このあたりを改めてお聞きしておきたいかなというふうに思っております。

ダナン大学の日本校といいますか、仮称で私が勝手に申し上げておりますけど、これについてはどのあたりまでこれが進んでいくのかわかりませんけれども、確かに、ちょっと話が戻りますけども、萩原市長は学校の誘致ということを常に念頭に置いてこういう政策を展開しておられる。そういう中で学校の誘致そのものは確かにその地域に与える影響力というのは非常に大きなものがあると思っております。産業の発展にもつながってくると思いますけれども、そういう意味では学校の誘致というのは大いに有効であろうというふうに思っております。ただ、そのことによって美作市がどういったことができるのかと、あるいはどこまでの美作市としての体力でできることがあるのかないのか、このあたりが少し気になっておりましたので、このベトナム共和国の関係で言うと、大学の日本校をつくりたいということはわかりましたけれども、このベトナムだけでなくて、他の国々からもどんどん美作市に来てもらいたいと、このようにお考えなのかどうかという、このあたりをお聞きしておきます。

それから、南部産業団地についてお尋ねしますけども、これについてはオーダーメード方式ということで、そういった希望がある場合、その希望に合わせたところに用地を求めていくんだというようなことだろうと思いますけれども、どの程度のオーダーメード、つまり希望があるのかどうか、私はわかりませんけれども、この面積なんかは当面どのくらいを考えておられるのかというのは、もしそのお考えがおありでしたらお尋ねしておきたいというふうに思っております。

それから最後に、焼却場の関係です。クリーンセンターの関係ですが、長期包括運営委託ということでございますけども、先ほど一応の説明はいただきました。ただ、平成36年から職員がどんどん減ってまいります。そして今現在、あそこのクリーンセンターについては、いわゆる一般廃棄物も含めて、これは市内業者が入札によって３年契約で今収集運搬業務をやっておると。そして、そこの中の運営について、これを今回そういう委託に出したいということなんだろうと思うんですけども、さっき言ったその範囲が環境調査まで及ぶということになると、その業者が果たしてできるのかどうかという、そういう心配もありますし、今現在の一般廃棄物も含めた収集業務の外部委託についての関係性をどのように考えていくのかという、ここが少し気になるんです。そこのところをもう一度答弁いただきたい。

あとの答弁につきましては結構でございます。もう一通り聞きましたのでわかりました。ただ、そのお答えになった答弁に従ってこの一年間、しっかりと行政運営といいますか、それぞれの仕事を頑張っていただきたいと、このように思いますので、今申し上げた点だけ、改めて市長にお答えいただけたらと思います。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

それでは、山本議員の２回目の質問に順次お答えしますが、支援学校につきましては、私どもに今のところ必ずしも十分な運営ノウハウがありません。この運営ノウハウの部分はどこかほかのところから提供をしていただく、市立であってもその運営ノウハウの提供がどうしてもこれは必要であるということであります。一部は当然でありますけれども、既に支援学校は県内にあるわけですから、そういった経験を持っていらっしゃる方々からの提供ということは当然可能であります。

一方で、国が求め、社会が求めている新しい対応、例えば発達障がいであるとか、発達障がいと知的障がいがダブっているとか、さらに言えば単に卒業させるというだけではなくて、社会的に自立ができるところまで持っていくとか、さらにさらにいうとアスリートになるとか、そういう高い目標を掲げた場合における運営ノウハウというものは、これは私どもが今準備室でそれなりに錬磨をしておりますけども、その部分については日本体育大学が既に先行しておりますので、ぜひともそのノウハウをかりていく、そういう混合体が運営のソフトウエアを決定していくんだろうというふうに考えております。

次に、ベトナムだけでなくてというような話でありますけれども、２点に分けてお答えしますと、ベトナムを含めて日本に来た方々が適応できるというためには、日本で学ぶとかあるいは大学院レベルでの資格を持っているというのは非常に重要な要因になっております。したがいまして、これからの国際交流の中で、日本で大学院レベルの学びをし、その資格を取るということはとても大切なことになるだろうと、国も言ってますけども。そういう中で私どもにそういう施設があれば、大変これはありがたいことであることは間違いないわけで、産業開発という意味でも非常に大きいわけでありますが。そこで、これが我々の政策支援で対応可能かということについては、正直申し上げて私どもができることは、土地を提供するとか、ハードを提供するということまでは、空き校舎もありますので、できますけれども、その運営については今の状況であれば、ベトナムを含めて途上国からの大学院ということになりますと、一般的には国が国同士として協調し合って、ＯＤＡという中でその運営経費というものを見ていくことが最善の道であります。逆に言いますとＯＤＡの経費の対象になれば、これは市民負担はその分野については一切消えるわけでありますし、一方で市内における消費であるとか投資であるとかが盛んになってくるというものであります。私どもとしては、そういうふうに持っていく、つまりベトナムの政府から、ダナン大学かどうかは別として、日本国政府に対してそういうものをやりたいので、ぜひ応援してくれ、ＯＤＡをやってくれというような要請を出して

いただけるような頭の整理をしていくことが大切、つまり日本の政府のＯＤＡというのは、要請主義に基づいておりますので、相手国政府からこうしてほしいというふうに持っていってもらうことが多分大切であり、それができて日本国政府がうんと言えば、今言いましたように我々の負担というのが消えていくというふうに考えております。

また、ほかの国はどうかということでありますけれども、そのおつき合いというのは、結構綿密にやっていくことによってしか成果が出ないんで、余りたくさんの国と一気にお相手するほどこちらも時間的な支援が足りませんが、一方で幾つかの国、地域からもっと活発な交流をしたいという申し出があることも事実であります。具体的には、インドネシアのジャワ島の中のある地域の方々が２回も実は訪れておられまして、教育長なども同席してもらったんですが、かなり熱心に美作市との関係発展を考えたい、そしてさらには若い人たちが日本に来るときに、この行き先として当地は非常にいい環境なんだというようなことで、熱心にアプローチがあることは事実であります。

それからもう少し加えますと、せんだってハンガリーの大使が当地を訪問されたときの話でありますけども、ハンガリーにおける看護師の方々の給与はえらい安いんで、ぜひ日本語の訓練を受けて日本で活躍できるようにと思っておったら、当地には日本語教育のシステムはあるしということで関心を持っておられる、一つアジアだけではなくて、今申し上げたようにほかの地域、国においても当市に対する注目が次第に上がってきておりまして、私どもの余裕が許せば対応していきたい。アジア地域について言えば、ベトナムでやっていることがほとんど横にスライドできるというか、モデルになりますので、そんな難しくないだろうと思っております。

なお、個人的に関心を持っている国、地域としては、このほかに非常に日本に対する親和性が高いところでありますが、バングラデシュとか、あるいはブータンとか、この辺は実は民間レベルで美作市へのアプローチもあることが確認されておりますので、この辺も官民協力をする中で、拡大あるいはいい形で日本文化を学んでいただきながら、当市の経済発展に貢献していただければというふうに思っております。

次に、クリーンセンターの関係でありますけども、包括的な業務委託ということでありますけれども、その詳細についての条件は、若干の変更は当然可能性が残っているわけでありますが、１つは御指摘は環境調査というところでありますけれども、もちろん自分が持っている機械についての、こういう数字がありましたとレポートしたことについては当然でありますが、御自身がその包括委託を受けていらっしゃる会社がその原因となるような一般的な環境影響について御自身が調査するというのは、これは大変市民の目から見て不安なことでありますので、そういった不安がある場合には、第三者的なチェックが当然必要だと考えております。あるいは、当市役所がじかに出ていって調査をするといったことが住民保護の観点から当然必要だというふうに整理できると思います。

それから、収集については、今のところ包括契約の対象ではないということになっておりますので、基本的には役割分担としては今の形が継続をしていく可能性が高い。一方で、まだ未知数なところについては、完全に例えば私どもが収集作業の全てから撤退をする、市としてということがいいのかどうか、緊急時においてどうするかというところを若干まだ検討する必要があるのかなということも考えてはおります。ただ、今のところ包括委託によって収集が官民役割分担に変更があるというふうには想定をしていないということであります。

ただ、収集については、今の体制が例えば区分として幾つかの区分を全市的につくってやって、それにいろんな方々が入札でやっていらっしゃると。結構これがいわゆる当たり外れによって民間の方々にとっては継続をするのに非常に重い負担があるみたいなことも出ているというふうにも聞いております。この辺、長

期安定的に持続可能な収集体制をつくるという観点からは、この民間における競争の仕方、あるいは協調の仕方、協調、競争の仕方について官民でもう少し議論を深めていくことも妥当かというふうに考えております。

以上で具体的に提起された御質問についてはお答えをしたつもりでございますが、あえて包括的に申し上げますと、先ほどお聞きになっていただいたように、各担当の方々も例えば議員が〔聴取不能〕になった選挙のときの公約などもしっかり見て、それが実現のためにそれなりの苦労をして工夫をしている、加えて公約とは別途、もともとあった問題や新たに生じている問題についても幅広く議会の御議論なども聞きながら具体化をするという姿勢にあふれているというか、そういう姿勢で一貫をしているということが見てとれるというふうに思った次第であります。これからもこういう姿勢で市民の方々の……。

議長（鈴木　悦子君）

市長、もう一つあります。

市長（萩原　誠司君）

福祉の向上のために努力をしていくということを申し上げて答弁にいたします。

議長（鈴木　悦子君）

市長、もう一つ、南部工業団地。

市長（萩原　誠司君）

済いません、もう一個忘れておりました。南部工業団地についての話ですが、オーダーメード方式でありますので、いわゆる特定の話があるわけでありますが、大規模なものではありません。１ヘクタール未満というふうに理解をしていただければというふうに考えております。

以上であります。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

山本議員。

１１番（山本　雅彦君）

代表質問の項目の中で特に１回目の答弁で気になったところを改めてお聞かせをいただきました。これらにつきましても、今後議会の議論の中で、あるいは委員会の議論の中で、これからさらに進んでいくものというふうに考えております。

以上で私の本定例会の代表質問を終わらせていただきます。長時間にわたりありがとうございました。

議長（鈴木　悦子君）

以上で代表質問は全て終了しました。

日程第２に入る前に、岩江議員が出席されております。

日程第２　　一般質問

議長（鈴木　悦子君）

それでは、日程第２、「一般質問」を行います。

一般質問につきましては、申し合わせにより質問席で行い、質問の方法は１質問項目ごとに３回まで、質問時間は45分とすることになっておりますので、御承知願います。

それでは、通告順に発言を許可いたします。

通告順番１番、議席番号４番岡野鉄舟議員の発言を許可いたします。

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）〔質問席〕

議長の許可をいただきましたので、質問させていただきます。

今議会におきまして、私６点、質問をいたします。

第１点は美作市の人口推計についてで、２つ目は公の施設の管理と指定管理者制度との関係について、３点は放課後児童クラブの運営の現状等について、４点目は土地の所有者不明化問題について、５点目は財政シミュレーションについて、最後の６番目は美作市スポーツ医療看護専門学校についてでございます。

まず、第１点の美作市の人口推計についてでございますが、御承知のように人口がどうあるかということは、行政活動、企業活動の一番基本でございます。少子化による急速な人口減少と高齢化社会の進展、一方でＡＩ、人工知能やＩｏＴ、ロボット等のいわゆる破壊的技術がもたらす技術革新は、萌芽が見え始めているにすぎない現在においても、既に社会に大きな影響を与えております。

御承知のように本年３月30日に公表されました国立社会保障・人口問題研究所、以下、社人研と申し上げますが、これの日本の地域別将来推計人口、平成30年推計によりますと、2045年の総人口は７割以上の市町村で2015年、平成27年の国勢調査人口に比較して約２割以上が減少すると推計をされております。中には３割もあれば５割もあるということでございます。このような中では、これらの人口推移を的確かつ迅速に把握し、考えられる諸課題を洗い出し、これに対して有効かつ適切な対策を迅速に立てる自治体こそが生き残れるものと思っております。

そこで質問でございますが、第１点は、平成27年８月に作成されました美作市人口ビジョンの見直しの必要性とそのスケジュールはどうかということでございます。

そして、２つ目でございますが、これらのことを考えたときに、本市の将来的な人口に起因して考えなければならない諸課題は何かでございます。

そして、３つ目でございますが、この諸課題を解決するためにどのような手順を踏む必要があるかという、この３点をお聞きをいたします。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部次長。

企画振興部次長（春名　信明君）〔登壇〕

一般質問、岡野議員の１番目の質問にお答えさせていただきます。

美作市の人口推計についてということで、まず１番目に、美作市人口ビジョンの見直しの必要性とスケジュールでございます。美作市人口ビジョンは、美作市まち・ひと・しごと創生総合戦略とあわせて平成27年８月に策定されたものでございます。その目標を合計特殊出生率を2020年までに1.80、2025年までに2.10とし、2040年の人口を２万5,000人以上にすることを目標としております。

先日、国立社会保障・人口問題研究所が将来推計人口を公表しました。それによりますと、2045年度美作市の人口は、平成27年国勢調査ベースで53.3％まで減少、また高齢化率は50％まで上昇するとなっております。しかしながら、直近のデータでは平成27年度に社会動態がマイナス206名だったところ、29年度にはマイナス86名と、いまだにマイナスではございますが、その減少幅は小さくなってきております。地方創生の取り組みの効果が徐々にあらわれてきているものと考えております。引き続き地方創生の取り組みを進めてまいりたいと考えております。

２番目の人口減少に起因して考えなければならない諸課題は何かにつきましては、自然動態と社会動態、双方のマイナス分を減らし、さらにプラスに転じていくことが必要だと考えており、この社会動態、自然動

態をどういった手法でさらに改善を図っていくかが課題と考えております。

３番目としまして、諸課題を解決するためにどのような手順を踏むのかについてでございますが、先ほども述べさせていただいたとおり、美作市においては社会動態の減少幅が小さくなるなど、徐々に効果があらわれているところでございますが、今後は特に自然動態を改善させていくことが重要と考えております。自然動態の改善に向けては、若者世代、子育て世代の社会動態を改善していくことが、ひいては自然動態の改善にも寄与するものと考えております。引き続き、若者世代、子育て世代の移住・定住に向けた取り組みを進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

３つの質問について２回目の質問をさせていただきます。

ちょっと冒頭に触れたいなということを今思いついたわけでございますが、実は私、昨年29年度の行政懇談会に28カ所のうち21カ所を行きました。その中で印象に残っているわけなんですが、土居地区の行政懇談会に行きました。そこではメガソーラーについて地域の方々が市の対応に非常に不満を持っておられたというのが印象に残っておりますが、その終わりがけのときに、ある方がこういうふうに言われました。市長、栄町の本所の川際のところに垂れ幕が立っているけども、あれはどういうことかということなんですが、たしか垂れ幕は上半期で転入増であるという、そういう垂れ幕のことをおっしゃられまして、非常に税金の無駄遣いだなと、あんな布を垂らして、一体半期の中で社会増があってどういう意味があるんならと、こういうふうに言われました。私も後ろで聞いておりましたんですが、どういった意味合いで言われたかなというふうに感じておりますけど、先ほど答弁がありましたように、平成29年度が△86、つまり86名の転出増ということは、まさにその方がもし先ほどの答弁と私の質問内容を聞いておられたら、どうしてその年度が改まって86名転出増という垂れ幕を立てないのかと、こういうふうに思われたんじゃないかなと私も思っております。ちょうど２月、年度末に市長の後援会雑誌、私も拝見しました。その中で、30名の転入増という推計数値を書かれておりますが、先ほどの答弁によりまして、この後援会雑誌の報告が全く誤りであるということが明らかになったわけであります。

さて、本論に話を戻しまして２回目の質問をいたしますが、施策の実現という裏づけのために無理な数字を積み上げたらいけないと思います。先ほどの答弁では、合計特殊出生率を2020年までに1.8、2025年までに2.1ということとし、2040年には人口を２万5,000人以上にすると、こういう目標にしているという答弁がありましたが、御承知と思いますが、慶應大学の人口学を専門としていらっしゃいます津谷典子先生がいらっしゃいますが、こう言っておられます。今後10年で合計特殊出生率を1.8ということはあり得ないと。したがって、この教授の話をすれば、2.1ということはとてつもない数字であろうということが言えると思います。

そこで、話が長くなりましたが、質問です。

本年３月30日の社人研の発表の美作市の総人口、49歳以下人口、50歳以上人口推計というのがビジョンの１ページにあります。私も手元に持っているわけでございますが、この１ページを先ほど申し上げました社人研の数字と比較してどういう分析をなされたかということが第１番目の質問の項目であります。

それから、２項目めの質問でございますが、いわゆる諸課題をどう考えているかということですが、最初の質問の答弁では2045年度の美作市の人口は、平成27年度の国調ベースで53.3％まで減少すると、こういう

ふうに言っておられるわけなので、その美作市分を見てはいらっしゃると思いますが、平成27年の国調人口では美作市は２万7,977人でございますが、30年後の2045年には１万4,901人になるとされております。

さて、この人口推計を本市のあれの話に戻しますと、2040年には１万9,140人になるわけなんですけども、それを２万5,000人に頑張るんだと、こうなっております。ところが、社人研の先ほどの数値によれば、１万6,806人になるというふうになっております。この社人研でさえも当初５年前に推計した数値を低目に見て、自分の数値を約2,000人ぐらい少なくなると訂正しているわけでございますが、この統計数値をデータを考えますと、当市の社会動態は非常に厳しいものと考えております。前回の社人研数値では、２万5,000人との乖離は約5,800人、それで今回の社人研数値では、それが広がりまして8,200人という乖離が広がっております。地方創生が進んでいるという流暢な話をすることはできないと思うんですが、このことを踏まえまして、行政の諸課題をどのようなもんと考えるかというのを改めて問います。先ほどでは、定住促進すると言われたんですが、今私が改めて説明申し上げれば、非常にそれだけではない大きな問題があるとおわかりだと思います。担当部署ごとに言えば、総務部を初め、教育委員会までいろいろな諸課題があると思うんですが、その諸課題をお答えいただきたいと思います。

実を申しますと、総合戦略監、企画部長だけに、その荷を課したといいますか、質問したわけですが、当初の一般質問の通告では総務部長から教育長まで諸課題をどう考えるかという質問をしていたんですが、いわゆるそんたくをいたしまして、総合戦略監だけに質問を期待するという意味でいたしました経緯がございますが、改めてきょう不在ですが、諸課題はどのようなものがあると考えるかというのが２つ目の質問でございます。

続きまして、３項目めの質問でございますが、その手順としてということで今御答弁があったのは、人口の増減のマイナスを減り方を少なくし、プラスにするということで、それだけを諸課題と捉えておられるから、その答えが定住促進にだけ、その対応手段といいますか、手順があると、そういう答えがあったわけでございますが、諸課題の捉え方が非常に狭い、拙速であったというふうに私は思います。何のために私が１カ月も前にこの通告の質問を出したのか、本当情けなくなるような思いでおりますが、改めて２番目の質問した諸課題を、例えば総務部ではこういうものがある、教育委員会ではこういうものがあると考えたときに、行政として組織的に、あるいは手法として取り組まなければいけない問題があるはずです。私なりに勉強してきてはおるつもりですが、その３点を最初の質問について２回目の質問を御答弁いただきたい。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部次長。

企画振興部次長（春名　信明君）〔登壇〕

岡野議員の２回目の質問でございます。

国立社会保障・人口問題研究所の推計結果をどう分析しているのかという点でございますが、美作市は先ほど申し上げましたとおり、人口指数が2045年度には53.3、65歳以上の人口も50％というところになってまいります。前回の社人研の前回推計では2045年の人口は１万7,553人と出ておりました。それが今回の推計で１万4,901人と3,000人弱の減少となっております。県下でも美作市の人口の指数ですとか、65歳以上の人口の割合は非常に厳しい数字も出ております。また、全体としましては2045年の全国の総人口は７割以上の市区町村が2015年に比べて２割以上減少するともなっております。近年の出生率の上昇を受けまして、2013年の前回発表と比べて減少ペースは緩和しておりますものの、美作市は非常に厳しい状況にあるという認識、分析をいたしております。

次に、２番目でございますが、地方創生に向けて今後どう取り組むかという点でございますが、美作市ま

ち・ひと・しごと創生総合戦略を美作市では策定しております。美作市人口ビジョンの目的に向けて目標達成に向けて、その総合戦略のさまざまな事業を行いまして人口減少の克服と地方創生の実現を目指して総合的に取り組むものとしております。人口ビジョンの見直し等につきましては、その美作市総合戦略推進会議の中で今後議論がなされていくものと考えております。

３点目の今後の取り組みについてでございますが、ある程度の社会動態の改善が昨今見られたということは、１つには美作市スポーツ医療看護専門学校の開設ですとか、雇用促進住宅への入居ですとか、そのほかみまさか暮らしの質改善プラン、それから美作市子育て若者支援プランの推進による効果が出てきておると考えております。繰り返しになりますが、引き続き若者世代、子育て世代に向けた施策としましてみまさか暮らしの質改善プラン、それから美作市子育て若者支援プランなどを展開していきまして、このような施策を引き続き進めるとともに、これらの施策のＰＲを積極的に行っていくことによって子育て世代の増加、移住・定住の促進、ひいては自然動態の改善を目指していきたいと思っております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

私のほうで若干補足を申し上げますが、これは岡野議員も内心はお気づきだと思うんですけれども、社人研の今回のレポートについては、基本的に27国調までの数字をベースにした再推計ということになるわけでありまして、申し上げたいことは何かというと、その平成26年の後半から地方創生の動きが出て、政策が始まったのが27年度からでありまして、基本的には社人研の推計は、日本各地で行われている地方創生の動きというものを織り込まないという前提に立っているというふうに理解を私どもはしておりますし、議員もその点はお気づきだと思います。冒頭、議員がおっしゃったように、我々としては動態をしっかり把握して機敏にいい政策をとっていくことが重要だというのは、議員冒頭の発言そのものだというふうに考えておりまして、それはあらゆる政策側面に負うわけです。したがって、聞き始めたら全部が実はその目標に向かっているといって過言じゃないわけです。

教育委員会について言えば、やはり私どもの学校がよくなることによって、子どもたちをこの町で学ばせることについての魅力を高めることが当然でありますけれども、私たちの町の人口動態につながる。保健福祉で言えば、福祉の水準が他の町よりもよくなることによって、当市の魅力が増す。水道で言えば、おいしい水がより安価に供給できるということになる。道路で言えば、しっかりとした白線が引かれていたり、安全性が確保されていたりするということであると、これはもう全てそうなっている。総務であれば、そういった施策を推進するためには、それ相応の人材が必要であるから、人員政策について課題対応型の人事育成を行うことなどが入ってきたり、あるいは予算を確保しないといけませんから、常に合理化をしていって基金をしっかりためて、それを市民福祉の向上のために使うんだと、そのことは議員もおわかりではないかというふうに思う次第でありまして、それに今全力を傾注している。

さらに加えて申し上げますと、たしか去年のデータで、今どうなっているかはもう一回点検をする必要があるかと思いますけども、２万5,000人で落ちつくというところで話をしますと、出発地点からある一定の変化でもって、途中の経過地点の値を大体推計できるんですが、今の私どもの人口の動きというのは、その２万5,000人に向かって動いているラインとそう大差がないということであります。やれる可能性がある。したがって、社人研が１万4,000だとか7,000だとか言ってますけども、それをベースに施策を行うということは、先ほど議員御自身でおっしゃった機敏にその人口動態を把握しながら政策をやっていくということに

実は相反していると私は思っておりまして、社人研一辺倒の御判断をされるというのは大変大きな危険があるということをあえて申し上げて答弁にいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員、３回目です。

４番（岡野　鉄舟君）

第１点の人口ビジョンの関係ですが、１ページの人口ビジョンは、このできとる時点というのは２万8,381で、これは推計です。今回の社人研は、これを今私申し上げましたように、２万7,977なんです。その乖離は404人少なくなっているよと、こういうことなんです。私が期待した質問は、ずっとこの流れを通常置いていってみれば、その差は2040年は１万6,806ですから、2,000人ぐらい多いよと、こういうことなんです。その合計特殊出生率を1.8、そしてそれを2.1にして、２万5,000人を目指すということ、目指すのは目標は高いのはいいんですが、避けなければいけないのは、そういった数値をつくり上げることによって、いろいろと人口がこうなるから、施策もこうするんだよということがいけないと私は思います。

それをあえて具体的に言えば滋慶学園、当初は680だったものが360人もない、そして今は数十人であると。私も最後に質問しておりますが、この裏づけが恐らくこの人口ビジョンの中にはあったんだろうなと思います。この人口ビジョンをもとに地方創生事業をやるというふうに、このビジョンの最後のところには書いてあるわけですから。ともあれ伸ばすことはいいんです。それは私もいいと思います。ただ謙虚に数値を考えることによって、それをどうするかということが私は大事であろうと思います。

そして諸課題ですが、私がもし企画部長の立場、戦略監の立場にありまして、１カ月前に質問をいただいておったらこうしますよ。各部長にこういう質問が出とんだけど、各部署でどういった諸課題があるだろうかと、こういって文書で例えば１週間ぐらいの期間で出します。そして、それを取り寄せることによって、それを企画部長、戦略監が頭の中でつくり上げて、この答弁を考えると、これが組織内の人間のすることです。

いやしくも今市長は言われました。確かに私が勉強していた、その質問の一部もございます。あえて全部言うと私の持ち時間がなくなりますので、例えば言いますと総務部で言えば、人口が減るから職員がなくなるんです。そうしたら、採用をいびつにしないように計画的に採用しなければいけない、それは教員だって同じです。県費の職員とそうでない市町村の職員の人件費のそういった問題が起きます。そして、空間管理の問題で言えば、空き地、空き家の問題、今回私が質問いたします所有者不明土地の問題とか、そういった問題、介護職員の確保の問題、山本議員が質問されましたが、地域包括ケアシステムをどうやっていくかという、そういった問題です。そういったものを全庁的に取り組むということが私はこれからの美作市を元気にしていく、もうこれしかないと思いますよ、縦割り的に刹那的にやるということは。私はその辺をもちろんわかった上で質問いたしました。私なりに勉強した上でわかっておりました。やはりそれは私は執行部に対してただすということだけではなくて、市民の方々にも知っていただきたいという思いがありましたから、そういうふうに質問をしたわけでございます。

最後に、総括を兼ねてお話をいたしますと、国では地方創生事業の第二弾として、選挙が始まるからでしょうか、国のほうではいろいろと考えております。いろいろとまた言ってくるでしょう。そこで、考えなければいけないのは、人口は日本全体で絶対１です。そこで社会動態で、やれ取ってきた、やれ引っ張ってきたといっても共食いです。そうじゃなくて、私はやはり人口減少を前提にしながら、どうやっていくかという方法、しかもその方法、将来的に見るんじゃなくてバックキャスティングといいますか、2045年、40年にはこうなるんだよということの中で、今どうすべきかという、そういう問題。一番喫緊の例で言えば、地域

包括ケアシステムについては、さきの議会で質問しましたが、部長はなかなかボランティアが育ちにくいんだと、こういったことを言っておられました。確かに難しいかもしれません。そういうことで私は非常にこの質問にもう少し時間をかけたかったんですが、これ以上言っても私、あと５問を消化しなきゃいけないんで、この辺でかえたいと思いますが、今後の質問は次回の議会の質問にかえさせていただきたいと思います。

これでこの質問を終わります。

議長（鈴木　悦子君）

続けて２項目めに入ってください。

４番（岡野　鉄舟君）

続きまして、公の施設の管理と指定管理ですが、武蔵の里関連と愛の村パークの質問をさせていただきます。これにつきましては、本年度が２年目です。

そこで、質問の内容なんですが、第１点は、武蔵の里関連と愛の村パークの平成29年度の利用状況はどうかというのが第１点目でございます。

２つ目は、公の施設の設置目的は何か。また、これは指定管理に出すことによって達成できているかということでございます。

そして３点目は、指定管理の評価、モニタリングはしているのかということでございますが、まず３点をお答えいただきたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

公の施設、武蔵の里関連施設、それから愛の村パークについて、まず平成29年度の利用状況についての御質問でございますが、まず楽市楽座など武蔵の里関連施設の利用人数は、前年度比で7,364人の減少で、２万5,589人となっております。愛の村パークの利用人数は、前年度比5,155人の減少で、２万3,328人という状況でございます。

武蔵の里の利用人数の減は、クアガーデンの休止、それから愛の村パークの利用人数につきましては、改修工事による一部休館が大きく影響しております。そのうち愛の村パークにつきましては、基本協定書に基づきまして営業補償について指定管理者から協議を求められておりまして、その方向で調整をしております。

一方、今年度４月の状況でございますが、武蔵の里関連施設の利用人数は、前年度比313人の増で2,056人、愛の村パークの利用人数は、前年度比245人増の2,307人という状況でございます。

次に、各施設の設置目的でございますが、条例に規定しておりますが、楽市楽座は地域産業の振興と都市と地域住民の触れ合いの場、武蔵の里研修センターは、剣道を通じた青少年の健全育成など、健全な研修の場、都市と農村の交流及び観光振興の拠点、それから武蔵の里交流館は、都市と農村の交流、地域の活性化などの拠点、愛の村パークは、地域産業振興、都市と地域住民の交流の場と、各条例に規定をされています。

指定管理者制度は、公の施設の管理運営に民間のすぐれた技術力や経営ノウハウを幅広く活用しまして、住民サービスの向上と経費の削減を図ることを目的としているというふうに思います。

御質問の各施設につきましては、平成28年度までは特別会計を設置しまして市の直営で運営をしておりました。平成28年度の特別会計への繰出金は１億418万5,000円ということで、現在の指定管理料5,333万

3,000円と比較しますと5,000万円以上の赤字削減というふうになっておりまして、指定管理者制度によりまして効率的な運営をしている、そういう状況と考えております。

それから、指定管理業務の評価、モニタリングということでございますが、武蔵の里関連施設及び愛の村パークの指定管理者からは毎月利用実績などの業務報告を受けております。また、平成29年度の管理の実施状況などの事業報告書の提出を受けております。

そして、管理運営業務の実施状況について点検ということをしておりまして、業務報告を指定管理者から受けまして、利用状況やサービスの向上、業務全般などの８つの項目についての自己点検による報告を受けまして、業務の実施状況について点検を行っております。この点検結果を以後の管理運営業務に反映させるよう指導監督に努めているところでございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

２回目の質問をさせていただきます。

まず、利用状況なんですが、トータルってなかなか私も全部つかみ切れない部分があるんですが、情報開示があった分と27年の決算数字なんかを見ながら調べましたので、武蔵の里関連施設では、資料館、宿泊、これは交流館を含む、そして楽市楽座の利用者の推移についてちょっと整理をしてみました。平成27年から29年度にかけて、まことに減る一方であります。一概に、先ほどはクアガーデンの閉鎖に伴うといったことを言われましたが、必ずしもそうじゃないと思います。資料館につきましては、対前年1,604人減っております、平成29年度ですが。宿泊、交流館を含むでは1,206人の減です。楽市楽座が大きいですね。29年度が3,203人であります。この原因をどう考えていらっしゃるかというのが第１番目の質問でございます。

２番目の質問でございますが、評価、モニタリングをしているということでございますが、指定管理者と事業実績をとったりいろいろする中で、共立メンテナンスと話をされていると思うんですが、まずお聞きしたいのは、共立メンテナンスのモチベーションは一体何と感じられましたかと。そして、このモチベーションに対してどのようなインセンティブを与えられたかというのが２つ目の質問でございます。

そして、３番目の質問でございますが、武蔵の里交流館の施設の中で、私は使ったことはないんですが、茶室棟と農産物加工棟があるように条例上ありますが、平成29年度の利用実績はどうなっているでしょうかというのが３点の質問でございます。

議長（鈴木　悦子君）

答弁は、10分休憩の後にお願いします。

これより10分間休憩します。

午後１時55分　休憩

午後２時08分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

２回目の答弁からです。

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

２回目の御質問でございます。

まず、１番の利用状況についてですけど、確かに平成27年度の武蔵の里関連施設の利用状況、27年と28年を比較しますと、28年度では前年に比べ4,152人の減と、29年度は先ほども申し上げましたように7,364人の減となっておりますけど、この28年のちょうど10月からクアガーデンを休館にしたということで、その影響が大きいものというふうに考えております。

それから、評価、モニタリングということで、共立メンテナンスがモチベーションというあれですけど、共立メンテナンスに方針をお聞きしておりますけど、１年目は基盤づくりということで、勤務シフトの効率化であるとか、利用しやすい価格設定をしていくといった取り組みをしていくと。２年目は、営業に力を入れていくというふうに方針として聞いておりますので、その方向で指導をしてまいりたいというふうに思っております。

それから、３番目にありました武蔵の里交流施設のその施設のことでございますけど、条例を見ますと、茶室と宿泊棟、事務所、研修棟、それから農産物加工棟というのがございますが、この研修棟と農産物加工棟といいますのは、ここが複合施設でございまして、総合支所のほうで管理をしておる施設で、指定管理として宿泊などに利用する部分とは分けて管理をしております。

そういうことで、茶室でございますけど、茶室のほうはその宿泊関係ということで、今利用状況を聞いてまいったんですけど、ほかの部屋がいっぱいになったときに食事とか宿泊ということで利用しているということで、利用回数で言いますと月平均１回程度という状況でございます。精査してまいりたいと思います。よろしくお願いします。

〔４番岡野鉄舟君「加工施設は」と呼ぶ〕

ちょっと支所管理なものですから、加工施設の数字については、ちょっと今把握できておりません。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員、３回目です。

４番（岡野　鉄舟君）〔質問席〕

利用者が減ったのは、あのクアガーデンの関係と言われたんですが、私はそれを否定するわけでないんですが、私なりに現地に何回も行っております。やはり例えば資料館であれば、あそこに宮本武蔵の分を見に来るという人がいらっしゃるわけですから、例えばそれをＰＲするとか、それから宿泊も兼ねてやるというようなことをすれば、人件費１人分ぐらいは捻出できたと思います。そして、今もできると思います。

楽市楽座は、私も何回も行きました。僕は農業は経験はないんですけど、不思議に思ったことが１つあります。品物が要するにないわけです。しかもあっても天気のいい日に外に出してない。中にしまってあるという、例えばそういうことがあれば、売れませんわね。ないと当然売れないんですが。

ともあれ、資料館、宿泊施設、楽市楽座とか、要するに観光客が増えないといけないということが基本にはあると思います。それは武蔵の里だけじゃなくて、愛の村もあるし、湯郷温泉との連携というようなこともあろうと思いますが、連携というか、その工夫が足りんのじゃないかと思います。

それから、茶室棟は、これは私はお茶をたてて抹茶を時たま飲むこともあるんですが、宿泊じゃないでしょう。これはお茶をたてて、千利休とは言いませんけど、それをするところですよ、泊まるところじゃないでしょう。要するにここの設置目的にも、文化伝統とするわけですから、それが第一できとらんということになろうかなと思います。

そこで３回目の質問ですが、１点だけ、時間がないんで簡単に。簡単といいますか、言いますと、指定管理者制度の目的は、部長が答えられたように、指定管理者が利潤を追求するというのは、そしてその中で経

費を節減してもらうというのは当然です。一番大事なことは、公の施設というのは、条例がある以上、変わらないわけで、やはり行政サービスの向上を共立メンテナンスにやってもらわなきゃいけませんよ。

具体的に申し上げれば、例えば楽市楽座だけを例をとりますと、あれはやはり物を売ってもらわなきゃいけない、いろいろデバイス、工夫をしていただかなきゃいけません。それが条例の中にあるんですが、ほかの武蔵の里交流センターも同じように設置目的があるんです。これが要するに公の施設の設置条例が全然守られてないということは、私は条例を変えるか、あるいはまた、これ変えるということが無理であれば、指定管理者に話をして頑張ってもらうように言わなきゃいけませんよ、評価、モニタリングをする中で。言って、なおかつできなければ、これ条例を変えなきゃいけませんよ。そういうふうに思いますが、部長どう思われますか、要するに選択として。市長、お答えいただけますか。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

条例の話まで出ましたんで、私のほうから答弁しますけれども、おっしゃるとおりだと思います。あの一帯の施設につきましては、大河ドラマ「宮本武蔵」が一つの契機になってできたわけでありますけれども、当時の状況を、自分で担当したわけではございませんけども、近くの出身なもんですから、割と見ておりましたけれども、もうとにかくわんわん人が来るっていう状況だったんです。駐車場なんかもとにかく広い駐車場があるんですけども、待たないと駐車ができないと、こういう状況の中での設計ができておりまして、その当時のフィーバーの中での発想というものが時代を経て本当に妥当性があるかどうかということも含めて考えないとというのが今の岡野議員の御指摘の中の条例の改正のことかなと思いますけれども、岡野議員のその鉄則というか、人口が減れば人口が減ったなりに縮小しろと、客が来ないなら客が来ないなりに縮小しろというところについても、ある程度当たっている部分もあろうかと思いますので、先ほどおっしゃったところは今後の検討のための重要な示唆というふうに考えさせていただきたいと思います。

以上です。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

もうこれ終わります。

議長（鈴木　悦子君）

じゃあ、３項目めです。

４番（岡野　鉄舟君）

３項目めの、もう時間がありませんので、放課後児童クラブに移ります。

放課後児童クラブは、御承知のように３年目に入っております。指定管理者の方もなれられた時分で脂の乗った時期じゃないかなとは思っておりますが、質問を３点いたします。３点といいますか、順次申し上げます。

資格を持っている支援員の確保はできているのかということが１点目。

それから、３年間、27から29年の登録児童者数と利用者数についてでございます。

それから、放課後児童クラブについては条例が２つございます。その中の基準条例の中で、保護者及び地域社会に対する説明が義務づけられているんですが、これがなされたかどうか。

そして、３つ目でございますが、放課後児童クラブの評価公表はどのようにされたかということ。

そしてその次は、当然一番安全・安心には大事なことなんですが、避難及び消火訓練はいつ実施したかということ、その５点についてお答えいただきたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）〔登壇〕

放課後児童クラブの運営の現状についての御質問にお答えさせていただきます。

まず、１つ目の資格を持っている支援員の確保はできているかの御質問ですが、資格を持っている支援員の確保につきましては、県が行う認定研修を受講し、支援員認定資格を取得している方が指定管理のクラブでは16名おられ、各クラブに配属されています。今後も資格取得者を増やしていく計画と聞いております。また、民間の補助金交付クラブにもこの資格を取得している方が２名いらっしゃいます。

それから、２つ目の27年度から29年度の登録児童数と利用者数の御質問ですが、月によって変動がございますので、毎年度の４月の登録児童数及び利用児の数は平日の１日平均数をお示しいたします。指定管理９クラブの登録児童数は、27年度が419名、28年度が428名、29年度が371名となっております。平日の１日の利用者の平均数ですが、27年度が228名、28年度が271名、29年度が202名であります。補助金のクラブの29年度の４月の登録児童数は30名で、平日の１日の利用者数は20名でありました。

保護者及び地域社会への放課後児童健全育成事業の説明はいつされたのかということですが、毎年度、小学校入学前の学校保護者説明会で、事業の目的、利用の方法等の説明を行っております。また、地域の行事へ参加させていただいたり、地域団体から訪問いただくなどの機会を持つ中で、地域の皆様に事業について御理解をいただいているというところでございます。

それから、４番目の運営内容の評価、その結果はいつどのように公表されたかということですが、指定管理クラブでは、実績報告時に管理運営業務の評価項目を設けて、点検と評価を行っております。これに加えまして、毎年度、利用者アンケートを保護者に指定管理者から行いまして、保護者にその結果を公表しておるというところでございます。

それから、５つ目の避難及び消化に対する訓練は定期的に実施するようになっているが、29年度はいつ実施したかという御質問ですが、指定管理のクラブにつきましては、年間を通じまして地震避難、火災避難、不審者対応等の訓練をクラブで合計延べ20回行っております。それに加えまして、補助金のクラブでは、年間を通して４回実施しておられるということでございます。

以上です。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

４点、２回目の質問させていただきます。

資格を持っている支援員の中でについてなんですが、今議会、基準条例第10条第３項について一部条例が出ておりますが、これが施行された場合に、現在の支援員の資格に影響が出るのではないかという質問が１点目です。

２つ目でございますが、利用者数については、先ほどの各年度の４月時点の平日１日平均数は27から29にかけて228、271、202と、こう大体同じ程度なんですが、情報開示がありましたこの３年間の利用者数は、この３年間の中で５万1,908人、それから４万5,564人、４万3,203人と減り方が非常に激しいですが、これはどのように考えたらよろしいでしょうかというのが２つ目でございます。

そして、３つ目でございますが、28年度から29年度にかけて2,332人減っております。増加クラブが４、減少クラブが５クラブ、減少しているクラブでは、ダンボが2,067人で最も多いんですが、その内訳は平日が1,805、土曜日が△262なんですが、これはどういうふうに考えたらいいでしょうかというのが３つ目です。

４つ目なんですが、美作市には待機児童はいるんでしょうかどうかということでございます。

以上、お答えください。

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）〔登壇〕

資格を有する支援員の今議会への条例改正の影響ということですが、資格要件が１つは教員の免許を有しておる方ということで、講習を受けてなくても免許証を有しておればいいということが１点と、もう一つは高校を卒業していなくても５年間勤務で市長が認めた支援員ということであれば県の講習を受けるということの改正になっておりますが、いずれにしても要件が緩和されるということで、支援員の確保に向けてはいい方向に展開したかなというふうに思っております。

それから、２番目と３番目の御質問、同じ内容だと思うんですが、１つの要因とすれば児童数の減少というのがあるかと思います。特に放課後児童クラブにつきましては、主の利用が低学年になりますので、そういったことで低学年の児童数の減少というのが影響しているものというふうに思います。

それから、ダンボの減少が一番多いということですが、御承知のようにダンボの近くに、先ほども説明しましたが、民間の補助金のクラブができており、そちらのほうに登録されて、そちらのほうを利用されてるという児童さんがおられますので、当然ダンボのほうの利用者数は減ってくるということになります。

それから、待機児童ということですが、特段そのことについての事実というものは確認しておりません。

以上です。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員、３回目です。

４番（岡野　鉄舟君）

待機児童のことについてお聞きします。

直近なんですが、私の耳に入りましたのが、オレンジハートに入りたいんだけども、現在ではなかなか多くて入れないと。ダンボを勧めたんですけども、ダンボは行きたくないと、そういって言われた学童といいますか、保護者の方がいらっしゃるということを聞いておりますが、このことをどう考えられますかということなんですが。つまり仄聞したことだけを言えば、何かダンボが非常に嫌だという思いは何が原因があるかなというふうに聞いているんですが、このことを部長はお聞きになっていらっしゃいますか。そして、ないとしても、これはどういったことが原因があると考えられますかというのが３回目の１つだけの質問です。

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）〔登壇〕

そういったお子様がいらっしゃるということは聞いております。その対応につきましては、再度その施設の１人当たりの利用の基準面積というものがございますので、再度施設のほうの面積の基準というか、建物の広さの再確認をしてくださいと、再度担当のほうにそういった御確認で御協議のほうをしてくださいとい

うことでお返事は返しております。

それから、もし万が一、それでも面積が足らない場合につきましては、県なり国の補助金がございますので、そちらのほうで対応ということも今後進めていかなければならないというお返事はさせていただいているところでございます。

なぜ、じゃあダンボがいけないかという理由につきましては、同じ放課後児童クラブの目的を目指す、どちらも施設でございますから、そういったことを保護者の方がおっしゃられるというのはなかなか我々のほうでは理解できない、同じ保育を、子どもさんを預かる施設としてはどちらの施設もふさわしい適切な施設というふうに考えておりますので、御理解いただきますようによろしくお願いします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員、総括ですか。

４番（岡野　鉄舟君）

初めての総括をさせていただきます。

保護者の方と先般も電話でお話をしたんですが、その方は社協でも子どもさんを預けられ、この共立メンテナンスにも預けていらっしゃる方なんですが、こういったことを言っておられました。社協のときとそれから共立メンテナンスでは、いろいろ問題といいますか、課題があって、そういう経験をされているお母さんなんですが、初めて共立に入られた方々がざっと岡野さん見たり聞いたりしてみて、なかなか疑問に思われてない、これが当然だなというふうに思われているんかなというようなことも言っておられました。それを聞いて、私が危惧しておりますのは、箱物と同じように、これは箱物ではありませんが、放課後児童クラブは、やはり行政のほうが一つのミッションといいますか、それを考える中で放課後児童クラブはこうあるべきだという視点を絶えず持っておいていただかないと、保護者の方っていうのはどうしてもなれていらっしゃると、その課題に気づきにくくなっているという現状があるというのを感じました。今回はその感想だけ述べさせていただきます。

これ終わります。

議長（鈴木　悦子君）

じゃあ、次の４項目めに続けて入ってください。

４番（岡野　鉄舟君）

４項目めですが、土地の所有者不明問題でございます。

第１点は、土地の地目ごとの所有者不明件数とその割合。

それから、２つ目の質問でございますが、実際、固定資産税課税業務の中で死亡者課税、それから課税保留、所有者居所不明による課税保留と、同じく所有者居所不明と死亡課税に係る不納欠損がどれくらいあるのかということでございます。

そして、本来であれば教育長に質問をお願いするんですが、どなたが答えられてもいいんですが、土地の所有者不明化問題の学習の場の提供が、昨今の国においては不動産の登記制度を変えたりとか、いろいろ動きがございますが、この隘路をやはり市町村の中でも研究していくためには、これがやはり必要ではないかなというふうに思っておりますので、この辺のことをどう考えていらっしゃるかということを１回目の質問としてお聞きしたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）〔登壇〕

それでは、岡野議員の１回目の質問に答えさせていただきます。

項目４の土地の所有者不明化問題についての御質問の１ですが、固定資産税の課税においての所有者不明土地の状況についての御質問ですが、土地については所有者が美作市内に所有する土地の合計課税標準額が30万円未満の場合、非課税となることから、所有者の不明についての把握は固定資産税の課税が発生する土地についての状況となりますので、御了承ください。

美作市の土地の状況といたしましては、平成29年度の固定資産税の地目ごとの課税状況ですが、地目、田の総筆数は３万7,097筆で、うち免税点以上の固定資産税の課税対象の筆は３万204筆、畑は総筆数２万5,752筆、課税対象が１万9,876筆、宅地が総筆数４万4,389筆、課税対象が３万7,567筆、鉱泉地が総筆数、課税対象ともに４筆、池沼が総筆数476筆、課税対象が51筆、山林が総筆数７万1,784筆、課税対象が５万376筆、牧場が総筆数26筆、課税対象が14筆、原野が総筆数１万5,788筆、課税対象が１万662筆、雑種地が総筆数１万6,009筆、課税対象が9,288筆の状況でした。

うち、所有者に納税通知書を送達し、不明で返送されたものは調査し、相続人などに再送付しますが、平成29年度で納税通知書１万8,875通、うち45通の居所等の不明等でありました。その土地の筆数は合計261筆であり、そのうち、田は48筆、畑は34筆、宅地は35筆、鉱泉地はゼロ筆、池沼は２筆、山林は85筆、牧場はゼロでした。原野は25筆、雑種地は32筆の状況でした。全体で言いますと、課税対象総筆数15万8,042筆の0.17％の状況です。

質問２ですが、平成28年度決算における固定資産税の不納欠損処分240件のうち、地方税法第15条の７第１項第１号に該当する滞納処分できる財産がない場合によるもののうち、死亡者課税に係るものが67件でありました。また、同法同項第３号に該当する納税義務者本人の所在及び滞納処分できる財産がともに不明であった場合によるものが７件でした。

次に、２番の土地の所有者不明化問題の学習の場の提供についてですが、生涯学習や義務教育においての学びの場の設定として、例えば高齢者大学や生涯学習講座において、固定資産の管理や相続、法律などのさまざまなテーマでの学習機会をこれまでにも設けております。御質問にありますが、土地問題に対する学びに限らず、これらの地域での生活に密着した学習については、住民のニーズ、要望を聞きながら今後も計画的に実施していきたいと考えております。

また、学校教育においては教育課程にはありませんが、社会の中にある課題に気づく視点、多面的な見方、探究する態度を身につける中で育まれるものと考えております。

以上です。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

２回目の質問をさせていただきます。

まず１点、難しいかもしれませんが、土地の所有者不明化問題の原因はどこにあるというふうにお考えでしょうか。

２つ目でございますが、先ほど言われた所有者不明の筆数の261筆と死亡者課税67件との因果関係がちょっとわからないんで、これを教えていただきたいと。

それから３つ目ですが、所有者居所不明や死亡者課税に係る課税保留と不納欠損処分の件数は今の答えだとなかったんですが、ゼロと考えていいでしょうかということです。

そして、その教育の問題との絡みですが、先ほどは高齢者大学や生涯学習等において固定資産の管理、相

続、法律などのテーマのをやっていると言われたんですが、私も勉強してみたいと思いますので、どこに行けば勉強できるのか、実施場所と既にやっておられたら、その回数を教えていただきたい、２回目でございます。

〔14番尾髙誉久君「議長、数字的なことを言よんじゃけん、免税点以上というたら、免税点入るよ」と呼ぶ〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員が質問されて、質問者は……

〔14番尾髙誉久君「答弁が違うとるから訂正をちょっと入れたほうが、免税点以上というの、免税点を除くだったらいいけど、免税点以上というたら全部入っとんじゃねん」と呼ぶ〕

岡野議員、先ほどの答弁でいいんですか、今、尾髙議員が指摘をされているんですけども。

〔14番尾髙誉久君「向こうが答弁せにゃあいけん、答弁が違うだろうという」と呼ぶ〕

いや、もうそれで了解されているかどうか。

〔14番尾髙誉久君「了解じゃのうて違うじゃろう」と呼ぶ〕

〔３番岩﨑清治君「休憩しましょうや」と呼ぶ〕

暫時休憩します。

午後２時40分　休憩

午後２時48分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

答弁からです。

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）〔登壇〕

まず、１点目の不明化の問題は何かということでございますが、このことは土地の評価というんですか、価値がだんだん下がっているということで相続人の方がなかなか相続をされてないという現状が一番大きいと考えられます。

また、261筆の送達されなかった筆についてでございますが、それに対する不納欠損の件数が合わないということでございますが、そのことについては不納欠損の中に公示送達を実施した納税義務者の居所不明が含まれており、そういった現状が起きております。

また、課税保留についてでございますが、これは課税保留というのは納税告知が保留することになるわけでございますが、法人などで法定代理人の不存在、それから相続財産管理人の不存在及び清算人の不存在とかで回収不能の場合と考えられます。そういった場合には、課税保留となっております。

以上でしたかね。

〔４番岡野鉄舟君「ちょっと、課税保留とそれから不納欠損の件数はあるんですか、ないんですか」と呼ぶ〕

課税保留の件数はあります。

〔４番岡野鉄舟君「あるの」と呼ぶ〕

その件数はあると思いますが、今把握をできておりません。

〔４番岡野鉄舟君「261筆とその死亡者課税67との関係、答えられた」と呼ぶ〕

議長（鈴木　悦子君）

先ほどの答弁漏れを先にしてください。

市民部長（角南　良雄君）

261件の45通の送達できなかったものがあるわけですが、その中に261筆あります。不納欠損については、67件と７件で73件あるわけですけれども、それがなぜ多いかというと、不納欠損の中に公示送達を実施した納税義務者居所不明のものが含まれているということでございます。不納欠損の中にその公示送達できなかったものが含まれているということでございます。

私からは以上です。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

高齢者大学等でぜひ受講したいという御希望でございますが、高齢者大学につきましては、６地域、英田、美作、勝田、大原、作東、東粟倉、全てにそれぞれ高齢者大学ございまして、各大学で年間８回から10回の講座を設けております。これにつきましては、まずはそれぞれの大学に御入学いただくということが前提となります。

また、生涯学習講座におきましても、これは御自由に参加していただけるわけですが、例えば大原公民館等におきましてニーズがあったものをしております。今までの例で申し上げれば、例えば29年では私の生き方ということで終活に向けての生き方であったり、あるいはナンバーカード、介護保険等もそうした相続とか法律とか、そうした管理につきましてのさまざまな大きな話題で、これ数えますと年間一、二回ではございますが、それぞれの講座で実施しておりますので、ぜひこうしたものを見ていただいて、また御受講いただければ幸いでございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員、３回目です。

４番（岡野　鉄舟君）〔質問席〕

３回目。死亡者課税は、その税法上は無効であると思うんですが、ただ現実にあるということは、その地方税法上の根拠があると思うんですが、この辺はどういう整理をされているかというのが３回目の質問でございます。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）〔登壇〕

死亡者課税については、死亡された方の相続人であったり、財産管理人を調べさせていただいて課税をするようにしております。

以上でございます。

〔４番岡野鉄舟君「その税法上は、要するに例えば何条とか、その辺はどうですかっていう」と呼ぶ〕

そこはちょっと把握しておりません。今現在把握しておりません。口頭ではなかなか言えません。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員、総括です。

４番（岡野　鉄舟君）

総括します。

これは今最近新聞等で問題になっておりますように、原因はやはり相続登記制度が任意であるということと、各土地台帳間の連携がないという、こういったことが大きくあると言われております。これはやはり国に待たなければいけないんですが、できることは地方自治体でしていくということが大事かなという、私も勉強した限りでは思っております。

以上、総括にかえます。

次の５点目の質問に入らせていただいていいですか。

議長（鈴木　悦子君）

どうぞ５項目めに入ってください。

４番（岡野　鉄舟君）

財政シミュレーションについてなんですが、御承知のように予算審議に際して、事業実施の是非、あるいは事業実施の可否、事業実施時期などを判断する場合の基本的な資料でありますが、これは現在作成されているのかどうかなど、現状をお尋ねいたします。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）〔登壇〕

岡野議員の財政シミュレーションについての御質問にお答えをさせていただきます。

財政シミュレーションは毎年度作成しておりまして、平成29年度で申し上げますと、財政の総点検第４版でございますが、27ページに今後の収支見通しとして掲載をさせていただいております。

具体的な事務作業でございますが、毎年度決算終了後に各課から収入見込みと計画している普通建設事業、臨時的に行う大規模事業について資料の提出を求め、向こう５年間の財政推計を行っております。収入につきましては、普通交付税の割合が非常に高いので、算定の基礎となる人口、都市公園の面積、公債費に算入される元利償還金などの基礎数値の動きを推計することが重要になってまいります。

歳出面におきましては、新市建設計画、過疎計画など、他の計画との整合性をチェックし、また普通建設事業全体の平準化について調整を行い、財政シミュレーションを行っております。

もちろん事業実施の是非、実施時期、そして部署間の事業調整などの検討も加えまして、将来の財政運営に支障を来さないように配慮した作成ということにいたしておりますので、よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

２回目の質問をさせていただきます。

私も第４版を持ってきております。27ページがあります。これは冒頭、僕は人口の問題をお尋ねしましたが、これはやはり行政活動、それと企業活動のもう根本の根本であるというふうに申し上げたわけなんです

が、例えばこの27ページの中で、29年度から34年度まで人口減を何人見込んでいらっしゃるかというのが２回目の質問でございます。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）〔登壇〕

議員が御質問の人口の減少率ということでございますが、この場では地方交付税の額ということで推計をさせていただいております。人口まで掘り下げずに全体で伸び率というのを減にしていきまして、推計をさせていただいておるということでございます。まことに答弁として成り立っておりませんけども、それでよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

何といいますか、少し愚痴も言いたくなるような感じなんですが、それ部長、それはシミュレーションになってませんよ、第一。これ見てください、この歳入の。その質問する前に前提をなぜ今の人口減が見込んでないというのがおかしいという話をいたします。

まず、市税を見てください。これは住民税で当然あります。それから、地方交付税は御承知のように基準財政需要額から収入額を引いたものです。需要額の中には単位事業掛ける人数があります。収入額は今言いましたように、その人口と関係があります。それは全て人口と関係があるわけです。

それからもう一つ、歳出の関係で、28ページに推計の考え方と書かれて、時間を見ながら言わなきゃいけないんですが、書いてあるんですが、市税、地方交付税、それから同じように問題なのは、普通建設事業費について、最後の(6)のところへ主な普通建設事業と書いてあるんですが、シミュレーションと言われるものであれば、普通建設事業費は29年から34年まで事業項目ごと、財源ごとの積み上げがなければいけません。これは行政がやっているよという一つの理屈としてできとるもんと言わざるを得ない。

それからもう一つは、補助費等の考え方なんですが、当然下水道、それから上水道に対する繰出金が入ってるわけなんで、公営企業がどういった状況かということがこれから出てこないと、補助費等で。例えば下水に約二十三、四億円ぐらい出しているわけですが、どういったことで何で23億円を出すかということがわからないじゃないですか。それから、物件費であれば、委託料です、委託料が増えます、指定管理に出せば委託料が増えます。債務負担行為で５カ年をやれば、10年間をやれば、それだけ物をデリバリーというか、張りつけをしなければ見込みが立たないじゃないですか。そういった意味で、部長は先ほどわからないと言われたんですが、歳入についてもしかり、歳出についても同じように、これでは私も議会でこれがいいのかどうかって判断ができないです。

そこで、３回目の質問ですが、これでやはりシミュレーションは崩れたことになりますけど、一体このことをどう思われますか。シミュレーションをしていると言われるんですが、例えば滋慶学園がいいのか、例えばです、そういうことが判断できません、過去においては。過去にはなかったんだろうと思います。この27ページが同じように１版、２版ではあったんだろうと思うんですが、この辺のお考えを３点目の質問としてお聞かせください。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

財政の推計その他については、多分岡本部長より私のほうが詳しいんで、お話し申し上げますけれども、幾つか論点がございましたが、まず人口について。人口に敏感に触れる指標についてはそれなりにカウントされるべきであります。ただ、基準財政事業等に係る人口については、たしか５年に１度の国調ベースで動いていきますんで、毎年毎年のことでかえるというのは議員おっしゃったけど、誤りでありますんで、それは御訂正をまずいただいておかなければなりません。

一方で、個人住民税その他については、人口推計を待つまでもなく、一定のトレンドが反映されますんで、したがって先ほど部長が言ったように、トレンドの中で人口の増減についてもある程度は妥当な形で加味されているということでございます。

さらに申し上げますと、こういった推計方法については、私どもが必ずしも独自にやっているわけじゃなくて、岡山市でも似たような方法をとっておりまして、もちろんこれが完璧だと申し上げるつもりはございませんが、御信用ならないというんであれば、それでも結構なんですけども、よりよい方法があれば財政については非常に通用されている議員のことでございますので、ぜひ御指導を賜れば、我々としてもその御指導に従って直すべきところがあったら直していこうと、こういうことになるというわけであります。

そこまでお答えしますと、どう思うんですかというと、我々としては職員の人数の制限とかいろんなものもある中で、例えばかつてで言うと、こういったものが一般に公開もされていなかったわけであります。財政のシミュレーションみたいなものはやっていたけども、それにまつわるさまざまな諸問題、例えば下水はどうなっているか、あるいは公共事業はどうなっているかと、トピックス的に毎年取り上げておりますけども、そういった形で市民の方々に見えるような情報公開もされてなかったということもまたあります。したがいまして、今の議員の御疑問については、情報公開したことによる効果の一つだろうかなと思って、前向きに捉えたいと思います。

終わります。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員、どうぞ。

４番（岡野　鉄舟君）

総括です。

私も普通交付税のときにヒアリングをしたことがございます。人口についてもしたことがございます。先ほど部長が言われましたけど、まず一番いけないのは、予算審議の前に例えば今議会で長期包括運営業務とか、そういった契約が出とりますが、歳出予算が義務化される、上限は決まればそういうふうになるわけです。例えばそういったときには、委託料は物件費の中に増えてくる、そうするとこれがここの中にもう一回物件費がオンされるわけですよ。おのずから例えば32年には交付税一般算定でここではどうぞこうぞ間に合うんですよと、こうなっているんですが、税収の動きと交付税の動きによっては、これはもう全く当てになりません。そういった意味で、条件設定は停止条件つきであるべきだと思います。しかも条件は１案だけじゃなくてせめて２案、これをやるべきだろうと思います。

それから２つ目は、普通建設事業費は年度ごとに事業名、財源ごと、それをやるべきです。補助費等の中の繰出金についてはやはり公営企業の考え方は人口の考えがあります。市長が言われたように有収水量、売れる水がどうあるかということが物すごく関係しているわけです。それをこれはたまたま６年ですが、例えば10年のスパンで見るとか、そういったことをやらなきゃいけないと思います。やはり大事なことは、私も議会に予算審議の前にこれを例えば全員協議会の中で説明するとか、それで議員の質疑をいろいろ意見交換をすると、そういう場を絶対にやってほしいということで、総括にかえます。

議長（鈴木　悦子君）

続けて６項目めに入ってください。

４番（岡野　鉄舟君）

最後の質問でございます。

４月１日にオープンしました美作市スポーツ医療看護専門学校に係りますオープンスクール期間中の参加者数、それから２つ目の質問は、定員に対して入学者が少なかったと聞いておりますが、学科ごとの入学者数と入学者が少なかった理由、そしてそれに対して補助金を十数億円も借金をしてまで出しているわけですから、今後どのように考えるかという、まずその３点についてお答えいただきたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部次長。

企画振興部次長（平田　幸春君）〔登壇〕

岡野議員の６項目めの美作市スポーツ医療看護専門学校についての３点の御質問に御答弁させていただきます。

まず、１点目のオープンスクール期間中の参加者数との御質問ですが、美作市スポーツ医療看護専門学校のオープンキャンパスの実施回数及び参加者数につきましては専門学校に確認いたしましたところ、非公表としているのでお知らせすることはできないとの回答でございました。

次に、学科ごとの入学者数と入学者が少なかった理由の分析についてですが、まず学科ごとの入学者についてですが、４月７日の入学式等における情報となりますが、看護学科、柔道整復スポーツトレーナー学科、介護福祉学科で39名と伺っております。また、日本語学科につきましては、本年10月の開設に向け認可手続中であり、今後認可がおり次第、募集活動を行うと聞いております。

次に、入学者が少なかった理由をどのように分析したかについてですが、美作市スポーツ医療看護専門学校に確認いたしましたところ、岡山県の私立学校審議会において、設置認可を適当とするとの答申が８月３日となり、それ以降に生徒募集に向けたオープンキャンパスの開催や近隣の学校等の訪問などを実施したため、ＰＲ活動の時間が短く、学生募集が難しかったとのことでした。また、日本語学科の認可が10月の見込みとなったことも、４月時点での入学者が少なかった要因の一つと考えております。

次に、３点目の今後の対策との御質問ですが、美作市スポーツ医療看護専門学校が、今後、学生募集をどのように取り組んでいくかを確認したところ、早期からの学校訪問、オープンキャンパスの開催などを考えており、６月にはオープンキャンパス保護者会、特別指定校説明会、業界説明会を開催するなど、重点的な取り組みをすると聞いております。

本市といたしましては、学生が確保されることが重要と考えており、学生確保についての全面的な責任は滋慶学園にございますが、庁舎やその他関連施設に学園のＰＲポスターなどの掲示やホームページ、告知放送、広報紙等への掲載などを行ってまいりたいと考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

２回目の質問をいたします。

今答弁をされましたが、何のてらいもありませんか。オープンスクール期間中の参加者数は非公表としているのでお知らせできないとの回答であったと、まるで他人事じゃないですか。よく考えてくださいよ。美

作市は借金をしてまで十数億円を滋慶学園に出しているんです。そのときに滋慶学園が非公表だからお知らせできないといったことで、そんなことでどうして引き下がれるんですか。市民の方は今テレビを見ていらっしゃいましたら、怒りますよ。直ちに聞くべきだと思いますけど、どう思われますかというのが第１点です。

そして２つ目ですが、私は質問の中で、３つの学科の中でトータルでと言ったんじゃなくて、学科ごとのと、こう言っているんですが、じゃあ看護学科が例えば21名、どこそこが18名とか、その辺のことを聞きたいと言っているわけであります、この辺を。

それからもう一つは、愛の村パークにも何回か家族で行ったりして、あそこの現場の人の意見も聞きました。非常に本気でやっていらっしゃいました。おいしい山菜料理もいただいたわけなんですが、その学生の中で愛の村パークに継続的に宿泊している人というのは、その現場の声として１人であると。５月の憲法の日だから５月３日ぐらいですか、行ったんですが、これは現時点では変わりはございませんかというのが、以上、３点の質問です。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部次長。

企画振興部次長（平田　幸春君）〔登壇〕

２回目の質問でございます。

まず、学科ごとの人数でございますが、まず看護学科につきましては32名と伺っております。それから、柔道スポーツトレーナー学科につきましては７名と伺っております。

それからまた、オープンキャンパス等の人数でございますけども、こちらのほうにつきまして、私も何度も確認いたしましたけども、現時点ではちょっと公表できないということでございましたので、今の時点ではお答えすることができません。

それから、愛の村パークの宿泊者の人数でございますが、私ども１名というふうにはお伺いしておりまして、それが変わってないと思っております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員、３回目です。

４番（岡野　鉄舟君）

３回目の質問させていただきます。

次長、加計学園の獣医学部新設問題の経緯、いろいろ新聞等で聞いておられると思いますが、加計学園の理事長が安倍さんに会ったかどうなのか、こうなのかという、その不誠実な質問に対して中村知事はこう言っておられますね。今治市経由でその補助金を出すんですけど、17億円をストップすることも考えていると。県民の税金を使って出すわけですから、それだけの判断をするということが僕はまともな考えだと思います。それと同じですよ。十数億円に対しての元利償還がどんどん来るわけです。それで、今問題になっているのは、滋慶学園が39名ですか、非常に少ない中でどうやるんですかという、そういう厳しい現状にあるわけですから、やはり非公表ですからというて下がるわけにはいかないでしょう。ちゃんと隠す理由もないじゃないですか、オープンキャンパスが非公表としておりますのでというて。ああそうですかという下がる理由もないと思います。そう思いませんか、次長。十数億円も税金を使っているんです。どうして何の疑問も持たれませんか。僕は非常におかしいと思います。何だったら、十数億円を返せと言ってもいいぐらいですよ、中村知事と同じように。それだけ厳しい感覚でやっていただかないといけませんよ、合併特例債があ

るからどうのこうのというようなことで安易にするんじゃなくて。そう思いませんか。再度の質問です。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

岡野議員のはやる気持ちはわからないわけではないんですけれども、まずどこからその十数億円というのが出たか知りませんけれども、滋慶学園との関係で10億円未満の確かにその支援をし、そして３億円未満の市民負担というのはありますけれども、それがいつの間にか十数億円になるというのはちょっとまずは訂正をさせていただいておきたいと思います。

それから、学校の発展というものは、その入学式のときに浮舟理事長も言っておられましたけれども、初年度の成果としては一生懸命やったものであって、非常にいい人材が採れたという点を踏まえ、加えてやはり今後さらに拡大をしていくんだということで、ぜひ市当局やあるいは議会の温かい理解の中で頑張っていきたい、そのことによって必ず所期の目的を達成をしていきますと、こういう趣旨の御挨拶をいただいたということをぜひ御紹介をさせていただきたいというふうに思うわけであります。

これはある議員の言葉ですけども、よい言霊を持つかどうかということはとても大切でありまして、粗を探すだけみたいな話をずっとしていると、相手の方も若干嫌がってくる、情報の疎通もよくなってくるということでございまして、ぜひ御心配をお持ちであるということを理解しておりますので、滋慶学園の応援にもぜひ議員のお力を頂戴できればと切にこい願いまして答弁といたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

総括。私は重箱の隅をほじくっとるんじゃないです。ちゃんとした二元代表制の中で市民の方がこう思われるだろうことを言っておるだけです。失礼なことを言わんでください。我々はちゃんとそういったことでやっているわけです。ちょうど時間となりました。

議長（鈴木　悦子君）

以上をもちまして通告順番１番、議席番号４番岡野鉄舟議員の一般質問を終了いたします。

ここで10分間休憩いたします。

午後３時19分　休憩

午後３時30分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

続きまして、通告順番２番、議席番号16番日笠一成議員の発言を許可いたします。

日笠議員。

１６番（日笠　一成君）〔質問席〕

議長に発言の許可をいただきましたので、これから一般質問をさせていただきます。

今回は、１では特別な支援を必要とする子どもの支援と地域の活性化対策について、２では交通網の整備について、３では農業振興計画についてでございますが、先ほどの代表質問と重複する部分があると思いますが、前もって通告しておりましたので、予定どおり質問することに御理解をください。

まず、項目１の特別な支援を必要とする子どもの支援と地域の活性化対策についてでございます。

質問の要旨の①は、支援学校の運営、経営方針についてでございますが、前回３月議会までは当計画の運営、経営主体は学校法人日本体育大学と認識しており、同大学の誘致、進出計画と捉えておりました。しかし、最近の情報では、設置、運営とも美作市である、条件を変えれば市立市営の学校を設立するとの方針変更と思われます。現時点までの経緯をお知らせください。

②の学校施設の設置予定場所と既存公共施設、市役所ほかとの調整についてですが、当事業の実施計画作成までには議会の審議、市民の意向聴取、有識者の意見聴取等は必要と思いますので、そのプロセスをお聞かせください。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部次長。

企画振興部次長（平田　幸春君）〔登壇〕

まず１項目め、２点の御質問がございます。特別な支援を必要とする子どもの支援と地域の活性化対策についての御質問でございます。

１点目の支援学校の運営、経営方針についてございます。

現在までの経緯につきましては、これまで当市のみならず、日本全体で増加傾向にある知的障がい、発達障がいなど特別な支援を必要とする生徒への支援の必要性について、文部科学省と問題意識を共有し、意見交換を行ってきたところでございます。また当市は、平成29年に網走市で特別支援学校の設立を行っていた学校法人日本体育大学と地域協定を結んでいたことから、同校と連携した特別支援学校の誘致を目指すこととして、市、大学及び文部科学省との間で検討を進めてきたところでございます。

また制度面では、平成29年度からは当市の要望によって過疎債における対象施設として特別支援学校が追加され、また国家戦略特区など、国の施策の活用を視野に入れながら、特別支援学校の誘致、整備に向けた検討を行ってきたところでございます。こうした中、私立の特別支援学校として誘致するよりも、美作市立の特別支援学校として整備していくことのほうが整備費は過疎債の対象となり、かつ運営費についても交付税の対象となるなど、財源として有利となる可能性を探るほうが得策であるとの指摘が文部科学省よりございました。その際、日本体育大学といたしましては、人材ノウハウの提供や募集などを通じて協力し、その意味で公設民営方式もとるべきであるとの考えに至りました。

このような経緯のもとで、平成33年４月に美作市立の特別支援学校の整備を目指すこととして、平成30年４月から教育分野の専門的知識、見識を有する方３名を嘱託職員として採用し、特別支援学校の整備計画案や教育プログラム案などの検討を進めております。現在、岡山県との協議を行っているところであり、今後、整備計画全体の内容、協議の状況などにつきましては、議会の皆様に御報告させていただきたいと考えております。

また、５月11日に日本体育大学の今村常務にお会いし、美作市立の特別支援学校の計画概要を説明し、設立に向け協力していただけることも確認できました。

次に、２点目の学校施設の設置予定場所と既存公共施設との調整についての御質問ですが、特別支援学校の設置場所につきましては、以前からお話をさせていただいておりますとおり、作東総合支所、教育委員会の事務所がございます作東総合支所、作東バレンタインパークで検討を進めております。

本事業の実施計画策定に向けては、特別支援学校整備計画案を検討しているところであり、岡山県教育委員会の内諾を得るべく協議を行っているところでございます。今後、整備計画全体の内容、協議の状況などにつきましては、議会の皆様、市民の皆様へお知らせしてまいりたいと考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

日笠議員。

１６番（日笠　一成君）

支援学校の運営、経営方針等についての２回目でございます。

当学校の設置は、発達に異常のある方々に対する自立支援に資することは大事であり、有効なお考えと思います。施設整備費は過疎債の対象になったとのこと、大きな成果だと思いますので、公設については理解できます。しかし、我が市の予算の規模は平成30年一般会計予算案は193億3,000万円で提案されております。この規模の自治体で、しかも財政指標のうち経常収支比率については、平成29年度分は未公表なので平成28年度分を見ますと89.3％と、前年度に比べ0.7ポイント悪化している、このような財政の状況下で、果たして学校経営が持続できるのかが心配されます。健全な財政状況で運営、経営を行うためには、入学者等の継続的、安定的な確保が必須です。確保対策についてのお考えをお知らせください。

２番の学校施設の設置場所と既存公共施設との調整についてですが、作東地域では中心に位置する江見地域の活性化を図る必要から、旧県立江見商業高等学校跡地の有効活用、利用を希望、期待しております。そんな思いのときに、日本体育学校の誘致を検討されることとなり、要支援者のためになる施設の整備充実は望ましいことであり、相乗効果で地域が活性化することを大いに理解をしております。しかし、特別支援学校の設置場所は作東総合支所、バレンタインパークで検討を進めているとのことです。位置の選定経緯等を含めた説明を議会、関係する団体、組織、個人にして、同意を得る必要があると思いますが、いかがでしょうか。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

日笠議員の２回目の質問でありますけれども、御案内のとおり、私ども財政がそんなに太いわけじゃないと、これはそのとおりでありますが、先ほどの答弁にもあったように文科省は非常に一生懸命に検討してくれた結果、市立の形をとることによって、一つには国の法律が別途ありまして、正規の教職員については国が県に対して交付税を追加交付をして、そのお金で正規職員、正規の教員が派遣をされるということでありますので、まずそういった点で運営費の大きな部分が国、県を通じて交付をされるというのが１点であります。

それから２点目に、当該自治体に対しても教室数や生徒数などに応じて、支援学校というのはほかにもさまざまな仕事があります。その仕事を回していくための相当の交付税が交付をされるということになっておりまして、その枠内で仕事をすることができれば、市の財政に対する圧迫度合いが基本的にはゼロにし得るということをまず申し上げておきたいと思うんです。

ただし、それにはやはり条件がございまして、校舎があってもだめなんで、教室があって人がいなきゃだめということになりますから、当然でありますけれども、日笠議員の御指摘になるわけです。生徒がしっかり獲得できるようにすれば、今の話が全部成り立つということになります。

したがって、一つのポイントは、過大な見積もりをしないということになるわけでありまして、１クラスが支援学校の場合には８人ぐらいでありますが、それを倉敷であれば10クラス以上持ったりするんですけども、市立ですけども、それがそんなにたくさんのクラスを持たない形で整備をすることが必要だと思っております。この辺のクラス数については、今詳細な検討がされておりますが、ある程度少ない数で調整をすることによって今の問題が何とか可能になってくるというふうに思っております。

ただし、その需要想定があったとしても、ほかの学校のほうが魅力的だということでは、これはよくないわけであります。したがって、ほかの学校よりもこれは魅力があるなという特色のある教育というものをしっかり導入をしなければなりません。そういう意味で現在、平田次長のところで行っていただいている研究、検討につきましては、なかなか、私はせんだって文科省に行って説明をしてきましたけども、文科省から見てもそれは非常に妥当性が高いねと、意味があるねということで認識をされるような話になってございます。

具体的に言いますと、まず学校の出口というんですか、卒業してからどうするんだということを強く認識をする。つまり卒業していった後、自立ができるような姿をつくっていく。そして、場合によっては進学もあり得るというような鍛え方をさせたい。そのために例えば草刈りを中心とした作業、毎朝のスポーツ、福祉の活動、芸術、物づくりといった、社会的に自立ができる人格づくりを、あるいは体力づくりを強く意識した教育課程を編成、実施すること。

それから２番目に、寄宿舎を設置をすることを前提にするわけでございますけども、24時間を通じた全人教育というものを行う中で、社会生活や職業生活に生かせる、社会に通じた人間性を養う。この寄宿舎のアイデアの中に、生徒たちが地域の方々を相手としたショップ活動というんですか、カフェを行ったりするということ、そういった活動も含めて考える。

そして次に、その話の延長線上ですけども、地域の方々に本当に例えば絵が得意な方とかいっぱいいらっしゃいます。そういった方々にも含めて地域の方々の支援というものを活用させていただくということを基本方針とするんです。この効果が結局発達障がいとの関係で言うと、社会との結びつき、それも学校の先生だけじゃなくて、普通の方々との社会との結びつきを確保するということで知識、技能、態度において世の中で使える形をぜひつくっていきたいというふうなことが骨子になっております。

そしてもう一つは、先ほどちょっと進学の話をしましたけども、今支援学校を卒業した子どもたちは、高等支援学校という名前ではありますけども、高卒の資格が卒業したからといって取れないんですが、できれば資格をつけてさしあげたい。そのために主に発達障がいを中心として考えているんですが、通級でもって、この新しくできる学校を活用していただきながら、別の高等学校の在籍を可能にして、そこで単位を取得する、あるいは通信教育を受けるなどの形で、卒業時には発達障がい、知的障がいに対する十分な支援とともに、高校卒業できるだけの単位、資格が取れるという形にしたいという強い希望を持っております。まだこれについては完全に認められた、県との関係で認められておりませんけれども、文科省と話をした限りにおいては、ぜひそのチャレンジはしてみるべきである、それが日本において新しい道を開くことになるんだというふうに評価をいただいておりまして、そういう意味でこういった学んで意義があるっていう設定をしっかり打ち出すことによって、その需要をしっかり確保していくということが重要かというふうに思っております。

次に、場所の議論でございますけれども、これも議員御案内と思いますけども、私もよく知っているんですが、いわゆる江見商業高校の跡地について、地域の方々が強い関心をお持ちということについてはよく存じておるつもりであります。ただ、これも議員御承知のとおり、21災の影響排除が十分できていないということもございますので、私どもとしてはバレンタインパークでの検討を進めていきますけれども、その状況をベースにしながら今後の検討課題として江見商業をどう活用するかということも次第に芽が見えてくるのであろうというふうに考えているところでございます。

以上でお答えにさせていただきます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

日笠議員。

１６番（日笠　一成君）

①の運営、経営方針については、財政的な不安は払拭すべく努力をしているとのことでございます。

②については、岡山県教育委員会と協議中であり、交渉がとのことですが、交渉が進行途中であっても、適宜県との信頼関係に支障のない範囲で情報を公開して、関係者とのコンセンサス、合意、意見の一致、同意を得ながら実行していただきたい。ぜひとも江見中心地の江見商業跡地の有効な利活用を重ねてお願いを申し上げます。

以上で進捗状況の報告があることを楽しみにして、この項目の質問は終わりますが、市長、補足説明があればお願いします。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

今の御要望のような御質問の中で、地元の方々に対する説明、協議、御納得がいただけるようなお話ということがありましたが、これは大変大切なことであります。今議会でもさまざまな委員からの質問がこの点についてあるというふうに思っております。きょうも山本議員の代表質問、そして日笠議員の質問と続けてありました。私どもとしてはこういった議員の方々の関心の深さや、あるいは関心の所在というものも含めて、議会が終了をするころになりますと、たくさんの説明を地元の方々を初めとして、御関心のある方々に対してできる状況に多分なると思っておりまして、具体的にどういう形をとるかというと、既に地元に期成会のようなものがございますし、また活性化のための検討会もあります。そういった方々にも当然説明するとともに、全市を代表する姿であるところの自治振等の場も当然活用しながらお話をする。さらには、本件の問題に大変強い関心やあるいは関係を有している方々もおありなもんですから、その方々に集まっていただくような会もつくった上で、今度はお知恵も頂戴するような形で議論を進めると、多層な広がりを持った議論の場、あるいは納得の場というものをつくっていきたいと思っておりますので、ぜひそういう方にも御参画をいただきますようにお願いをいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

日笠議員、総括です。

１６番（日笠　一成君）

ぜひそのように結局行政の思い込みだけでいくのではなく、地元の同意を得ながらいくことこそが将来にわたる事業の達成、成功につながると思いますので、丁寧な説明をしていただきますようにお願いをしておきます。

議長（鈴木　悦子君）

続いて、２項目めに入ってください。

１６番（日笠　一成君）

項目２は交通網の整備について、質問の要旨は交通弱者対策についてでございます。

作東地域での実証実験の結果、住みなれた地域での生活支援に役立っているとの確証から、対象を市内全域として事業を実施していただくこととなりました。交通弱者対策には必要な施策だと思いますので、さらに利便性の高い事業にしていただくために次のことをお尋ねします。

昨年度と今年度との事業内容の比較、現時点における対象者数と利用申込者数、事業内容の充実方法、方針、その他つけ加えていただけるものがあれば、よろしくお願いします。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）〔登壇〕

日笠議員の質問です。交通弱者対策についての１点目の昨年度と本年度との事業内容の比較についてでございます。

昨年度、作東地域で実施いたしました実証実験では、運転免許を保有している方について、一定の要件に当てはまれば利用者証を交付しておりましたが、昨年度実施しました実証実験における利用者アンケートの結果から、運転免許を保有している登録者の方については、その８割以上がタクシー利用補助制度を利用されなかったという結果となったため、全市拡大の６月１日からは、運転免許を保有していないことを条件に追加しております。

詳細は、65歳以上の方で運転免許を保有していない方、要介護１以上の認定を受けている方で運転免許を保有していない方、身体障害者手帳、療育手帳、精神保健福祉手帳の交付を受けた方で運転免許を保有していない方、特定医療費受給者証の交付を受けた方で運転免許を保有していない方、母子健康手帳の交付を受けた方、ただし出産予定日の３カ月後までの方、運転免許証自主返納カード「おかやま愛カード」の交付を受けた方としております。なお、上限金額、補助率につきましては、変更しておりません。

２点目の現時点における対象者数と利用申込者数についてでございますが、全市に拡大するに当たって周知する方法として、昨年度のタクシー利用補助の対象者につきましては、利用者証を発行した方全員に電話連絡及び申請関係書類を送付し、対象要件の変更点などを説明し、対象になる場合は申請していただくよう連絡いたしました。

その他、拡大により対象となる方への周知は、広報みまさかにチラシを入れ、全戸配布いたしました。また、各地域自治振興協議会などでも拡大の内容を説明し、対象となる方がおられれば積極的に申請していただくよう依頼しております。

対象者数といたしましては、65歳以上で運転免許を保有していない方が約4,400人と見込んでおり、５月末時点の申請者は628人でございます。今後とも継続して受け付けを行っておりますので、申請をお願いしたいと思います。

３点目の事業内容の充実方法、方針につきましては、今回、市内全地域に拡大いたしましたタクシー利用補助利用者に対し、一定の期間御利用いただいた後にアンケートを実施し、データを収集、分析し、他の公共交通への影響なども含め、継続が可能であるかなどを検討してまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

日笠議員。

１６番（日笠　一成君）

交通弱者と言われる方々のうち、施設等には入所しないで、自力で住みなれた地域で日常生活を営むためには必要な施策です。せっかくの施策ですので、対象者には通知漏れ等がないように、ニーズに沿った事業内容に工夫していただけることを期待して、この項目の質問は終わります。

議長（鈴木　悦子君）

続いて３項目めに入ってください。

１６番（日笠　一成君）

それでは、項目３、農業振興計画について、質問の要旨は、農産物の販売収益増対策についてでございま

す。

専業農業者や大規模生産者等は、農産物の販路は大体みずから開拓、確保されておられると思います。しかし、大多数の方々は、生産意欲はあっても、販路、販売方法がないために、自家消費用程度しか栽培されていないのが現状だと思います。せっかく市内には生産基盤、田畑があり、生産意欲の旺盛な方々が多数おられるので、有効活用することが地域の活性化に役立つと思いますが、いかがでしょうか。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

農産物の販売収益増対策ということでございます。担い手農家の方には、農協ばかりではなく、自分の販路を持って生産に取り組まれております。例としまして、農地を細分化して多品種の野菜を栽培し、収穫時期をずらしながら出荷されている農家がございます。年間を通して県外のスーパーや彩菜茶屋、農協などに出荷されまして、安定した収入を得ていらっしゃいます。

また、美作市が大部分を出資している直売所として道の駅彩菜茶屋と彩菜みまさか箕面彩都店がございます。特に箕面彩都店は、開店時には商品を求める方が列をつくり、午後には品薄の状態になっております。営業時間は午後６時までですので、出荷を増やしていただくことが課題ということになっております。ぜひ少量でもいろいろな野菜をつくっていただいて、箕面彩都店へ出荷していただきたいというふうに思っております。農地が小面積でありましても、さまざまな種類や品種の野菜を組み合わせて生産し、気軽に出荷できる直売所の楽しさというものを知っていただきたいというふうにも思います。そして、所得アップや農地保全につなげていただきたいと思います。

なお、株式会社特産館みまさかに対して、市内生産者の手数料を下げていただくよう依頼しており、来年４月から引き下げができるように取り組むというふうにお聞きしております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

日笠議員。

１６番（日笠　一成君）

２回目。株式会社特産館みまさか２店舗のうち、１店舗の販売用農産物は品薄状況とのこと、農業用用地は多く遊休していると思いますのでお尋ねします。

１つは、優良農地が有効利用されていないのはなぜか。

１つは、箕面店は品薄状態とのこと、その要因は何か、その他で説明事項があれば、よろしくお願いします。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

優良農地が有効利用されていないということがなぜかということでございますが、有効利用されていないことについては、農家の高齢化が進んでいること、それから有害鳥獣による被害で耕作意欲が減衰していることなどが理由となっております。また、所有者が地元に不在で、農地中間管理機構への貸し付け申し込みができていない場合もあります。地元にいらっしゃらない方に対しては連絡先を確認して、農地中間管理機構の利用を紹介しているところでございます。

また、箕面店の品薄ということでございますが、箕面彩都店は午前９時から午後６時まで営業をしております。美作市からの直送便は、第１便が午前６時半ごろ、第２便が午前10時過ぎに到着をしています。商品

到着後に見えるお客様が多く、午前中に商品をよく買っていただいているので、午後は品薄というような状態でございます。したがって、箕面彩都店は、午後も品出しができるような商品の確保が課題になっているというところでございます。

また、特産館みまさかでは、出荷していただく方が常に高齢化してまいりますので、それに応じて常に新しい出荷者を募っているところでございます。まだまだ出荷すれば売れると思いますので、農地を活用して一年を通じて効率よく生産していただき、気軽に出荷していただきたいというふうに思います。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

日笠議員。

１６番（日笠　一成君）

３回といいますか、総括をさせていただきます。

〔聴取不能〕の名称変更などがあるのではとの情報があります。議決された場合は、関係者等にも周知してください。せっかく生産しても、販売できない状態は解消しなければならないという思いでお願いをしました。これからは、販売手数料の引き下げ、栽培の技術指導、有害鳥獣の駆除など、生産意欲を高める施策をさらに推進していただくことを期待して、この項目も質問を終わります。ありがとうございました。

議長（鈴木　悦子君）

質問終わるというて言われたんですけど、いいですか。日笠議員、いいですか。

〔16番日笠一成君「今３回目じゃけど、総括してもらえりゃあ、それはそれでいい。〔聴取不能〕権利はないんかな」と呼ぶ〕

今の３回目だったんですが、日笠議員の今言われたことに対して遠藤部長が答弁があると。

〔16番日笠一成君「４回目だったら総括できるのだめじゃなかったら、やってもらえれば」と呼ぶ〕

４回目じゃないです。３回目ですから。３回目です。

〔16番日笠一成君「３回目でええじゃろう、お願いします」と呼ぶ〕

経済部長。

〔16番日笠一成君「ありがとうございます」と呼ぶ〕

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

済いません、この有限会社特産館みまさかについてでございます。

この会社は、５月31日に開催しました株主総会で定款を変更いたしまして、定款変更の効力が生じた日と、それが本日６月11日でございますけど、本日から株式会社特産館みまさかに商号を変更しまして取締役会、そして監査役を設置した株式会社ということで運営をしていくことになりました。関係者への周知に努めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それから、会社のほうで販売手数料の引き下げや栽培の技術指導に取り組んでいただきます。

また、有害鳥獣の対策については、市のほうで取り組んでまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

日笠議員。

１６番（日笠　一成君）

ありがとうございました。地域の活性化のためにさらなる充実を期待して終わります。ありがとうございました。

議長（鈴木　悦子君）

以上をもちまして通告順番２番、議席番号16番日笠一成議員の一般質問を終了いたします。

お諮りします。

本日の会議はこれで延会したいと思います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。

本日はこれで延会することに決定しました。

本日はこれで延会します。

再開は明日午前10時からです。

午後４時11分　延会

平成３０年６月１２日

（第　　３　　号）

1. 議　事　日　程（３日目）

（平成30年第３回美作市議会６月定例会）

平成30年６月12日

午 前 10 時 開議

於　　議　　場

日程第１　一般質問

2. 出席議員は次のとおりである（18名）

１番	青　山　　慶	２番	和　田　広　宣
３番	岩　﨑　清　治	４番	岡　野　鉄　舟
５番	中　山　忠　明	６番	倉　地　重　夫
７番	重　平　直　樹	８番	安　藤　　功
９番	金　谷　の り 子	10番	岡　本　泰　介
11番	山　本　雅　彦	12番	萬　代　師　一
13番	山　本　重　行	14番	尾　髙　誉　久
15番	岩　江　正　行	16番	日　笠　一　成
17番	内　海　健　次	18番	鈴　木　悦　子

3. 欠席議員は次のとおりである（なし）

4. 地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名（21名）

市　長	萩　原　誠　司	副 市 長	横　山　博　光
教 育 長	大　川　泰　栄	政策参与	山　下　　亨
政策審議監	春　名　利　亮	総 務 部 長	岡　本　和　之
危機管理監	藤　原　陽　二	市 民 部 長	角　南　良　雄
環 境 部 長	宿　野　豊　彦	経 済 部 長	遠　藤　宏　一
保健福祉部長	江　見　　勉	建 設 部 長	真　野　弘　紀
教 育 次 長	山　名　浩　二	消　防　長	皆　木　佳　久
会計管理者	山　本　和　毅	企画振興部次長	平　田　幸　春
企画振興部次長	春　名　信　明	危機管理室長	皆　木　敏　治
森林政策課長	福　永　道　広	くらし安全課長	景　山　二　男
教育総務課長	宮　前　　聖		

5. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名（３名）

議会事務局長	尾　崎　功　三
課　長	坂　元　省　吾
係　長	金　谷　裕　子

午前10時00分　開議

議長（鈴木　悦子君）

皆さんおはようございます。

携帯電話の電源を切っていただきますようお願いいたします。

傍聴者の方は、傍聴規則第８条にもありますように傍聴席にあるときは静粛にしていただきますようお願いいたします。傍聴者の方が傍聴規則が守れない場合は議場より退席をしていただきます。

昨日に引き続き会議を開きます。

議員は全員出席です。

定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

日程第１　　一般質問

議長（鈴木　悦子君）

日程第１、「一般質問」を行います。

それでは、通告順に発言を許可いたします。

通告順番３番、議席番号８番安藤功議員の発言を許可いたします。

安藤議員。

８番（安藤　　功君）〔質問席〕

皆さんにおはようございます。

ただいま議長に発言の許可をいただきましたので、８番安藤が平成30年度６月議会の一般質問をさせていただきます。

冒頭に質問に先立ちまして、本日は午前10時から、現地時間なのか日本時間なのかわからないんですけど、米朝首脳会議が開かれているということで、ちょっと視聴率で負けるのかなと思いながら質問させていただいておりますけれど、あちらは世界規模、地球規模のお話をされるんだと思うんですけど、私は足元の身近な問題について質問をして、ただしていきたいというふうに考えておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

本日５項目の質問をさせていただきますけれども、質問させていただくに当たりまして日ごろよりいろんな文献であるとか新聞であるとか、インターネット上のいろんな書いてあるものを自分なりに勉強し、また読ませていただいて質問に向かうというようなことが多いわけですけど、先日、この６月議会の質問をするに当たっていろいろと調べておりましたら、非常に感動したといいますか、改めて自分自身に気づきを与えてくれた一文がございまして、少しの時間拝借をいたしまして御紹介をさせていただきたいというふうに思います。

これは私の会話ではありませんので、ＡさんとＢさんが会話しているという状況でお聞きくだされればと思います。

その一文なんですけども、ありがとうの反対語など今まで考えたこともなかった。教えてもらった答えは当たり前。ありがとうは漢字で書くとありなしの有に難しいという字です。あることが難しい、まれである、めったにないことにめぐり会う、すなわち奇跡ということだ。奇跡の反対は当然とか当たり前。我々は毎日起きる出来事を当たり前だと思って過ごしている。毎朝目が覚めるのが当たり前、食事ができるのが当たり前、息ができるのが当たり前、友達といつも会えるのが当たり前、太陽が毎朝上るのが当たり前、生ま

れてきたのが当たり前、夫ないし妻が毎日帰ってくるのが当たり前、そして生きているのが当たり前。また、その方がある夫婦の話もしてくれた。晩酌のときいつも無口な夫がちょっとお酌をしてくれないかと珍しく妻に言った。台所の片づけをしていた妻は今忙しいから自分でやってと答えた。夫は少しさみしそうだったが、手酌で酒をついだ。その二、三時間後、夫は急に倒れ、救急車で病院に運ばれ、帰らぬ人となってしまった。それから妻はなぜあのとき夫にお酌をしてあげなかったのかとずっと悔やんだという。あのときなぜもっと優しい言葉で、こぼれるような笑顔で、感謝の言葉で接することができなかったのか。誰しもきょうと同じ日が明日も繰り返されると思う。きょう誰かと出会い、話し、笑い、食事をして仕事や勉強ができる、こんな当たり前だと思うことが本当は奇跡の連続なのだ。有ること難し、生きて出会うという奇跡の連続にありがとうと言わずにいられないというふうに結んであります。

いかがだったでしょうか。こういう一文をネット上でごらんになった方もいらっしゃるかもしれませんけれども、それではきょうこの場で私が質問に立たせていただいている奇跡に感謝をしながら質問を進めてまいりたいと思います。

それでは、５項目のまず１項目めは美作市の子育て支援の現状、今後の方針について、２項目めとして森林環境税について、３項目めで災害時、火災時等においてのドローンの活用について、４項目めとして営農組合について、５項目め、美作市の交通体系全般についてということで、質問を順次させていただきたいと思います。

まず１項目め、美作市の子育て支援の現状、今後の方針についてということで、まず①として産前産後の支援、②として乳幼児期の支援、③義務教育時期の支援、④として美作市の大きな魅力の一つとなるような支援策の充実ということで質問をさせていただきます。

美作市の取り組みとして現在子育て世代、またこれから親になろうとされている方々も含めて、大きい枠、時間的な流れの中での子育て支援に関しての質問でございますが、私もある程度は理解をさせていただいておるつもりではございますけれども、まだまだ理解が不十分なところもございましょうし、30年度の６月定例会ということで、いま一度質問をさせていただきながら確認をさせていただきたいというふうに考えております。

冒頭にも申しましたけれども、まず産前産後のお母様やその御家庭に対しての支援策としてはどのような美作市として取り組みをされておられるかをお尋ねをいたします。

また、乳幼児期の支援としてどのような取り組みを現在されておられるか、お尋ねをいたします。

そして、小学校入学から中学校卒業までの義務教育時期の支援策としてはどのような取り組みをされておられるかをお尋ねをいたします。

最後に、お子様のいる家庭にとって暮らしに直結する子育て支援策は間違いなく非常に皆さんの気になるところであって、国のほうでもさまざまな支援策を講じているところでございます。もちろん美作市も例外ではございませんけれども、自治体の中には独自の子育て支援の制度を充実させているところが非常に多く昨今見かけるようになりました。例えば出産の支援、保育料に関しての支援、医療費の支援、また店舗、施設利用料の支援等々ございます。昨今仕事や環境が許されるならば、子育て移住も始まっていると聞いております。そこで、最後になりますけれども、美作市の大きな魅力の一つとなるような子育ての支援策の充実を今後どのように考えておられるかをお尋ねをさせていただきます。まずは１回目の質問とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）〔登壇〕

改めましておはようございます。

美作市の子育て支援の現状、今後の方針についての１番の産前産後の支援についてと２番目の乳幼児期の支援、３番目の義務教育時期の支援についての市民部といたしましての回答をさせていただきます。

産前産後のお母様やその御家庭に対しての支援策としてはどのような取り組みをなされておられるかという御質問でございますが、市民部では平成29年４月から子育て世帯の経済的な負担軽減に対する対策といたしまして出産祝い金事業を実施しております。内容につきましては、出生時の養育者で父または母、子ともに美作市に居住する方を対象として出生子第１子の場合３万円、第２子５万円、第３子以降20万円を乳幼児健診受診後の申請に基づき支給するものでございます。

２番目の乳幼児期の支援、義務教育時期の支援についてでございますが、既に御承知のことと思われますが、市民部におきましては乳幼児等、義務教育を終了するまでのお子様が病気やけがに伴い処方された薬や医療機関にかかることで発生する医療費の自己負担分につきまして無償とし、子育て世帯の経済的な負担軽減を図っているところでございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）〔登壇〕

失礼します。子育て支援の現状、今後の方針につきまして、保健福祉部の所管事業についてお答えをさせていただきます。

まず、産前産後の支援につきましては、これまでもお子様が生まれたらまず保健師が赤ちゃん訪問を実施し、お母様も含めて健康状態の把握を行い、相談、助言を行ってきましたが、今年度６月から産前から切れ目のない支援を行っていくことを目的に、母子保健コーディネーターを配置し、訪問事業を強化しております。また、産後は家事支援ヘルパーの派遣及び助産師の母乳相談訪問を実施してまいる予定でございます。こうした産前産後のケアの充実により安心して子育てができ、産後鬱予防にもつながるものと考えております。

次に、乳幼児期の支援につきましては、現在もきめ細やかに実施をしておりますが、特に発達障がいの早期発見と支援には力を入れているところでございます。幼児健診で臨床心理士の相談の機会を設けるとともに、昨年度より発達検査を導入し、お子さんの特性を早期に的確に捉え、支援に結びつけるようにしております。また、検査の結果等におきまして早期の支援が必要なお子様につきましては、専門機関の利用をお勧めしているところでございます。現在、就学前の児童が利用する児童発達支援と小学生以上が利用する放課後等デイサービスを併設する事業所が１カ所あり、児童発達支援事業拡大促進事業補助金により運営等に係る経費の一部助成を行っており、障がい児支援施設の整備充実を図っているところでございます。また、本議会に上程の補正予算に計上しておりますが、18歳以下の子どもを対象にインフルエンザ予防接種費用の公費助成を行うことを予定しております。

次に、義務教育時期の支援につきましては、小学校に上がられてからは昨年度より低学年の発達支援教室を実施しております。また、保育園、幼稚園、小学校、中学校と切れ目なく支援ができるツールとして共通支援シートの活用を進めております。

次に、美作市の大きな魅力の一つとなるような支援策の充実につきましては、発達支援につきまして平成28年度より発達支援センターを立ち上げ、保健師、臨床心理士、保育士、教諭、看護師といった専門職を配

置し、支援の充実を図っております。今年度より配置した母子保健コーディネーターも当センターに配置することで、産前から発達支援を含め、包括的な母子支援を行っていく体制を整えております点は他の市町村にはない取り組みと考えておるところでございます。

以上です。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

御質問の子育て支援策につきまして、教育委員会の所管部分をお答えいたします。

まず、経済的な面といたしましては、幼稚園や保育園においては保育料、預かり保育料などの軽減を行い、小・中学校におきましては就学援助事業、遠距離通学費補助事業、ヘルメット購入補助事業などの実施を通しまして子どもの貧困対策としての子育て支援を行っております。また、高校卒業後は、大学、専修学校への進学の機会を保障するために奨学金貸付事業を行っております。保護者への支援といたしましては、幼稚園における預かり保育の実施、保育園における延長保育や一時預かり保育の実施を通し子育て世帯の支援を行っております。今後も国の施策、他市町村の状況、社会情勢等を把握しながら子育て支援に努めていきたいと考えております。

なお、教育委員会といたしまして、児童・生徒の教育支援のためには学ぶための環境整備が重要であると考え、昨日の公明党を代表しての山本議員の御質問にもお答えをいたしましたが、普通教室へのエアコンの設置というのを優先課題と位置づけ、取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

安藤議員。

８番（安藤　　功君）

それでは、２回目の質問させていただきます。

多岐にわたる御答弁いただきましてありがとうございました。

今教育長が申されたように、昨日の山本議員の代表質問、また日笠議員の一般質問と、どうしても重複する部分が多々あるかもしれませんけれども、御勘弁いただきたいというふうに思います。

２回目でございます。

まず、市民部長の御答弁で乳幼児等、義務教育を終了するまでの医療費の自己負担分についての無償に関しての質問でございますけれども、このことについては私も４人の子どもを育てまして、随分助かったわけでございますが、市民からの声はやはり高校修了年齢、18歳未満程度までの無償化を希望する声が多く聞かれております。これはとある医療機関の先生、医師からも同種の希望もお聞きをいたしております。例えばお隣の奈義町ではやはり18歳未満の子どもさんへの医療費を無料とされておるそうでございます。そのあたりについての御見解をお尋ねをしたいというふうに思います。

次に、保健福祉部長の答弁で今年度６月から母子保健コーディネーターを配置し、訪問事業を強化しているとのことでございますが、今までも保健師さんやまた愛育委員さんなどによります訪問事業がございましたけれども、それにプラスして行われるというふうな理解でよろしいでしょうか、お尋ねをいたします。また、その具体的な内容もあわせて御答弁くだされればというふうに思います。

また、美作市は発達障がい児に関しての取り組みは県内では他市町村に比べてもかなり先端を走っているんではないかというふうに私も感じておるところでございますけれども、先ほどの御答弁の就学前の児童と

小学生以上が利用する放課後等デイサービスを併設する事業所が１カ所あるとのことでございますけれども、まず気になりますのがこちらの事業所を利用されるお子様の送迎は保護者でされているのか、また事業所がされているのか、また利用料金や利用規約、利用条件などをお聞きしたいというふうに思います。

また、18歳以下のインフルエンザ予防接種の費用の公費助成ということでございますが、今議会に出されているということでございます。本当に子育て世帯からしますと大変喜ばれると思います。現在でも毎年多くの方々がインフルエンザの予防接種に行かれております。こういったことは今後も継続的に取り組んでいただけるように強く要望しておきたいというふうに思います。

また、教育長の御答弁でどうしても気になりますのが、昨日の代表質問でもございましたが、エアコンの設置事業に関してでございますけれども、私の子どもも通っております中学校の今年度のＰＴＡ総会などで中学校普通教室へのエアコンの設置のお話をさせていただきましたら、保護者初め先生からも大変喜びの声、歓喜の声が上がりました。しかし、その後に続く言葉は、小学校はいつからなんでしょうねとか、特別教室、理科室とか音楽室等はしないんですかねという御質問がございました。当然私はそこで答えられる立場でございませんので、そうなるといいですねというような返事だったんですけど、昨今の気温、気候、気象現象など鑑みたときに、やっぱりそのあたり今後どのようにお考えか、お尋ねをいたしたいというふうに思います。

最後になりますけれども、美作市の今後の政策の参考になればという思いで、子育て支援などの他府県、他市町村の一部ですけれども、取り組み事例を御紹介をしたいというふうに思います。しかし、あらかじめ申し上げておきますけれども、もうこれらを全部やってくださいという意味ではございません。あくまでも御参考にしていただいて、よりよい美作市の支援策につなげていただければという思いで御紹介をさせていただきます。

例えば、和歌山県高野町では保育園から中学校までの給食費が全て無料で行われているということでございます。美作市でも３万円、５万円、20万円の出産祝い金ということで本当に市民の皆様方からも喜ばれておりますけれども、若干古い情報かもわからないですけど、岡山県高梁市では第１子、第２子は２万円ですけれども、第３子50万円、第４子以降100万円とのことでございます。自治体によっては第２子50万円、第３子以降100万円や５歳になるまで月々１万円が支給されるなど、さまざまな金額で取り組んでおられます。どこの自治体かちょっと今忘れてしまったんですけど、その100万円の出産祝い金は現金ではなく、市内でのみ通用する金券を発行されて、市内業者の方にもお金が落ちるようなことを考えられて取り組んでおられる自治体もございました。

またほかに特色のある取り組み事例として、愛媛県松山市では愛媛県内の企業の協賛を得て、５万円分のおむつ券を配付したり、香川県善通寺市では妊婦や出産１年未満のお母様にタクシー料金の補助を行っております。美作でも若干、出産１年未満というわけではないんですけど、タクシーチケットということで取り組んでいただいておりますこと、ありがたく思っております。また、父親の育休支援、イクメンということで昨今いろいろと言われておりますけれども、10日以上の育児休暇を取得した父親に対して10万円、ただしその父親が働く会社には30万円を自治体のほうから支給しているというようなこともございます。その他にはチャイルドシートの無料貸与や、また新しいものを買うときの助成、ベビーカーや３人乗り自転車の購入助成など、多岐にわたって支援をされております。どの自治体も他市町村との差別化を図り、子育て世帯の取り込みや現在お住まいの世帯への支援強化を図っているのが本当によくわかります。

以上を踏まえて、２回目の質問とさせていただきますので、御答弁のほどよろしくお願いをいたします。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）〔登壇〕

安藤議員の２回目の質問にお答えさせていただきます。

市民部におきまして、まず高校修了年齢程度まで医療費負担を無償化にできないかという御質問でございますが、国民健康保険における年齢別の診療費の占める割合によりますと、15歳から18歳までの階層が一番負担が低いことは把握しております。また、この年齢層への医療費無償化は子育て世代への経済的負担軽減となり、今後の課題であるとも認識しているところでございます。今後、市民の方の意見等を踏まえながら検討してまいりたいと考えております。

次に、出産祝い金についてでございます。

平成29年４月から実施しました出産祝い金事業でございますが、皆さんに申請していただいており、子育て世代の祝い金への必要性を強く感じております。今後さらなる子育て世代の経済的な負担軽減を図るため、第１子、第２子の支給額を増額できないか検討しているところでございます。参考までに、高梁市におかれましては、平成27年度より３年間、第３子50万円、第４子100万円という基準を設けておられたようですが、見直しを行い、今年度より第３子以降３万円と改正されております。

次に、妊産婦へのタクシー料金の補助については、母子健康手帳を受けた方で出産予定日の３カ月後まで対象としております。今後アンケートの結果等を参考にしながら進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）〔登壇〕

失礼します。まず最初に、母子保健コーディネーターのことですが、訪問内容につきましては保健師や愛育委員さんの訪問にプラスをして行うものでございます。特にこれまで十分に実施できていなかった妊婦さんへの訪問を行い、心身の状況を把握することで出産後の相談に迅速に対応できるようにいたします。また、産後の母乳相談事業や、ヘルパー派遣事業へのコーディネートも行い、スムーズにサービスが利用できるように支援を行うことも母子保健コーディネーターの役割となります。

次に、児童発達支援事業所についての御質問ですが、利用時の送迎につきましては事業所としては行っておりません。したがいまして、現状保護者の方が送迎を行っている状況であります。

次に、利用料金につきましては、原則国が定めた利用者負担額の１割を御負担いただくようになりますが、一般的には基本額に各種加算がついたり、平日か休日か等の条件の違いにより多少前後するとは思いますが、１日当たり児童発達支援で1,000円強、放課後等デイサービスで1,000円弱の利用料がかかると思われます。また、世帯の所得区分により負担上限月額が設定されておりますので、例として標準的な世帯で月額4,600円が上限ということになります。

なお、当該施設では、児童発達支援につきましては月曜から金曜までの午前中と、火曜と木曜は午後も受け入れを行っておられます。また、放課後等デイサービスは、月、水、金の午後と、第１、第３の隔週土曜日の午前、午後に受け入れを行っています。なお、両サービスとも半日ごとのグループで、定員は10名ということになっております。

次に、利用対象児の条件といたしましては、障害者手帳を所持していること、または特別児童扶養手当を受給していること、または児童相談所や保健師の意見書、医師の診断書などで療育が必要と認められる児童となります。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

エアコンにつきましての御質問でございます。

先ほど議員がおっしゃっていただきましたように、今年度は中学校４校への普通教室へエアコンを設置いたします。お尋ねの小学校や特別教室への設置でございますが、今年度は文科省のほうも適切な室温というのを今までの30度から28度へと下げております。そうしたことからも、教育委員会といたしましては小学校の普通教室への設置も大きな課題と捉え、中学校同様に検討を進めたいというふうに考えております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

政策審議監。

政策審議監（春名　利亮君）〔登壇〕

失礼します。安藤議員の１項目めの４番、美作市の大きな魅力の１つとなるような支援施策の充実についてお答えいたします。

まずは、他府県、他市町村における子育て支援の取り組みの事例を御紹介いただき、ありがとうございます。

子育て支援策の充実につきましては、先ほど来、教育長また各部長がお答えしておりますが、これらの内容は市長が所信表明で申し上げた、子育て支援は周辺自治体はもとより、県下でも最高水準を目指すと、さらなる支援策の充実を示されたことに基づくものでございます。今後とも行政懇談会や代表質問で市長が答弁いたしました女性の会、そのような会など通じ市民の皆様の御要望を伺い、御紹介いただきました事例なども参考にしながら調査研究を行い、子育て支援が美作市の大きな魅力となりますよう、高齢者また障がい者の方々の支援とあわせまして充実に努めてまいりたいと存じます。御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

安藤議員。３回目。

８番（安藤　　功君）

いろいろと御答弁ありがとうございました。

確かに妊産婦の方々に対してのコーディネーターということで、本当に心身ともに不安定になる時期というのがあるというふうに聞いておりますので、ぜひとも今後も支援策の強化ということを図っていただきたい、そしてそれがうまく機能するようにこれからも努めていただきたいと思います。

また、先ほどの児童発達支援事業所の送迎なんですけども、これもやっぱりお勤めの関係があったりして、ぜひとも何らかの形で送迎というのがしてもらえるものであれば助かるなというような声もお聞きしております。きょうにきょうどうしましょうという話にはならないと思うんですけれども、今後の課題ということで頭の隅に置いていただければと思います。

それから、教育長、エアコンなんですけど、この４月のＰＴＡ総会で私、中学校へ設置されますよというお話しさせていただいたんですけど、31年度来年度で私も義務教育の子どもが卒業して、いよいよ義務教育中の間ではＰＴＡ終わるわけですが、ぜひとも来年の４月の総会には小学校もつきますよ、特別教室もつき

ますよというふうな話ができるように、御検討いただければと要望いたしておきます。総括とします。ありがとうございました。

議長（鈴木　悦子君）

続けて、２項目めに入ってください。

８番（安藤　　功君）

それでは、続けて２項目めの質問をさせていただきたいと思います。

通告いたしましておりますように、森林環境税についてということで質問をさせていただきます。

この森林環境税の導入についてということでございますが、2018年度の税制改革で森林環境税が創設されることとなり、2024年度から住民税に１人1,000円が上乗せされることになったとのことでございます。この森林環境税は、県によっては既にこれに類似したような独自に導入されているところが結構あるというふうに聞いておりますけれども、2024年度からは国民の、県にかかわらず１人当たり年額1,000円を徴収すると言われております。具体的にこの森林環境税とは一体どのような税金なのか、そして導入される背景には何があるのか、また今後岡山県や美作市はどのような対応をされようとしているのかをお尋ねをさせていただきたいと思います。

また、冒頭既に導入されている県もあるようだと申しましたけれども、岡山県も含め、それらは今回のそれとほぼ、もしくは全く同じようなものなのか。逆にまた少し違うのか。それらの県はその税をどのように使っておられるのかも同時にわかる範囲で結構でございますので、御答弁をお願いをいたしたいというふうに思います。

以上、１回目の質問とさせていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

森林環境税についてでございます。

森林環境税は森林環境法令のみなしと踏まえ、平成31年度税制改正において創設されようとしているものでございます。その目的は、森林資源の適切な管理を推進することで個人住民税均等割納税者に国税として１人年額1,000円が上乗せをされます。時期は平成36年度から課税ということになっております。

一方、森林環境譲与税、これは国に集められた森林環境税を市町村と都道府県に客観的な基準に基づいて配分をするものでございまして、森林現場における諸問題に早期に対応する必要があることから、新たな森林管理制度の施行とあわせ、平成31年度から行われます。その原資は交付税及び譲与税特別会計における借り入れによりまして国のほうが対応しまして、譲与税を徐々に増加するように設定し、借入金は後年度の森林環境税の税収の一部をもって償還するというふうにされております。

また、新たな森林管理制度は市町村が仲介者となりまして森林の管理経営の集積、集約化を推進するもので、森林所有者の森林管理に係る責務を明確化するというふうにされております。市町村が林業経営に適した森林の管理を所有者から市町村が委託を受けまして、意欲と能力のある経営者に再委託をすると。それから、林業経営に適さない森林は市町村が間伐などを行うということとされております。

また、全国では現在37の県で類似の県税がございます。福島県では森林環境税、神奈川県では水源環境保全税といったような名称で課税をされております。岡山県では平成16年からおかやま森づくり県民税を導入しておりまして、個人県民税均等割額として年額500円を徴収しております。岡山県はこの財源を間伐の実施、作業道の開設、それから少花粉杉などの普及促進、松くい虫被害木の伐倒など、市町村への補助金に充

ておりまして、岡山県から森林環境譲与税の取り組みとは重複しないというふうにお聞きしておりますが、この税は平成30年度までとされておりまして、今年度見直しを検討するとお聞きしております。

以上です。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

ということで若干補足をさせていただいたほうがいいかと思います。

せんだって全国市長会でもこの議論がありましたけれども、まず都道府県税でやっていることと、それから市町村が主体になったこの森林環境税の違いというのを若干明確に申し上げておきますと、今度森林環境税につきましては大都市であっても私どものようなところであっても個人住民税の均等割に賦課されると、そしてその税収のほとんど、定常状態になりますと９割ですけども、９割が市町村配分されるんですけれども、その市町村配分につきましては先ほど答弁ございましたように森林面積その他、田舎であればあるほどたくさんもらえるという形になっているもんですから、簡単に申し上げますと今回の新税は都市部から森林がある地域への財源移転という目的が明確に出ているということが非常に大きな特徴であります。逆に言うと、その都道府県税につきましてはどこでやってもいいし、法定外目的税なんで目的にある程度沿っていればいろんなことができるということでありまして、必ずしも明確な資源、所得の都市部から山間部への移転ということにはなっていないというところに大きな差があります。

もう一つは、今回の新税が森林管理に関する新たな法制ということを裏に持っておりまして、その森林管理に対する新たな法制というものの主体、つまり不在村の山主の方が例えばもうわしゃ管理ようせんけんというようなときに誰がするかというのが改めて法律で決まったわけですけど、それは常に市町村がその管理についての媒介をするというようになります。つまり、今回本当に大きく変わったのは森林管理について市町村が国の法律や税制において主体となり、そしてその主体となる市町村の間で苦労するところに都市部の市町村から資金援助が与えられると、こういう構造ができたというところが本当に大きなポイントであるわけであります。

したがいまして、当市でいいますと、もちろん私どもの市民の方にも御負担をその時期にお願いすることになるわけでございますけども、当然ですけど、負担以上の税収がこちらに譲与税として回ってくるということであります。

以上、若干補足を申し上げます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

安藤議員。

８番（安藤　　功君）

１回目の御答弁ありがとうございました。

２回目です。

当初おかやま森づくり県民税と重複徴収になれば、本当に問題があるなというふうに感じ取ったんですけど、先ほど部長の御答弁ではそれは現時点ではないということでございますので、その点につきましては理解をさせていただきました。しかし、これから先の話なんで、もし重複というようなことがあれば、これまた大きな問題になるのかなというような気がしております。それにも注視していただきたいなと思います。

また、本当に部長、また市長の御答弁で概略と輪郭というの大体おおむね理解はできたわけですが、都道府県や市町村より森林環境税として徴収されていた税が今度は国から森林環境譲与税として、先ほど市長も

申されましたが、市町村と都道府県に客観的な基準に基づいて配分されるということですけれども、今市長の御答弁で若干触れられておりましたけども、客観的というのは最初の答弁でどういう視点とか基準があるのかなというふうに感じておりましたので、もしございましたらお答えをいただきたいと思います。

また、配分率、今どうなるかということをお聞きしようかなと思っておりましたけども、今市長の御答弁では90%の配分があるというようなことでございましたが、もし具体的な他にありましたらまた御答弁をいただきたいと思います。

また、市町村が森林管理の委託を受け、民間業者等に再委託するとのことでございますが、美作市有林、民有林への対応の仕方、また不在地主、所有者不明山林などへの対応の仕方などもさまざまな諸問題も同時に並行して存在するというのはもう事実であろうというふうに思っております。現時点での市のお考えをお聞きしたいというふうに思います。

そして、美作市としてこの森林環境譲与税をどのように今後活用して、また生かしていこうとされているのか、具体的な御答弁がありましたらお教えいただきたいというふうに思います。具体的な詳細にわたってはまだまだこれからの部分が多いのかもしれませんけれども、今お答えできる範囲での御答弁をいただけたらというふうに思います。

２回目の質問とさせていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

森林環境税の導入について、２回目の答弁をさせていただきます。

まず、配分基準とか配分率についてでございますが、森林環境税につきましては市町村が賦課徴収した森林環境税が一旦国に集められます。平成36年度から課税されますが、国全体で約600億円の税収が見込まれております。森林環境譲与税は森林環境税の課税に先行してということですので、初年度の平成31年度は３分の１の200億円が配分の対象とされております。

それで、まず市町村と都道府県分の配分割合でございますが、初年度は市町村が80、都道府県分が20ということですが、徐々に市町村分の配分割合が増えて、15年目には市町村が90、都道府県が10と、90対10となります。つまり市町村分全体では初年度に全体で160億円でございますが、徐々に増えて平成45年度にはその配分対象の額が３倍以上の540億円になると試算をされております。市町村への具体的な配分の基準でございますが、この市町村分のうち50%を私有林人工林面積、それから20%を林業就業者数、30%を人口で、それぞれ案分した合計額となっておりまして、平成31年度の美作市への譲与額を約2,200万円と見込んでいます。都道府県への配分の基準も市町村と同じ基準となっております。

また、森林環境譲与税導入への対応でございますが、森林環境税は民有林の整備を目的としておりますので、市で森林所有者を特定して、森林所有者には森林整備を行うことで水源の涵養等につながり、大規模な土砂崩れ等の災害が起きないように、森林の適切な管理を推進することを説明しながら対応を行っていきたいというふうに考えております。

また、森林環境譲与税の美作市での活用でございますが、現在得ている情報によっての答弁ということになりますが、市の取り組みとしまして現在美しい里山公園内で国庫補助を受け、天然林の更新伐をしておりますが、保安林や松林の整備は補助対象外となっております。同様に森林所有者から森林管理の委託を受けた区域についても補助事業を活用しながら森林整備を進めていくことになりますが、どちらにしましても補助対象外となる施業がございます。これら補助対象にならない森林整備を森林環境譲与税を財源として整備

していきたいというふうに考えております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

安藤議員。３回目です。

８番（安藤　　功君）

総括とさせていただきます。

美作市、山林が80％でしたか、70％後半でしたか、本当に多くの山林を抱えておりますので、この森林環境税また譲与税を十分に利活用していただいて、山の適正な管理、木々の適正な管理をしていただきたいというふうに感じます。

先月、私、勝田地区の奥のほうの山に行く機会がありまして、ちょっと散策というか見てみたんですけど、荒れてますね、やっぱり。きれいに適正に管理されている山ももちろんあるんですけど、本当に小規模ですけど、これ土石流が発生しているなと思われるところや、倒木で山林の道が林道というか本当に細い林道ですが、全く人が通れるような状態でないというようなところも見かけましたし、昨年は袴ケ仙にも登ったんですけど、登るルートにもよるんでしょうけど、倒木で四つんばいにならないと上がれないような場所もあったりしたんです。ですから、やっぱり適正な管理というのをしていかないと山が荒れ放題になるというのは火を見るよりも明らかだと思います。ぜひともこの税を有効に活用していただきますように要望いたしまして、この項の質問を終わらせていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

次に、続けて３項目めに入ってください。

８番（安藤　　功君）

それでは、３項目めの災害時、火災時等においてのドローンの活用についてということで、①特に消防、災害救助等の現場におけるドローンの活用についてということでお尋ねをさせていただきます。

この質問も昨日の代表質問の山本議員のほうから若干触れられておりましたので、重複しますけれども、御勘弁いただきたいというふうに思います。

災害救助のために全国の消防、警察に導入が進んでおりますドローンでございますが、市街地火災、森林林野火災、山岳救助、大規模災害等、ドローンの有用性が確立されつつございます。海外の事例ではありますが、2017年12月に発生したカリフォルニア大火災では、火災現場の状況調査のため火の中にドローンが出動し、消火における状況調査のために大活躍したというニュースも大きくメディアで取り上げられておりました。

火災発生時、指揮車等にドローンを搭載し、初動でいち早く現場の情報収集を行い、消防車の到着までに周辺情報を集め、消防活動の方針策定を完了した上で最適な形での消防車の配備と作戦展開を行い、そして鎮火後の状況確認についても役立てるといった活用などを考えたとき、消火全般に関しての活用は大変有効であるというふうに考えられます。また、火災のみならず、水害とかで水難者救助の補助的な活用であるとか、また登山不明者の発見などへの活用も考えられるところではないかというふうに思います。

先般も消防団幹部の方より、山林火災時は特に消防団や消防署の職員皆様のけがやそして命を守るためにぜひ導入に向け早急に検討していただきたいというような御要望がございました。総務省消防庁が全国消防本部に向けドローンによる防災利用手引書を作成されたとも聞いておりますけれども、美作市としての御見解をお尋ねをしたいと思います。

まずは１回目の質問とさせていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

消防長。

消防長（皆木　佳久君）〔登壇〕

それでは、ドローンについての答弁をさせていただきますが、先日山本雅彦議員の代表質問と重複する部分がございますが、お答えをさせていただきたいと思います。

議員御指摘のとおり、消防活動におけるドローンの有用性というのは理解しておるつもりでございます。美作市消防本部におきましては、災害調査、行方不明者の検索など、さまざまな活動が考えられます。消防職員、団員の労働負担、受傷危険の軽減が図られる等効果が期待されると考えています。近年、操作性、機能性が高まり、価格も低下し、購入しやすい状況が考えられます。岡山県内の他消防本部においても14消防本部ございますが、そのうちの３消防本部が運用を開始しております。美作市消防本部におきましても運用に向けて研究を行っております。

運用には操作員の養成も必要と考えられ、当消防本部では４名から６名の人員が必要と考えております。この４名から６名というのは、先ほど議員が言われました手引書、ことし30年１月に総務省消防庁のほうから配付されました手引書の中にも書かれています。この根拠となるのが、ドローンを当然オペレーターが１人、それから監視員が２人ということで、最低でも３人という、そのあたりから４名から６名ということで、この職員につきましては新しく職員を採用するんじゃなくて現在の職員を教育をしてドローンを飛ばすというふうなものでございます。現在、岡山県消防学校に訓練用のドローンが総務省から配備されておりますが、これは消防団員の活用の幅を広げるためのものであり、この活用も考慮する必要があると考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

安藤議員。

８番（安藤　　功君）

それでは、２回目でございます。

御答弁ありがとうございました。

２回目でございますけれども、ドローンに関してはメディア等でも、本当に先ほども申し上げましたけれども、大きく取り上げられている、さまざまな分野で活躍し、またそれが期待をされているのは皆様方も周知の事実だというふうに考えます。しかし、特に火災や災害時の一刻を争う現場においては、それを扱う人の育成やその得た情報をそこにいる人々に広く共有しなければ意味のないことにもなってしまいます。文明の利器を使いこなす、そして広く情報を共有する、人的、物的被害を最小限に食いとめる、そのことも十分に踏まえた上でどうぞ速やかに御検討され、導入に向けて進めていただきたいと思いますけれども、再度お尋ねをいたします。

そして、その導入に関して研究を行っているというようなことでございますけれども、おおむねでよろしいんですが、導入時期をどれぐらいに設定をされているのかも同時にお尋ねをさせていただきたいと思いますので、お答えできる範囲で御答弁いただければと思います。

２回目とさせていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

消防長。

消防長（皆木　佳久君）〔登壇〕

それでは、２回目の御質問に対してお答えをさせていただきます。

これは以前から消防本部ではドローンの有用性については着目し、業者による実演デモ飛行、それからドローンの運用、活用法等の講習会に職員を参加させており、現在も価格面も考慮し、機種の選定、あわせてオペレーターの養成に係る費用等も含め導入に向け研究をしているところでございます。

先般、テレビニュースでドバイ警察が将来、たしか２年後に有人のドローンパトカーというんか白バイを導入するといったニュースも流れてきておりました。また、本年５月31日、６月１日の両日ですが、東京ビッグサイトにおきまして2018東京国際消防防災展が開催されました。ある消防ポンプメーカーでございますが、このパンフレットに消防用ドローンが掲載されております。赤く塗装されたもので、まさに消防活動を意識されたものとなっております。

導入時期でございますが、はっきりとなかなか申し上げられないんですが、できる限り早い段階で導入ができますよう準備をしてまいりたいと思います。また、この導入につきましては、購入という方法もございますし、業者委託、調定を結ばなければなりませんが、そういったところも加味して考えていきたいと思っております。また、先ほど１回目の答弁でも申しましたが、消防団を活用しての今回条例で機能別消防団ということもさせていただいておりますので、その辺も連携をとりながらドローンの導入に向けて考えてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

安藤議員。

８番（安藤　　功君）

それでは、総括させていただきます。

消防長、導入時期が、何かちょっと苦しそうに答えられてましたけど、できるだけ早い時期で導入をしていただきたい、来年でもできるだけ早い範囲に入りますので、どうぞよろしくお願いいたしたいと思います。でも、機械を飛ばすんで、やっぱり安全といいますか、事故等が逆に起きてはいけませんので、本当にそれを扱う人、養成というのは大事になろうかと思いますので、その辺も重ね重ねですけども、お願いをしておきたいと思います。

昨日、中山議員から安藤君ドローンってどういう意味か知っとるって聞かれまして、クマンバチだそうですね。ありがとうございました。音が確かに、一昨日とあるところでドローンが真上を飛んだんですけど、言われてみたら蜂の羽音に似てました。それでドローンというんだなという、新たにそういうことに気づきまして、勉強させていただきました次第でございます。この項終わります。

議長（鈴木　悦子君）

安藤議員、４項目めは休憩の後にしてください。

これより10分間休憩いたします。

午前11時00分　休憩

午前11時10分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

それでは、安藤議員、４項目めから入ってください。

安藤議員。

８番（安藤　　功君）〔質問席〕

それでは、休憩に続きまして、４項目めの営農組合についての質問をさせていただきたいと思います。

美作市内の営農組合やまたはそれに類する団体の現状と今後の課題ということでお尋ねをさせていただきます。

時代の流れとは申せ、田んぼを所有している農家さんが高齢となり、稲作を続けていけないといった話が近年は本当に多く聞かれるようになってまいりました。そういったときには営農組合さんに田んぼを預ける場合も多々見受けられております。皆さんも御承知のとおり、営農組合さんとは地域で田んぼを所有している近隣農家さんたちが一定の金額を出し合ってつくった稲作農家の集まりでございます。収入や組合費、出資金などで購入した大型機械を使い、依頼のあった農家さんの田んぼで作業を肩がわりするのが主な仕事になっていると聞いております。個人では年齢的なものと金銭的なもの、その両方の負担を個人で全てを背負って兼業稲作農家を続けるのも既に限界に達しつつあるとも言えます。

全国的に営農組合さんだけでなく個人でも法人化して農作業を請け負う方も増えてまいっているところでございますけれども、大規模農業に対する優遇政策の影響もあるのでしょうが、この先は大規模な土地を所有している専業農家さんと大規模組合型農家さんの、この２つに二極化されるんでないかといったような話もよく聞くようになっているところでございます。しかしながら、この営農組合さんですら高齢化と米価の下落などで組合の運営が厳しくなっているという声もお聞きをしております。農家の稲作はボランティアともやゆされることがよくございますけれども、現時点において美作市の営農組合さんや法人を初めとした方々の数の推移はどのようになっているかをお尋ねをしたいと思います。また、そうした方々への国、県、美作市の支援や補助はどのようになっているのかをお尋ねをさせていただきたいと思います。

１回目の質問とさせていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

営農組合についてでございます。

平成30年３月末現在の市内の集落営農組織は、法人組織が３組織、任意組織が12組織で、合計15の組織です。10年前の平成20年３月末現在では法人組織１組織、任意組織９組織で、合計10の組織でございました。５年前、平成25年３月末でございますが、法人組織が２組織、任意組織12組織ということで、平成30年２月に１組織が法人化されましたが、任意組織では一番最近に結成されましたのが平成27年１月という状況でございます。

集落営農組織は、農作業を受委託するあるいは農機具などを共同管理することで経費の節減を図っておられます。もともとは農機具や農業用施設を補助事業により整備したことなどをきっかけに結成された例が多いように思います。しかし、任意組織である場合は認定農業者となることができません。現在の補助事業は認定農業者を対象にしたものが多く、任意組織では機械の更新などの補助を受けることが難しい状況にございます。市としましては、地元の合意ができれば農業経営力向上支援事業によりまして40万円を限度に法人化の助成を行っておるところでございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

安藤議員。

８番（安藤　　功君）

それでは、２回目でございます。

営農組合について２回目の質問をさせていただきます。

先ほどの御答弁で市内には15組織あり、そのうち法人が３組織で、12組織が任意組織とのことであり、そ

の12組織は機械更新などの補助を受けることが難しいと、任意であるがゆえに難しいという御答弁でございました。難しいということは多分補助はできていないということを言われているんだと思うんですけれども、組織の方々にいろいろとお話を伺ってみますと、特に任意組織の方々は中山間地域直接支払制度、いわゆる中山間と呼ばれているものですけれども、それがあるから何とか現在の状況が維持できているが、大型機械の買いかえがまとまってあったり、もしこの制度が改悪への見直しや、また例えば廃止などがあれば、もう存続は不可能であるとおっしゃっておられました。そうなれば、この地域の農業はさらにますますの加速度をつけて衰退していくのは火を見るよりも明らかではないでしょうか。高齢化していく農業従事者、増え続ける耕作放棄地、過疎化によるますますの人口減による農業の諸問題は増えていくばかりではないでしょうか。

また、市として地元合意があれば、できれば農業経営力向上支援事業により40万円を限度に法人化の助成を行うとのことですが、今後のＴＰＰの発効の推移や高齢化、米価がなお下落する可能性などを鑑みたときに、法人化に一歩踏み出すことにはちゅうちょされるのもよく理解できます。本当にわからなくでもないです。美作市として高いハードル、またさまざまな規制、規約、法律等があるとは思いますけれども、その中でも何か補助策であるとか支援策であるとか援助策であるとかを御検討いただくわけにはいきませんでしょうか。

以上、よろしくお願い申し上げて、２回目の質問とさせていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

１回目の答弁で集落営農組織が法人組織でないと組織自体が補助を受けることが難しいというふうに申し上げました。組織の設立や法人化には強力なリーダーシップが不可欠で、地域の方が自分の得意分野を生かして協力していかれることが必要だと思います。そして、任意組織である場合も中心となる担い手農家の方が必要でございます。そして、任意組織の場合はその中心となる担い手、これは個人の方でございますが、その方が援助を受ける方法で運営をされている例が多いというふうに思っております。集落営農組織は田畑や農業機械を共同利用することで経費を抑え、労力を軽減するということができます。地域の農業を維持していくためにとても有効な方法の一つだというふうに思います。集落営農組織を維持していくための支援について、法人組織の場合は農地集積による規模拡大など、法人自体への支援、そして任意組織の場合はその中心となる担い手農家、個人の方を支援をすることで集落営農組織への支援につなげていきたいというふうに思っております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

安藤議員。

８番（安藤　　功君）

御答弁いただきました。

任意の組織の場合にはその個人への支援をすることで集落営農組合の支援につなげていきたいというふうな御答弁で、具体的にどういうような事例があるのか、ちょっと私にはわからないところもあるんですけれども、ぜひともこの地域の農業が絶えてしまうことがないように手厚い支援をお願いしたいというふうに思います。

私、兼業農家でも非農家なもんで詳しいことよくわからない部分もあるんですが、一昨日日曜日に９年間続けております手植えで田植えをやってまいりました。手植えなんで２反ほどなんですけど、私だけでやっ

たわけでなく、何十人も田んぼに人が入ってやったんですが、３時間ほどですが、それでも次の日に足腰痛くて、朝起き上がるとき鉛が体についているのかと、年ですから、思ったんですけど、それが月曜日の話で、きょう火曜日ですけど、さらにきょうのほうが痛くて、起き上がるのが、年かなと思いますが、本当に手植えではないにしろ、本当に農家さん、しんどい目をされていると思います。いろんなさまざまな思いでこの地域の田んぼであるとか畑であるとか、そういう農業を守ってこられています。そうした方々にも感謝の気持ちも込めて、手厚い支援策を御検討いただいたり、市だけで難しい場合は県なり国なりに要望していただくというような方法もあろうかと思いますので、ぜひとも今後の検討課題として取り組んでいただきたいということでお願いいたします。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

集落営農組織も含めて農林水産業に係る集団的な活動を行う団体というのがいろいろあるんですけれども、全般に余り高い収益性を見込めないことが多いという中で、法人化に対する障害になっているものとして公租公課、つまり法人ができた瞬間に税が発生するというのがあって、何もできてないんだけど毎年みんなに頼んで税金集めて払うみたいなことが間々ありまして、この点については十分に検討しなきゃいけない課題があろうかと思います。

うちの経済部での検討がそれが有効であるということであれば、税制改正要望というような形で国に対してお話をすることもあり得るかなと思いますし、また市町村税についてはこれはある程度の自由度を私たちが持っていることがあるんで、税の面での取り扱いをどうするかというのが割合意味のある検討課題であろうというふうに考えていることをお話をさせていただきまして、答弁といたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

安藤議員。

８番（安藤　　功君）

総括ですね。

御答弁ありがとうございました。

いろんな問題等々ございましょうけれども、本当に前向きに御検討いただきますようお願いを申し上げて、総括とさせていただきます。

次に。

議長（鈴木　悦子君）

５項目めに入ってください。

８番（安藤　　功君）

それでは、最後の５項目めの質問をさせていただきます。

美作市の交通体系全般についてということでお尋ねをさせていただきます。

細目として４項目ございまして、１番、デマンドバスの利用状況と今後の取り組みについて、２番目として美作市営バスの交通体系と利用状況について、３番目として美作共同バスを含む民間交通業者の市内バス等の交通体系と利用状況について、４番目として過疎、高齢化社会の公共交通を今後どう守っていくのかという４項目についてお尋ねをさせていただきます。

少子・高齢化や過疎化が社会問題となって久しく、特に中山間地域の交通政策も大きな課題となっております。美作市も例外でなく、通院、通学、買い物などといった日々の生活にも大きく影響を来してきている

ところでございます。先ほど来より、昨日来よりお話も出ておりましたけども、タクシーチケットも市民の皆様方から好評を得ているというふうにお聞きしておるところでございますが、今回は上記４点についてのお尋ねをさせていただきたいというふうに思います。

抜本的な大きく思い切った政策を打とうとすれば莫大な費用がかかると考えられますが、かといって市の出費を抑えようと、例えばバスの便数や路線の縮小などを行うと利用者が減り、赤字補填がかさむなどの負のスパイラルから抜け出せなくなる可能性も考えられます。現在でも市内のさまざまな交通機関の維持運営にはかなりの費用をかけていると思いますけれども、予算的なこと、また市民の皆様からの御意見や御要望、現在の課題や今後のその課題解決に向けての取り組みや考え方も含めて御答弁をよろしくお願いをいたしたいと思います。

１回目の質問とさせていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）〔登壇〕

５項目めの美作市の交通体系全般についての１番目のデマンドバスの利用状況と今後の取り組みについてでございますが、土居小学校区デマンドバス運営協議会の皆さんの御協力により土居小学校区デマンドバスを運行しており、土居地区と福山地区からそれぞれ作東、江見地内の商店や病院、美作インター周辺の施設や本庁まで運行を行っています。土居地区と福山地区にそれぞれ１台、10人乗りのバスを置き、月、水、金曜日の朝、昼、夕の３便を運行し、昨年度の利用者数は2,536人で、１便当たりの乗車人数は3.24人となっております。運営協議会を定期的に開催し、利用状況、課題などを検討し、改善に向けた取り組みを行い、利用促進に努力されています。このデマンドバスは地域の方にとって欠かせない公共交通であることから、課題となっている運転手の確保に努め、継続してまいりたいと考えております。

２番目の美作市営バスの交通体系と利用状況についてでございますが、まず市内バス運行の現状でございますが、市内には地域別市内バスがあり、大原バス、東粟倉バス、美作バス、英田バスは地域内を循環し、目的地である病院、金融機関、官公庁までの運行で、運賃は１乗車当たり200円で市内統一料金としております。また、津山線については、梶並からと福本からの２路線があり、距離別運賃を適用しており、主に高校生の通学と病院への通院となっております。

市内循環線の地域ごとの利用状況を個々に申し上げますと、大原バスは４つの路線を設定し、月曜日から金曜日まで各路線３便運行しており、昨年度の利用者数は3,887人で、１便当たりの乗車人数は2.1人となっております。次に、東粟倉バスは基幹線に民間事業者のバスが運行されていることから、集落内を支線として月、水、金曜日の週３回、３便半の運行をしており、大原地内の金谷地区は東粟倉バスがリクエストにより運行し、利用者数は2,749人で、１便当たりの乗車人数は4.9人となっております。次に、美作バスは林野駅から柵原病院までの路線と他に２路線があり、月曜日から土曜日までの週６日、朝、夕各１便と午前、午後各１便を運行し、利用者数は１万1,980人で、１便当たりの乗車人数は5.0人となっております。次に、英田バスは３地域を曜日別運行しており、１地域週２日、４便から５便を運行し、利用者数は773人で、１便当たりの乗車人数は0.6人の状況でございます。津山線の勝田バスは月曜から土曜日までの週６日、３往復半を運行し、利用者数は１万7,061人で、１便当たりの乗車人数は7.9人の状況でございます。津山線の英田バスは月曜から土曜日までの週６日、４往復を運行し、利用者数は１万3,609人で、１便当たりの乗車人数は5.6人の状況でございます。

次に、３番目の美作共同バスを含む民間交通業者の市内バス等の交通体系と利用状況についてでございま

す。

市内を運行している民間事業者は２社あり、美作共同バスは主に林野高校や勝間田高校、津山市内高校への通学や市内の各病院や勝央町の病院への通院に利用されており、４路線を運行しています。宇野バスは以前十数往復の運行がありましたが、周辺高校の統廃合や観光客などの利用者の減少に伴い、現在では午前中岡山方面に２便と仁堀どめ１便、午後は岡山方面から２便、仁堀どめ１便の運行で、多くが減便となっております。この減便に伴い、路線周辺の美作市、赤磐市、美咲町が協議を重ね、地域住民の交通手段の確保対策として赤磐市が中心となり、各市町村が費用負担することにより赤磐広域バスを林野駅発着３便と周匝どめ１便を運行しております。

各路線の利用状況は、周辺高校への通学時間帯の朝、夕は多くの利用者がございますが、日中の利用者数は数人の利用であると聞いております。次に、勝田地域のデマンドタクシーでございますが、民間のタクシー事業者２社により事前に利用日の１週間前から前日までに予約を行い、予約した場所で乗車できます。梶並地区では週４日、地区ごとに曜日別運行を行い、利用者数は1,180人となっております。勝田地区では週２日、朝、昼、夕方便を運行し、利用者は79人となっております。

４番目の過疎高齢化社会の公共交通をどう守るかについてでございますが、民間業者が赤字路線から撤退していく中、子どもや高齢者、障がい者などの交通弱者対策は非常に重要な課題であり、重要施策の一つと考えております。

美作市といたしましては、少子化、高齢化による利用者の減少とともに運転免許保有者が高齢になっても自家用車の運転を続けるといった状況がありますが、今年度運転免許を保有していない方で一定の条件に当てはまる方に対し、実証実験ではありますが、タクシー利用補助制度を全地域に拡大いたしました。各集落を網羅して市営バスを走らせることは限界があります。タクシー補助であれば市内全域をカバーすることができ、有効な手段と考えております。この拡大に伴う路線バスや地域循環バスへの影響などを含め、公共交通の再編を検討してまいりたいと思っております。

次に、公共交通の予算でありますが、市営バス運行として6,367万5,000円、民間バス維持費として4,032万1,000円、赤磐広域バス負担金として404万円、タクシー利用補助として1,806万1,000円となっております。要望については、区長や地域自治振興協議会に諮り、検討しており、結果的に時刻やルートなどの変更が必要な場合は市町村運営有償運送に係る登録事項の変更については美作市交通会議に諮り、岡山県に申請し、認可を受ける手続を行っております。こうした手続を踏まなくても対応可能な要望については、今後も早急な対応をしてまいりたいと考えております。

以上です。よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

安藤議員。

８番（安藤　　功君）

それでは、２回目の質問をさせていただきます。

さまざまな交通体系に関しての御答弁をいただき、ありがとうございました。

市内の交通弱者、学生や高齢者、障がい者に対する対策は本当に皆が認める美作市にとっての大きな問題であろうかと思います。先ほどの御答弁にもありましたように、美作市営バス、作東地区のデマンドバスも含め市内で全12路線、デマンドタクシーが２地域、バス事業者２社の路線が７路線とタクシー利用補助が、利用制限、利用規約がございますが、市内全域をカバーしているとのことでございます。これからもダイヤ改正とか路線の見直し等、市民皆様方の御意見や御要望に対して敏感に真摯にかつスピーディーに対応し

て、そしてそれらに対する対策に心がけていただきたいというふうに思います。

私も日本のさまざまな過疎や僻地、高齢化している地域の公共交通の形態や運行状況を調べてみたのですけれども、それぞれの地域でそれぞれの自治体が試行錯誤をしながら住民の通院、通学、買い物などの際の移動手段の確保に努められている様子がうかがえました。しかしながら、残念なことに、さまざまな地域を調べてみましても、これが調べた中で美作市に完全に合致してそれを導入すれば問題が解決するといった事例を見つけることはできませんでした。それは当然のごとくそれぞれの地形であったり地域性であったり、気候風土、人口規模、人口分布、また自治体の予算規模等々が違うわけですから、仕方がないのかもしれません。

しかし、比較的類似地域で見たときに共通している点は、これは一概には言えないかもわからないですけど、地域内交通で市民の満足度が上がれば自治体のそれに対する赤字補填も同時に大きくなっているというような現象がかいま見ることができました。美作市も先ほどの御答弁にもありましたようにかなりの予算を投じておられるところでございますけれども、であるからこそより効率的な交通手段確保の構築をして多くの方々に少しでも満足をしていただき、少しでも不満を減らしていただき、例えば本当に無駄に空バスを走らせるのではなく、一人でも多くの方々に利用していただけるような交通体系、交通網を築いていかなければならないというふうに考えております。そして同時に、効率化のみならず、美作市の自治振興協議会の皆様方などとも協働で取り組む交通と社会との新たな関係も築くことで自治体と民間業者がともに持続的に、例えば収益が上がるようなモデルをつくる必要性も感じているところでございます。

きょうここで、この場で直ちに答えが出るような話ではないんではございますけれども、２回目の質問とさせていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）〔登壇〕

安藤議員の２回目の質問についてお答えいたします。

美作市の公共交通体系も運行形態や運行ルートなど、地域の実情に合わせた変更をしてまいりました。しかしながら、当初の予想に反し利用者の減少が顕著に見られる地域が出てきており、時間帯によってはほとんど利用になっていない状況もございます。地域にとっては市営バスが地域内を運行することによって安心を担保するために運行してほしいとの意見などもあります。地域の公共交通は住民皆様にとって重要な移動手段であることは間違いありません。今回拡大いたしましたタクシー利用補助の利用者からのデータなどを収集、分析し、自治振興協議会などと協議を重ね、地域に合った交通体系の維持に努めてまいりたいと考えております。よろしくお願いします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

安藤議員。３回目です。

８番（安藤　　功君）

３回目です。

ありがとうございます。

この交通体系、交通網、本当に通勤、通学、病院とかでいろいろとあるわけなんですが、広い意味で考えたときに通学、スクールバスもその交通体系のうちに含まれるんであろうというふうに考えるところでございますが、スクールバスの民間委託というような話も以前出ていたようには思うんですが、そのあたりどういうふうに今検討されているのか、御答弁をいただけるようであれば答弁いただきたいと思っております。

３回目です。

議長（鈴木　悦子君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

失礼いたします。スクールバスの民間委託につきましてはいろいろと御提案もいただいております。しかしながら、朝、夕の現在のスクールバスは朝、夕の通常の運行のみならず、例えば子どもたちが市内で校外学習を行うとき、あるいは中学生であれば部活動で近隣の学校等、あるいは近隣のところへ行って練習試合をする、あるいは県大会へ出ると、そういった場合にも利用するということが可能となっております。そうしたことが実は大きな保護者負担の軽減にもつながっているという部分もございます。そうした中で、スクールバスの運行をどのようにすれば安全にしかも効率的にできるかということで、市内の遠いところにはやはり補助金を、スクールバスというのはやはり通学ということが、子どもたちのために使うということがメーンでございますので、そうした状況もしっかりと把握をしながら、今そうしたことも含めてしっかりとデータを集め、研究をしているところでございます。今、その程度までしかお答えできませんが、御理解いただきますようにお願い申し上げます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

安藤議員。総括です。

８番（安藤　　功君）

本当に多岐にわたる質問に対する御答弁ありがとうございました。

スクールバスに関してはまた御検討いただくということでよろしくお願いしたいと思います。

今交通体系全般についてなんですけども、当然バスも必要な分野であるというのは間違いないんですが、やはりこういう美作市のように地形が南北に長い、そして集落が点在している、くるっと丸いような地域で、中心があってというような、満遍に距離的なものがあるというような地域でしたらまた違ってはくるんでしょうけど、本当に細長い、これはもうどうしようもないことでございまして、バスの運行ということも含め、それからこれは私の考えですけど、やはりタクシーの何かしら有効利用というのを今後考えていかないといけないのかなというような感じがいたしました。

ともあれ、これをもちまして30年度６月議会の私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

議長（鈴木　悦子君）

以上をもちまして通告順番３番、議席番号８番安藤功議員の一般質問を終了いたします。

少しお昼に早いんですが、これより１時まで休憩し、午後一で内海議員の質問を始めたいと思います。

これより１時まで休憩いたします。

午前11時44分　休憩

午後１時00分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

続きまして、通告順番４番、議席番号17番内海健次議員の発言を許可いたします。

内海議員。

１７番（内海　健次君）〔質問席〕

それでは、鈴木議長に発言の許可を得ましたので、６月定例議会における一般質問に入らせていただきます。

晩春から始まった田植えも初夏を迎えて終盤に近づき、水田が緑一色に染まる農村の原風景が広がる季節となりました。

質問の前に少し話をさせていただきますと、御承知のとおりことし2018年は明治元年から起算して150年に当たる節目の年となっています。明治時代は井の中の蛙大海を知らずのことわざの世界からの脱却を目指して、諸外国と人、福祉、技術など、多岐にわたる交流を積極的に進め、近代国家への第一歩を踏み出し、国の根幹が築かれました。美作市も150年の歴史を振り返ったとき、先人たちの英知とたゆまぬ努力により今日の礎が構築されたと感じております。半面、現在の日本社会が抱える大きな問題となっているのが少子・高齢化による人口減少社会の到来です。全国紙の記事によりますと、国の平成27年度の調査では65歳以上が半数を占める限界集落は１万5,568あり、５年間で174集落が消滅したそうです。いずれ消滅する集落は3,044にも上ると書かれておりました。都市部より一足早く人口減少に直面している美作市を初め、全国の過疎地を有する自治体にとって自助、共助の力をどう守り集落を維持していくかは市民の代弁者として市政にかかわる議員の一人として関心も高く、危機感を持っており、定例議会において一般質問などの機会を通じて提案、提言したことが人口増に向かい、地域や市の活性化と住民生活の向上へとつながる施策や事業の一助となることを期待しております。

次に、２点について執行部に感謝を申し上げます。

１点目は、以前から美作インター高速バス停留所を利用される方々から駐車場を確保してほしいと聞いておりましたが、市の御尽力によりマルナカ駐車場に20台分を無料で借りることができたと伺いました。利用者からも機会があれば感謝の気持ちを伝えてほしいとの声が届いておりますので、改めてお礼を申し上げます。

２点目は、お休み等で日曜日はか休めない、個人商店等で勤務されている従業員の皆様を対象に６月10日日曜日に健康診断が実施されたと伺いました。先ほど冒頭でも少し触れましたが、井の中の蛙大海を知らずのことわざには実は続きがあり、されど空の深さを知るとつながっております。意味は、狭い世界で自分の道を突き進めたからこそその世界の深いところまで知ることができた、きわめていけばその世界の深いところまで達することができるという、まさにされど空の深さを知るを実践された結果が市民のささやかな願いを形にしていただいたと高く評価しております。

このような小さな気配りが真の行政の基本であると思っておりますので、ぜひこれからも各部署においても積極的に取り組み進めていただくことをお願いするとともに、お礼を申し上げて、口上が少し長くなりましたが、本題の質問に入ります。

今回の質問は、ことし３月９日に農林水産省が野生鳥獣肉の利用促進を目指して、美作市を初め全国17カ所をイノシシや鹿の捕獲から加工を担うモデル施設として選定されたことが発表されました。ちょうど市長選挙の前、３月９日が発表で、３月10日、山陽新聞の経済欄ですから、なかなかわかりづらかったです。３面か４面だったと思うんです。この中に農林水産省は９日、野生鳥獣肉の利用拡大に向け岡山県美作地区など17地区をイノシシや鹿の捕獲から加工を担うモデル地区に指定したと発表した。捕獲後の加工や保冷といった施設の整備を支援し、ジビエの安定供給につなげる。美作以外の17地区は、北海道、長野市、石川県など自治体や猟友会、流通業者らが主体となって取り組む。指定に当たり、一定規模の処理頭数を確保することや衛生管理を徹底するといった条件をつけた。政府は捕獲後に鮮度を落とさない移動式解体処理車の導入

のほか、ジビエのビジネスを手がける人材育成も支援する、などなど書かれております。

私も現在運営されております獣肉処理施設の建設には当時の議員時代に積極的に協力をしてまいりました。なぜなら、皆様もよく御承知のとおり、平成20年以降、美作市はもとより全国的にもイノシシと鹿による農作物被害は甚大となり、農業従事者にとっては生活を脅かす深刻な問題となっておりました。美作市においてもまだまだ農業は第１次産業としてあるいは生活の一部として重要な位置を占めており、鳥獣被害から農作物を守ることは必要不可欠であると認識しておりました。何よりもイノシシや鹿が原因で耕作放棄地が増えて、農業振興の妨げにならないようにとの思いが強くありました。そのようなときに、たしか平成24年だったと思いますが、農水省の補助事業を活用したイノシシと鹿を主に猟友会の協力を得て駆除と駆除したイノシシと鹿肉を加工、販売する施設の建設には大いに賛同いたしました。それも衛生面を含めた肉の品質管理もしっかりと行うことができる機材を設置した施設であるとの説明を聞くに当たり、うまく軌道に乗れば美作市にとって農業振興の維持、推進と美作産ジビエが都会人はもとより全国の皆様にも食されるという一石二鳥にもつながる施設が誕生すると期待しておりました。

そこで、今日まで試行錯誤を繰り返しながら、確実に萩原市長が進める施策の中でも戦略の柱として位置づけられている美作市獣肉処理施設についてお尋ねいたします。

まず１点目は、農林水産省が進めるジビエ倍増モデル地区とはどのようなものか。２点目は、ジビエ倍増モデル地区整備事業とはどのような整備をするのか。３点目は、事業費はどの程度を計画しているのか。４点目は、地元への説明、地元等との関係について。５点目は、美作市獣肉処理施設の運営状況と指定管理について。６点目は、ジビエモデル地区に指定されたことを受けて今後はどのように取り組まれるのか。

その前に、いつも質問のときに感ずることがありますので、大変申しわけないんですけども、まず質問者の私どもと答弁者の皆さんとではよくわかるんだけれども、これを市民の方が議場の状況を聞いたときにわからないと、こういうことを言われておりますので、特に最近はジビエジビエと言ってますけれども、高齢者の方なんかわかりませんので、まずその辺の説明をしてから６点の答弁をお願いいたします。

１回目といたします。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

最初に、それではジビエにつきまして若干説明をさせていただきます。

ジビエと申しますのは、狩猟で得た野生鳥獣の食肉を意味するフランス語でございます。鹿、イノシシ、それから野ウサギなど、食材として捕獲される野生鳥獣の全てがジビエということでございます。日本ではイノシシの肉をぼたん鍋などとして食べてまいりましたが、野生鳥獣を食材とすることは一般にはなじみが薄い状況であったと思います。しかし、近年鹿やイノシシによる農作物の被害が増大し、捕獲が進められるとともに、ジビエとして活用する動きが広まってまいりました。日本のジビエも捕獲後の処理や調理を正しく行うことによって安全においしく食べられるようになったというふうにされております。害獣とされてきたものを地域資源として食材利用する取り組みが各地で行われている状況であります。美作市では平成25年度から獣肉処理施設を設置しまして運営しております。このジビエの美作ブランドとして売り出しておりまして、今後ますます発展させていきたいというふうに考えております。

それでは、１点目から答弁させていただきます。

まず、モデル地区とはどのようなものかということでございますが、農林水産省から平成30年度の単年度事業、予算のほうは平成29年度から繰り越された事業でございますが、ジビエ利用モデル地区として全国か

ら17地区が選定をされました。鹿やイノシシの捕獲から販売までをビジネスとして持続できる安全で良質なジビエの安定供給を実現することを目指したものでございます。全国に食肉処理施設が563ある中で、先導的モデル地区として美作市、真庭市、奈義町の３自治体が参加する美作有害獣利活用研究コンソーシアム、こちらが選定をされました。近県では、鳥取県東部地区、それから兵庫県内広域区などがモデル地区となっております。このコンソーシアム、美作地区でございますが、美作市獣肉処理施設が核となりまして、ジビエカー導入により処理頭数の増とペットフード等の利用拡大に取り組み、広域連携によるジビエ利活用を進めて収益向上を図ることを計画をしております。

次に、モデル地区での事業内容と事業費について、あわせて答弁させていただきます。

美作市の事業としましては、拠点整備事業として獣肉処理施設敷地内に減容化施設１棟、冷凍庫１棟、資材保管庫１棟を整備するもので、事業費１億3,850万円を、それから真庭市の分としましてはジビエカー１台と保冷車１台の導入で、事業費2,750万円となっております。この拠点整備事業に対する国の補助率は55％ですが、美作市分の補助残6,232万5,000円につきましては獣肉処理施設の指定管理者であります大黒天物産株式会社、こちらに負担をしていただくことになっております。また、これとは別に補助率100％の食肉解体処理研修などの推進事業費として217万1,000円、こちらを活用することとしております。

次に、地元説明についてでございます。

地元の区長さんには計画申請をしました２月上旬に状況報告を行いまして、計画実施する際には地元説明を行うことをお伝えをしております。また、地元関係者に４月７日に大黒天物産株式会社が行った美作市獣肉処理施設の開業式典にも御出席をいただきまして、運営管理の変更と今後の事業展開などについて理解を求めたところでございます。このたび導入を計画しております減容化施設といいますのは、微生物により個体を処理する施設で、処理の特徴として悪臭が出ない、それから排水がない、そういった施設を計画をしております。

次に、獣肉処理施設の運営状況と指定管理ということでございますが、この獣肉処理施設の計画処理頭数はニホンジカが600頭、イノシシ400頭の年間1,000頭でございましたが、平成29年度の食肉処理頭数はニホンジカ1,047頭、イノシシ181頭でして、市内全体の捕獲頭数と比較しますとニホンジカが4,442頭のうち24％、イノシシが1,155頭のうち16％と、こちらが搬入されて処理されているということになっております。また、施設の運営管理を指定管理者によることにしたことによりまして、民間が持っている販路等によりこれまで使っていなかった部位の活用など新たな活用策も検討されておりまして、期待をしているところでございます。

次に、モデル地区としての展開ということでございますが、ジビエモデル地区として施設整備を行うことで全国有数のジビエ拠点となるとともに、有害獣対策の先進地として取り組んでいくことが求められております。本年夏には国産ジビエ認証制度の取得を予定しております。より安全なジビエを提供する施設として消費者の拡大、ジビエに対する安心の確保を図ってまいりたいというふうに考えております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

内海議員。

１７番（内海　健次君）

２点目。

よくわかりました。ただ、やはりマイクの向こうの市民の方はなかなかわかりづらいところがあると思うので、再三にわたって説明をしてやってください。

ちょっともう二、三点聞きたいことがありますので、質問いたします。

１点目、拠点事業、拠点整備事業として獣肉処理施設敷地内に減容化施設１棟を設置するということですが、何に使用する施設なのかわかりません。

それから２点目、この施設の契約処理頭数と市内の捕獲頭数と比較したときに、ニホンジカが24％、イノシシが16％とのことですが、その数値をどういうふうに判断したらいいか教えていただけますか。

３点目、国産ジビエ認証制度を取得した場合、何を根拠に消費拡大ができるのか。ビジネスとしてやっていける、そういう根拠をちょっと説明してやってください。

４点目が、指定管理者として施設運営管理を委託している大黒天物産株式会社とはどのような会社なのか、企業評価も含めて会社概要についてお願いを申し上げます。

以上、４点。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

２回目の答弁をさせていただきます。

まず、減容化施設、これ何をするかということでございますが、減容化施設といいますのはイノシシやニホンジカの個体そのものと、それから現在も獣肉処理施設から処理した際に残渣、使えない部分が出てまいります。これらを微生物の働きで分解して処理するという施設です。計画では24時間で約２トンの処理ができる施設ということで、搬入個体が平均40キロといたしますと、24時間で50頭分の処理ができる、そういった施設の整備を計画しております。獣肉処理施設から出る残渣は現在美作クリーンセンターに搬入しておりますが、減容化施設で処理することによりまして作業効率が改善するものと思われます。また、減容化施設を整備することで受け入れから残渣処理までがスムーズになり、ペットフードへの利用拡大や、最終的には美作市内で捕獲された個体を全頭処理するといったことが期待をされているというものでございます。その個体の全頭処理といいますのは、もともと猟友会から要望されていたものでございます。また、指定管理者である大黒天物産株式会社もこの減容化施設の導入を希望をされておりました。

２点目で施設を整備することで処理頭数の数値ということでございますが、１回目の答弁で市内での捕獲頭数に対する処理頭数の割合を答弁させていただきました。現在の獣肉処理施設での処理は食肉として利用できるものに限っております。この搬入の条件を猟友会と協議しながら今後徐々に緩和して、搬入していただく頭数を増やしていきたいというふうに考えております。また、平成29年度の食肉処理頭数がイノシシ、ニホンジカを合わせまして1,228頭でございますが、真庭市それから奈義町からの搬入を加えまして、なおその処理体制を整えた上で年間1,800頭以上の食肉処理を目標としております。

３点目の国産ジビエ認証制度を取得して期待できるものということでございますが、国産ジビエ認証制度と申しますのは施設の衛生管理基準や食肉の流通機関、適切なラベル表示、そういったことが行われている食肉処理施設を認証することによりましてより安全なジビエを提供し、消費者のジビエに対する安心感を確保しようとするもので、現在農林水産省が認証機関を募集している状況であります。この国産ジビエ認証制度の認証マークを表示することによりまして今まで以上にジビエが身近な食材となりまして、消費量が増大することが期待をされております。美作市獣肉処理施設におきましてもこの認証を取得しまして、ジビエ倍増モデル事業の取り組みとあわせて販売量を平成28年度の11トンから20トンに増加させることを目標としております。

次に、指定管理者となっている大黒天物産株式会社でございますが、倉敷市に本社がございます。昭和61年の設立で資本金16億4,000万円、連結売上高が1,554億円ということで、従業員数は社員1,182名、パー

ト、アルバイト4,705名の会社で、主たる事業内容はディスカウントストアであるラ・ムーなどを運営されております。そういった小売店の運営と総合食品卸売業の会社でございます。店舗は中国、関西地域を中心に、西は福岡県、東は新潟県まで128店舗を展開されております。また、笠岡市の農場５ヘクタールで野菜栽培、矢掛町で酪農1,000頭、滋賀県で養豚400頭と自社ブランド生産に取り組まれておりまして、ジビエの推進、また販売促進についても非常に熱心な会社であるというふうに思っております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

内海議員。

１７番（内海　健次君）

３回目。

食肉処理頭数1,800頭は、これは達成可能な数字かな。３点目。ぜひ達成可能というより、達成を目指してやっていただきたいなと、こう思っております。

それから、大黒天物産、実はこれもう私も15年か20年前に民間時代に倉敷から水島に抜けるところかな、沖新から西中新田、あっちへ向かようたときによう見とんです、大黒天物産、これどこのどういう会社かなと思よったら、今ラ・ムーが出たもんですから、ここなら本当に大丈夫だろうと、安心しました、改めて。

それじゃ、総括に入ります。

市長が３月選挙中、遊説中に、これからの獣肉処理施設の取り組みとしてジビエ産業として位置づけるためにジビエの里の確立を目指して指定管理者制度に移行させるとともに、経営の安定と拡大を促し、さらには美作ジビエのブランド化を推進する、そして関西地方へのイベントなどにも参加して美作産ジビエのＰＲを拡大すると公約されていましたが、いずれにしても獣肉処理施設は国が進める地方創生に結びつき、市長が掲げている美作市まち・ひと・しごと総合戦略を確実に達成するために必要な柱の一本となると確信をしております。即戦力として生かし、大きく育成し、有効活用されることを期待しております。全国的にも非常に希少価値のある施設であると国も認めている証が17カ所の一つに選定されたものと思っております。さらには、今年度より指定管理者制度にも移行して運営と管理についても民間のノウハウを導入して、３年間にわたり取り組まれるとのことですが、全面的に一任するのではなく、しっかりと連携を図り、運営管理も把握しながら国の選定基準が満たされる施設になることを強く要望いたします。

最後に１点だけ、現在気になっていることについて触れておきます。

突然ですが、きょうは６月12日、安藤議員もおっしゃいましたけども、今同時期にシンガポールにて世界が注目する米朝会談がまさに現在行われております。トランプ大統領と金正恩朝鮮労働党委員長との世紀の対話がどうなっていくのか、拉致、核、ミサイルの問題等を抱える日本にとって国民の一人としても無関心ではおられません。大変気になる問題であると認識しておりますので、皆様も一緒にいいニュースを聞くことができることを祈って、６月定例議会一般質問を終わります。最後まで御清聴ありがとうございました。

議長（鈴木　悦子君）

以上をもちまして通告順番４番、議席番号17番内海健次議員の一般質問を終了します。

続きまして、通告順番５番、議席番号13番山本重行議員の発言を許可します。

山本議員。

１３番（山本　重行君）〔質問席〕

それでは、議長の許可をいただきましたので、私の６月の一般質問をさせていただきたいと思います。

私は今回３点にわたりまして通告をいたしております。

１点目として美作市の地域防災の取り組みについて、２点目が豪雨災害、平成21年でございますけれど

も、被災地域への防災対策と地域の課題について、滋慶学園の学生数及び愛の村の学生の宿泊者についてというような形で通告をいたしております。これまでの一般質問の中で既に幾らかお知らせいただいたところもございますけれども、きょう初めてみまちゃんネル見られる方もおられると思いますので、改めて質問いたしますので、よろしくお願いいたします。

それでは、まず１点目でございます。

美作市の地域防災の取り組みについてというふうなことでお願いをいたします。

まず、市民を災害から守るための施策について、近年の地球の温暖化に伴う集中豪雨の増加であったり台風の大型化による各地の風水害の多発傾向、そして東日本震災初め、震災では多大な人命を失う、また財産を失う、そういったことはたくさん起きております。こうした中で、美作市の防災計画は災害基本法の改正や国の基本災害計画及び岡山県の地域防災計画の変更を受けて、東日本大震災の教訓を踏まえた災害時の被害を最小限とする減災の考え方を防災の基本方針として、地域防災力の向上や災害時の即応力を強化する、図るものとされております。そして、防災計画の目的は災害予防、災害応急対策及び災害復旧を総合的、計画的かつ有効に実施することにより住民の生命、身体及び財産を守るとともに、風水害、地震などによる被害を最小限にとどめ、社会秩序と公共の秩序を確保するものとされております。そうした計画や目的に沿った施策が取り組みができているのか、次の点についてお尋ねをいたします。

まずは、市民を災害から守る具体的な施策についてお尋ねをします。

その中に、具体的な施策の中に入ると思いますけども、別個に防災設備の内容について、防災訓練の内容について、消防団の組織維持について、消防団については特に過疎化と高齢化というふうなことで、維持が困難になっている地域の実情の把握とかあるいは対策についてお尋ねをいたします。

次に、５点目として河川管理上の問題点について、市が管理する河川でのしゅんせつの要望に対応できているか。

以上、５点についてまずお尋ねをいたします。

議長（鈴木　悦子君）

危機管理監。

危機管理監（藤原　陽二君）〔登壇〕

山本重行議員の質問の１番から３番までの答弁をさせていただきます。

１つ目の市民を災害から守るための施策についてですが、山本重行議員の御質問の中にありました減災の考えが美作市地域防災計画の基本方針となっております。減災に最も有効なのが自助、共助の考え方です。例えば平成７年の阪神・淡路大震災では、地震により倒壊した瓦れきの下から救出された人のうち、約８割が家族や近所の方によって救出されたという報告があります。自分の身を自分の努力によって守る自助の取り組みとともに、ふだんから顔を合わせている地域や近隣の人々が集まって、互いに協力し合いながら防災活動に組織的に取り組む共助の考え方が非常に重要になってきます。そこで、地域住民が連帯し、地域ぐるみの自主防災組織が大変重要になります。美作市といたしましても、引き続き自主防災組織の立ち上げや訓練等の相談を承っておりますので気軽に御相談ください。

２つ目の防災組織の内容についてですが、美作市の防災のかなめは常備消防と美作市消防団です。他の防災組織は、美作市には平成30年４月１日現在、婦人防火クラブが２団体と自主防災組織が138団体、9,482世帯、２万2,081人が組織され、組織率といたしましては77.9％となっています。岡山県の組織率は74.3％になっています。また、自主防災組織23団体へ防災に関するテントやトラメガなどの備品購入及び防災士資格取得に対して補助を行っています。

３つ目の防災訓練内容についてですが、平成29年度の訓練状況につきましては消防本部も含めまして109団体、4,440人に対して防火防災に関する講話、避難訓練、消火訓練、地震体験、煙体験などを実施して防災意識の高揚を行っています。また、次の美作市の防災訓練は平成31年度、美作地区で考えています。

以上です。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

消防長。

消防長（皆木　佳久君）〔登壇〕

それでは、④番の消防団の組織の維持についてお答えさせていただきたいと思います。

美作市消防団員の条例定数は2,191名であり、現員数は本年４月１日現在におきまして1,939名となり、定数より252名少ない状況となっております。団員確保には努めてはおりますが、人口減少あるいは高齢化により定数に達していないのが現状でございます。美作市防災基本計画の中にも消防団の充実あるいは強化、活性化がうたわれております。団員確保の手段といたしまして消防団募集パンフレットの配布あるいはポスター掲示、さらには各地域におきまして消防団の必要性を呼びかけているところではございます。また、新たに機能別消防団員を設け、学生団員導入により災害時の避難所開設等に従事し、消防団活動の補完を行いたいと、本議会におきまして新規条例案を上程しているところでございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）〔登壇〕

山本議員の５番目の河川管理上の問題点についてということでお答えをさせていただきます。

近年の甚大な被害をもたらす豪雨は、長時間にわたり局地的、集中的に降るなど想定を超える降り方をする傾向が高く、被害発生のニュースなどではたびたびよく報道をされているという状況でございます。美作市では、平成21年の被災経験から水害等に対する市民の方々の防災への関心は高く、河川に対する要望が多く出されておるということでございます。要望の多くは県河川のしゅんせつなどが多いわけですが、それ以外の県が管理する以外の普通河川の要望でございますけれども、主なものはしゅんせつや護岸の補修となっておりまして、対応済みのものを除き約30件余りを受け付けております。対応といたしましては、堆積の程度や保全対象物の状況によりまして河川の通水断面の阻害のぐあいとか、それにより被害を受けるものがどういうものがあるかとか、面積がどの程度あるかというようなことから、状況を見ながら優先度により実施しておりまして、本議会におきましても河川費の増額補正をお願いをしているというところでございます。梅雨に入っております。気を抜かずに、少しでも市民の方々の不安が取り除かれ、防災・減災につながるよう対応に当たってまいりたいというふうに思っております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

山本議員。

１３番（山本　重行君）

一通り答弁をいただきました。

まず最初に、災害から市民を守るための施策というふうなことでは自助、共助によって減災に努めると、そして自主防災組織の向上に取り組んでいる。また、防災訓練は昨年度は109団体、4,440人実施して、防災意識の高揚を図っているとのことでございました。災害時には正確な情報によってでき得る限り素早く行動することが重要でございます。美作市の防災計画には災害時の避難は自主的に、また避難勧告、避難指示に

基づいて行う、また避難行動要支援者にあっては車両等も利用して迅速な避難に努めるものとされています。どのような災害時の状況、段階、判断基準で避難準備情報であったり避難勧告、避難指示を出すのか、またそのことはどのような形で市民に周知されるのか、まずその点をお尋ねしたいと思います。

それから、防災組織につきましては、先ほど答弁の中にございました阪神大震災では近所の方が活躍したというふうなことでございましたけれども、実は阪神大震災あるいは東日本大震災でも自主防災組織としての機能は十分でなかったというふうなことが言われております。結局いざ災害となるとやはり防災組織の部分が入りますけど、家族のこと、隣近所のことで精いっぱいだったと、それ以上のところには手が回らなかった、そういったことが防災組織の関係者の言葉でございます。防災組織としてはやはりできるだけ隣近所、小単位で動ける体制というのを日ごろから考えていく必要があるんではないかというふうに思っております。これは別に答弁はよろしいです。

それから、消防団の組織維持についてでございます。

私も言いましたし、答弁の中にもございましたけれども、過疎化と高齢化ということにかかわりがございます。同じ過疎化であったりあるいは高齢化といってみても、市内においても随分違うわけです。私の作東地域にあっても、私のふるさとのほうになりますか、福山地区とそして江見地区では消防団にしても非常に違うわけです。そうした中で毎年操法大会がございます。支部での予選があって、所によっては35歳、40歳を過ぎて選手として出場しなければならない。そうすればやっぱり練習を、私たちもずっと何回かやってきましたからわかるんですけども、３カ月間ぐらい、週二、三回、夜間の練習をするわけです。昼間の仕事に差し支える、消防団やめたいとの声あるいは地域の消防の幹部にあっては上からどうしても操法に出てこいというふうな声があったり、片やそういったことについていけない高齢の方の消防団員があられたというふうなことでやってられないなというふうなことで、消防団の組織維持が非常に厳しくなっているところがございます。どのようにされるのかお尋ねをいたします。

次に、河川管理上の問題についてでございます。

河川に土砂が堆積しておりますと河床が上がって、田畑はもちろんのこと、家屋への浸水につながることが出ます。先ほど答弁にあったように、しゅんせつの対応を要望しております。できるだけやるというふうなことでございました。できるだけ対応していただきたいというふうに思います。私のほうの身近なところで櫛田川というところがございます。あそこでは災害復旧工事が岩着によって、裏に岩にブロックをしているんですけども、裏のぐり石というのが流れてしまって、上には草が生えている、下は空洞というふうなところがございました。その場所は対応していただいたんですけれども、そういったところについても十分今後河川を管理される上で注意していただきたいというふうなことを要望しておきたいと思います。

以上で２回目の質問をお願いします。答弁をお願いします。

議長（鈴木　悦子君）

危機管理監。

危機管理監（藤原　陽二君）〔登壇〕

山本重行議員の１と３の御質問について答弁させていただきます。

１つ目の質問ですが、美作市では河川の増水による避難情報、土砂災害危険度情報等を岡山県や気象庁のホームページで確認しています。また、同等な情報が県民局等からファクスや電話で連絡があります。その情報を参考にして避難準備、高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示等を出しますが、美作市の災害状況を考慮し、岡山県の情報より早く出す場合もあります。

地震について、美作市は震度４以上なら防災体制をとり、震度５強以上は美作市災害対策本部を設置しま

すので、災害状況等の情報収集をして人命を第一に考えながら避難指示等を出します。市民の皆様に避難勧告、避難指示等の周知は告知放送、美作市一斉メール、美作市公式アプリみまさかｏｎｌｉｎｅ、ケーブルテレビのデータ放送、エリアメール等を活用します。

３つ目の質問ですが、昨年度に実施した総合防災訓練は防災関係機関、住民、災害協定締結団体等が合同して訓練を通して災害対応能力の強化、各関係機関相互の協力、連携体制の確立、防災意識の高揚を図ることを目的に実施いたしました。訓練後の反省会についてですが、負傷者応急救護訓練について災害協定締結団体との協議において、１、指示、伝達が十分にできなかったことにより対応が十分でなかった、２、日ごろから保健師等も含め研修、訓練をしていく必要がある、３、医師の即時対応はできていたなどの意見をいただいておりますので、今後の連携体制等に反映していきたいと考えております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

消防長。

消防長（皆木　佳久君）〔登壇〕

それでは、消防団の組織の維持についての２回目の御質問に対してお答えをさせていただきます。

過疎化、高齢化にあっては地域差があり、消防団においても組織維持が厳しい地域が出てきているということの御指摘かと思っております。中でも先ほど言われましたとおり、操法大会向けの練習にあってはお仕事を済ませてから夜遅くまで本当に消防団員の皆様には大きな負担がかかっている実情をお聞きいたしまして、選手のみならず関係者の皆様方には大変感謝いたしますとともに、頭の下がる思いでございます。操法の方面大会につきましては、各方面隊でさまざまな方法で大会が運営されております。日ごろから各消防団員さんの御意見を真摯に受けとめ、方面隊会議、さらには本団会議にお諮りをいたしまして、地域防災のかなめとなる消防団の組織維持を検討、研究してまいりたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

山本議員。

１３番（山本　重行君）

避難指示、避難勧告についてでございます。

５月21日の新聞に出ておりました、昨年の九州の北部豪雨のときに福岡県の東峰村というところでございますけれども、８時間で743ミリというふうなことで、その村の村長さんが強く降り始めた午後１時ごろから降り出したと。その１時間後に村長は避難準備情報を出した、そして高齢者や体の弱い人は早目に避難を呼びかけたというふうなこと。そして、さらに１時間後には避難勧告を出した。そのときはもう川の氾濫が始まっていた。そして、１段上の避難指示を出す余裕はなかったというふうなことでございます。もし避難指示を出していたら、住民が移動し、流されたり、土砂崩れに遭っていただろうというふうなこと、載っております。この新聞の中にはそういったふうなことを言われております。21災のときにも隣の佐用の幕山というところがございますけども、そこでは町役場のほうの指示に従って逃げかけた人が流されて亡くなられる、みずから２階のほうへ上がってとどまった人が助かったというふうなことがございます。どの段階で出すのか、非常に難しいことだろうと思います。

私も職員のときに１時間、短時間だったんですけれども、67ミリというふうな雨が降って、電話はかかってくるし、どうしょうかなというふうなところで、消防団長と相談したりしてそのときは避難するような形での指示も何もしなかったんですけれども、やはり空振りになっても早目に指示といいますか、そういったほうを出したほうがいいんかなというふうに思ったり、また日ごろからそういった地域の情報が入る形での

連絡網というのをとっていく必要があるんじゃないかなというふうなことを思いました。特にここでの次の質問はございません。消防団につきましても、先ほど消防長言われました形で精いっぱい地域の安全が守れるような形での消防団の維持に努めていただきたいなというふうに思います。

防災訓練の関係でございます。

先ほど反省会もされているというふうなことでございましたから、特にどうのこうのということはございませんけれども、１つには評価員というのを置いてそれぞれの防災訓練のやり方について評価をする形でやっておられるところがございます。こういったことも参考にされたり、あるいはこれは学者の方が言っておられるんですけれども、総合防災訓練も訓練の代表によってシナリオどおりにやって、その訓練が成功したからといって、それが一つの目的が達成したというふうなことを思っているところがあると、それは本末転倒ではないかというふうなことを言われています。いざ災害のときに役立つ、そういった訓練に心がけていただきますようにお願いをいたしまして、この項の質問は終わりたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

山本議員、２項目めは休憩の後でお願いします。

これより10分間休憩いたします。

午後１時59分　休憩

午後２時10分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

それでは、山本議員、２項目めから始めてください。

山本議員。

１３番（山本　重行君）〔質問席〕

それでは、２項目めの質問に入らせていただきます。

平成21年の豪雨災害の被災地域の防災対策と地域の課題についてというふうなことで、１点目としてこの間、被災地域、土居、江見の防災対策はどのように進められたのか。

２点目として、土居地区のメガソーラーの問題点について。

３点目として、大還橋の井堰の転倒化、改修にどのように取り組まれてきたか。

そして、江見商業の跡地の利用について。

そして、江見の公民館の建てかえの予定はあるのかというふうなことでお尋ねをいたします。

平成21年８月９日、美作市は土居、江見地域を中心に台風９号により集中豪雨に見舞われました。死者１名、負傷者４名、家屋の全半壊128戸、床上浸水204戸等、大きな被害に見舞われました。そのとき、今後いつ発生するかわからない災害を風化させることなく、災害の教訓と反省を生かして安全・安心なまちづくりを進めていくとの決意のもとに、語り継ぐ豪雨災害として記録として残しております。これがこれでございます。土居、江見地域においてこの教訓や反省のもとに安全・安心なまちづくりの推進がどのように進められてきたのか、地域の政策課題と関連をしてお尋ねをいたします。

１、この間の被災地域、土居、江見の防災対策の内容について。

２として、土居地区のメガソーラーの問題点について、21年災害の教訓や反省が生かされてないのではないかと。

そして、大還橋の転倒化、改修の今日までの取り組みの経過と内容についてお尋ねをいたします。

４点目として、江見商業高校の跡地の利用はどのように考えているのか。

江見の公民館の建てかえの予定はあるのか。

以上、５点についてお尋ねをいたします。

議長（鈴木　悦子君）

危機管理監。

危機管理監（藤原　陽二君）〔登壇〕

山本重行議員の１つ目の質問に答弁させていただきます。

土居地区、江見地区の自主防災組織は平成21年の豪雨災害までは両方合わせて２団体249名でしたが、豪雨災害以降は自主防災意識が高くなり、３団体1,220人が加入して、合計で５団体1,469人が加入し、約95％が加入しております。豪雨災害以降で土居地区、江見地区で避難訓練、防災講話は30年５月１日現在、66回実施し、2,670人が参加しています。山家川付近の河川監視カメラは角南、白水、福山、江見に設置しています。雨量計につきましては、角南と福山に設置しています。防災マップにつきましては、平成22年度に避難場所、土砂災害警戒区域の地すべり、土石流、急斜面と平成21年度浸水実績等を表示し、災害時の早い避難をお願いしております。また、平成27年度に避難所等の見直しをしています。岡山県の事業ですが、山家川の関連河川工事の事業費と田原の急傾斜事業は合計で約65億円であったと伺っております。

以上です。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部次長。

企画振興部次長（春名　信明君）〔登壇〕

山本議員、２項目めの御質問にお答えさせていただきます。

土居地区のメガソーラーの問題点について、21年災害の教訓や反省が生かされていないのではないかという御質問ですが、地域住民の方々の安全・安心のための防災対策につきましては市と事業者との事前協議の際に雨水の河川への流入について、平成21年の災害を経験した地元住民の皆さんは大変心配されているので、県が21年災害を念頭に置いてつくった基準の1.5倍の降水量を想定した調整池、砂防ダム等を設置し、地元合意を得るようにとの市からの意見を付して通知しまして、事業者は事業計画にこの意見を反映させて県による許可を受けているというものでございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）〔登壇〕

豪雨災害、平成21年の被災地域の防災対策と地域の課題についてということで、３番の大還橋の井堰の転倒化、改修にどのように取り組まれたかということの答弁をさせていただきます。

大還橋井堰改修の経過につきましては、平成19年７月に地域防災の観点から江見地区からの改修要望が出されております。農業農村整備事業――いわゆる農林事業でございますけど――の事業化に向け採択要件について協議検討をしておりましたが、平成21年８月に豪雨災害が発生いたしまして、大規模な災害復旧計画が実施されることになりました。当井堰につきましても、改修計画がなされるよう強く要望を行っております。しかしながら、当井堰は改修計画の対象とならず、他事業の対応を余儀なくされております。

翌平成22年より農林事業での事業採択に向けて計画書の作成を行い、関係機関と協議検討を重ね、平成25年度事業着手を目標に地域への説明を重ねて行ってまいりましたが、防災受益と耕作受益や事業の分担

金、維持管理費などの問題で関係者間での調整がつかず、やむなく平成25年に関係者との協議の上、事業計画の中止ということになっております。今後事業実施に向けて関係者の機運の醸成を見ながら推進を図ってまいりたいというふうに思っております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

政策参与。

政策参与（山下　　亨君）〔登壇〕

山本議員の江見商業高校の跡地の利用についてとの御質問でございます。

旧江見商業高等学校の跡地につきましては、平成21年３月に閉校されております。それ以来、管理は林野高校のほうで行っておられます。この旧校舎等の利用につきまして、作東中学校の新築工事のため岡山県の教育委員会と市のほうが協議をいたしまして、平成22年４月から24年３月の２年間、仮校舎として使用された経緯がございます。その当時、跡地に関しましては、これはいろいろな記録が残っておりますが、無償あるいは有償譲渡という議論を重ねております。そのように聞いております。一方で、跡地の利用に関しましては、誕生寺の特別支援学校の分校として利用したらどうか、そういった提案がなされ、あるいはそういった議論、あるいは協議も行われたようではありますし、これは平成21年、24年ごろの記録として残っております。あるいは宿泊型の特別養護老人ホームをこの学校に持ってきたらどうだろうかといったような声もありました。こういったことが確たる方向性のないまま議論が進んでいない状況で今日に至っておるわけであります。

また、高校跡地エリアは吉野川と山家川と落ち合う場所であります、落合と言われるところでありまして、雨台風や集中豪雨が来襲しますと川が氾濫をして堤防を越える、あるいは大洪水をもたらすといった過去がございました。私たちの子どものころ、昭和三十五、六、七、八、九、あのころはずっと毎年のように雨台風、大洪水といったような時代でございました。そういったことを大勢の方がまだ今でも記憶をしておりますし、この間21年の大災害につきましては８月の大洪水、これは扇状降水帯が参りまして、珍しい相当の雨量、１時間に89ミリあるいは80ミリ以上の雨量をもたらせましたが、これで江見の全域が冠水、床上浸水、こういった状況がございました。これ我々まだ記憶に新しいところでありまして、災害防災というものの災害対策基本法の基本となる部分の教訓ということで、我々が学んでこれからの行政に生かしていかなきゃいけないところだと思います。

このときに江見商業高校の跡地のグラウンドあるいは体育館、校舎棟が土砂、ヘドロに覆われました。私も参りましたが、復旧には相当時間がかかっておりました。平成21年の災害の後、そういったことで皆さんで力を合わせてボランティアを投入したりして復旧はしていったんですが、山家川の拡幅、川幅の拡幅、あるいは井堰の改修、そういったこと、これ井堰は８カ所改修されたと聞いておりますが、江見から土居にかけての改修を行ったことであります。これは先ほど答弁がございましたように、大還橋の下の井堰改修工事、これバタン式というんですか、こういった形で大量に一気に水が出た場合に水が滞留しないで、あるいは落合の水のすれ違いあるいはうまく水が流れるようにするための水量の低下、これを見据えた井堰改修工事、これをまずしなきゃいけないんじゃないかということでございまして、これが今部長も答弁がありましたが、そういった形の検討を見据えながら、江見商業の跡地の譲渡、無償、有償譲渡、これを視野に入れまして岡山県の教育委員会との協議をこれから進めてまいりたいと、このように考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

江見地域にございます作東公民館の建てかえ予定についてのお尋ねでございますが、この作東公民館は昭和48年に完成、建築からは44年経過した今日も地域の活動拠点といたしまして地元住民の方々を中心に多くの皆さんが利用されている施設でございます。建物の老朽化、耐震等を考慮いたしまして、また先ほどの御質問にもございました地域の防災拠点としても施設の建てかえの検討が必要であるというふうに考えております。

現段階では公民館としての利用だけでなく、総合支所の機能を含む複合施設とすることを含め、地域の皆様や利用者の御意見をいただきながら検討を進めていきたいと考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

山本議員。

１３番（山本　重行君）

一通り答弁をいただきました。

２回目の質問をさせていただきたいと思いますけれども、先ほど見せた語り継ぐ豪雨災害というのはずっとこういったものがあって、皆さんに見ていただきたいというふうなことでございます。21災のときのあの日の作東地区の状況というのはこの中にございます。次のように記録されてます。これは多分作東支所の職員の言葉だと思います。19時ごろから今までに経験したことのないような、まさにバケツをひっくり返した豪雨がやむことなく降り続いた。これは大変なことになると、これ吉野からとあります、吉野のほうから作東支所に行くと、国道179号線が竹田で冠水しているので車をとめてくれ、家が孤立している、子どもがいるので助けに来てくれなどの電話への対応で支所がパニックの状態になった。そして、田原での土砂崩れの悲惨な情報も入った。江見地区では金澤医院の裏の駐車場で車の中に子どもが閉じ込められている、水の流れが強過ぎて助けに行けない、またつるやの前で車が水没し、助けを求めているなどなど、逼迫した情報が次々に入ってきたのである。このような災害が二度と来ないことを祈っておるが、災害はまたいつ来るかもしれない。そんな思いを住民が持ち続け、いかに災害と立ち向かわなきゃならないかを今後の課題とし、また教訓として生かさなくてはならないと思ったと記録してあります。

先ほどの答弁のように、21災後、当時大きな被害に見舞われた福山、土居、江見を流れる山家川には雨量計や水位計もなく、情報が乏しかった。こうした反省から、作東地区を初め、市内全域に雨量計であったり河川の監視カメラなどを設置し、またみまちゃんネルでリアルタイムで市民に水位の情報がわかるように、またハザードマップも配布されまして、避難の指定場所とかあるいは浸水地域、地すべりの危険箇所、そういったものを記載されたマップを各戸に配布されております。また、先ほどの答弁では、江見、土居については防災訓練も何回もやったというふうなことでございます。そして、一番大きいのは山家川であったり吉野川には大きな改修も実施されたところでございます。がしかし、このことも十分踏まえてのことでございますけれども、近年の全国各地での豪雨、そして先ほどのような状況の反省から、行政として考える対策として次の点から再度お尋ねをいたします。

まず、土居のメガソーラーについては、確かに1.5倍の容量の調整池を施工されておりますけども、山の保水は全くなくなる、そして流速は早まる、また調整池で受けないところの水量、そういったところについてどうお考えになっているのか。

それから、大還橋の井堰につきましては、改修に向けて新たな事業策定に向けて防災受益と耕作受益との調整、あるいは事業分担金、維持管理費等の問題が解決する見通しはあるのかどうか。

そして、江見商業についてはいろいろと聞いているわけでございますけれども、先ほどの答弁によりますとまだ何も決まっていないというふうなことでございましたので、この点についてはよろしいです。

次に、公民館の関係でございます。確かに公民館については建てかえをしてほしいというふうな要望は十分聞いております。がしかし、先ほど私が言いました21災のときの同じような形で同じような時間帯であいった豪雨が降ったときに、ではあそこを防災拠点としてどうしてあそこに近づくことができるのでしょうか。そして、支所機能も持っていくんだというふうな話もございましたけれども、本庁があるといえ、支所については作東地域についてまさに災害のときにはいろんな情報を仕入れて、そして指揮をしていかにゃいかん、そういったところに職員があいった状況のときにどうして行けることができるのか、この点について再度お尋ねいたします。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部次長。

企画振興部次長（春名　信明君）〔登壇〕

山本議員、２回目の御質問でございます。

土居のメガソーラーについては1.5倍の容量の調整池を施工しているが、山の保水力がなくなる、流速が早まる、また調整池が受けないところの水量についてはどのように考えているのかとの御質問でございます。

岡山県に確認しましたところ、山の保水力の低下、流速の変化等を勘案した上で事業計画地からの雨水の排出量が河川の下流の排水能力を超えないように、必要な容量の調整池を設けていることとしておりまして、その容量はごく一部の事業計画地の外側斜面から直接河川に流入する雨水の量についても考慮したものとなっているということで、基準上、安全が確保されているとお聞きしております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）〔登壇〕

山本議員の２回目の御質問です。

先ほど議員のほうから御質問ございましたけれども、私も当時建設課の工務課で勤務しておりましたけれども、招集がかかって、若干おくれたんですが、こちらのほうへ向かおうとしたら既に稔橋というのがかけかえてありますけれど、その上を水がオーバーしているというような状態で、すぐ引き返して作東支所のほうへ行ったというようなことでございました。大変な雨でした。その後も先ほど農協の辺が浸ったという話もございましたけれど、私もその現場におりましたし、つるやの中に人が残されているとか、車の中に人がいるとかというような現場も目の当たりにした経験がございます。

岡山県では、その被害が大きかったことを受けまして、山家川についてはそのときに降った雨を想定して、その雨が流れるということを想定した断面で改修がなされました。また、吉野川については、その雨が相当流れてくるということで、災害復旧緊急事業ということで、川を広げることがなかなか難しいため、堤防を築堤するというふうなことでございました。一部できていないというところもございますけれど、ほぼできております。

それから、御質問の大還橋の井堰ですけれど、井堰についても一応の改修はできておると言いながらも、ネックになるのは井堰があるというのがネックになるのは確かであります。したがいまして、今後の対応でございますけれど、前回のお話が維持管理費とか受益者分担金ということが最終的にはネックになって折り

合いがつかなかったということが現実的にあります。できれば国土交通省のほうの河川改修でやっていただければ地元負担がなくできるわけですけれど、今となってはもう難しいというふうに思っておりますので、負担が要る農林事業で対応していかなければならないというふうに思っております。見通しにつきましては、これらのことの負担金を誰にどこに求めるかというようなことを整理していく必要があると思いますので、その進展次第であるというふうに思っております。市としても努力していかなければならないというふうに思っております。

以上です。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

私も美作市に参りましてすぐ土居の小学校で防災キャンプの講座がございました。地元の方からどのような状況であったか直接被害に遭われた方からお話を伺う、あるいは当時の教育次長はその21災を本当に体験し、切り抜けたという当事者でございましたので、ここに河川カメラをつけたんだとかあるいはこういう状況であったと、もう１カ月ぐらい家には帰れなかったとかというような状況をいろいろと教えていただきました。

そうした中で、この公民館の場所というのがどうなのかということでございますが、今作東公民館の隣には中学校がございます。作東中学校をあそこに建てかえるということにつきましてもいろいろな協議があったやに聞いております。しかしながら、敷地を高さを変えるとか、そうした中で検討されてそこに建てかえに至ったというふうに聞いております。

今、再度御答弁のときに申し上げましたけれども、支所機能を含む複合施設とすることも含めて、まずはやはり地域の皆様のお考えあるいは利用者の御意見というものを十分にいただきながら検討しなければならないというふうに考えておりますので、これからしっかりと伺ってまいりたいと思っております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

山本議員。３回目です。

１３番（山本　重行君）

まず、メガソーラーの関係でございますけれども、保水の方法、吹きつけによる形になるんかどうかわかりませんけれども、その能力といいますか、保水の能力が発揮するまでにも相当時間がかかると思うんです。そういうふうなことで、その点も非常に不安もございます。そういった点についてもできる限りやっぱり県なりと業者との交渉をしていただいて、その辺の不安がとれるような形で進めていただきたいというふうなことを要望をしておきます。

それから、大還橋の関係につきましても、当時あるいは維持管理費が特にもめたというふうに聞いております。その辺についてもできる限りやはり早急に話を進めていただきたいというふうに思います。

それから、公民館、確かに教育長言われたように地元の方の意見もあったり、そういった要望もあるということも十分承知しておりますし、中学校の話もございました。あえて私がきょうこういって出したところにはやはり市民の安全・安心というのがまず優先すべきではないかというふうなことで今回質問をさせていただきました。いろんな具体的な中学校とか出されましたけれども、一番大きなのは津波で被災をした地域、そして大雨によってもそうですけれども、公共施設というのは徐々に高いところへ移していくというのが今各地で進んでいる、そういった状況にあるわけでございます。特にあの場所を防災拠点あるいは支所機

能というふうなことについてはどうかなというふうなことを思っております、私自身は。それは今後皆さん方とお話をされて決定されていくことだろうと思いますけれども、あえて私はこの点についてはそう申し上げまして、質問を終わりたいというふうに思います。

続きます。

議長（鈴木　悦子君）

続きまして、３項目めに入ってください。

１３番（山本　重行君）

３項目めに行きます。

３項目めです。この春開校したスポーツ医療看護専門学校の看護学科、介護福祉学科、柔道スポーツトレーナー学科の募集定数と学生数について、また日本語学科の開校予定とそれから見通しについてお尋ねをいたします。

また、高等学校のスポーツ専攻、医療福祉専攻、医学薬学専攻、そしてロボットプログラミングコースのそれぞれの募集定数と学生数について、また愛の村の学生の宿泊数についてお尋ねをいたします。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部次長。

企画振興部次長（平田　幸春君）〔登壇〕

失礼いたします。山本議員の３項目めの１点目のスポーツ医療看護専門学校の募集定員と高等学校の募集定員と入学者数についての御質問について答弁させていただきます。

まず、美作市スポーツ医療看護専門学校の入学定員につきましては、看護学科40名、介護福祉学科40名、柔道整復スポーツトレーナー学科30名、日本語学科40名でございます。

入学者数につきましては、岡野議員の一般質問でお答えさせていただきましたが、４月７日、入学式等における情報となりますが、看護学科が32名、柔道整復スポーツトレーナー学科が７名で39名と伺っております。また、日本語学科につきましては、本年10月の開校に向けて認可手続中でございまして、今後認可がおり次第、募集活動を行うと聞いております。

次に、滋慶学園高等学校美作キャンパスの入学定員につきましては、通学コースの定員が１学年80名で、３学年240名、それから通信コースの定員は全体で660名となっております。

それから、入学者につきましては、４月７日、こちらも同じなんですけれども、入学式の情報になりますけども、通学コースが５名、通信コースが122名と伺っております。また、年度途中での編入を受け入れることも可能となっておりますので、入学児より生徒の数が若干増えているとのお話も聞いております。現時点では、個人が特定される可能性もございますので、ある程度人数がまとまれば報告できるものと考えております。

次に、コース別の入学者数につきましては、学校のほうに確認もいたしましたけれども、非公表とされており、現時点では確認ができておりません。

なお、山本議員御質問の専攻別の募集定員につきましては、こちらのほうも学校のほうに確認いたしましたけども、定員を設けていないとのことでございました。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

滋慶学園の学生による愛の村パークの利用者数ということでございますが、愛の村パークの学生の宿泊者数は４月から１名という状況です。

武蔵の里関連施設及び愛の村パークの指定管理料について、愛の村パークの宿泊料等の収入の増加が見込まれることから1,000万円を減額しております。愛の村パークには27の客室、個室を設けておりましたが、そのうち12室を２人部屋といたしました。また、定員６名までのコテージが６棟ございます。これら合わせて指定管理者において一般の方に宿泊していただくように取り組んでいただいているところでございます。ゴールデンウイークの５月３日から５日には本館に24名、コテージに71人の宿泊がありました。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

山本議員。

１３番（山本　重行君）

それぞれ定員なり入学者数についてお聞きをいたしました。

再質問いたします。

看護学科にベトナムあるいは東南アジアからの入学者は何名おられましょうか。

次に、高等学校の進学コースは１学年80名の募集に対し５名、通信コースでは660名に対し122名とのことでございました。そして、愛の村についても宿泊者数は１名というふうなこと。このようにそれぞれの学生数、宿泊者数、いずれもこれまでの計画説明と随分かけ離れた状況にあるわけですけれども、このことをどのようにお考えになっておるのでしょうか。

また、コース別の入学者については非公表というふうなことでございましたけれども、少なくともこの場は補助金を出した議会でございます。報告すべきと思いますけれども、何とかそれを聞き出すというふうなことをお考えではないでしょうか。

それから、専攻別につきましても、例えば以前いただいた資料によりますと、スポーツ専攻１学年43名との滋慶学園の試算との資料を以前いただいております。それとの関係はどうなのでしょうか。

以上、再質問をいたします。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部次長。

企画振興部次長（平田　幸春君）〔登壇〕

２回目の質問に答弁させていただきます。

まず、看護学科の東南アジアの在籍ですけども、こちらのほうについては在籍はしておりません。

それから、募集定員に対して入学者が少なかったかというところにつきましては、岡野議員のほうにも答弁させていただきましたけども、認可が適当であるという許可がおりましたのが８月になってからでございましたので、募集に係るＰＲ期間等が少なかったというのが大きな要因になっております。

それから、３点目の非公表ということにつきましては、私どもも今何度も何とか教えてもらえないかということを確認しておりますけども、ちょっとまだ現時点では確認できておりません。今後も公表してもらえるように確認はしてまいりたいと思っております。

それから、４点目の専攻別の数、以前資料等をお配りしての数字と違うということでございますけども、こちらのほうにつきましても学校のほうに確認いたしましたところ、募集要項にもあるんですけれども、定員については設けていないという回答でございました。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

愛の村パークの滋慶学園の生徒さんの長期滞在ということになりますと、１つは10月の日本語のコース、それから来年度に向けてということになると思います。長期利用者につきましては指定管理者と学校と連携していただいて、生徒なり利用者を確保していただくよう取り組んでいただきたいというふうに考えております。

重ねて、指定管理料については、この愛の村パークの改修ということで減額になっているという状況であります。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

山本議員。３回目です。

１３番（山本　重行君）

１つには海外からのベトナムあるいは東南アジアからの入学者がいないというふうな状況でもございますし、相当今までの説明からいいますと定数は確保できるんじゃないかというふうなことも従来から聞いておりました。結果については非常に残念なことだというふうに思います。ただ、先ほどから言われていましたように、ことしのオープンというふうなことでございます。厳しい結果ではございますけれども、ある面今後の推移というものを期待もしながら今後を見守っていきたいというふうに、この滋慶学園についてはそういうふうに思います。

あわせて、総括というふうなことでございますけれども、さまざまな形で学校誘致施策を市長進めておられますけれども、きょうの新聞にもでかでかと出ておりました。学校の性格というのは全く違います。しかしながら、これまで市長が進めてこられた学校誘致の施策というものを再度本当にこの美作市にとって必要なことなのか、あるいは例えば滋慶学園をどうするのとか、きょう新聞に出ていた支援学校、こういったことについても十分やっぱり考えていただいて、今後の市政運営に取り組んでいただきたいというふうなことを強く要望して、今回の私の一般質問は終わりたいと思います。ありがとうございました。

議長（鈴木　悦子君）

以上をもちまして通告順番５番、議席番号13番山本重行議員の一般質問を終了いたします。

ここで10分間休憩します。

午後２時51分　休憩

午後３時01分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

５番中山議員が通院のため退席をされております。

それでは、続きまして通告順番６番、議席番号６番倉地重夫議員の発言を許可いたします。

倉地議員。

６番（倉地　重夫君）〔質問席〕

それでは、ただいまより私、倉地の６月議会での一般質問を始めさせていただきます。

まず１番目に、学校給食保護者負担の軽減について、これは昨年も６月議会で私が学校給食の無償化について質問いたしましたが、それの繰り返しということになります。私の選挙公約で学校給食の無償化に取り

組みますということを発言しておりますので、引き続き発言していきたいと思います。

そして、２番目として学校給食の公会計化についてという項目で質問させていただきます。

そして、３番目に学校給食や病院、その他福祉施設など、食事の提供を行っているところの食材についてということで質問させていただきます。

じゃ、１番目の１回目として、昨年給食費の無償化について求めましたところ、市のほうで食材費の１億2,000万円の負担をしていただいているとのことでありましたが、保護者の負担の軽減化を求めるということでも再度質問します。

憲法26条において、義務教育はこれを無償とするとされています。しかし、現実に無料なのは授業料、教科書に限られており、保護者の経済的負担は大きいんです。文科省の子どもの学習費調査2016年度によりますと、副教材費、実習材料費、部活動費、修学旅行費、学校への納付金などは公立小学校で年間10万円、公立中学校で約18万円、これに給食費が加わるわけで、公立の義務教育を受けるだけでこんなに学校でお金を徴収されるのはおかしいのではないでしょうか。給食も食育という立派な教育の一部ではないでしょうか。文科省の食に関する指導の手引きにも学校給食の一層の普及や献立内容の充実を促進するとともに、各教科において学校給食が生きた教材としてさらに活用するように取り組むとなっております。学校における食育の推進は心身の健康にとっても、社会性や感謝の心を培う上でも、食文化の観点からも重要だとされております。これに基づいて、義務教育の無償化の原則に従い、給食費の無料化を求めます。

次に、２項目め、昨年１年間で全国給食無料化、軽減化に取り組まれた自治体が増加していると思いますが、その実態を市ではどのように把握されておられますかということで、岡山県内でも備前市が２人目から半額、３人目からは無料となっています。昨年１年間で多くの自治体で給食費の新たな無料化が取り組まれて、全国的にこの４月から新たに無料化に取り組まれる市町村が増加しておると思います。市では実態についてどのように把握しておられますか。

前回、就学援助金などで対応していますと答弁がありましたが、就学援助金は保護者が申請しなければ利用できませんが、制度の周知、申請方法は全ての保護者に申請書を配布し、説明会などは行われておりますでしょうか。経済的に困窮している家庭ではこうした自分にとって重要な情報を入手することが簡単でない、情報弱者であることが多いのではないでしょうか。また、制度を知っていても学校に収入を知られたくなくて申請をしない家庭もあるでしょうし、ダブルワークや自営業で収入証明書を提出しづらいという事情もあるかもしれません。就学援助制度は保護者が一旦納付し、後から還付されますので、当面のお金のやりくりはしなければなりません。これで低所得者層をカバーしているというのは間違いではないでしょうか。就学援助制度の拡充や使いやすい制度にしていくことは大事なことでありますが、申請主義である以上、必要な子どもたち全てに給食費などの支援が行き渡るわけではないのではないでしょうか。

以上、１回目の質問とします。

議長（鈴木　悦子君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

学校給食の無償につきましての御質問にお答えをいたします。

議員おっしゃります日本国憲法第26条第２項におきましては、義務教育はこれを無償とすると定められ、授業料や教科書について無償化されている。授業料は無償でございますが、教科書につきましては高知県の母親委員会の小さな運動から全国に広がっていったと、これにつきましては議員御所属の党も大きく関与されていたと承知しております。そうしたことで無償化されておりますが、これはおっしゃるとおりでござい

ますが、それ以外の学校納付金につきましては子どもの貧困対策として経済的に困窮している世帯に対しましてはその軽減策として世帯の所得状況により生活保護費や就学援助費などで対応しており、その支給額の中には当然給食費相当分も含まれております。

なお、今おっしゃいました憲法における義務教育無償化ということにつきましては、最高裁判決に授業料を徴収しないことを意味するということも判例も出されております。また、学校給食法第11条におきましても学校給食の経費については学校設置者と児童・生徒の保護者が負担するとの規定がございますことから、慎重な判断が必要であると考えております。

無償化に取り組まれた実態ということでございますが、文部科学省による平成28年度学校給食実施状況等調査によりますと、公立の小学校及び中学校におきまして保護者が負担する学校給食費の平均月額は小学校で約4,323円、中学校では約4,929円となっており、全国の小・中学校における保護者の負担している学校給食費の総額は4,400億円に上るとされております。こうした中、子どもの貧困などを背景に給食費の無償化の動きが広がっておりますが、全国1,700余りの自治体の中、60を超える自治体が実施しておるということを把握しております。年々増加傾向にございます。しかしながら、本市におきましては先ほども申し上げたとおり、経済的に困窮している世帯の給食費につきましては就学援助により対応しているところでございます。

また、申請ではないかとおっしゃいますが、これは保護者からの申請が必須でございますので、毎年度当初に学校を通じ全家庭に申請方法等を含め就学援助制度の周知を行っております。これは私も担任時代に一人一人の生徒にしっかり手渡し、きょうこれをおうちの人に渡したかということを確認をしておりました。これが必ず渡るかどうかということが大切なことでございますので、そうした確認はそれぞれの学校でしていただいております。

何度も申し上げますが、給食費の無償化につきましては貴重な市民の税金を使うことでございます。公平性、必要性なども含め、法令を遵守しながら研究してまいりたいと考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

倉地議員。

６番（倉地　重夫君）

２回目です。

答弁にもありましたように、学校給食法第11条の２項において経費以外の学校給食に要する経費、学校給食費は給食を受ける児童または生徒の学校教育法第16条に規定する保護者の負担とするとうたわれていることは承知しておりますが、食材費を保護者負担にする規定について文科省の見解でもあくまで負担のあり方を示したものであり、実質無償化をすることを禁止したものではないという見解が示されております。これらに基づいて教育長の今の答弁の中に全国60の自治体でもって給食費の無料化が実現されているのではないかということにつながると思います。

市ではまち・ひと・しごと創生総合戦略の中で平成27年度から32年度までの５年間の課題の中で、第１項で安全・安心して暮らせる福祉の充実、出生者数について５年間で1,000人を目指す。きのうから再三質問の答弁でありましたが、合計特殊出生率については平成32年に1.80を目指すとなっています。30年はちょうど目標に対して中間地点でありますが、きのうの答弁の中で29年で1.47という数字が報告されております。このような総合戦略の実現を目指すためにも、美作市で子どもを２人、３人と産んでも安心して子育てができる、子育てをするのなら美作市に住もうと、若い人たちに転入してきてもらえるようなそのような制度を

つくり上げていく、美作市では教育にしっかり予算が割かれているんだということをアピールするためにも、まず最低２人目以降からは無償にするなどの政策の実現を求めます。

それから、２項目めです。

限られた財源の中で市民の求める事業に財源を配分していく、このことはもちろん大切なことであることは当然のことです。市民の目線、弱者の立場に立ったお金の使い方が求められています。美作市では平成29年度７月１日現在、市民部税務課が公表している市税概要によると、納税義務者の所得金額は243万7,000円ということで、全国1,741の自治体の中の1,465位、また県下で27市町村のうち24位という、全国から見て所得の少ない貧困な地域となっています。このような状況の中、子育て家庭の支援のためにも税配分が求められるのではありませんか。

例えばでありますが、ふるさと納税制度というのがありますが、これらの基金は今どれぐらいあるのでしょうか。例えばですが、ふるさと納税制度の財源をこのような資金に充てるとか、返礼品に魅力的なものを充当するのも当然ですが、美作市ではふるさと納税の基金の一部を子育て支援、具体的に給食費の無償化の基金に利用しますと外部にアピールして訴えることによって共感を得られるようなことも考えられませんでしょうか。全国的にはふるさと納税制度で学校給食費を無償化に充てている行政区もあります。こういうこともぜひ検討していただきたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

議員おっしゃるまちづくりの基本的方向性、住みやすいまちをつくって人口流入を図ると、この辺については全く異論はないわけであります。午前中にも安藤議員の御質問の中にも給食のことも含めてさまざまな検討をしてほしいと、こういう話がありました。思い出してというか、おられなかったんで申し上げますが、一昨年になりますけども、市民の方々に給食費のことなども含めてだと思いますけれども、市民の方々の目線で何が求められるのかということで3,000人の方々に対してアンケートをさせていただきました。そしてそのときに出てきた、なるべく早くやってほしいという項目でいいますと、１には介護保険料等について高過ぎるから値下げをしてほしいと、それから女性の方々の多くから足対策というか、交通対策をしてほしい、若い世代からは出産一時金に結実しましたけども、出産絡みのところの支援をぜひしてほしいと、これがたしかトップスリーぐらいにあったわけでございまして、そういったことをまさに念頭に置いてこういった議論が進んでいます。

それからもう一つ、財源問題でありますけれども、これは追加的な施策になるわけでございますけれども、福祉関係の施策、市民生活向上関係の施策についてはその財源を安定財源において確保するというのが行政的にいうと責任ある態度かというふうに考えております。もちろんふるさと納税でという議論もある、議員のお考えではあろうかと思いますけども、私どものふるさと納税につきましては非常に真面目にやっているということから、市内産の返礼品だけで賄っておりますし、また返礼品割合についても３割というところの基準を厳格に守っていることから、普通の自治体の普通の収入ということで2,000万円とか3,000万円という年間の流れ、そしてそこにはそれぞれのもう納税者の方々から指定された幾つかの項目で使途がある程度拘束されていると、こういうことになっております。そこに給食というのを入れるかどうかについてはいろんな議論がありますけれども、私から見るとこのふるさと納税制度というものが今後ずっと安定した財源構成を提供できる制度かどうかについては、このところの総務省の物のおっしゃり方などを含めて考えると、必ずしもそんなふうにはならないのじゃないかなというふうに思っておりまして、したがいまして私ど

もとしてはこの問題かどうかは別として、市民福祉の向上を図るためには今ある制度の中でいえばやはり基準財政需要額をそこから引き上げるという意味での都市公園面積の拡大、今１億円ぐらいが毎年入りますけれども、これを昨日の山本議員の代表質問にあったようにじわじわ拡大をしていって、安定財源を得て、それを市民福祉の向上につなぐことは大体方向性として明らかでありますが、さて次にそこの分野をどれにしていくかということについてはまた、２年に１度と思っています、ことしの秋口にも場合によっては市民アンケートをもう一度やる可能性を残しながら検討を進めていかなければいけないだろうと思います。

もう一点申し上げておきたいのは、保育料の無料化という議論がございまして、これは消費税絡みで国が推進すると言っているわけでございまして、私ども大まかに言ったら賛成なんですけども、そこに出てくる反対論というのがございます。その反対論というのはどういうことかというと、保育料その他についていうと所得に応じた加減ができているのであって、それを無償化するというのは富裕層に対しての補助にすぎないじゃないかという議論が反対の立場から、野党から出ておりまして、実は給食費についても先ほど教育長がお答えしたように、要保護、準要保護ということの中で所得階層対策が相当進んでおりますので、そういうことを考えたときにどういう議論があるかについてはぜひ御党内においても議論の統一をお図りをいただきたいというふうにも思います。

そのことで今後の市民の方々、議員おっしゃったように市民の目線、そして弱い方々の立場に立ってどうするんだということの視点から、いろんな提案されている市民福祉の向上のための施策、これを財源手当てをつけながら前進をさせていきたい、その中から決して排除するものではありません。どうぞよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

倉地議員。

６番（倉地　重夫君）

３回目です。

萩原市長が一貫して言っておられることの中に近隣の市町村、奈義だとか勝央とかに負けないというか、政策上で市民の要望において子育て支援とかそういうことで他市町村がやっていることに負けない制度を美作市は取り組んでいくというふうな、取り組んでいるんだというふうなことを何度も言われております。どこの自治体も少子・高齢化でもって人口が減る、若い者は減るという、そういう状況にある中で、子どもの数というのは結局限られたパイのものをあっちでもこっちでも何とか政策で取り組んでいこうというふうにやっているのが行政のやっていることじゃないかと思います。

そういった面から、必ずしも給食費の無償化の要望というのは高い数字ではないというふうなことの話でありましたが、やっぱり美作市が子育てに非常に取り組んでいるんであると、美作市で子育てをする環境は非常に親の負担が軽くて恵まれているんだという宣伝、意識づけ、周りへ対してのアピールにつながるという思いで、特に岡山県下では給食費の全面無償化に取り組んでいるところは今現在ないわけですから、特に近隣の市町村、奈義だとか勝央に負けない、そういった支援の策としてぜひとも一考していただきたいと思います。

先ほど言いましたＰＤＣＡサイクル、プラン、ドゥ、チェック、アクション、こういう形でもって出生率とか５年間で100人の増加を目指すとか、そういうことがうたわれているわけでありますから、そういったやっぱりドゥ、プランに関して責任を持って取り組むということをやっていかなければ、ただ題目で上げているだけ、実績はついていかなくてもいいんだということにもなりかねないと思います。総合戦略の中でこういうプランを立てているわけですから、それにやっぱり実現に向けてしっかり政策を練っていかなきゃい

けない、責任を持たなければいけないんじゃないかというふうに思います。一応この項目、総括を含めて、今のことで終わりたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

それでは、続けて２項目めに進めてください。

倉地議員。

６番（倉地　重夫君）

給食費の納入方法について、市は口座引き落とし、学校で徴収など、ばらつきがあるようでありますが、教育委員会で管理する方法と学校で管理する方法とがあるようですが、市ではどのような方法がとられておられますか。教職員が徴収管理することは教職員の負担になります。教員の働き過ぎが社会問題化するほど学校現場が忙しくなっているとき、教員が未納問題に対応する方などは教育上も適切でないと思われます。教職員が給食費の徴収に携わっているようであれば、ぜひとも改善していただきたい、そういうことで要望です。

議長（鈴木　悦子君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

働き方改革との関係で、給食費の集金についてというお尋ねでございます。

現在、本当にニュースで耳にしない日がないぐらい教職員の働き方改革と、ブラック部活などという言葉が言われておりますけれども、その中で給食費の徴収でございます。

本市の場合は学校の管理によりまして口座振替、現金の集金、多くの場合は口座振替でございますが、一部現金の集金もございます。そうした形で徴収し、それを給食センターのほうへ納入するという形でいただいております。

未納者への督促等の大きな課題もございます公会計化ということは、教育委員会といたしましても今現在どのようにすればよいのかというあたり、どういうメリット、デメリット、そうしたことも含めまして今現在研究してまいりたいと考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

倉地議員。

６番（倉地　重夫君）

現在、美作市の学校給食費は、教育長の答弁にもあるように小・中学校で口座振替もしくは現金で集金されたものを集計管理し、市役所の出納が食材業者へ支払う半公会計方式ですか。学校給食費の集金、食材の購入、支払いは各学校で行っておったり、法的に管理者が明確でないという状況ではないかと思います。教職員が毎月集金、集計、食材費の支出管理及び未納者へ対する督促業務を行っており、当該業務が負担となっていることで教育活動に充てる時間の確保を図れない、現金での集金は安全管理上の課題がある、以上のことから現在学校給食費の集金管理方法を見直し、市の予算計上して管理運用を行う公会計方式に移行する必要があるのではないかと思います。ぜひともこの問題に取り組んでいただきたい。

文科省が2017年、１週間当たりの教員の平均勤務時間を調べたところ、中学校63時間、小学校57時間で、それぞれ６割と３割が過労死ラインを超えていたという発表をしております。これらを受け、文科省は給食費の徴収は自治体がみずからの業務として責任を負うことが望ましいとしております。給食費の徴収業務を自治体が直接するよう求めまして、この項の質問を終わります。

議長（鈴木　悦子君）

続けて、３項目めに進んでください。

倉地議員。

６番（倉地　重夫君）

３項目め。

学校給食や病院その他の福祉施設などの食事の提供している食材についてでありますが、３月議会で学校給食に地場産の食材の利用について、にこにこ夢プランについてお尋ねいたしましたが、県産のものが50％強利用してあるとの答弁でありました。美作市産の食材を学校給食、そのほか食事を提供している現場に利用促進を図っていくことについてお尋ねします。

３月議会の教育長の答弁で美作市産の食材を利用することに対してコストが高くつくとかありました。美作市の農産物を給食に取り入れていくというコンセプトを持って取り組んでいくべきではありませんか。近くでは赤磐市、またお隣兵庫県では宍粟市が10年以上前からの取り組みで実績を上げておられますが、それらの取り組みをどのように把握しておられるでしょうか。赤磐市では国の農水省の外郭団体、まちむら交流機構などと相談しながら地産地消コーディネーター講師の派遣を受け、３年前から取り組みで、お米を除く市内産の食品数を重量比、品目比で確実に伸ばしておられます。美作市産の農産物を利用していく、これは市の産業を発展させていく、農家の懐を豊かにし、農家の皆さんを元気にしていく、子どもたちに地元の農産物に誇りを持ってもらう食育の見地からもこの問題に取り組むべきと思いますが、どのようにお考えでしょうか。

議長（鈴木　悦子君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

美作市産の食材を学校給食にしっかり使ってほしいと、利用促進を図るべきであるというお尋ねでございます。当然成長期にある児童・生徒を対象とした学校給食でございますので、安心して提供されるためには良質で安全な学校給食用食材の確保が不可欠でございます。食材の購入に当たりましては、納入業者の衛生管理水準の維持向上に関しまして最大限の取り組みを促しながら、食材の衛生管理の徹底を図っているところでございます。

御質問の学校給食における美作市産の食材の使用でございますが、３月議会でもお答えいたしましたとおり現在市内産の食材についてはお米、もち麦を100％使用しているほか、その他の食材につきましては市内産も含め県内産の食材を使用するように努めております。市産の農産物を利用し、市の産業を発展させていくということは非常に重要なことでございますし、また子どもたちへの食育ということを考える上での地元産の食材を使い、使っていることを伝えていくということは重要なことであると考えておりますので、必要なときに安全・安心な産物が必要とされる数量を提供される仕組みを構築しなければなりません。使用促進に向け、関係部局と研究してまいりたいと考えております。

なお、先日も学校給食の運営委員会をいたしましたが、その場でそれぞれの給食センターの栄養士さんたちにどのようなことを学校給食の運営で考えているかということをお尋ねしましたときに、食育の充実、やはり子どもたちには食を通していろいろなことを学んでほしいということとともに、大きなことはやはり地場産食材をできる限り利用したいという言葉でございました。そうしたことが実際できるように、先ほども申し上げたことの同じことになりますけれども、必要な量、必要な時期に提供されるということが必要でございますので、そうした取り組みの研究ということが必要かとは思っております。そうした研究を進めてま

いりたいというふうに考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）〔登壇〕

失礼します。私のほうからは病院やその他福祉施設などでの食材の利用ということでございますが、大原病院及び作東の老人保健施設での入院患者や入所者、通所リハビリ利用者に対しての給食の提供を行っておるところでございます。

まず、大原病院ですが、現在約60食の給食を提供しておりまして、米は美作市産のものを使用しております。作東老人保健施設では入所者に約50食、通所リハビリ利用者に約20食の給食を提供しておりまして、米は岡山県産のコシヒカリに限定をして入札を行っているところでございます。野菜類につきましては、３カ月ごとに入札を行っており、使用率は30年１月から直近までの平均で46.9％という実情でございます。

以上です。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

倉地議員。

６番（倉地　重夫君）

私は第１回目の質問の骨子として他の行政区で取り組んでいるとして赤磐市とか兵庫県の宍粟市の実態などについて市のほうでどのように把握しているかというふうなお尋ねをしておりましたが、これらについて実際調査というか研究というか、どういう状況かということを調べられたでしょうか。答弁では美作市産のものは必要なときに安全・安心の産物が必要なだけ供給されるのは難しいともとれるような答弁ではありませんか。これだと食品生産、農産物などの生産に一生懸命取り組んでおられる市民の皆様を侮辱するようなことにはならないでしょうか。もちろん現在の供給方式を変えていくということは早急にできることではありません。赤磐市の取り組みではまず地場食材地産地消推進協議会を立ち上げ、国の外郭団体、先ほど紹介しましたが、まちむら交流機構を通じて地産地消コーディネーター派遣事業に申請し、講師要請をし、先進事例の宍粟市に視察に行くなどして、29年度で３年目とのことでございましたが、着実に実績を上げ、参加者全ての給食センターでジャガイモ、トマト、大根、ニンジン、大豆、なす、キュウリなど25品目、市内産重量ベース、利用率、米を除いた28年前年プラス7.4％アップで19％、29年度は30.1％という実績を出しております。

これらのことでわかるように、給食を地場産のものを利用するということは教育委員会、給食問題というよりも、農業推進、美作市の物産を生産されている、農産物を生産されている皆様に対する取り組みとして必要であると思われます。執行部の皆さんの中には美作市の出身でない方もおられますが、こういった方の考えがこれらの市の産業を守り、発展させていこうという思いが欠落する原因ではないでしょうか。保健福祉部長の答弁では作東老人保健施設では野菜類の入札で利用の半分近い使用率であると答弁をいただいております。学校給食に関しても先進例があるわけでありますから、しっかり研究をしていただいて取り組んでいただきたい。人口比較では宍粟市は３万9,000、赤磐市４万4,000とそんなに規模の違う行政区ではないと思われます。今後どのように取り組んでいかれるか、決意をお尋ねいたします。

議長（鈴木　悦子君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

農業振興につきましては私の所管外になりますけれども、ぜひ美作市のものを使ってほしいというお気持ちは十分に理解ができます。そしてまた、学校給食におきましては納入業者の方を一堂に集めてこうした衛生管理とかあるいは地場産のものをしっかり使用してくださいということもお願いをしております。そうした中で納入をお願いをしているわけですけれども、美作市におきましては各学校で給食がつくられているわけではなくて、４給食センターでつくられております。そうした中でやはり一度にかなりの量、一定のまとまった量が必要になってくると。そうしたものを供給する仕組みが必要であろうと。赤磐等では各学校に給食調理場がございまして、学校で納入できるというメリットもございます。そうすると、例えば学校の裏の畑でその時期の白菜をつくって、その白菜を使って給食を提供するというようなことも可能なわけでございます。そうしたいろいろな仕組みもございますので、私が御答弁申し上げましたそういう仕組みを構築する必要があるであろうと、研究したいというのはそういうことでございます。

なお、学校給食のことを申し上げましたけれども、例えば保育園におきましても毎日のように給食を提供しております。保育園は当然各園で調理をしておりますので、そうしたところでは小口の納入ということで、本当に近くの方から納入をしていただき、そして本当に季節のものを子どもたちがいただいているという状況はございます。そうした面も含めまして御理解いただきますようにお願い申し上げます。〔降壇〕

〔６番倉地重夫君「経済部から答弁ないんですか」と呼ぶ〕

議長（鈴木　悦子君）

ありますか、経済部。

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

給食センターへの地場野菜の納入ということで、美作市というのは結構いろいろな野菜がつくれるところにありながら、まとまった量の野菜がなかなかそろわないと、一つの課題だというふうに思います。給食センター納入ということになるとまとまった量を入札で落札して納入するという制度でして、特産館みまさかは地場産野菜を取り扱っていますけど、入札において落札した野菜については給食センターへ納入をしているという状況であります。

きのうも申し上げましたけど、いろいろな野菜をつくって出荷していただくと、そして入札ということがありますけど、教育委員会と連携しまして農業振興の一助になるように取り組んでいけたらというふうに思います。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

倉地議員。

６番（倉地　重夫君）

結局、地場産の食材を学校給食に使っていくんだというコンセプト、もうこれがなければどうにもならないです。最初に紹介いたしましたが、国の外郭団体でもってそういったことを指導している機関もあるわけですし、例えば赤磐市の取り組んでいるところが農林水産課ということだったので、赤磐市のほうの農林水産課をお訪ねして、３年間のこの経緯についてお尋ねしてきました。当然今までの納入業者の方の権利を、納入先を奪うわけですから、そういったところとの調整もあります。それから、旬のもの、時期時期のとれたものしか、地場産ということになれば使用範囲が限られてくるわけですが、やっぱり大型冷蔵庫のようなものを市でちゃんと管理したり、あるいは事前の加工業者、調理場へ土のついた畑でとれたものをそのまま持っていくんではなしに、加工業者、そういった学校給食のための食材を加工する、そういった業者も市で取り組んでやっております。それで、赤磐地場食材地産地消協議会、こういった名称で給食センター、それ

から青空市場、それとか農協とか、いろんな団体、これを加えて協議会をこしらえて、どうすれば地元産、市内産の食材を利用していけれるかということで、先ほどから紹介しています国の外郭団体のそういった協議会、指導を受けて、先進的に取り組んでいる市が兵庫県の宍粟市ということでありまして、宍粟市のほうへ視察に行ったり、宍粟市では合併当初からの取り組みで食材の７割以上、地場産のものを使ってというふうなデータもいただいております。

美作市もただ使うことをこれから取り組む、研究をしていく課題という答弁でありましたが、そういった先進例をしっかり研究し、美作市産の農産物、地場産のものをしっかりそういったところに使っていく、農家の皆さんが子どもたちの食材をつくるんだという喜びも味わい、また子どもの教育上も地元の父兄の皆さんが一生懸命こしらえられた野菜だという、安心して顔の見える食材、そういったことを教育上も取り組んでいく、そういうことが必要ではないかというふうに思います。

いきなりこういうことを全て実現することは難しいかもしれません。けれども、やっぱり長期計画できっちり計画を立て、指導を受けるところには指導を受け、また視察に行くべきところには視察に行って、いわゆる美作市の農業という産業を育て、発展させる、農家の懐を豊かにする、そういう大きな課題もあるわけですから、ぜひともこのことについては取り組んでいただきたいということをお伝えしまして、総括といたします。

以上をもちまして私の６月議会での一般質問を終わります。

議長（鈴木　悦子君）

以上をもちまして通告順番６番、議席番号６番倉地重夫議員の一般質問を終了いたします。

これより10分間休憩いたします。

午後３時51分　休憩

午後４時01分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

12番の萬代議員が通院のため退席をされました。

続きまして、通告順番７番、議席番号15番岩江正行議員の発言を許可いたします。

なお、岩江正行議員よりパネルの持ち込みと資料配付の申し出がありましたので、これを了承しております。

それでは、岩江議員どうぞ。

１５番（岩江　正行君）〔質問席〕

15番岩江でございます。

議長の質問の許可をいただきましたので、６月定例議会の私の一般質問をただいまよりさせていただきます。

今回は６項目にわたってでございますので、何分簡潔にしたいと思いますけれども、山本議員、それからまた岩﨑議員も同じようなメガソーラーについては質問されておりますので、重複することが多々あると思いますけれども、御理解のほどよろしくお願いいたします。

作東の建設中のメガソーラー工事、これは国内で最大とも言われる大きな事業が今進んでおります。そういうな形の中で、今回の作東地域に建設中のメガソーラー工事についての事業協定書、それと自然保護協定書、この２点についての中身について守られとんか、守られてないのか、このことについて集中的に話を質

問をさせていただきたいと思います。

１番、岡山県と美作市、業者間で締結している自然保護協定書書類、事業協定書の遵守について。

２番目、施工業者は地元への説明において岡山県の基準、1.5倍の調整池の設置と説明しているが、これだけで対策は万全か。

３番目、農地、農作物被害についての対策はいかがなもんでしょうか。

４番目、地球温暖化で一級河川の洪水発生の危険性を国土交通省がこの前ニュースウエブのほうで発表しておりましたけども、４倍になるというような一級河川、国が試算したところによると４倍の危険性があるというな、そういうな報道がございました。それらについての関係についての御答弁をお願いいたしたいと思います。１回目。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部次長。

企画振興部次長（春名　信明君）〔登壇〕

岩江議員の御質問の１の作東地域に建設中のメガソーラー工事についての１と２項目めについて答弁させていただきます。

まず１項目めの岡山県、美作市、業者間で締結している自然保護協定締結書類、事業実施協定書の遵守についてでございます。

県、それから市、事業者は、開発と自然環境の保全との調和を図るため岡山県自然保護条例の規定に基づきまして自然保護協定を締結しております。また、市は事業が円滑に行われるよう、事業の実施に関する関係許認可事項等の指導、建設及び運営の監督、地元調整を行うため事業者との事業実施協定を締結しております。

市では協定の趣旨に基づき、降雨時には事業地周辺の河川等の見回りを行い、異常があれば事業者へ連絡の上、対策を講じるように指導をいたしております。特に災害の発生が予想されるような台風接近時には、定期的な職員によるパトロールを実施するとともに、業者と連絡を密にして情報共有を行い、迅速な災害対応が行えるように努めております。今後も引き続き協定の趣旨にのっとり、県と連携の上、事業地周辺住民の皆様の不安を取り除くために、必要に応じて事業者へ指導等を行ってまいりたいと思っております。

次に、２項目めの施工業者は地元への説明において岡山県の基準1.5倍の調整池の設置と説明しているが、対策は万全かとの御質問ですが、調整池は急な雨を一時的に貯留し、時間をかけて徐々に放流することで下流河川の氾濫を防ぐための機能を有しており、当該メガソーラー工事では既存のものを含め21カ所の調整池が設置される予定です。必要容量の計算におきましては、県が21年災害を念頭に置いてつくった基準の1.5倍以上とし、21カ所の調整池ごとに必要容量を設定しているとお聞きしております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

作東地域の建設中のメガソーラー工事について、農地、農産物被害についての対策はというお尋ねですが、現在建設中の作東メガソーラー工事において下流域の農家から水稲や施設園芸などへのかん水用のパイプが詰まるなどの相談をいただきました。岡山県、美作市及び事業者で締結された自然保護協定書を見ますと、事業計画地内及びその周辺地の水環境について事業実施による水質悪化を防止するための対策を講じるというふうにあります。これに基づき、岡山県と美作市で指導をしておるというところでございます。〔降

壇〕

議長（鈴木　悦子君）

危機管理監。

危機管理監（藤原　陽二君）〔登壇〕

岩江議員の４つ目の質問に答弁させていただきます。

岩江議員の御指摘のとおり、気候変動を踏まえた治水計画に係る技術検討会が開催され、気候変動による水害の影響や適応策について検討が行われています。その中で地球温暖化が進んだ場合の大河川の洪水発生率の試算、それらを踏まえての治水計画見直しの手法等が話し合われ、今後も引き続き開催される予定となっております。答申も示されるものと思いますので、今後の国や県の動向を注視していきます。

危機管理室といたしましては、平成27年５月20日、水防法の一部改正により水害対応の考え方が堤防等設計の計画規模という今までの災害を参考にした数値から想定し得る最大規模に変わったのを受けて、岡山県が洪水浸水想定区域図を平成32年度までに作成予定です。その中で美作市に関係ある吉野川、梶並川、滝川の洪水浸水想定区域図が早期に作成し発表され、今までは安蘇と入田は浸水の深いところでは２メートルから４メートルでしたが、新基準での浸水の深いところは安蘇12.3メートル、入田10.5メートルとなっており、地元の方も想定外の深さと捉えられると思います。これによると今までの避難所の多くが使えなくなります。

美作市といたしましては、他の市町村の動向を確認しながら防災マップなどを改変し、早い時期に市民の皆様にお知らせしなければならないと思っているところであります。この中には現在建設中の各種工事の実態等も当然考慮しなければならないところでありますが、とりあえずこのたびの基本的な考え方は、だから早く避難対応が必要なのだと市民の皆様に注意喚起するというのが全てであります。したがって、一部はどうしても危険ということでハード面対応もあるだろうと思いますが、情報提供による心構え、つまり各人の早期具体的な動きを求め、被害軽減を図るということであります。

以上です。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

ありますか、建設部長、何か。

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）〔登壇〕

失礼します。作東地域に建設中のメガソーラー工事についてということで、４番の地球温暖化で一級河川の洪水発生の危険性を国土交通省が発表したが、対策は万全かということでございます。

先ほど危機管理監のほうが答弁をいたしましたけれども、重複するかもしれませんが、お答えをさせていただきます。

議員御指摘のとおり、５月11日に国土交通省において第２回目の気候変動を踏まえた治水計画に係る技術検討会が開催され、気候変動による水災害の影響や適応策について検討が行われております。その中で、地球温暖化がこのままですが進んだ場合の大河川の洪水発生確率の試算がそれらを踏まえて治水計画見直しの手法が話し合われ、今後も引き続き開催されるということになっております。

先ほど議員が４倍と申されましたが、今世紀末というような表現もございました。いずれ答申も示されるものと思いますので、今後の国や県の動向を注視してまいりたいと思います。市建設部といたしましても、河川における防災・減災に向け県が事業主体となる河川事業や地域の要望が計画的かつ着実に実施されるよう、引き続き要望を行っていきたいというふうに思っております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岩江議員。

１５番（岩江　正行君）

こういうことじゃ。これ自然保護協定書というものは甲、乙、丙で３者で結んどるわけ。そこの中でこれ審査内容をここに書いとる。これが守られとるか守られてないですかということを尋ねとん。何でこのことについては答弁せんの。ですから、こういうな問題が起きる。これは今この赤いところがパネル、これは木があるところ、対面の山。これ大体この辺の緑で書いたところが農地が多いわけ、ここずっと、ここら辺が。それで、ここのパネルに流れた木とここに流れた木と同時にコップにいっぱいずつ流してみんさい。乾いとる水が同じメーターでどっちが早いか。この速度の関係。この川に流れるまでの速度の関係。今までだったら木があったんじゃ。これは自然保護協定をやったときのあれはゴルフ場の建設したときを基準にしとるわけじゃ、開発したときの。今度はこれパネルじゃ。パネルの上へ水を流すんと、今言う木の中へ水を流すんと、どっちが川へ早う同じ水が到達する。それで、皆さんどがいに考えとんか知らんけど、これが江見のところじゃ。写真撮っとんのちょうどこの場所、これは江見のこれが浸かるところの学校、今支所をおろす言ようる、この浸かるところじゃろう。この学校。それから、これが山家川から流れた水、この茶色いやつは。これがこっちのきれいなところ吉野川。それから、この赤いやつがこのやつが流れよんじゃ、この裏へつけとるでしょ、これが、これへ。

それで、ここの関係について、今までだったら、前は計画せんうちにこの河川改修したわけ。21災の災害というのはこのメガソーラーの計画ないうちに改修した。この間、県も行っとるわけじゃから。そしたら、この容量というのは普通の関係の容量を計算しとんじゃ。けれども、調整池の1.5の水が今度は確保できるんじゃ言ようるけども、バケツでもいっぱいになったらこぼれるんじゃ。それから上はもうどっどっどっどこぼれっ放し。それが１時間もつんか、1.5倍で１時間もてるんか。50ミリ降って、あの調整池が１時間もつんか、何ぼかという話でしょう。そういうな計算しましたか、しとらんでしょうがな。河川課も行っとんじゃから、自然保護課も行っとるし、中山間も行っとるし、環境も行っとんじゃから。

ですから、今度はここへ出る水とこの吉野川から出た水、これ、この山家川から今度は出た水、50ミリ降って、普通のやつだったらこれではけるかもわからん。はけるかもわからんけども、この水とこの水と足したら河川改修というのは、もうわしら物すご経験してきとんじゃ。大吉地区の川戸というところが床下から水が噴き出よったんじゃ。そこをするのに改修の補助金くれ言うたら、局部改良工事というのはその年に済んどったんよ。それで、それを申請したら、もう100年先ぐれえなかったら河川改修というのは補助金がもらえんというようなことを言われたん。ほじゃけど、何かやってもらわな困るがな、床の下から水が噴き出よるから、土手はもうよう〔聴取不能〕形の中でやってもろうたんが川戸の川。

それで、これとこれと足したらここどがいなる。あふれ出る。この広い川が今度一番危ないのはどこならというたら、この湯郷のある人が言うてきたんじゃ。もう僕はここの郵便局の近所に家建てたんじゃと。どがいか言うてくださいと。これとこれとが一つになって、この狭いところ。一番に来るのは前に質問したときには真野部長は世話ないんじゃ、また10㎝程ある、パラペット組んどるから言うたけども、今度前だったら10㎝あるかもわからんけども、今度はこんなもん飲み込んでしまう、そうでしょう。そしたら、この水没地の入田、入田は元より林野、河川改修というのは下から下からしてくるもんじゃという、そういうふうに聞いとるわけ、許可出すのに。そしたら、和気のほうからずっとしてきよったら、ここらへ来よったら100年かかるんじゃというような、こんなものしよって、ここが広うなって、一遍あんた方家へ帰って、太いホースを２本して、足して、細いホース、といをつくって一遍流してみなさい。ここの辺がどがいなる

か。こがいなこと幼稚園の子どももわかっとる話じゃ。ここの改良はどがいなっとんなら。この安全・安心はどがいなっとんならという話が今回の私の質問です。

それで、ここへ出るまでの流量計算、速度、それから調整池の容量は1.5倍にしたと言ようる、こういうのもつかもたんか、足りるか足りんかの話。それから、排水の関係。ここへ、ちょっと見にくい思うんじゃけども、ここのところへこれからずっと流れて川があるんじゃ。ちょうどこの辺が岩﨑議員ところの家で、この対面のところ、谷があるわけです。ここのところからここまでに、この川までの水路がある、川が。じゃから、この工業団地の土居の奥の工業団地の辺のこんなところもある。ここらへんもある。そしたら、ここへ流れるまでに流末処理の関係。流末処理の関係についちゃどがんされとんですかと、こういうふうに言うたわけじゃ。流末処理についちゃ計算しとらん言うんじゃ、排水やそがなものについちゃ。受け取らん言うんじゃ。これはあんたんところ工事しょんじゃろうというて言うたわけ。日揮に、日揮さんが元請じゃから。いや、それはうちのは事業協定書、それから事前保護協定書、これはパシフィコさんと市と県と結んどるやつじゃからうちは関係ない。関係ないものを指導させようたらいけんじゃろう。改善命令というか、停止命令か。立入検査せにゃいけんでしょうがな、あんた方。

今、ちゃあちゃあ言ようったけど、そんな答弁、わしゃ聞きたいことはない。なぜこれを守らないんならということを、あんた方が約束しとることが守れてないから私はここで声を大にして言う。それについての答弁。

議長（鈴木　悦子君）

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）〔登壇〕

失礼します。岩江議員の２回目の御質問です。

たくさんございました。漏れがあるかもしれませんが、御了承願いたいと思います。

まず、この件につきまして私が答えるというのは、そもそも流れ出すのが県河川でございますので、県に成りかわって私が言うということはできません。したがいまして、一般的なことでしかお答えできないというのがまず１つでございますので、御了承のほどよろしくお願いいたしたいと思います。

先ほど流速のお話がございました。当然森林から流れてくる水の速さ、それからパネル上の流れてくる水の速さというのは違います。山であっても急な山であったり緩やかな山であるということになると、流れてくる流量とか流速を計算する上では係数というのがあるんですけれど、そういうものになってきますけれど、当然パネルのようなもので覆われていれば、例えで言えば家の屋根のようなものですので、といで受けて水が流れてくるということになりますから、流速は増すということになると思います。ただし、私がしたわけではございませんけれど、それを計算のもとに防災のダムが計算してあるというふうに思っております。

それから、河川改修の話がございました。言われるように河川改修は大きなものをすれば50年とか100年とかということであります。現に、例えば今吉野川で岡山県のほうで進めておられます青野の河川改修ですけれど、地元説明へ行き出してからもう５年はたっておりますけれど、まだ実際に用地買収とかというふうになっておりませんので、全てを進めるというのは非常に長くなるというのが河川改修であるというふうに思います。したがいまして、考えるとすれば短期、中期、長期でものを考える必要があると思います。

先ほど気候変動の話もございましたけれど、気候変動の話だとしますと４倍になるというのは、徐々に増えていくわけですけれど、今世紀末に４倍になるというような表現でございました。そうなると長期的な観点で考える必要がありますし、それから先ほど部分的に林野のところが危ないというお話もございました。

前に10センチあって大丈夫だというんじゃなしに、あと10センチだったというような表現をさせてもらったと思うんですけれど、当然そういうところの改修については中期的な話として、特に下流からやってきておっては間に合わんわけですので、そういう危険性があるところは特に県に必要性を求めていく必要があるというふうに思っております。それから、短期的な面ではずっと出ておりますけど、河川のしゅんせつをしたり流木を処理して流水を少しでも早めるというようなことが必要ではないかというふうに思っております。

したがいまして、開発の関係について私がここでなかなか言えるものではありませんけれど、総体的には国の方針、国でも言われておりますように、雨の降る量が増えてきているというのは事実でありますので、十分注意を払ってこれからもやってまいりたいというふうに思います。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部次長。

企画振興部次長（春名　信明君）〔登壇〕

失礼します。岩江議員、２回目の御質問にお答えをさせていただきたいと思います。

去る５月17日になりますが、岡山県の農林水産部長、それから県民生活部長名で美作市土居地区ほか４地区における林地開発行為について等々の文章が発出されております。その文書の発出を受け、事業者から回答書が出てまいりまして、去る６月１日になりますが、県庁におきまして担当課である中山間地域振興課を初め、河川課等々の担当者と協議を行っております。引き続き県とも密接な連携をとりまして、両協定の趣旨にのっとった県との連携の上、事業地周辺の方々の不安を取り除くため、必要に応じて事業者へ指導を行ってまいりたいと思っております。よろしくお願いいたします。

以上です。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岩江議員。３回目です。

１５番（岩江　正行君）

ばかにしたような答弁じゃな。これ来年６月になったら全部完了する言う。来年の６月に。８日に日揮と会うとんじゃ、日揮と。質問するから、ちょっと今の進捗状況や中身を全部聞かせというて、聞かせていただいたん。それで、岡山県がこの周辺を教えてあげたんじゃ。美作台地開発パイロット事業というやつを進めたん。やまなみ開墾ここに落書きしてもええけど。やまなみ開墾というたらこうなる、こういうふうになるわけじゃな、山並みじゃから。そしたら、これ山へ向いてしもうたら赤土が流れるんじゃ、ここへ。流れるまでにこの木を切った木でここへ松の木をこういうふうに打つんじゃ。ほで、この切った枝やこうをどこへ持っていったんか知らんけども、その枝でここをずっと埋めるんじゃ。くいに枝をくくるわけ、枝をくくるんじゃ、木の雑木を。それが雑木がないところについてはネットを張るんじゃ。網のネット。そしたら全然流れんの。そのしがらのことについてもこの協定書の中に書いとんじゃ。しがらをしなさいというて書いとんじゃ。なぜさせんのんなら、これ。そのことを言よんじゃがな。排水の関係もそうじゃ。なぜ協定書を守らんのんならというて言うたら、それはうちのはパシフィコから受けとらん。

それから、土のうでもこの箇所で土のうをつくり、この箇所で土のうをつくり、ここのところでつくり、これへ岩﨑議員のところの前で可動井堰がある。バタンと倒れたらどっと出てしまうんじゃ、土が。土をためる効力があるわけ。これが福本じゃ、ここは。ここのところ大きな可動井堰があるんじゃ。青山君のおやじとこの間、話ししたんじゃ。ここのおやじも夏になったら川へ入るけ。言うたら、ここのところまでは水が濁るんじゃと。これを境に物すごくきれいになるというわけじゃ。ということは、こんだけ土のうで落差をたくさんつくることが今言ようる自然災害を防止できるんじゃねんかということをしなさいよというて書

いとんのに、あんた方はどこのメガソーラーの工事をしょうる現場へ行かれよんな。美咲のほうへ行きょんじゃなかろう。おかしいでしょうがな、こんなもん。とんでもない話よ、これ。じゃから、ここは危険ですよ。一番危ないのは林野じゃと、湯郷じゃと。ここらはもうつかった経験があるんじゃけん、今までに。38災には。ここで前の副市長の安部さんが言ようりましたがな。ね、尾髙さん、ボートで行ったり来たりしましたぞなというような話ししょうりましたが。

ですから、今度はこれとこれと足したやつが、トタンの上に水流れたようなやつがどっと一遍に川へ出たら、この川も恐らくもつやらもたんやらわからん。河川改修したところが上へゴルフ場したらブロックのさら積んだやつが裏洗うたらもうがたがたに倒れたんじゃから。〔聴取不能〕というところじゃ。そういうなんわしも経験しとんよ。ですから、あんた方の考えとる安全・安心はどこにあるんですかということを尋ねるん、これが質問じゃ。ここに書いとる協定書は何だったんならという話ししょんじゃ。市民を愚弄するのも大概にせにゃいけんぞ。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部次長。

企画振興部次長（春名　信明君）〔登壇〕

失礼します。岩江議員、３回目の御質問にお答えさせていただきます。

メガソーラー工事の現場におきましては、濁水防止等、それから災害含めた対策ということで、先ほど議員もおっしゃったしがら柵の設置ですとか、土堰堤の設置、それからフェンス等の設置も行っております。あわせて、濁水防止も含めてフィルターの設置を行っております。それらの対策を講じまして自然保護協定、それから事業実施協定の遵守に向けて、事業者ともより綿密な連携のもと対応をしてまいりたいと思っております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岩江議員。総括です。

１５番（岩江　正行君）

もう対応対応というて、今も言うたがな、はやこれもう済みょんでというて。仕事済みょんで。対応対応という話じゃなかろうがな。のれんに腕押しみたいな答弁じゃから、もうどがいにもするのわしも大義んじゃけど、一応提出しとるから。

２項目めの今度はヘイトスピーチと部落差別の解消法、法令遵守についてです。

これについて、これも何回かやってきた。同じことを言わにゃいけん。先ほど内海副議長が明治維新から150年たったと。解放令が明治４年にできとんよ。この差別がのうならにゃいけなんだんじゃ。ところが、困る人がおったんじゃな。全部平民になってしもうたら困るという形の中で困る人がおったんじゃ。この人らが美作一揆というて、津川原のほうじゃ竹やりで何人か殺されとる。ここら辺でもあっちやこっち、わしのところの部落でも部落、集落を攻撃して全部焼き討ちにしとんよ。柿の木の跡があった。東京のほうからそれ調べに来とんなった、焼けた柿の木を。

そのような厳しい中でずっと皆さんが一人の人間としての、我々の人権を守るという闘いの中でずっとしてきて、ほいで運動の中で、同和行政というのは、これは日清、日露戦争のときにあんた方がつくった名前なんよ、同和行政というのは。それがそれから後に何年かたって、地対法答申が出て、地対法成立して、新しい法律つくって、事業をつくってやりょうったけんども、いまだたって部落差別は温存助長されとると。ヘイトスピーチ、ネットで部落を今言よう調べてお金にするとか、いまだたって岡山県のある公の施設が

部落の人を採用しないというようなことがある、現実に、就職差別。

それと、今回言いたいのは、この６条の実態調査の関係。なぜしないの。あんたのところ隣保館じゃろ。あんたのところは公民館じゃろ。公民館とこの実態調査というのはあんた方が本当に差別を憎んで、差別のない社会をつくらにゃいけんというんだったら、何が差別やら区別やらわからないようなことじゃ困るでしょうが。就職の問題、結婚の問題、進学の問題、どこまで調査したの。これできとんの28年12月16日に施行されとんじゃ、この法律は。何やられとんの、ほいで。今回も予算書見よったら、人権推進費の中で事業、何か知らんけど、施設費か、何なら何とか書いとったろう、70万円ほど。けれども、この実態調査のじの字も入っとらん。ほいで、今言ようる、これは隣保館や公民館は何されよんな、これ。せえでもええというてあんた指示しとんか。これからこれからという問題じゃなかろうがな。あんだけおめえ法令遵守せにゃいけんというて、校長先生が職員呼んで講演したりしなって、市長はここへ就任すると同時にコンプライアンス、一番に言いなったんじゃ。その萩原市政の中でまだこういうな問題が依然として皆さんが認識されない。

それと、先ほど安藤議員が、後から質問するんじゃけども、デマンドタクシーの関係、わしら作東だけじゃ思いよったら勝田、はやしょんじゃ。ほれで、作東は300円、勝田何ぼですか、安藤議員ていうて、さっき休憩のときに聞いたら200円じゃ言うん。やっぱりこういうなところが何かかわいい子と憎い子とつくって、これこそ大きな萩原差別行政が形になって出てきとん。これをのうせなんだら、信用せえ、どがいせえ、協力せえというて言うたってできりゃせん。ここをやるから、なくしょうとするからどがいぞ頑張ってくれえやと言や、わしらでも何ぼでも言わせてもらう。けれども、こういうな形の中でやっとったら、300年続いたやつが、明治４年に解放令で全部部落差別がなくなってしもうとかにゃいけんのんじゃ。これ、馬場先生というて東京のほうの先生の講演聞きに行ったんじゃ、わし。姫路の文化センターか。これ人がつくったもんじゃからなくなるんじゃというて言ようるわけ。環境改善はお金を入れたらある程度変わってきた。けれども、なくならにゃ何ならというこっちゃ。やっぱりその辺のところで、口を酸いにして言いよるけども。

それで、同対審答申の中にも部落差別が現存する限り、この行政は積極的に進められなきゃならない、これ法律じゃ。あんた方は法律にけつ向けるような行政やりょうったんじゃ市民の人権も何もあった、たまったもんじゃないわ、ほいで。そういうことで、１回目の答弁。

議長（鈴木　悦子君）

質問中なんですが、お諮りいたします。

本日の会議時間は議事の都合により延長したいと思います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。よって、本日の会議時間を延長することは可決されました。

それでは、答弁。

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）〔登壇〕

それでは、岩江議員のヘイトスピーチと部落差別解消法、法令遵守についての１番の項目について答弁させていただきます。

平成28年12月に制定された部落差別解消法は、全ての国民が等しく基本的人権を享有するかけがえのない個人として尊重されるものであるとの理念にのっとり、部落差別を解消する必要性に対する国民一人一人の

理解を深めるよう努めることにより、部落差別のない社会を実現することを旨として各種施策を行わなければならないとされています。

この法律の中で地方公共団体の責務として国との適切な役割分担を踏まえて、国及び他の地方公共団体との連携を図りつつ、必要な啓発を行うよう努めるものとされております。美作市といたしましても、法の基本理念にのっとり、今後も同和問題を初め、ハンセン病問題、障がいのある人、高齢者など、さまざまな人権問題に対して、国、県、関係機関等と連携協力のもと、総合的な各種施策を推進してまいります。

２番の頻発しているインターネット上で野放し状態にあるヘイトスピーチを抑制するための取り組みについて。

議員の御指摘のとおり、インターネットは利用者に大きな利便性をもたらす一方で、その匿名性を悪用し、基本的人権を侵害する書き込みが増加するなど、差別を助長し、重大な人権侵害を引き起こしています。インターネットの急速な普及に伴い、誰でも参加できる自由な意見交換の場として電子掲示板が設けられております。しかし、その匿名性を悪用してネットいじめや誹誘中傷、他人を差別するような悪質な書き込みが見受けられます。いかに表現の自由があるといっても、誹請中傷や他人を差別するような自由はありません。

美作市といたしましても、複雑、多様化する人権問題の解決に向けて、家庭、地域、職場などさまざまな場において多様な主体との連携、共同による研修、情報提供、広報活動等に取り組むとともに、法務局等の関係機関の連携のもと、相談、支援体制の充実を図るなど、総合的な施策を推進していくことが重要と考えております。

以上です。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

御質問の同和問題を初めとするさまざまな差別や人権侵害、これを抑止するための取り組みにつきましては、本年２月に改定いたしました美作市人権教育啓発推進基本計画に基づきまして、市内の小・中学校での学習はもとより、先ほど公民館やっていないんじゃないかとおっしゃいましたけれども、公民館の講座あるいは大原公民館では新たにそうした取り組みも始めたいというふうに考えておりますが、そうしたもの、高齢者大学など、多くの学びの場を活用し、進めております。

また、本年２月に開催いたしましたハンセン病の映画「あん」を見る人権教育講演会におきましては、参加者の皆様にアンケートを実施いたしました。あなたが人権課題として意識しているものということで、複数を調査をいたしたわけでございますが、第１番目といたしましては障がいのある人に対する差別、第２番目は高齢者、第３番目がインターネットによる人権侵害という結果となっております。そうした結果も受けまして、特に子どもたちに対しましてはインターネットを使用する上でのルールやマナー、危険性について学習する機会を増やしておりまして、各学校において意識の啓発に取り組んでいるところでございます。

以上でございます。

〔15番岩江正行君「実態調査は、進めよんか」と呼ぶ〕

実態調査につきましては、国から来たものに対しての協力ということでございます。

〔15番岩江正行君「協力じゃないがな。おかしいことを言う。どこへ協力じゃというて書いとんじゃ、ここへ。法律の中へどこへ協力じゃというて書いとん」と呼ぶ〕

教育委員会が協力するというふうになってございます。

したがいまして、これからも人権教育講演会等の機会を捉えまして、しっかりとそうした課題を把握してまいりたいと考えております。

以上でございます。〔降壇〕

〔15番岩江正行君「しとらん言うこっちゃがな」と呼ぶ〕

議長（鈴木　悦子君）

岩江議員。

１５番（岩江　正行君）

実態調査をしなさいよという６条に６項目めに書いとんじゃ、これ。縦割り行政の中のこれ法律じゃ。そこの中で、何したって、６条に実態調査をしなさい、そこでするのは何ならというて言うたら、細こう見ようったら、公民館。公民館というたらあんたの担当じゃ。それから隣保館、ここらが中心になって就業の実態はどがいなんな、今だって職のない人がおられるんが、仕事はどういうふうになっとんな、進学率はどがいなんなら、そういうような福祉についてのいろんなさまざまな問題を調査しなさいよと。それを一つ一つ解決することが差別解消につながるんじゃ。同対審答申では国がどうのこうのじゃないんじゃ、国民一人一人の問題として取り組まにゃいけん、国民的課題じゃというて、こういうふうに同対審答申じゃ言われとるわけじゃ。あなたのような上から水が流れてこなんだらどっと流れてきて、さっきの話じゃないけども、被害をこうむらなんだらまだわからんような、そんなことじゃいつまでたっても解決しゃあせん。

それと、ここ広島県福山市、奈良県、香川県、兵庫県、それから三重県、尼崎、こういうな、たつのやこうもそうじゃ。ここらはヘイトスピーチの関係について人権担当者――担当課というたらあんたじゃな――が民間団体などの協力でモニタリング事業を実施しとるというて書いとる。あんたのように待っとんじゃねんじゃ。感性が働いとんじゃ、差別は嫌というて、差別の怖さ、厳しさというものをよう知っとる人らはこういうな動きをするんじゃ。あんたらのようなのは面の皮が厚い言うんじゃ。面の皮が厚いんじゃ。わからんのんじゃ。感性が働かんという話ししょんじゃ、早う言うたら。

それと……。

議長（鈴木　悦子君）

岩江議員、もう少しちょっと言葉を丁寧にしてください。

１５番（岩江　正行君）

差別受けとるもんがあんなこと言われたら、余計頭へくらあや、そんなもん。

ほいで、差別禁止条例、川崎市長が方針、ヘイト事前規制をめぐり、これ条例案を制定しとんよ。鳥取県もやっとんじゃ。隣のたつの市もやっとんじゃ。全国あっちやこっちやでやりょんじゃから、国が言わいでもするわけよ。何とかのうせないけんという気持ちが働いてこういうな独自につくっていくわけじゃから。よそらがしてなぜ美作市ができないなら、おかしいじゃないですか、ほいで。そういうことで。

時間がないんで、次入ります。

議長（鈴木　悦子君）

じゃ、続けて３項目めに入ってください。

岩江議員。

１５番（岩江　正行君）

公共投資の検証と将来の展望について、萩原市長、１期４年間で多くの費用を携わってきた。多額の公費を投入しているが、投資効果について尋ねるでございます。

公共投資の検証と将来の展望について。

１番目、野田レーシングスクールの状況について。

２番目、滋慶学園医療専門学校の状況について。

３番目、都市公園の進捗状況について。

４番目、指定管理業務委託について、武蔵の里、愛の村パーク、放課後児童クラブの経営内容について尋ねるでございます。

１回目。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部次長。

企画振興部次長（春名　信明君）〔登壇〕

岩江議員の３項目めの１番の御質問でございます。

野田レーシングスクールの状況についてとの御質問ですが、本市ではモータースポーツ分野における新たな学びの場を確保し、有為な人材の育成と地域への人材の定着を目指して、全寮制のレーシングスクール、野田レーシングアカデミーを平成27年度から開校し、これまでに11名の生徒を送り出しております。また、29年度からは短期集中トレーニングコースを開設し、小・中高生や社会人の11名の方が60回を超える実習走行を行われまして、うち１名の方がスーパーＦＪレースに参戦し、学校の知名度を上げていただいております。

これまでの野田レーシングアカデミーへの支援につきましては、議員の皆様の御理解、御協力をいただきまして国の交付金を活用し、施設移転新設奨励金、施設移転新設補助金、そして施設運営補助金をそれぞれ議決していただき、これまで執行いたしております。しかしながら、その実績につきましては、当初計画から見ましても現在の通年在籍生徒数が想定よりも少なく、大変厳しい状況となっております。このため、運営補助金の支出につきましては一旦立ちどまり、今後の事業計画、生徒数、これまでの成果などを確認した上で改めて検討してまいりたいと考えております。

他方で、野田レーシンググループ全体の取り組みとしましては、皆さん御存じのとおり、野田樹潤さんが活躍されまして、テレビの出演ではＮＨＫを初め、12のテレビ系列、また、ＢＳ、ＣＳ局等でのレースの模様、企画シリーズと多くの番組に出演され、またＦＭ岡山を初めラジオ局、新聞記事などにマスコミにも多く取り上げられております。これによって、野田レーシングアカデミーの認知度も高まり、岡山国際サーキットを初め当市全体の宣伝効果に寄与しているものと考えており、大変すばらしい活躍をいただいているものと考えております。

市としましては、こういった野田樹潤さんのさらなる活躍に期待するとともに、補助金の対象である学校としての事業計画についてもさらなる効果の出るものとなるよう、今後の事業計画の検討に期待をしているところでございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部次長。

企画振興部次長（平田　幸春君）〔登壇〕

失礼いたします。２点目の滋慶学園医療専門学校の状況について御答弁させていただきます。

専門学校が開校したことによりましての投資効果につきましては、直接的にあらわれている効果といたしましてこれまで議会でも御説明させていただいておりますとおり学校の整備による直接的な経済効果が考え

られるほか、ショウワコーポレーションによる寮建設が行われており、民間の投資も行われており、地元への直接的な経済効果が出ているものと考えております。また、滋慶学園の専門学校の開校に伴いまして寮が整備されており、今後市の固定資産税などの税収の増加も期待されております。

また、そのほか直接的な効果といたしまして、39名の専門学校の学生が入学されており、地元での交流人口の増加、専門学校による市民の方の雇用創出、それから教職員の市内への移住・定住、学生が地元でアルバイト活動、学校発注による学生ジャージの受注、地元での飲食など、学生、職員などによる周辺での経済活動の創出等が考えられます。また、地元の方より、専門学校の学生さんが増え、元気に挨拶される、活気が出てきたと学校のほうに連絡があったと聞いており、数字ではあらわせない効果も生まれてきております。

以上のとおり、４月の開校により着実に効果はあらわれてきているものと考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）〔登壇〕

それでは、都市公園の進捗状況についてお答えをさせていただきます。

平成29年度末までの進捗でございますが、公園面積では370ヘクタールが開園面積となっております。このうち都市計画区域内の314ヘクタールが交付税算定における基準財政需要額に算入され、年額１億円を超える金額が都市公園開園面積により加算されることになります。

現在までの総事業費でございますが、約４億4,000万円でございます。補助金や起債を財源として活用していることから、美作市の実質負担額は１億2,000万円程度となっております。一方で、開園面積に対する交付税算入が始まり、昨年度の交付税収入では約6,000万円が増額算定となっております。交付税算入による加算額と実質負担額の累計を差し引きしますと、31年度末時点で交付税収入額が実質負担額を上回る計算となり、以後、継続的に開園面積に応じた交付税が一般財源に上乗せした収入として見込めることになります。

整備の内容でございます。栄町、朽木、北原、楢原下の進入路６路線、総延長約5.6キロメートルと、それらを尾根伝いに連絡する縦走園路約２キロを整備いたしました。現在複数の散策ルートが開通しており、連休以降、園路を散策をされる一般来園者を見かけるようにもなりました。今後は縦走ルートを延伸し、平福、楢原上、平田からの進入路を整備することで里山公園エリア一帯を網羅した遊歩道の整備を行うこととしております。

休憩広場等の設置については、継続的な維持管理を可能とする施設となるよう協議検討をしてまいります。引き続き地権者の皆様方の意向を尊重しつつ、学校、教育関係、観光、健康増進等、各関係機関と連携し、有効な利活用を探求し、調査研究、ＰＲを行いたいというふうに思っております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

指定管理業務につきまして、武蔵の里関連施設及び愛の村パークについてお答えをさせていただきます。

平成29年度の利用状況は、楽市楽座の利用人数が前年度比3,203人の減でして、8,932人、武蔵の里研修センター、これ五輪坊でございますが、宿泊、日帰り入浴、資料館などの利用人数は前年度比3,891人の減で１万6,076人となっています。武蔵の里交流館の利用人数は前年度比270人の減で581人となっております。

愛の村パークのレストラン、日帰り入浴などの利用人数は前年度比5,155人の減で２万3,328人となっております。

また、ことし４月の利用人数でございますが、楽市楽座の利用人数は前年度比65人の減で691人、武蔵の里研修センター五輪坊の宿泊、日帰り入浴、資料館などの利用人数は283人の増で1,365人となっております。愛の村パークのレストラン、日帰り入浴などの利用人数は前年度比245人の増で2,307人となっております。武蔵の里の利用人数の減はクアガーデンの休止、愛の村パークの利用人数の減は改修工事による一部休館が大きく影響しております。

また、指定管理者によりまして管理運営になって以降の武蔵の里の宿泊、日帰りの動向については大きな変化はなく、３月、８月は合宿、６月、10月、12月は関西方面からの利用客が多い傾向にございます。愛の村パークの宿泊者の動向はレジャー目的の家族客が多く、ビジネス客が少なく、近隣の県――鳥取県や兵庫県でございますが――からのお客様が多く、県内からの利用者は少ない傾向にあります。

以上です。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）〔登壇〕

失礼します。私のほうからは放課後児童クラブの経営内容についてお答えをしたいと思います。

指定管理者を変更しまして２年が経過したところでございます。経営内容につきましては社会福祉協議会が実施されていた内容を引き継いでおりますが、営業所に専門事務員を配置し、現場の事務負担軽減が図られていること、また支援員が研修を受けやすいよう経費的な配慮がなされるなど、以前よりスムーズな保育環境になっています。

なお、利用児童数につきましては、平日の１日平均数が27年度が228名、28年度が217名、29年度が202名ということになっております。本年度３年目を迎え、さらに子どもさんの安全・安心な放課後の居場所となるよう、指定管理者と連絡、報告を密にとり、運営を進めてまいりたいと考えております。

以上です。〔降壇〕

〔15番岩江正行君「ええか、休憩せんのか」と呼ぶ〕

議長（鈴木　悦子君）

じゃ、10分間休憩します。

午後５時03分　休憩

午後５時13分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

９番金谷のり子議員が体調管理のために退席されました。

それでは、岩江議員、２回目の質問です。

岩江議員。

１５番（岩江　正行君）〔質問席〕

２回目。

野田レーシングスクールの状況についてですが、これについては物すごいい話ばっかりするわけじゃな。それほどええところのやつを初めはこれ30人来るというて言うたんよ。30人来とんのに、今学校には一人も

生徒が、全然おらない。あそこの娘さんもおったの、何か知らん、神戸か大阪のほうへ行かれとるというようなことも聞いとるし、この辺について、ええ学校なのに何で生徒が寄らんのな、この問題。

それから、滋慶学園の看護学校の状況について、これも萩原市長アパート買うたから、公団から払い下げてもろうたから、こりゃええことしたな思うたん。それは何ならというて言うたら、滋慶学園あっこへできたらあそこで、ここら辺だったらもうアルバイトするところたくさんある。そこへ何もショウワにあっこへマンション建ててもらわんでも、ここの今一番学生が困っとるというのは、学生とも会うんじゃ、よう会うんじゃ。話聞いたら、おじさん働く場所ねえか、アルバイトする場所ここ全然ねんじゃというて言うんじゃ。アイのところで何人かとコメリで何人かと、もうほんまに10人も働きょうるところありゃせん。

美作のそこの北山のところとか入田とかというところがごっつあいとんじゃけれども、あそこらだったら今言ようる、それでも美作市の中心部じゃ、たくさんアルバイトするところある。市長さん何で、割合物事がさえとんじゃけどこれだけちょっと私のほうがさえとるような感じがしたんじゃけど。ちょっとおかしいようなな。そういうことでこの問題。

それから、とりあえず協定書か何か、市と学校と話ししとる。そこの中身見ようったら、生徒は360人おらなんだら経営が不能になるというて言うとる。今聞いたら、これ非常に少ないという問題。

それと、３番目の都市公園、この進捗状況、これはこれから遊歩道つけるんじゃというて言ようるけども、今度は遊歩道できてしもうたら市長、これ一番初めの取っかかりがここの都市公園をしたら全体で今より１億2,000万円ぐらいな交付金が来るんじゃと。その交付金を充てたらこれから仕事が少のうなっても雇用の創出になると。ほいでもそこまで考えてやってくれとんじゃな思よった。反対するするでもそこまで考えてくれとんじゃな思うとったら、今度はその来た交付金が今言ようる介護保険、このほうに300円軽減するいうて振った。これじゃけど、維持管理するお金今度はどこから出るんじゃろうか思うて。もう交付金の二重払いは国のほうもしてくれんように思うんです。ですから、この辺のところについても、やっぱりいかがなもんかな思うの。

それと、指定管理業務の委託について、武蔵の里、愛の村パーク、放課後児童クラブの経営内容、これらは一つにまとめて話ししたら、栗倉でもおばちゃんが嘆きょったいうて言よる。そりゃ岡野議員が言うたら、あそこへ飯を食べに行ったら、今の状況どんなですかいなというて言うたら、泊まる部屋ばあつくって宴会ができん、その売り上げがどんと落ちしもうたというて、これが１つ。それから、便所の話。便所は今までだったらすっと入ったところの左行ったらトイレ使えよったんじゃ。今度は部屋にしたもんじゃけ、あっこ鍵かけとる。この間、飯を食べに来とる人がトイレはどこかいなというたら２階へ上がってくれというて言ようる。そのようなちょっと不便が出てきよる。

それから、あそこの楽市楽座。楽市楽座やこうは今言ようる朝市しょうるときにだけで、もうちょっと何人かの人間がばらっと来ようるけども、平日というのはほんまに車がとまっとるのほとんど見りゃあせん。これ実態。ほいで、品薄じゃ。品薄じゃから人が行かない。品物出しても売れんからひなえてしまう、ひなえてしもうたやつを今度は自分らが、出荷した者がそれ晩にはとりにいかにゃいけん。それだったら、大原のＡコープ持っていっとったら２時間ほどしたらきれいに売れてしまうんじゃというような、そういうような問題。

それと、放課後児童クラブの関係じゃけども、これ聞きたかったのは第１ダンボ、第２ダンボがあるでしょう。それで、第１ダンボ、第２ダンボはどうやら満館状態じゃろか。楢原のほうが満館になったから楢原のほうへ新しいやつを民間の人がされたんじゃろか。あそこは何か知らんけど、ちょっと聞くのにうちの近所の子どもさんがあっこ、楢原のほうへ行きょうるらしいんじゃけども、たくさんおられるらしいです。そ

れと、これは悪口か何か知らんけども、今のダンボ行くんだったら、ああいうなところ行くんだったらもう家で留守番しときんさいというて、親がこういうな話も出ようるというようなことも聞くこともございます。これが事実だったら大変な問題でもございますし、なぜ指定管理に出してようなっていかにゃいけんやつがなぜそういうな悪評ばっかり出てくるんか。

それと、指定管理料はこれ多いんじゃないかと思うんじゃ、武蔵の里も愛の村も。多いから指定管理を食べるのにはまだちょうどええころじゃあから動かんと金もらえりゃこれええからな。ほじゃけど、やっぱり自分の今度は給料を稼ごうとしたら、指定管理が少なかったら稼いでいかなんだら今度本社に怒られるから動こうとするけども、指定管理費ちょっとまだ出し過ぎじゃねえか、1,000万円じゃまだ少ないじゃろう思うんじゃ、これ。その辺のところもお尋ねしたいと思います。そんだけです。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部次長。

企画振興部次長（春名　信明君）〔登壇〕

岩江議員、２回目の御質問でございます。

野田レーシングアカデミーについてでございますが、議員御心配のとおり生徒数は現在少なくなっております。学校としましては平成30年度の生徒募集に向けて昨年度から新たに取り組んでおります一般の方を対象にした短期集中トレーニングでの生徒のレース経験や運転技量、潜在能力等、多方面から評価し、生徒に合った適切なプログラムを設定するプログラムを導入しまして、今後の生徒の確保を図っていきたいとお聞きしております。

市としましては、安定した経営ができ、生徒が夢に向かって頑張れる環境が整うことを願っております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部次長。

企画振興部次長（平田　幸春君）〔登壇〕

失礼いたします。２点御質問だったかと思います。

まず、１点目の学生の働く場所についての御質問ですが、これにつきましては私も滋慶学園のほうから働く場所がないかという話はお聞きしております。現在、アイ、コメリ、それからやすらぎ荘、そういったところに10名ほどアルバイトされておるというふうにお聞きしております。

それから、２点目の協定書の協力内容でございますけども、開校に向けた認可申請に対する協力とか建築に対する支援、それから学生募集に対する協力、そういったことをうたっておりまして、学生を集めることは本市の重要課題でございまして、岡野議員のときにも御答弁させていただいたとおり市としてできることは協力させていただきたいと考えております。

以上でございます。

〔15番岩江正行君「違う。360人に対して、360人おらなんだら経営不能になるというてあっこの中うとうとるがな。あれはどがいならというて言う、それ答弁せにゃいけんが」と呼ぶ〕

360人につきましては、開校後３年もしくは４年で360人をめどにしておりますので、現時点では人数が少ない状況ではございますが、しばらく様子を見させていただきたいと思っております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）〔登壇〕

公園について２回目の御質問ございました。雇用の創出と維持管理費であったと思います。

維持管理費につきましては、28年度で200万円、29年度で200万円、今年度300万円の予定でおりますが、最終的には1,000万円程度が必要になると見込んでおります。したがいまして、その維持管理費を整備をまだこれから進めていきますので、整備を進めていくと維持管理費もかさんでくるということで1,000万円程度見込んでおりまして、その維持管理費に当たるものを雇用の創出ということでやっていきたいというふうに思っております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

指定管理の施設についてでございますが、まず愛の村パークについての不便があるという点につきましては状況の把握に努めまして、対策について指定管理者と協議してまいりたいというふうに思います。

それから、武蔵の里の楽市楽座につきましては、来店されるお客様の減ということで、売れ残るというようなことがあって出荷される量も減ると。そうするとまたお客様も減ると。悪循環もあるのかなというふうに感じております。ですが、生産者組合はございますが、朝市の開催やそれから寝屋川市の交流、それから武蔵の武道館でのイベント時などの出店など、大変努力をされているというふうに思います。組合や指定管理者含めまして、続けて協議してまいりたいというふうに思います。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）〔登壇〕

失礼します。放課後児童クラブですが、御質問のダンボ１、２の空き状況ということですが、今のところ定数に対しては多少あきがあるというような状況でございます。ただ、それぞれ指定管理者、それから民間の事業者、それぞれ保育の方針、それから保育支援計画等をつくって、きのうも答弁しましたが、それぞれが同じ子どもの育成支援に当たっているところでございます。

先ほど答弁もいたしましたが、指定管理者の美作営業所も設けて、専門の事務員も配置して保育支援員の事務の軽減、また支援員の研修制度の便宜等も従前にはかなり増して環境は改善されておると思います。どちらの施設がすぐれている、劣っているということはございませんので、その点御認識いただきたいと思います。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

一通り答弁が終わりました。

３回目です。

岩江議員。

１５番（岩江　正行君）

言うのを忘れとったんじゃけども、初め当初契約したときと指定管理料、変わっとんか変わってねんか。生徒が初めはたくさんおった言うん、オレンジハートするまでは。その問題。

それと、お金の話、野田レーシング、お金を1,000万円ずつ出しょうたでしょう。あれがことしの補正予算も当初予算ものっとらんので、これがどがいなっとんか。もう出す気がないんか。効果があるんだったら出してあげたらええんじゃねえんか。効果ないようになったけん出さんのんか。この辺のところの中身だけ

ちょっと教えてください。

以上。

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）〔登壇〕

失礼します。放課後児童クラブの指定管理者への委託料の予算でございますが、28年度当初の決算額と比較しまして約500万円程度増額しております。これの内容ですが、クラブ内に障がいがあるお子様が想定よりも多くいらっしゃるということで、支援員を増員して加配するというような状況で運営をするということの対応が必要がありまして、人件費の増額に対するものがその主な内容でございます。そうしたことで支援員を確保するということで安全な施設運営を図るということで予算の増額につながっているのが主な要因ということでございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部次長。

企画振興部次長（春名　信明君）〔登壇〕

岩江議員の３回目の質問でございます。

補助金の件でございますが、１回目の答弁でもお答えしておりまして、運営補助金の支出については一旦立ちどまり、今後の事業計画、生徒数、これまでの成果などを確認した上で改めて検討してまいりたいと考えております。補助金の対象である学校としての事業計画についても、さらなる効果の出るものとなるよう今後の事業計画の検討に期待をしているところでございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岩江議員。総括です。

１５番（岩江　正行君）

もう春名部長、あんた成果はどえらいあるというて言ようたがな。

次はほんなら４項目めに入ります。空き家対策について。

これも空き家対策の特別措置法が平成27年５月に全面施行されました。それからはや３年が経過しとる。美作市の取り組みが進まない状況、今の現状、それから潰そう思うても財政支援の関係、これどうなっとんじゃろうか。それから、税制措置の問題。

４番目、また全国版空き家バンクの構築の参加についてはどういうふうな考えがあるのか。

５番目、空き家対策計画の策定状況。こういうなものはどういうな計画立てられとんか。それについてのお尋ねいたします。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）〔登壇〕

４項目めの空き家対策についての１番から５番までについてでございます。

美作市空家等の適正管理に関する条例を制定したことにより、情報提供のあった物件が722件あり、そのうち公道等に何らかの影響がある状態である空き家89件について現地確認を行い、早急な管理が必要な空き家については報告期限を設け、所有者に対し通知を行っております。この結果、半数の44件の物件については、解体撤去をしていただいたり、草刈り等の対応をしていただいております。残りの物件についても所有

者に対応をしていただくよう連絡をとっているところです。

空き家になった当初は墓参りや帰省したときの住居として利用していますが、空き家の年数がたつにつれ、所有者も相続されないまま放置される状況になっています。所有者は空き家を財産としての認識に乏しく、お荷物的なものとして捉えている傾向にあります。また、賃貸しようにも仏壇や家財などがそのままの状態で処分もできない状況です。年々空き家の増加が見込まれ、空き家の除却には多額の費用がかかり、所有者にとって大きな負担となっており、除却をちゅうちょされる状況が見られます。こうしたことから、美作市空家等除却事業補助金交付要綱を制定し、危険な空き家については解体撤去費の一部を助成する制度を設けております。補助金は解体費用の２分の１で上限30万円としております。昨年度の解体費用の補助は４件あり、今年度も既に２件の申請がございます。

次に、空き家に対する税制措置についてでございますが、通常住宅の用に供される宅地には減額措置があり、固定資産税の税額を計算する際の課税標準額について200平米までを固定資産評価額の６分の１、それを超えた部分を３分の１とする課税特例があります。当該空き家が適切な管理が行われておらず、倒壊など危険な状態であり、放置できない状況にあると認められる家屋、いわゆる特定空き家に対し空家等対策の推進に関する特別措置法第14条第２項に規定される除却、修繕等の措置を勧告された当該家屋の敷地については地方税法第349条の３の２の規定に基づき、この住宅用地の課税特例の対象から除外されることとなります。なお、この除外措置により特定空き家の敷地の固定資産税は２倍から４倍程度に増額されることとなります。

また、所得税において、租税特別措置法第35条第３項の規定により、空き家の発生を抑制することを目的に被相続人が居住していた家屋について相続してから３年を経過する日の属する年の12月31日までに当該相続人がその家屋または取り壊し後の土地を譲渡した場合の譲渡所得に対し3,000万円を特別控除する特例を設けられているところです。

次に、全国版空き家・空き地バンクの構築の参加についてでございますが、国土交通省により全国版空き家・空き地バンクサイトは平成29年10月から試行運用が開始され、平成30年度からは本格運用が開始されています。平成30年３月末時点の参加表明自治体は492自治体で全体の27.5％です。現在、本サイトは国土交通省から採択を受けた２社により立ち上げられ、参加表明した自治体の空き家、空き地情報が掲載されています。

美作市においては、国土交通省の全国版空き家・空き地バンクサイトには参加していませんが、現在空き家の有効活用として市で取り組んでいる空き家情報バンク制度では岡山県ホームページ、美作市ホームページ、住まいる岡山ホームページで空き家情報を掲載しています。

この空き家情報バンク制度は空き家の所有者からの申込により不動産業者への情報提供から入居決定までの支援を行っているもので、現在の空き家の登録件数は25件となっており、これまでに平成27年度７件、平成28年度４件、平成29年度２件の契約が成立しております。

次に、美作市空家等対策計画についてでございますが、現在計画を策定中でございます。空家対策計画案では空き家等に関する対策の基本的な方針として３つの項目を上げております。

まず１つ目は、発生の抑制として空き家等の適切な維持管理や所有者等の維持管理責任について周知啓発を行い、危険な空き家にならないよう当事者意識の醸成を図ってまいります。

２つ目は、適切に管理されていない空き家等の解消として、空き家の年数が経過するとともに管理不十分になる傾向があり、危険性や周囲への悪影響が発生している、または発生するおそれの高い空き家等については市民の安全で安心な暮らしの確保のためにも所有者に対し発生している問題を是正してもらうよう必要

な措置を行うこととしています。

３つ目は、流通、活用の推進として適切に管理された空き家等は貴重な資源であり、若者が古民家再生に取り組んだり、田舎暮らしに憧れ、移住してきたりと、空き家の需要もあることから流通、活用を進めていくことが必要としています。

空き家等及び除却した空き家等に係る跡地の活用の促進や特定空き家等に対する措置、住民等からの空き家等に対する相談への対応、空き家等対策に関する実施体制などについて検討しております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岩江議員。

１５番（岩江　正行君）

この前も東粟倉で子どもさんが火遊びしょうったんかどがいなんか知らんけど、２軒焼けました。上下の。ほじゃから、やっぱりほっとったら何が起きるやらわからん。時間がないけんもうあれやこれや言わんけども、やっぱり国の補助金やこうあるでしょう。うちは上限を30万円で決めとんじゃろ。30万円に決めた根拠、ちょっと教えておくれ。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）〔登壇〕

根拠については今把握しておりません。申しわけありません。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岩江議員。

１５番（岩江　正行君）

把握しとらん数字を公表しとんですから、こりゃ大したもんじゃ、あんたもね。そりゃ萩原市長が再任雇用せにゃあいけんぐらいのやっぱり人物じゃ。ようわかりました。

次に入ります。５番目じゃったかな、今度は。

議長（鈴木　悦子君）

５項目めです。

岩江議員。

１５番（岩江　正行君）

耕作放棄地再生に向けての話、これも毎回しょんじゃけども、簡単に言いますと耕作放棄地の再生に向けた整備計画について尋ねる。これほんまに計画が立っとんか立ってないんか。

２番目、農業所得の安定ともうかる農業の取り組みについて尋ねる。これちょっと津山市のほうに農林部新設したりして、津山市長も本気でもうかる農業を取り組もうとしょんでしょう。

それと、耕作放棄地に、これ三島市じゃな、富士山の、景観は富士山と後山だったらちょっと向こうのが、世界遺産じゃからちょっと違うけども、やっぱり地形がよう似とる、ここも同じようなこと書いとる。水や緑、富士山の景観など、昔からの三島の宝に新たに花という癒やしの飾りを添えてというようなことで、ガーデンシティ三島ということで売り出しよん。そしたら、たくさん観光客来る。この前は三島じゃなしに伊豆の下田、あそこらにはもう290万人というて言うたんかな、年間。やっぱりそのぐらいに市長もやっていただきたい思う。あの3,000人のベトナムだけじゃなしに。そういうな形の中でお願いしたいと思います。ちょっと取り組みを部長、お願いします。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

耕作放棄についてということで、今の現状でございますが、平成29年度末において耕作放棄地としてみなされる農地は648ヘクタールでございまして、農地台帳による農地面積4,245ヘクタールのうち15％を占めております。関係者の御尽力によりまして前年に比べ62ヘクタール、8.7％減少しているところであります。

農業委員会制度が変わりまして、農地等の利用の最適化の推進が農業委員会の重要な事務として位置づけられました。農業委員会では引き続き農地パトロールを実施されておりまして、耕作放棄地の発生防止と解消に取り組んでいただくと承知しておりまして、農地の有効利用に向けて取り組んでいただきたいと、こういうふうに思っております。

それから、農業所得の安全ともうかる農業の取り組みの現状ということでございますが、米、黒大豆、アスパラガス、ブドウ、桃などの既存作物の維持拡大を図るとともに、もち麦、クレソンなどについても栽培技術の向上を図り、生産の拡大を進めております。もち麦は生産２年目となっております。１年目の収穫量は19.7トンで、10アール当たりの収量が180キロ程度ということでした。収穫後にかかった経費を差し引いた販売実績によりますと、10アール当たりの収益は５万4,000円で、これに水田活用の直接払い交付金３万5,000円、さらに二毛作助成9,350円を加えると合計で９万8,350円となります。平成29年産の米の取引価格と平均的な収量から試算すると、米は10アール当たり12万9,000円の収穫で、乾燥調整費などがこのもち麦との比較では差し引かれていないために単純に比較はできませんが、転作関係の交付金を加えることで米にかなり近い額になっている状況であります。しかし、まだまだ収量の増が見込まれるため、10アール当たり300キログラムを目標に取り組んでいるところでございます。

また、アスパラガスでございますが、勝英農協の資料によりますと平成29年度に市内で61戸、5.9ヘクタールの作付がございまして、売上金額が2,480万円と伺っております。これは10アール当たり42万円の売り上げとなっております。１キロ当たりの価格は1,160円で、岡山市中央卸売市場における販売価格の平均が1,154円と聞いておりますので、ほぼ同程度の額というふうになっております。アスパラガスには平成28年に１名、平成29年に１名、計２名の新規就農者があり、さらに規模拡大に取り組まれているという状況であります。

以上です。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）〔登壇〕

岩江議員の耕作放棄地再生に向けてということで御答弁をさせていただきます。

まず、現状でございますけれど、私どもといたしましては農業農村整備事業により農作業の負担軽減、利便性の向上などを目標に、次世代につながる農業の構築に向けさまざまな国県補助事業に取り組み、積極的に事業の推進を図っておるというところでございます。

まず、耕作放棄地の再生についてでございますが、放棄地となってしまう要因は多種多様でありますが、用水の不備、湧水処理等の改善を行うことで利便性が向上し、耕作の再開を前提に再生に向けて採択要件を満たせば対応できるということになっております。これはすなわち、先ほど岩江議員が言われましたように、水稲のほか野菜とか花卉類とかそういうものを一体的に整備するということの農業振興の計画が立って初めて今放棄地になっているところの整備ができるというふうに思っております。したがいまして、農業振

興課のほうとしっかり連絡をとって進めていく必要があるというふうに思っております。

次に、耕作放棄地の防止についてでございますが、農地耕作条件改善事業による農道舗装、暗渠排水、用水路改修及び頭首工改修事業を、その他では小規模土地改良事業、農道、用水路等の小規模改修を順次進めております。なお、これらの事業実施において発生します分担金が受益者の重荷となっていると考えておりまして、受益者分担金徴収条例施行規則を昨年度に改正し、本年度より受益者負担の軽減が図られているということになっております。また、地元から寄せられます細かな要望に対しましても、市の単独事業でございますけれど、重機借り上げとか材料支給をしながら対応することで耕作放棄地の防止対策に少しでも寄与するものというふうに考えております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岩江議員。

１５番（岩江　正行君）

部長、食のブランドづくりの３つの柱というて、これ長沼町というところのやつをちょっと読ませていただいて、長沼町の食のブランドづくりの主な取り組みは以下の５つじゃというて書いとるわけじゃ。これは先ほど倉地議員が質問したことを書いとる。１つ目は、長沼町は農業と食の町として広く認知され、地域そのもののブランド化すること、これが１つ、１点目。それから２つ目は、長沼町の農産物や農産加工品のイメージアップを図ること。３つ目は、農業者が主体的に付加価値の高い農産物の生産に取り組むこと。４つ目は、町民が主体的に農産加工に取り組み、ニーズの高い商品を生むこと。５つ目は、全ての町民が長沼町産食材のよき理解者であり、応援団になること。教育委員会、ならんというて言ようったじゃけど、ならんとは言わなんだんじゃ。そういうようなことを言われよんで、ちょっとそういうなことを書いとる。

ほじゃから、やっぱりそのような取り組みというのを一つ一つよそのをええことを学んでいかなんだら、まねせえとは言わんけど、ええことは学んで、悪いことは学ばんように。それで、これ蔦信彦先生がちょっと講演しようるやつをわし聞いたことがある。アジアのマーケット、やっぱりこれをねろうていかにゃいけんということを書いとるわけじゃ。そこに日本の生きる道がある。この講演ちょっと、もう時間がないけん読まんけど、そういうな形の中で一つ一つ取り組みが耕作放棄地を解消することになりますんで、いつも同じ話ばあ、これからやりょうります、これからしますというような、しますしますじゃなしに、毎日があんた方の仕事じゃけん、一つ一つ形のものを残してもらう、そのことが大事じゃないんか思いますんで。これ以上はもう言うてもなんじゃからやめますけれども、次に今度は６項目めかな。

議長（鈴木　悦子君）

はい。６項目めに進んでください。

岩江議員。

１５番（岩江　正行君）

質問をさせていただきます。

時間帯によって共同バス、空バスで非常に運行しょうる。大きなバス、これゴロンゴロン引こずって、大体経営者だったら人が乗っとらんにあがな大きなバス転がさいでも少ないバスで行ったほうが効率的じゃないかというのがこれ経営者の考え方。なぜ美作市はああいうふうなんじゃろうかというのが大きな問題。

利用状況や支援バスニーズを踏まえてサービスの基盤整備について尋ねる。免許証の自主返納の関係、それからお年寄りのこの間からもう事故がたくさんテレビ、マスコミで騒ぎょうる。こういうなん。それからまた、障がい者、老人、子ども、医療機関関係、こういうふうな人の合理的配慮についてもやっぱり地域の過疎が進行する中でこういうなもんが大きゅう効果生むわけですから、それをさっきちょっと安藤議員の質

問を聞きょうったら作東のほうデマンドバスが300円じゃというのに、勝田のほう200円て。わしら作東、土居と福山だけか思いよったら勝田のほうもデマンドタクシー走らせよんじゃ。ありゃ、ほんなら走っとらんのは議長や僕がおるそれから英田のほうだけ、やっぱりこれへのけにされとんじゃ思うて。これは考えてもらわなんだら困ることですし。

それと、やっぱり家でテレビばあ見ようっても退屈じゃから、移動の図書館を、これらも言ようるぞ。もう少しそういうふうな人の目線で行政をやるんじゃという気にならなんだら、一向にこういうな合理的配慮、福祉の問題、こういうなやつは絶対解決しない。ほじゃから、車をずっと走らすというたら大変になる思いますから、何かテレビで流すとか、そがいしたらこういうなん配って回るとか、回収して回るとかというような、そういうふうな何かバスの関係について、本の話も直接この前電話かかってきたん。移動図書館してもらえませんかと。江見行っても大原行っても、そのそばの人は電動機式の自転車ですっと行けるけども、ちょっと遠いなったら行けないので、どがいぞお願いしたいということはございましたんで、これについての御答弁をお願いします。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）〔登壇〕

６項目めの空バス運行と公共交通の見直しについてでございます。

５番目の利用状況、支援ニーズ等を踏まえ、サービス基盤整備についてでございます。

市営バスの運行は各地域循環線として東粟倉バス、大原バス、美作バス、英田バスがございます。バスごとの利用状況は、東粟倉バスは14人乗りのバスで、月、水、金曜日の週３回、３便半の運行をしており、利用者数は2,749人で、１便当たりの乗車人数は３人から7.6人となっております。次に、大原バスは29人乗りのマイクロバスで、４つの路線を月曜日から金曜日まで各路線３便運行しており、昨年度の利用者数は3,887人で、１便当たりの乗車人数は1.4人から3.2人となっております。次に、美作バスは29人乗りのマイクロバスで、林野駅から柵原病院までの路線とほか２路線があり、月曜日から土曜日までの週６日、朝夕各１便と午前午後各１便を運行し、利用者数は１万1,980人で、１便当たりの乗車人数は1.3人から12.3人となっております。次に、英田バスは10人乗りのバスで３地域を曜日別運行しており、１地域、週２回、４便から５便を運行し、利用者数は773人で、１便当たりの乗車人数は０人から1.2人の状況でございます。

次に、土居小学校区デマンドバスの状況ですが、土居地区と福山地区にそれぞれ１台、10人乗りのバスを置き、月、水、金曜日の朝、昼、夕の３便を運行し、昨年度の利用者数は2,536人で、１便当たりの乗車人数は3.24人となっております。バスを利用になる方は運転免許を保有していない方や自主返納された方、障がいを持っておられる方など、通院や買い物、官公庁等への用事などで御利用されており、午前中の利用が多い傾向にあります。

市では停留所までの距離を少しでも短距離にするため集落内を細かく循環しておりますが、このことにより、基幹線運行に比べ乗車時間が長時間になる状況が生じております。このように御利用されない時間帯などは整理統合を図るとともに、マイクロバスほどの乗車人数を必要としない循環線は耐用年数などを考慮し、順次、小型車に更新してまいりたいと考えております。また、６月１日から市内全域に拡大いたしましたタクシー利用補助事業につきましても５月末時点では登録者が628人となっております。

この事業の対象者としては、運転免許証を保有していない方で65歳以上の方、要介護１以上の認定を受けている方、身体障害者手帳をお持ちの方、療育手帳をお持ちの方、精神保健福祉手帳をお持ちの方、特定医療費受給者証をお持ちの方、運転免許の保有者であっても妊産婦の方、出産予定日の３カ月後までとなりま

す、おかやま愛カードの交付を受けた方としております。

現在バスを御利用になっておられる方も、行きはバスを利用し、帰りはタクシーを御利用するなど利用される時間帯なども考慮された利用がなされることを期待しております。市内の交通手段は民間事業者による基幹線運行や市による集落内を循環するバス運行、予約によるデマンドタクシー、デマンドバス、タクシーなどがあり、いろいろな交通手段の組み合わせにより移動手段の確保に努めてまいります。よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）〔登壇〕

私のほうからは障がい者の移動支援、合理的配慮ということでお答えをさせていただきます。

障がい者の移動支援につきましては、先ほど市民部長から説明もありましたが、タクシー利用補助事業の対象地域の拡大によりまして、市内全域の身体障がい者、療育、精神保健福祉手帳及び特定医療費受給者証の交付を受けた方で運転免許証を保有していない方に利用範囲が拡大されたところでございます。

また、前々から御説明をいたしております福祉有償運送につきまして、人工透析患者の方への再調査によりまして約20名の方から福祉有償運送の利用意向の結果がありました。さらに、この事業の実施主体となる美作市社会福祉協議会が20名の方に個々に利用登録の確認を行ったところ、現在は家族の支援があるなどといった理由から利用登録に至ったケースは２名ということにとどまっています。しかし、今後は本人の高齢による免許証返納とか家族の支援が得られないといった場合に改めて利用登録が行われることとなると思われます。

福祉有償運送はドア・ツー・ドアの個別運送が原則でありますが、乗車地が近いなど一定の条件が合致すれば一回の運送で複数乗車が可能である点が大きな利点であります。今後も引き続き丁寧に制度の説明を行い、利用促進を図ってまいりたいと考えております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

移動図書館につきましての御提言、まことにありがとうございます。

先日、図書館司書の会議をいたしましたところ、そうした試みも必要ではないかという声が出たところではございます。いろいろと課題も大きいとは思いますが、検討いたしまして考えてまいりたいと思います。面の皮は厚くてもいろいろ考えておりますので、御理解を賜りますようお願い申し上げます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岩江議員。２回目です。

１５番（岩江　正行君）

タクシーの金、タクシーの関係、これどえらいええことしたように、ええことはええんじゃ。そやけど、近隣と比べたらまだまだ近づかんの。小さな町があんだけのことができるのに、何で美作市ができんのんじゃろうかなと。近くだったいいんです、これが。湯郷からほんならさとう記念病院行くんじゃとか、その田尻の病院行くんだったらよろしいがな。ワンメーターぐらいちょっとぐらいで行くんじゃから。けれども、大原、東粟倉、梶並のほうからこれを使うということになると、ちょっと大きな地域、平等な形の中で見ちゃってくれなんだら、かわいい子と憎い子をつくらんようにせなんだら、さっきのデマンドの話じゃないけども、もう少し弱者の目線で、今一番困っとる人、一番困っとる地域、その辺のところの気持ちをやっぱり

行政の中で生かしてもらわなんだら。どえらい山陽新聞が書いとるやつ持っとんじゃ。どえらいことになったな、タクシーの補助金が出るんじゃなというて皆言ようるけど、見たら、こりゃかなわんというて言ようる、皆。奥のほうが見たらかなわんというて言ようる。

そういうな形の中でもう少し市民の目線で、弱者の目線で、利用する者の、やっぱり隣と話ししたりしてさっきも言うたんじゃけど、透析の人やこう一番困っとんじゃ。あんたら簡単にバス乗り合わせてどうのこうのというて言うけど、そう簡単にいかんのじゃ。ほじゃから、また皆さんの弱者の心が通じるように、そこら辺と接触して、もう少し萩原市長、言うたらわかる人じゃから、そこんところ頑張ってやっていただきたいと思います。終わります。

議長（鈴木　悦子君）

以上をもちまして通告順番７番、議席番号15番岩江正行議員の一般質問を終了します。

お諮りします。

本日の会議はこれで延会したいと思います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。

本日はこれで延会することに決定しました。

本日はこれで延会します。

再開は明日午前10時からです。

御苦労さまでした。

午後６時04分　延会

平成３０年６月１３日

（第　　４　　号）

1. 議 事 日 程（４日目）

（平成30年第３回美作市議会６月定例会）

平成30年６月13日
午 前 10 時 開議
於 議 場

日程第１ 一般質問

2. 出席議員は次のとおりである（18名）

１番	青 山 慶	２番	和 田 広 宣
３番	岩 﨑 清 治	４番	岡 野 鉄 舟
５番	中 山 忠 明	６番	倉 地 重 夫
７番	重 平 直 樹	８番	安 藤 功
９番	金 谷 の り 子	10番	岡 本 泰 介
11番	山 本 雅 彦	12番	萬 代 師 一
13番	山 本 重 行	14番	尾 髙 誉 久
15番	岩 江 正 行	16番	日 笠 一 成
17番	内 海 健 次	18番	鈴 木 悦 子

3. 欠席議員は次のとおりである（なし）

4. 地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名（20名）

市 長	萩 原 誠 司	副 市 長	横 山 博 光
教 育 長	大 川 泰 栄	政 策 参 与	山 下 亨
政策審議監	春 名 利 亮	総 務 部 長	岡 本 和 之
危機管理監	藤 原 陽 二	市 民 部 長	角 南 良 雄
環 境 部 長	宿 野 豊 彦	経 済 部 長	遠 藤 宏 一
保健福祉部長	江 見 勉	建 設 部 長	真 野 弘 紀
教 育 次 長	山 名 浩 二	消 防 長	皆 木 佳 久
会計管理者	山 本 和 毅	企画振興部次長	春 名 信 明
企画振興部次長	平 田 幸 春	企画情報課長	小 林 健 一
管 財 課 長	岸 本 正 人	農業振興課長	安 東 栄 作

5. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名（３名）

議会事務局長	尾 崎 功 三
課 長	坂 元 省 吾
係 長	金 谷 裕 子

午前10時00分　開議

議長（鈴木　悦子君）

皆さんおはようございます。

携帯電話の電源を切っていただきますようお願いいたします。

傍聴者の方は、傍聴規則第８条にもありますように傍聴席にあるときは静粛にしていただきますようお願いいたします。傍聴者の方が傍聴規則が守れない場合は議場より退席をしていただきます。

昨日に引き続き会議を開きます。

議員は全員の出席です。

定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

日程第１　　一般質問

議長（鈴木　悦子君）

日程第１、「一般質問」を行います。

それでは、通告順に発言を許可いたします。

通告順番８番、議席番号10番岡本泰介議員の発言を許可いたします。

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）〔質問席〕

皆さんおはようございます。

議長の指名をいただきましたので、一般質問をさせていただきます。

きのうどなたか言っておられましたけど、きのうはシンガポールで大きな会談があって、私も帰ってすぐニュースを見ましたが、余りこう成果が上がったように言われなかったんじゃないかなあと、世界の評価は、どうもアメリカなんか特に、あれは政治ショーだったなというようなことだったようでございますが、今後どういったふうに展開していくのかなという思いがしております。世界平和のためによりよいように、また拉致問題が解決するように、いいほうにいってくれたらなあという思いがしております。

さて、私は今議会では６項目にわたって質問をしております。

１番は空き家の現状と対策、２番、これからの美作市の農業について、３番、ＮＯＤＡレーシングアカデミーの現状と今後、４番、社会増人口の動向は、５番、ホーチミン像について、６番、滋慶学園の状況はということで、きのう、おとついと重複する項目もありますが、できるだけ皆さんの忌憚のないところをお聞かせいただきまして、今後の市政に生かしていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

まず、それでは１番の空き家についてですが、空き家については私は３つ項目を上げております。市内空き家の実態はということで、これはかなり今まで説明もされておりますが、県下ではどのような位置にあるのかなというような意味も含めましてお答えいただけたらと思います。それから、２番、空家等対策の推進に関する特別措置法の制定はということで、これは国の国交省のほうでやってることなんですけど、これについてどういうふうにしていくのかということをお聞きします。３番は、空き家バンクの推進はどうするのかということでございます。

この３点についてお答えいただきたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）〔登壇〕

改めましておはようございます。

岡本議員の１項目めの１番から３番までの答弁をさせていただきます。

１番の市内空き家の実態についてでございますが、各地域の役員の方や市民の方から情報提供のあった物件が727件あり、そのうち管理されている状態の空き家が約半数の345件、雑草が生えているがほかに影響がない空き家が199件――これは27.4％ぐらいに当たります――の状況です。一方、ほかには影響を及ぼさないが、倒壊のおそれがある空き家は88件、12.1％になります。公道等に何らかの影響がある状態である空き家が89件、12.2％でございます。他に影響がある89件については現地確認を行い、早急な管理が必要な空き家については報告期限を設け、所有者に対し通知を行っております。この結果、半数の44件の物件については、解体撤去をしていただいたり、草刈り等の対応をしていただいております。残りの物件についても、所有者に対応していただくよう連絡をとっているところでございます。

２番目の空家等対策の推進に関する特別措置法の制定についてでございますが、市では国の空家対策特別措置法の施行に先駆け、空き家等が管理不全な状態になることを防止し、もって生活環境の保全及び市民などの安全に寄与することを目的に、平成26年６月議会において美作市空き家等の適正管理に関する条例を制定いたしましたが、平成26年11月27日に国の空家等対策の推進に関する特別措置法が公布されたことに伴い、市の条例との整合性を図りながら、改正すべき事項については平成27年９月議会において条例改正を行いました。市の条例では、空き家のそれぞれの状態から段階的に立入調査、助言または指導、勧告、命令、行政代執行といった措置を行うこととしております。空き家は所有者等の財産であるため、基本的には所有者等がみずから解決すべき問題ではありますが、適切な管理が行われていない空き家等が放置され、地域住民の生活環境に深刻な影響を及ぼす場合には、条例に従い所要の手続を経て、最終的に行政代執行を行うこととしております。

３番目の空き家バンクの推進についてでございますが、国土交通省による全国版空き家・空き地バンクサイトは平成29年10月から試行運用が開始され、平成30年度からは本格運用が開始されています。平成30年３月末時点の参加表明自治体は492自治体、全体の27.5％になります。現在、本サイトは国土交通省から採択を受けた２社により立ち上げられ、参加表明した自治体の空き家、空き地情報が掲載されています。美作市においては、国土交通省の全国版空き家・空き地バンクサイトには参加していませんが、現在空き家の有効活用として市で取り組んでいる空き家情報バンク制度では、岡山県ホームページ、美作市ホームページ、住まいる岡山ホームページで空き家情報を掲載しています。この空き家情報バンク制度は、空き家の所有者からの申し込みにより不動産業者への情報提供から入居決定までの支援を行っているもので、現在の空き家の登録件数は25件となっており、これまでに平成27年度７件、平成28年度４件、平成29年度２件の契約が成立しております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

御答弁いただきました。

空き家の件数が増えているということは、これ人口問題と大きな関連もあると思いますが、岡山県においてはこの美作市の空き家の率というのは県下でどういった位置にあるかというのはつかんでおられると思う

んですけど、どういうふうに思われてますか。岡山県の中で美作市の空き家率というのはどういったふうに思われてるかっていうことを最初ちょっと聞きかけたんですけど、そのことを教えてください。

それから、空家対策の推進に関する特別措置法ですね、これを美作市はするのかしないのか。ここに国の施行に先駆けて美作市は条例をつくったと言われておりますけど、美作市の条例と国の条例とはまた意味が違うと思うんで、国の条例を制定するという意味は私はあると思うんですけど……

〔「国は条例じゃない」と呼ぶ者あり〕

法律ですね、法律ですけど、それに加入するのかしないのか……

〔「加入」と呼ぶ者あり〕

加入というんか、それにのっとっていくか。例えば、それではもうちょっと詳しゅう言いますと、対策の推進に関する特別措置法、これにやっていこうとすれば、空き家対策計画というのを策定しなきゃいけないんですね、空家等対策計画を策定してやりなさいということ。ですから、こういうことをしないと措置法に適用にならないということなんで、そういったことはあるわけです。きのうも市のことで30万円の補助をするということはありましたけど、これをやるともっと有利になるんじゃないかということが、もう国交省のほうから示されてるんですね。ですから、この措置法にのっとっていくための市としての対応をしていかなければならない。先ほど言いましたように、空家等対策計画を策定しなさい、協議会を設置しなさい、こういうことをしていかないとこの措置法の対象にならんわけですから、そういうことをしていく気があるのかないのか、その辺のことをお知らせください。

それから、空き家バンクに関しては、美作市もそれなりに対応されてるようでございますが、例えば情報提供があった物件が727件あったというふうに聞いておりますが、現在の登録件数は25件ということで、割合にしたら相当低い割合ですので、これをもっとこう上げていく方法は何らかとる方法はないのか、そういったことを考えておられるのか、その辺のことをお聞かせください。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）〔登壇〕

まず、１点目の順位でございますが、順位としては把握をしてないんですけれども、パーセントで申し上げますと、まず全国の空き家の割合については13.5％、そして岡山県の平均といたしましては15.8％、その中で美作市においては26.5％というふうになっております。それから、計画についてでございますが、きのう答弁したと思いますが、計画を今策定中であります。しばらくお待ちいただきたいと思っております。

以上でございます。

〔14番尾髙誉久君「ちょっと、部長。２分の１または30万円じゃねえん、30万円じゃなかろう、２分の１または」と呼ぶ〕

除去の補助については、２分の１で30万円を上限としております。

以上です。

〔10番岡本泰介君「待って、もう一つは、空き家のバンクの率を上げていく方法については」と呼ぶ〕

空き家バンクについては、今後進めてまいりたいと思うんですけれども、全国の空き家バンクについては来年度が有償になるということもありますので、そういったところは検討していかないとと思っておりますが、そういった案件についてはホームページ、美作市と岡山県とかのホームページに載せるように、落ちのないようにしていきたいと思っております。

〔10番岡本泰介君「いや、戸数に対してパーセントを上げていくということについて、市長に聞いてんです」と呼ぶ〕

登録件数を上げるというのは、空き家になっているところの、これは個人の方が登録しますので、そのＰＲをしていくことかなと思っております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員、３回目です。

１０番（岡本　泰介君）

１番目の項目に関しては、25.何％言われましたけど、県下でも１番なんですね、美作市は。私の調べてる資料では、県下で美作市は空き家率が１番、まあ余りいい数字じゃないんですけど、１番にならなくてもいいんですけど。１番空き家率は美作市は高い、２番目が高梁だというふうに私は掌握してるんですけど、そんなことはいいんですけど、それだけ空き家が美作市は多いということはしっかり認識して対応していただきたいと思っております。

そして、２番目の30万円の上限の話なんですけど、先ほど言うた特別措置法にのっとっていけば、もう30万円の上限をそんなに気にしなくていいというふうになってるんです、私の国交省の資料で調べてみると。そうしたほうが市民にとっては随分除去する費用が安くつくと、助かるということなんです。除去の場合は５分の２出る、それから活用する場合でも３分の１出ると、古い住宅を活用する場合でも３分の１出て、除去する場合は５分の２出る、そして上限がないというふうに私は聞いてるんですよ。ですから、これを利用せんと損ですよ、美作市は。ですから、これはぜひ空家等対策計画を策定しなければ、この措置法に乗っていけれんわけですから、これをぜひやっていかにゃいけん。せえから、協議会を設置しなきゃいけない。この２つをクリアしていく必要がある。ですから、これを少し研究していただいて、これにのっとっていってください。そしたら、補助金がたくさん出て、市長がいっつも言っておられるように国からもお金がとってこれるわけですから、これをぜひ利用して、これは地方公共団体がする場合も、民間事業者がする場合も、両方ほとんど同じ率で出るんです。ですから、私は随分得をすると思うんで、その辺のところはどうでしょうか、研究してやっていただけますでしょうか、ちょっとお聞かせください。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）〔登壇〕

失礼いたします。先ほども述べたんですけれども、きのうの答弁と同じようで、計画はするようにしとりますのでしばらくお待ちください。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員、総括です。

１０番（岡本　泰介君）

まあするようにしとるということでございますので、ぜひこれをしっかり対策をとって、対策計画を立ててやられれば、市は決して損ではないというふうに思っておりますので、これはぜひやってください。きのう、部長は30万円を把握してないというような答弁だったので、私はその30万円を把握してないという意味がよくわからなかったんですけど、しっかり研究していただくということは大切ですので、私の言ってることは、またこの資料も要ればお見せしますので、国交省のホームページを見ても出てると思いますので、ぜひこれはしっかりやっていただきたい、市民が除去する費用を安くて済む方法を考えてあげるのも市のサービスですので、よろしくお願いします。

それでは、２番目に行きます。

議長（鈴木　悦子君）

はい、２項目めに入ってください。

１０番（岡本　泰介君）

２項目め、これからの美作市の農業についてということで、１番、美作市における農業の位置づけはということで、産業としての位置づけはどういうふうになっとんだろうか。せえから、２番目、耕作放棄地の現状、これも何回も質問で出ていると思いますが、いま一度お聞かせいただきたいと思います。３番目、耕作放棄地はなぜ発生するのか、非常に単純な質問ですけど、これなかなか奥が深い問題やないかと思うんで、耕作放棄地はなぜ発生するのか、そして分析と対策はどうするのか。５番目として、農産物の生産と販売戦略をどのようにしていくのかという、この５項目について答弁をお願いいたします。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

これからの美作市の農業について、まず農業の位置づけということでございますが、農業は古くから美作市の経済、地域社会を支えてきた基盤産業の一つです。農業は市民の日常生活に欠かすことができない食料の生産を担うとともに、自然環境の保全、美しい景観の形成など、暮らしに密着した多様な機能を持っております。美作市では、経済部において、有害鳥獣対策の充実による安心で安定的な農林業環境の確保、地域の特性を生かした農林業振興の推進、収益につながる農作物づくりの推奨などに取り組んでおります。

次に、耕作放棄地の現状でございますが、平成29年度末において耕作放棄地とみなされる農地は648ヘクタールで、農地台帳による農地面積4,245ヘクタールのうち15％を占めております。関係者の御尽力によりまして、前年に比べ62ヘクタール、8.7％が減少しております。

次に、耕作放棄地はなぜ発生するのかということでございますが、農家の高齢化が進んでいることに加えまして、有害鳥獣による農作物への被害に伴う耕作意欲が減衰していること、耕作条件の悪い農地では効率的な農業を行うことができず、労働に見合った収入が得られないことなどがあると思います。

次に、分析と対策ということでございますが、高齢化による労働力不足に対しては、農地中間管理事業を利用して担い手農家への農地の集積を図っております。また、多面的機能支払制度、中山間地域等直接支払制度により、地域の共同活動や営農活動を支援しております。有害鳥獣による被害については、防護柵の設置補助と有害鳥獣駆除の奨励に取り組んでおります。農地中間管理事業の状況は、平成26年度から平成29年度末までに農家から借り入れた農用地は85.6ヘクタール、このうち担い手に転貸した農用地は59.4ヘクタールで、貸付希望に対する貸付割合は69.4％となっております。逆に、担い手からの借り受け希望面積は300.6ヘクタールございまして、これから見ると借り受け割合は19.8％で、借り受け希望に見合う農用地が少ない状況にあります。農業委員制度が変わりまして、新たに農地利用最適化推進員が設置されました。貸し付ける農地の掘り起こしや担い手のマッチングのための話し合いなど、委員の活動に期待をしているところでございます。

次に、農産物の生産と販売戦略についてでございますが、米、黒大豆、アスパラガス、ブドウ、桃などの既存作物の維持拡大を図るとともに、もち麦、クレソンなどについても栽培技術の向上を図り、生産の拡大を進めています。市北部の野菜農家では、都内の飲食店などと直接取引をされている例もありますが、美作市が大部分を出資している直売所として道の駅彩菜茶屋や彩菜みまさか箕面彩都店がございます。多品種の野菜を、収穫時期をずらしながら出荷するという方法もございますので、少量でもいろいろな野菜をつくっ

ていただいて出荷していただきたいというふうに思っております。また、地方創生推進交付金を活用して、農業者が東京や大阪で開催されます商談会に参加することを支援しております。商談会にはみずからが生産した農産物を持参し、販路の開拓を図るとともに、パッケージ方法など販売方法の改善に生かしているところでございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

それじゃあ、２回目でございますが、農業の位置づけとしては基幹産業の一つであると、それは私も異議あるものではございませんが、その簡単な言葉で基幹産業の一つであると言われたんでは、私もどう言うていいんかね、不満なとこもあります。例えば、美作市においては農業というものは、就業者数とか、生産額というもんにおいてどの程度の位置にあるもんなのか、その把握はされてるんだろうかなという思いがしております。そこら辺のことが把握されておれば、おっしゃってみてください。もしわからなかったら、また後でも結構ですが。就業者数なんか一口に言っても兼業農家の方もあれば、専業をしとる人もおって、一口になかなか答えづらい問題もあるし、判断しづらい面もあると思いますけど、その辺の判断をお聞かせください。

それから、耕作放棄地の現状なんですけど、耕作放棄地が全農地の15％を占めてるというお答えでございます。その耕作放棄地のどういった土地が耕作放棄地になってるのか、例えばつくる人がおらんからだけではないんじゃないかな、例えば形が悪いとか、水の便が悪いなどとかそういった、いや規模が小さいだとか、いろんな耕作放棄地にも発生する理由がもう少しあるんじゃないかと、そういったことは分析されておれば答えてみてください。

それから、耕作放棄地はなぜ発生するのか、これ理由がいろいろ書いてあります、ここへ書いてある理由はもっともな理由ばっかりだと思います。そして、その中で私は一番大きい理由は、労働に見合った収入が得られない、これが一番大きい理由だと思うんです。例えば、今大規模農家で40町歩ぐらいやってる人が市内におられますわね、でも私が聞いた範囲によると、40町歩ぐらいやっても年間の収入が350万円から400万円ぐらいしか手取りとしては上がってこないというようなこともお聞きしました。40町歩もすれば、コンバイン１台にしても1,300万円も、400万円もするようなコンバインが要るというようなことも聞いておりますし、トラクターにしても50馬力ぐらいのトラクターで、アタッチメントを一式そろえりゃあもう1,000万円超えるような道具が要るわけですね。そして、そういう機械を40町歩もしようと思えば、今度は運搬するトラックが要るわけですね。そういったことで、設備投資費用がもう莫大にかかって、その償却に追われていてなかなか手取りが増えないということは言っておられます。ですから、労働に見合った収入が得られないっていうことは、私は耕作放棄地が発生する一番大きな理由じゃないかなと思います。それが、分析と対策のところでも、私は出とると思います。借りたいけど、いい農地がないから借りない。借りたい人はおるんですね、ここに書いてありますけど、300町歩を借りたい、だけど供給のほうは20％ぐらいしかない、借りたい人はおっても農地がない、要するにもうミスマッチが農地によっては起きてるわけです。私は、そのミスマッチを解消するためには、農地を今後、今３反田んぼを基準に構造改善がされておりますけど、これを１枚が１町歩とか２町歩とか、大きい農地に改善、第２次の圃場整備をしてはというふうに私は今思っております。そういったことを今後とも進めていく方法はないのかあるのか、考え方として市としてどういうふうにそれを思っているのか、その辺のこともお知らせください。

それから、農産物の生産と販売戦略ということで、いつもの答弁が書いてあるんですけれども、この中

で、例えばここに東京や大阪で商談会に参加してる、支援をしてるということで、実際それは行って売ってるんですけど、ほんなら実績は上がってるんかと、そういうとこで、東京や大阪でやった実績は一体どの程度あるんか、その辺のことがわかれば教えてください。私は、なかなか実績は上がってないんじゃないかなという思いがしてるんで、いや、そんなことない、こうして、これだけ売れたんじゃということがあれば、お知らせください。

それでは、とりあえず２回目の質問はこのくらいにしておきます。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

２回目の質問でございます。

就業者数、それから生産額などにつきましては、農林業センサスなどの資料にはいろいろな項目で数字が上がっておりますので、ただいま個別に少し申し上げるのは控えさせていただきたいと思います。

それから、なかなか耕作放棄地、なっている土地がどういう条件かということで、確かに水便利が悪かったり、それから耕作面積が小さいとか、成形が悪いとか、そういう傾向はあるように思います。

それから、労働に見合った収入ということで申しますと、米をつくるんですとやはり10ヘクタールぐらいの、1,000万円以上の収入を上げて経費を支払っていくと、そういった大規模な農業が必要なのかなあと。水稲に限らず、野菜では小さな面積でもそれを、他品種、いろいろなものを栽培するということを回して農業所得を上げていらっしゃる例もあるように思います。そういった栽培技術を上げていくということも、必要なことかなあというふうに思ってます。

それから、なかなか貸し付けが進まないということで、週末農業といいますか、それから、不在でも週末に帰ってきて農業をして農地を守ったり、それから作業受託、作業を委託して農地を守っていらっしゃる方も多くあると思います。そういった農地を今後担い手の方にどういうふうに集約していくかと、そういったことが――農業委員制度も変わりましたけど――地域でそういった取り組みをどうやっていくかということが課題だというふうに思っております。

それから、今の圃場をさらに大きくすると、そういった方法というのは言われております。どういった需要があるかということで、検討課題というふうに思っております。

それから、商談会、東京、大阪での商談会ですが、たしか昨年の例だったと思いますが、８人の認定農業者の方、参加されまして、２人の方が商談が成立したというふうに伺っております。また、商談会ではどういった品物を、ブドウでいいますとどういった房の大きさをそろえるとか、そういう規格をそろえていかにブランド化して収入の高く得られるものをつくっていくかといったようなことが参考になったということでお聞きしております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員、３回目です。

１０番（岡本　泰介君）

部長の御答弁もちょっと歯切れの悪いとこもありますが、耕作放棄地を解消するために土地を改良せんといけんということは、この先ほどの分析の結果でも出ていましたね、ミスマッチが起きてるということでは。借りたい人がおるのに土地がない、貸したい人がおるけど借りてくれない、ミスマッチが起きてるわけですから、これを解消するには圃場を整備せんと私は解消せんと思います。池がかりのとこの土地は、池がかりの水田はもう借りたくないような人もおられるわけでしょ、水回りが悪い。ですから、大きくすれば池

がかりも使おうかとか、そういったことが出てくると思うんです。池がかりのところというのは、大体山合いのところが多いから、一つの圃場は小さい、ですから格好も悪い、そんなとこへ大型機械は入れない、もうつくるのは嫌だということで起きてるわけですから、圃場を大きくして３反田んぼを、２反田んぼを１町、２町というふうにしていかんと、私は耕作放棄地はどんどんどんどん増えると思います。それは、増えれば増えたでそこを山にしてしまうという手もあるんですけど、圃場を大きくしてよくする。そして、今〔聴取不能〕というて水を管理することは出てきてますわね、水利調整を自動でできるようにする、省力化ですわね、そういうことも考えなければいけない。要するに、先ほどは検討するということですけど、もう現実に日本で動いているわけでしょう、圃場を大きくするということは。ですから、試験的にどっかかかっていくということをやっていかんと、私はいけんと思います。もう１つや２つできとってもいいんじゃないかなという思いがしておりますので、やってください。

それから、農産物の販売戦略ですけどね、市長は栄養価のことを、栄養価を分析して、それを表示して販売実績を高めていこうということも考えられておられますけど、そういったことで本当に販売実績は上がっていったのかなあという思いもしております。手っ取り早いのはブランド化がいいんですけど、なんかブランドをするというのも時間がかかるし、お金もかかるし、難しい問題もあります。私もあっちこっち買い物をするときに、例えば今ごろはスイカを暑くなって食べたいですよね、スーパーへ行ってどこのスイカたくさん並んどる、ばあっと見ていってやっぱし鳥取の大栄スイカのラベルがぽんと張ってあると、二、三百円そっちのほうが高くてもそれを買いたくなる、それがやっぱりブランドの力だと思うんですよ。そして、買って食べて、そのスイカはやっぱり裏切らんわけですよ、糖度を検査してるし、それから棚落ちしてるようなものはないわけですから。切って、割って、食べて、何百円か高うてもお客さんは満足するんですよ。私、そういったことは非常に大切だと思うんで、米にしても、黒大豆にしても、アスパラガス、ブドウとここへいろいろと品種が書いてありますけど、それをどうしたらブランドにできるだろうか。もち麦のこともよく言われます、もち麦も収穫を上げてやるということですけど、やっぱし美作のもち麦は品質もいいし、栄養価も高いし、そして安心して食べていただけるんだということをもっていかんといけんと思うんし、へえから私は農業については昔から言ってるんですけど、できたものをそのまま売るというのはどうしても値段が通らない、そりゃあ大栄スイカみたいにブランド化がぱちっと出てしまえばいいんですけど、やっぱし６次産業にして何とか加工して付加価値を高めて、農家の収入を増やすという方法も私は大事だと思います。今は農業も両極化してるんですね、兼業農家でいく人と、それから専門的に大規模にやっていく、野菜なんかはもう工場ですわね、工場でつくる、きちっとした空調管理のもとで水耕栽培とかも工場でつくって契約栽培をして、これだけの品物は保証しますということをやってる農業が主体になってきているわけで、そういったことをすぐにやるといってもなかなか難しゅうございますけれども、そういったことも研究していただいて美作市の農業をどうしていくかということに取り組んでいっていただきたい。そのためにはお金もかかるでしょう、時間もかかるでしょう、でも何かやっていかんといけんと思いますので、その辺の総合的なお話をぜひお聞かせください。市長、いかがですか。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

まず、農地の改良をさらに進めて、１町田んぼ、２町田んぼという話ですが、議員はどこまで御存じか、なかなか地形上の制約があって、あるいは水管理の制約があって、水田っていうのはレベルを保っていく必要があるので、その制約の中でレベルを保とうとすると７メートルののり面とかそういうことになるわけで

ありまして、少なくともなかなか経済効率、投資に見合うリターンが得られる大規模化が中山間地域では難しいわけであります。ただ、議員は私どもよりよっぽどよく御存じですので、ここはやったほうがいいよというところがあったり、あるいは常に出てくる地権者の方々の利害調整っていう問題があって、その辺は私が、岡本議員がよく知ってんで利害調整してくるよというなところがあったら、ぜひ御教授を賜ればというふうに思っております。

それから、ブランド化とか工場生産の問題については、これいろんな見方があります。６次産業化についてもいろんな見方があって、私どもとしては農業っていうのは農業者のためにだけあるのではないと、消費者の方々に価値を提供することによって、その見合いでお金を頂戴をしていくという基本概念というものをなるべく浸透させていこうというふうに思っております。真面目な方々の、真面目な農業者がいるとこだと、人をだまさない農業者がいるとこだというのをもって美作市のブランドにすべきじゃなかろうかというふうに思っておりますが、その一環として栄養価、これについては６次産業化っていうことにもある意味では絡むんですが、ある意味では逆方向行ってて、私どもは野菜なら野菜がどういう機能を果たすべき種類があって、その果たすべき機能についてしっかりとその野菜の中にその養分が含まれておりますということをもってやらなきゃいけない。形がいい、色がいい、名前がいいと、スイカですと大した機能がないんでそれでいいんですけれども、糖分があればいいんですけれども、あるいはトマトであればちゃんとした色素が入っていること、そしてビタミンＣがしっかり入っていることなどのトマトを食べる人間としての必要性に見合ったものが提供されなければならない。それを軽視することは、長い意味で私たちの農業にとってよくないことであると思うし、市内の農家の方々の話を聞いてきても、工場生産というものについていうと、少なくともなかなか土中に含まれているミネラルっていうものが供給できない。あるいは、土中にある発酵であるとか、細菌の作用っていうものがどうしても遮断されてしまう。したがって、ある意味では非常に弱い品物ができる、病気に弱いみたいなことを懸念する声が市内の優良農家の中には強くあって、その優良農家の方々の思いっていうものは、やはり真面目ないい製品づくりで食べていきたいんだという、本当僕は尊敬できる方向性だと思うんです。東京でいろんな企業の方々が、ビルの中で農業を行う、それをとめるつもりはありませんけども、それをここでやるというのはとっても危ないと私は考えております。

以上です。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員、総括です。

１０番（岡本　泰介君）

確かに農業は非常に奥も深いし、範囲も広いし、一筋縄ではなかなかいかない問題が含まれていると思います。それは私も認めます。工場化して本当にいいんか悪いんか、工場生産したもんがいいんか悪いんか、それは確かに意見の分かれるところもあると思いますが、美作市の農業人口、それから生産額も、私は基幹産業の一つであるという認識もあるところでございますので、１つずつ問題解決に向けて研究もして、そして先進地も視察して進めていただきたいという思いでおります。特に、農業を専門でやっておられる人の意見をよく聞いてみてください。私も聞いてみます。そして、よりよい農業が美作市においてできるようにやっていきたいなという思いでおりますので、この項の質問を終わります。

議長（鈴木　悦子君）

続けて、３項目めに入ってください。

１０番（岡本　泰介君）

次は、３番、ＮＯＤＡレーシングアカデミーの現状と今後ということで、これも私だけじゃなしに前回ほ

かの議員も言われたようでございますが、１番として現在の活動状況は、２番、誘致効果の分析はということで質問をしております。ぜひこれについてお答えください。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部次長。

企画振興部次長（春名　信明君）〔登壇〕

ＮＯＤＡレーシングアカデミーの現状と今後、現在の活動状況と誘致効果の分析はとの御質問ですが、本市ではモータースポーツ分野における新たな学びの場を確保し、有為な人材の育成と地域への人材の定着を目指して、全寮制のレーシングスクールＮＯＤＡレーシングアカデミーを平成27年度から開校し、これまでに11名の生徒を送り出しております。また、29年度から短期集中トレーニングコースを開設し、小・中高校生や社会人の11名の方が60回を超える実習走行を行い、うち１名がスーパーＦＪレースに参戦し、学校の知名度を上げておられます。

これまでのＮＯＤＡレーシングアカデミーへの支援につきましては、議員の皆様の御理解、御協力をいただき、国の交付金を活用し、施設移転新設奨励金、施設移転新設補助金、そして施設運営補助金をそれぞれ議決していただき、これまで執行いたしております。しかしながら、その実績につきましては、当初計画から見ても現在の通年在籍生徒数が想定よりも少なく、大変厳しい状況となっております。このため、運営補助金の支出につきましては一旦立ちどまり、今後の事業計画、生徒数、これまでの成果などを確認した上で、改めて検討してまいりたいと考えております。

他方で、ＮＯＤＡレーシンググループ全体の取り組みとしましては、皆さん御存じのとおり、野田樹潤さんが活躍され、テレビの出演ではＮＨＫを初め12のテレビ系列、またＢＳ、ＣＳ局等でレースの模様、企画シリーズと多くの番組に出演し、またＦＭ岡山を初めラジオ局、新聞記事などマスコミにも多く取り上げられております。これによりまして、ＮＯＤＡレーシングアカデミーの認知度も高まり、岡山国際サーキットを初め当市全体の宣伝効果に寄与しているものと考えております。大変すばらしい活躍をいただいているものと考えております。市としましては、こういった野田樹潤さんのさらなる活躍に期待するとともに、補助金の対象である学校としての事業計画についてもさらなる効果の出るものとなるよう今後の事業計画の検討に期待をするところでございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

大変よくできた回答をいただいとんですけれど、きのうも岡野議員も言われておりました、知名度も上がっていいんだと、樹潤さんも活躍して宣伝になっとるんだと、でも今生徒は一人もいないというふうに聞いております。一体なぜなんですか、ＮＯＤＡレーシングに生徒が来ない理由は。どういったことでＮＯＤＡレーシングには入ってくる人がいないんですか。その原因は何ですか。私はそれがどうもよくわからないんです、何で来ないんじゃろう。私は、レーシング学校なんていうものは日本に幾つあるか知りませんけど、多分１つか２つか、もう非常に特異な施設だと思って、これは来る人も結構おるんかなという思いが前にはしておりましたけど、何で来ないんか。それ理由はなんですか、授業料が高いからですか、授業料は幾ら今要るんですか、１人の生徒が来て年間にかかる授業料は幾らなんですか、入学金は幾らですか、そういったことをちょっと教えてください。知名度が上がって、よいよいと言っておられるのに、生徒が来ないということは何か原因があるんですよ、そこをちょっと私は聞きたいんですけど。野田さんも、そりゃあこの美作市に大きな志を持って来られたと思うんですよ。でも、野田さんも恐らくがっかりされてるんじゃないかな

と思うんですよ。せっかく美作市に来たのに生徒が来ない、野田さんも困っとられるんじゃないかと思うんです。何が問題なのかということをぜひお聞かせください。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部次長。

企画振興部次長（春名　信明君）〔登壇〕

２回目の御質問でございます。

何が生徒が集まらない原因かという御質問ですけれども、学校のほうにお聞きしてますことは、やはり議員おっしゃるとおり授業料が高いことが１つ大きな要因としてあるというふうにお伺いしております。それから、入学金等につきましては、学校が出しておりますパンフレットによりますと、年間の受講料を申し上げますと、初等部、中等部で150万円、それから高等部では180万円ということでパンフレット上に記載をされております。

以上でございます。

〔10番岡本泰介君「それは授業料ですか、入学金ですか、どっちですか。正確にちょっと」と呼ぶ〕

年間受講料でございます。

〔10番岡本泰介君「受講料」と呼ぶ〕

はい。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

私、余りよくわからなかったもんで、今受講料のことをお聞きしました。150万円と180万円ということでございますが、そうですね、これだけのものを払って、そしてこちらで生活するためには生活費ももちろんかかるわけでしょうし、相当な金額だなと、これを負担できる人というのは日本にも少ないんかなあと。特殊な学校ですから、これが特別高いか安いかという問題もあるでしょうけれども、来ないということに関しては高いんでしょう、それは。私は、残念ながらもっとこれを安く、ほんならこれを安くして本当に来ていただけるんか、その辺の話し合いとか、学校との打ち合わせとか、ここに、最後のところに今後の事業計画の検討に期待するものでありますというのは、もう相手の方にお任せするというような意味にしかとれないんですけど、市としてはせっかく誘致して、１億円近いお金も投資しているわけですから、これに対して市としては何かアドバイスとか、協議とかということをされてるんですか。もしされてるんなら、その辺のことをお聞かせください。してないんならしてないで結構です。市民としても内容が全然わからないんで、岡本さん、あっこはどうなっとんだろうかということも私のほうに耳に入ってきますので、ぜひその辺のことを市民の方にもわかるようにお伝えくださったらと思います。どういったことを今後市としてはとっていこうと思っとられるのか、お金も今議会では出てきてないようでございますので、予算も出てきてないんですけれども、どうしたふうに今後美作市としては取り組んでいこうとするのか。もう誘致したんだから、自助努力に任せるんだということなんでしょうか、その辺のことをお聞かせください。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部次長。

企画振興部次長（春名　信明君）〔登壇〕

３回目の御質問でございます。

学校との協議は進んでいるのかというお話でございますが、担当部としましても校長を初め事務局の皆さんとお話し合いを既にいたしております。今後につきましては、その話の中でもございまして、今後の計画の見込みにつきましては昨年度から実施しております一定期間の短期集中的なトレーニングを行う、短期生徒のレース経験や運転技量、潜在能力などの生徒に合った適切なプログラムの設定によるトレーニングを行い、今後通年生徒の獲得に力を入れていくと伺っております。

さらに、レーシングドライバーの養成のみではなく、モータースポーツを通じて世界での活躍を目指すため、車両整備実習にも力を入れると、それによってプロのメカニック育成に向けて今後はそのプログラム構築に向け尽力をしていくと聞いております。市としましても、こういった計画の内容を今後確認させていただきながら、補助金の検討を行ってまいりたいと考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員、総括です。

１０番（岡本　泰介君）

先ほど来申し上げておりますが、せっかく来ていただいとんですから、頑張ってもらわんといけんと思うんです。ほんまに日本でも希有な施設だと、私は思います。ですから、樹潤さんの活躍だけにおんぶにだっこでは、私はいけんと思いますので、美作市としてどういった応援ができるのか、お金のことだけじゃないと思うんです、そういったことを考えていただいて、しっかり取り組んでいただきたいと思います。

では、その件は終わります。

続きまして……。

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員、３項目めに入られる前に、10分間休憩します。

１０番（岡本　泰介君）

４回、４項目。

議長（鈴木　悦子君）

あっ、失礼しました。４項目めに入られる前に、10分間休憩いたします。

午前10時55分　休憩

午前11時06分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

静かにしてください。

岡本議員、４項目めから始めてください。

１０番（岡本　泰介君）〔質問席〕

それでは、４項目めに入ります。

議長（鈴木　悦子君）

はい、どうぞ。

１０番（岡本　泰介君）

４項目めは１問でございまして、社会増人口の動向はということで、平成29年度における社会増人口の動向はということでお聞きしております。お答えください。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）〔登壇〕

４項目めの社会増人口の動向はということで、平成29年度における社会増人口の動向についてでございますが、平成29年度の美作市における人口の社会動態につきましては、マイナス86人という結果でございました。28年度からの変化したところは、勝央町への転出が転入を25人上回っていましたが、29年度は９人の転入超過となりました。また、県内で申しますと、28年度は82人の転出超過でしたが、29年度は42人の転出超過となり半減しております。合併いたしました平成17年度より、社会動態は毎年度100人から230人の転出超過となっており、28年度までの平均はマイナスの165人でございました。しかし、平成29年度は初めてマイナス100人を下回る結果となっております。平成30年度におきましては、現在プラスの状況を維持しており、５月末時点では29人の転入超過となっており、昨年度より14人の超過となっております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

人口のことに関しては、きのう、おとといですか、岡野議員も言われておりました。人口をどういうふうにこれから今後捉えていくかということは、大切なことだと思います。国は人なりということがありまして、その国をよくするのも悪くするのも人口が大切であると、それは市にとっても同じだと思います。市がよくなっていくのも、悪くなっていくのも、人口がどうなっていくかということと密接に関係してると私は思います。ですから、それは確かに人口は大切でございますが、美作市の人口ピラミッドというんがありますわね、人口の構成を何歳から何歳が何人で、何歳から何歳が何人、それをひもといてみますと、美作市の今ゼロ歳から４歳までの人口は924人と出ております。これは、美作市の人口ビジョンという中の資料の中からとったものでございまして、市が出してる資料でございます。ゼロ歳から４歳が924人、そして人口のピラミッドの上のほうの太いところです、大きいところは、65歳から69歳のところは2,576人、約2.8倍上のほうが多いんですね、老齢化が進んでいるという、逆ピラミッドになってるということを私は言ってるわけですね。これは何も美作市だけの話じゃないんです、日本の人口ピラミッドを見ても似たり寄ったりの形をしております。私、調べてみました、似てるんです。こういったピラミッドは逆転してるときに人口を増やしていくというのは、非常に私は難しい、難しいというよりもできない。減少に歯どめをかけることは非常に難しい、それはもう国も認めてるんです。国の人口推計を見てみましても、もうそのことははっきり出ております。国もいろんなシンクタンクに頼んで調べているわけです。人口は、国ももう減っていくということははっきり認めております。大体、今１億2,600万とか700万とか言われてますけれども、１億人になるのが2045年から2050年の間だろうと、人口推計ではそういうになっとんです、１億人を切るとき。ですから、日本の人口もどんどんどんどん減っていくと、残念ですけれどもそういう状態なんです。そして、2065年、今から約40年弱の後には、8,900万ですかというような数字になる。そんな遠い世界じゃないですよ、この年数というのは。考えてみてください、私たちの年齢からとか、皆さんの年齢から考えたときに、そんなにもうはるかかなたのことじゃなということじゃないんです。もうこれは現実的な非常に厳しい数字が待ち受けてるわけです。そうした中において、美作市だけがいい人口でなかなかよそに負けない政策をとっていっても、なかなか人口減少に歯どめが私はかからないんじゃないかなと。ですから、人口が仮に減っても市が成り立っていくということを考えていかなければならないと、私は思っております。市長は学校誘致とか、

もうあらゆる政策を人口増に向けて進むんだということをおっしゃっております。それは、確かにそれは結構だと思いますが、どうしても私はそれでも減っていくと思います。そういった中で、私は、岡野議員もこの間言われました、この庁舎に去年ですか、大きな幕をつけて、人口が増えた、社会増が増えたんだということをおっしゃられました。そして、市長のこのパンフレットにも美作市の人口動向のグラフも書かれております、ここにプラス30人で平成21年度上期はこうなっとる、しかし実際はマイナス86になったわけでしょ。ですから、私は短期的なものを余り言うことは、私はよくないと思います。人口なんていうものは、３年、５年、10年、長いスパンで見たものでしっかりとした分析をして、その都度の分析を市民に知らせていくと、短期的なものを言って市民を惑わしては私は決して市の得にならないと思います。ですから、その辺のことを、ここにも、先ほどの答弁の中にも言われました、今年度は現在29人の転入超過となっていると、それは確かに事実かもしれません、でもそういう短期的な、今年度の４月、５月、６月とかそういう細かい見方をしたらだめなんです、人口というのは。もっと長期ビジョンを立てて、しっかりとしたことを言っていただきたいというのが、私の今回の質問の主眼なんです。少しの期間のことを言って、余り市民が本当は何のことを言っとんかようわからんでしょう。私のきょうの質問を、今しゃべってることを聞いてる人は、ああ、そうか、去年は市長は増えた言ようるけど、実際は減ったんだなということを今理解されとると思うんです。ですから、余り短期的なことにとらわれずに、しっかりとしたビジョンを立てて私は進んでほしいと思います。まあそう言うと、市長は多分出生率をこうするんだ、ああするんだというようなことも言われると思いますけれども、国もやり、どっこの市町村も血眼になって人口増は取り組んでるわけです。美作市だけじゃないです、パイの取り合いこになってる。ですから、そういったことを踏まえて、今後とも市の行政に対して人口に関してはどういった方針でいかれるか、短期的なことを言うのか言わないのか、その辺のことも含めてしっかりとした御答弁をお願いしたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

人口動態っていうのは、もちろん長期的な視点が必要である。したがって、私どもとしても２万5,000人程度を目指してこの数年間は努力をしようと、こういう長期計画を持っているわけであります。一方で短期の動向っていうのは、これは常に注視をしとかないと、自分たちの町が市民にとってどういうふうに見られているか、あるいは引っ越してこられる方々にとってどう見られてるかという日々の点検、政策の点検ということにつながるんで、これを軽視することは、岡本さん、全くだめなんですよ、その辺を岡本さんわかってない、悪いけど。加えて、その短期の動向の中から私どもとしては、ああ、なるほどこの辺がおかしいなっていうなこと、あるいはこの辺効果があったなということが見えてきてんですよね。具体的に申し上げますと、例えば勝央町との関係で見えてきたことについて言うと、私どもの社会福祉あるいは教育福祉政策、具体的に言うと、発達障がい児対策っていうものが結構進展してきてることについて非常に敏感に反応があるんですね、これ。こういうことを長期という立派なお言葉の中で忘れてしまうというのは、大変これは大きな問題です。加えて、市が始まって十数年たちますけども、その歴史の中で４月、５月についてはマイナスだった年はいっぱいあることは御存じですか、多分御存じないと思うんです。４月には転入するだろうというのは、普通の大都市なら、そうでもなかったからこそ我々としては大変な人口減少に直面をしていた。それが、４月、５月、２カ月たってもプラスっていうことは、まあ今までの歴史の中でいうと３分の１とかぐらいの年なんですよね。それが、例えば８月までもったっていうのは、一度東日本大震災があった後、いろんな意味で被災をされた方々が全国に避難をされた、そのときだけ違ったんですから。ずっと私どもは、

８月、９月になるともう全部マイナスになっていた。それが半年以上経過したっていうんでプラスの状況を保ったっていうことは、市始まって以来のことなんですよ、岡本さん、それは努力をしたからできてんです。岡本さんの話を聞いてると、努力をするなと、長期的にほっとけと、こういうふうに聞こえる。かつ、もう少し申し上げると、私どもとしては国の社人研その他の分析も見て18歳の崖というのがあると、これは18歳でおらんようになってしまうところに大変大きな問題があって、そして帰ってこない。したがって、18歳のところをどう食いとめるかという必要があって、例えば今回でも学校っていうのはそこに一番フィットするわけですけども、少なくとも十数名の市内の、あるいは近隣の方々が踏みとどまって当地に残ってくれ、さらには20名以上の方々が当地に来ているという状況っていうのは、これは大きな私は一歩であるというふうに考えている。これは、一番ピンポイントなんですよ。先ほど人口ピラミッドの話をされましたけれども、例えば同じ8,000万人とか同じ１億人であっても、例えば昭和四十何年の１億人と、次に来る１億人とは構造が違ってんですね。おわかりかどうかわかりませんけれども、高齢者の多い１億人と若い人が多い１億人では全く違うんです、これ。それもわかって人口ピラミッドの話をされておられるんだろうとは思いますけれども。そういう意味で若い方々、次に重要なことは、東京と各地の比較をしてみるときに女性なんですね、若い女性がいるところに男が集まってくるっていうのは当たり前のことなんですけど、女性がいらっしゃる町をつくることが社会の活力を維持する、あるいは出生率を維持するっていう意味で最も大切なことだってことは、これはもう研究成果の中で明らかなんですね。で、そんなことを総合的に考えた上で、市全体として、これも質問がありましたけども、何やってんだっていうと、あらゆることをやってるわけですよ、教育においてはこれこれ、福祉においてはこれこれ、さらに高齢者福祉についてもこれこれと、いろんなことを総合的にやって暮らしやすさをつくっていく。人口動態で意味があるのは、実は今私たちの住んでいる市があって、今住んでいらっしゃる市民の方々がいるんですけども、この方々にとっても今申し上げてる人口動態施策のためにやってることが効果があるんです、岡本さん御存じないかもしれないけども、それは生活がしやすい町をつくる、今の方々に当然効果があるわけですね。その辺について、物事をよくわかってらっしゃる方だから、どう考えてるか知りませんけれども、理解をしていただくようにお願いをして答弁にいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員、３回目。

１０番（岡本　泰介君）

市長のいわれることも、そりゃ私はよくわかります。同じ１億人でも若い人、年寄りか、年齢構成がどうなるか、そりゃもう当然のことで、ピラミッドがきれいな形にだんだんなっていけば、これはもう理想ですわね。そういったことを目指していくというのは当たり前のことなんですけど、当たり前ですし、それが理想であるということも思っておりますが、しかし私が言いたいのは、去年のような幕を掲げて、実際社会増は、まあそりゃあ市長が言われるように前の、過去のことよりも減少幅が減ったんだと、そりゃ確かに減った、そりゃええことだと思いますが、市民の方は増えたように勘違いされてるからそういうことを言ってるんです。ですから、もう少し情報は丁寧に出されて、してやってほしいなというのが私の思いです。市長の言われることはよくわかります。あらゆることを人口の増えることに政策を集中していくんだ、それはわかります。滋慶が来たために先生が何人か入ってきたりして、人口も増えたということも私も知っております。そりゃあ政策を一つ一つ生きたなあという思いもあるかもわかりませんが、それには大きな投資もかかっているわけですから、そういったことを考えたときに、人口を増やすにはほんならそれだけでいいんかという問題もあるでしょう。例えば、住宅政策なんかでも雇用促進をしたために入ってきた、ほったらもっと

住宅に力を入れるということもあるわけですから。まあそういった面において市長のおっしゃることもよくわかるし、私の言ってることも理解してほしいな。何も私は市長のやってることにけちをつけて増やすなという、そんなことを言ってるつもりは一つもありゃしません、どんどんやっていただいたらいいんですけど、市民に勘違いを起こすようなことはやめていってしっかりと取り組んでいただきたいという思いを言ってるわけです。ぜひその辺はすれ違いかもわかりませんけど、理解していただきたいと思います。市長のお話があれば、そりゃ言うてくださって結構ですが、なけりゃなかったで結構です。

以上です。どうですか。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

お話を伺ってますと、我々がやってることによく理解してるということで、初めてそういう言葉を聞いて大変うれしく思っております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

総括されますか。

１０番（岡本　泰介君）

総括ですか。

議長（鈴木　悦子君）

はい。

１０番（岡本　泰介君）

市長は、学校誘致によって市の活力とかということをよく言われますが、ちょっと時間が余りないんで例を挙げて言いますと、北海道に、市長御存じですか、音威子府村というのがある、人口850人、せえで村立高校を持ってるんですね、そこは、それで生徒数が180人、北海道内、本州から来る。そういったことで、そこに全寮制で、住民票を移すのがその学校に入る大きな条件の一つになる。そういったことをやってる学校もあると、非常に小さい新庄村ぐらいの村が村立高校を持っているわけですから。そして競争率が2.6倍、物すごい競争率で、難関ですわね、2.6倍も生徒が来るんですから。そういったこともやってられるとこもあるわけです。ですから、私は滋慶が来年はどんどん増えてくれればなあと思っておりますが、学校誘致によって、ＮＯＤＡレーシングの例もありますので、学校誘致が本当にうまくいってくれればというふうに願っております。

そしたら、人口問題はそれで終わります。

議長（鈴木　悦子君）

それでは、続けて５項目めに入ってください。

１０番（岡本　泰介君）

ホーチミン像についてですが、時間がありませんのでちょっとはしょります。

質問の内容は、４月６日ホーチミン像設置に抗議に訪問団が来られたが、その対応はどうされたのか。２番目、５月19日、ホーチミン生誕を祝う記念式典が開催されたと報道されたが、今後も市あるいは領事館主催の節目式典をするのか。３、像設置以来、ベトナム人観光客の増加はあったのか、この３点についてお聞かせください。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部次長。

企画振興部次長（春名　信明君）〔登壇〕

５項目めの御質問にお答えをさせていただきます。

まず、４月６日、ホーチミン像設置に抗議に訪問団が来られたが、その対応はとの御質問ですが、日本在住ベトナム人協会の代表として20名余りの方々が美作市を訪れ、ホーチミン主席像の撤去を求める請願書と8,000人近くの署名を持ってその代表者数名が市長と面会をされました。当市としましては、ホーチミン像はベトナム政府が日本との友好、そして美作市との友好をさらに発展させるため、未来のために寄贈いただいたことを明確に説明し、さらにベトナムとの交流を深めるとともに、来られた方々の気持ちを理解し、寄り添うことで、ともに未来に向けて友好的な関係を築いていきたいとの思いを伝えております。

次に、５月19日、ホーチミン生誕を祝う記念式典が開催されたと報道されたが、今後も市あるいは領事館の主催の節目式典をするのかとの御質問ですが、在大阪ベトナム総領事館の主催により、日越外交関係樹立45周年の記念行事としまして、今回初めてホーチミン主席の生誕祭を開催することになりました。今後も、ベトナムとの友好の場として要請があれば、式典等の開催を拒むことはないと思っております。

次に、像設置以来、ベトナム人観光客等の増加はあったのかとの御質問ですが、昨年11月にホーチミン像を設置して以降、ホーチミン像を直接見に来られたベトナムの方々は、本年度４月以降把握してる限りでは合計で50名程度の方々がお見えになっております。また、当市のインバウンドデータによりますと、ベトナムからの宿泊者数は、平成28年度が26人日のところ、平成29年度が291人日と、200人日以上増加してるというところでございます。また、先日在大阪ベトナム総領事より、美作市の観光発展に寄与したい旨の発言がございました。さらなるベトナム人観光客の増加に向けて、お互いの情報交換を強化するよう準備を始めたところでございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

わかりました。私は、ホーチミン像の設置に反対するという方が来られたというのは、この新聞に、４月７日の新聞に出ておりましたので、これを見ました。ここに、今次長が言われたこととほぼ同じようなことがこの新聞にも書かれております。8,000人の署名も出されたということでございまして、市としては友好のためにこのままで置いておくということを言われたというふうに聞いております。私は、撤去してほしいなという思いの方と思いは一緒なんですけれども、今までホーチミンのことについて私はたびたび発言してきておりますが、ホーチミンという人の人物像ですね、そのことについていろいろと疑義があるという思いがあるからこそ、こういった発言を常にしてるわけでございます。ベトナム戦争によって、ベトナムから難民が世界各地に出たわけです。そして、その人数は、私の調べてる感じでは約130万人ほどベトナムから難民が発生しております。そして、それはアメリカに行き、アメリカに82万人、オーストラリアには13万人、カナダには13万7,000人、フランスには９万6,000人、ドイツ、イギリス、日本、日本にも１万1,000人難民が来てるんですね。私、これよく知りませんでした、こんなに来てるとは思ってなかったんで。日本にも１万1,000人難民が来てるそうです。世界各地に120万人難民が発生してる、その人の思いはホーチミンに対してそれほど心地よい思いをされてない方だと私は思います。そういったことを考えたときに、その方は世界に散らばっているわけですから、その人たちは恐らく生活の上で常にホーチミンさんのことについて、ベトナムの国のことについていろいろと話をされてると思う。そういったことを考えたときに、何もあえて私は火中の栗を拾う必要はないと、いつも言いますようにベトナムとも仲よくするのはいいんです、もうそりゃ

あ日本は全方位外交で、経済に、観光に関しては全方位外交ですから、市長はこのことを全方位外交言ったときに、前にはそりゃあ日米基軸だと言われましたけど、それは安保に関しては日米基軸なんですけど、観光とか経済に関しては日本は全方位外交でいってるわけですから、このことについて私は何にも申し上げることはないんですけど、像を設置することにはどうしても私は違和感があって、いまだに胸の中は解けません。ですから、この前24人が来られたと、そして観光客としては二百何人増えてるということも言われましたけれど、この二十何人が来られたということも私は非常に、わざわざ来られたわけですから、そこの中には書いてありましたけど、どっかよその、書いてありますよ、ドイツやアメリカで暮らす人も来られたようにこう書いてあったんじゃなかったでしたかね、あっ、これは署名ですか、まあそういったように各地に難民が散らばってる人の署名がこれだけ8,000人集まってるということは、それだけホーチミンに対するアレルギーもあるんだということを肝に銘じて私はこれからもやっていく必要がある。ですから、ホーチミンの像はできたら私はあんなところでなしに、もっと違うところに置いてほしいなっていう思いがあるから何回もこういうことを言ってるわけで、その点についてどう思われますか、お答えください。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部次長。

企画振興部次長（春名　信明君）〔登壇〕

２回目の御質問でございます。

市としましても、美作市を訪れるベトナム人や、今後来日するベトナム人にとりましても、敬愛するホーチミン主席の像のある美作市は感謝の気持ちをあらわすために訪れる場所として、美作市へのベトナム人観光客のインバウンドが今後増えると見込んでおります。また、ホーチミン像設置後の反対派の動きですが、４月以降になりますが、４月６日に先ほど申し上げましたが30名の方が訪れられ、反対署名を渡されましたけども、その後動きがなく現在に至っております。本年は、日越友好45周年を迎える年となっております。ベトナム国とのさらなる友好関係の強化を目指してまいりたいと考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

私は、百歩譲って式典をされるのはいいとしましょう。でも、そしたらこの式典をされるということを、市民にどういうふうに伝えられたんですか。この式典をするということを、市民の知っとった人はどの程度おられるんですか。日越友好ということになれば、市民にもっと知らせたらどうですか。放送したんですか、告知放送は。向こうの大使館の在大阪ベトナム総領事館が来られてるわけでしょう、その人に対してもたくさん式典に参列されたほうがいいでしょう。どういったことでこの生誕128周年の記念式典を、市民にはどういった方法で周知されたんですか、それをお知らせください。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部次長。

企画振興部次長（春名　信明君）〔登壇〕

３回目の御質問でございます。

議員お尋ねの本式典につきましては、在大阪ベトナム総領事館の主催の式典でございます。市としては御案内する立場ではないということで、御案内はしておりません。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員、総括です。

１０番（岡本　泰介君）

総括ですか、はい。ベトナムの総領事館がするんだから、市民に知らせる必要ない、そんないいわけしないでください。おかしいですよ、それは。知らせたらいいでしょう、大使館の総領事が来られるんですよ、市民に知らせたらいいじゃないですか。こっそりする必要ないんですよ、なんかこそこそこそこそすると、私はこれにもう物すごく違和感があります。もう時間がないんで、これ以上言えませんけれど、こっそりしないでください、堂々とやってください、堂々と、はい。

議長（鈴木　悦子君）

６項目めに入ってください。

１０番（岡本　泰介君）

６項目めは、滋慶学園の開校状況について、６月現在の在校生の実数はということでございます。答えてください。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部次長。

企画振興部次長（平田　幸春君）〔登壇〕

岡本議員の６項目めの滋慶学園の開校状況、６月現在の在校生の実数について御答弁させていただきます。

美作市スポーツ医療看護専門学校の入学者につきましては、岡野議員、山本重行議員の一般質問で御答弁させていただいたとおり39名でございます。５月末現在の状況ですが、在校生につきましては入学時の状況から変わっていないというふうにお聞きしております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

39名という数字は、きのう、おとついのことでずっと聞いておりますので結構です。それに違いないんでしょう。ただ、１つ私がお聞きしたいのは、市長は所信表明の中で、通信制高校は127人ということを言われました。私がちょっと聞いたところによると、通信制高校は昼間の通学者が５人、通信制の方が２人、合計７人だというふうに聞いております。120人という生徒がどういった、通信制高校ですからよくわからない面、わからないというたらおかしいですけど、どういった形態の人が120人おられるんか、その辺のことを説明いただきたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部次長。

企画振興部次長（平田　幸春君）〔登壇〕

２回目の質問でございます。

通信制コースの学生の県外のほうのことをお聞きいただいてると思いますので、それについてお答えさせていただきます。

120名余りが通信制コースのほうに在学されております。それにつきましては、全国に東京、大阪、福岡、そういったところにサポート校がございまして、自宅に在宅しながらそういったサポート校で学ばれる

という形で、通信制高校に120名余り在籍しております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

サポート校でおられるということは、ほんならもうスクーリングというんですか、こちらで来てスクーリングなんか１週間とか10日とか、そういうことはあるんですか、ないんですか、その辺のことをお聞かせください。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部次長。

企画振興部次長（平田　幸春君）〔登壇〕

３回目の質問でございます。

スクーリングにつきましては、多分７月、８月ぐらいが中心になると思いますけども、美作市のほうで１週間から10日程度、そういった期間でスクーリングが行われるようになると思います。

以上でございます。〔降壇〕

〔10番岡本泰介君「総括ですね、もう終わりですかね」と呼ぶ〕

議長（鈴木　悦子君）

はい。

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

わかりました、120人は、ほんなら７、８月、夏休みですかね、そこで、美作市のほうでスクーリングということになれば、愛の村だとか、寮だとかいろいろとにぎやかになってくるんであろうというふうに私は期待しております。そういったことが起きて、大原の地がどんどんにぎやかになってくれればなあと思っております。ぜひ、私は本当にそういったもんが来ていただけるんかどうかはちょっと疑問には思ってるんですけど、そう言われるんですからそれを信じて、しっかりやってください。終わります。鳴らん前に終わった。

議長（鈴木　悦子君）

以上をもちまして通告順番８番、議席番号10番岡本泰介議員の一般質問を終了します。

続きまして、通告順番９番、議席番号３番岩﨑清治議員の発言を許可いたします。

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）〔質問席〕

それでは、議長の発言許可が出ましたので、平成30年６月議会の一般質問のほうをさせていただきます。

私は、今回３項目の質問をしております。

１項目めにつきましては、たびたびでございますけれども、メガソーラーについての質問をさせていただきます。メガソーラーそのものについては、きのう岩江議員のほうが私たちの思いを詳しく御質問され、そのことについても少し触れさせていただきたいなあというふうに思いますし、一番の心配事は、きのう山本重行議員のほうが21年災害の関係で質問されました。私の耳に残ってるとこも多少ありますので、そのあたりをまず私の気持ち、地域の気持ちとして話をさせていただきたいなあというふうに思います。

21年水害、私たちの地域はその前の38年という――私が小学校時代ですけれども――そのときに水害があ

りまして、その後21年、この２つの大きな水害が発生いたしました。この水害につきましては、今で言う江見の町の中を濁流が横断したという大きな水害です。それまで10年内輪に毎年ぐらいですけれども大雨が降って、水が流れて大変なこともございましたけども、21年災ほどの大きなものではございませんでした。きのう、山本議員の質問の中で少し耳にどうしても残ってるのが、で、つけ足したいなというみたいな気があるのが、教育長のほうが土居小学校へ水害後というか就任されてから行かれて、大変な状態だったですよという話をされ、その話と同時に江見の公民館の話をされました。少しだけ話をしたいのは、水害が発生した時点、土居地区に避難勧告を出そうという話があったときに、避難をする場所っていうのは土居小学校の体育館を指定してたわけです。で、そこのほうに避難をしていただこうという話をして、あちこちに鍵をあけたりいろいろしなきゃいけない、そのような中で連絡を取り合った中、行くことができませんよと、行ってもグラウンドに水がすごく支流からですけど入り込んで、もう車もとめれませんし、膝よりも上ぐらいまで水来てますよという話がありました。それ以降もうだめなんで、高いところに逃げてくださいという放送をした記憶が残ってますし、江見の町の中にも濁流が流れたわけです。で、なぜこの話をしたいかというと、公民館のところに総合施設で避難所的な防災施設的なものをつくる、これは人が行くことができない、東日本大震災でもそういう施設を津波の地域につくって多くの方が亡くなられた、今も裁判も起きている、これはもう少し丁寧に考えていただきたいなという気持ちがいたしました。そのことがすごく耳に残ってるのと、反対的に市長のほうが江見商業のところについて水害の危険性がまだあります的な発言をされました。もともと水害が発生した後、山家川の改修をして、はっきり記憶はしないんですけれども30年に１回か、50年に１回、どちらでしたかねっていう記憶があるんですけど、その水害が発生しても耐え得るだけの改良をしますという話で改良をされ、転倒堰になったという経過がございます、メガソーラーができる前の話です、メガソーラーができた場合により被害が大きく発生するんではないかなという危惧が地元にあるので、特に私のほうは議会のたんびにメガソーラーについての質問をさせていただいてる。

前段はさておき、本題のほうに入りますけれども、メガソーラー事業につきまして、市のほうにおいて担当職員による見回りなどを約束をしていただいて、常に地域への、先ほど話しました不安的なもの、不便的なものの実情の把握をしていただいて、その解決策をしていただいてると思っておりました。地域においては、工事による地形の想像を超えた変化や、雨が降るたんびの川を見ると、行政は何をしてるのか、どういうことだというふうなことを住民の方が言われてるのをたびたび私は耳にしております。環境に優しい自然エネルギーの利用でメガソーラー工事を行っているのが、現実を見ると余りにも環境破壊の程度が甚大、大きいという声が聞こえます。今や山家川に住んでいた魚の姿を見ることも難しくなり、また日常的に見られていましたカワウやサギが魚を狙っている風景も目にすることがありません。魚がいない、蛍はもう住めないなど、泥水の川を見てため息を聞いてる方が大勢おられます。開発の許可を出した県の担当課、河川の管理を行っている勝英地域事務所にたびたび訪れ、現状と解決策をお願いしましたが、法律の範囲内で業者指導を行う的な発言で、泥水などに関しては協定書に締結した市の範疇ですよという意味合いなことをたびたび言われております。日本最大とも言われるメガソーラー工事を行うに当たり、地域が不便、不利益があってよいはずがありません。地域の思いは、県でも市でもどちらでも結構ですので対策をしてくださいという思いです。行政は、地域住民が安全で安心して暮らせるように行う義務があると思います。市と県が力を合わせて泥水対策などの問題解決に全力を尽くしていただきたい。県も市も責任転嫁をされているように感じます。環境破壊の阻止や、泥水で困っている方の力になっていただきたくお願いをいたします。

具体的な質問に入ります。

１つ目は、専任職員の配置による工事の土ぼこりや発破、車両運行など、地域の監視を強化し、早期に問

題解決や未然防止に努めるように言われたが、どのような活動と業者指導をされ、どのようになっているのか。また、地元から工事に対する問題が出ているのか、対策はどのようになっているのか。また、工事の進捗率と今後の工事の進め方はどのようになっていますか。

２番目に、昨年から雨が降った後に職員に状況確認をさせ、対策を行うと言われているが、いまだ対策をされていない。なぜならば、今でも雨が降るたびにすごい色の泥水が流れています。河川の合流地点をたどっていくと工事現場であり、そこから流れる赤茶色を帯びたような泥水が山家川に流れ込んでおります。沈殿池濁流防止フェンスが十分に機能していないのか、もしくは設置されていないように見受けられるがどのようになっているのか。調整池から泥水が流れている現状を市は把握しているが、業者はどのように言っているのか。私の聞くところによると、業者は泥水は工事現場の責任ではない、工事の責任ではないと言っていると耳にします。このことについて市はどのように認識しているのか、現実に泥水の被害が出ていることは市においても把握されていると思うが、対策はとられていないのか。

３つ目ですけど、泥水の問題で県に対策をするように働きかけているが、県は泥水によって開発許可の取り消しは難しい、開発協定書、自然保護協定書を結んでいる市のほうが適している、このような問題解決のために協定書を締結してるのだからと言われます。今一番の問題は、泥水の対策であります。雨が降るたんびに泥水により農家への被害が発生したり、川に流れることにより魚が姿を消した現実などさまざまな問題が発生してきています。川にたまった泥が一体どの程度あるのか御存じですか、多いところは10センチ程度たまっております。開発協定書、自然保護協定書を結んでいる市と県と協議をして、早急に対処していただきたい。日にちが経過すればするだけ川の泥が汚れ沼のようになり、大変な状態になります。

１回目の質問といたします。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部次長。

企画振興部次長（春名　信明君）〔登壇〕

岩﨑議員の１回目の質問の１項目め、メガソーラー事業について御答弁をさせていただきます。

まず、１点目の職員による見回りによる業者指導と問題点、事業の進捗率、工事の進め方につきましては、開発関係担当課である企画情報課の職員により発破音、車両通行の状況の確認、また降雨時の河川の濁水、増水状況の確認を行っており、問題がある場合にはその都度業者に対して改善を求め、対応の報告を受けております。監視業務につきましては、地元に要望をお聞きしたところ、市が降雨時の濁水状況を確認し、状況写真を保存しておき、地区からの提示要望があれば対応をお願いしたいとのことでしたが、今後さらなる監視員に関する要望があれば、地元の意向を反映し、監視の強化を行ってまいりたいと考えております。

また、地元から工事に対する問題は出ているのか、対策はどのようになっているのかとの御質問ですが、ことし４月以降の相談件数としましては濁水に関する相談が数件ございまして、その都度業者へ伝え、必要であれば職員も話し合いに同席させていただいております。

次に、作東メガソーラー事業の進捗状況でございますが、５月末現在の工事進捗率を御報告申し上げます。全体では38.5％と聞いておりまして、各項目につきましては伐採工が99,99％、調整池などの防災工78.6％、盛り土工88.6％、切り土工88.3％、緑化工14.4％との報告を事業者から受けております。

また、今後の工事の進め方としましては、防災――調整池関係でございますが――防災工事と並行して緑化工事を行い、防災工事終了後の造成工事につきましては調整池が受ける流域ごとに造成及び排水工事を行い、管理道路の設置を行った後に架台ぐい基礎工事に進むと聞いております。

次に、２項目め、２番目の泥水の対策ができていないのはなぜか、また３番目の開発協定書、自然保護協定書と泥水等との対応につきましては、これまでの濁水の対策としまして事業地内に沈砂池を設け、出口にはフィルターを設置した上で濁水を調整池にとどまらせ、泥土沈降後の上水を流出すると聞いております。また、ことし４月20日に、県庁にて、県、市がおのおのの立場で事業者に対しどのような対処ができるか、県と市の関係課で協議をしております。その結果、事業者に対し、昨今の地域住民からの濁水に関する苦情等の状況を踏まえ、改善対策の検討を要請したところであります。具体的には、許可権者である岡山県から、５月17日に、開発区域から排出される濁水により周辺地域の農業、漁業等への被害、環境悪化が生じないよう、必要かつ効果的な対策を十分に検討し、速やかに実施するようにとの文書が事業者宛てに発出されており、また５月23日には市としましても業者に対し濁水は市民及び市としての限度を超えているので……

〔市長萩原誠司君「受忍の限度」と呼ぶ〕

あっ、住民……

〔市長萩原誠司君「受忍」と呼ぶ〕

住民の……

〔市長萩原誠司君「受忍」と呼ぶ〕

受忍、あっ、失礼しました。

〔市長萩原誠司君「受忍の限度」と呼ぶ〕

濁水は市民及び市としての受忍の限度を超えているので流出をとめていただきたいとの要請をしましたが、その後業者において具体的な措置がとられ、５月末の雨による濁水は顕著に減少してるとなっております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岩﨑議員、２回目の質問は、午後１時からにしてください。

これより１時まで休憩いたします。

午前11時56分　休憩

午後１時00分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

岩﨑議員、２回目からの質問に入ってください。

３番（岩﨑　清治君）〔質問席〕

メガソーラーについて１回目のお答え、答弁をいただきました。

１つだけ違うとこがございます。もう泥水出ません、６月になったら出ませんというの、出てます。これは、本人さんが見られてるかどうかわかりませんけども、私は雨が降るたんびに河川に行ってます。今現在、まだ出ております。これは、間違いでございます。

２回目の質問に入ります。

職員による見回りですけれども、多くの人から環境破壊が心配なので工事現場に足を運んでいる、しかし立入禁止のことであり、現場を見ることができない。工事状況を自分の目で見ないが、遠くから見ると山がなくなって風景が変わってしまっている。大工事に、地域住民は災害発生などに心配している、業者任せでは不安だ、行政は監督をしっかりしていただいているだろうかとの質問や疑問があります。その対策の一環

で要望しているのであり、ことが起きる前の指導をお願いするものです。なぜなら、昨年から泥水が心配である、１年間言い続けてまいりました。泥水が出てると言ってきましたが、やっと先週になって、先週ですよ、先週になって改善の兆しが見えてきた。１年前の状態、半年前の状態、今年の２月の状態とは違います。先週に、やっと改善の兆しが見えてきた。１年間行政は何を指導しているのか、業者は指導を受け流しにして聞くだけだったのかと、そのどちらかでしょうかねと。この１年間、雨が降るたんびに赤茶色の泥水が流れています、山家川の環境はどうなりましたか。先ほども触れましたが、泥が石を覆い魚がすめる状態ですか。カワウやサギの姿も見えませんし、魚を見ることもできません。ことしの蛍は見えるのでしょうか。この山家川の状態をどうやったらもとに戻りますか。人の手で流れた泥を集めて、回収するのでしょうか。するとなれば、莫大な費用が発生しますが、誰が出すのでしょうか、業者ですか、市ですか、県ですか、多分すぐには対応をどなたもしていただけんだろう。このことは、雨が降るたびに川下に泥を押し流し、環境悪化の地域を次々と広げていくことになります。工事を進める前に、まず泥水対策をしていれば、このような問題は軽微で済んだと思います。業者任せにせず、指導できる立場の人が見回りを行い、常に問題が発生する前に対策を講じていれば費用も少なくなると思いますが、どうでしょうか。

次に、２軒の農家から、泥水の被害が出たと聞いております。市も確認されております。しかし、開発業者は、工事の影響ではないと言われているそうです。では、昨年来の赤茶色の泥水は、メガソーラーの工事が影響してないのか、市はどのように思われていますか。この農家の対応はどうされますか。一般的には原因者の責任でしょう。だから、業者は工事の影響ではないと主張されてるのと思います。市においても一定の責任がないと、一切の責任がないとお考えですか。市は開発協定書、自然保護協定書を締結されていますね。泥水を山家川に流すことは、市は認めていないはずですね。それならば、泥水被害の対応をする必要があるのではないでしょうか。農家の被害、河川の環境調査、具体的に言えば農家の被害状況の確認や補償の問題、また川の生き物、魚やヤゴや蛍の幼虫などを調査して、その数が本当に激変しているのであればしかるべき対応をする必要が当然あるはずと思いますが、いかがでしょうか。

２回目の質問といたします。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

２回目の質問ですけれども、まず先ほどの次長の答弁にありましたように、私どもとしてもこの泥水を含めて市ないし市民として受忍の限度を超えてるということであるので、早急に対策をとるようにという指導はしております。この指導っていう言葉が実はキーワードでありまして、岩﨑さんがどう思っているか知りませんが、指導したら聞くっていうんであれば世の中簡単であります。そう簡単ではありません。したがいまして、私どもとしては、どっかの段階でメガソーラーについては現在の法体系ではなくてしっかりとした規制のできる法体系に移行すべきであるというふうに考えておりまして、実は御案内かどうかわかりませんが、春の岡山県市長会において、全国要望のネタとして再生エネルギーの導入についての特別措置法っていうのはこの根拠になってるんですが、その特別措置法を変えて事前規制、それから事業途中の規制、事業規制ということでしっかり法的な規制ができるように、思いとしてはその規制主体としては国、県もありますけれども、立地してる自治体というものについてもある程度権限をもらえるようにという思いでありますけれども、そういうことで中国地方の市長会に提起をし、そして中国地方の市長会でも、なるほどこれは重点的な問題であるということで中国地方の市長会は通り、せんだっての全国市長会に行きました。私は、その問題を担当する第４分科会に席をいただいてるということで出席をしまして、いろいろな状況を見てたんで

すけども、私どもだけではなくてあれは静岡県が提起をした契機になっていて、東海地方の市長会も似たような論点を出してました。東海地方の市長会は環境影響調査事前調査法、つまりアセスメント法の対象にしろというのが彼らの論点である。それから関東地方の市長会もありまして、でも関東地方は若干我々と違っていて、どうも屋根につけたソーラーパネルがどうのこうのとかっていう、あるいは都市の空き家につけたソーラーパネルがどうのこうのっていう意見があるようで、対象になってる法律が都市計画法と、そして建築基準法、これでもって規制してほしいと、こういう意見がありました。一応全部通ったんですが、私のほうから全国市長会の事務局に対して、今３つの県が出ているけれども保護法域がさまざまに異なっていると、こういう状況ではなかなか統一した考え方の整理ができないので、全国市長会の事務局としても改めてどういう問題が全国で議論されているんだということについて調査をすべきではないかという問題提起をし、事務局から検討しますと、まあ検討はどこまでいくか知りませんけども検討しますというようなお答えを頂戴をして帰ってまいると思ったんですが、やや先走りですけど一応経済産業省に行ってこういう議論がされているということを、ちょっと前まで新エネルギーの担当の課長だった人がいますんでお話をしてきたところ、なるほどそれはそろそろ限界になってるかなあというなことであります。つまり、法的な権限を我々が持つかどうかということで、指導っていうものの根拠が全く違ってくるわけでありまして、この点については国に対して強く働きかけをしていかなければならないというふうに思っているところであります。また、これはもう今後の問題ですけども、きのうから議論があるように、1.5倍、21災の1.5倍ということになっておりますけれども、じゃあ本当に大丈夫かという御疑問がありました。もし今後の状況の中で、あれ今調整池がありますけど、これオーバーフローするようなことがあった場合には大変なことになるのは明らかでありますので、そういったことが例えば起こったときには、被害の回復っていうことについて今議員お話しのように誰がやるんだということになりますけれども、基本的には原因者なんだと私は思っておりまして、その原因の度合いに応じてお金を頂戴しなきゃいけない。しかし、お金を頂戴するっていうのは、民法的に頂戴するのはなかなか難しいんで、公法的に頂戴する必要が多分あるだろうということで、内々でございますけども、予期せぬ事案あるいは協定外の事案に対応する必要が生じた場合の法定外目的税というものの検討をするように、実は内々指示もしているところでございます。いずれにしましても、私どもとしましては、市民の方々の生活の安全というものを守るという意味では、権限はありませんけれども思いは強いということでありますが、その思いの強いものを何とかして権限の形にしていくための制度的な努力をしていかなきゃいけないというふうに考えておりますので、よろしく御理解を賜りたいと思います。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岩﨑議員、３回目です。

３番（岩﨑　清治君）

メガソーラーにつきましては、今回で５回目の一般質問をさせていただいてます。それ以前から、市長のほうが地元でメガソーラーの件についていろいろ話をされてるのも聞いております。その中で、協定書という話がありまして、先ほど市長の話をされてるのは、まあ権限がない、もともと言われておりました。県の権限ですよ、もちろん私もよく知ってます。国の法律のもとで自然エネルギー、国が施策としてやってる部分ですから反発もできない部分があるって、そこらも理解してます。ただ、地域が現実的に困ってる、今は農家の方が２人、二、三百万円ですかね、金額はっきり聞いてませんけども被害が出てるよという話もあります。で、ほかの人については、今後水田のほうへ影響が出るのではないだろうかという心配をされてる方も大勢おられます。もし出た場合、これどうなんだって、大変な問題になるよという気持ちの中もございます。市のほうとしても、先ほど言いましたけれども原因者の問題だと思います。原因者の問題ですけれど

も、原因者が知らんと言うたときには何らかの対応をとっていただきたいという思いです。法的にどうのこうのという話は、別問題としてという部分です。

それから、きのう岩江議員から提示のほうをされたこの写真ですけれども、今お持ちでなかったら後でゆっくり見ていただいたらと思うんですけど、１枚目の写真よりも２枚目の写真の中に泥水の写真、これ多分調整池だと思います。で、今までの地域の説明、行政のほうの説明は、調整池に入るまでに沈殿池を設けて調整池に泥水が余り流れないようにして、それでなおかつフェンスをして一般の河川に流すんですよと、だから泥水の部分はないですよ、その指導をしてますよっていう、調整池一切見えません。僕らは、私たちの地域のもんは現場に入れないんで、この状態をきのう初めて見せていただいた。で、市のほうはどうのこうのと言われてますけど、結局何ぼ言ってもしてくれてない。言葉だけなんですか、どうなんですか。本来住民が困っているわけですから、私も議会のたんびに言ってきてるわけですから。だから、今の状態は改善傾向にはありますよっていうことを、もうはっきり言ってるわけですよ。全然改善してないとは言ってないです。ただ、１年間何をしてたんですかと、１年間ほん投げたために被害が出てます、これはどうなんですかということを言ってるわけです。その意味で、お答えをお願いしたい。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

先ほど言いましたように、我々としてはできることはやってきているというのが大きな流れでありまして、そういう意味で、ほん投げたとおっしゃっておられることの根拠をまた別途お示しをいただきたい。

以上です。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

総括です。

３番（岩﨑　清治君）

総括です。ほん投げた根拠を言え、現実を見てください、泥水がとまっとりません。何をされよたんですかというのが根拠です。で、業者は、うちの水じゃないです、言われます、言われてるそうです、私は直接聞いてないです。どこから水が出てるかって写真を撮ったのを、我が家には写真たくさんあります、それが根拠です、日にちがデータに残ってますんで。１年間一生懸命業者に言って業者が直してあるんだったら、それは一生懸命されてたという。ちょっと言い方がひど過ぎるんではないかなと思いますけれども、次の質問に入ります。

議長（鈴木　悦子君）

２項目めに入ってください。

３番（岩﨑　清治君）

２項目め、農業問題についての質問をさせていただきます。

今議会におきましても、多くの議員の方が農業の関係で質問をされておりますけれども、私のほうは少し観点を変え、見方を変えた質問をさせていただきます。今回の質問については総論的な質問としますので、大ざっぱな中でのお答えで結構でございます。

美作市は429平方キロの大きな面積の土地で、山林がほぼほとんどを占め、農地は市面積の約１割、422.9ヘクタールとなっておりますが、山林は荒れ果てて、農地は荒廃が進み、農林業の状況は目を覆いたくなるような状況でございます。このことは、農業政策の失敗や、きつい、汚い、危険と言われる農業における３Ｋ、労働に対し年収の低さにより農林業離れとなっていると言われております。私の父親が農林業を

職業として生計を立てていたころは、稲作を中心に田畑を1.5ヘクタール程度です。そして、冬は山林の手入れを行っており、十分ではなかったかもしれませんが家を建て、私たち子どもの教育をして生活を送りました。そのとき口癖のように私に、山の木は管理をしてやれば日に１本１円になる、本数があれば勤めをするよりも経済的に有利だ、私の跡を継げと言っておりました。しかし、今の現実はどうでしょうか、私が職員を引いた４年前の12月から２月の３カ月間をかけて、我が家の山に行って一抱え以上のヒノキを伐採、搬出して材木市場に出しましたが、諸経費で私の手元に残るお金はほとんどありませんでした。そのときの話では、住宅様式の変化で昔の銘木と言われた柱等の需要がほとんどなく、節があっても値段が余り変わらないと説明をされておりました。木材の価格自体が親の時代に比べ３分の１から４分の１に下がっているからであり、これでは山林を山林経営としてはできません。林業として経営を行うことが、無理な状態であると思います。一方、稲作については、私の友人の話では、１俵の値段がよい時期では２万3,000円程度、最近では１万5,000円を切る状況であり、これ以上価格が下がると稲作農家を続けれないとこぼしておりました。収入が少ないと農業はやっていけない、結婚し、子どもを育て、生計を立てるには農業としては無理である等の疑問が生まれましたが、長野県のレタス農家の状況や、大潟村の後継者の状況等をもとに、農業を職業としている私の友人たちと議論を行いましたが、農業の種目としても酪農とか、稲作とか、野菜とか、園芸などを生産してる友人は後継ぎと一緒に仕事をしており、農業は厳しいがやりがいがあるとの答えでございました。特殊な能力のある人や、土地の気候の特殊性の条件がなければ、農業経営はできないのかとの私の質問に対し、１人だけ努力してもよいことにはならない、できるだけ多くの人がかかわり、競争することにより、世の中に認められたブランドになり、収入増につながるとの意見や、ＴＰＰ問題等があり、農業そのものの将来性は非常に厳しいので、多角的な生活設計を見直す時期かもしれないなどいろいろな意見が出ましたが、結論は国や地方行政の方向性によって自分たちの方向性を考えなければならない、農業を続けるならば条件のよい場所で行うし、転職するならそのことを考えるとのことでした。農林水産省の統計結果によると、年収が300万円未満の農家が約40％、300万円から500万円が23％、500万円から1,000万円が26.5％、1,000万円以上が10％となっており、サラリーマンの平均年収が400万円でありますので、農家の年収が低いことが歴然としております。しかし、長野県のレタス農家は、2,500万円もの年収があるとも報道されております。農地を荒廃から守ることは、災害を未然に防ぎ、住環境面においても必要なことは周知の事実であります。しかし、生活できないような収入では、農業をすることができません。

質問でございますけれども、美作市の農家の収入はどの程度の金額か、そして市の農業施策として収入目標額は幾らを設定してますか。２番目として、農家の収入を増やす施策の方向性はどのような方向性ですか。昨年、桃の糖度計の購入補助などは品質の向上により収入増を目指すものだと思いますが、市の独自施策としてのどのようなものがあり、それにより農家の収益はどの程度増加すると試算されていますか。昨年の秋、テレビの放送の中でカキの値段が出ておりましたが、１個1,000円のカキもあれば、５個入り1,000円もあります。また、進物用として１個5,500円で売られてるカキが日本橋であるのも見てまいりました。もちろん、同じものではありませんが、労力においては金額ほどの大差がないと思います。よいものを高く販売し、農家の収入増加の手助けを行政とする必要があると思いますが、市のお考えはいかがでしょうか。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

美作市の農林業について、まず農林業収入の関係でございますが、農業収入については農林水産省による統計では、平成27年の美作市の農業産出額は31億6,000万円で、このうち米が13億4,000万円で42.4％、野菜

が８億5,000万円で26.9％、果樹が２億8,000万円で8.9％、畜産が３億1,000万円で9.8％という数字になっております。また、昨年、市独自で認定農業者に任意で調査を行いました。その結果、83名中36名の方から回答をいただきました。まず、農業収入の総額では、平成28年が13億7,446万円、平成26年が10億4,123万円で、この２年の間に３億3,323万円、32％の増となっております。農業所得のほうで申し上げますと、総額で平成28年が３億3,019万円、平成26年が１億4,242万円で、１億8,777万円、131.8％の増となり、担い手の農業収入及び農業所得が増加傾向にあることがわかりました。

美作市では、農業経営基盤強化促進法の規定に基づきまして、農業経営の基盤強化の促進に関する基本的な構想というものを定めておりまして、その中で担い手育成の基本的な方向を農業が職業として選択し得る魅力とやりがいのあるものとなるよう、農業を主業とする農業者が年間農業所得300万円から380万円の水準を実現できるものとしております。また、新たに農業経営を営もうとする青年等については、就農後５年間で年間所得200万円以上を目指すというふうにしております。

次に、市の独自施策ということでございますが、市では地方創生推進交付金を活用しまして農林業を支援しております。平成29年度では、糖度計を購入しまして、桃やブドウの収穫適期の判断に使用しております。今後、糖度を数字で表示するなど、より品質のよい商品の提供に活用していきたいと考えております。平成30年度においては、生産基盤強靭化支援事業として、地域の担い手がトラクターなどの機械、施設等を導入する経費の３分の１補助、農地再生のための重機借り上げ料などの２分の１補助、黒大豆、日指ゴボウなど伝統野菜や、アスパラガスなどの機能性野菜の生産、品質向上のための資材費の購入補助などの支援を行う予定でございます。栄養成分分析事業も引き続き行い、栄養価が高いことを店頭で表示することにより、ほかの商品との差別化を図り、購入意欲の向上につなげたいというふうにも考えております。また、農業者が東京や大阪で開催される商談会に参加することを支援しております。商談会にはみずからが生産した農産物を持参し、販路の開拓を図るとともに、パッケージ方法など販売方法の改善に生かしておるところでございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

私は総論的な話を、今回特に農業問題についてはしないと市の方向性がなかなか出せないということで、市のほうとしては基本的な構想を定められてその中でされてるみたいですけれども、まずサラリーマンの年収が400万円っていう話をさせていただきました。一方農業については、300万円から380万円というふうな数字をその計画の中で、構想の中でされてるんですけれども、その300万円、380万円台で子どもの教育をして、家計をやっていこう思えば、マイナスに近い状態になるんではないかなという思いが１つあります。

それから、もう一方、簡単に300万円とか380万円と言いますけれども、今の農業でどれでどうやったらそれだけの収入がなるのかな、具体的なことは今回質問してないんで非常に疑問があるとこでございます。

先日、６月に入ってからなんですけれども、親戚の者、稲作を中心にしていろいろなことをしている者、もう少し具体的に、市長とこの隣の、実家の隣の親戚があるんですけど、その人と１日ゆっくり話をさせていただきました。そのときに、その家は農家で稲作を中心にしてるんですけれども、収支の話をしたところ、概略を言いますと反に７俵できますよ、１俵を１万5,000円と仮定して、要るものとすれば肥料、農薬が約２万円、苗ともみすり賃が２万4,000円、ほかの経費をして機械類を除いたら５万円手元に残ります、１反５万円ですね。農機具代を差っ引いたらどうなりますか。農機具によると、いろいろなレベルがあります。まあ答えを聞くと、非常に収入を得るのは難しい。100万円、200万円という簡単に数字を言いますけ

ど、お米だけで非常に収入を得るのは難しい。なぜならば、先ほど岡本議員も話をされてましたけれども、トラクターにしてもコンバインにしても面積が多ければ多いほど物すごい金額が高くなるんですね。私、八郎潟のほうへ友達がいまして、そこの彼とよく話を電話でもしたりするんですけど、彼らの使ってる、――15ヘクタールあるんですけど――トラクターは100馬力以上です、1,000万円以上の機械が何台もあると、それの支払いをするのは米代で厳しい、１万5,000円切ったらもう、１万円台にもなったらもう倒産だ、やめるしかないというふうな話がありました。その中で特に言えるのが、私たちの中山間地域の農業をするにはどうしたらいいんですか、私は夢を語っていただけるんかなと思ったら、夢が余り語っていただけてない状況です。先ほど糖度計なんかの話をしましたけど、糖度計なんかは非常に私はいいと思うんです。それによって、今まで１個1,300円ぐらいで売ったのが1,500円になれば、それだけの収入増になるわけですから。そういうふうな意味合いでの市の独自施策というのが、非常にされたらありがたいなという意味で質問をいたしました。

長野県のレタス、これは皆さん多分知っとられると思うんですけど、1,500万円もの収入があるらしいです。人手が足らなくて大変な状態らしいですけど、年に半分働いて半分遊んでるそうなんですけど、私行ったことないんで事実は知りません、このあたりのところは。だけど、地域によって農業のやり方っていうのはいろいろあります。美作市の農業はよそのことをまねることも必要ですけど、美作市独自の中山間地域の農業をどうするかっていうのを確立しなければいけない。先ほどの議員の質問では、農地を、３反の農地を３町にするという可能性ができるかどうかは別なんですけど、そういう意味のことを言われましたけど、秋田県の八郎潟では１枚が１町５反で15町つくられてます、これは皆さん知っとられる部分があると思いますけど。その面積でも、お米では非常に難しい状況です。また、県内の友達がいるんですけれども、酪農家ですけど、北海道から牛を買ってくる、牛を買ってきて、妊娠してる牛を買ってくるんですけど、最近は妊娠してる子どもが全部雄だと、雌牛というのが生まれることがない、昔はあったらしいです。それはあったということは、雌牛が生まれるとすごい経済的に有利になる、子どもが大きくなってホルスタインになっていく、じゃけどそれが全部ない。なぜならば、これは想像ですけど、妊娠してるとこで雄か雌か判断して、雄牛のを妊娠してるばっかりを出してる。こういうことを、今北海道のほうもされてるらしいです。だから、美作市においても独自の方向性を考えるべきじゃないかな。また、テレビで見てましたけど、岡山県でバナナ栽培をされてる――これ何人か見られてる方もおられるかもわかりません――それからパイナップルをつくったり、マンゴーをつくったりしてる。で、私のほうにもつくってみないかなというふうな話があった時期もあるんですけれども、そのときの話で、テレビの話ですけど、１本600円のバナナだそうです。すごいなあと思ってネットで見てましたら、鹿児島でしたかね、九州なんですけど、３本で2,700円、１本900円でバナナは売られてます。これで採算制があるかないかはちょっと別問題なんですけど、そういうふうなことを考えられてはどうでしょうか。

もう一つ、ついでに質問をさせていただきたいんですけれども、最終的に名前をどういうふうにつけられたかわからんですけど、勝央の林業試験場のほうで栗を、新しい品種をつくられてされてる。もう数年前、10年、20年、平成22年ぐらいからですかね、栽培されてる方が大分おられまして、収穫も増えてると思います。こういうなのも、全国的にはまだ速いペースだと思うんです。こういうものを、いいものをより高く売るような手助け、実際農家の方がしなきゃいけない、手助けをするような施策の援助は市としてはできないか、夢のある話ができないか。金額をどんどんかけるだけが行政のやり方ではないけれども、方向性を出したり、人的、物的なことをして農家の所得が大きくなれば、荒廃地も減ってくると私は思うんですけれども、いかがでしょうか。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

２回目の質問でございます。

農業所得300万円の目標達成ということでございますが、美作市の定めた農業経営の基盤強化の促進に関する基本的な構想による経営指標でございますが、全国的には年間所得が450万円程度の設定となっております。美作市では耕作条件などを考慮いたしまして、300万円から380万円といった設定になっております。また、認定農業者からこの５年間の間に提出いただいた計画書によるデータでございますが、認定農業者の個人の方のうち300万円から380万円の所得の所得水準に達していらっしゃる方は22.7％という状況でございます。しかし、１回目に答弁しましたように、認定農業者の所得水準が増加の傾向にあり、経営指標の設定水準を達成する農家が多くなるというそういった可能性が高まっているように思います。美作市では経営環境の改善のためにさまざまな施策に取り組んでおりまして、今後もさまざまな施策に取り組んでいきたいというふうに思っております。そして、基本的な構想に定める所得水準を、450万円程度に引き上げることも考慮していかなければならないかなというふうに考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岩﨑議員、３回目です。

３番（岩﨑　清治君）

お答えを部長のほうからいただいたんですけれども、何か元気が出ないようなお話ばっかりで、よし、じゃあ農業をやってみようというふうな気持ちが何となくあらわれてない。実際、じゃあ何を考えられてるんか。もちろん、先ほど言いましたけど農家が一生懸命しなきゃいけません、農協のほうも協力してもらわなきゃいけないです、普及所もあります、いろんなとこあります。ただ行政は行政、市行政は市行政のやるべきことがある。話し合いをしたりいろいろするのも一つのことです。その中で、何か思いは伝わってこないのが現状であります。私の友人っていうのは、農業、農家っていうのがたくさんいますけれども、地域地域によって物すごく考え方、経営の主眼が違います。特に私に多いのは、都市部、東京近郊が非常に多いんで、彼らの経営のやり方をここに持ってくるとまるで間違いで、それは幾ら思っても、聞いても言う気はないんですけど、１つは話をすれば、花をつくってる農家があるんですけど、１年間の経営の中で大変な収支らしいです。ただし、突然変異の花が生まれるらしいんですね、何年かに１回、この花ができたらすごくいいんですよ、マイナス面も数年間で取り戻しできるんですよと。これを美作市に当てはめるわけにはいきませんので、だから先ほど言いましたけれども、桃の糖度計なんかの部分で１つの値段を100円でも200円でも上げていただきたい。こういうふうな部分で農家の所得をどんどんしていただきたい。東京の千疋屋さんのほうに出せれるような果物をつくっていただきたい。非常に難しいことはよくわかります、わかるんですけど、そういう夢を語り合えるような農家なり農政の話し合いをしたいなあと思いましたけれども、そういう話になりませんでしたので、次の項目に移ります。

３項目め。

議長（鈴木　悦子君）

じゃあ、３項目めに入ってください。

３番（岩﨑　清治君）

私のほうに、市民の方々から疑問や質問がありまして、質問に私自身が答弁、回答できないということ

で、今回の財産管理についての質問をさせていただきました。この質問をさせていただいた以降、はっきり覚えていないんですけど、６月になってからなんですけど、私の家のほうへファクスがまいりまして、この項目についても質問してくれという意味だろうと思うんですけど、送られた方がファクス番号等見ても電話番号と普通と違うんで、パソコンから直接送られたんかなあというみたいな気もして、犯人捜しをするわけではないもので、今持ってるんですけど。内容については、質問してくれという部分と一緒で、市の土地を無償で株式会社等に貸し付けるのは問題があるのではないかというふうなことが、大分ほかのことも含めてなんですけど書いてありました。美作市の財産条例第11条に、無償・減額貸し付けの定めがあり、その適用によって土地の貸し付けであれば私は問題はないと思いますが、市民の方々はいろいろな見方があり、疑問がある方が大勢おられるということでございます。

それでは、質問をいたしますけれども、１つ目は有償・無償・減額貸し付けの土地はどの程度あるのか。２番目は無償・減額貸し付けの判断基準はどのようになっているのか。３つ目が、貸付要件を要約すると、条例第11条第３号に、収益的な活用が困難な普通財産で、過疎対策、定住対策等の市の重要施策に必要な場合と規定されているが、収益的な活用が困難と過疎対策等重要施策の意味合いを具体的に説明を示していただきたい。４つ目が、大阪市等の監査――大阪市だけじゃないですけど、いろんなとこの監査も含めて――監査において、公平性の観点から老人ホームなどの民間が運営している類似施設には無償等の貸し付けは適当でないとの指摘もあり、時代を逆行してるのではないかという質問がございました。５つ目に、条例の趣旨にのっとり無償貸し付けを希望する場合、公募と応募があると思うが、公平性の観点から決定までのプロセスはどのようになっているのか。６つ目が、貸付期間中に建物の所有者が倒産等をして美作市との間で問題が発生する可能性はないのか。入居者がいるときに建物の所有が変わること等が考えられるが、土地の所有者市は何も問題なり被害は発生しないのか、法的なもんはいいのかということです。７つ目は、雲海にある大芦高原多目的野球場や体育館の専用使用の説明があり、この４月、５月のころの契約とのことであったが、契約がどうなってるのか。

１回目の質問といたします。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

具体の答弁は後で続きますけども、若干総論についてお答えしときますが、お尋ねの中にありました、例えば公平性っていう観点、大変大切な……

〔３番岩﨑清治君「もうちょっとはっきり」と呼ぶ〕

お尋ねの中にあった公平性っていう観点、非常に大切なポイントであります。平成26年当時、見とりましたら、さまざまな形で無償貸し付けがされていたり、されていなかったり、どこに基準があるのかといって聞いてみると、ないというようなことがありました。そこで、その辺の基準を明らかにする必要があるということを背景として、たしか財産条例というものを議会にお諮りをして、そして制定をさせていただいて、したがいまして少なくともかつて行われた土地等についての貸付対応が公平性の根拠等が説明できないという状況はとりあえず脱することができてると、かつての行政に御見識の深い議員でございますんで、かつてどのようにされたかについてはまた御披瀝を賜っておきたいと思うんですけど、少なくとも今は条例の根拠の中で物事が整理をされているということになってることを、まずお話をさせていただきます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）〔登壇〕

失礼いたします。

私のほうからは、財産管理についての１項目めの市有地の貸付件数、それから６番目の不測の事態が生じた場合、これらについて答弁させていただきます。

まず、市が所有しております土地の貸付件数でございますが、管財課で把握しているものは看板や電柱なども含めますと全体で１万1,272件ございます。このうち有償のものにつきましては7,638件、無償あるいは減額して貸し付けを行っているもの、このものにつきましては3,634件という状況でございます。

次に、土地の無償貸し付け・減額貸し付けの判断を行う場合の基準ということでございますが、美作市財産条例第５条使用料の額等の特例、そして及び第６条使用料の減免並びに第11条普通財産の無償貸し付けまたは減額貸し付け、それに合わせまして地方自治法第238条の５、普通財産の管理及び処分、さらには財務省の普通財産貸付事務処理要領等を参考に判断をさせていただいております。また、電柱、看板、進入路等の道路や河川などに設置されるものにつきましては、美作市道路及び普通河川等管理条例第７条を準用し判断をしているというところでございます。

次に、３番目の収益的な活用が困難、そして過疎対策等重要施策についての意味ということでございますが、収益的な活用が困難な普通財産ということにつきましては、立地条件が悪いなどの理由で有効な利用方法や有償での貸し付け等の希望がないなど、収益の発生する活用が見込めない普通財産であるというふうに理解をいたしております。また、過疎対策等重要施策でございますけども、人口の著しい減少に伴い、地域社会における活動が低下し、生活環境の整備等が他の地域に比較して低位にある地域、つまり過疎地域でございますけども、このような地域の住民福祉の向上、雇用の拡大、地域格差の是正を行うなど地域の活性化につながる重要な施策であるというふうに理解をしております。

そして、先ほど大阪市の例をもって御質問をいただきました普通財産の貸し付けにつきまして、大阪市等の都市部と美作市では地理的あるいは経済的な条件が違います。大阪市の実例を当市に当てはめるということは、少し無理があるのではないかなというふうに考えております。中山間地域であります美作市においては、福祉事業等の参入事業者は極端に少なく、地域住民の方々に安心して生活をしていただくためには事業者の誘致ということには公有財産の無償貸与ということもやむを得ないものではないかというふうに考えるところでございます。また、せんだってＮＨＫのニュースによりますと、青森県のある自治体では新しく診療所を開設するに当たり、家賃や光熱費が無料の医師住宅を提供するという条件つきで全国的に医師を募集したにもかかわらず、応募がなかったという報道がございました。このようなことからも、地方、特に過疎地域におきましては、公有財産の無償貸し付けが時代に今は逆行してるというのは考えにくいんではないかというに考えております。

５番目の貸し付けのプロセスということでございます。近年行っております貸し付けにつきましては公募を行っておりまして、公平性を期するために使用条件、仕様等をホームページに掲載し、応募がございましたら応募者の審査を行い、適正な形で貸し付けを行っているということでございます。

そして、６番目、建物の所有者が倒産するなど不測の事態が発生した場合という御質問でございますけども、通常は利用者、御利用されてる方に迷惑がかからないように、破産申し立て代理人が事業を継承する新しい事業者を探してきまして、その者に建物を譲渡し、あわせて譲り受け人と市との間で改めて使用貸借契約を締結し直すということになろうかというふうに思っております。

私は、以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部次長。

企画振興部次長（平田　幸春君）〔登壇〕

私のほうからは、７点目の雲海の多目的施設野球場等の契約の内容につきまして御答弁させていただきます。

美作市財産条例及び美作市公有財産規則に基づき、行政財産の目的外使用といたしまして、平成30年４月１日から平成31年３月31日までの期間で、株式会社ショウワコーポレーションに対し行政財産使用許可を出しております。使用料につきましては、美作市財産条例第４条の規定に基づきまして計算をした額で、過去３年間の施設使用料の平均程度の額に減免いたしております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

１回目の質問をいただきましたけれども、市長が一番最初に言われた、今まで条例がなかったというふうな話があったわけですけれども、今ある現在の条例を私持ってるんですけれども、附則の中に美作市財産の交換、譲与、無償貸与等に関する条例の廃止ということで、当日廃止されてんでしょう、条文の中身知りませんよ、私これしか見てないんで。だから、今までなかったわけではない。不備があったかどうかも、これは知りません。だけど、少し言い間違いのとこがございますよということだけ申しておきます、附則で同じ時期に廃止されてますから。

２回目の質問にいたします。時間がないんではしょってやりたいと思うんですけれども、土地の貸し付けの件数ですけど、想像以上に多かったという実感がございます。電柱や看板が入ってるんだろうなあというふうに思いますけれども、特にお尋ねしたいのはこの条例をつくった後、26年ですけれども、財産条例を新たに制定された以降に無償や減額の貸し付けが幾らあったか、そして主なものはどんなものがあるのかを教えていただきたいな。

２項目めなんですけれども、私はちょっと質問の仕方が悪かったかもわからんですけど、有償と無償の違いをお尋ねしたわけではない。無償と減額のどれを減額してどれを有償にするの、減額してしまうのか、減額幅は幾らなのかということをお尋ねしたかったので、改めてお尋ねをします。財産条例の１条の１号と２号と３号がありますけれども、どういうふうな感じで無償と減額をどのようにされてるのかという意味合いです。

３つ目の、これが少しおかしいなあ、解釈かなあ、条例を少し今後直す必要があるのかなあというみたいな気がするんですけど、条例の11条の３号に収益的な活用が困難な普通財産、この解釈を有効な利用方法がない、利用価値が低い財産として、一方では市の重要施策を行う場合には無償や減額する、これ相反することで矛盾してると私は思うのが、私だけでしょうかね。市の重要な施策を行い、地域の活性化につながる場所は、地域において重要な場所であります。有効な利用方法があるはずで、市の土地がなければ購入してでも事業を行わなければなりません。それを有効な利用方法がないとか、利用価値が低いとの今の説明では矛盾があるのではないでしょうか。私は、この制度そのものをおかしいって言ってるわけじゃないです。条例と合わないから、条例がいけなかったら条例を直すべきじゃないかっていう指摘をしてるわけですから、それはもうそちらの判断で結構です。

４番目の普通財産の無償貸し付けについて、美作市ではやむを得ない、大阪市とは違う、診療所の件、これは診療所の件はよくわかりますよ、ただ昨今の監査の状況を見たら、行政同士で公園にするから貸すとか

貸さんとかということを無償にしてるだけであって、例えば多くの市町村の監査や外部監査やオンブズマンが今違法ですよって言ってるわけです。なぜならば、うちのこのあたりで見たら、津山市が同じものをしてて向こうで有償、ここで無償っていうことになれば、ハンディがつくわけです。そのハンディがつけばいいんだ、誘致できるんだという考えもあるんですけど、公平性の観点からおかしいよという考えもある、そのあたりは今の時代と違うんじゃないかという意味合いで。また、赤磐市の議員が、太陽光発電施設の使用料減免は――これも無償だと思うんですけど、これ新聞紙上に出てるだけなんではっきりわかりませんけれども――住民訴訟を起こされとります、つい最近ですけど。この詳細もわかりませんし、内容はわかりませんけれども、結果が出ることによって美作市のほうも影響の出る可能性がありますよと、じゃからこのあたりも考えて先ほどの答弁も正しかったんかどうかという話になってくるわけです。

それから、５つ目ですね、公募を行っているということで、議会においても滋慶学園の寮の建設だということで呼びかけてますよ、商工会を含めてというふうなことをされておりましたけれども、例えば豊野小学校の跡地に高齢者の住宅をつくられてますね、このあたりについては整合性、先ほど言った津山とかよそのほうでつくられてる、近隣の住まわれてる人が市内を条件で、出生が市内条件であればまた違うんですけど、そうでない場合については不公平感が出てきますよ。

それから、６番目ですね。市の建物の所有者が倒産等した場合には、いろいろと問題が出てきます。もう端的に言うと、もうもう工房の跡地の購入値段、これなんかもそういう事例の中で困られて市のほうが購入した経過がございます。そういうふうな問題が、世の中にたくさんあるんです。その中で、契約書や条例や等について弁護士との協議なんかはさんざんされた上で貸し付けされてるんでしょうね、契約内容も含めてというふうな意味合いで聞いてる。

７番目ですね、これは非常にわかりにくい。答弁を聞く限りでは、私自身をちょっと侮辱されてるような雰囲気で聞こえました。なぜならば、行政財産の目的使用については、地方自治法にはっきり決めてあるわけです。それから、通達も出ております。これは太陽光絡みがあるんです。財産条例の部分はあるんです。今のままで言うと、もう少し話をしたいんですけど、時間がないんですけど、これは法的な根拠を欠いてる、法的な説明をしてください。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

〔３番岩﨑清治君「市長からじゃないの」と呼ぶ〕

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）〔登壇〕

失礼します。

それでは、岩﨑議員の２回目の御質問にお答えをさせていただきたいと思います。

まず、貸し付けの件数ということでございます。平成26年、美作市財産条例が制定された後の貸付状況でございますけども、先ほど言われておりました電柱など細かいものを除きますと７件ございます。このうち無償貸与のものが６件、そして有償ではありますが減額して貸し付けを行ってるものが１件という状況でございます。そして、これらの貸し付けに当たっては、貸し付け後の使用目的がさまざまということでございますので、関係する部署のほうにおいて交渉や協議を行っているというところでございます。

それと、減額しての貸し付けということでございますけども、合併以前から貸し付けを行っている施設、物件等につきましては、それまでの経緯を尊重いたしまして基本的には従来どおりの条件でお貸ししている

という状況でございます。近年新たに貸し付けを行った物件につきましては、美作市公有財産規則に基づき貸し付けを行うことを基本といたしております。この規則第35条には、普通財産の貸付料について定められておりまして、固定資産税評価額の1000分の25を基準額として時価及び収益性、そして貸付条件、近隣地域または類似地域の貸し付け水準、その他の事情を考慮して金額を定めるようになっております。現在は、これに基づきまして貸付額を決定し、貸し付けを希望する方との交渉を行い額を決定しているという状況でございます。そして、先ほどの答弁と同じことになるんですけども、他の地域での監査の結果等のこともおっしゃるわけでございますけども、公平性を重視するということは非常に大事だと思います。しかしながら、先ほど申しましたように、そういう事業者の参入がないところでは少し緩めていく必要があるのではないかなというふうに考えております。

それから、所有者が不在となった場合という御質問で、先ほどもうもう工房の例を出して御質問をいただきました。実は、この質問をいただいてから弁護士のほうとも相談ですか、問い合わせをいたしましたが、契約をする段階で内容等を精査して、例えば倒産した場合のその資産の取り扱いとかというふうなものも定めておくほうが間違いがないのではないかなという意見をいただいております。

あと……

〔３番岩﨑清治君「〔聴取不能〕」と呼ぶ〕

貸し付けの物件ですか、ああ、失礼しました。物件でございますけども、先ほど申しましたように関係部署で分けて交渉なりいたしております。ごく最近であれば、先ほど平田次長のほうから申しました滋慶絡みの貸し付けというものが無償にされております。

以上、答弁とさせていただきます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部次長。

企画振興部次長（平田　幸春君）〔登壇〕

２回目の質問でございます。ショウワコーポレーションの貸し付けにつきましては、財産条例、公有財産規則、この規定に基づきまして貸し付けを行っております。法的な根拠といいますと、これにつきましてはショウワコーポレーションの野球部が本拠地を移転するということで、それに伴いまして野球部員等がこちらのほうに移住してこられるといったことで、過疎対策、それから定住対策、そういったものにつながるといったこともございまして規定を適用いたしまして減額をいたしておるところでございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）〔登壇〕

失礼します。

御質問の中に豊野にあります小規模多機能居宅介護施設と高齢者サービス付き高齢者向け住宅の御質問があったと思います。御質問の趣旨全てが少し理解できない部分がありましたので、正しいお答えになってるかどうか少し疑問があるんですが、あそこの公募に当たりましては、公募を３回かけまして、３回目の公募によりましてやっと応募者があったという状況でございます。１回目に公募をして応募者がない、２回目の公募のときに、じゃあ土地を、土地について無償貸し付けということで条件を拡大しまして募集をした結果、３回目で応募があったということでございます。なおかつ、そういった施設に市外の方が入居された場合に高齢者福祉とは違うんじゃないかという点の御指摘かと思いますが、主には市内の方の地域密着型の施

設でございますから、市内の方が利用するというのが第一条件になりますし、またひいては地元の住民の方の雇用の創出ということにもなりますので、過疎対策には効果が非常に大きい事業というふうに考えておりますので、土地の無償貸し付けということは11条の３号に該当してるというふうに解釈をしております。

〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

市長はないんじゃな、僕が何も言わんかったから〔聴取不能〕。

議長（鈴木　悦子君）

市長、ありませんか。ないですか。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

私からは、それじゃ条例の条文の話がありましたけれども、これについてはいろんな見方があると思います。意図してきたことが、今まで誰かから貸してくれといって借り受けの申し入れがなかった、有償で借り受けたいという話がずっとなかった土地という程度の意味を持っておっしゃった表現が使われているわけであります。それから、もう一つは公平性の見方ですけれども、例えば美作市の条例規則については大まかに申し上げますと美作市の市域において適応されるものであります。したがいまして、私どもと、それから津山市民の公平性といった概念については、これは国法あるいは県の条例等においては当然必要かと思いますけれども、なかなか私どもの中で処理をすることが難しいというふうにお答えをさせていただいておきたいと思うんです。いずれにしましても、こういった問題については、その地域の土地に対する需要でありますとか、人口の動態でありますとか、経済社会を取り巻く環境が変化すれば、当然その中で正しいっていうか一番その市にとって有効な利用活用の仕方っていうものが変化をしてまいります。今のところその変化を強く感じているわけではありませんけども、その変化があれば我々としても議会の方々にも御意見を頂戴をしながら、条例のあり方を含めて再検討できる時期が来れば大変ありがたいというふうに思っております。

〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

時間がないんで端的に言いますけど、雲海の件は地方自治法違反と思いますけど、答えをしてください。法的な根拠を示してください。休憩の後でもいいですよ。

議長（鈴木　悦子君）

誰が答えますか。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

一般的に申し上げますと、地方自治法に違反をしているんじゃないかと嫌疑を今持っておられるわけでございますが、通常適正、穏当な形で実行されてる行政行為について妥当である、自治法上妥当であるっていう推定がまず働きます。それが働かないと全ての行政行為が難しくなるんで、まずそういう推定を働かせた上で、特に疑義のある場合についてはさまざまな対応、検討が行われますが、先ほどのやりとりの中で特に強い疑義が一般的な自治法の解釈を背景にしてあるというふうには多分当局において聞こえなかったんだろ

うと思います。〔降壇〕

〔３番岩﨑清治君「答弁になってないですよ。法律違反してるんでないですかっていう話をしてるのに、第何条の規定でこういうふうになって、普通財産をこういうふうに貸し付けてますっていう説明をしてくださいって言ってるだけです。本来しゃべりたいんじゃけど、時間がないんですよ」と呼ぶ〕

議長（鈴木　悦子君）

平田企画振興部次長。

企画振興部次長（平田　幸春君）〔登壇〕

美作市財産条例及び美作市公有財産規則に基づきまして、市長の許可を出しております。

以上でございます。〔降壇〕

〔３番岩﨑清治君「地方自治法の238条の４の規定でされてると思うんじゃけど、そこの示しをしてくださいって言ってる」と呼ぶ〕

〔「休憩しょうか」「議長、休憩」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

暫時休憩します。

〔３番岩﨑清治君「丁寧に答えてくださいね。ほかの人はわからんで」と呼ぶ〕

午後２時09分　休憩

午後２時19分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

答弁から。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

丁寧にお答えをさせていただきますが、まず自治法の238条の４が行政財産についての貸し付けその他についての制限をかけた条文であることは当然であります。たしかこの件は議員とこにファクスが来たという話でありましたけども、そうですね、ファクスが来たんでしたっけ、ファクス、質問の原点になったのは誰かからのファクスでしたっけ。

〔３番岩﨑清治君「まあまあ、いいですよ」と呼ぶ〕

その方のミスだと思うんですけども、238条の４は、２項は行政財産の貸付制限ということになっております。また、飛ぶんですけども、第７項というのがありまして、行政財産、その用途など目的を妨げない限度によってその使用を許可することができるということがありますが、これを引用して御説明をしますと、当該物件は体育館であります。体育館というのは使用を許可することを前提にしてつくられたものであります。したがいまして、その貸し付けという言葉にファクスにおいてお答えになってるのはわかりますけども、本件については使用の許可の延長線上で、使用料を１年間における年額の今までもらってた使用料を対価として貸し付けを拡大するという理解をすることが、この問題についての最大のポイントということでございますんで、恐らくファクスを送られた方が１つには体育館の意味が御理解になってなかったこと、そして238条の４については制限とともに使用の許可があるっていうことも御存じなかったというふうに思われ

ます。

以上です。〔降壇〕

〔３番岩﨑清治君「総括できますね」と呼ぶ〕

議長（鈴木　悦子君）

14秒。

〔14番尾髙誉久議員「14秒でせにゃいけん」と呼ぶ〕

議長（鈴木　悦子君）

14秒でしてください。

〔３番岩﨑清治君「もうやめますわ、じゃあ」と呼ぶ〕

〔14番尾髙誉久議員「やめなさい」と呼ぶ〕

〔３番岩﨑清治君「ただ、この文章を見られたら違いますよ。コピーあげます」と呼ぶ〕

〔「はい、これでやめ。次に移ろう」と呼ぶ者あり〕

〔３番岩﨑清治君「終わります」と呼ぶ〕

議長（鈴木　悦子君）

以上をもちまして通告順番９番、議席番号３番岩﨑清治議員の一般質問を終了いたします。

ここで10分間休憩します。

午後２時21分　休憩

午後２時31分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

続きまして、通告順番10番、議席番号14番尾髙誉久議員の発言を許可いたします。

尾髙議員。

１４番（尾髙　誉久君）〔質問席〕

それでは、よろしいか。

議長（鈴木　悦子君）

はい、どうぞ。

１４番（尾髙　誉久君）

議長より一般質問の許可をいただきました。６月定例会の一般質問をさせていただきます。その前に、非常に私の周辺におきましても余りいい出来事がないなあと、世の中、また世界を見ても、山陽新聞の６月８日の滴一滴によると、世界一深いマリアナ海溝の水深１万メートルの海底でポリ袋が見つかり、北極海の氷に大量のプラスチックが含まれていることも判明したと、今や汚染のない海を探すのが難しいと、また毎日のように暴走運転による車の事故により死傷者が多数出るというニュースがあり、横山副市長が、尾髙さんもう免許証を返上したらどうなら言うけん、私も本当にそろそろ免許証を返上しなきゃいけない、人を傷つけてからでは遅いなあと本当に真剣に考えるような。それにしても、新幹線の中で誰でもいいから殺してやるんだと、おまえは喉を切っておまえが死ねと、怠けるんでねえぞって、まあ本当に狂ったニュースが多過ぎます。親が３歳の子どもを殺して、育てがどうだ、産みがどうだの問題じゃないと、３歳の子どもにも人権があるんだぞと、もう論外だと。そんな中にあって、私にとって本当に、ああ、よかったというニュース

はこれだけかな、議会運営委員長をやってる私にとって大変うれしいニュースは、そりゃあ元市議会議員であった議会運営委員長小渕繁之さんが春の叙勲旭日双光章を受章されたことです。世の中まんざら見捨てたもんじゃないなと、見るべき人は見てるんだなあと、良識人が章を受章するまともな世の中に少し安堵する思いです。小渕議員の祝宴の中で、先輩は昭和20年、昭和20年がどんな年か皆さん御存じだと思いますが、10月14日に生まれて、知らない人もあるかもしれませんが、昭和39年のオリンピックの年に生まれた歌が井沢八郎の「ああ上野駅」、ちょっと７月８日はのど自慢大会というので、これはどういう歌かといいますと、1950年ごろ、昭和25年ごろから江戸は100万人の都市というＮＨＫスペシャルを大江戸でやってましたけど、この昭和25年ごろから都会においては教育熱インフレ、インフレーションが始まって、1954年、昭和29年に世田谷の桜新町商店会が合同で求人を行って、東京都などがあっせんによって中学校から本当に働く世代を集団で上京してほしいということに始まったと、それが1975年まで21年間続くわけです。その歌というのは、喉が詰まって泣いたらいけない、できるだけぐっと我慢していいますけど、どこかにふるさとの薫りを乗せて、入る列車の懐かしさ、上野はおいらの心の駅だ、くじけちゃならない人生が、あの日ここから始まったんだと、その後井沢八郎が言うんですよ、父ちゃん、母ちゃん、帰ったら、もういいというぐらい肩もんでやるからなあと、お母さん、畑仕事は俺がいなくなったから大変だろうと、その中で一生懸命小渕さんはやられたんだろうなあと。人間が失ってはいけないもの、それを本当に私の先輩である小渕議員から大きな土産を、宝物をもらって、彼の背中を追っかけて一生懸命議会運営委員長を、本当に小渕さんに笑われないような委員長を目指していきたいと、そのような思いで今回一般質問に望みます。

といいますのが、もう一つ、孫の上には子どもがおるわけですけど、その子というのが非常に私を支持していてくれる、おやじと言いますから、私に、ひょっとしたら娘かもしれませんが、おやじ、今回一般質問するんだろうと、いや、もうあれもしてはいけん、これもしてはいけん、これもされんなあと思うから、それはおかしいぞと、おやじは市会議員をやっとんだから、そういう自分の気持ちだけじゃないんだと、市民の人の気持ちを反映させるんが、はい、わかりましたと、私の子どもにひどく叱咤されまして、元気を出して今回質問に及ぶ次第でございます。よろしくお願いいたします。

今回の質問はたったの１項目でございますが、公共施設の利用について。

まず、①として美作市公共施設等総合管理計画と今後の方針について。以前に一般質問で答弁されたと、総務部長が答弁されたと思いますが、再度お尋ねいたします。また、②は主な公共施設の利用頻度について。美作のラグビー・サッカー場、野球場、テニスコート、英田の大芦高原野球場、グラウンドゴルフ場、作東のＢ＆Ｇのグラウンド、勝田の多目的グラウンド、テニスコート、大原の武道館等々の利用頻度についてのお尋ねが２点目です。それと、主な施設の貢献度というか、これが美作市の活性化にどのような形で相乗効果的につながっているのかというのが３番目。各施設の情報発信の現状と施策について、各施設の情報をどのように発信しているのか、その現状、今後の課題、施策についてお尋ねいたします。

以上、よろしくお願いいたします。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）〔登壇〕

失礼いたします。

尾髙議員からの公共施設の利活用という御質問でございます。

その中の公共施設等管理計画につきましては、昨年の議会におきましてもたくさんの議員から御質問をいただいております。答弁したことの繰り返しとなる部分があると思いますけども、改めてお答えをさせてい

ただきます。

現在、この管理計画で取り上げている施設の数は、市民文化施設として59、スポーツレクリエーション施設が64などありまして、合計で337施設ございます。これらの施設につきましては、合併以前から各町村において整備し、活用されてまいりましたが、老朽化が顕著となる公共施設が増加し、また近年の少子・高齢化の進行による人口減少に伴い、施設の利用需要も変化しつつあるものでございます。そして、今後も限られた財源をもって適正な管理を行う必要があることから、平成26年、総務省からの公共施設等総合管理計画の策定要請を受けまして当市の管理計画を策定いたしております。この計画は、公共施設の全体を把握し、更新、統廃合、長寿命化などを検討することで公共施設の適正化を導き、財政負担の軽減、平準化を図ることを目的に策定をいたしております。今後は、施設の類型ごとの維持管理方針に基づいた個別施設計画の策定を考えておりまして、そのためには施設自体の状態、耐用年数や利用率などを客観的に把握、分析する必要があり、その結果に基づき統廃合などの検討を進めることとなりますが、それに当たりましては職員による庁舎内での組織を設けて調査を行うことで経費の削減にも努めてまいりたいというふうに考えております。また、公共施設には、効用や施設への愛着心、施設がある場所の地域性など数字であらわすことのできない特性がございます。これらにつきましても十分に考慮する必要がございますので、皆様の御意見も頂戴しながら慎重に進めてまいりたいというふうに考えております。

次に、２番目でございます。公共施設の利用頻度についてということでございますが、平成29年度実績に基づき説明をさせていただきます。

まず、岡山県美作ラグビー・サッカー場は全５面のグラウンドがありまして、利用人数は７万1,297人、利用件数は894件で、利用率は約80％ということになっております。また、美作野球場につきましては、利用人数１万6,024人、利用件数171件で、利用率は61％となっております。大芦高原野球場は、利用人数254人、利用件数11件で、利用率は低く４％となっております。また、美作テニスコートは全５面ありまして、利用人数１万601人、利用件数1,814件で、利用のない日は年間でわずか４日のみでございました。そして、大芦高原グラウンドゴルフ場は、１日利用券販売人数が1,650人、年間会員が50名、大会等での利用人数は約1,000人で、年間約8,000人が利用をされております。作東多目的広場は、利用人数１万3,569人、利用件数120件で、利用率は33％、武蔵武道館は利用人数２万2,149人で、利用件数は296件、利用率は81％となっております。そして、勝田総合運動公園グラウンドは、利用人数8,919人、利用件数209件で、利用率は57％となっております。そして、同じく勝田でございますが、勝田テニスコートは利用人数が640人、利用件数35件ということで、利用率は10％でございます。なお、今回申しました利用率につきましては、利用件数を開場日、あけている日で除して得た率としておりますが、１日に複数の団体が使用する施設等もございまして不自然な利用率となっているものもございますが、どうか御了承のほどお願いいたします。

次に、公共施設の貢献度という御質問でございます。

体育施設についてお答えをさせていただきます。スポーツに親しむということは、体を動かすという人間の根源的な欲求の充足を図るとともに、爽快感、達成感、他者との連帯感等精神的な充足も図り、さらには体力の向上、ストレスの発散、生活習慣病の予防など心身両面にわたる健康の保持増進に大きな効果をもたらすもので、市民の皆さんへ貢献できているものというふうに思っております。

そして、４番目でございます。各施設の情報発信の現状ということでございますが、現在公共予約システムによりまして美作運動公園と大原の武蔵武道館など８施設につきましては予約状況が確認できるようになっておりますが、システムからの予約はできないようになっております。過去に予約もできるシステムを検討いたしましたが、何日も予約を入れながら直前にキャンセルされることが懸念されたということから、現

状では閲覧のみのシステム運用とさせていただいとるという現状でございます。よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

尾髙議員。

１４番（尾髙　誉久君）

議員皆様も、みまちゃんの皆様も、聞いてて何のことかさっぱりわからないんだと思います。とりあえずはたくさんの59カ所、64カ所、337カ所、全部で337カ所の公共施設があいてると、あいてるというのが、これ行政財産的な部分でいいですね、普通財産、普通財産という表現がいけませんね、要するに行政がかかわってるラグビー場だとかテニスコートだとか、行政が管理しているのを行政財産というわけですけども、普通財産というのは、例えば粟井の小学校であるとか、それから巨勢の小学校の廃校になったとこであるとか、梶並のほうにもあったり、いろんなところに普通財産というてもっと大きな意味の公共施設がたくさんあるわけでございます。そのことについて、非常に適正化、公共施設の適正化について苦労されてるということの説明がありました。それが、今度は利用については、例えばラグビー場について、市の芝生を張った面のラグビー場は使わないわけですけど、あと４面が非常に使用頻度が高いんだと解釈すればいいと思います。勝田のほうの多目的集会所、テニスコート、例えばテニスコートは利用率が非常に低い、武蔵武道館は81％、それはよくラグビー場の使用頻度と似通ってるなあと、へえでこのことについてのこれからの利用をどうするかというのが今回質問したい私の趣旨でございます。美作市は、スポーツといで湯のまちを売りにしておりますが、これから夏休みということで、この間旅館組合の会合がありまして、ちょうど春先に高校生、大学生の合宿の季節に入るんで、約60大学を訪問してキャンペーン活動をやったんだと、社長が、グランドの社長は会長ですから言われておりましたけども。土曜日曜というのは湯郷の、例えば例にとると、空き部屋はまずないと、空き部屋があるようだったら湯郷のほうの旅館業、ホテル業はもうないに等しいです。月火水木、金が微妙ですけどね、その平日はかなりの部屋があいてると思います。それについて60の大学を一生懸命毎年回っているというのは聞きましたが、今回の一般質問の答弁においても愛の村の部屋、また大芦高原の今の稼働率、武蔵の里等について何とか稼働率を上げることはできないかと、そのためにはどのようにしたらいいだろうかと。というのは、宣伝する側からいうと一生懸命やられとんのはわかるんだけども、受け皿の側からは、受け皿というか向こうから来る側からいうと、合宿を計画するわけです、例えば私の一番親しい支持者が境高校というとこに行っとんですけど、先生が私の――名字同じなんで――尾髙さん、今度美作のほうへ合宿したい思うんじゃけど、インターネットで調べても旅館の宿泊施設はこうあると、だけどその周辺のスポーツ施設の状況がわからない、そのことがわかったら非常に計画がしやすいのになと。いや、そりゃまああれだろうな、そんなことはもうイロハのイじゃからやっとるんじゃないのというて思いまして、ちょっと旅館のおかみに聞いてみました。いや、それ結構なされてないんですよね、ええっと思って。今は生活の中にスマートフォンとか、私はいまだにガラケーの携帯しか持ってませんけど、孫がこうやって携帯を、こうやるんですよね、スマホと間違えて開こう、開こうとして、これ携帯開けんのんじゃよというて言って初めて納得すんですけど。あれのほうは、もう一つの持ってる大きいほうは、ユーチューブのとこをぽっと押して１回言うたら、自分の画面が、鉄道の模型館で遊んでる画面が出るもんだから、喜んでじっと見てますけどね。もうそういう時代なんだなあという中で、選ぶ側のほうに立ったときに、そのようなもう自助、共助、公助とか私はそんな感覚ではなくて、官民一体でやるべきだと。それはなぜかというと、市長が言われてる企画振興部には営業課という課があります、農林部じゃなくて経済部なんだと、経済であり営業なんだと。最初市長が言われたのは、市会議員も営業マンになってくれよと、ちょっとそれ

最初のうち、ううんっとちゅうちょする部分がありましたけど、今は違います、俺は営業マンだと、もうここにいる、議場にいる人たちみんなは美作の営業マンであると。いかにしてこの美作にたくさんの金を落とすか、それが回り回ってそれぞれの人たちに回っていけば、それでいいんじゃないかと。絶対値が変わらないならば、外から入ってこられたらいいんじゃないですかと、それをインバウンドと、英語は苦手なんですけどインバウンドといい、出るのはアウトバウンドというんかなあと思ってますけど。ここに2018年５月15日、スパ＆ゴルフリゾート作州武蔵、インバウンド向け温泉宿泊付きゴルフが好調と、端的に言いますと、2016年の外国からのゴルフツアーに温泉宿泊付きゴルフプレーというので、2016年は35名、たったの、それが何と2017年度には270名、それで利用実績としてはです、韓国が約65％、台湾が25％、中国ほかが約10％というなことで、非常に今は日本人はゴルフ熱っていうものは多少冷めて、備前も閉じましたし――いいゴルフ場だったんですけど――ゴルフ場が結構閉じてると、それから非常に経営が困難だと、いう中にあって外国においてはこういう傾向があると。だから、インバウンドではなくて、私はこのようにどうやったら魅力あるようにそのことをやるかと、大芦高原であり、愛の村であり、能登香であり、武蔵の里であり、いろいろな勝田のほうの施設、宿泊施設を利用してそのようにするためにはどうしたらいいか、もう簡単なことなんですよ、わかりやすい画面をつくろうじゃないですかと。わかりやすい画面をつくるのに、そんなに難しくないんですよ。というのは、さっきの言うと、団塊の我々の世代から上の人は、パソコンというたらバックするんですよ。バックすることないんです、もう。高齢者の人にいっつも言うんです、すばらしいじゃないですか、あなた方はと、私も高齢者ですけど。今の若い人は、わらじをほんなら編むことができるんかと、まあいますけどね、中に、非常に器用な若者が。正月になったら、しめ縄ができるんかと、できないでしょう。だから、人間の価値っていうのは、私は、教育長、思うんですけど、価値というのはそういうふうにもっと別のところに人間の価値はあるんだと。それが、先ほど小渕先輩のことを言ったんですけど、人生苦労する中から人間っていうのは磨かれるんだなあというのがそういう思いです。だから、一つもお達者パソコンをやってる人は、それを自分で楽しむだけじゃなくって発信して。何かうちの息子は、一生懸命暇に任せてみまっこなんかやったり、うちの息子がやってるわけじゃない、代表者は違うんですけど。ちょっと今削除してください、そこのところは問題があるかもしれないんで。で、やってるんですけど、そういうふうにボランティア的なものでもってやるような、美作建国の10市町村がにぎわいのある地域になったらいいなという思い、私の娘もそういうふうになったらお父さんいいんじゃないかという思い、それを受けて親のほうがそりゃそうだなと、子に教えられて一般質問するというようなことで。そんなに難しくないのは、皆さんが非常に精通されてる、なぜならば車の運転と同じで、なぜ車が動くかという構造自体は全く知らないんですよ、まあ知ってる人もあるかもしれません、もう非常に詳しい人が――それこそ小渕元委員長ならそういうことを、部品を扱ったりしてるんで、こうで動くんだと――わかってなくても皆さん一生懸命それを利用することはうまいんですよ。それで、ひょっとして何かこう自分が全てわかったような気持ちになってる部分はあるんですけど、ただそれでもいいです。画面ができて、いろんな民間との接点をつくって、それでお客さんに対しては窓口を一本化にするわけです。私の思いです。そしたら、例えば営業課がもつのか、観光振興課がもって、電話したら、はい、どうもありがとうございます、ちょうど総務部の総務課の応対がそうです、おはようございます、尾髙です、どちらに御用でしょうかと、非常にすがすがしくて気分がいいと。ただ、どこの支所とは言いませんが、はい、何それ、はっ、というぐらいの感じの非常にむかっとくる応対をすると、これじゃあ来る前からおもてなしがなってない。それをやることによって、要するに私はよく言うんですけど、カードの切り方で全てが変わってくると、これは相棒の杉下右京さんという人から教えられたことなんですけど、カードを後で切るか、先で切るかによっては全然相手の反応が違うんで

す。そのことは応対で、おはようございます、こんにちは、何々です、お客様、どんな御用でしょうかというとこからおもてなしが始まって、それを使って今のはそれぞれの行政の中での各施設を把握して、連絡網をとって、会議を例えば起こして、それで把握できてると、そうすると向こうからかかってきたときに、それはこれこれこういう施設があいてますよ、雨の日には体育館があいてます、そうすることによって何が起こるかというと、例えば巨勢ではチャイムというて紅茶とか食事なんか売ってるわけですよ、それ利用のお客さんがたくさんあれば、それだけそこにわずかでも金が落ちる。それから、当然のことながら光熱費はいただかなきゃいけません、ただで提供するわけにはいかない。その光熱費を、たとえわずかでもちりも積もれば山となって、みんなで屋体の屋根がさびてるんだったら、要するにサンドペーパーというかこすって、そこをちゅるちゅるっとこうペンキ塗るだけで持ちこたえると。それと、もう一つ、これ自分の、私持ち物だったと思うたら、一生懸命大事にすると思うんですよ、自分のものだと思ったら。これは、どうしても公のものっていうのは自分のものでないっていう感覚が、私あるんじゃないかなと、ないと信じてますけどね。そういうようなことをやれば、粟井も非常にいい屋体ですけど、ほかのところに手を入れることもできるし、小さな拠点というか拠点づくりにも一層拍車がかかる、いいほうに回転していくんじゃないかなあという思いで。別に行政の営業課、または観光振興がもつんじゃなくて、例えば今度新たに湯郷の旅館組合の事務長――かなりの手腕の人です――その人にそういうようなことを一手に引き受けさせるのか、そういうような新たな方向転換というか、ある意味のこれが荷物ではなくって、これを利用することによって新たな道が開けるんじゃないかというような思いですけど、総務部長、どうでしょうか。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

済いません、総務部長に成りかわりまして。

〔14番尾髙誉久君「はい」と呼ぶ〕

スポーツ観光という観点から、戦略的に持てる資源を活用するというのが趣旨だと思いますけれども、我々もいろいろ悩んできておるんですが、せんだって同じ会議で私も状況を見ておりましたけれども、一つのネックは予約の足の長さなんですね。つまり、学校、大学のためには、学期の始まりごろにはもう計画をつくっておかなきゃいけない。例えば、今で言うと４月に８月を決めとかないと、もう動けなくなるわけですね。一方で、私どもの予約システムっていうのは、なべてたしか一月前まではひっかかりがとれないと、こういうことになっている、それ若干例外もあるんですけどね。ここをまず、ある程度解剖しておかなければなりません。ただ一方で、常に考慮しなきゃいけないのは、これらのスポーツ施設というのは、一番の基本の行政目的っていうのは市民の方々の健康づくりでありますので、外の方々が使って市民の方々が使えないっていうのもこれ格好悪い話であります。で、先ほどの総務部長の答弁に戻るわけでありますけれども、ごらんになってわかるとおり、ある施設が利用率が90近くいってる、ある施設は10％と、そこに戦略的な活用ができる余地があり得るのは間違いないんですね。だから、どっか一定のところで線を引いて、その一定のところ以上のものについては従来どおりのそれぞれの館でもってしっかりとした事業管理をしていただくと、それ以外のものについては、例えば合宿について４カ月以上前からの押さえができるんだっていう施設を特定し、その押さえる権限を旅館組合でありますとか、観光協会でありますとかそういうところに一定の期間お渡しをするっていうことが多分解決の根本になってくるはずだろうというふうに、せんだっての会議を傍聴しながら思っております。あと、それを画面にどう表現するかについては、これは私どもが関与するべき話じゃなくて、御専門の会社もあるだろうし、それはお任せをしとけばいいんで、まずそこのところの

行政上のルールっていうものをしっかりする。で、これは多分先ほどの岩﨑議員の質問にも絡みますけれども、先ほどの地方自治法238条の４の第７項の引用であることは間違いないというふうに考えております。

以上であります。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

尾髙議員。

１４番（尾髙　誉久君）

３時が来ましたからやめましょうか。それじゃあ、最後ちょっとだけ、最初の小渕委員長には８人の孫がいるんですよ。それで、一番上のお孫さんが、非常におじいちゃんを目標に生きていくんだと、大学生のお孫さんがいて、小学校多分３年生ぐらいですかね、女のお孫さんが花束を渡して、非常にいいなあと、人生の本当にあの人はすばらしい人生を生きてきたなあと。それで、私が好きな森繁久弥さんが８人の孫でなしに７人ですね、７人の孫っていうて、これは山本直純さんという人が作曲して、森繁さんが作詞をして、皆さんきっと知っとる人は知ってると、このほとんど後ろのほうの人はみんな知ってると思うんですけど。歌の文句はこういう文句なんですよ、どこかでほほ笑む人もある。どこかで泣いてる人もある。あの屋根の下、あの窓の部屋と、いろんな人が本当に生きているんです。どんなに時代が移ろうと、どんなに世界が変わろうと、人の心は変わらない。私は、もう本当に心を売りにすることができたら、心は売るもんじゃないんですけど、心を分かち合うというんですか、悲しみに、喜びに、きょうもみんな生きているんだと。だけど、人生っていうのは本当に楽しいもんなんだという人生が、ああ小渕繁之先輩の人生だったなあと、本当に私自身がもらったような感謝の気持ちになったことを美作の皆様にお伝えいたしまして、６月定例の一般質問を終わります。ありがとうございました。

議長（鈴木　悦子君）

以上をもちまして通告順番10番、議席番号14番尾髙誉久議員の一般質問を終了します。

続きまして、通告順番11番、議席番号９番金谷のり子議員の発言を許可いたします。

金谷議員。

９番（金谷のり子君）〔質問席〕

議長に発言の許可をいただきましたので、平成30年６月議会の金谷のり子一般質問に入ります。

庁舎前の美作市の木、梅は、春には香りとともにかわいい花の梅の花を咲かせ、６月には青く光る梅の実は、緊張とともに足を運ばせる私の心をほっとさせてくれます。

ところで、ことしは昨年より15日早い梅雨入りとなりました。梅雨は大雨による災害の発生を心配される時期でありますが、また梅雨明け後の盛夏期には必要な農業用水等を蓄える重要な時期でもあります。中国地方の昨年の梅雨明けは７月13日ごろでした。ことしはいつごろになるでしょうか。

それでは、今回の質問は３項目でございます。

市民の安心・安全、イクボス宣言、子育て支援についてでございます。

初めに、市民の安全・安心といたしまして、国道179号線、美作市平田から北原の鶴亀橋を渡り、左に直角に折れて、川沿い約100メートル間の国道の拡幅と歩道の設置についてでございます。

この道を毎朝、毎夕自転車通学する中学生、その保護者の方や、林野高校と勝間田高校等に自転車やバイク通学をする生徒と保護者、そして地域の市民からの強い要望があり、昨年末に市を介して県に要望書を提出しております。その後、ことし３月に、北原地区のある女性から強い要望がありました。今までその場所は危ないと把握していたが、車の運転で移動していた。しかし、このたび運転免許を返納したので徒歩での移動になり、大変身の危険を感じている。大きな事故が起こらないと県は動かないのでしょうかと話されま

した。ほかに地元の男性からの話ですけれども、何年か前に警察から時速制限を30キロから40キロに上げたいと相談されました。しかし、30キロのままにしないと事故が起こると反対したとのことです。その後、時速制限は30キロのままになっております。身の危険を一番感じる歩行者と車の運転者、たびたび道を通る地元住民と警察など、立場が変わると感じ方が違ってまいります。一番弱い立場の人たちの気持ちに添って何事も考えていきたいものです。そして、誰に尋ねても危ない場所です。山側は切り立ち、木々も生い茂り、道側にいつ倒れてくるかと不安もあります。切り立った山が影となり、冬場は積雪後の凍結もひどくさらに危ないのです。そして、反対側は深い川となっております。道路の拡幅と歩道の整備は、市民の命にかかわる長年の懸案事項です。どのようになっておりますでしょうか。

１回目の質問といたします。

議長（鈴木　悦子君）

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）〔登壇〕

金谷議員からの市民の安心・安全ということで、国道179号、美作市平田から北原の鶴亀橋を渡って、左に直角に折れて、川沿いの約100メートルの間の国道の拡幅と歩道の設置ということの御質問です。

この区間は、過去に北原地内の天神橋から鶴亀橋の間の歩道要望を受けて事業が行われております。しかしながら、今御質問のところについては未施工となっているという区間でございます。議員御指摘のとおり、この区間は通行量も非常に多く、自転車やバイクで通学する中学生、高校生の通学路でもありますが、歩道はなく、路肩も狭く、見通しも悪く、また冬期は凍結をするというなことで、以前から安全対策が課題となっているというところでございます。このことは市も、県もですが十分認識しておりまして、今後市からも、それから地区からも届けられた切実な声を県に伝えるとともに、早期に対策が図られるようお願いをしてまいりたいというところでございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

金谷議員。

９番（金谷のり子君）

２回目でございますが、この平田から鶴亀橋を渡り、北原の約100メートル間の区間の要望は、何十年も前からのことでございます、何年もではございません。日々地域住民が通り、交通量が大変多い国道です。その上、災害時に避難、救助を初め、物資供給等の応急活動のために緊急車両の通行を確保すべき重要な路線の一部でもあり、緊急輸送道路に指定されている重要な道路でもあるのです。県もこのことは十分に認識しているとのことですが、この何年もの懸案事項に対し、昨年末に地元の北原の区長を初め豊田地区区長全員と平福、江見方面の区長、そして近隣地権者の同意の要望書が出ていると聞いております。県はその内容に対してどのように考えているのか、わかる範囲でお答えいただけますか。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

まず、お尋ねの地点については、本当に懸案が多いと思います。私も自宅朽木から里山公園を通って北原から帰ってくるときに、その全ての行程の中であそこが一番気を使ったという気がいたします。そういうこともあって、要望の提出についても私も側面から応援をさせていただきましたけれども、県の理解については、今県も十分わかってるはずだという認識、これは勝英の事務所は多分わかってると思います。恐らく私に間違いない。ところが、先日、県民局幹部と管内市町村の意見交換会っていうのがありまして、これはも

う議会の始まる直前だったと思いますけども、津山でありましたが、そこでいろんな方々がいろんなことを言う、私のほうからこの件を取り上げました、建設部長がいました、ちんぷんかんぷんでありました、かわったばっかりだといって言ってましたけども。つまり、相当やっぱり念を入れて話をしていかないといけないと思ったのでありまして、このことについてはちょうど議会直前でしたんで、議会が終わったら来るからねというふうに宣言をしてまいりました、多分大分違ってくると思うんですが、そのときにぜひ議員にも御同道願って、本当に強い思いがあること。それから、そのことを言いましたら、多少具体の案も出てくるだろうと思うんです。山を削るのか、張り出しをするのか、張り出した上でもう一つこっち側に、上から下へ下るのを基準にすると今右側に歩道がございますけどね、その右側の歩道を延長したときにどこで渡すのかってまた難しい問題がありましてね。張り出しがそんなにできるんであれば、現の道路橋の張り出しっていうのも可能かどうかわかりませんけれども、そこまで持っていくとまた随分かつてあった問題の解決ができるかもしれないとか、あるいは山を削るとするとどうなんだということもある。いろいろそこは技術的な問題もありまして、技術的な議論がやってもらえるところまではやっぱり一生懸命押していかなければならない。したがって、ぜひ本定例会が終わったころに行動を起こしていこう思いますんで、御同道願いたいし、また御関心のある産業建設関係の方々も含めて、もし熱いお気持ちがおありになる場合には御同道願いたいと、こんなふうに思っておりますので、御協力お願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

金谷議員、３回目です。

９番（金谷のり子君）

３回目でございます。

今市長のほうから県民局の部長のほうに話をしてくださったと、その時点でそのことを把握しておられなかったということで、やはり要望書を出しただけではなかなか伝わっていかない。市長のお話をしていただいたということについて、すごく感謝を申し上げます。そして、本当に皆さん、住民の方が何十年も待っております。本当に誰か犠牲になるようなことがないとしてくれないのかなあという声は、もういろんなとこから聞いております。そういうことがないように、早くしていただきますように部長のほうからもぜひ声を上げていただいて、今後私も一緒に県民局に行けたらと思いますので、これはここでやめさせていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

それでは、続けて２項目めに入ってください。

９番（金谷のり子君）

それでは、２項目めのイクボス宣言についてでございます。

昨年の12月にイクボス宣言についての質問をいたしましたところ、素早く翌年の１月４日に美作市イクボス宣言を、集団宣言を市長、副市長、教育長を初め市内の賛同企業の皆さんと一緒に行っていただきました。今後は宣言のとおり、地方創生、人口増のためにも市内にイクボスの取り組みを広げ、目的や意義を紹介するなどの働きかけを積極的に行うことで、ふるさと美作市を守り、育て、よりよい、そして住みよいまちづくりを進めることということでした。それから、半年がたちましたが、庁舎内でのイクボスの意味とか目的、意義についてどのように働きかけをされてこられたでしょうか。美作市は単なるイクボス宣言でなく、地域に輪を広げる取り組みもしておりますが、反応や取り組み状況はどのようになっておりますか。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）〔登壇〕

金谷議員のイクボス集団宣言についての御質問でございます。

イクボス集団宣言の地域、庁舎内への浸透状況についてでございますが、議員御紹介のとおり、平成30年、ことしですけれども、１月４日に市長、副市長、教育長を初めいち早く御賛同をいただきました株式会社英田エンジニアリング様、社会福祉法人幸輝会様とともにイクボス集団宣言を行っております。宣言式の後、みまさか商工会を通じまして市内全会員の事業所様と、当時の産業振興課を通じ誘致推進企業協力加盟の全社に賛同依頼文書を発出いたしまして、宣言への賛同を働きかけております。現在まで８事業所におきまして御賛同をいただき、事業所名は市のホームページに掲載をさせていただいております。今後ともイクボスの取り組みの輪が広がるよう、商工会や誘致推進企業協会などの研修機会で働き方改革を積極的に取り上げていただき、仕事と家庭の両立支援に関心を深めていただきますよう関係各課と連携し協力を要請してまいります。ちなみに、市役所男性職員の平成29年度中の育児休業等の取得状況でございますが、出産補助休暇で５名、子の看護休暇で10名、介護休暇で２名の取得となっております。長期の休業となる育児休業の取得者はございませんでした。抵抗なく子育てに専念できる、専念する働き方を選択できるよう、今後とも積極的な育児参加を推奨してまいります。なお、育児休業後の働き方として、育児短時間勤務を希望する女性職員が現在２名在籍するなど、働き方への配慮を行っているというところでございます。今後とも育児などにかかわる職員に配慮する職場環境づくりに努めてまいりたいというふうに考えております。よろしくお願いいたします。〔降壇〕

〔市長萩原誠司君「教育長言おうか。学校に〔聴取不能〕」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

大川教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

失礼します。

私も賛同いたしまして、市内の全小・中学校の校長、保育園、幼稚園の園長が全て署名いたしまして協力いたしております。教員は県費が多いのでそちらの休暇になりますが、そうした休暇、あるいは育児短時間の勤務をしております教員も在籍しておりまして、そうした形をこれ以上に充実してしっかりと、教員は勤務の都合上、ふだんなかなか休みをとるということはできにくい職業でございますが、幸いにも夏休み等ございますので、そうした長期休業中にはしっかり年休、夏季特休等を消化していただき、家族との時間を持っていただくようにお願いをしているところでございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

金谷議員、２回目。

９番（金谷のり子君）

２回目の質問でございますが、テレビを見ておられる皆さんは、イクボスって何って最初思われると思うんです。12月に聞いてくださった方はある程度わかられると思うんですが、昔と、私たちが子育てしてきたころと今の社会環境が随分違っております。私の娘も夫と２人で子育てをしておりまして、夫は遅いです、帰ってくるのが、仕事に専念しておりまして、その中で私が助けてあげるっていったら何かあれですけど、協力しないと本当に子どもたちがどのようになるかわからないなあと、若いですからすっごい声で叱ったりそういうこともありますし、そこを私は和らげて、何とかこの３歳の孫が普通に育ってくれるのを祈りながら本当に協力をしております。もう普通に本当になるかなあって心配をしておりますところでありますが、

部下や同僚の育児や介護、ワークバランス等に配慮、理解ある上司として対外的にイクボスであることを表明することをイクボス宣言と言い、政府も重点課題と位置づけて働き方改革、日本の直面している人口減少や労働者不足の対策としても、このことは重要と考えております。女性の社会参加が進み、勤労世帯の過半数以上が共働き世帯になるなど、人々の生き方が多様化する一方で、働き方や子育て支援などの社会基盤は変化に対応していないと思っております。職場や家庭、地域では、男女の固定的な役割分担意識が残っております。同じように仕事を持つ男女であるのに、家事や育児、介護への協力を得られないことで離婚につながってしまったり、ひとり親家庭の増加によってその後は子どもの貧困にもつながる可能性が高くなっております。先日も耳を塞ぎたくなる目黒の幼児への虐待事件がありましたが、育児の孤立や密室化による虐待等もさまざまな要因が関係するのではないかと考えます。出産や育児、子育ては女性だけの問題でなく、責任は男性に100％、女性も100％、お互いにあると考えております。生まれてくる命を守ること、育てることは、両親以外の家族や社会も100％の責任を持つ覚悟がなければ少子化を食いとめることは不可能と考えます。出産前に重度のつわりや切迫流産などで自宅におりましたり、入院などで安静にする必要がある人もたくさんおられます。その上、２人目、３人目で幼い子どもがいた場合、誰が世話をするのでしょうか。夫の協力が本当に大切なのです。出産後は、喜びといとしさに比例するぐらい不安もたくさんあります。ミルクは足りているのか、体重は増えているのか、夜泣きがひどく赤ちゃんの世話でぐっすり眠れない、相談する人がいない、かわってくれる人がいない、夫は仕事で帰りが遅い、協力を頼んでも育児に非協力的で相談に乗ってくれないこともあります。反対に、最近のお父さん方は大変協力的であります。しかし、職場の上司や同僚の理解がない場合もございます。そのほかにも、転勤等で見知らぬ土地での出産の場合、夫は職場の上司や同僚の理解があって妻のサポートができますが、そういうこともすごく関係してくると思いますので、子育ては介護よりもサポート体制がおくれております。

このような中で、男女が同じように働き続けるためには、職場の上司、同僚が、社会全体が、妊娠、出産、育児、子どもの病気、学校行事、ＰＴＡ活動、そして介護などの親の通院、介護のさまざまな場面での協力、理解や協力を必要とするのです。社会構造を変えてしまった我々が考え方を見直し、現在の社会に合う協力をすべきと考えております。庁舎内での職員の意識改革、短時間勤務への配慮、上司や同僚に相談しやすい雰囲気づくり、そして困っている職員のメンタルヘルス対策等はどのようになっているでしょうか。お答えください。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）〔登壇〕

金谷議員の２回目の質問、庁舎内での職員の意識改革などに関する御質問でございますが、美作市では職員の子育てと仕事の両立支援などの具体的な取り組みを盛り込んだ美作市特定事業主行動計画の実効性を高めるため、管理職を初め全職員に総務部長通知の発出や、庶務担当者会議の開催など、事あるごとに行動計画の内容を周知し、働き方の見直しや多様な働き方への理解など、意識の向上に努めているというところでございます。また、短時間勤務への配慮につきましては、希望職員への個別説明を行い、承認するに当たっては業務分担の見直し、課内の人事配置によっては嘱託職員の任用により勤務環境の整備に努めている状況でございます。先ほども申し上げましたが、現在２名の職員が短時間勤務を行っております。徐々にではございますが、育児休業後の働き方について相談しやすい組織へと移行しつつあるものと考えております。また、メンタルヘルス対策ということでございますが、妊娠中及び出産後における男性職員の積極的な育児参加ということは非常に大変でございます。大変でございますが、仕事との両立の観点からも精神的にも不安

になりがちでございます。こういった場合、所属長は職場及び所属職員の安全、衛生管理の責務を負っております。これまでも有給休暇の時間単位での取得による柔軟な勤務や、時間外勤務への配慮、また産業医への健康相談や心療内科への受診指導も行っているところでございまして、今後ともメンタル不調による療養を必要とする職員が発生しないよう、組織を上げてサポートをしてまいりたいというふうに考えております。よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

失礼いたします。

教育委員会が所管いたします義務教育の学校、あるいは保育園、幼稚園でございますが、そうした中でやはりこの職場、公明党を代表しての山本議員の質問にもお答えしたとおり、現在働き方改革ということが進んでおります。これもできる限り働く時間を短くし、そして家庭で過ごす時間を長くしていただきたいということでございますが、そうした中で、例えば美作市は県に先んじて夏、しっかりとお休みをとっていただけるように、お盆は学校のほうの閉庁的扱いということで、お盆の３日間は学校のほうをしっかり全て閉じまして、閉校いたしましてお休みをしっかりとっていただく。保育園は働くお母様のことがございますので、そうしたことはいたしかねておりますけれども、そうしたことをしております。また、先ほど育児休暇と申し上げましたが、現在は育児休暇は満３歳になるまでとることができると、そしてまた育児短時間勤務ということで子どもが小学校へ入学までは勤務時間を短くできるということで、こうした制度を利用して勤務をなさっている先生方も市内におられます。また、私も校長時代に、ああ、そうか、懇談があるからきょうはお休みねっていうことで、そうした懇談等に参加する場合には子育て用の休暇ということもとれますし、そうしたいろいろな制度が今随分充実し、そしてまたそれを遠慮なくとれるような管理職の体制もとれるようにしております。

なお、メンタルヘルスにつきましては、やはり勤務時間が長い職員、勤務時間を把握しておりますが長い職員もおります。そうした特に長い職員については、産業医等の診察を受けていただくように本人の御希望があれば進めているところでございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

金谷議員、３回目です。

９番（金谷のり子君）

３回目でございます。再度になりますが、意識改革についてさらに努力をするということをおっしゃったんですが、美作市特定事業主行動計画の答弁がありました。どのような計画で、その内容はどのようになっているのかということをお尋ねいたします。それと、昨年末に熊本の議会の２人の女性議員が話題となりました。その中のお一人が議場に７カ月の赤ちゃんを連れて入り、そしていろいろあったということは皆さん記憶に残っておられると思います。そして、それが議長や事務局が停止し、話し合いを得て赤ちゃんが議場から出ていったということで、そのやり方は大変物議を醸したといいますか、私もそのやり方は余りにも強過ぎると感じておりますが、ただ彼女は自分が困ったことをいろいろ訴えてきたがなかなか改革にならない、自分ひとりで困っていた、そして強行手段に出たということをネット等で言われてたりしておりましたが、このことを発端に熊本議会では議員がお休みをとったりするときの理由、申し入れの理由として病気や出産、その他事故の招集に応じられない場合のみであったのが、親の介護、看護、配偶者の出産補助、そう

いうことも理由として入ってきたというところもありますし、それから議場に、例えば障がいをお持ちの方が議員になった場合、介助者が入ってもいいとかそういう改革をされたということを聞いております。そして、その女性議員は、議員の多くは中高年の男性で、こういう流れとは全く違う価値観の中で生きてこられた人たちですから、その中で議論や反対も当然あると思います。その中で、進化の方法は変わらずにある。だから、全く諦めていません、むしろ始まったばかりですとこの議員がおっしゃったそうであります。ですので、私たちも、私たち議員も、これから意識改革を少しずつしていかないといけない時代になっております。これから若い議員がたくさんこの議場に入っていただきましたら、子育ての真っ最中の議員も出たいと思われる方も多いと思いますので、これからは、いろいろな角度から考えていかないとけないと思っております。

それでは、先ほどの質問をよろしくお願いします。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）〔登壇〕

金谷議員３回目の質問にお答えをさせていただきます。

まず、美作市特定事業主行動計画の内容ということでございますけども、まず総論として目標の部分を少し読み上げさせていただきます。地方公共団体は、行政機関として住民の子育て支援を行うだけでなく、事業主として雇用している職員の子育て支援をも行う責務を負っているという考えから、本市の職員の子育て支援を職場全体で行う方向性を示すことにより、全ての職員一人一人が少子化を身近な問題として捉え、その理解と協力のもと職業生活と家庭生活を両立させ、次代を担う子どもを健やかに産み育てることができる環境整備を目標といたしますということでございます。なんかたくさんございますが、目標としてはそういうことになっております。また、３回目の答弁を、私原稿も何も考えておりませんでした。これが議員がお望みの答弁になるかどうかわかりませんけども、私の例をとってひとつ申し上げさせていただきます。

私が旧大原町役場に勤め始めましたのは、今から約40年ほど前でございます。その当時は、仕事を休まないことが美徳というふうな形で皆さんに捉えられておりました。上司からは休みをとってもいいけども、絶対家にいるなと、住民の方から顔を見られるようなことのないようにしなさいというような指導とか教育を受けて育ったようなもんでございます。そういうふうなこともございまして、実際に私育児には全く手を出しておりません。今、こうやってイクボス宣言の答弁をさせていただくのは、非常に後ろめたい気持ちでしておるようなことでございます。そうやって育児のころはもう既に済んだんですけども、今度はだんだんと両親が年をとってまいりまして、介護ということが私の身にもだんだんかかってくるようなことになろうかと思います。議員が御質問のこのイクボス宣言でございますけども、意識改革ということが一番になってこようかと思います。市の職員が真のイクボス集団となれますように、事あるごとに研修を開催したいと思っております。本年度の予定を申しますと、今度７月に、７月９日でございますけども、先ほど言いましたように年配の職員、頭が固うございます、課長補佐以上の職員を対象に働き方改革の研修会を開催しようというふうに計画しておりますので、御報告を申し上げます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

総括です。

９番（金谷のり子君）

総括させていただきます。

先ほど紹介しました熊本の女性議員が、むしろ始まったばかりと言ったとおり、美作市も始まったばかり

でございます。皆さんにそれが広まって、幸せで暮らせるように、皆さんで協力して頑張っていきたいと思います。終わります。

議長（鈴木　悦子君）

次、３項目めに入ってください。

９番（金谷のり子君）

３項目めは、出産祝い金についてでございます。

昨年、４月１日以降に生まれた子どもさんに、美作市から出産祝い金を第１子３万円、第２子５万円、第３子以降20万円と支援が始まりました。このことについて、市内外から評価する声をたくさん聞いております。今まで支援がなかった祝い金が始まって大変よかったと思いますが、私この金額に疑問を感じておりました。支援する側の意図は少子化であり、一人でも多くの子どもさんの誕生を願い、２子、３子と金額を増やし応援するということでしょうか。この金額は、出産される親の状況に合っていない金額と思っております。実際、出産準備に係る費用は、衣類、哺乳瓶、バスセット、体温計、チャイルドシート、ベビーカーなどなどで10万円から15万円、20万円と、その機能によってこれは高くなってまいります。そして、半年ほどで衣類も小さくなり、離乳食が始まるころには椅子やおもちゃなど、またプラスの費用がたくさんかかってまいります。第２子以降は、ある程度は第１子のお古といいますかを使えますが、第１子の祝い金を希望では10万円に上げていただきたいのですが、現在の支給状況など現状と今後について答弁願います。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）〔登壇〕

金谷議員の３項目めの出産祝い金の増額について答弁させていただきます。まず、支援する側の意図についてでございますが、出産祝い金事業につきましては次世代を担うお子様の誕生を祝い、将来の健やかな成長を願うとともに、子育て世代の定住促進と市の活性化に資するため、また子育て世帯の経済的な負担軽減を図るために実施いたしました。出生子の順位によって支給額を増額しているのは、この趣旨に基づいて設定をさせていただいております。

次に、現在の支給状況についてでございますが、平成29年４月から実施しました出産祝い金事業でございますが、乳児健診を受診していることが支給要件にございますので、申請受け付けも開始は10月からとなりました。結果といたしまして、平成29年度の申請件数は、第１子33件、第２子27件、第３子17件、計77件で、皆さんに申請をしていただいており、子育て世代の祝い金への必要性を強く感じているところでございます。今後、さらなる子育て世代の経済的な負担軽減を図るため、第１子、第２子の支給額を増額できないか検討しているところでございます。どうぞよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

金谷議員。

９番（金谷のり子君）

２回目でございますが、検討していただけるということなので、私の要望も伝えましたので、これでこの質問については終わらせていただきます。

これで私の６月議会の質問を終わらせていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

以上をもちまして通告順番11番、議席番号９番金谷のり子議員の一般質問を終了いたします。

お諮りいたします。

本日の会議はこれで延会したいと思います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。本日はこれで延会することに決定いたしました。

本日はこれで延会します。

再開は明日午前10時からです。

御苦労さまでした。

午後３時52分　延会

平成３０年６月１４日

（第　　５　　号）

1. 議　事　日　程（５日目）

（平成30年第３回美作市議会６月定例会）

平成30年６月14日
午 前 10 時 開議
於　　議　　場

日程第１　一般質問

日程第２　議案質疑（議案第53号～議案第62号）

日程第３　請願・陳情について

請願第２号　「協同労働の協同組合法（仮称）」の速やかな制定に関する意見書の提出を求める請願書

陳情第４号　タクシー利用補助制度関係についての陳情書

2. 出席議員は次のとおりである（18名）

１番	青　山　　慶	２番	和　田　広　宣
３番	岩　﨑　清　治	４番	岡　野　鉄　舟
５番	中　山　忠　明	６番	倉　地　重　夫
７番	重　平　直　樹	８番	安　藤　　功
９番	金　谷　の り 子	10番	岡　本　泰　介
11番	山　本　雅　彦	12番	萬　代　師　一
13番	山　本　重　行	14番	尾　髙　誉　久
15番	岩　江　正　行	16番	日　笠　一　成
17番	内　海　健　次	18番	鈴　木　悦　子

3. 欠席議員は次のとおりである（なし）

4. 地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名（21名）

市　　長	萩　原　誠　司	副 市 長	横　山　博　光
教 育 長	大　川　泰　栄	政策参与	山　下　　亨
政策審議監	春　名　利　亮	総務部長	岡　本　和　之
危機管理監	藤　原　陽　二	市民部長	角　南　良　雄
環境部長	宿　野　豊　彦	経済部長	遠　藤　宏　一
保健福祉部長	江　見　　勉	建設部長	真　野　弘　紀
教育次長	山　名　浩　二	消 防 長	皆　木　佳　久
会計管理者	山　本　和　毅	企画振興部次長	平　田　幸　春
企画振興部次長	春　名　信　明	財政課長	太　田　裕　二
商工観光課長	中　島　浩　一	学校教育課長	竹　内　龍一郎
消防総務課長	髙　山　宏　明		

5. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名（３名）

議会事務局長	尾　崎　功　三
課　　長	坂　元　省　吾
係　　長	金　谷　裕　子

午前10時00分　開議

議長（鈴木　悦子君）

おはようございます。

携帯電話の電源を切っていただきますようお願いいたします。

傍聴者の方は、傍聴規則第８条にもありますように、傍聴席にあるときは静粛にしていただきますようお願いいたします。傍聴者の方が傍聴規則が守れない場合は議場より退席をしていただきます。

昨日に引き続き会議を開きます。

欠席者の報告をいたします。８番安藤功議員が葬儀のため少しおくれます。

定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

日程第１　　一般質問

議長（鈴木　悦子君）

日程第１、「一般質問」を行います。

昨日に引き続き、通告順に発言を許可いたします。

通告順番12番、議席番号５番中山忠明議員の発言を許可いたします。

中山議員。

５番（中山　忠明君）〔質問席〕

改めましておはようございます。

けさは梅雨の晴れ間、爽やかな朝を迎え、気分も一段と爽快にこの場に立たせていただいております。しかし、午後からどうなるかはわかりませんが、天候が左右することはありませんので、ひとつよろしくお願いいたします。

平成30年度６月定例会一般質問、議長の許可を得ましたので、これから少しではありますが、質問をさせていただきたいと思います。

私もここで１年を迎えまして新たなる気持ちを持ち、しっかりとして市民のために頑張っていきたいと思うきょうこのごろでございます。

萩原市政２期目の新たな船出をする最初の議会であります。過去美作市民が経験したことがない僅差で当選されましたが、この結果を受け、今後の美作市政において大いに役立てられることを心から期待して、美作市民のため、美作市のために頑張っていってもらいたいと思います。

さて、お隣の津山市が６月定例会津山市議会を今月４日、開会しましたが、本年２月に当選した谷口圭三市長が所信表明を行い、県北の拠点都市津山の再興に向けた大改革へ果敢に挑戦していくとの決意を述べられたそうです。今から150年と少し前に幕末の土佐藩士坂本龍馬が徳川幕府に大政奉還を決意さすに至った有名な船中八策になぞらえ、津山八策というスローガンで議会で表明しましたが、我が美作市の美作八策はいかにということを問いたいと思います。

ずばり聞きます。きょうの質問はまず１項目め、新文化センター建設について、２番目が、高齢者の運転免許返納後の交通、いわゆる乗り物について、３番目が、湯郷温泉活性化の施策はあるのか、またどういう計画があるのか、そして４番目、せんだっても新潟のほうで大変悲しい出来事がありました。いつこういう幼い子どもが災難に遭う、またいろんな事故に遭う、そういうことが予期せぬのが今の世の中ではないかと思います。そこで、市内の防犯カメラの設置状況を重点的に聞きたいと思いますので、よろしくお願いしま

す。

まず１番、新文化センターの建設の取り組みについて、２番、建設時期とスケジュール、そして３番目、合併時の勝田文化センター建設について、これらをお聞きしたいと思うのでありますが、多少勝田文化センターのこのことについては少し時間が経過し過ぎておりますのですが、勝田地区の方々との約束は約束ですから、行政として何らかの答えを出すべきではないかと思います。まず、この１番、２番、３番、よろしくお願いします。

議長（鈴木　悦子君）

政策審議監。

政策審議監（春名　利亮君）〔登壇〕

失礼いたします。

それでは、中山議員の１項目め、新文化センターの建設について私のほうから御答弁させていただきます。

まず、１番目の新文化センター建設にどう取り組んでいくのかとの御質問でございますが、新文化センターにつきましては、先ほどの御質問の中にありましたように美作市公立文化施設活性化委員会にて新文化センターの必要性、方向性、また具体的な内容などを検討していただき、平成29年３月に市長へ報告書として提出がなされております。この中で私も事務局の一員として参加しておりまして、非常に熱心に毎月１回ないし２回の検討会がなされたことを覚えております。この報告書では、文化センターのハード、ソフト、両面にわたり検討がなされており、中でも文化ホールの基本理念といたしまして、次世代につなぐ夢のある楽しい文化、交流の場と定め、市民や子どもたちが積極的に参加するなど、ソフト面が重視されたものとなっております。市といたしましては、この報告書の内容を十分尊重し、市民の方々が文化、交流の場として気軽に親しんでいただける施設となるよう今後整備に向けた検討を進めてまいりたいと考えております。

次に、建設時期、スケジュール、予算、また建設予定地についての御質問でございますが、まず建設予定地については、現在の美作文化センターの場所に建てかえる方法や、先ほどの勝田ひまわりドーム隣接地、その他の場所、例えて言いますと、新庁舎を建てて一緒に建てるとかというふうな方法も考えられます。今後これらにつきましては、市民の皆様から御意見を伺いながら位置の選定を行ってまいりたいと考えております。そして、建設場所が選定できましたら、完成までのスケジュール、予算等も含めまして議会へ十分御相談をさせていただきたいと考えております。

次に、３番目の合併当時の勝田文化センターについての御質問でございますが、勝田地域にございますひまわりドーム横の空き地につきましては、議員の御認識のとおり旧勝田町時代に文化センター建設用地として取得され、現在は市の職員で年に２回程度草刈りを行いながら管理を行っているところでございます。ことしも既に１回草刈りを実施させていただいております。また、これらにつきまして、４月26日に勝田地域自治振興協議会の代表の方が市長を訪問され、市に対しての要望書が提出されております。勝田地域の方々の要望といたしまして、内容でございますが、文化施設等の利用計画が確定するまでの当分の期間、真砂土等で環境整備を行い、グラウンドゴルフ練習場等、市民の憩いの場としてほしいとの要望をいただいているところでございます。当該土地の活用につきましては、勝田地域の方々に合併してよかったと思っていただく上でも非常に重要な問題であることは十分認識しておりますので、こうした地元からの要望を十分尊重しながらこの用地の活用方法を今後検討してまいりたいと考えておりますので、御理解よろしくお願いいたします。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

中山議員。

５番（中山　忠明君）

まことに丁重な答弁でありましたが、しかしこれを進めていくことが大事なことでありまして、市民の方々、私もそうですけども、行政の動きはちょっとやっぱり遅いんじゃないかという部分を強く持っておられますので、そこのところをやっぱりしっかり広報部を通じて市民の方々、関係者の方々に理解と、そしていろんな方法を聞くことをやっぱりされるべきじゃないかと思うんですけど、やっぱり一番に大事なのはまず勝田の地区の約束をどうしていくんか、今言われたことは、ただ、そうかという、納得のできないような答弁だったと思うんですけども、一つ一つ丁寧に片づけて前に進んでいってもらいたいと思います。この新文化センターを建設するに当たって既にいろんな計画は建てられておられることとは思いますが、そこのスケジュールをもう少し詳しく説明していただきたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

政策審議監。

政策審議監（春名　利亮君）〔登壇〕

失礼します。

スケジュールを詳しくとのことでございますが、先ほども言いましたように、また議員の御指摘にもありましたようになかなか時間がかかっているところでございます。これにつきましては、まことに申しわけないと考えております。ただ、先ほど議員もおっしゃったようにまず地元、地域の皆様の御意見を十分に聞きながら一つ一つ丁寧に実施してまいりたいと思いますので、御理解のほどよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

中山議員、３回目です。

５番（中山　忠明君）

それでは、そういうことを期待しながら、早急に、物には順序というもんがありますけど、できるだけ丁寧に地元の方々に説明を行っていただきたいと思います。

この新文化センター建設についての項目はもうこれで終わりたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

それでは、続けて２項目めに入ってください。

５番（中山　忠明君）

高齢者の運転免許返納後の乗り物についてでございますが、今議会でもかなり重複したところがありますので、一応市としての取り組み、２番、シニアカーのレンタル事業、３番、公共バスの運転基準、これをお聞きしたいんでございますが、実は一月ぐらいになります、夕方のテレビ番組の中で岡山市内に運行しております、現在こちらのほうにも上がってこられとると思いますけども、宇野バスの放送をしておりました。岡山で今この宇野バスが岡山市民の間で一番人気が高いそうです。それで、まず市民の方が喜んで乗られる、運転手さんがおりがけに乗ってくれてありがとうございます、そういう会話が当たり前のようにされているという現状を見まして、公共の乗り物も含めて、やっぱりそういう乗っていただいてありがとうね、乗せていただいてありがとう、そういう会話ができるような経営方針とかというものを経営者が話しておりました。そこで、この美作においてだんだんと免許返納の方々が多くなります。お体の悪くなられる方もおられます。そういう意味において少し市としての取り組み、ただ市内を言われたとおりに走っておればいいと

いうもんではないと思います。しかし、これは業者に責任があるわけではありません。やはり行政が何があっても責任を負っていく問題であります。一応この１番、２番、３番、答弁をお願いします。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）〔登壇〕

それでは、中山議員の２項目めの高齢者の運転免許返納後の交通についての１番と３番について答弁させていただきます。

１番の市としての取り組みについてでございますが、近年高齢者ドライバーのアクセルとブレーキの操作ミスなどにより自損、物損、人身事故などが非常に多くなっております。ことし１月には赤磐市で高齢者ドライバーによる下校中の小学生が巻き込まれる悲惨な死傷事故が発生いたしました。この事故もアクセルとブレーキを踏み間違えたのが原因であったとのことです。年齢を重ねると、視力、聴力、記憶力、判断力、反射神経といった身体機能が低下し、運転中に重大な交通事故を起こすおそれがあります。こうした状況から本人や御家族の方の勧めなどにより免許証の自主返納者が増えております。自主返納者に対する取り組みについてでございますが、現在市内の自主返納者は、おかやま愛カードに対する支援として、市営バスでは運賃を半額にしておりますし、おかやま愛カードの協賛店や協賛車でこのカードを提示しますと、協賛されている事業者などの主要路線バスや智頭急行なども半額、タクシー運賃が１割引きなどの各種サービスを受けることができます。こうした取り組みにより運転免許証を自主返納された高齢者の方の生活支援に御協力をいただいております。

また、６月からタクシー利用補助事業を市内全域に拡大したことに伴い、自主返納者に対し、おかやま愛カード所持者も対象としております。

次に、３番目の公共バスの運行基準についてでございますが、交通手段の確保策は道路運送法に基づく車両の種別により、大きくは事業用自動車、いわゆる緑ナンバーで４条の許可を受けた者と自家用自動車、いわゆる白ナンバーで79条の登録を受けた者とがございます。道路運送法では自家用自動車を使用した有償運送は原則として認められておりませんが、公共交通空白地での輸送といった地域住民の生活維持に必要な輸送は、バス事業者が事業をしない場合に市町村などが自家用自動車を利用して有償運送をすることが認められております。市営バスの運行基準といたしましては、基幹路線のバス停から遠い地域や基幹線の廃止による路線を引き継ぐ代替え運送などを基準として、美作バス、大原バス、東粟倉バス、英田バス、勝田バス、土居小学校区デマンドバスなどの運行を行っております。この運行に際しましては、道路運送法第79条の３の規定に基づき自家用有償旅客運送者登録を行い、市町村運営有償運送を行っております。

それから、宇野バスの話が出ておりましたが、市のほうへも利用者の皆様から苦情や要望等が直接寄せられることがございます。その際には委託業者に対し、必要な指導等を迅速に行うようにしております。どうぞよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）〔登壇〕

失礼します。

私のほうからは２つ目の御質問のシニアカーのレンタル事業について御説明をさせていただきます。

高齢者向けにつくられました三輪または四輪の一人乗り電動車両シニアカーにつきましては、高齢者の歩行を補助する福祉用具として便利なもので、介護保険の要介護２以上の方のレンタルの対象にもなっており

ます。一方で、自費で購入し、不用になったシニアカーも相当数あり、その活用が期待されているところでございます。現在美作市社会福祉協議会において、不用になりました福祉用具の譲渡を受けて、必要とする方に譲渡する福祉用具リユース事業を６月中に、今月中に実施の予定としております。

以上です。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

中山議員。

５番（中山　忠明君）

この免許返納後の取り組みについてというのは、結構幅は広く捉えたほうがいいと思います。そこで、シニアカーを運転できる人は、これは免許はどんなんですか、要るのは要るんでしょうけど、こういう方々も含めてやっぱり美作429㎢ですか、結構広い、そこの中で生活をされておられる方々に全ての方々が同じように体が悪くなるまでに個人差もあります。まして、そういう方々が今先ほど言われたようにブレーキとアクセルを間違えてというような事故が頻繁に、特に最近多くなってると思いますが、現在ブレーキストッパーとかというようなことをこの美作地区の業者の方は、自動車関係の方が今試作をされて、現実にはもう既に陸運局の認可もとっておられます。隣の美咲町ではもう既に補助まで出してやっておりますが、そこら辺のとこを美作市として既に手がけておるとは聞いておりますが、最後にブレーキの、そしてアクセルを踏んでなおかつそれを踏み過ぎるとストップがかかるというようなよいものができております。それから、今は電子系統の優秀な車があります。前に車が何か障害物があればとまる、そういう時代なんですが、それにはやっぱり新車と言えばお金がかかります。現在乗っておられる車にそういうものを取りつけて、安価に事故が防げるようなことがあると聞いておりますんで、そこのとこちょっと、市長、これにお願いしたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

お尋ねのアクセルブレーキの踏み違えによる事故防止措置、特にブレーキと思って踏んだらアクセルだったということなんですが、ブレーキを踏みますと、パニックで踏むと必ず強く踏むんで、強く踏んだらこれはアクセルでなくてブレーキに切りかわるという形なんですけども、非常にすぐれたもので、これの量産につきましては市内のＫ自動車修理販売企業体と、それからＡ工場が協力をしてかなり厳密な試作を行い、共同試験も完了して、今実用に供されようとしておりますし、またその開発につきましては、私どもが経済産業省に進達をして、物づくりの補助金の対象にもしている。警察のほうにも御案内をするようにしておりまして、まだ最終結果については警察のほうの反応がないんですけども、これについては、我々は生産の支援をしましたが、でき上がって実装ができる段階になったら、今度は普及のための支援というものを考えることになるだろうとは思っております。美咲町については、私どもはこれを始める前に既にほかの形の、ようわからんですけど、ほかの仕組みの踏み違え防止装置を念頭に置いて普及のための補助をやっていて、聞くところによれば、美咲町がこの私どもの市民の方々が製作に関与しておるやつを割合気に入って、それも普及と補助金の対象にしようということになったというふうに一応情報としては入っております。この議会には間に合っておらないんですけども、そういう状況も注視をし、そして念のため警察の意見をさらに拝聴した上で、来議会以降具体的な対策を考えて、なるべく早い段に議会にも御提示、御相談をしたいというふうに考えております。

具体的に言うと、そういうことなんですが、背景にある思いは、一つには今交通福祉という言葉がありま

すけれども、一方でここはどうしようもないということで、愛カードを取得されて免許を返納される方々に対しては、いわゆるタクシーの助成という方向に御案内しようと思ってるんですが、一方で自動車の運転ということについては、若干危険性は当然若い人でもみんな持ってるんですけれども、簡単な言葉で言うとぼけ防止というか、やはり身体、そして精神の活力維持に大きく貢献していることも、これ間違いないということでありまして、そういう意味でこの踏み間違えによる事故防止の装置については、どちらかというと、なるべく長い間自分でお車をお使いになったらどうですかということに対する支援ということにもなるわけでありまして、考え方がある意味では逆方向を向いております。しかし、それぞれが人間の社会というのは多様でありますし、お住まいになってる場所も奥のほうの人もおれば、市内の方もおられるというようなことの中で、当面そういう多様性を両方とも生かすということが交通福祉の観点からは重要なのかなと思っております。

将来的には先ほど議員の御質問にもありましたけども、これから５年ぐらいかなと思ってるんですけども、次第に自動運転というものが普及をしてくる可能性があります。岡山県内でも新見の鯉が窪という道の駅を基地として、自動運転の実証実験が行われておったり、あるいは若干レベルは下がりますけども、赤磐市でバスの自動運転の社会実験が行われたりしておりまして、次第にそういった方向が具体的になってくる段においては市としてもまた別の考え方、自動運転をどう取り込んでいくかということを考えるべきだと思いますが、当面は今ある交通システム、磨かれた交通システムをいかに安全に安価に市民の方にさまざまな形で提供するということを念頭に置きたいと思ってるんです。

ただ、もう一点加えますと、本議会でも御質問があったように、安藤議員はきょうおられないですけども、主に安藤議員の質問に出ておりましたけれども、一方でバスを見ますと、割合よく乗っていただいてるバスもあるんですね。津山バスとかというふうになりますと、相当よく乗っておられる。ところが、目を転じますと、ほとんど乗っておられない、きょうは１人乗っとるな、よかったなみたいなことを言わざるを得ないようなバス便もあって、そういうものの１人当たりの利用単価を見ますと、例えば１人１回当たりの乗車で５キロ走るのに5,000円かかっとりますとかということになりますと、これはまたほかの手段への代替を考えたほうが市民福祉が向上しますんで、そういった財源も実はあることはあります。その辺も総合的に考えながら、先ほどの事故防止のブレーキであるとか、あるいはタクシー助成を、岩江議員の話にもあったように遠いの場所の人はどっかへ行くにしても、大原の場合には割合市街地がありますけども、例えば福山で考えますと、福山から一番最初の例えば病院というと、どうしても一定の距離を走らざるを得ないわけですよね。そういったことを考えますと、場所場所に応じてもう少し熱い支援が必要じゃないかという意見は、これ出てくると思うんです、間違いなく。その出てくる意見を財源措置をしっかり考えながら、今後拡充をしていきたいと思うんです。今のところ里山公園の枠の中でやってます。里山公園がまた拡大をしていきますと、その枠も増えていくということで、真野部長もこっちを見てわかっとると言ってますけども、それを考えながら、あるいはさっき申し上げたバスの中で、これはもうタクシー〔聴取不能〕がいいということの財源も合わせながら、拡大をしていく必要があると思ってるものですから、今回全市的に拡大したものについても、もう一回目の社会実験だと、ここで福山の方の御意見はいかんと、あるいは滝宮の方の御意見はどうなんだということも含めてお伺いをしながら、磨きをかける、財源的な余裕もつくっていくというようなことで考えさせていただいておりますので、よろしくお願いいたしたいと思いますし、また継続的に本件については大変重要な課題でございますので、それぞれの段階でさまざまな御質問を頂戴できますように御案内申し上げて、お答えにいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

中山議員、３回目です。

５番（中山　忠明君）

今議会で重複あるいは同じような質問がありましたので、大体の行政としての考えがわかってまいりました。しかし、手を抜かないように市民の足をしっかりと行政が責任を持ってやっていただきたいということを申し上げて、この２番を終わりたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

続けて、３項目めに入ってください。

５番（中山　忠明君）

３項目めに入らせていただきます。

湯郷温泉活性化のための秘策はあるのかないのか、またどういう計画があるのか、あるとすればどういう計画があるのかということをお尋ねします。

まず、１番、湯郷温泉活性化を市の長としてどのように考え、またどのような観光地につくっていきたいと考えているのか、２番、湯郷温泉活性化にはどのくらいのお金と知恵を使ったらよいと考えておられるのか、３番、現在建設中の高速道路、美岡道、山陽道と中国道をつなぐことができましたら、湯郷温泉がどうなると考えておられるのでしょうか、またそのときのためにどのような用意をすればよいのかということを行政として考えておられるのか、お聞かせください。１番目は、市長にお願いしたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

湯郷温泉は岡山県を代表する温泉の一つである、そのことはなぜそうだったかというと、発見されたころ以来、非常に効能あらたかというか、効果のある温泉である、つまり泉質において甚だいいものがあった、それがもう原点だと思っております。湯郷温泉に来ることによって多くの女性が長く悩んでいた肌の病気を克服してええぐあいに嫁さんに行けたとか、そんな話は枚挙にいとまがないわけであります。つまり我々の温泉というのは関西あたりも含めて、古くから日本国民の健康に貢献をしてきた、そこに最大の価値があります。問題があるのは何かといいますと、湧出量に限界がある。私の知ってる限りで言うと、毎分500リットルを超えるか超えないかというところでとまっている。せんだって別府に行きましたけども、別府ではあちらこちらから温泉が出る、何ぼ出ようるか知らんぞぐらいのものでありますが、そういうことにはならない。つまり希少な臆するようなもんだということであります。そして、近年ではそういう健康であるとかスポーツ、あるいは自然環境というものに対する国民の皆さんあるいは世界の方々のニーズというものはだんだん高まっていって、そういう質のいいものに対してしっかりお金を使うことについては、これはトレンドとして見ると、プラスに動いているということでありますから、私どもとしてはこの希少な、量は少ないけども価値の高い温泉というものをかつては日本国民、今後は世界の方々も念頭に置いてそれぞれの方の心と体の健康づくりのため活用することが基礎中の基礎だろうというふうに思っております。それが一番基礎ですが、その上で私どもの地域に来て、湯郷に泊まっていただいて、さまざまな活動、山に行っていただいたり、あるいは野菜のおいしいのを買っていただいたり、いろんな活動をしていただく、そのベースにもしていただきたい。したがいまして、私どもとしては、かつて湯郷温泉に40万人来ていました、何しに来ていたかというと、温泉に入ろうかどうかわからんけども来とったという時代があるんですけども、そういうことではなくて、例えば20万、二十数万という、今よりちょっといいレベルですけども、常に湯郷はいいなと、したがって湯郷に来るんだったら大きな楽しみであるし、価値なんで、サービスもいいし、泉質もいいん

で、少しお金を落とすことにはためらいがない、つまり希少価値をベースにして、ちょっとずつ高級感というものが出る中で、ずっと持続的に毎年二十数万人の方々の心と体の健康に寄与するというような温泉として末永く生かしていきたいと思ってるんです。ただ、末永くということになりますと、いろいろ課題があって、後から多分答弁がありますけども、差し向きの課題は湯郷の温泉は泉源が基本的に１個、鷺湯ですね、鷺湯の泉源もあり、実は２つ同じ泉源を分けてるんですけども、鷺湯から配管でもって各旅館の方々、ホテルの方々に給湯されてるんですが、これに物理的限界、つまりそろそろお湯が配れなくなるかもしれないという危機と、ずっと配ってるお湯がなかなか温度を保てない昔からの仕組みになってるんで、この辺をそろそろ何とかしないと、今申し上げたこと全てが水泡に帰しちゃうと、鷺湯しか残らなかったということになっちゃあ大変大きな問題がありますので、その辺を今後考えていかざるを得ない。私どもとしては世界の方々、日本の方々の心と体にしっかりその健康づくりに貢献する質のいい温泉を高級感を持って、少しずつ高級感を持って末永くこの市の中心として、この市のシンボルとして生かしていきたいという考えを持っております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

湯郷温泉活性化につきまして２番目の項目から、どのくらい金を使ったらよいかという御質問でございますが、湯郷温泉は民間の事業者が運営をされておりますので、市民の皆様の御理解を得られる範囲内で支援してまいりたいというふうに考えております。また、湯郷温泉では現在旅館組合と株式会社湯郷鷺温泉、民間の方でございますけど、こちらが中心となって環境省に再生可能エネルギー電気・熱自立的普及促進事業といった事業がございますが、これによる補助を申請しております。これは木質バイオマスを活用して源泉を加温する設備の導入を検討しようとするもので、既存温泉の湧出状況、熱量、成分などをモニタリングしながら、多段階的な可能性を模索しているところでございます。美作市観光のかなめであります湯郷温泉の源泉を守り、かつ二酸化炭素の削減を目的に、市といたしましても源泉における木質バイオマスの活用事業を支援していきたいというふうに考えております。

なお、観光振興についての助成でございますが、平成29年度には同一の方が３泊以上宿泊した場合、１泊１万円以上という制約がございますが、３泊目に１万円をキャッシュバックする連泊補助金を期間を定めて行いましたが、今年度も引き続き行うため今回補正予算に計上させていただいております。

また、美作市へ観光客を誘客するバスツアー補助金も引き続き行います。これらの補助のほか、ソーシャル・ネットワーキング・サービスを活用しました情報発信の強化など、美作市観光振興協議会への補助金を増額して取り組むことといたしておるところでございます。

それから、現在建設中の高速道路山陽道と中国道をつなぐことができたら湯郷温泉がどうなるかという御質問ですが、高速道路等の完成によりまして観光地が通過点となってしまうケースが多く見受けられます。また逆に、利便性が高まり、これまで訪れていなかったエリアからの来客も期待できるというふうに思います。いずれにしても、通過点とならないよう途中下車したくなる場所、また最終目的地となるような観光を目指していく必要があるというふうに思います。そのために湯郷温泉を魅力あるものにという課題でありますが、湯郷温泉はもとより、美作市内の地域と連携した着地型観光ルートの開発、体験型観光の充実、またソーシャル・ネットワーキング・サービスを充実させた情報発信の強化に取り組んでいきたいというふうに考えております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

中山議員。

５番（中山　忠明君）

遠藤経済部長より85点ぐらいな答弁をいただきましたが、100％というのは難しいです、それはね、確かに。しかし、そういう前向きな気持ちが市民の方々に伝わるということが大事なんであって、そういうことを考えながらやっていただきたいと思います。

そこで、ちょっと先ほどバイオマスの話が出たんで、ついでではないんですよ、言うようにしとったんですけども、プールですね、その余ったお湯をプールに、プールないんですけどね、まだ。プールをつくって、温水プール、温泉プール、そういう計画もまた考えていただければ、途中通過点にならずにちょっと寄ってみようかというふうになってくる、そうすることが単なる道路ができたからというだけじゃなしに、とにかく湯郷に寄って、ちょっと昼食でも食べようか、ちょっと何か見て帰ろうか、子ども連れでちょっと温泉プールでも入ってこようじゃないかというようなプラス思考でやっていただけたらと思います。幸い、余り褒めるわけにもいかんという気持ちが内心あるもんですから、しかしこの選挙で萩原市長もなかなか考えが変わってきたように私はそう思っております。これをずっと継続していただいて、ことをお願いしまして、この項目を終わりたいと思いますが。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

85点が、もう少しいい点がいただけるように取り組んでいきたいというふうに思いますが、温水プールについて提案をいただきました。確かに湯郷温泉というのは泉質がいいということで、お湯を生かすということも大切です。それから、木質バイオマスの活用というのは、エネルギーをかけて加温をするわけですけど、温泉のお湯だけでなくて、普通のお水も加温をするといったことも同時にできるようなこともあると思います。ですから、今後そういった活用策も検討していくことが必要かなというふうに思います。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

中山議員。

５番（中山　忠明君）

85点から大分上がりました。そういう前向きな気持ちで頑張っていただきたいと思います。

そこで、この項目を終わりたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

続けて、４項目め。

５番（中山　忠明君）

次に、４項目め。

昨今いろんな小さい方々、弱い女性の方々を含め、いろんな方が犠牲になっておられる事件が頻繁に起きております。この美作もやはり例外ではないと思います。まだ現在はそういうことは起きてはおりません。つい先ほど来は津山の筒塩侑子さんですか、犯人が、犯人と決まったわけではないんですけども、そういうふうな警察の努力によりまして一応検挙したということなんですが、やはりその抑止力を防犯カメラがあったからなくなるというもんではありませんが、事件の解決、あるいは抑止力としてのその部分もこれは大事な部分だと思います。和歌山のドンファンという方が亡くなられましたが、この方の家には38台カメラがあるそうです。しかし、何にも写ってなかったそうです。そういうちょっと笑えない話もありますが、そういう事件を少しでもなくすためにこの防犯カメラ、４項目めでまず１番に、現在市内に設置している防犯カメ

ラの数、２番、防犯カメラの活用について、答弁願います。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）〔登壇〕

中山議員の４項目めの市内の防犯カメラの設置状況についてでございますが、85点を上回るように頑張ってまいりますので、よろしくお願いいたします。

１番の市内の設置している防犯カメラの数についてでございますが、防犯カメラについては、犯罪の未然防止や防犯対策の一環で商業施設やコンビニエンスストア、観光施設、金融機関、医療機関、駐車場など、自主的に設置され、普及が進んでいます。また、一般家庭や各自治会や自治体などで設置が進んでいます。

防犯カメラの設置数でございますが、行政管轄建物等の設置台数は、観光施設、病院、庁舎、学校などの出入り口や駐車場、館内を含め、103台を設置しています。そのほか、市内の商店、企業、事業所等の防犯カメラの設置台数の把握につきましては、市としては把握しておりませんが、美作警察署では捜査上の必要性から設置場所の把握をされているようでございます。犯罪等が起きた場合など、必要に応じて情報を提供していただくよう対応をとっているとのことです。

今年度も当初予算で地元設置分として３基分の予算を計上しております。設置までに至っておりませんが、積極的に申請していただければと思っております。

また、今回の補正予算に市が設置する防犯カメラ３台分の予算を計上しておりますので、よろしくお願いいたします。

２番の防犯カメラの活用についてでございますが、防犯カメラは街頭犯罪や少年非行、子ども、女性、老人等、弱者を狙った犯罪等の防止や犯罪の抑止の目的で不特定多数の人が利用する道路、公園、駐車場等に設置し、犯罪の起きにくい安全で安心なまちづくりのため整備するものと考えております。事件や事故が起きた場合周辺の防犯カメラから重要な情報が得られ、それを手がかりに事件が解決となる事案があります。活用といたしましては、犯罪等の防止や犯罪の抑止、事件や事故の解決に必要な情報を得るために活用するものと考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

中山議員。

５番（中山　忠明君）

まだ100点にはいっておりませんけども、そこそこのこれを実施していただいて、この３台という数字が多いか少ないかといえば、全く少ないと思います。今簡単に車の中でも設置できるような、そんな簡単なもんじゃだめなんでしょうけども、結構高価ではなくて、１台がどのくらいするんか私は知りませんが、できるだけやはり広く置いていただけるようにお願いをしまして、６月議会の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

議長（鈴木　悦子君）

以上をもちまして通告順番12番、議席番号５番中山忠明議員の一般質問を終了いたします。

ここで10分間休憩いたします。

午前11時04分　休憩

午前11時15分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

安藤議員が出席されております。

続きまして、通告順番13番、議席番号２番和田広宣議員の発言を許可いたします。

和田議員。

２番（和田　広宣君）〔質問席〕

議長の許可をいただきましたので、平成30年６月定例会の一般質問を始めさせていただきます。

今回は４項目の質問をさせていただきます。１項目めに、高齢者の安心・安全について、２項目めに、児童・生徒の安心・安全について、３項目め、聴覚障がい児の支援について、４項目め、2020年オリンピックに向けた日本文化遺産の登録申請についてであります。

それでは、１項めの高齢者の安心・安全について質問をさせていただきます。

１として、緊急通報装置の普及状況についてであります。

昨年７月、ひとり暮らしの御高齢の御婦人のところを訪問した際、急病や火事のとき赤いボタンを押すだけで近所の親戚や協力員が駆けつけてくれる緊急通報装置を旧勝田町に設置してもらった御婦人がおられました。合併から12年になり、点検もしていないので使えるかどうか調べてほしいとのことでありました。すぐに勝田総合支所に持っていき、調べていただいた結果、故障していたので使えないとのことでありました。そのことを受けて昨年９月定例会での一般質問の中、至急その他設置場所へ訪問、点検を行っていただき、更新をしていくとの答弁をいただきました。その後すぐに点検に回っていただき、十数台が故障していたため新しい機種に交換をしていただいたとのことであります。その中の１件、10月に新しい機種に交換した御婦人の方は１カ月後の11月末寒い日の朝、トイレの帰りにコンクリートの土場で転倒、動けなかったのですが、１時間かけて必死の思いで隣の部屋の緊急通報装置を押すことができました。すぐに登録先の近所の方が駆けつけ、救急車を呼び大事に至らなかったとのことであります。御本人と息子さんの許可をいただいてますので、一部を紹介させていただきます。美作市真殿、92歳女性、独居高齢者世帯、第１通報先、近所の親戚、第２通報先、津山市長男、第３通報先、津山市長男の妻、平成29年10月19日、旧勝田町で設置した緊急通報装置を撤去し、市の補助事業としてＮＴＴシルバーフォン安心Ｓを居室と寝室に設置した。その約１カ月後11月末、利用者は玄関土間で転倒、身動きが十分できない状態で１時間程度かけて辛うじて居室まで上がり、緊急ボタンを押した。その通報を受けた近所の協力員が駆けつけ、救急車を呼び、一命を取りとめた。第２通報先の長男さんは旧型の緊急通報装置を取りかえて新型を設置していただいたおかげで機器が正常に作動し、協力員への通報が円滑にできた。あのまま連絡もできない状態が続いたら体も冷え切って命が危なかったと思います。旧型が設置してなくて本当によかった。これも市の事業のおかげです。お世話になり、ありがとうございました。左大腿骨が骨折していたため現在も入院中ですが、３月上旬には退院する予定です。というコメントをいただいております。

先日御本人にお会いしました。美作市に対して大変感謝をしておられました。そして、この緊急通報装置をぜひ広げていってほしいとのことでありました。今回のケースは最初に点検を依頼した市民、議会、そしてすぐに反応していただいた執行部との連携で一人の御婦人の命が救われたことが大変喜ばしいことだと思います。

そこで、質問ですが、昨年９月議会で今後ひとり暮らしの高齢者が増加する中で、執行部にはこの緊急通報装置の必要性を十分御理解いただき、調査研究の上、12月議会では方向性を示していただくとのことでありました。第１通報先の問題、協力員の確保等、難しい問題があると思います。しかし、平成30年度の当初

予算にはこの緊急通報装置の予算も計上されてないとのことですが、その後の経過、状況を答弁願います。

次に２として、独居高齢者への住宅用火災報知器の普及について質問いたします。

火災による死亡事故の中、圧倒的に多い高齢者宅へ設置補助を検討していただくとのことで、まずは現状を把握してからとの答弁をいただきました。その後進展状況についてお尋ねします。

以上、１回目です。

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）〔登壇〕

失礼します。

まず、１番目の緊急通報装置についての御質問に対する答弁でございます。

緊急通報装置につきまして、当初予算にもともとあった補助金を計上していない経過といたしましては、既存の事業にかわる独居の高齢者が能動的に安否、元気を発信できる事業を当初予算に計上する方向で検討をしておりました。しかしながら、新事業に使用予定の装置は開発されて間がなく、有効性が十分に確認できないことから、当初予算及び今回の補正予算への計上まで至りませんでした。一方、先ほど議員のほうから御紹介がありました事故ですね、従来の緊急通報装置を昨年10月に設置をしました独居の高齢者の方が11月末に転倒した際にこの装置の利用により一命を取りとめた事例を受けまして、従来の緊急通報装置設置補助金事業を今回の補正予算に計上しております。

事業内容といたしましては、昨年度事業と同様に装置設置工事費実費を上限金額１万円として市が補助し、レンタル料等の機器設置期間に係る費用につきましては、利用者の方の負担という内容でございます。予算額は昨年の緊急通報装置設置件数が17件でしたので、本年度設置予定件数を20件としまして、１件当たり補助推定額3,132円を見込み、６万3,000円を計上しております。

独居高齢者の安全・安心のため緊急時対応の仕組みは非常に重要なことであり、本年度は継続して既存の補助事業を行いますが、既存の仕組みにかわる高齢者の安全・安心を守りつつ、高齢者自身が主体的に元気を発信できる事業についても引き続き検討をしていく方針です。

以上です。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

消防長。

消防長（皆木　佳久君）〔登壇〕

それでは、１項目めの②、独居高齢者宅への住宅用火災警報器の普及について御答弁をさせていただきます。

独居高齢者宅への住宅用火災警報器の普及につきましては、各種防火講習会並びにケーブルテレビなどから広報活動を実施させていただいております。平成30年度は美作市全域におきまして住宅用火災警報器の設置状況についてのアンケート調査を実施しております。この調査期間につきましては、本年４月２日から12月21日までの予定で行うようになっております。その間のうち、６月15日、明日になりますが、この期間につきましては、美作市消防団員の御理解と御協力のもと、自宅を訪問し、玄関先で聞き取り調査を実施していただいておるところでございます。本調査は独居高齢者宅を含めたものでありまして、この調査ができ次第、何らかの方法で御報告をさせていただきたいというふうに考えております。

消防本部といたしましては、美作市、全戸調査の貴重な情報から、独居高齢者宅も含めた防火指導及び住宅用火災警報器の設置推進に努めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。〔降

壇〕

議長（鈴木　悦子君）

和田議員。

２番（和田　広宣君）

２回目です。

緊急通報装置に関しては、システムも含めていろいろと研究していただいているとのことであります。

そこで、質問ですが、主体的に元気を発信できる事業とあります。具体的にはどのようなシステムでしょうか。

次に、今回冒頭紹介させていただいた御婦人のような緊急を要するケースにはどのような対応になるでしょうか。

また、９月議会では緊急通報装置の周知がされていなかったとのことで、今後徹底して周知していくとのことでありましたが、その後新規の設置等はありましたでしょうか、御答弁お願いします。

次に、２としまして、住宅用火災報知器は本年４月２日より消防団員の皆様が全件訪問いただき、設置の有無、設置場所の確認をしていただくとのことと同時に、有効な設置場所の説明と設置の重要性を説明していただいており、大変に感謝しております。しかしながら、今回の質問の趣旨といたしましては、高齢者の福祉事業として設置の補助ができないかということであります。設置による有効性が認められ、条例で義務化されてから10年が過ぎました。美作市でも特に高齢者への設置率は平均を大きく下回ってるとお聞きしております。現時点で設置できていない理由は何でしょうか。高齢者の方が自分で商品などを選定し、天井などの高いところへ設置するのはなかなか困難に思われます。設置工事までを入れた補助事業の検討はできないでしょうか、お考えをお聞かせください。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

昨年９月議会以降のさまざまなことについては、本当に和田議員の活躍についても心から感謝をしておりまして、そこで緊急通報装置の重要性というのは再確認をされて、私どもとしてもその緊急通報装置について今後新システムをどうするかという検討に入ったんです。出てきたやつがさっき御質問のあった元気通報というのなんですけども、これと言葉は違っているように大分コンセプトが違っておりまして、119番を例にとって話をしますと、我々市民がきょうは119番というか救急車の必要がないということを毎日通報するんですよ。わかります。通報がなかったら消防署が、おまえ通報がないけど大丈夫かといって問い合わせをして駆けつけるという、こういうシステムなんですよ。つまりボタンなんですけども、緊急時には押しちゃあいけないわけ、いつも元気だから押してると、なかったらというんで、これが本当に緊急時に役立つかどうかというについて物すご疑問があったもんですから、どうするんだろうか、あるいは、面倒を見る消防署も大変なことになるでしょう。毎日２万件ぐらいの、きょうは救急車要らないよという通報が来て、要る通報がどれかわかんなくなってると、こういうことなもんですから、この元気通報のシステムというのはなかなか難しいなと、実際運用したときにどうなるんだろうかということがはっきりしないと。ですから、ちょっと間を置いて、それが本当に高齢者の方々の身を守るシステムとして有効であるかどうか、どっかの自治体がやるのを見てからやったほうが、これは後で大ごとにならんでええんじゃねんかというような議論になりました。それがあったもんですから、当初予算への計上がなかなかうまくいかなかったということであります。和田議員も恐らくその緊急通報システムの有効性もう御存じなんで、その緊急通報システムというも

のの意味は、何か事があったときに通報すると思ってるでしょう。何も事がないときだけずっと通報していって、例えば旅行に行ったときには通報がないというようなときにまた救急車が行くとかなんかって話をし出すと、大変な混乱になる可能性があるということになったもんですから、今実はＷｉ－Ｆｉにかわる非常にナロウバンドでぽつっと情報を提供するシステムが全国配備をされつつありまして、通信網がそうやって現代化されつつある中で、いろんな企業が実はこの緊急通報システムを安価で提供できるようなシステムづくりに今励んでるんですよ。だから、ちょっと時間を置いたほうがいいものが使えるだろうということもあって、あと一年ぐらいはちょっと待たさせていただきたいなというのが本音のところでございますんで、よろしくお願いします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）〔登壇〕

失礼します。

御質問の中にありました先ほどの御婦人のようなケースの場合ですが、やはり近所の方に協力員をしていただくと、協力を仰ぐというようなことも当然必要となると思いますので、そういうことも想定した中で研究を進めてまいりたいというふうに思います。

それから、昨年９月以降の緊急通報装置の周知の状況ですが、新しい事業を開始するということで、いろいろと情報を流すと住民の方の混乱ということを懸念したため、本格的な広報活動を見合わせるということにいたしました。しかしながら、平成29年度設置件数は17件であり、27年度設置件数が２件、28年度設置件数が３件と比較して、件数は増えており、本年度についても数件の問い合わせが寄せられていることから、制度がある程度認知されていると考えております。今回の補正予算を受けて、広報活動に努めてまいりたいと考えております。

それから、住宅用火災報知器ですが、その設置できてない理由として考えられることは、平成24年度末までの事業でひとり暮らし高齢者世帯に513台を設置しましたが、給付事業が終了したことに伴い、設置するタイミングがなくなったことと、また議員おっしゃるとおりひとり暮らしの高齢者が御自身で機械を選び、設置することが困難なことなどがあると考えます。市としまして、高齢者の方が長年住みなれた御自宅で、安全かつ安心に快適な生活が送られるよう前回の給付事業、また今回の調査等、また対象経費等を今後研究していきたいと考えております。よろしくお願いします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

和田議員、３回目です。

２番（和田　広宣君）

総括させていただきます。

市長言われましたようにいろいろと研究をしていただいて、新しいシステムを検討していただいているということであります。私自身も少しでもよい機能があればと思います。しかし、現時点でなかなか見通しがつかないということであれば、やはり今のシステムをある程度進めていってほしいと思うところであります。つい先日一番最初に点検を依頼された御婦人の方のところに行ってきました。古い装置はもう使えないのでということで撤去されて、その帰り際にその担当員の方は、今本庁のほうで新しいシステムを考えているのでちょっと待ってもらえませんかというふうに聞いておられたと言います。でも、いまだに御婦人の方は待っておられます。一番最初にひとり暮らしで寝るときに不安なんで、この通報装置を枕元にいつも置いて寝てるんやって言われてた御婦人の方であります。少しでも早い研究の成果をお待ちしております。

お隣の勝央町では行政の負担で95人の方が当市と同じ機種をつけておられます。通報先をＮＴＴの関連会社に委託し、１人当たり月2,400円、維持費だけで年間300万円の予算であります。ほかにも岡山県下多くの自治体が緊急通報装置を採用し、全ての市町村が行政の全額負担で運営を行っております。緊急通報装置が有効かどうかという議論があります。先ほどの御紹介した御婦人のように命が助かったというケースはもちろん一つの効果であります。しかし、いざというときは近所の人が駆けつけてくれる、そういった安心感をひとり暮らしの高齢者の方に持っていただけること自体がこの装置の大きな効果であると私は考えます。ニッセイ基礎研究所の調査では全国の１年間の死者数152万人のうち３万人、約2.4％が孤独死をされております。美作市の死者数500人に当てはめると10人以上の人が孤独死と推測されます。この方を救うことができるというわけではありませんが、これから増加するであろうひとり暮らしの高齢者から少しでも不安を取り除き、安心で安全な暮らしができるよう、また地域包括ケアシステム構築のツールの一つとして緊急通報装置と火災報知器の補助による設置の検討を切にお願いし、この項の質問を終わります。

議長（鈴木　悦子君）

それでは、続けて２項目めに入ってください。

２番（和田　広宣君）

次に、２項目めであります。

生徒・児童の安心・安全について。

１として、学校での心肺蘇生教育の普及推進について質問いたします。

突然の心臓停止から救い得る命を救うためには心肺蘇生、ＡＥＤの知識と技能を体系的に普及する必要があり、学校での心肺蘇生教育はその柱となるものであります。我が国では平成16年に市民によるＡＥＤの使用が認められて以来、急速にその設置が進み、ＡＥＤの使用によって救命される事例も数多く報告されています。しかしながら、いまだなお毎年７万人に及ぶ方が心臓の突然死で亡くなっているとともに、学校でも毎年100名近くの児童・生徒の心停止が発生しております。その中には平成23年９月のさいたま市での小学校６年生の女子児童の事故のように判断を誤り、ＡＥＤが活用されず、救命できなかった事例も複数報告されています。そのような状況の中、既に学校における心肺蘇生教育の重要性についての認識は広がりつつあり、平成29年３月に公示された中学校新学習指導要領保健体育科の保健分野では、応急手当てを適切に行うことによって障がいの悪化を防止することができること、また心肺蘇生法など行うことと表記されているとともに、同解説では直接圧迫法などを取り上げ、実習を通して応急手当てができるようにすると明記されております。しかしながら、全国における教育現場での現状を見ると、全児童・生徒を対象にＡＥＤの使用を含む心肺蘇生教育を行っている学校は平成27年度実績で、小学校で4.1％、中学校で28.0％、高等学校でも27％と、非常に低い状況にあります。

そこで、伺いますが、本市においても児童・生徒、教員等に対する心肺蘇生とＡＥＤに関する教育を普及推進するとともに、学校での危機管理体制を拡充し、児童・生徒の命を守るための安全な学校環境を構築することは喫緊の課題と考えられます。いかがでしょうか。

２として、通学路の安全対策強化についてお尋ねします。

新潟での女児殺害事件、赤磐市の小学校の交通事故などを受け、各地で子どもの登下校時の安全対策の強化に向けた取り組みが行われております。学校、保護者、地域住民、警察など、関係者が情報を共有し、力を合わせて取り組むことが課題と思われます。当市においてのその後の取り組み、今後の方針等、答弁願います。

以上、１回目です。

議長（鈴木　悦子君）

消防長。

消防長（皆木　佳久君）〔登壇〕

それでは、学校での心肺蘇生教育の普及推進についてという御質問につきまして御答弁をさせていただきます。

美作市消防本部では幼少期から心肺蘇生法を含めた応急手当ての指導が大変重要であると考えております。応急手当てを学ぶことにより命の大切さ、それから理解にもつながるものと思っております。そこで、平成26年度からは応急手当て講習に救命入門コースを新たに設けました。26年度から平成29年度末までに471名の受講がございました。これは胸骨圧迫とＡＥＤの取り扱いを中心といたしましたコースでございます。主な対象者は小学生の高学年から中学生としておりまして、講習時間は90分となっております。

消防本部といたしましては、これからもさらに教育委員会と密な連携をとりながら、教職員はもとより、児童・生徒への救命講習をとり行ってまいりたいと考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

子どもたちの安全・安心についてということでのお尋ねでございます。

まず、心肺蘇生教育ということでございますが、ＡＥＤは全ての学校、保育園、幼稚園、こども園、公民館を初め、社会教育施設では３館に設置いたしております。学校での心肺蘇生教育の普及促進につきましては、御指摘のとおり現行の学習指導要領からは、中学校の保健体育科で適切な応急手当てにつきまして心肺蘇生法を取り上げ、必要に応じてＡＥＤにも触れて学習をいたしております。まずは、子どもの命に対して責任がある市内教職員、これは全員、美作市消防本部実施の普通救命講習を受講し、特に小学校では水泳指導を行うことや夏季休業中のプール開放に備え、保護者とともにＡＥＤ、救急救命講習法を実施いたしております。

続きまして、通学路につきましてでございますが、いろいろな新潟の御指摘、あるいは先ほどの御質問にもありました赤磐市での交通事故など、本当に枚挙にいとまがないくらい通学路において子どもたちが巻き込まれる痛ましい事故、あるいは登下校時における声かけ、連れ去りなど、本当に不審者による事案が多く発生しており、全国的にも通学路の安全確保に向けた取り組みが行われております。

このような社会情勢の中、教育委員会といたしましても、継続的に通学路の安全を確保するため学校、保護者、地域住民、警察などの関係者により組織する通学路安全推進会議を平成26年度に設置し、通学路の安全点検を実施いたしております。また、学校保健安全法、美作市安全・安心まちづくり条例の規定にのっとり、美作市立小学校及び中学校の通学路の設定等に関する基準を設けまして、通学路の設定及び安全確保に当たり配慮すべき共通事項、方針等を定めております。通学路、どこを通るかというのは学校で定めるわけですが、どこを通るのか、学校で定めた通学路は教育委員会のほうに報告をしていただき、それを把握しながらそうした方針等も定めております。

今後においても、これらの取り組みを推進し、通学路の安全対策強化を推進してまいりたいと考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

和田議員。

２番（和田　広宣君）

２回目です。

ＡＥＤは全ての学校、幼稚園等に設置してあるとのことであります。教職員の方は全員が心肺蘇生、ＡＥＤの取り扱いの講習を受講されているとのことでもあります。先ほど申し上げましたとおり突然の心停止から救い得る命を救うためには心肺蘇生、ＡＥＤの知識と技能を体系的に普及する必要があり、つまり学校で心肺蘇生教育はその柱となるものであります。

消防長の答弁の中では小学校高学年、中学校を対象とした心肺蘇生、ＡＥＤ講習が設けられたとのことであります。受講者が４年間で471人とのことでありますが、美作市内の小・中学校で生徒自身が卒業までに一回は受講する機会を持っているか、状況をお尋ねいたします。

②としまして、通学路の安全対策についてであります。

通学路安全推進会議を設置し、継続的に安全確保に努めていただいているとのことであります。最近私の住んでいる学区では朝の送り出しの父兄の方の人数が増えたように思われます。また、学校からは帰りの時間も見守りについていただけないかという相談を受けたという話もありました。そのほか、市全体で最近取り組んでいることは何か具体的にありますでしょうか。

２回目です。

議長（鈴木　悦子君）

消防長。

消防長（皆木　佳久君）〔登壇〕

それでは、２回目の御質疑の中の各学校の状況について御答弁させていただきたいと思います。

平成26年度から平成29年度末までの４カ年でございますが、市内中学校５校におきまして416名、市内小学校２校におきまして55名、合計471名となっているものでございます。

１回目の御答弁でも申し上げましたが、今後教育委員会の御意見、御指導をいただき、より多くの児童・生徒への指導ができるか、研究を重ねてまいりたいと考えております。よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

失礼いたします。

議員御質問のように全ての子どもたちが体験という形にまでは至っておりませんけれども、消防長が答弁されましたように消防署と連携をとりながら多くの児童・生徒がＡＥＤの使い方、心肺蘇生講習を体験できるようにしてまいりたいと考えております。

少し答弁からはそれますが、私は先月岩手県のほうに研修がございまして、視察に行ってまいりました。陸前高田を視察したわけですが、そのときに釜石の奇跡、本当に全ての子どもたちが自主的に避難をしたという中で、今現在岩手大学の先生、その当時釜石の子どもたちを指導した方が今岩手大学で、そのときなぜ子どもたちがそういう行動ができたのかということを検証なさっていると、その研究を伺ってまいりました。そのときにおっしゃったのは、やはりいろいろあるけれど、一番大きなものは体験であったと。例えば運動場で津波の速さ、実際には時速36キロ程度だそうでございます。車で時速36キロで運動場を走ると、そしてその車に追いかけられる状態で走ってみると、そうすると実際の速さ、自分たちがどのくらい速く走ら

なければならないのか、あるいは到底逃げ切れるものではないというようなことを体験として学んでいると。体験として学ぶこと、あるいはその教える側の熱意、そしてまたもう一つは、小学校時代は助けられる側だった子どもたちが中学生になって今度は人を助ける側に回れるのだということを経験したことが大きな要素となっているというようなお話もございました。ＡＥＤにつきましても、小学校では少し扱いは不安がございますが、中学校になってこれを学ぶこと、そして自分たちでも人を助けることができるということを学ぶということはとても大切なことかと考えております。また、小学校の子どもたちには自分がそうした場に居合わせたときにはしっかりと助けを呼ぶということも今学んでおります。そうしたことはこれからも市内の小・中学校で進めてまいりたいと考えております。

次に、通学路でございます。

先ほども申し上げたように通学路の安全対策といたしましては、学校ごとに夏季休業期間等を利用して通学路の点検をお願いをしております。危険箇所等があれば、教育委員会あるいは建設部を通しまして整備、要望を行っております。昨日金谷議員がとても心配だというあのあたりのところも要望に上がっているわけでございます。

また、小学校区ごとに学校活動のサポートとして地域住民による登下校の見守り活動が自主的に実施されており、見守り活動の充実につきましては、今後学校とも相談し、地域とも協議をしながら進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

和田議員、３回目です。

２番（和田　広宣君）

総括します。

心肺蘇生法、ＡＥＤの使用講習を消防本部と教育委員会協議の上、積極的に実施していただけるということでよろしいでしょうか。先ほども教育長のほうからお話がありましたように体験というのはすごく財産になっていくと思います。特に小学生、中学生時代に私どもも消火訓練であるとか、地震の訓練を受けたわけですが、やっぱりそのときの記憶というのがいまだに残っているわけであります。先日みまちゃんネルを見ていると、美作市内のある小学校の校長先生が、うちの生徒は全員一輪車に乗れるんですよと言っておられました。ぜひとも美作市内の中学生は全員がＡＥＤが使えるよと言えるようになることを期待しております。

次に、通学路の安全対策についてでありますが、教育委員会、学校、またＰＴＡの皆さんが相談しながら見守り等の安全対策を行っていただいているとのことであります。先日事件のあった新潟市では見守り隊員の登録が330人増え、2,800人相当になっているということであります。安全対策は多いほうがよいと思います。例えば以前美作市では公用車に安全パトロール中というマグネットのステッカーを貼って、今でも多少貼ってあるのが走っているのかと思いますが、今度は公用車やボランティアトラックを募集していただいて、そういった安全パトロール中であるとか、また車載カメラ搭載中であるとかというステッカーを大きく貼っていただくと、僕犯罪したことがないんで犯罪者の心理はわかりませんが、それを一回見た、これから犯罪しようとしている人には抑制になるのではないかなという思いがいたしますので、そのことを提案し、この項を終わりたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

和田議員、３項目めは午後１時からにしてください。

それでは、これより１時まで休憩いたします。

午前11時57分　休憩

午後１時00分　再開

議長（鈴木　悦子君）

それでは、休憩前に戻り会議を開きます。

和田議員、３項目めから始めてください。

２番（和田　広宣君）〔質問席〕

それでは、３項目めの質問に入らせていただきます。

３項目めの質問は聴覚障がい児支援についてであります。

聴覚障がい児支援、新生児聴覚支援と補聴器、人工内耳の補助について質問いたします。

今我が国では１年間に95万人の赤ちゃんが誕生しています。そのうち1,000人に１人から２人は優しいお母さんの声が聞こえていないと推測されています。難聴を誕生直後に発見し、新生児の段階で適切な療育、人工内耳などの医療を施せば、正常時と同程度の言葉が話せるようになると言われています。また、聾学校に通う子どもの３割から５割が普通学校に通えるという指摘をする専門家もいます。御承知のとおり人工内耳というのは側頭部に聴覚補助器具を埋める手術で、内耳に細い電極を埋め込み、聴神経を電気的に刺激して、それを脳に伝え、聴覚を取り戻すという画期的な医療であります。この人工内耳の埋め込む手術には現在保険が適用されますが、体外部に装着する音を電気信号に変えるサウンドプロセッサーは片耳分約100万円いたします。５年から７年に１度交換が必要となり、装用者にとっては大きな負担となります。また、サウンドプロセッサー用の高出力のボタン電池は月に3,000円程度かかると言われています。高性能の補聴器をつけた場合、音が漏れないようにイヤーモールドという専用の耳栓が必要ですが、成長期のお子さんにとっては成長の度合いに合わせて１年から２年に１回ぐらい交換が必要で、これも１万円から３万円ぐらいかかると言われています。早期発見のため新生児聴覚検査の現状、人工内耳装用者のサウンドプロセッサー買いかえ助成、ボタン電池代助成、イヤーモールドの更新助成の当市の現状と県下市町村の実施状況を答弁願います。

１回目です。

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）〔登壇〕

それでは、御質問に答弁をさせていただきます。

聴覚検診と補聴器、人工内耳等の補助についてですが、まず新生児の聴覚検査の現状についてですが、現在出産された産院で退院までにほぼ100％の子どもさんが聴覚検査を受けておられます。検査費用につきましては、市より１回の検査につき2,840円の助成を行っております。なお、１回の検査料は5,540円ということで、2,700円が自己負担ということになります。初回の検査で要再検査となった場合は再度確認検査を行い、異常が認められた場合には専門の医療機関を受診していただく流れということになります。

聴覚障がい者の補聴器につきましては、障がい福祉サービスとして助成制度があり、原則費用の１割が自己負担となりますが、世帯の市民税課税状況により月額の上限が設けられております。

次に、人工内耳につきましては、装着に手術が必要となることから、自立支援医療制度の利用により原則医療費の１割が負担となり、世帯の市民税課税状況により月額の上限が設けられるということになります。

また、対象者が中学生以下であれば、自立支援医療に加え、乳幼児医療により実質、医療に係る自己負担はありません。

次に、人工内耳装用者の体外装置でありますサウンドプロセッサー、電池の更新助成につきましては、当市では電池、充電池、充電器のみ日常生活用具の給付事業により助成対象としています。しかしながら、サウンドプロセッサーの更新につきましては、助成対象としておりません。美作市を除く県下14の市の助成状況では、電池、充電池、充電器、サウンドプロセッサーまで助成対象としているところが総社市のみで、美作市同様に、電池、充電池、充電器のみを助成対象としているところが９市、更新助成を対象にしていないところが５市となっております。

また、イヤーモールドにつきましては、通常補聴器購入にあわせて装備する事例がほとんどということになっております。

以上です。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

和田議員。

２番（和田　広宣君）

２回目の質問です。

新生児聴覚検査については、ほぼ100％されているということであります。なお、検査費用は津山市や勝央町と同じ実質2,700円の負担ということでありますが、お隣の西粟倉村や奈義町では全額行政負担ということですので、子育て世代に優しい美作としては市の負担を検討されてみてはいかがでしょうか。

また、補聴器専用の耳栓であるイヤーモールドは成長期の過程において商品の買いかえとは切り離して助成を考えるべきだと思います。御意見をお聞かせください。

次に、人工内耳ですが、電池や充電池は助成対象ということで、美作市でも数名の方が利用されているとお聞きしております。サウンドプロセッサーの助成は、県下では総社市が最近助成を開始しましたが、ほかに笠岡市や浅口市等も検討に入ったとのことであります。中国地方では島根県が、全国では熊本県が最も採用自治体が多いとのことであります。また、助成金額は20万円から30万円と、市によって異なるのですが、今回の市長の所信表明でもありましたように障がいがある人が住みやすい町は誰にとっても住みやすい町です。前向きな検討をお願いしたいのですが、御意見をお聞かせください。

以上、２回目です。

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）〔登壇〕

失礼します。

まず、新生児の聴覚検査の検査費用についてですが、県内27市町村のうち、21市町村は個人負担があり、６町村が全額公費負担ということでございます。費用の負担割合につきましては、他の子育て支援事業とあわせて総合的に考えていきたいというふうに考えております。

また、イヤーモールドにつきましては、障がい児、子どもさんにつきましては、障がい者とは異なり、成長に合わせて取りかえが必要になれば、医師の意見書により補聴器の種類ということでその都度補装具費で対応できますので、よろしくお願いしたいと思います。

それから最後、サウンドプロセッサーの助成につきましては、取りかえに非常に高額な費用を要するというふうに聞いておりますので、当市といたしましても県北で最も福祉施策の高い町を目指すという観点から

助成を行うという方向で行いたいと思います。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

和田議員。

２番（和田　広宣君）

総括です。

サウンドプロセッサーの助成も含めて検討いただけるということであります。岡山市内に住む私の知人は２人のお子さんがおられ、お二人とも重度の難聴で、１人は両耳、もう一人は片方の耳が人工内耳の手術を受けられておられます。５年に１度交換のため３台分300万円を毎月５万円ずつ積み立てられているということであります。大変に苦労されているわけであります。今後美作市においても高度難聴のお子さんがおられた場合には少しでも負担を少なく、地元の学校へ通うことができるよう人工内耳の負担軽減のための支援の充実をお願いし、この項の質問を終わります。

議長（鈴木　悦子君）

じゃあ、続けて４項目めに入ってください。

２番（和田　広宣君）

次に４項目め、2020年オリンピック・パラリンピックに向けて日本遺産の申請についてお尋ねいたします。

文化庁は2020年のオリンピックに向けて観光客誘致などによる地方活性化を目的に日本遺産の認定を100カ所にする予定であります。我が美作市においても西粟倉村、兵庫県宍粟市との連名で修験道とたたら製鉄技術の伝承をストーリーとして申請していたわけでありますが、残念なことに先月、５月24日の文化庁の発表では今回は見送りということであります。しかし、岡山、倉敷、総社、赤磐市の連名で申請した桃太郎伝説の生まれた町岡山は、昨年は古代吉備国王の遺産で選定で漏れましたが、今回桃太郎にテーマを変え、認定されたとのことですので、観光振興、地域活性化のためにもぜひ今後とも認定に向けて頑張っていただきたいのですが、現状どのようにお考えでしょうか、お聞かせください。

１回目です。

議長（鈴木　悦子君）

政策参与。

政策参与（山下　　亨君）〔登壇〕

先生の和田議員のほうからの日本遺産という言葉、この響きには最近はずっと地域活性化の響き、あるいは観光開発の響き、いろいろな響きが出てまいっておりますので、当美作市のほうでもこの日本遺産の申請につきましては、これは美作市を活性化する、あるいは地域を元気にする意味では何か価値のある作業ではないかというふうに考えておりました。そして、和田議員御質問のこの日本遺産登録申請につきまして、昨年29年夏ごろから本格的に検討を開始させていただきました。市内のたくさんございます178あるいは180ぐらいあります文化財と言われているものの中にはこの日本遺産登録にふさわしいものがどのくらいあるか、あるいはどのような組み合わせでどのようにピックアップしていけばふさわしい案件になるか、そういったことについての絞り込みを行ってまいりました。とは言いましても、これは教育委員会の社会教育課の文化財担当のところを中心に行ってきたわけでございます。その結果、美作市、それから西粟倉村、兵庫県の宍粟市これは旧千種町がメーンでございますが、この２市１村で後山の修験道がたたら遺跡や、あるいは木地師の技術の源流であるということをストーリーにしていこうという形で考えてみました。この話につきましては、後山地区、岡山県で一番大きな標高の高い山、後山、その後山地区一帯、これは修験道の里としての

価値があるところでありますし、右手の木地山、右手木地山地区ということが、これは今でも木工品を生産しているところでありますが、こういった現代生活に根づいている、あるいは現代人が今近寄ったり、あるいはさわったり、あるいは考えたりする見える化がかなり進んでいるとは思いますが、そういった文化財が生きているところ、こういったところを念頭に未指定の文化財を含めてストーリーとしての構成文化財というものを捉えて、ストーリーをつくりまして申請をいたしたところでございます。

今回５月24日、文化庁の決定におきましては、残念ながら日本遺産認定には至りませんでした。残念でございますが、我々の力不足もあるやと思っております。しかしながら、日本遺産登録申請の過程におきましては、地域に眠っている文化財、これはいろんなところにいろんな文化財がもちろんございますが、これ眠っているというか、余り関心を持たれてなかったり、ＰＲが不足してたりしているようなものがあります。ここに光を当てて、歴史文化的な価値を我々の力、あるいはその地域の方々と一緒になってストーリーとしてまとめていこうという、こういう作業は文化財に対して関心を呼び起こし、郷土に対する、あるいは先祖、あるいはその近くで見聞きするものに対して郷土に対する誇りというものを掘り起こすということになりますので、大変有意義なもの、意義の大きなものだろうと考えております。

文化庁からは、日本遺産のこの対象というのは、現在に息づいて、引き継がれているものじゃなきゃいけないよと、日本遺産候補の段階で、例えばシンポジウムとか文化財講座とか、いろいろなそういった、これはある意味での宣伝活動もあり、皆さんの関心を呼び起こすものでありますが、こういったシンポジウムも開催したらどうか、そして情報発信をどんどんして、現時点での観光活性化対策を進めるようにと、つまり認定をする前であってもどんどんＰＲ活動はしてくださいよと、そのように指導を受けております。こういった活動を４年も５年もかけてやって、やっと日本遺産に認定された高知県の馬路村のような例がありましたりします。なかなかこれ大変な作業でございます。１年あるいは半年で片づくような仕事ではないということがよくわかりました。

この文化庁はオリンピック、2020年に向けまして大体100件の日本遺産登録を完成させようとしているわけでございますが、結局美作市としても見える化というような観点からしますと、余り派手なもの、桃太郎とか、そういった派手なものが余りたくさんはないところでございます。しかし、西粟倉村、あるいは宍粟市といったところ、宍粟市は兵庫県側でございますが、後山との歴史文化的な一体性が強いところでございますので、そういうところと協議を深めまして、あるいは文化庁にも記念物課というのがございますが、その担当課、あるいは岡山県の文化財課とも協議をして、いろんな助言をいただき、協力いただきながらシンポジウムの開催も一方で行いながら、31年、来年度の登録に向けて申請作業を進めてまいりたいと、そのように考えておるところでございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

和田議員。

２番（和田　広宣君）

２回目です。

来期に向かって頑張っていただくとのことであります。

そこで、お尋ねいたします。

今回の落選の原因は何だったのでしょうか。ほかにも美作市にはたくさんの文化財等がありますが、どのように検討をされていったのでしょうか。

また、今回選定された岡山、総社、倉敷、赤磐市はもちろんのこと、認定から漏れた笠岡市や瀬戸内市も

日本遺産申請の垂れ幕をかけたりとか、地域が大変盛り上がっていたように思われます。来期はオリンピックに向けてアピールするには最後のチャンスと思われます。認定に向けてどのような取り組みを検討されているか、答弁願います。

議長（鈴木　悦子君）

政策参与。

政策参与（山下　　亨君）〔登壇〕

２つ目の御質問、落選原因ということでございますが、非常にお答え、あるいは御説明しづらい部分もございますし、御説明しておいたほうがいいというものもございます。

まず１つは、恐らくこれで落選したんだろうと、つまりこれで当選したのかという多くの、多くのと言いましても67つの団体、そういったものに比べて、こちらは１つには、余り派手さがないですね。例えば後山の修験道の話をしますと、一方でアングロサクソンというか、ヨーロッパの方たちにはここは女人禁制の山なんですよ、山岳仏教の山なんですよ、そして600年代からずっと発展、宗教的な成長、進展があって、ここでは薬草とか、あるいは修験者の方たちが鉱物資源とか、そういった物たちに対する非常に多くの知識とか見識をもって住民を指導したり、地域の発展に貢献されたところですよと、そして修験道の世界では女人禁制が守られてきた世界的に珍しいところでございますよという話がもう見える化のようにぱっと目立つものであれば、これは観光政策にもなじむだろうし、日本遺産ということでの派手さが生まれるだろうと思いますが、そういうものはここではやや欠けておった。ただ、これもうストーリーのつくり方でございます。これは構成文化財を使いながらどのようにまとめていくかということでもあります。また、200件、あるいは我々がまだ探し尽くしてないものもあると思いますので、これを少し勉強を深めながら頑張っていかなきゃいかんと思っております。つまり努力が足らなかったのが落選の原因だったと、そのように私自身は思います。私自身の、山下という人間の努力という意味でございまして、美作市としては一体的によく頑張ってきたと思っております。

それから、どのような検討をされたかということにつきましての話は、これはシリアル型といいますか、この美作市がこの市域の中でこれが我が美作として有意義なんだというものを、例えば因幡街道、大原宿とか佐用宿とか、これは平福ですか、それから鳥取のほうではあそこの宿場がずっとありまして、その宿場をめぐる３県境、３つの県をまたぐ宿場を遺産にしていったらどうかといったような検討もしました。木地師の里ではいろいろな技術遺産がありますから、こういったものをほかの県と組んでネットワーク型でやろうじゃないかと、あるいは単独型では英田の長福寺さん、長福寺の三重の塔、真木山、鑑真和尚があそこにお墓があるということも言われておりますが、そういったところ、あるいは梶並神社、600年代、それからあそこに祭られている神様、当人祭なんかもございますが、ああいった梶並神社の一見こういった遺産になじむもの、あるいは宗教遺産ですね、それから湯郷温泉の遺産、その他いろいろ一件一件当たって検討してみましたが、いずれも文化庁のほうにも御相談しましたんですが、どうももう一つだなというようなことでございました。これは文化庁の方が、あ、それはいいな、そうだな、頑張りましょうと言ってくれるのを我々は楽しみにもちろん言ったんですが、ちょっとまとめ方が難しいだろうなというふうなことでございました。ところが、後山の件は、あ、いけるんじゃないですかと、いけるという言い方で、オーケーという意味じゃなくて、これはこれでまとめてごらんなさいと、お世話に乗ってあげますよということでございましたので、頑張って提出したわけでございます。そういったことでございます。

それから、もう少し派手に動いたほうがいいという意味では、これは文化庁のほうも宣伝をし、かつことしの４月からうちのほうでも、文化庁のほうの御指導もありして、観光部局でこういった日本遺産は取りま

とめる、そういった方向でやったほうがいいですよという御指導がありましたので、本市では市長の御指導で観光部門、これは商工観光課ができまして、そこに事務を移管をして仕事をするという体制になっておりまして、ただし教育委員会の文化財担当は当然学芸員の方、専門家でございます。彼がサポートをし、いろんな文献を集めるといったような応援体制を組んでおります。その体制の中から今度は各地元の方たちにもいかがでしょうか、またこういう話がありましたかとか、教えてくださいという形で地元との密着な関係をつくり、かつできれば早いうちにシンポジウムをやりまして、内外に情報発信をする、情報をあるいは集めるといったような作業をしていきたいと、そのように考えておりますので、どうぞ御期待をいただきたい、あるいは御理解のほどよろしくお願いいたします。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

和田議員の質問、若干の補足をさせていただきます。といいますのは、私なりに本件日本遺産の申請あるいは審査の途中でのいろんな情報収集とか要請とかしたもんですから、そこでわかってきたこと、あるいは和田議員がおっしゃったように岡山県南の古代吉備文化が桃太郎に化けた話、これもありますし、いろいろ見てますと、まず第一にわかったことは、この日本遺産指定についてはそんたくがほとんどないと、政治的そんたくが全くきかないということが明確にわかりました。何がきいてるかというと、今参与からも若干ありましたけども、例えば観光部局がということですね、根っこは文化財なんですけども、狙いは観光に見えてると、つまり大向こう受けを若干するように味がつくものでなきゃとらないということなんですね。恐らく岡山県南のほうも古代吉備というんで挑戦し、山城とかいろんな話をしていたんだけども、それを見に来る人がどこまでいるかというふうに考えたときに桃太郎だと言ったほうがみんなわかりやすくていいんじゃないかというような審査態度あるいは評価態度がどうも今回明確に出てるなということになります。考えますと、素材としては同じなんですね。我々として言えば、後山であったり、その近辺にある西栗倉、千種、東栗倉含めて、たたら跡のようなものが基本的には素材になるわけでありますが、それを今回はその素材が生まれた淵源が山伏であったんじゃないかと、山伏というのはその鉱脈を発見したり、いろんなことをするもんですから、淵源論で持っていった、これはどちらかというと、教育委員会の文化財施策の深掘りでいった話なんですね。どうも話としては逆の方向がよく評価される。つまり、淵源をたどって古代古代古代と、先史時代はこうだったみたいなことを言ったってわからんものはわからんだろうがという評価態度になっていて、今の子どもたちや若い人たちがそれなら行ってみようと思う着想をしっかりストーリー化する必要があるということのような感覚を受けました。そこで、私も個人的に悩んでるんですけども、じゃあ今の我が岡山県北の東部にあるたたら跡について桃太郎にかわるものは何かということになるんです。これ多分赤穂浪士だと思うんですね。赤穂浪士の討ち入りを可能にしたのがこの地域だという立て方があるのかなと、一回それでもって文科省に行ってみようとは思ってるんですよ。天野屋利兵衛ですね、御案内のように、つまり赤穂の方々が倒産をした、殿様が首になってみんな武士身分を奪われる、帯刀は武士にしか許されないわけですから、丸腰になっちゃうわけですね。丸腰だと討ち入りできないわけですよ。ですから、誰かが密造して、その武器を提供して、初めて討ち入りが成立するということでありまして、なかなか波乱に富むストーリーがあって、それをやったのが天野屋利兵衛であって、その天野屋利兵衛は捕まったけども、天野屋利兵衛は男でござると言って絶対吐かなかったと、これが西栗倉に主に伝わってる話でありますけども、そういったことをやると、ちいと受け方が違うのかなと。そこにまたその裏側にさらにそういうことができるよ

うになったのに野武士があって、野武士というのは諸国を渡り歩く忍者であったみたいなことを言うのかなとか何か思ったりはしてるんですけども、いずれにしても同じ素材を現代人の方々が多少知ってるストーリーにどう結びつけるかというところを複数考えて、事前に文化庁へ持ち込んで、こういうストーリーでどうでしょうかと言うと、ある程度協力をして、そのストーリーの磨きにも知恵をかしてくれると、こういうことをせんだって文部科学省の方と全国市長会の折にお会いをして、お話をした中の幾つかの論点の中で感じ取ってきたわけであります。簡単ではありませんけれども、諦めずにトライをしていきたいと思っておりますので、以上、補足をいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

和田議員、３回目です。

２番（和田　広宣君）

総括させていただきます。

市長から答弁ありましたように市長及び山下参与のほうも大変僕たちが知らないところで大変努力していただいていることであります。先日岡山、倉敷が、また笠岡と、登録されたときに同じ公明党の市会議員がおるわけですが、ＳＮＳでアップしてました。すごい大変盛り上がっておりました。いろいろと御苦労はあると思いますが、私も諦めずに一生懸命頑張っていきますんで、最後まで諦めずに美作市の文化財を生かした観光振興と活性化のために最後までよろしくお願いいたします。

以上で６月の私の一般質問を終わらせていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

以上をもちまして通告順番13番、議席番号２番和田広宣議員の一般質問を終了します。

続きまして、通告順番14番、議席番号１番青山慶議員の発言を許可いたします。

青山議員。

１番（青山　　慶君）〔質問席〕

それでは、議長に発言の許可をいただきましたので、私青山の６月定例議会の一般質問を始めます。

本日私の質問は４項目ありまして、１点目が、タクシー利用補助事業について、２番目が、スクールバスの使用基準について、３番目が、市内の子育て支援施設について、４番目が、高齢者の健康づくりと孤立、コミュニティナースについてを質問いたします。

ではまず、１問目から質問いたします。

昨年度実施されましたタクシー補助事業の実証実験に関するアンケート結果の概要と、今年度事業内容への影響の説明を求めます。この質問につきましては、返納後の移動について体験できないまま免許を返納することは大変な勇気が必要であると、タクシー利用することにより生活がどのように変わるか体験できるような事業であってほしいと、また昨年度はそういった事業であったという声から、質問に至った次第でございます。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）〔登壇〕

青山議員の１項目めのタクシー利用補助事業についての利用者アンケート結果と、今年度事業内容への影響についてでございますが、まずアンケート結果の概要と、今年度事業内容への影響についてでございますが、昨年７月１日から作東地域で実証実験を行いましたが、今後のタクシー利用補助制度の導入に向けた基礎資料とするため、平成30年２月に登録者262名全員に対しアンケート調査を実施いたしました。アンケー

トの結果としまして、189名、72.1%の方から回答をいただきました。かなり高い回答率となりました。アンケートでは利用者証の交付を受けた方のうち、免許証の有無、免許証を保有している方の利用率、また交付者全員に利用しなかった理由、使わなくなった移動手段、タクシーを利用する時間帯、利用目的、利用頻度、片道の乗車時間などの項目を回答いただきました。このアンケート結果から今年度６月１日から全地域に拡大いたしましたタクシー利用補助事業への影響でございますが、運転免許を保有されている方の８割以上は、利用しない、主な利用目的は、通院が８割以上、続いて買い物が４割弱を占めており、必要な交通手段であること、また補助金の補助率、半額の50%について妥当かどうかについては、７割以上の方が十分過ぎる、ちょうどよいと答えており、補助金の上限3,000円について妥当かどうかについても、十分過ぎる、ちょうどよいが７割弱の方が答えておられます。このことから、補助率と上限は変更せず、運転免許を保有している方はほとんど利用しないことから、運転免許を保有している方を対象から外しました。また、年齢については、70歳から65歳へと対象年齢を引き下げました。

次に、免許返納により生活がどのように変わるか体験できるような事業内容であってほしいとの市民の声につきましては、免許証の返納は、病気などにより運転することができなくなった方や、年齢とともに視力、聴力、記憶力、判断力、反射神経といった身体能力が低下し、何どき事故を起こすかわからないと不安がある場合などに本人や家族などの勧めで返納されると思います。このような状況がある場合、タクシーへの体験も必要であるかもしれませんが、何より取り返しのつかない事態にならないうちに対応をされることが先決と考えます。

免許証を返納された場合、おかやま愛カードの交付を受けることによりさまざまな特典があります。一例を申しますと、県内の協賛店での商品の割引、路線バスや市営バスの運賃が半額、タクシー運賃が１割引きの上に、美作市ではタクシー利用補助で割引後の半額となります。

以上であります。よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

青山議員。

１番（青山　　慶君）

状況は理解しました。まだ今年度の事業が始まったばっかりですので、今回は私の考えを述べて、終わりにいたします。

アンケートの読み方についてちょっと提言なんですけど、営利目的であれば需要が少ないから対象から外すという考え方でいいと思うんですけど、交通弱者を救うという目的であれば、むしろ少数意見に目を向けるべきであると私は考えます。私もあしたから車に乗れなくなるですとか、タクシーを利用したことがないけど、あしたからどんな生活になるんだというて不安な気持ちになると、免許を返納するのはとても勇気が要ることだと思うんですね。免許保持者が８割は利用しないとあったため条件から外されたと思うんですけど、これは逆に２割は利用すると見るべきではないかなと私は考えます。ただ、免許保持者でも認めてほしいという声は条件を変えたからこそ出てきた声だと思いますので、実証実験という名目にふさわしい現象だと思うんですよね。前年度と同じ条件を継続してたら、こういう声は出てこなかったと思いますんで、これは実験としてはふさわしい現象だと思います。ここは評価するべきところではないかなと思います。

免許保持者が利用者が少ないんであれば、タクシーの補助のための支出額を押し上げる要因にはなりにくく、それでいて自由度が高いと言えるんじゃないかなと思います。

また、質問通告した後にこの補助金額では利用できるのは比較的生活に余裕のある高齢者しか使えないという声もあり、この内容であればどうせ使えないので申請しないという方もいらっしゃいました。国民年金

の交付額を考えますと、１カ月満額で６万円ぐらいになりますが、その中で１回のタクシー利用で6,000円となると、１割使うことになりますので、これではとても月に複数回利用するのは難しいかなと思います。

アンケート結果で利用目的が通院と買い物が大半で、ほぼ生きているために必要な最低限の利用しかできてないように見受けられます。ここで思い出していただきたいのが、日本国憲法第25条でございます。第９条とともに最近社会問題にもなってますので、皆さんよく御存じかと思いますが、全ての国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有するというのが第25条の第１項の条文でございます。先ほど文化的なというところを強調したんですが、先ほどのアンケート結果からは文化的な生活のための利用に及んでないというふうに読み取れるんじゃないかなと、そうであれば交通弱者対策が行き渡ってないと言えるんじゃないかなと。例えば市内で開催されるコンサートやお祭り、文化展などへ参加するために利用されてこそ、交通弱者対策が行き渡ってると言えるんじゃないかなと思います。今月も６月30日にビッグジャズコンサートが教育委員会の後援で開催されます。そういったところにもぜひ利用してほしい、利用手段のない方はタクシー補助を使って利用していただいてこそ、行き届いた施策と言えるんじゃないかなと思います。

アンケートのやり方も、前回は登録者に対して行っていたようですが、登録しなかった人についてもアンケートができるようにしていただきたい。なぜ登録しなかったのかというところがわかるようなアンケートの仕方であるべきだと思います。

私は現状の補助では足りてないと思いますが、これは実証実験でありますので、足りてないという結果が出たなら修正すればいいと思うんですね。ＰＤＣＡを繰り返して整えていけばいいと思います。潤沢な予算があるわけじゃないので、歳出の増大につながりかねない判断は慎重になる気持ちもとてもわかります。ですが、これは使っていいお金だと思いますので、お隣美咲町では町内一律1,000円というようなタクシー補助を実施されていますが、美咲町でどれぐらいの歳出があるのかというのを参考にすれば、ある程度美作市でもどれぐらいの支出になるかというところが見えてくるんじゃないかなと思います。こちらの私を含めて５人の議員がこの交通に関係した質問をしていることと、あと陳情も出ているということを鑑みると、市民の関心が非常に高い政策であるというのがわかりますし、広い美作市で最適な制度を考えることの難しさや苦悩も一方でわかります。一議員として提言という形で応援したいと思いますので、市民から喜ばれる制度をともにつくり上げていきたいと考えております。

以上で１項目め終わります。

議長（鈴木　悦子君）

じゃあ、続けて２項目めに進んでください。

１番（青山　　慶君）

２項目めです。

スクールバスの使用基準がどのようになっているか、特に中学生の部活動における県大会出場への移動にかかわる使用との関係を明確に説明願います。

議長（鈴木　悦子君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

スクールバスの使用基準についてお答えいたします。

スクールバスは、基本原則は、遠距離通学児童・生徒の通学手段の確保でございます。登下校時間帯には別の目的で使用することはできませんが、本市におきましては、特例的に学校が教育目的に行う校外活動や部活動においては、登下校時間に影響を及ぼさない範囲において一部使用を認めております。この使用の範

囲につきましては、スクールバスの運転手の健康管理、労務管理など、安全面におきまして市内を含む30キロ未満までの利用としております。

なお、30キロを超える利用につきましては、民間貸し切りバスを使用することにしており、この費用負担につきましては、駐車料金、高速道路の通行料金を除く運行経費につきましては、市費で賄い、保護者負担の軽減を行っております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

青山議員。

１番（青山　　慶君）

２回目の質問です。

今回の質問に関しましては、今年度の春の県大会でちょっとこのルールがうまく運用できなかったようで、ちょっと行き違いがあったとのことから質問をしましたが、そこが行き違いであったことが理解されたということで、またこういったルールがあるということも知りまして、私安心しました。

再発防止といいますか、こういったルールがあるというのを再度徹底していただけてるかどうかというところを２回目の質問といたします。

議長（鈴木　悦子君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

確かに議員のおっしゃるとおりこのルール、特に中学校の部活動の負担につきましては、旧町で少し違いがあったためにそうした行き違いも一部あったやに聞いております。しかしながら、そうしたことを解消するために今回はスクールバスのこの使用について内規を設けまして、それを校長会を通してしっかりと周知をしております。今後はそうしたことはないものと考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

青山議員。

１番（青山　　慶君）

総括です。

県大会出場が決まって、顧問の先生もふだんの授業をやりながら県大会の準備をするということで、非常に大変な状況だと思いますので、テレビを見ている保護者の方がいらっしゃったら、こういったルールがあるというのも保護者のほうからも働きかけをしていただければ、なおルールの徹底につながるんじゃないかなと思いますし、旅行会社とかが逆に県大会出場を決めたところに対して営業をかけるのもいいのかなというふうにも思ってますので。

以上で２項目めの質問を終了します。

議長（鈴木　悦子君）

続けて、３項目めに入ってください。

１番（青山　　慶君）

３項目めの質問です。

市内の子育て支援についてですが、現在の小学校区ごとの市内の子育て支援施設の有無と対象年齢、今後の整備予定がどのようになっているかについて説明を求めます。

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）〔登壇〕

失礼します。

市内の子育て支援施設についてということです。

市内の子育て支援の現状ですが、つどいの広場、放課後児童クラブが該当すると思われます。

まず、つどいの広場は、乳幼児とその保護者が集い、情報交換できる場で、子育てサロンとも呼んでおります。運営は美作市社会福祉協議会に委託しており、公民館や保健センター等を利用し、曜日や時間を設定して開催されています。地域ごとにあり、例えば英田地域では、生涯学習センターを使って毎月第１、第３金曜日に子育てサロンつくしんぼが開催されています。

放課後児童クラブにつきましては、御承知のとおり小学校区ごとに設置しております。

また、障がい児など、療育が必要な子どもを対象に児童発達支援及び放課後等デイサービス事業を提供する施設が巨勢地内に１カ所あり、さらに栄町に１カ所放課後等デイサービス事業所が開設予定と聞いておるところでございます。

発達支援関係の事業所につきましては、今後も需要が増えるものと思われます。

子育て支援施設の整備計画ですが、昨今の子どもの貧困問題や後を絶たない児童虐待など、子どもを取り巻く諸問題の防止や療育が必要な児童の早期発見など、今後ますます多様化していく子育て支援ニーズに対し、具体的な対応を考えてまいりたいと考えております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

青山議員。

１番（青山　　慶君）

２回目の質問です。

先ほど放課後児童クラブという説明もありましたが、放課後児童クラブで賄えないような部分における子育て支援の今後の対応、計画などがどうなっているか、特に子どもの居場所づくりですとか、周りに相談できる、また情報交換ができる人がいない保護者に向けた施設に関してどういった今後計画持っているかというところを質問いたします。

議長（鈴木　悦子君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

失礼いたします。

まず、教育委員会で申しますと、子どものことの相談ということでは、ことし湯郷にこども園が開園いたしました。この湯郷こども園には今まで江見と勝田の保育園にございました子育て支援センターを設置しております。そこへ参りますと、専任の保育士もおり、また親子での遊び方等もそこでしっかり学ぶことができるというふうに考えております。これは今後こうしたサービスはできるだけ充実してまいりたいと考えております。

また、そのほかにも教育委員会のほうでしております放課後子ども教室、この児童クラブとよく名前が似ておりますので、間違いがちなんですが、例えば夏休み長期休業中などに宿題を一緒に集まってやると、そして専任の講師の方をそのときお願いをして、宿題を教えてもらいながら一緒に学んだりとか、これは英田の公民館や東粟倉のこれは基幹センターで行いましたが、そうした経緯もございます。そういう子どもの居

場所づくり、また今は大原公民館、専任の館長を置いておりますので、しっかりとそうした場合に子どもの居場所づくりということで、放課後気軽に立ち寄れるような公民館。私が校長しておりました学区では中学校のすぐ隣に公民館がございました。放課後公民館からちょっと子どもが帰らないのでというような電話があって、行ってまいりますと、たくさん10人ぐらいの中学生がそこへ、特にテスト期間中などは一緒に楽しそう勉強していると、楽しそうにしているのに帰れというのはかわいそうだなと思いながら、もう時間遅いから帰りなさいと、何してたのと言うと、勉強してたとか、あるいはなかなかふだんゆっくりお話できないけれど、そこでならば友達同士の話ができるというようなことがございます。そうした子どもたちが少しお互い同士交換できてくつろげるようになっていることも考えております。

また、親育ち応援学習プログラムというのがございますが、これは各学校とか、あるいはＰＴＡの研修会で実施しておりますが、そこへ家庭教育相談員という子育てのベテランの方がいらっしゃいますので、そうしたところでさまざまな、保護者が育っていく、親育ちのほうですね、そうしたプログラムも実施をしておりますので、ぜひＰＴＡにも御参加いただいて、そうしたプログラムも御体験いただければというふうに考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

青山議員。

１番（青山　　慶君）

ありがとうございます。

先ほど子どもたちが勉強して帰らないという声がありましたが、今の子どもたちはすごいなと思います。私が子どものころは余り勉強した記憶がなくて、どちらかというとゲームとかテレビばっかり見てたと記憶しておりまして、みんなで勉強するというのは非常にすばらしいことだと思いました。

現在英田から、先ほど言った子どもの居場所であったり、周りに相談できる人がいないような保護者のための居場所をつくってほしいという要望が出ております。この英田の要望出した方たちなんですけど、行政任せにせずに、自分たちで積極的にかかわろうとしております。ぜひとも市民としっかり対話をしていただいて、地域全体で子育てができるような、その子育てを通じて、先ほど教育長もおっしゃっておりました親も育つような施設をつくって、人が集まる場所をぜひつくっていただきたいと思います。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

それでは、続けて４項目めに入ってください。

１番（青山　　慶君）

４項目めの質問に入ります。

最後の健康づくりとコミュニティナースについてです。

５月13日の山陽新聞に美作の英田で活躍するコミュニティナースの活動が紹介されました。このコミュニティナースというのは、医療が届きにくい地域に定住し、高齢者を初めとした住民と日常的に接して、関係を築き、相談や病気の予防、健康意識の高揚を実践し、健康的なまちづくりに貢献することが目的であります。ひとり暮らしの高齢者が社会的に孤立しがちな人を行政、医療機関、地域とつなぐ役割を担うことも期待されております。このコミュニティナースという仕組みを自治体に取り込むことができないかということについて質問いたします。

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）〔登壇〕

高齢者の健康づくりとコミュニティナースについてということでございます。

現在上山地域を中心に御活躍のコミュニティナースの方は民間資金を原資とされまして採用され、地域のサロンや高齢者世帯を訪問して、相談を受けられています。美作市の高齢者の相談先として英田総合支所にある地域ステーションの職員とも連絡をとり合いながら活動をしており、地域の問題もともに考え、解決しようという気持ちを持ち、支援してくださっています。しかし、コミュニティナースは現在のところ職業として確立しておらず、行政とのかかわりについても模索しながら活動している状況です。来年９月まで現在の枠組みで活躍していただけると聞いておりますので、市として連携を深めながら地域おこし協力隊の制度なども視野に入れて今後のあり方を検討してまいりたいと考えております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

青山議員。

１番（青山　　慶君）

今後のあり方を検討していただけるということで、前向きな答弁ありがとうございます。

団塊世代が後期高齢者になるのが間近に迫っている中、健康寿命を延ばすための対策はいろいろ試してみるべきだと思います。御本人や地域の人たちの声を聞きますと、先ほど部長もおっしゃっておりましたが、地域のサロン活動や地域の方が月２回程度経営されるカフェに呼ばれ、何げない会話の中から健康相談につなげて、話の内容や見た目で病気の兆候がある場合は早期に医師の診察を進めたり、場合によっては同行もしているようです。地域の人の話では、行政や病院の相談窓口に行くには誰かに背中を押されないと行きづらいというところがあったり、相談に行くという行為そのものが身構えてしまうということにつながっているようで、なかなか相談窓口に行こうという行動に至らないみたいなんですけど、サロン活動やカフェであれば行きやすいですし、ちょっとお茶でも飲みに行こうかと、カフェには行きやすいですね、そこにコミュニティナースさんがいらっしゃって、活動したりお茶を飲んでいるうちに普通の会話から自然に健康の相談話になるので、かた苦しくなくて話しやすいというところと、思ってることを素直に話せるというようなところもあるようで、自分に健康に問題があることに気づけるのは非常にありがたいと、評判も上々でございました。

また、東粟倉のほうでもこういうコミュニティナースさんに来てほしいなという声、ニーズがあるというのも聞いております。

一方で、コミュニティナースというのは、きょう初めて聞かれた方もいらっしゃるかと思うんですが、認知度が低いというところであったり、自治体や病院の職員でないことから、不審がられたりですとか、個人情報にアクセスできないので、今まさに診察や治療が必要な人にアクセスできないなどの問題があるのが現状だそうです。

また、先ほどの答弁からですが、仕事内容が定まってないということで、職業として確立されてないというところで、先ほども連携を深めながらというふうに答弁をいただきましたが、市が抱える介護予防であったり、病気の早期発見への取り組みにおける問題をコミュニティナースに相談したりですとか、共同で検討することによって美作市にもメリットのある解決策の発見と、あとコミュニティナースの職業の確立に至ることもあるんじゃないかなと。

あと、協力隊の制度などもというふうに答弁がありましたが、看護師の資格を持って、かつ経験もあるというところを鑑みますと、ちょっと協力隊の待遇ではふさわしくないのかなという考えもありますが、まだ

何も決まってない状況ですので、今から選択肢をなくすと今後も展開がなくなってくると思いますので、そういったことも視野に入れていただいてもいいのかなと思います。

また、イギリスでは既に行政ではコミュニティナースというポジションが確立されているという話も聞いております。

さらに、将来的な話なんですけど、例えば滋慶学園の看護学科の研修に有効活用できるですとか、大原病院などの地元の病院の看護師が、例えばコミュニティナースになりたいとなったとき、当然そこの病院から抜けますね、抜けた後に滋慶学園からの卒業生がその抜けた穴を埋めるですとか、そういったルートも期待できるんじゃないかなというふうに考えております。

そして、地域に根づいた健康づくりと看護師の人材の循環ができるような仕組みができれば、日本でもまれな先進的な取り組みとなり、地域医療に関心の高い医師の研究対象になったりですとか、研究対象になるということは滋慶学園の大学校になるための一助になるかもしれないと、あとはそういった取り組みをしている地域ということで、ベトナムですとか海外からの滋慶学園の留学生も増えてくることが期待できるんじゃないかなと私はちょっと半分妄想に近い想像をしております。

まずは、百聞は一見にしかずと言いますので、部長、目で見て確かめることから始めるべきだと思いますので、ぜひ現地に行って視察をしていただきたいなと。また、協力隊の制度という言葉も出ましたので、企画情報課の次長なども御一緒していただければいいのかなと思いまして、私の質問を終わります。

議長（鈴木　悦子君）

以上をもちまして通告順番14番、議席番号１番青山慶議員の一般質問を終了いたします。

以上で一般質問は全て終了いたしました。

ここで10分間休憩いたします。

午後２時04分　休憩

午後２時16分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

日程第２　　議案質疑（議案第５３号～議案第６２号）

議長（鈴木　悦子君）

日程第２、「議案質疑」、議案第53号から議案第62号を一括議題といたします。

これより質疑を行います。

なお、議案質疑につきましては、申し合わせにより発言の通告者は質問席で行い、議案質疑の回数は３回までとし、一括質疑となっております。また、通告をしていない者の質疑は１議案につき１件の質疑とし、自席で行うことになっております。

なお、議案質疑は一般質問化しないようにお願いいたします。

質疑の発言につきましては、お手元に配付をしております。発言通告順により議案ごとにその都度発言を許可いたします。通告をしていない質疑につきましては、通告のありました質疑の後、お受けいたします。

初めに、議案第53号「美作市附属機関設置条例の一部を改正する条例について」、質疑を行います。

それでは、発言通告順に発言を許可します。

通告順番１番、議席番号10番岡本泰介議員。

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）〔質問席〕

それでは、議案第53号に関しての質問をいたします。

議長の許可をいただきましたので、議案第53号に関しての質問をいたします。

ここに書いてあるとおり今度の条例は委員会、協議会を一くくりにするということになっております。その理由についてお答えいただきたいと思います。

１回目でございます。

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

失礼します。

議案第53号の委員会を一括にする理由ですが、本条例改正に該当します４つの協議会または委員会は、それぞれ独立した機関として、それぞれに委員を選別し、別々に協議を行ってまいりました。このうち、地域包括支援センター運営協議会と地域密着型サービス運営委員会は現在は合同で実施するようになったために介護保険制度のもとで同様の説明と協議を３つの会議で行う形となっております。本年度から第７期の介護保険事業計画がスタートしました。介護保険事業計画策定委員会で協議しました計画のこの運営に係る協議、またその中心的な役割を担う地域包括支援センターの運営の協議、また重要な役割を持つ地域密着型のサービスの運営の審議を一括で行うことによりまして効率的で実効のある体制にするという目的で一括にしております。よろしくお願いします。

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

効率的ということを言われましたが、私はちょっと疑問があるんです。事業計画を立てるということは、これは介護を受ける人がどういうことを希望しているかとか、どうしたら介護が効率的にできるかというようなことで、計画を立てるということは非常に大切だろうと私は思います。そして、今度運営ということになってくると、運営ということは経営的なものになってくるということで、事業計画を立てることと運営、経営するということとは、相反する部分もあるんじゃないかと私は思うんですね。片一方はお金がかかることをやる、片一方は経営ということになると、少しでも効率的にして、介護保険料に響かないようにして少しでも安く、今特に高く高くなってきてるわけですから、少しでも安く効率的にできんかなということをするとこだと思うんで、利害が反するものを一つにするということは、私はこれは問題があると思っているわけです。ですから、下の２つを一緒にするのはまだいいとしても、事業計画を立てることに関してまで一緒にするというのには私は大いな疑問があると思うんですけど、その点に関してはどのようにお考えですか。

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

介護保険計画に限らず、計画の進捗状況、実効性、その結果、いわゆるＰＤＣＡサイクルというのは、どの計画につきましても必ず実行するような形になっております。この計画等につきましても、同じような考え方で計画またはその成果を検証していく必要がありますし、またその内容の実行部隊となる地域包括支援

センターの運営等についても十分見守っていく必要があると思いますので、一つにするほうがより効果的で実効性があるというふうに考えております。

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員。

〔10番岡本泰介君「今の答えはちょっと私の言っとることとずれとるように思うんじゃけど、立てりょうても余りできんようになってしまうんで」と呼ぶ〕

市長。

市長（萩原　誠司君）

おっしゃるところは必ずしもわからないわけではないんですけれども、実際に計画を実行する段になりますと、その相反していたものが統合されなければ物事が動かないんです。これはおわかりだと思うんです。相反したままでは物事が動かないんで、その計画をつくる段階でそのさまざまな議論を統一して、実行可能な計画にしていくというところのほうが恐らく効果が高いだろうということを福祉部長が言ったというふうに御理解を賜りたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員、３回目です。

１０番（岡本　泰介君）

市長は相反していてでは動かないというふうに言われましたけれども、相反したものを運営、経営して計画に沿っていったほうが介護の効率というか、サービスを受ける人にとっては都合というんか、体のためにいいわけなんですから、相反してるからといってそれが動かんからという理由は私は少し納得できない面がありますね。介護を受ける人というのは自分の体がより健康になっていくためにやってることですから、それが相反してできないといって、それじゃ運営がうまくいくかいかないかということとはまた別な問題だと私は思うんですね。ですから、私はこの条例は余りにも経営、運営という言い方になってますけど、経営に偏ったことになってくるんじゃないかなという危惧があります。多分そうならないとおっしゃるんでしょうけれども、そういったふうに介護の運営、経営が実際の介護を受ける人の要望に沿っていかないようになってくるという思いがいたしますので、この質問をしてるわけなんです。ですから、ここは介護計画とか老人福祉計画の策定というのは別にするべきだと私は思います。もう一度私の思いに対してこの３つを一くくりにするということに対しての私はそのような危惧を持って質問しているわけですので、それに対してそういうことにはこういう方法でならないんだというようなことをしっかりと答えていただきたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）

現場を余り御存じないかもしれませんけれども、議員がおっしゃるところのニーズを反映したことをやりたいということを我々も重視をしなきゃいけないんで、それが介護計画の中に反映をされないと、むしろいけないと私どもは思っております。いずれにしましても、御懸念についてはよく配慮をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

〔10番岡本泰介君「総括ですね。総括というのはないんですか」と呼ぶ〕

議長（鈴木　悦子君）

質疑３回です。

〔10番岡本泰介君「３回で終わりですね。総括ない。はい、よろしいです」と

呼ぶ〕

通告者の質疑が終了いたしました。

他に質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第53号の質疑を終了いたします。

続きまして議案第54号「美作市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について」、質疑を行います。

発言通告はございませんので、ほかに質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第54号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第55号「美作市消防団条例の制定について」、質疑を行います。

それでは、発言通告順に発言を許可します。

通告順番１番、議席番号３番岩﨑清治議員。

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）〔質問席〕

それでは、質問のほうをさせていただきます。

実は、この５月のゴールデンウイーク中、我が家の近くで人家火災がありまして、そのときの消防団の活動、感謝をいたしております。消防団についてはぜひとも充実していただきたい、そういう気持ちの中での質問をさせていただきます。

まず、第４条で消防団員の定数が2,191名、これは数字を書かれてますけれども、今現在の定数と同数ということで、一昨日、現在が1,939名と言われたんですかね、200名ちょっとの実際の定数との差がある。それで、後ろを見ると、2,191名のうち100名をラッパ隊、女性消防隊、学生消防隊、100名がそちらのほうへ行って、合計で2,191となってます。一つは、実際の状態はどうなんかなというのを非常に心配しております。といいますのが、後ろのほうにも書いてあるんですけれども、現状の状況といいますのが、本当に今現在200人以上の団員数が少ない、高齢化率も上がっているように聞いてるんです。実際災害が起きたときにこの数字で今のまま組織も何もつつかずにやっていけるのか、組織の再編をする時期ではないかなという気持ちの中でのお尋ねです。

２つ目なんですけど、条例が定めておられますけれども、機能別消防団員、ラッパ隊の隊長とか副隊長、それから女性消防隊、学生消防隊というのがあって、ラッパ隊の隊長さんなんかがラッパ隊には一番上になって、これ分団長クラスですか、なってるんですけど、女性消防隊や学生消防隊の取りまとめというかトップというのは、この役職上にないんです。どういうふうなことになってるんですかなという気持ちと、それからもちろんこの報酬を新たに決められてるわけですから、報酬審議会のほうは通されてると思うんですけど、その根拠となる、年間何日ぐらい出動して、どのような活動をされるのか、それから大きな水害等が発生した場合にこの要綱の中にもあるんですけれども、団長が必要と認めるときは出動してくださいよというふうに書いてあるんですけど、そういう部分が報酬にどの程度入ってるんか、入ってないんか、入ってなか

ったら頼みづらいというところもあったりして、どうなんですかねというのが２つ目。

３つ目は、12条の中に、これ先ほども少し触れようかなと思ったんですけど、団員数の半分についてはそこの地域からよそへ行ったらだめですよというふうに書いてあるわけです。先ほどの2,191名とかぶるところがあるんですけど、半分ということは今可搬であれば大体操法なんかですれば、４人１つの出動の場合要るというふうに理解したら、倍の８人、８人は消防団員が最低でもいなきゃいけないというのが、現状でそれもできてますか、できませんかと。もしできてないようであれば、統廃合なんかして定数までつつく必要があるんではないかという……。

議長（鈴木　悦子君）

岩﨑議員、この発言通告書の中に……。

３番（岩﨑　清治君）

などと書いてますから。

議長（鈴木　悦子君）

通告書の中に括弧して、報酬、住所、組織、第４条について。

３番（岩﨑　清治君）

などと書いてるんで。条例ですから、全部に……。

議長（鈴木　悦子君）

できるだけ簡潔にお願いします。

３番（岩﨑　清治君）

だから、言ってます。もう半分言いましたから。

それから、第12条から14条までは他の条項と違うんですよね、書き方が。見出しが……。

〔「第５条て書いとるが」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

４条。

３番（岩﨑　清治君）

第12条。だから、などと書いてるんで……

〔「いや、第５条と」と呼ぶ者あり〕

いや、条例一般と思って出してるんですけど。だめなんですか。

議長（鈴木　悦子君）

ここに４条、５条で、報酬、住所、組織などと書いてあるんですけど、今質問されているようなことがあるんでしたら、この中にもう少し詳しく書いていただかないと、なかなか……。

３番（岩﨑　清治君）

今後はします。ただ、などと書いてるんで、今度は、じゃあ条例全般と書いたら構わんわけですね。

議長（鈴木　悦子君）

それは、そういうことに……。

３番（岩﨑　清治君）

続けさせてください。

12条から14条の部分で見出しがないんですよね。普通で言えば、見出しがないというのは共通見出しというふうに捉えるんですけど、今回の部分の12条、13条、14条を見たら、めいめいの見出しができると、これは条例をつくるときに考え方変えられたんかどうかということと、19条の委任のところに必要な事項は市長

が別に定めるということになってるんですけど、今までの分を見ると、規則の定めるという書き方を普通はしてあるんですけど、規則もあわせて出されてるんで、こういう書き方はこういうふうに変えられた、これはええ悪いという話じゃないんですけど、ちょっとそこだけ聞きたいかなと。

それから、機能別消防団員は組織としてどこへ属して、誰の命令でどのように動くんか、特にラッパ隊なんかは訓練のときが主体になるんでしょうけど、女性消防もそうなんでしょうけど、学生消防なんかは避難所のほうへ行くと、それも50人おられるわけです。どこの避難所を想定されて、所属はどこで、その指示命令系統はどういうふうになるんか。

まだ聞きたいところあるんですけど、議長が言われるんで、やめます。

議長（鈴木　悦子君）

消防長。

消防長（皆木　佳久君）

全てうまく御答弁ができるかどうかわかりませんけど、できる範囲内で頑張ってみたいと思います。

条例定数は2,191名、実団員数は1,939名で252名という少ないというふうになっております。平成17年に消防力の整備指針というものが出ました。この整備指針が出る前に消防力の基準というものがありまして、この中には消防団の総数の基準というのが示されていました。その17年の消防力の整備指針以降は、これは実情に合った消防団員数にしなさいと、条例で定めなさいというふうに変わっております。現状を見てみますと、当然高齢化も進んでいるのが実情でございます。部長以下の平均年齢がこの４月１日現在で約40歳、平成20年、今から10年前が平均年齢が36歳でしたか、となっておりますので、相当平均年齢だけでも４歳も上がっていますので、高齢化が進んでいるのは事実だと思います。これに合わせて地域ごとにいろいろと消防団の組織をしていく中で、はっきり言って、活動ができないというふうな地域がございます。こういった地域は地元でいろいろと御相談していただいて、方面隊会議にかけていただき、さらに本団会議にもかけていただいて、統廃合についての協議をさせていただき、昨年実は団員の条例定数の見直しをしようと思っておりましたが、この条例、今回の学生、機能別消防団員のこともございますので、一応今回は定数はさわらずに2,191名というふうなことでさせていただいております。それで、機能別団員の算定なんですが、大体条例定数の５％が大体100名になると思いますので、その辺で加味した人数をさせていただきました。

それから、報酬の報酬審査の件なんでございますが、一応消防団の報酬につきましては、対象外ということになっておるようです。特に学生消防隊の報酬につきましては4,000円ということになっておりますので、一応対象外というふうな形になっております。

それと、女性消防隊、それから学生消防隊の指導者についてですが、ラッパ隊につきましては、ラッパ隊の隊長が分団長職扱いになっておりますので、指導するようになっております。先に言えばよかったんですが、組織的に、機能別消防団員というのは団本部の組織になります。トップは当然団長、それから副団長、本部長、副本部長の命令指揮、命令下に入るのが機能別消防団員になります。

それから、消防団員の勤務地でありますが、住所、これについては、通常の消防団員は基本団員という位置づけを今回しております。基本団員にしても機能別団員にしても、入団していただく要件には住所を置きなさいというのは入っておりません。定めておりません。広く、といいますのが、住所が美作市におられる方でもお隣の勝央町におられるとか、そういうところを加味しまして、要件にはうたっておりません。特に今回の力を入れとる学生消防隊につきましては、高校、専門学校の生徒さんを入っていただこうという考え方を持っておりますので、当然市外から通学されている方がいらっしゃると思いますので、その要件は今回はうたっておりません。

それから、12条から14条まで見出しのないということでございますが、共通見出しと考えております。11条、服務の規律、以下、共通見出しと考えておりまして、服務の規律は秩序の維持を図るために団員が有すべき義務やルールというふうに定めたものでございますので、統一的な考え方といたしまして見出しはつけておりません。

それから、委任の第19条の関係ですが、通常でしたら規則でうたうんですが、消防団の場合は別に要綱というものがございます。これを受けまして市長が別に定める、例えば今回のこの条例改正、学生消防隊員のことなんですが、これにつきまして美作市学生消防団活動認証制度実施要綱というものをこの条例が承認をしていただけましたら、この要綱も施行していきたいと思っております。簡単に言いますと、この要綱は学生消防隊員の就活に手助けをしようというようなものでございます。

以上でございます。何か漏れたところがございますでしょうか。

済みません、災害の活動の報酬の件のところに活動日数なんですが、大体４日から５日の出動を考えております。それから、水害等の対応なんですが、避難所運営の補助的なことと書いておりますが、これにつきましては、指定避難所、特に大規模災害が起きたときの避難所運営の補助に回っていただく、72時間３日を過ぎた後の避難所の運営に対して学生消防隊員の方々に御尽力をいただこうというふうな考え方を持っております。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

５条というふうに書いてますんで、特に５条の中の機能別消防団というのが中心に改正されてるというのは、これを見る限りわかるんですけども、その機能別消防団の中の定数、ラッパ隊が20、女性消防隊が30、学生が50というふうになってるんですけど、この決められた数字の根拠、逆に言えば、半数は必ず出てくださいよというのがよその条項にもあるんですけど、どういうふうな意味合いで根拠をつくられたのか。

議長（鈴木　悦子君）

消防長。

消防長（皆木　佳久君）

ラッパ隊の20という数字につきましては、現在現員数が今ラッパ隊が16名いらっしゃいます。今後増えていくということで、一応20名がラッパ隊として組織をしていく上で十分な数じゃないかなというふうに思いましたので、ラッパ隊については20名、それから女性消防隊、30名という数字でございますが、現在女性消防隊としての専属の隊員は６名いらっしゃいます。今後女性、要するに男性がお仕事を持たれて勤務をしていらっしゃる留守を守るのはやっぱり女性になってくると思います。その女性がもし有事の際にはというところを加味しまして、一応30名、それから学生消防隊の50名でございますが、これは一応５％を目指して、100名のうちから大体割り振っていきまして50名という数字を上げたんですが、今後滋慶学園の生徒さんでございますとか、林野高校の生徒さんに説明をする中で、一応50名の学生消防隊を入隊していただきまして、いろいろな活動、指定避難所の振り分け等にも50人でおれば何とか運営ができるんじゃないんかなということで、こういう数字を上げさせていただきました。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

岩﨑議員、３回目です。

３番（岩﨑　清治君）

３回目で最後なんですけど、１つは少しだけ気になるのが、ラッパ隊の部分については、例えば市外の消防団のほうとか、よその職員で消防関係のラッパ隊をされてる方がおられるとします。した場合に美作市の消防団と両方かぶることができるかできないのか、今の話であればかぶっても構わんよというみたいな気もするんですけど、かぶることができないかできるか。

それから、特に学生の部分については、女性消防とかラッパ隊については、１年のうちに必ずこの行事には出ますよというのがわかるんで、１日以上は必ず出られるでしょうという、だけど学生の場合については、訓練のときに、訓練をどこまでされるんかは別として、出られる可能性で、訓練がなければ出れない、極端な話アルバイト感覚で名前だけ出すような方がおられたような場合、住所地要件もないわけですから、そういう可能性のさび分けというか、人選というのはどのように考えられてますか。

議長（鈴木　悦子君）

消防長。

消防長（皆木　佳久君）

他市とのかぶりの団員のことでございますが、ちょっと明確にはわかりませんが、多分大丈夫だというふうに考えております。

それと、学生消防隊の活動につきましては、当然平日は学習をしていただかなければならないと思っております。ですから、終日土曜、日曜日にいろいろと行事並びに救命講習等の講習会がある場所に補助要員としての出席、参加を考えております。

なお、その人選につきましては、あくまでもこれは希望でございますので、あとは我々行政側、また団本部側の指導になろうかと思っております。

以上です。

３番（岩﨑　清治君）

終わります。

議長（鈴木　悦子君）

通告者の質疑が終了いたしました。

他に質疑を受けます。

ございませんか。

岩江議員。

１５番（岩江　正行君）

ちょっと何点かお尋ねいたします。

これ学生消防隊がもし訓練を受ける、それはよろしいがな、受けにゃいけん。それと、非常時のときには名前だけの学生消防隊なのか、非常時のときに出動するんだったら、学校との関係の話はどういうふうにされとんか、授業中を授業をほったらかして行かにゃあいけんわけじゃ。それと、終戦後高度経済成長の中で今言ようる私とこのほうでも出稼ぎ、出稼ぎで全部姫路のほうに出稼ぎに元気な人は全部出ていきょった。そしたら、年末の夜警いうてあるわな、この夜警には女性の人が夜警したり、それからおじいちゃんが夜警に出たりするようなことがありました。そうなんじゃけれども、とりあえずそれは団員が少のうなるというのは、これは大変な問題じゃけども、この辺のところ、それとやっぱし我々のときには消防団に入らなんだら一人前じゃないと言われようたんよ。それで、これ30人というて決めとるけども、30人の選考するの、地域性、これあるわな、今大原に滋慶学園来とるけん、360人ほどの生徒が来ると言ようるけん、それは今言

ようるすぐ大原のへんじゃあ間に合う。けれども、そしたら梶並のほうだったら、恐らくおじいちゃん、おばあちゃんばっかしで、恐らく学生がおらない、英田のほうもそうじゃないかと思う。そうしたときに集中するわけじゃな、生徒の関係が。そういうなやつについてどういうふうな考えでおられるんかということと、これ報酬じゃね、ほんなら一遍出動したら4,000円か、出動したら4,000円か、１年かな……。

議長（鈴木　悦子君）

岩江議員、１議案につき１件だけですので。

１５番（岩江　正行君）

１件じゃ、消防の話しょうるがな、ほじゃけん。それだったらこの議会やめなさいよ、あんた方言よんだったら。

議長（鈴木　悦子君）

１つの質疑だけです。

１５番（岩江　正行君）

何にも議会も何にも審議も何もありゃあせんがな、これだったら。聞きょうんじゃから。

議長（鈴木　悦子君）

前もって質疑を出してください。

１５番（岩江　正行君）

質疑を、ない人は言うてくださいと言ようるから言よんじゃから。おかしなことを言いんさんな、ほれで。

議長（鈴木　悦子君）

最初に１議案、１つだけです。

１５番（岩江　正行君）

もうそういうこっちゃ、答弁。

議長（鈴木　悦子君）

消防長。

消防長（皆木　佳久君）

岩江議員、１つ、学生消防隊というのは基本はっぴを着せません。現場活動、基本的に火事は消しに行きません。要するに、火災予防の啓発活動、それからうたっております避難所運営の補助、こういったソフト面に従事をしていただくということで、実際の本火災についての消火活動には学生消防隊を当たらすようには考えておりません。

それと、費用弁償といたしまして、１回につき1,000円というのをお支払いしようというふうに思っております。

議長（鈴木　悦子君）

よろしいですか。

岩江議員、２回目です。

１５番（岩江　正行君）

言えと言うたり言うなと言うたりな。

議長（鈴木　悦子君）

今の質疑１件につき答弁がありました。

１５番（岩江　正行君）

消防の話をしょんじゃから、言葉をほんなら皆ここはか言われんということだけ言いんさいよ。

議長（鈴木　悦子君）

２回目です。

１５番（岩江　正行君）

初めがありゃあしまいがあるんじゃ。説明しょうるわけじゃから。

議長（鈴木　悦子君）

今の皆木消防長の答弁に対して質疑がありましたら。

１５番（岩江　正行君）

それで、ほったら早う言うたらパフォーマンスみたいなもんじゃな、これ。頭だけこしらえて、ほれで予防の関係のやつだけするんじゃ。予防だったら、予防するんだったら、わしが思うんだったら、ほんなら大原に滋慶学園の生徒がおる、勝間田高校の生徒もおる、こっちから通ようる人もおる、林野高校もおる、津山へ行きょうるもんもおる、この地域の美作市に在住の生徒さんたちに予防教育というのを徹底したほうが、これは頭を決めるんじゃなしに、より効果的に火の用心しましょうというような形の中でより効果的にできるんじゃないんか。そういうふうに思います。

議長（鈴木　悦子君）

ありますか、答弁。

〔15番岩江正行君「言ようることようわからん」と呼ぶ〕

ありませんか。

答弁がないようでございます。

ほかに質疑ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第55号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第56号「市道路線の認定について」、質疑を行います。

発言通告はございませんので、ほかに質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第56号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第57号「市道路線の変更について」、質疑を行います。

発言通告はございません。

他に質疑を受けます。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第57号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第58号「美作市過疎地域自立促進市町村計画の変更について」、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第58号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第59号「美作市内の辺地に係る総合整備計画の策定について」、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第59号の質疑を終了いたします。

次に、議案第60号……。

入りかけたんですが、ここで10分間休憩いたします。

午後２時52分　休憩

午後３時03分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

続きまして、議案第60号「平成30年度美作市一般会計補正予算（第２号）」について、質疑を行います。

この議案第60号につきましては、質疑が重複した質疑がたくさんあります。後から質疑をされる方はそのあたりのことを考慮して質問するようにしていただきたいと思います。

それでは、発言通告順に発言を許可します。

通告順番１番、議席番号４番岡野鉄舟議員。

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）〔質問席〕

順次させていただきます。

一般質問化しないということは局長からも言われましたんで、どうしても質疑を有効にするものは若干説明をさせていただこうと思いますが、まず第１番目、５ページの第２表債務負担行為補正、１、追加、美作クリーンセンター長期包括運営業務委託32億円についてでございます。

６点ございますが、第１点、美作クリーンセンター設置に関する基本協定の遵守についてでございますが、手元に美作クリーンセンター設置に関する基本協定、私持っております。そこの項目の６のところに地域住民等に対する情報公開の促進というものがございます。読んでみますと、市は住民説明会や話し合いを積極的に開催し、施設設置と運営に関する知識を得る機会を設けることに努めるとともに、情報公開を積極的に行い、関係法令及び指導通達等に従い、住民の不安解消と理解促進を図るものとするとございます。これは26年６月に地元地区と市と交わされた協定でございますが、これがどのようになされてきたかということを第１点にお伺いしたいと思います。この協定は今回の補正予算で出されているこの本契約に関する前提になるものでございますので、お尋ねをしております。

もう一つ、項目の12というのがございますが、紹介をさせていただきます。各種委員会の設置等ということで、その中に２つあるんですが、クリーンセンター施設等運営委員会、市及び地元のほか、近隣の利害関係者並びに市と地元が認めた市民により構成し、本件施設の諸課題について協議をするとなっているわけなんですが、これが協定が締結されて以来開催されてきたのかというあたりをお答えいただきたいと思います。

それから、２つ目でございます。

１人当たりの負担額及びこの負担額の妥当性をどのように考えていらっしゃるかというのが２つ目でございます。

そして、３つ目でございますが、長期包括運営業務委託契約と現在の契約の違いでございますが、念頭に置いてお答えいただきたいのは、運転管理、そしてユーティリティー経費、つまり設備消耗品とか薬品、それから燃料等の調達についてでございます。

そして、３番目、補修でございます。冒頭にお話しすべきでしたが、公共人件費とも含めまして、そのあたりが現契約とどのように違うかということをお答えいただきたいと思います。

そして、４つ目でございますが、長期包括運営業務委託に当たりポイントとなる点は何かということをお答えいただきたいと思います。

そして、５点目でございますが、要求水準書は、担当部、つまり市だけでつくるのかということでございます。

そして、６番目ですが、今回は債務負担行為ということで出ているわけなんですが、長期包括運営業務委託の実施のプロセスといいますか、手順はどのようにお考えかということをお聞かせいただきたいと思います。

続きまして、歳入の13ページでございます。

美作市財政調整基金繰入金２億6,779万6,000円でございますが、今議会時点でこの財調をこれほど多額に繰り入れをされる理由、そして２つ目ですが、これの充当先をお教えいただきたいと思います。

続きまして、歳入、13ページの款20諸収入でございますが、節はジビエ倍増モデル整備事業貸付金収入7,692万3,000円、関連のものでございますが、一例読み上げますと、同じくその13ページの諸収の中のジビエ倍増モデル整備事業負担金6,232万5,000円、今度は歳出の21ページをお開きいただきたいと思います、農林水産業費の中の節の負担金ですが、ジビエ倍増モデル整備事業負担金6,232万5,000円、同じくこの21ページの款の６でございますが、節はジビエ倍増モデル整備事業貸付金7,692万3,000円でございますが、これら２つの歳入と２つの歳出につきまして数字が同じでございますので、関連性があると思っておりますが、次の点をお答えいただきたいと思います。これら歳入歳出の当事者とその資金の流れを御説明いただきたいと思いますが、そのポイントは、誰から負担金を取って、誰に負担といいますか、19節で出すのか、そして２つ目は、誰がどこに貸し付けをして、誰から返してもらうのか、そして３番目は、誰が工事を行うのかということでございます。

今度は質問の内容は変わりまして、なぜこの時期に唐突にこのような仕組みもわからない予算が本会議に上程されるのかということでございます。

そして、３番目でございますが、設置場所はどこかということでございます。

続きまして、内容は変わりますが、同じく歳出の21ページの中を見ていただきまして、外国人技術実習生受入事業補助金400万円、お聞きしたいのは、これまでの実績、２つ目は、いつも不思議に思うんですが、なぜこれを市から出さなければいけないという裏返しの質問なんですが、財源として企業からどうして負担金をいただかないのかということが２つ目でございます。

そして、３つ目は、制度の現状と課題を教えていただきたいと思います。

それから、同じく歳出、21ページの款７項１目３節19の美作市観光振興協議会補助金300万円が計上されてるんですが、これの補助対象経費が何かということと、何ゆえこの金額になるのかということでございます。

そして、同じく歳出の21ページの中の款の７、項の１、目の６、節の８指定管理者選定委員会委員謝礼金１万円ということになってるんですが、どの施設を指定管理に出すということで予定をされているのかでございます。

同じく、歳出、21ページの款の７項１目６節15の工請の740万円ですが、どこに何をするのかということでございます。

それから、同じページで目までは同じですが、節18で備品購入費が161万円あるわけなんですが、何を購入するのかということでございます。

最後に、歳出の26ページをお開きいただきたいと思います。

款10項６目１節19岡山Ｂｅｌｌｅ支援補助金1,000万円が計上されておりますが、お聞きしたいのは、何に充てるのかと、そして２つ目は、なぜこの金額になるのか、そして３つ目は、湯郷Ｂｅｌｌｅの現状分析をどのようにしてるかということでございますが、順次お答えいただきたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

環境部長。

環境部長（宿野　豊彦君）

失礼します。

まず、私からは１番の補正予算の５ページ、第２表の債務負担行為補正についてでございますが……

〔「もっと大きい声で言って」と呼ぶ者あり〕

美作クリーンセンター設置に関する基本協定の遵守ということで、まずこの協定ですけども、美作クリーンセンターに設置する基本協定は産業廃棄物の処理及び清掃に関する法律第９条の４の遵守ということで、周辺地域の生活環境保全及び増進に配慮することを目的としており、関係法令や施設規模の範囲内での施設運営を遵守することとされております。

それで、先ほどありました岡野議員からの質問ですが、基本協定の６の地域住民等に対する情報公開の促進ということで、それとその中で各委員会の設置について何回開催されたかということでございますが、情報公開につきましては、まず年に４回、13地点の環境測定で大気を春、夏、秋、冬の４回測定をしております。それから、土壌調査を年１回調査しておりまして、それをデータが出ましたら区長のほうに４地区の、矢田と河内と杉原と豊久田の区長のほうに報告をしております。

それで次に、委員会の会議ですけども、クリーンセンターの施設等の運営委員会は設置してから２回開催をしております。

それで、このほどのこの債務負担行為は本基本協定に抵触するものでないと理解しておりますが、今後においても基本協定を遵守してまいりたいと思っております。

それから次に、１人当たりの負担額及び負担額の妥当性についてでございますが、まずこの長期包括運営業務委託に係る１人当たりの負担額については、西粟倉村も含めまして29年３月末の人口が２万9,524人で、年間で１人当たり約１万800円となります。

それで、負担金の妥当性についてでございますが、まず他施設の例でございますが、規模が美作市の３分の１の近隣の施設で、焼却施設の運転管理を包括委託している施設では、１人当たり年間約8,200円の負担になっております。

〔「場所はどこですか」と呼ぶ者あり〕

和気です。和気町。

それと、人口が同じぐらいな同規模の施設の例によりますと、焼却施設だけの運転管理だけで１人当たり

年間8,900円の負担となる施設もあります。美作市では先ほどの１万800円のうち、焼却施設の費用割合は75％で、金額にいたしまして8,100円となります。契約内容が違うために比較はいろいろと難しいんですけども、他の小規模施設と比較してもほぼ同じの金額となっております。

それから次に、長期包括運営業務委託契約と現在の契約はということで、まず運転管理についての差についてでございますが、現在は焼却施設の運転だけの契約であり、長期包括運営業務の内容は焼却施設とマテリアルリサイクル推進施設の運転及び機械、機器などの法定点検や修繕も含まれた契約の内容となります。

それから、ユーティリティー経費の点での差についてでございますが、ユーティリティー経費は現在の契約に今入っておりませんが、今度の長期包括運営業務委託の中には含むものとしております。

それから、補修の点での差については、補修が起きたときにその都度予算化するのではなく、包括委託することにより民間事業者の工夫により計画的な補修が行え、緊急時においても迅速な対応ができ、安全管理機能の低下を防ぐことができると思っております。

次に、長期包括運営業務委託の中に……

〔４番岡野鉄舟君「公務人件費はどうですか。公務人件費を僕言ったんですけど、今質問しましたが、どうですか」と呼ぶ〕

人件費ですか。

〔４番岡野鉄舟君「運転管理とユーティリティー経費と保守は今答えられたんですけど、要は人件費ですよ。公務人件費はどうなるんですか」と呼ぶ〕

下がります。委託することによって行２の職員が減っていく中で、それをある程度委託していく中で減ります、若干ですけど。

〔11番山本雅彦君「２人でやりとりするな、こっちはわからんがな」と呼ぶ〕

済みません。

それから次に、長期包括運営業務委託に当たりポイントとなる点はということで、先ほど言いました将来的な職員減少に伴う対策でもあり、委託業務の内容が安定した施設の稼働が維持できる内容であることと、それから業者選定に当たっては安易に金額だけで業者選定をするのではなく、会社の力量や要求水準書に沿った技術提案ができる業者を選定すること、それから複数年契約にすることにより民間事業者の創意工夫による業務運営により年度ごとの負担の平準化とコスト削減が図られると思います。それから、受託者の監視体制を強化することにより安定的な施設稼働が担保できることなどがポイントになる点だと思います。

それから、要求水準書は担当部でつくれるのかということでございますが、要求水準書の作成に当たりましては、後にも出てきますけども、委託の補正もさせていただいておりまして、その専門的立場から支援を受けながら作成していきたいと思います。

それから次に、長期包括運営業務委託の実施のプロセスはどのようになるかということでございますが、まず募集要項、要求水準書、業務委託契約書の案ですけども、案と、それから業者の選定審査基準書などのまず公表資料を作成いたしまして、できれば８月下旬ぐらいには公募型のプロポーザル方式による報告を行いたいと思っております。それで、１次審査では参加資格の審査を行いまして、２次審査で参加資格者からの参加見積書や技術的な企画提案書によりヒアリングを実施いたしまして、最優秀提案者に選定して、協議を行いまして、12月末までには業務委託を締結したいと考えております。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）

私のほうは、歳入、13ページ、款18項２目１節１財政調整基金繰入金２億6,779万6,000円についての御質問にお答えをさせていただきます。

まず１点目、今議会時点での繰り入れの理由ということでございますが、通常でございましたら、不足する財源といたしましては、市税、地方交付税、繰越金などを歳入とするところでございますが、現時点ではこれらの決算額が確定していないことから、財政調整基金で対応するというものでございます。

２点目でございます。

充当先の内訳ということでございますが、昨年の12月議会でも同様の御質問がありまして、お答えをしたと思いますが、財政調整基金繰入金につきましては、一般財源でございまして、充当先という概念はございません。不足する一般財源を補うために今回繰り入れをするというものでございます。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）

それでは、③の歳入、ジビエ倍増モデル整備事業貸付金収入、それから④の同事業負担金、歳入ですね、それから⑤、歳出の同事業負担金、⑥、同事業貸付金について答弁させていただきます。

ジビエ倍増モデル整備事業は美作有害獣利活用研究コンソーシアムというものが事業主体となって事業を行う国庫補助事業でございます。それで、計上しております予算は美作市分ということになります。それについて流れでございますが、事業実施はコンソーシアムがしますので、コンソーシアムの収入は国庫補助金と、それから市からの負担金ということになります。この拠点整備事業に係る国庫補助率が55％ですので、45％分が市の負担となります。それが⑤、歳出、Ｐ21、款６項２目２節19のジビエ倍増モデル整備事業負担金6,235万2,000円です。しかし、事業実施には国庫補助金をコンソーシアムのほうが収入するまで運転資金が必要なため市から国庫補助金相当額を限度といたしましてコンソーシアムに貸し付けて事業を行います。それが⑥の歳出、Ｐ21、款６項２目２節21の貸付金7,692万3,000円でございます。そして、事業実施をしまして、コンソーシアムが国庫補助金を収入しますと、貸し付けておった資金が不要になりますので、それを市に返還します。それが③の歳入、ページ13の款20項３目１節１同事業の貸付金収入7,692万3,000円でございます。そして、美作市分の負担についてですが、これが美作市獣肉処理施設の指定管理者でありまして、コンソーシアムの構成員にもなっている大黒天物産株式会社から全額負担していただくということになっております。この負担分が歳入、④ですね、ページ13、款20項５目７節１同事業の負担金6,232万5,000円でございます。

そして、工事の発注とかはコンソーシアムが、美作市が工事を発注する例に倣って業者を選定して発注するというふうに考えております。

それから、なぜこの時期に補正かということでございますが、このモデル地区に選定された流れを申し上げますと、本年１月に農林水産省においてジビエ倍増モデル地区の公募があり、美作有害獣利活用研究コンソーシアムとして応募をしました。そして、３月に同地区のマスタープランの採択通知をいただきました。そして、割り当て内示が４月18日にあったことから、今回補正予算に計上しているものでございます。

それから、設置場所につきましては、減容化施設などの設置場所でございますが、平福にあります美作市獣肉処理施設、この施設と同一敷地内に整備する計画にしております。

続きまして、⑦、歳出、ページ21、款７項１目２節19の外国人技能実習生受入事業補助金400万円でござ

いますが、当初が骨格予算編成ということで、当初予算に計上しておりませんでした。これまでの実績ですが、平成28年度に４名、29年度に３名ということで、合計７名となっております。

そして、企業からの負担でございますが、この事業は補助対象事業費の３分の２をみまさか商工会に補助して事業実施しておりますが、残りの財源については企業から負担をいただいているということになります。

また、現状と課題ということですが、この制度は団体管理型の外国人技能実習生受け入れの経費の一部を補助することで市内企業の発展を目指すものでございます。企業からはベトナムからの技能実習生の受け入れについては増員したいということがありまして、今後も企業からの要望にお応えできるよう応援してまいりたいというふうに考えております。

なお、受け入れ事業によって実習生が増えておりまして、補助率を今３分の２でございますが、これを下げていくことが課題となっているというふうに考えています。

それから、⑧、歳出、Ｐ21、款７項１目３節19美作市観光振興協議会補助金300万円でございますが、当初が骨格予算編成ということで、追加をさせていただきます。２つありまして、１つは、美作周遊観光バスツアー補助金100万円です。これは当初予算に100万円を計上しており、この補正で後期分100万円を追加するものでございます。そしてあと連泊補助金として200万円を計上しております。これは前年度と同額で、昨年は国民保養地指定記念事業として同額の200万円で実施しましたが、30年度においても同額を計上しております。

それから、⑨、歳出、ページ21、款７項１目６節８指定管理者選定委員会謝礼金１万円でございますが、指定管理者選定委員会の謝礼金で、開催１回を予定しております。観光施設では今年度作東バレンタインホテルなど、５施設について管理者の選定を要することから、計上させていただいております。

それから、⑩、歳出、ページ21、款７項１目６節15工事請負費740万円でございますが、能登香の里小房、こちらの研修施設でございます。通称能登香の家という施設がございますが、宿泊ができる施設でございますが、現在シャワーのみでお風呂がないということがございます。そのため現在ある男女のシャワーブース、各３室のうち２室分を撤去して、そこに浴槽と洗い場、それぞれ男女について設置する工事を行うものでございます。

それから、⑪に参りまして、歳出、ページ21、款７項１目６節15備品購入費161万円でございます。作東バレンタインホテルの厨房機器４台をガスレンジなどを更新するものでございます。機器が老朽化していることから計画的に更新をしていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部次長。

企画振興部次長（平田　幸春君）

失礼いたします。

私のほうからは歳出、26ページ、款10、項６目１節19岡山湯郷Ｂｅｌｌｅ支援補助金について答弁させていただきます。

何に充てるのか、なぜこの金額になるのか、湯郷Ｂｅｌｌｅの現状分析をしているのかとの御質問ですが、今回補正予算に計上しております岡山湯郷Ｂｅｌｌｅ支援補助金1,000万円につきましては、平成29年度から２部リーグへ降格した岡山湯郷Ｂｅｌｌｅが早期に１部リーグへ復帰していただくためチームの強化を図るための費用としてＶ字回復支援補助金として交付するものでございます。

まず、何に充てるのか、なぜこの金額なのかについてですが、この補助金は早期に１部リーグへ復帰するため選手、コーチの獲得、チームを強化させるための合宿の遠征費用等に充てるものとして1,000万円としております。

次に、湯郷Ｂｅｌｌｅの現状分析を行っているかについてですが、本年度の補助金交付に当たって設立時から運営母体、本市の補助金の推移や過去数年の収支の状況を確認いたしております。収入の主なものは、スポンサー収入、本市からの補助金、会費収入、入場料となっておりますが、特にスポンサー収入につきましては年々減少しており、本市の補助金に依存する割合が高くなっているところでございます。また、平成26年度に経営母体が一般社団法人化となり、同年になでしこリーグ、レギュラーシリーズですが、優勝したことなどの理由と思われます大幅に選手が増強されるなど、経費がかさみ始め、平成28年、29年の単年収支が赤字になっております。平成29年度はスポンサー収入が少なくなる中、本市のＶ字回復支援補助金により選手、コーチの獲得、チーム強化の遠征を行っており、経費の見直しなどにより単年収支は改善されております。

岡山湯郷Ｂｅｌｌｅは長年市民とともに応援してまいった大切な宝でございます。早期に１部復帰を願う思いは市民も同じものと思っております。早期に１部リーグへ復帰するため選手、コーチの獲得、チームを強化させるため岡山Ｂｅｌｌｅを応援するという意味を込めましてＶ字回復支援金を計上したものでございます。

議長（鈴木　悦子君）

２回目です。

４番（岡野　鉄舟君）

２回目。

第１点の情報公開といいますか、やはり地元に御協力をいただいたからできとるというふうに思いますので、違った意見も仄聞で入っております。なかなか情報公開、それから委員会もできてないというのは私の耳に入っておりますが、今部長の答弁では２回開催されてるということを信じますが、ぜひそれはやはり地元あってのこういう行政施設なんで、これは努めていただきたいと、そういう願いを私は聞いております。

２つ目の質問についていたしますが、１人当たりの負担額及び負担額の妥当性なんですが、人口西粟倉と合わせて２万9,500人、１万800円なんですが、和気町と比較されたんですが、やはり私ども美作市が一番関連のありました津山広域、１市５町ですか、そこの金額が私98億数千万円というふうに聞いております、20年で。これ単純計算をしてみますと、津山市の場合は3,100円ぐらいにしかならないんですね、１市４町の人口割をしてまして。今部長が言われた美作市の場合は１万800円ですから、物すごく乖離があります。これがどうしてこれほど乖離があるんかなという感じがいたします。私の家族で言えば、子どもが今結婚して外に出ておりますので妻と２人なんですが、仮に１万数百円でとすれば、１年に１万5,000円ぐらいかかる、それ10年であれば15万円ぐらいかかると、４人家族であればその倍になるというわけですから、これは極めてこの額が和気町と比較して妥当性があると言われたんですが、私はどうもそれが腑に落ちないというか、合点がいきません。本来債務負担行為の補正額自体は１円ぽっきり出てくるという場合は僕は多いと思うんですが、限度額の場合ですね、これは32億円ちょっきりというのが非常に私は疑問を持ちます。それは後のところで関連して出てくるわけでございますが、この32億円というのは何をベースに計算をされたのかというのが２つ目の質問でございます。

続きまして、３つ目の質問との関連なんですが、後ろの方のほうから２人でやりとりをするなと、こう言われましたんで、改めて質問させていただきますが、この業務委託契約の中には公務人件費というのはどの

くらい計上されてるのか、少なくなるとは言われたんですが、その辺を改めて質問をさせていただきたいと思います。

それから、４番目の質問ですが、私がお聞きしたのは、この長期包括運営業務委託をするに当たりポイントになるのはどこかと、僕はそういう質問をしたんですが、部長のお答えになられたのはメリットであろうと思うんですが、やはり委託契約をつくる場合に予算で七、八百万円の予算を出しておられるようなんですが、ポイントはもっとほかにあると思うんですね。それをどう考えられますかということを改めてお聞きしたいと思います。

それから、５つ目の要求水準書の内容なんですが、これも委託をされるということなんですが、やはりつくる以上は頼むほうとして何に視点を置くかということを考えておかないといけないと思うんですが、この辺を丸投げにするんじゃなくて、何が要求水準の中では必要かということをお答えいただきたいと思います。

それから、プロセスにつきましては、８月に総合評価方式をやられるということなんですが、以上、何点かお聞きしましたので、再度お答えをいただきたいと思います。

それから、財調のことなんですが、先ほど部長は現時点で発表しとらんからということを言われましたが、部長、そんなことを言えるんでしょうかね。昨年の平成29年度の当初予算の補正の繰越金で６月補正で2,710万5,000円、第１回目の補正財源として充当しているわけです。最終的には12月補正段階ですが、９億8,269万8,000円と、約10億円近い補正になってるんです。ですから、公表してないからということは言えないと思いますよ。あら探しでありませんが、逆の質問するとすれば、去年の６月補正段階では公表しとらんのだけど１回目の充当をしたんかという、こういう質問になります。改めて御答弁をいただきたいと思います。確かに財調は繰越金と並んで一般財源を補足財源をする大事な財源でございますが、私の思いとすれば、ここは毎年大体10億円ぐらいの実質収支額があるので、繰越金の補正ができると思います。つまり前年度から繰り越しをためたものをまた出すという、そういうことじゃなくて、ちゃんとした繰越金の補正をしてやるべきですよ。ということで、お答えをいただきたいと思います。

次に、経済部長にお聞きしますが、これ、部長、大変な問題です。どういった点が問題かと申しますと、どうも、部長、財政課長もされてるわけですから、指定管理者から雑入の中で６千数百万円を取り、それをコンソーシアムに出してるんですが、直接コンソーシアムから僕はもらったらいいんじゃないかなと、なぜ市の予算に歳入をして、その19節で出さなきゃいけないんかということ、これがどうも、私は財政それほど詳しくありませんが、腑に落ちませんね。

それから、きのうの岩﨑議員の質問とも関連しますが、コンソーシアムであれ、指定管理者が工事をするんであれ、地美恵の郷の底地は市の所有権ですね。そこにどうしてコンソーシアムであれ、今回コンソーシアムと言うんですが、要するに国庫補助金を１億4,000万円ぐらい取って、どうして他人の土地である美作市のところに工事ができるんですか。これはどういった問題があるかといいますと、箱物を整備する段階で他人の土地の上に自分の金でするということになるんですよ。これは非常に問題があると思います。

そして、２つ目の問題なんですが、これはどうしてもお話をしなければいけません。地美恵の郷の会議録と関係のものを私は情報開示請求をしたんですが、そこの17ページ、これ大変なことを言っておられます。福原委員長と遠藤副委員長のときなんですが、市の施設の中に違う会社の財産ができるようになるんでと、そして遠藤副委員長はどう言っておられるか、それはぐあいが悪いと、ついには買い取ってもらわなきゃいけないと、福原委員長は、その辺は下準備ということをお願いしたいと思います、これは大変なことですよ。もうちょっとわかりやすく言うとすれば、遠藤部長の御自宅のへりに私がその敷地の中に僕の建物を建

てるということです。こういった大きな問題がございます。そこで、これは私は何も一般化して言ってるんじゃなくて、そういう指定管理の延長線上にある大事な問題なんです。この辺をどう考えられるかということを改めて教えていただきたいと思います。

それから最後に、湯郷Ｂｅｌｌｅなんですが、私は昨年９月ですか12月に、1,600万円の補正が出たときに私は質問いたしました。そうしますと、市民の方から私のところに電話がございました。え、岡野さん、湯郷Ｂｅｌｌｅに3,200万円も出してるのか、もう私は今まで知らなんだと、いい質問をしてくださったと、こういうお話があったんです。私もサッカー場の近くですから、湯郷Ｂｅｌｌｅはずっと応援をしております。宮間、福元選手ともよく話をし、前のＧＭともよう話をしております。湯郷Ｂｅｌｌｅは応援をしてるんです。ただ、それとは別に予算執行する段階ではそれなりの理由が要ります。もしこの補正財源の1,000万円を含めるとすれば、3,200万円の中で300万円は岡山県のトンネルの補助金です。残りの2,900万円が市なんですが、私が一番気にかかるといいますのは、補助はしなければいけないんですが、もう少し自助努力をしてもらうように出しとる補助金を出す以上はちゃんと言わなきゃいけないと思います。ちょうど２週間の前だったと思いますが、秋田県ですか、Ｊ１かＪ２だったかわかりませんが、そのフロント人が要するにサポーターという、観客を物すごく、まず隗より始めよで頑張ってやっていらっしゃるんですよ。最近ボランティアの人から聞けば、今は350人前後です、観客は。これでは選手はやる気が起こりません。やはりこういったこともフロント人に対してどうかということを自助努力をせえということは言わなきゃいけないと思います。長うなりましたが、質問なんですが、申しわけないんですが、平成30年度の湯郷Ｂｅｌｌｅの予算額は幾らかということをお聞きしたいと思います。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

環境部長。

環境部長（宿野　豊彦君）

失礼します。

まず、最初の津山との比較なんですけども、津山についてちょっと一応試算もしとんですけども、津山はまず契約の形式も違いまして、まず設計から施設の建設、そして運転管理業務までの一連の業務を一括して委託方式で契約をしております。それで、その中で試算いたしましたら、１人当たりが年間、うちがしたのは3,500円の負担となっております。それで、規模が、まず津山の場合はもう日当たりの処理量が128トンと、うちの場合が日当たりが34トンと、これは焼却施設ですね。結局４倍弱、3.何倍と、リサイクル施設については、津山が38トン、うちが7.9トンで、これが５倍強の施設です。それで、焼却場につきましては、必ずしも運転管理が焼却施設の規模や人口に比例するわけではなく、小規模施設においても最低限の費用はかかるわけで、人口の少ない市町の小規模施設においての１人当たりの負担額は割高になると思っております。

それと次に、32億円はどうして出されたかということでございますが、美作クリーンセンターの包括運営業務委託を実施するに当たりまして、民間プラント企業から見積もりを徴収いたしまして、そのうちの燃料費や光熱費などの用益費とか、法定検査、測定費用及び消耗品については、平成27年度と28年度実績額を採用して、人件費については見積もりによる必要人数に標準単価を掛けまして算出をしております。また、補修整備につきましては、10年間に要する費用について見積額を採用して、これらを足し合わせて全体金額を算出しております。

それで、どうしてきちっとした数字になっとるかということもありましたんですけども、税抜きで一応計

算しまして、29億円をちょっと切れた金額なんですけども、来年度から10月から消費税が10%に上がる予定なんで、1.1倍して、それを切り上げて32億にさせていただいております。

次に、公務人件費でございますが、この公務人件費いうのがちょっとよくわからないんですけど。

〔４番岡野鉄舟君「要は人件費です」と呼ぶ〕

人件費については、うちの職員の人件費が包括委託をすることによって10年で年間に4,000万円ほど減る予定です、トータルで10年。そのかわりその委託部分が向こうの包括の中に人件費が入ってくる、委託の中に、管理会社のほうへ行くんで、ちょっとその差し引きまではちょっと計算はしてないです。

〔４番岡野鉄舟君「まだ答弁が残っとる」と呼ぶ〕

議長（鈴木　悦子君）

ほかのをしてしもうてからにしてください。

〔市長萩原誠司君「間違うとる」と呼ぶ〕

環境部長（宿野　豊彦君）

済みません。

続いて、次のポイントについてですが、水準書に沿った技術提案ができておるということと、会社の力量を一番のポイントとしたいと思っております。

それから、要求水準書……。

〔４番岡野鉄舟君「要求水準書のつくるポイントはどこですかというん」と呼ぶ〕

〔15番岩江正行君「議長、休憩しちゃんねえ」と呼ぶ〕

議長（鈴木　悦子君）

先ほどの人件費について市長のほうからお答えしますから。

市長（萩原　誠司君）

お尋ねはこの長期包括運営業務委託費の概算の中に公務人件費が入ってるかという質問であります。これ入っておりません、当然ですが。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

じゃ、ここで10分間休憩します。

午後３時54分　休憩

午後４時18分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

大変長い間お待たせいたしました。御迷惑をおかけいたしました。

それでは、答弁から入ります。

環境部長。

環境部長（宿野　豊彦君）

どうも済みませんでした。

まず、先ほどの長期包括運営委託に当たるポイントという点でございますが、技術力のある職員が年々減っていく中で安定した運転をするためにこの包括がどうしても必要となってくると思っております。

それから、要求水準書についてですが、水準書の中に一番のポイントですけども、今の施設を継続して安定した運転ができる業者を選定するためのことを一番に考えて入れていきたいと思っています。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）

失礼します。

岡野議員の２回目の基金繰入金の関係の御質問でございますが、基金の繰り入れのかわりに繰越金を計上したほうがいいんじゃないかという御質問でございます。本年度平成30年度当初予算におきまして３億4,000万円の繰越金を計上させていただいております。そして、ここで基金の繰入金２億6,700万円という金額、合計しますと６億円を超えるという金額になってこようかと思います。そうした場合仮に10億円の収支差し引きができましても、半分につきましては基金に積み立てるか、あるいは繰上償還に充てるということがございますので、10億円あっても５億円までしか使うことができないというものでございます。そこで、このたびにつきましては、まず財政調整基金を取り崩して繰り入れして対応しておくと、当然議員がおっしゃるとおり市税、地方交付税、繰越金が確定しまして、増額補正ができるということになりましたら、当然その部分につきましては取り崩しを減額するという予定でおりますので、よろしくお願いいたします。

議長（鈴木　悦子君）

いいですか。

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）

ジビエ倍増モデル整備事業ということで、まず負担を大黒天物産のほうから得ることでございますけど、いろんな考え方があると思います。コンソーシアムへ直接支払っていただくということもあるかもしれませんが、補助裏の45％は市が支払うのが原則だろうと、そして予算、決算にはっきり残したほうがいいだろうという判断で市のほうへ大黒天物産から支払っていただいて、事業を実施するようにしております。

そして、いろいろ土地の問題、御心配いただいておりますが、今回は農林省が広域の自治体と、それから猟友会、それから業者、そういう獣肉処理施設を運営している業者、そういった団体で共同事業体を結成してその事業に応募してくださいということがございまして、全国各地でそういう事業体を結成して補助を、応募を受け付けたということがございます。事業実施に当たりまして補助金も決まりまして、美作市と真庭市分がありますが、どちらも当然美作市は美作市で事業実施したいし、真庭は真庭で行いたいということで、農林省にも伺いましたが、コンソーシアムで事業を発注しないといけないというお話で、今回の予算計上というふうにしております。その土地の権利関係とかは当然コンソーシアムの構成員が市でございますので、市有地を提供するのは当然だと思いますんで、その辺の権利関係というのはきっちり契約とかも必要だと思いますけど、整理してやっていくと。それから、でき上がった施設の運営についても、市の指定管理でお願いしとる施設とは異なって、条例で定めるような施設にはなりませんので、その辺もきっちり業務委託をするような形で整理して行っていく必要があるというふうに考えております。

そして、私の発言を幾つか取り上げられましたが、昨年獣肉処理施設の指定管理者を公募しまして、そのプロポーザルの審査のときの発言を断片的に取り上げて紹介いただいたと思いますが、大黒天物産のほうはそのときにみずから減容化施設を同じ食肉処理の施設内にみずからの資金で整備して、そこで全頭処理を目指して行いたいんだというようなことをプロポーザルでおっしゃいまして、それには市の施設があるところ

で、市有地なんで、会社のほうで施設を設置して行うのはどうかなということでそういう発言をしたように記憶しております。そして、そういう大黒天物産さんの提案があったことから今回補助事業でございますけど、大黒天物産のほうに減容化施設の整備について、幾つかほかの整備もありますけど、御負担をお願いしたところ、負担するという御返事をいただいておるところでございます。

そして、全頭処理ですね、有害鳥獣の全頭処理といいますのは、美作市猟友会が以前から希望されとったことで、今は食肉のものについてしか受け入れができないということで、今度受け入れ頭数が拡大していきますので、徐々にではありますが、全頭処理に向けて、今までの課題が解決する方向で進んでいくように考えてますので、もうぜひこの機会にこの事業を進めたいというふうに考えております。御理解をお願いしたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部次長。

企画振興部次長（平田　幸春君）

岡野議員の２回目の質問に答弁させていただきます。

岡山湯郷Ｂｅｌｌｅの予算総額についての御質問だったと思います。

岡山湯郷Ｂｅｌｌｅの平成30年の予算総額は１億1,064万円となっております。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）

総務部長と経済部長の答弁について若干の補足をさせていただきますが、総務部長の言ったこと大体それでいいんですけれども、今後の取り扱い等につきましては、繰り越しが確定して、十分な財源が繰り越しの中であるときに先ほどの答弁では財調の取り崩しの財源更正をかけて、取り崩しを減らすというようなことを言いましたけども、必ずしもそうするかどうかはわかりません。なぜならば、財調に今回お願いをしてる一つの背景に財調の積み増しに対して風がきつくなっているという一般的な風潮もあるもんですから、ちょうど今骨太の方針の作成作業中であったり、６月から７月にかけて国のほうのさまざまな方針が確定いたしますんで、その状況を見ながら、財調は崩すけども、他の特目基金のほうへ積んどいたほうが安全だというようなことがあれば、そのようにもしなければいけないということで、当局としては多少の自由度を持ちながら今後の財政運営をしますけれども、それが市民の方々にとって絶対に損にならないというふうにしたいと思っております。

それから、今遠藤部長が言った話の中に議員が御疑問に思ってらした部分と実は合致する部分がありまして、それで仮に6,200万円強の大黒天物産の負担部分を大黒天物産がコンソーシアムとして中でやっちゃうと、見方によっては大黒天物産に対する補助になって、所有権が大黒天物産に移転する可能性があって、そうすると市として非常にややこしい話が生ずるんです。したがって、市としては大黒天物産からお金を市が補助金と並列でもらって、市から全額支出したほうが、簡単に言うと法的処理がその後、楽になるということもありまして、こういうややこしい処理をさせていただいているということを改めてつけ加えさせて、そうだったよな……

〔経済部長遠藤宏一君「はい」と呼ぶ〕

はい。それを言わんけんな、あんたが。

以上であります。

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員、３回目です。

４番（岡野　鉄舟君）

３回目。

途中中断しましたんで、どこまで質問しとったかなと思うわけなんですが、１つ断っておかなきゃいけないのは、クリーンセンターにしろ、それからジビエにしろ、それは市が産業振興で必要、あるいは環境行政として必要なので、私はそれを否定しているわけじゃございません。あくまで私も素人で、たかがこれだけ話をするのにどれだけのインターネットで出したかというたらもう大変なもんで、それは宿野部長には足元にも及ばんわけなんですが、素朴な質問をしとるというだけです。ただ１点、どうしても産業建設委員会にバトンタッチをせざるを得ません。３回で言いっ放しで聞きっ放しになりますので、その点をまずお話をしますと、やはり近隣の津山市、3,100円ぐらいだろうと思うんですが、それを見ても7,000円ぐらい差があると、じゃあその差がある正当性はどこにあるかということを議会で議論をしなきゃいけないわけなんですが、それがどうも委員会でやってもらった上で、さらに28日の本会議で判断を下すわけですけど、それはやはり私の個人的な、今現在質疑をさせていただく感じで言えば、この長期委託契約につきましては、やはりそれを債務負担行為をする時期と、やはりもう少し取り下げて新たに出し直すということがいいかなとは僕自身はそう思います。ただ、今の本会議の中で、産建の中でどういう議論をされるかということでやっていただければ、というよりもやるしかないんかなという思いでございます。

それから、ジビエにつきましては、１点部長がそういうふうに言われましたが、民法の〔聴取不能〕の絡みで要するに底地の利用権がコンソーシアムがやろうが、他人のところにやるという前提が発生してくるということを、これはやはり法律的に解明しなきゃいけないし、先般岩﨑議員が質問された11条238条の４でしたか、そこのところというのも引き続き産建のほうで議論をしていただきたいと思います。バトンタッチをさせていただきます。

それで次に、外国人実習生の受入事業で平成28年が４名、29年が３名だと言われたんですが、この国籍はどこかということを最後にお聞きしたいと思います。

それから最後に、湯郷Ｂｅｌｌｅなんですが、私は昨年一般質問したときに当時の企画部長が知るところではないと言われたのを覚えとるわけですけど、今は素直に正直に当然のことをお答えいただいたんですが、私が湯郷Ｂｅｌｌｅを知っていたときと予算規模が変わらない。やはりサポーターというか観客が増えるようなことを行政としても補助金を出す以上はやはり指導監督していく必要があるかなと、別にこれは質問ではないんですが、そういう思いを持ちました。

以上、３回目の質問、２点ほどお答えいただきたい。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）

外国人技能実習生の受け入れでございますが、これはベトナムからでございます。全員ベトナムでございます。

議長（鈴木　悦子君）

以上です。

４番（岡野　鉄舟君）

以上で終わります。

議長（鈴木　悦子君）

ここでお諮りいたします。

本日の会議時間は議事の都合により延長したいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」「異議あり」と呼ぶ者あり〕

〔10番岡本泰介君「ちょっと議長、何時までやる、全然終わるまでやるという意味ですか、どういうことですか。ずっとやるということですか」と呼ぶ〕

終わるまでしたいと思います。

〔10番岡本泰介君「何時になっても」と呼ぶ〕

はい。

〔10番岡本泰介君「何でせにゃいけんの。何であした予備日があるのにせにゃあいけん。議運で決まった日があるん。答えてください」と呼ぶ〕

〔15番岩江正行君「体調不良じゃ、困りょんじゃけん」と呼ぶ〕

ただいまの会議時間の延長に対し、御異議がありますので、起立により採決をいたします。

本日の会議時間を延長することについて賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成多数。よって、会議時間を延長することにいたします。

続きまして、通告順番２番、議席番号６番倉地重夫議員の発言を許可します。

倉地議員。

６番（倉地　重夫君）〔質問席〕

私は最前岡野議員が詳しく内容をお尋ねになっているので、ちょっと私の尋ねることがなくなったような形なんですが、まず債務負担行為の包括運営業務委託、10年間で32億円、これ８月にプロポーザルで業者を選定するということでありましたが、これ10年間業者は全く途中でかわるということはないんでしょうか。また、耐用年数、その途中でぐあいが悪くなったりしたときの予算とか、そういうものも含まれてるというふうに理解していいんでしょうか。それを１つお尋ねします。

それから、ちょっとこれ関連という形の表現になってますが、関連じゃないみたいなんですけれども、ページ19、款４項２目１節13の本年度の債務負担行為の補正770万円、このことをちょっと説明いただきたいと思います。

それから、歳出のページ21、款６項２目２節19ジビエ倍増モデル整備事業負担金、この３番、４番、これは今まで詳しくやりとりされてたんですが、いよいよ市の土地の上物、これはどこの名義でこしらえるんか。さっきの説明であったんじゃないかと思うんですが、それを一応確認したいと思います。

それから、５番目の歳出、ページ23、款８項４目２節13景観維持等委託料428万円、広大な里山公園を400万円そこらのお金をかけてどこをどのような範囲で景観維持の仕事を行うのか、またどこへ委託するのか、このことについてお尋ねしたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

まず、環境部長。

環境部長（宿野　豊彦君）

失礼します。

私のほうからは１番と２番を答弁させていただきます。

まず、１番の債務負担行為の関係ので委託先が10年かわることはないかということで、本業務は民間業者

の工夫により長期にわたり安定的な施設の稼働を期待するもので、契約を締結後は原則として変更することはありません。変わりません。

それと、修繕についてはこの中に入っているのかということですが、通常の維持管理的な修繕は包括委託の中に入っておりますが、機器なんかの大規模な更新なんかをすることが起きた場合にはこの中には入っておりません。

それと次に、２番の歳出の19ページ、節13の委託料でございますが、長期包括発注支援業務委託料でございますが、この委託料につきましては、長期包括業務委託が高額な契約となるため慎重には慎重を期して、本業務を公告するまでの要求水準書や業者選定基準書、委託契約書の案などの作成支援を事業者から提示される提案書の内容確認、業者選定段階の専門的な立場での支援を受け、債務負担行為の長期包括運営業務委託を成立するためのアドバイザー業務の委託料でございます。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）

ジビエ倍増モデル整備事業ですが、コンソーシアムで整備する施設はコンソーシアムの所有ということになります。

議長（鈴木　悦子君）

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）

23ページ、公園費の中の委託料の中の景観維持等委託料428万円でございます。これは美しい里山公園内の園路15路線、延長約20キロ区間で年に２回の草刈り並びに側溝の清掃、倒木の処理等を見込んでおります。委託先でございますけれども、軽作業につきましては、シルバーのほうにお願いしたいなというふうに思っておりますし、それ以外については、入札をして、業者のほうへ委託をするというふうになります。

議長（鈴木　悦子君）

倉地議員。

６番（倉地　重夫君）

建物についてコンソーシアム、共同体の建物ということなんですが、これ貸し賃とか地代とかそういうものは請求は発生してないんですかね。

それから、景観維持の委託料、これ作業をされる業者というんか、これは募集か何か特定の業者に決まってるんでしょうか。

以上２点。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）

地代の関係でございますけども、コンソーシアムのほうから現在いただく考えはございません。

議長（鈴木　悦子君）

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）

作業内容によりますけれど、例えば道路の側溝であれば土木関係の今通常入札している業者になろうと思

います。倒木等の関係で仕事が難しい、林業のほうへ頼むというようなことになれば、作業の内容で判断いたしまして、林業関係の業者ということになります。

議長（鈴木　悦子君）

よろしいですか。

続きまして、通告順番３番、議席番号10番岡本泰介議員の発言を許可します。

１０番（岡本　泰介君）〔質問席〕

それでは、議案質疑をさせていただきます。

重複するものに関しては、わかった部分はもちろん聞きませんので、わからないところをお聞きいたします。

まず第１番目は、美作クリーンセンター長期包括運営業務委託契約32億円の債務負担行為でございます。

これについては非常にいろいろと聞きたいんですけれども、これを32億円が妥当なものであるかないかというのが私たちの判断をすることなんで、あそこへ運営し出してから３年間たったんですかね。過去３年間の包括運営委託契約はどのくらいかかったのか、そしてその中身ですね、今度も中身が問題になると思うんで、その中身を聞かないと、今度のもんが妥当か妥当じゃないかというのはよくわからないわけで、今度は大分中身も変わるようなことをおっしゃっておられます。この前山本雅彦議員が代表質問されたときに長期包括業務委託の範囲でございますがということで答えられておりますので、それに基づいて私も質問しょうと思っておりますが、まず３年間の中身を、できたら年ごとにお知らせいただけたらと思います。何々やってどんだけ払ったんかということですね。その中身がわかれば、今度の中身が変わってこうなるんだということがよくわかるんで、そのことをお知らせいただきたいと思います。

そして、今後平成31年度から５年間は、この前の山本議員のお答えの中に、現在業務委託しております焼却施設の運転管理に加え、法定検査、精密機械検査、機器の修繕、周辺地区のモニタリング調査及び施設清掃、植栽の管理で、そこで終わっとんですけど、それから平成36年度から５年間はまた変わってきとんですね。定年による職員の自然減により施設内の運営ができなくなるため追加でマテリアルリサイクル推進施設の運転管理、法定検査、精密機械検査、機器の修繕、選別残渣の運搬、搬入等、両施設の用益費を含んだ包括的な運営業務を委託するものであります。ですからこの一つ一つの中身がどの程度かかるのかということを言うていただかんとわからないわけです。先ほどの前の５年間もですけど、先ほど大規模な修理は含まれておりませんというて、それだけ一言じゃわからんです。大規模というたら、一体幾らから大規模になるんか、何が大規模なんか小規模なんか、誰が判断するんか、金額で判断するんか、そこの判断基準を言うていただかんと、32億円が正しいか正しくないかわからないわけですから、余り曖昧なことを言わずにきっちり言うてください。そうせんと、私たちは判断しようがないんです。大きな金額です、32億円というたら。その辺のことをしっかりお答えください。

次に、ジビエのことを聞いております。

ジビエは先ほど岡野議員もかなり詳しく聞かれて、ジビエに関しては私歳入歳出どちらにも出しておりますから、これは一括として思っていただければいいんじゃないかと思います、歳入歳出。それで、大分議論も進んだんですけれども、私がちょっとわからないのは、コンソーシアムというものは一体、それは参加団体のことはわかりましたけど、コンソーシアムが財産を持ったりすることができるんですか。その辺の法的なものはどうなってくるんですか。コンソーシアムというのは共同体ということを今言われたんですけど、確かに真庭市や美作市、奈義町入って、猟友会が入って、運営委託する大黒天物産なんかも入るというようなことを言われたんですけど、コンソーシアムというものの性格というんですか、それがもう一つよくわか

らない。ただ、農林省がコンソーシアムしなさいということですから、コンソーシアムというものが相当位置づけ的にはしっかりしたもんであろうという認識は私は持ってますけど、ほんならどこまでコンソーシアムが持てるのか、例えば財産でもコンソーシアムの名義になるのかならないのか、発注はコンソーシアムがしますということらしいんですけど、発注なんかはできるかもわからんですけど、財産としてはどういうふうな位置づけになってくるのかということをちょっとわからないんで、そこら辺のことを教えてください。

そして、大黒天物産が負担金を出されるということなんで、それは結構なことなんで、それをはっきりさせるために市を通してこういうことなんですけど、結局大黒天物産が負担金を持つということは、大黒天物産さんがこの１億4,000万円近い金額の45％の権利があるのかないのか。仮に、先々悪いことばっかり言ったら皆さんまた変に思われるかもわかりませんけど、何が起きるかわからないですから。ジビエは景気よくいっても大黒天物産そのものがほかのことで何か経営がおかしくなるようなことだってあるわけですから、日本は経済社会で目まぐるしく変わってくるわけで、天下の東芝でさえひっくり返るような、そういう時代ですから、もう大黒天物産に何が起きるかわからないわけ、そうなったときにこの権利は6,200万円何がしかの権利というものはどうなってくるんだろうかなという危惧をしておりますので、そこまで先々先々心配するなと言われりゃあそうかもわかりませんけど、やっぱし一番悪いときのことを考えてやっていくのが政治ですから、そこのところの変はきっちりしていかんと後々に困るわけですから、そこら辺のところの説明をしっかりお願いしたいと思います。ですから、コンソーシアムというものがどういうものなのか、どういう位置づけになるものなのか、それからこれは建物も入るんでしょう、中の設備も入るわけですから、六千何百万円がどうなっていくのか、市町村だけでやるんならそんなに私は気にしないですけど、一民間企業が入るということになってくると、いろんな危惧がある、それを私は心配しているわけでございます。ぜひそこら辺のことをしっかりお答えください。

それから次は、歳入で、木材販売収入の内容です。336万5,000円、これはどういったものが入ってくるのかなと、そこそこの収入ですので、この内訳をお知らせください。

それから次は、歳入で東粟倉工房修繕負担金50万円が出てるんですね。あれは私は市の施設で現地の人にお貸ししてるというふうに私は聞いております。そして、家賃ももらってるんだということも聞いておりますが、例えば市営住宅なんかは附属の施設が、例えば屋根が壊れただとか、ドアが壊れたとか、いろんな、例えば自然災害なんかですよ、そしたら大体市が修繕しますわね、市が負担してる。ただ、今度の場合はここは何の修繕か私もよくわからないですけど、例えば中の機械がめげたとか、そういうこともかもわかりませんが、これを修繕するのは市のもんを貸しているんだったら、市が修理しなきゃいけんのんじゃないかなという気もするんで、何で向こうから50万円をもらわにゃあいけんのんかなというのが、ちょっとよくわからないんで、そういう契約をされとんかどうか、50万円という金額が妥当なんか妥当でないんか、何を修理して、何ぼかかって、何ぼ負担をもらってるんかと、その辺の中身をお知らせいただければ納得できるかもわかりませんし、納得できないかもわかりませんが、その辺のことをちょっと詳しくお知らせください。

次は、ジビエですから、先ほど言うたことと一緒です。

それから、次の歳出で、長期包括発注支援業務委託料770万円、これは先ほどの32億円に絡んだことかもわかりませんが、これはどういうことなのか、ちょっとお知らせください。

それから７番は、歳出で、新規就農者等支援体制強化事業補助金９万円、これはどういうもんですか、中身をお知らせください。

次は、同じく20ページの担い手確保経営強化支援事業補助金1,145万6,000円、この内容をお知らせください。

次は、同じく歳出の20ページで、測量設計等委託料1,130万円、これは測量設計委託でどこをどういうふうに委託するのか、内容をまたこれもお知らせください。

次の20ページの工事請負費5,370万円、この内容をお知らせください。

次は、20ページの市有林保育事業委託料850万円、これは市が持っている林野を保育事業ですから、よくすることに使われるんでしょう。これは更新伐が入ってるんかどうかようわかりませんのんですけど、この内容をお知らせください。何町歩ぐらいやって、どういうことをするんだと、市有林のどこどこをするんだと、内容をお知らせください。

次は、２件、ジビエですが、先ほどのことと一緒で、これはちょっと同じですけど。

次の歳出、外国人技能実習生受入事業補助金、これは先ほど岡野議員もやられて、400万円なんですけど、私は外国人技能実習生を受け入れるということは、美作市はたくさんされてますわね。うちは３人、４人、７人というようなことを言われましたけど、１つの会社で６人も７人も入ってるところもあるんじゃないですかね。企業単独でやっとるところもたくさんあると思うんです。そこは力があるからできて、うちは、力がと言うたら失礼なんですけど、余りそういうことに得てでないところをやるということでこれをやってるのか、どうして、普通これ民間が自助努力でやることが日本では多いんじゃないかなと私は判断してるんですけど、市がこういうものを実際どうしてやらにゃあいけんのんか、ちょっと私はよく理解できません。前は中国人がたくさん来ていて、最近はもうベトナム人も多いようですが、これだけのお金をかけて７人しか効果がないのもちょっと私も解せませんし、私はこれは企業が努力でやるもんだというふうに思います。そういったところがほとんどじゃないかと思っておりますので、この400万円についてはちょっと解せないと、どうして市がやらにゃあいけんのんかという、その理由をお知らせいただけたらと思います。

次に、21ページの地域活性総力事業雇用促進奨励金1,350万円、この内容はどういったもんでしょうか、お知らせください。

それから、次の21ページの工事請負費740万円、これ先ほど誰か言われたんだったかな、これはちょっと内容をお知らせください。

次のこれも21ページ、工事請負費940万円、これは内容をお知らせください。

次の22ページの測量設計等委託料、これはちょっと金額大きいですね、5,050万円、これはどこを測量設計する委託料なのでしょうか、内容をお知らせください。

次の工事請負費１億2,240万円、この工事請負費は何でしょうか。

次も工事請負費5,080万円、これもその内容をお知らせください。

次は、24ページ、工事請負費で1,040万円、これは教育畑のほうですね、これは何をやるんでしょうか。

次も、工事請負費630万円、これも何でしょうか。

それから、25ページも790万円、これも工事請負費で、これら、次も工事請負費が次々出とんですけど、これ設計委託料なんかは全然これは計上されてないところが多いんじゃないかと思うんですけど、これ要らないものなんでしょうね、その辺のことも含めてお知らせください。

私の質問は以上でございます。どうぞゆっくりやってください。だっだっだっだ言われても私ちょっとメモが書くのが遅いですから、ゆっくりしゃべってくださったら助かりますので、よろしくお願いします。

議長（鈴木　悦子君）

環境部長。

環境部長（宿野　豊彦君）

まず、私のほうからは……

〔10番岡本泰介君「ちょっと大きい声でゆっくり言うてください」と呼ぶ〕

私のほうからは１番と６番について答弁させていただきます。

まず、１番ですけども、今の委託内容ということなんですけども、今は包括委託ではありません。さっき今の包括委託はと言われたんですけど、今は包括ではなくて、焼却施設だけの運転管理をしております。この委託が26年８月１日から31年３月31日までで実際には９月から動いております。その契約金額が最終的には２億6,544万3,480円でございます。

〔10番岡本泰介君「中身」と呼ぶ〕

じゃけん、今の焼却施設の運転でございます。運転だけです。

それから、３年間の今の委託の中身も言われたんですけども、個々の細かい数字はちょっと今持ち合わせておりません。それで、27年度の塵芥処理費の今のあっこの処理場のかかった経費がざっと４億1,000万円少々、それから28年度は４億円少々でございます。29年度はちょっとまだ数字は出しておりません。

それで、包括委託ですけども、山本議員の代表質問の中でも言いましたが、31年度から５年間は焼却施設の包括的運営委託ということで、法定点検だとか機械の修繕等を含めて施設の運転にそれをつけ加えまして管理委託をします。それから、36年からの５年間は追加で、マテリアルリサイクル施設ということで、ペットボトルとかアルミ缶等の再資源化施設の包括的運営委託をするものでございます。ほかにも委託業務は収集業務があるんですけども、収集業務は基本的に今までと同じようにするようにしておりますが、年々職員が減っていく中で、行２の職員が減っていく中で徐々に委託のほうに回していかないといけないと考えております。

それから次に、６番の歳出の19ページ、節13委託料ですけども、長期包括発注支援業務委託料、先ほど倉地議員のときに答弁させていただいたものと重複しますが、この委託料につきましては、長期包括運営業務委託料、これが高額な契約となるために慎重には慎重を期して本業務を公告するまでの要求水準書や業者選定基準書、委託契約書などの作成時の支援、事業者からの提出される提案書の内容確認及び業者選定段階での専門的な立場での支援を受けるアドバイザー業務の委託料でございます。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）

私からはジビエの件でお答えしますけど、先ほどの岡野議員の質問とも絡みますけども、岡本議員のほうからよい企画、コンソーシアムの性質は何だということであります。私今まで経済部から説明を聞いた限りにおいて、あるいは他のコンソーシアム地域から聞いた限りにおいては、これがコンソーシアムに法的な法人格というものがあるとは考えられません。登記もしてないはずです。それで、農林省が言うところのコンソーシアムというのは、こういう事業の利用や、あるいは考え方の普及といったものについて関係者が共有をしてほしいという程度のものであろうというふうに考えざるを得ないということになります。逆に言うと、猟友会にこの施工管理をしたり、保有義務を課したりということにも多分ならないと。

次に、２点目でありますけども、したがってどういうふうに考えたらいいかについては、先行事例があるわけでありまして、当市で言いますと、愛の村パークの長期滞在施設というのがそれに該当しますが、これについては、指定管理者である企業が、同企業が受け取っているところの指定管理料の減額という形で負担をしておりますけども、あくまで所有は美作市がしている、そして美作市の所有の中で指定管理者に貸与をしていると、こういう形になっておりまして、本件ジビエについても、基本的に同じ形を想定せざるを得な

いというふうに思っております。そういう意味で、一括で払うのか、継続して分割で払うのかは別にして、民間の利用に即した負担がこちらに来ているという位置づけにした上で、当該施設についての所有権について明確にさせる必要がある場合には、当然のこと美作市がその任に当たらざるを得ないという位置づけのもとに本事業を推進するという考えでありますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）

じゃあ、３番から行きます。申しわけありません。

③の歳入、ページ13、款20項５目７節１の木材販売収入336万5,000円でございますが、美作市所有の森林整備を行うことを目的とした搬出間伐事業、この次の後で出てきます11番のところでまた説明をさせていただきますが、そちらで市有林保育事業委託料850万円を計上いたしております。この事業で行った木材を搬出間伐を行うんですけど、木材を販売しまして、市場のほうへ出して収益を得るというものでございます。

それから、済みません、４番のページ13、款20項５目７節１東粟倉工房修繕負担金50万円でございますが、これは市所有の普通財産でございますけど、東粟倉工房株式会社に後山地内の店舗や工場などを貸し付けております。昨年10月の台風で附属設備である屋外冷凍庫が破損をいたしました。それで、その修繕につきまして、貸借契約に協議に基づきというような規定があるものですから、その工房株式会社と協議した結果、工房のほうから50万円を負担いただきまして、そして修繕のほうは市が行うということで、歳出予算、今回の補正予算でございますが、20ページの款６項１目３節11修繕料として54万円を計上いたしております。

それから、⑦の歳出、ページ20、款６項１目３節19の新規就農者等支援体制強化補助金９万円でございますが、これは岡山県が平成26年度から設けている単県事業で、美作市では初めて該当ができたものです。新規就農者や就農希望者の経営を早期に安定することを目的に技能習得の場を確保するため新規就農の方を受け入れて、指導や講習を行う農家に対して定額で９万円を補助するもので、今回該当が１件あったものでございます。

それから、⑧の歳出、ページ20、款６項１目３節19担い手確保経営強化支援事業補助金1,145万6,000円でございますが、これは国の平成29年度の補正予算によるものでございまして、次世代を担う地域農業の担い手に対し、生産力、販売力の向上などを目的として農業用機械、それから施設の導入経費を補助するもので、補助率は２分の１以内ということで、今回は４件の要望がございまして、トラクター２台、大型コンバイン１台、それからブドウ棚の整備でございます。

それから、⑪、歳出、ページ20、款６項２目２節13市有林保育事業委託料850万円、先ほど木材の販売というところで少し触れましたが、美作市所有の森林の整備として搬出間伐を行うもので、上山地内の山林５ヘクタールにつきまして搬出間伐を行うものです。

それから、⑭、外国人技能実習生の受入事業補助金ということでございますが、これにつきましては、もともと市内の誘致企業の中にもベトナムから多くの技能実習生を受け入れておられた例がございます。そして、ベトナムからの受け入れを主体に支援することでその企業を支援することになるということで続いて補助事業として実施をしております。

〔10番岡本泰介君「そんなこと聞いとらんよ」と呼ぶ〕

それから、⑮の歳出、ページ21、款７項１目２節19の地域活力創生事業雇用促進奨励金1,350万円でござ

いますが、これは当初予算に980万円を計上して、それに1,350万円を追加するということでございます。地元で正規従業員としての雇用、また市外在住者の美作市への定住を促進して人口減少を抑制するために新規雇用を行った事業者に対しまして、条件はございますが、従業者１人当たり20万円、新卒者の場合は30万円、これを奨励金として交付するものでございます。

それから、⑰、歳出、ページ21、款７項１目２節15の工事請負費940万円は、大芦高原国際交流の村の観光施設バンガローというものが、世界のバンガローというのが15棟と、それから湖畔バンガロー10棟と、合計で25棟ありますが、この世界バンガローの15棟のうち、老朽化して景観が悪いこの６棟について解体をするものでございます。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）

それでは、⑨の20ページ、委託料の中の測量設計委託料の内容でございます。農作業の負担軽減、利便性、耕作意欲の向上を目的に農地耕作条件改善事業で実施を予定しております用水路改修、ゲート改修、暗渠排水、農道舗装工事に伴います設計委託料でございます。

続いて、ページ20の農地費の工事請負費の内容でございます。先ほど委託料で申し上げましたが、それらの用水路改修、ゲート改修、暗渠排水、農道舗装工事の工事費でございます。

続きまして、22ページでございます。

道路新設改良費の委託料の測量設計委託料費でございます。道路橋梁新設改良費の測量設計委託料5,050万円の内容といたしましては、辺地対策道路事業２路線、過疎対策道路事業６路線、合併特例道路整備事業１路線、計９路線分に係る測量設計委託料でございます。

それから、22ページの道路新設改良のうちの工事費１億2,240万円です。これは辺地対策道路整備事業２路線、過疎対策道路事業３路線、合併特例道路整備事業１路線、単市道路改良事業３路線、計９路線分の道路改良に係る工事費でございます。

次に、23ページの都市公園費の中の工事費でございます。美しい里山公園整備に係る工事費で、尾根付近を通る縦走園路の延伸として北原線から楢原下の四の谷線までの約１キロの遊歩道整備のほか、平福及び平田からの進入路の改良を予定しております。また、尾根沿いで眺望が見込める楢原下のしょうのう山、朽木の藤ノ森、北原地内において間伐をし、案内看板を設置を行い、展望広場の開設を行う予定としております。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

教育次長。

教育次長（山名　浩二君）

私からは21番から24番までお答えをさせていただきます。

まず、歳出、24ページ、教育費の小学校費の工事請負費1,040万円でございます。これは小学校の６カ所の工事費でございまして、その内容を説明させていただきます。

まず、東粟倉小学校の運動場と体育館の間にあるフェンスと防球ネットが老朽化しておりまして、破損しているところもございますので、それの改修工事ということでございます。

また、美作北小学校の北側校舎２階にある手洗い用の流しの蛇口が腐食しておりまして、その手洗い用の

流しを増設する工事、また土居小学校におきましては、運動場の水はけが悪いことから、その解消のための暗渠排水工事、また英田小学校の電気設備の保守点検により分電盤の老朽化が指摘されたため、それの取りかえの工事、また老朽化による音楽室のカーペットの張りかえ工事、また経年劣化による屋上の転落防止棚の取りかえ工事ということで、計６カ所の工事請負費でございます。

また、この設計監理がないということでございますけれども、うちとすれば、建設部の住宅課にお願いをしたいということでございます。

続きまして、25ページの教育費、中学校費の工事請負費の630万円でございます。この工事請負費につきましては、勝田中学校の体育館の屋根が昨年の10月の台風によりまして被害を受けております。その修繕工事、また、美作中学校のテニスコートの外周に設置されている既設のフェンスの高さが不足していることから、ボール等がフェンスを跳び越え、市道に出てしまうためかさ上げを行う工事ということでございます。

続きまして、教育費の幼稚園費の工事請負費790万円でございます。これは夏季期間中におきましても幼稚園の預かり保育を実施していることから、東粟倉幼稚園の保育室及び土居幼稚園の遊戯室に空調機を設置する工事、また美作北幼児園につきましては、園児の増加による対応をするため旧職員室を保育室に改装するための工事を実施するものでございます。この幼稚園につきましては、設計監理を計上させていただいておるところでございます。

続きまして、26ページ、教育費、学校給食費の工事請負費の210万円でございますけれども、この工事請負費につきましては、美作給食センターに設置している給食用の食器等の消毒保管器が導入から20年以上経過しております。消毒保管器を制御するコントローラーの取りかえ工事をさせていただくものでございます。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員、２回目です。

〔10番岡本泰介君「議長、２回目じゃない、１回目のクリーンセンターの質問で答えてもろうてないんじゃけどな。ここの……」と呼ぶ〕

２回目の中で質問してください。

〔10番岡本泰介君「いや、そがんことしたらまた回数減ってしまうもん、１番目で言うとんだから。ここの山本議員に答えたこの内容を言うてくれというて言うとんのに言うてくれんのんじゃ。法定検査料が幾らかかって、精密機械、機器の修繕って大規模なものというて言われたけど、大規模のって何のことやらわからんし、これ言うてくれにゃあわからへんがな。判断しようがないもん、32億円の。これをきっちり内容を言うてくれにゃあ」と呼ぶ〕

環境部長。

環境部長（宿野　豊彦君）

今持ち合わせておりませんので、後でまた提出させていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員、２回目。

１０番（岡本　泰介君）

それじゃ、書面で提出していただけるということなので、その書面のことを申し上げますと、この山本議員に答えた文書の最後のところですね、平成31年度から５年間はというところを一番最後までのところをし

っかり書面で提出してください、それがわかれば私たちも納得できるわけですから。それをきっちりしていただかないとわかりません。

それでは、もとに返って、２回目ですね。

それでは、先ほどの包括経営は書面で提出していただけるということでわかります。

それから、先ほど過去の実績のことで運転のみということで、27年は４億円ぐらいかかったと、28年も４億円かかったと、29年はまだはっきりしてないということでわかりました。この４億円の内訳も教えてください。これは恐らく市の人件費ももちろん入っとるでしょうし、いろんなもんが入ってるわけですから、この４億円の内訳を教えていただければ、今度のもんと照らし合わせて、今度の新しく出していただくもんと照らし合わせれば32億円がどういったもんかというのがよくわかるわけですから、この４億円の27年、28年でいいですから、その内訳を、それもペーパーで出してください。

それじゃ、次行きます。

それから、先ほど市長がジビエのことでコンソーシアムというものを性格のことを言われたと思うんです。コンソーシアムというのは本当に私もよくわからなくて、結局は市が全部所有して、貸与するということになるだろうというふうな受け答えだったと認識しました。それはそれでいいと思うんです。そして、金額をはっきりさせるために市の会計を通すと、それも私はいいと思うんです。ただ、結局向こうが負担するということに関しては、やっぱり向こうの権利が生じるんじゃないかなと、45％が何々含まれとんかちょっとはっきりしませんけど、例えば機械と建物全部含まれて45％だったら、機械も45％、建物も45％というようなことになってきて、先ほど、くどいようですけど、何があるやらわからんわけですから、何か債権者が〔聴取不能〕を押さえたときにこの者に対して権利が生じてくるんじゃないかなというおそれが私はあるんで、そこら辺はどういうふうにクリアされていくのかなという危惧を持つわけです。そして、そのことに対して市としてはどういうふうにクリアしていく考えなのか、そういうおそれのない将来的に問題が起こらない方法があるのかないのか、あればどういった方法があるのかということをもう少し詳しく教えていただけたらと思います。余り心配ばあして申しわけないんですけど、申しわけないです、心配ばあして。

それから、次行きますが、３番の木材販売収入の上山の５ヘクタールを間伐した収入が330万円ほど入るんじゃないかということがある。多分これはもちろん市がするわけじゃなしに業者へ委託されるわけですから、業者の方が切られるんでしょう。５ヘクタールというたらかなりの面積を切られてこれだけの収入が上がる、うれしいようなことなんですけど、私はいろいろと私のこの人生経験の中で山の木を切るというのは非常に業者の質というんですか、いいかげんというんですか、切った木を見りゃあわかるというたもんの、ええ木ばあ切って、そして残ったものは、行ってみたら何か余りいい木が残ってなかったと……。

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員、一般質問化しないように。

１０番（岡本　泰介君）

いやいや、だからそのことを言よんです。そういうおそれがあるから……。

議長（鈴木　悦子君）

もう少し簡潔に言ってください。簡潔に質問してください。

１０番（岡本　泰介君）

いや、時間ゆっくりあるんですから、そんなにばたばたせんで……。

議長（鈴木　悦子君）

時間とかの問題じゃありませんから。

１０番（岡本　泰介君）

時間とかの問題じゃない、早うせえ早うせえ言わずに私の質問をしっかり聞いていただいて答えてもらわにゃあいけんわけですから。市有林を間伐するということは誰かがこれしっかり管理できる人がおるんですか。切る木を印つけるとか、そういったことをされるんですか。そうせんと結局美作市の財産が損壊するというんですか、悪くなって、間伐したことが意味がなくなるというようなことが起きるんですよ。それはもう業者の質にもよるんですよ。ですから、その辺のことをしっかり、どういったふうに担保してやるのかということを教えてください。

それから次は、東粟倉工房の50万円ですけど、修繕費を50万円乗せとるということは104万円でやるということですね。私はそういうふうに理解した。50万円はそのまま50万円で出すということ。ほんならもう市が全然出さなくてやるということですか。市は幾らか負担するんですか、これは、そのことをさっき聞いたと思うんじゃけど、協議してやるということですから、負担は50万円もらって、市が幾ら出すんですか、そこまで答えてください。

それで、先ほど言われたように台風で壊れたというんですから、これ自然災害ですわね、自然災害で壊れたもんまで借り主が払うんか、協議して分担する必要が本当にあるんでしょうかね。普通市営住宅なんかこの前も勝田のほうでトタンが飛んだとか何とかかんとかというようなときも全額市がやったと思うんですけど。こういったものはもらわずに市がするのが私は当然だと思うんですけど。自然災害まで、経年変化で傷んだというんならまだ少しは協議する必要もあるかもわからんですけど、自然災害で壊れたもんまで負担金をもらうというのは、私はいかがなもんかなという思いがありますので、そこら辺の見解をお知らせください。

それから、用水関係、これはいいです。わかりました。

それから、次の17番の大芦高原の件ですけど、15戸のうち６戸を解体するという、これはほかのところでも見ました、資料は、解体すると。これは15戸のうち６戸は、つまりつくった年が違うんですかね。これ６戸が古いんですか、そこら辺のなぜ６戸になるんか、２戸建ち、３戸建ち、順番に建っていっとって、古いほうが６戸あったということでしょうか。６戸だけやるという理由を、古いからやるんか、それは場所によっては早く傷むところもあるでしょうし、そこら辺の６戸の解体のことをもう少し詳しく教えてください。

それから、教育関係は大体わかりました。たくさんあって、大変でしょうが、一つ一つ手抜かりなくやっていただきたいと思います。

それでは、私の再質問は以上です。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）

ジビエの絡みで大黒天物産の場合の負担あるいは共立の場合の負担というものがどういう効果を持つかについて、これはもちろん相手側の意思にもよるわけでありますけれども、一般的にやっぱり負担をするということについては、それなりの権利主張が出てくるわけであります。例えば愛の村であれば10年間かけて全部払うと言っておるわけでありますが、次の指定管理の交代時期に公募をしますけども、その部分も新しい被公募者が引き継いでくれるということが多分その後条件になってくるという意味では、指定管理の継続についての地ならし的な意味が生じることはやむを得ないということになります。

本件についても、指定管理でありますので、今度は一括払いしておりますから、向こうが何も言わなければ別なんですけども、これについて権利主張するとすると、もし指定管理をかえるんであれば、次の指定管

理者が残金というか、耐用年数の割合で残った分ずっと引き継ぐことが条件だということを主張できる可能性はあるというぐらいのとこだと思いますが、この辺についての詳しい事情はまだ予算取ってからということになりますので、整理がされた時点でまたお話をさせていただけると思います。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）

まず、搬出間伐ということで、今回市有林ではずっと切り捨て間伐ということで補助事業でやってきましたが、今回初めて搬出間伐を行うということで、確かに販売するということで、いい木をたくさん切って出すと、それだけ価格はいいのかもしれませんけど、よい木を出して、残った細い木をまた太く育てるという、育林ということもあると思いますけど、その辺につきましては、850万円の委託料のうち100万円の調査業務をとっておりますので、民有林の手本となるような搬出間伐にしていきたいというふうに思います。

それから、東粟倉工房の修繕については、附属設備の冷凍庫だったわけですけど、普通財産といってもお餅を製造販売されとるということで、農業振興ということでお話がありました。そして、会社と協議した結果、市のほうで修繕はすると、修繕するのは54万円の予算を計上しとって、そのうち50万円はいただくんで、市のほうの負担は差し引き４万円と、これは協議の結果でございます。

それから、大芦高原のバンガローでございますが、15棟ありまして、昭和63年に整備されたものが４棟あります。これは全部現在もう使っておりませんし、取り壊します。それから、平成２年のものが１棟ありまして、これも取り壊します。平成６年のものが５棟ございますけど、このうち１棟を取り壊すということです。あとの残りは平成16年度に整備されたものでございます。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

一通り答弁が終わりました。

３回目です。

〔10番岡本泰介君「答えてないところがあるんよ。ま、ええわ。早うせえ早うせえと言うけん」と呼ぶ〕

１０番（岡本　泰介君）

いや、先ほど、遠藤部長、間伐のことは市が監督してやるのかということを聞いたので、私は。調査費用が云々というのは済んだ後のことでしょう。じゃから、この費用をするときに誰が委託受けられるか知らんですけど、途中何回か見に行って、そういうことをきっちりして、太い木だけ切られて、細い木が残ると、残った細い木が太くなると言われるけど、それ間違いですよ。それはあなたもう知らない。太くならないんですよ、細い木は。ちょっと昔のことでこびれた木というんですね。そういう木はなかなかもとには戻らないんです。それは多分西粟倉の元村長さんの息子さんですからよう知っとられると思うんです。細い線香みたいな木は太らへんのんですよ。ですから、しっかり監督しょうらんと、ええ木ばっかり切られて、やられると言うたら言葉が悪いですけど、よくないんです。そこはしっかり見て、本当は切る木に印をつけていくと、印もひもをくくったんじゃだめです、ひもは移動できるんですから。印をつけるん、なたで、切る木にはなたで印をつける。それが本当のやり方なんです。私もいろいろ研究したんですよ、この間伐のことをいろいろと、そういった方法をとるそうです。ひもじゃあだめ。そういったことをよく、遠藤部長、研究されて、これを切る業者が決まったらしっかり監督をされんと、ええことにはなりません。悪い木ばっかり残って、５ヘクタールが死んでしまいますので、お願いします。

それから、ベトナムの400万円の件なんですけど、部長、先ほどちょっと質問するのを忘れてしもうたんですけど、市がどこまでやるかという問題ですわね、これ確かに。それは応援してあげりゃあ、それは企業の人は喜ぶわけですけど。ほじゃあ、民間企業でも自助努力で入れられとるところもたくさんあるわけです。ちょっとそこで不公平感みたいなもんも多分その企業の方は持っとられるんじゃないかと。あそこだけええ目してというふうに、うちも応援してくれりゃあええのにという思いもあるかもわかりません。そういったこともあるんで、私はこの400万円という金額はちょっととてつもない金額じゃなと。それも去年もやったと思うんですけど、そんなに実績が上がってないわけですよね。３人とか４人とか、非常に少ない人員で、これに商工会の費用も足していきょうると、１人呼ぶのに100万円ぐらいかかったような計算になってくるでしょう。ちょっと効率が悪い話ですわね。それも３人ないし４人ですから、恐らく企業はそんなにたくさんの企業じゃないでしょう、恩恵を受けた企業というのは。１社か２社か３社か、市内の業者のごくわずかの企業が恩恵を受けてるということになると思うんで、この辺の不公平感はもう少し考えられんといけんと思います。私はその辺についてはどういうふうに思われるか、お答えいただけたらと思います。

ジビエに関してはちょっと私もまだまだ勉強不足で、この予算書が出て初めて知ったようなことで、コンソーシアムのこともそれほど勉強する間もなく、よくわからなく、質問ももう一つ突っ込んだことができないんですけど、これはまた産建委員会でもやられるでしょうから、ゆっくりやっていただいて、その結果をお聞きしたいなと思います。

私の３回目の質問は以上です。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）

外国人技能実習生、30年度は６名の受け入れを計画しております。今度福祉のほうにも範囲が広がってるというようなことですが、ほかにもこの団体管理型の受け入れ事業をされる業者ももちろんございます。企業の負担が安く済むように引き続き援助していきたいというところでございます。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）

先ほど部長が岡野議員に対して答弁した内容を言うと、確かに今は400万円だけれども、今後の課題として補助率をどう下げていくかということであると、下から回った紙の答弁をしたでしょう。これどういう意味かといいますと、商工会にさまざまなノウハウを初期的にはつけなければなりません。しかし、商工会、ノウハウがついて人数が拡大していきますと、事業収入が出てくるので、それにつろくして補助を減らして、行く行くは自立してもらおうということであります。そして、商工会でございますので、非常に公的色彩が強いということから人的取り扱いに安心感が強いと、それを市としては今後のベトナムを含めて外国人の方々の受け入れの中で、美作市の受け入れは公的にも、取り扱い的にも、社会的にも安定しているんだという売りにしていきたいと、こういうことで考えているんだという説明を、聞いてるはずなんですけどね。

〔10番岡本泰介君「よう打ち合わせといてください」と呼ぶ〕

よろしく。

〔10番岡本泰介君「それから山、木のことをもう一遍」と呼ぶ〕

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）

先ほど答弁漏れといいますか、当然森林政策課のほうで管理監督してまいります。

議長（鈴木　悦子君）

以上です。

１０番（岡本　泰介君）

終わります。あとは委員会でお願いします。

議長（鈴木　悦子君）

じゃ、ここで10分間休憩します。

午後５時37分　休憩

午後５時46分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

続きまして、通告順番４番、議席番号９番金谷のり子議員の発言を許可します。

９番（金谷のり子君）〔質問席〕

それでは、ページ16の２の１の５、11、760万6,000円、それから２番目に、ページ16の、先ほどは修繕費ですね、16の２の１の５の13、840万9,000円、ＰＣＢの委託料ですね。

議長（鈴木　悦子君）

814万9,000円です。

９番（金谷のり子君）

814万9,000円。それから３番目に、ページ16の２の１の５の15、工事請負費730万円、４番目に、ページ16の２の１の６の19、コミュニティ助成事業補助金360万円、その他の財源とは何かというところです。

それから、ページ16の２の１の７の15、工事請負費240万円、それからページ17、２の１の37の19、美作市自治創生費事業補助金1,000万円、それからページ20、６の１の５の13、測量設計等委託料1,130万円、これ岡本議員で言われましたので、これは財源のその他というところを詳しく教えてください。

それから、ページ20、６の１の５の15、工事請負費5,370万円、何カ所あるのかというところですね。

それから、歳出のページ21の６の２の２の19、請負金補助及び交付金、これは重複しているのでよろしいです。

それから、ページ21の６の２の２の21、ジビエのところなんですが、これは岡野議員、倉地議員が質問なさったので、重複するんですが、ここで真庭市と奈義の関係性についてをちょっと触れられなかったので、どういう形になってくるのかというところを教えてください。

それから、ページ21の６の２の３の13、測量設計費等委託料、これはどこになるのかということですね。

それから、ページ23の８の４の２の13、これが委託料が３つありまして、景観維持等はもう倉地議員が言われました。よろしいです。これの金額割がわからないんで、言いませんが。

それから、ページ23の８の４の２の15、5,080万円、これ岡本議員で言われたと思いますので、よろしいです。

それから、ページ23の８の４の２の17、12万円土地購入費、これはどういったものか、どこを購入するのか。

それから、ページ23の８の５の１の24、下水道事業出資金2,300万円、それからページ24の９の１の４の

15、これが6,260万円、これについて。

以上、お願いします。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）

失礼いたします。

金谷議員の御質問で①から③まで私のほうで答弁させていただきます。

歳出、16ページ、款２項１目５節11修繕費760万6,000円でございます。これは本庁舎ほか市有施設の修繕を行うものでございまして、本庁舎の空調機器、市民センターの空調機器とトイレ、バレンタインプラザのつりものワイヤーとそのウインチ、勝田総合支所の駐車場の舗装及び区画線、東粟倉総合支所の玄関のタイル及びストーブの煙突、これらの修繕を行うものでございます。

続きまして、②でございますが、同じく財産管理費で、節13委託料でございます。ＰＣＢ含有検査処理委託料814万9,000円でございます。これは平成28年８月に施行されましたポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法の改正に伴い、美作市が所有する建物に附属しております高圧受電設備で現在使用していない変圧器、コンデンサー等につきましてポリ塩化ビフェニル、つまりＰＣＢでございますけども、これの含有検査を行うとともにＰＣＢが含まれているものがございましたら、定められた方法により処分を行うための委託料でございます。

また、処分につきましては、本年度から数年をかけてさせていただきたいと思っております。なお、現在使用しておりますものにつきましても、ＰＣＢが含まれておりましたら、平成39年３月31日までに処分をする必要がございますので、今後は年次計画をもって調査、更新のほうを行ってまいりたいというふうに考えております。

続きまして、３番目でございます。

同じく財産管理費の工事請負費730万円でございますが、市有施設の管理に伴います工事請負でございまして、旧こぶしの里の防犯カメラ、そして防犯灯、大吉コミュニティセンターのグラウンド整備、梶並出張所のトイレを和式から洋式に男女１カ所ずつ改修するための工事請負費というものでございます。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部次長。

企画振興部次長（春名　信明君）

失礼します。

私のほうから金谷議員御質問の④と⑥でございます。

まず、④の歳出、16ページ、款２項１目６節19のコミュニティ助成事業補助金のその他の財源とはという御質問ですが、歳入の13ページ、予算書のほうを見ていただきますと、款20諸収入、項５雑入、７雑入、１雑入の中にコミュニティ助成事業一般助成金360万円ございます。これがその他の財源ということで、一般財団法人自治総合センターから全額の360万円が助成されるというものでございます。

続きまして、⑥の歳出、17ページの款２項１目37節19の美作市自治創生事業補助金1,000万円でございます。この補助金につきましては、主に自治振興協議会など、５名以上の活動団体を対象に市内各地域の課題解決に取り組む事業のアイデアを募集いたしまして、先駆的なものについて財政的な支援を行うものであります。１事業100万円を上限といたしまして、本年度は10カ所程度を予定して支援する費用として合計

1,000万円を計上いたしております。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）

⑦、農地でございます。

議長（鈴木　悦子君）

真野部長、ちょっと待ってください。

５番があるんで。

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）

私のほうからは⑤の16ページ、自治振興費、工事請負費の240万円ですが、これは市内３カ所に防犯カメラを設置する費用を計上しております。防犯カメラの設置については、設置場所など、美作警察署の協力を得ながら効果のある場所へ設置をすることとしております。

議長（鈴木　悦子君）

済みません。

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）

⑦の農地費でございます。測量設計委託料の財源のその他でございますけれど、これ農林事業でございますので、分担金が地元より入ってきますので、その地元分担金でございます。

それから、工事費5,370万円でございますけれど、暗渠排水は沢田、桂坪地区、ゲート改修が下ノ庄地区、用水路が豆田地区、農道舗装が楢原上地区でございます。

次に、11、治山林道費でございます。委託料、測量設計委託料です。これは森林保全、森林資源の維持造成、林業への意欲向上を目的に農山漁村地域整備交付金事業で実施を予定しております。林道整備でございます。東粟倉地区でございます。

続きまして、⑫、ページ23、都市公園費の委託料です。まず、測量設計委託料といたしましては、美しい里山公園の園路整備と台帳作成に必要な測量設計を５路線、延長約4.8キロメーターを予定しております。また、既存施設である湯郷の塩垂山ラガーコース及び吉野川河川公園部分を都市公園指定をするため、公園台帳に必要な平面測量を予定しております。景観維持等の委託料は先ほど倉地議員に説明させていただきました。

続いて、都市公園利用促進等委託料につきましては、里山公園のガイドマップやホームページ作成、植生管理の経年変化を把握するための公園全体の空撮を編集作業する委託料でございます。

続きまして、14番の土地購入費でございます。美しい里山公園の主要な進入路である朽木藤ノ森線の入り口付近に駐車場とトイレを確保するための用地代でございます。まだ具体的に場所をこれから決める予定になっておりますけれど、要望がございますので、設置したいというふうに思っております。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）

ジビエ倍増モデル事業で真庭市と奈義町というお尋ねです。どちらも構成員ということになってまして、今回の事業では美作市の獣肉処理施設が拠点施設ということで、そこを大規模拠点化していくということで、真庭市には直接今回の事業でジビエカーという車で食肉処理をするというものですけど、そちらを導入するということもあります。真庭市からはそのジビエカーによって搬送して美作市へ運ぶと、奈義町からは直接猟師の方が運んでこられるということで、ペットフード向けとかも含めて処理頭数を増やすということで、収益性を改善していくというものでございまして、地元説明をしながら取り組んでいきたいというふうに思っております。

議長（鈴木　悦子君）

環境部長。

環境部長（宿野　豊彦君）

私のほうからは15番についてですけども、23ページの土木費……

〔「もうちょっと大きい声」と呼ぶ者あり〕

土木費、節24の投資及び出資金でございますが、下水道事業出資金2,300万円ですが、下水道事業会計における機器の修繕及び更新等の建設改良費の補正に伴う事業財源に充当するための出資金でございます。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

危機管理監。

危機管理監（藤原　陽二君）

私のほうからは⑯を説明させていただきます。

ページ24、９の１の４の15、6,260万円についてでございますが、美作市では大規模な災害が発生した場合多数の帰宅困難者が生じることが想定されますが、こうした場合に住民の方々が災害情報を入手するためのインフラ整備が課題となっております。このため総務省の無線システム普及支援事業の補助を受けて、災害時避難所、官公署等25カ所に公衆無線ＬＡＮ環境整備、Ｗｉ－Ｆｉです、によりアクセスポイントを設置し、インターネット環境を整備することで災害発生時にも住民の方々が広く情報収集できる状況を確保するものです。また、平常時にも行政情報、観光情報を発信し、利用を促すことで利便性の向上を図るものでございます。この公衆無線ＬＡＮ環境整備工事費として6,260万円をお願いするものでございます。

議長（鈴木　悦子君）

一通り終わりました。

２回目です。

９番（金谷のり子君）

２回目ですが、先ほどのジビエの真庭市と奈義町のほうからの幾らかの財源とか、そういう負担というような話はあるんでしょうか。

それから、最後の16番の今現在Ｗｉ－Ｆｉはどこに美作市はつけていて、25カ所増えるということですが、どういうところにつくようになってくるか、お願いします。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）

今回事業によって整備するものについては、ジビエカーというものを真庭市導入されますけど、それについては補助残は真庭市が負担される形でされます。

また、今後の運営費用については、これからまた協議をしていくことになると思います。

議長（鈴木　悦子君）

危機管理監。

危機管理監（藤原　陽二君）

２回目の御質問ですが、現在危機管理室が把握しております設置場所は、美作市役所１階フロア、武蔵の里研修センター、愛の村パーク、能登香の里小房リゾート、作東バレンタインホテルの５施設に設置しております。そして、設置する予定の場所が、勝田市民センター、勝田中学校、大原公民館、大原中学校、武蔵武道館、東粟倉総合支所、みまさかアリーナ、美作市民センター、美作中学校、林野高等学校、作東農村環境改善センター、作東中学校、英田中学校、英田公民館、讃甘コミュニティセンター、湯郷地域交流センター、美作市役所、勝田総合支所、大原総合支所、作東総合支所、英田総合支所、大原宿観光案内所、大原駅特産品販売所、林野駅、大芦高原温泉雲海ロビーとなっております。経費の関係も。

〔９番金谷のり子君「よろしい」と呼ぶ〕

よろしいですか。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

以上ですか。

９番（金谷のり子君）

あとは委員会でお願いします。

議長（鈴木　悦子君）

続きまして、通告順番５番、議席番号15番岩江正行議員の発言を許可します。

１５番（岩江　正行君）〔質問席〕

では、議案質疑をさせていただきます。

ページ５、第２表、債務負担行為補正、追加ＡＥＤ事業整備事業、これの中身をどのような、2,150万円の内訳をぼつぼつ……。黙っとけ、ちょっと。ぼつぼつさせてもらいますから、この内訳を御説明をお願いしたい。

それと、一般管理費で、歳出、16ページ、款２、項の１、目の１管弦楽団出演委託料120万円、何に使うんかな、これ、どこでするのか、場所。

それから、財産管理、歳出、16ページ、款２項１目５ＰＣＢ含有検査処理委託料の、これ先ほど金谷議員のほうも質問されておりました。やっぱしこれ入札されるんかな、指定するところがあるんか、その辺のとこを聞かせてください。

それから、財産管理費で、歳出、ページ15、款２項１目５工事請負費の730万円、営業活動費で、歳出、ページ17、款２項１目37節７嘱託職員の賃金、何でこんだけの519万2,000円の内訳、なぜ嘱託職員を雇用せなきゃならないのか、その辺の中身を教えていただきたいと思います。

次が、障がい者福祉費、歳出、ページ18、款３項１目２節19児童発達支援事業、拡大促進事業助成金のこの内訳、354万8,000円、何人ぐらいが対象になるのか、それを御説明をしていただきたいと思います。

次が、児童福祉総務費、扶助費、出産祝金、ページ18、款３項２目１節20、330万円、これは何人ぐらい、これ多いほどええんじゃけどな、これが増えたらな、ことしの見込みをちょっと教えてください。

それから、斎場費、歳出、ページ19、款４項１目８、節の13環境整備委託料165万8,000円のどこの斎場か、何をするのか、御説明をいただきたいと思います。

それから、災害対策費、歳出、ページ24、款９項１目４節15工事請負費の6,260万円、この内容、それから学校管理費、小学校じゃの、これ、歳出、ページ24、款10項２目１節15の1,040万円、この内容、学校管理費、歳出、ページ25、款10項３目１節15、630万円の中身、それから幼稚園費で、歳出、ページ25、款10項４目１節15、790万円の内訳、公民館費、歳出、ページ25、款10項５目２、節の15、1,030万円の工事請負費の内容、図書館費で、ページ26、款10項５目８節15工事請負費の420万円、この内容、それから体育施設費、ページ26、款10項６目２、節の15、7,310万円の工事費の内容。

以上。

議長（鈴木　悦子君）

危機管理監。

危機管理監（藤原　陽二君）

私は①と⑨の説明をさせていただきます。

第２表の債務負担行為補正のうち、ＡＥＤ整備事業についてですが、現在公共施設に配備しておりますＡＥＤが更新時期を迎えていることから、公共施設と新たに消防署の事業で24時間営業のコンビニ10店舗を加え、合計66台を設置させていただくものです。また、現在配置のＡＥＤはメーカー、型式、年数等がまちまちとなっておりますことから、統一したものに更新させていただくものです。設置予定のＡＥＤは５年間のリース契約させていただくもので、平成31年度から平成35年度までの間、2,150万円の債務負担行為をさせていただくものです。購入よりリースのほうが５年間で約320万円安くなっております。

それと、９番のＷｉ－Ｆｉの関係ですが、これはプロバイダーの設置に伴う工事費用等になっております。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）

失礼いたします。

それでは、私からは②、③、④についてお答えをさせていただきます。

〔15番岩江正行君「ちょっと、もうちょっと大きゅう」と呼ぶ〕

②の16ページ、款２項１目１節13委託料の120万円、管弦楽団出演委託料でございます。これは美作市で毎年行っております美作市顕彰式典でございまして、市政の振興に寄与し、または市民の模範と認められる行為があった方の顕彰を行っておりまして、受賞された方にお祝いを申し上げ、感謝の意を表するため顕彰式典を開催しております。例年岡山フィルハーモニック管弦楽団をお招きし、式典にふさわしい楽曲の演奏をお願いしておりまして、受賞された方はもとより、合唱に参加される小・中学生、その保護者の皆様から好評をいただいております。加えて一般の方も楽しみにされている方が年を追って増えるようになってまいっておると思っております。今年度におきましても、同楽団に演奏の委託を行う予定としておりまして、その委託料を計上いたしておるというものでございます。また、会場につきましては、美作文化センターを予定いたしております。

それから、３番目のＰＣＢ含有検査処理委託料814万9,000円でございますけども、内容については先ほど説明させていただきましたので、発注方法ということで御質問ですので、調査といいますか、検査と処理について原則は入札を考えております。しかしながら、特殊な内容のものでございますので、特に処分のほうは県の指定した機関というふうなとこが対応することになっておりますので、状況を見ながら判断をさせて

いただきたいというふうに思っております。

次に、④の工事請負費730万円でございますが、先ほど申しましたように旧こぶしの里の防犯カメラ、そして防犯灯、それから大吉コミュニティセンターのグラウンド整備、それから梶並出張所のトイレを和式から交換する改修費用を工事請負費として上げさせていただいております。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部次長。

企画振興部次長（平田　幸春君）

私のほうからは岩江議員の質問に対して⑤と⑮について御答弁させていただきます。

款２項１目37節７嘱託職員の賃金についてでございます。平成33年４月の開校を目指しまして美作市立の特別支援学校の認可の手続に必要な特別支援学校の整備計画案や教育プログラマーなどを作成するため教育分野の専門的知識、識見を有する方３名分の賃金でございます。

次に、⑮、款10項６目２節15工事請負費についてでございます。５件の工事を予定しております。みまさかアリーナ玄関前のロータリーの改修工事、美作野球場外野壁の緩衝材設置工事、緊急避難所であるみまさかアリーナ、武蔵武道館のオストメート設置工事、大芦高原グラウンドゴルフ場造成工事、大芦高原野球場防球ネット設置工事でございます。

内容につきましては、まずみまさかアリーナ、ロータリーの改修工事でございます。みまさかアリーナ玄関前のインターロッキングの舗装してあるところが今現在非常に傷んでおりまして、補修等では追いつかなくなっておりまして、それを改修するものでございます。

次に、美作野球場の外野壁緩衝材設置工事の内容につきましては、平成27年度に内野等への緩衝材の設置工事は実施いたしておりますけども、平成29年度から岡山県の高校硬式野球大会等が実施されることに伴いまして、外野壁にも衝突といいますか、ぶつかったりすることがございますので、それのけがを防止するための緩衝材を設置するものでございます。

続きまして、避難所のオストメートの設置工事でございます。便や尿を排出するための人工弁を装着した方の便や袋をためる、袋や腹部を洗浄することができるトイレを設置するものでございます。

次に、大芦高原グラウンドゴルフ場造成工事についてでございます。大芦高原に新たにグラウンドゴルフ場を整備する予定で、今回の工事では３コースつくるための造成工事を計上しております。

それから、大芦高原野球場の防球ネット設置工事でございます。昨年度内野の整備、それから外野ライト側の防球ネットを整備させていただいたところでございますけども、市といたしましては、雲海と協力し、高校等の硬式野球の合宿誘致などを進めるため、今回の補正で１塁側を中心に、バックネット裏から１塁、右翼横までの防球ネットを設置しようとする工事でございます。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

失礼します。

私のほうから⑥番について御説明をさせていただきます。

款３項１目２節19児童発達支援事業等拡大促進事業補助金354万8,000円についてでございます。障がい児の地域での自立生活の促進を目的とした児童福祉施設の整備及び充実を図るため社会福祉法人等が児童発達

支援、または放課後等児童デイサービス事業所を市内に新規で開設し、施設の充実等のための改修を行った場合の経費及び運営に係る経費の一部について補助金を交付するもので、内容としましては、施設改修補助金として10万円以上の施設の改修に係る経費に対して、１事業所当たりで５年間で100万円を限度として補助金を交付する、また運営経費補助金としては、これも開設から５年間、補助基準額1,000円に延べ利用人数を乗じて得た額を事業運営に係る単年度収支の赤字額の範囲内で、年間100万円を限度に補助金交付するものです。

平成26年に開設された事業所が１カ所と、今年度中に新設が予定されている対象事業所が１カ所あり、施設改修に係る補助金については、既設の事業所について既に交付した補助金の残額54万8,000円と、新設される事業所分が100万円の合計で154万8,000円と、事業所運営に係る補助金、２施設分の200万円の合計354万8,000円ということで計上をさせていただいております。

また、利用している児童の数ですが、４月の時点でこの施設を利用できる受給者証を持っているお子様が88名ということでございます。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）

私のほうからは７番と８番を説明させていただきます。

18ページの児童福祉総務費の扶助費の出産祝金ですが、この330万円の増額についてでございますが、第１子、60件、第２子、50件、第３子以降、30件、計140件を想定し、330万円の補正をお願いしております。補正後といたしましては、1,030万円となっております。

次に、⑧で、19ページ、斎場費の委託料、環境整備委託料165万8,000円ですが、これは美作火葬場の周辺に樹木が生い茂り、鬱蒼としており、火葬場の利用者の方からも何とかならないかとの御意見をいただき、整備するもので、周辺約２ヘクタールの樹木のうち、除伐、1.6ヘクタール、搬出間伐、ヒノキですが、0.4ヘクタールを行う費用を計上させていただいております。よろしくお願いいたします。

議長（鈴木　悦子君）

教育次長。

教育次長（山名　浩二君）

私からは10番から14番ということでございます。岡本議員にも説明させていただきましたけれども、まず教育費の工事請負費の1,040万円でございます。これは東粟倉小学校のフェンスと防球ネットの改修工事、また北小学校の手洗い用の流しを増設する工事、土居小学校の暗渠排水工事、また英田小学校の分電盤の老朽化のための取りかえ工事、また音楽室カーペットの張りかえ工事、屋上の転落防止柵の取りかえ工事、この６件でございます。

続きまして、教育費、中学校費の工事請負費630万円でございます。これにつきましては、勝田中学校の屋根の修繕工事、また美作中学校のテニスコートのフェンスのかさ上げを行うための工事でございます。

続きまして、10の教育費の幼稚園費の790万円でございます。これにつきましては、東粟倉幼稚園、それから土居幼稚園の空調機器を設置するための工事、また美作北幼児園の旧職員室を保育室に改装するための工事でございます。

続きまして、25ページの教育費の社会教育費の公民館費の工事請負費1,030万円でございます。これは大原公民館の外壁面の劣化により剥落の危険性があるため外装の塗装工事をするものでございます。

続きまして、26ページ、図書館費の工事請負費420万円でございますが、これは作東図書館が開館してから20年経過しておりまして、照明設備が電球を交換しても点灯しないなどのふぐあいが発生しておりますので、図書館内の照明をＬＥＤの照明に更新する工事ということでございます。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

岩江議員。

１５番（岩江　正行君）

大体一応説明をいただきました。

式典、これは私はまだ聞きに行ったことはないんじゃけど、どえらい式典にこういうな管弦楽団が来てする、非常にありがたいやつをやるんじゃな、音楽を。

それで、財産管理、一般管理の関係、ＰＣＢの、これもわかりました。

それから、４番目の防犯灯じゃな、これ、４番目の、これ最近言葉の割合日本語の通じんような人が古町、東粟倉、讃甘の辺で割合頻繁に出てきて、警察にも言ようるらしいんじゃけども、やっぱし同じするんだったら、これから先に誰がどうのこうのじゃなしに、やっぱしこういうな事件が割合全国的に見ても非常に多いんで、その辺のとこを、今美作市なんかで起きとる事件の内容、住民から出とる苦情、そういうなんここへ伝わってきとらんのんかな。やっぱしそういうなものをこの辺のところの予算に十分組み込んでいただきたいなと思うんじゃけども、いかがなもんかな。

それから、営業活動費、またこれ519万2,000円、これも作東のほうのとこに市長さん、はやここでバレンタインのあそこのとこに支援学校するんじゃというて、作東の人らとどういうふうな相談されたんか知らんけども、先、先話がしとられるとして、されようるようでございますけれども、この辺のとこについてもやっぱし地元の協力なくしては前へ行かないんで、この辺の説明も十分したほうがええんじゃないかなと、かように思います。

それから、障がい者福祉の関係についてはわかりました。

それから、出産祝金、これやっぱしここに祝い金を出すこともええんじゃけども、もう少しこの結婚、出産祝金と出産できるような環境づくり、何が欠けて子どもを産まん、出産できないんかというようなその辺のとこも予算の中に一つは欲しいなと思います。

それと、斎場の問題、これも斎場もどんなになっとんかな、林野のほうの斎場やこうもひつぎの上に天井のブロックが落ちたりするというようなことがあったらしいですが、ここらもやっぱしよく目配り、気配りしてやっていただきたい。

それから、プロポーザルの話、この学校関係も、これでよろしいですけども。

わかりました。

以上で今言うただけちょっと御答弁をお願いしたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）

２回目の御質問でございます。

防犯カメラのことでよろしいですか。

〔「防犯灯」と呼ぶ者あり〕

防犯灯だったですか。

〔15番岩江正行君「防犯カメラ」と呼ぶ〕

このカメラと防犯灯につきましては、旧こぶしの里に設置するものでございまして、カメラだけでは夜間に写らないということで、防犯灯も一緒に整備をするというものでございます。

〔15番岩江正行君「言ようることに答えとらんの」と呼ぶ〕

〔市長萩原誠司君「防犯灯設置については警察ともよく相談して〔聴取不能〕」と呼ぶ〕

これは財産管理に伴うものでございまして、また先ほど議員言われたようなものにつきましては、一般の防犯灯ですね、こういうものについては、それぞれ担当部署や警察のほうと相談させていただきまして、整備をしていきたいというふうに思っております。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部次長。

企画振興部次長（平田　幸春君）

岩江議員の２回目の質問でございます。

全体の内容につきましては、代表質問、一般質問でもお答えさせていただいておりますが、協議の内容、整備計画の全体の内容、協議の状況などにつきましては、今後議会の皆様、市民の皆様にお知らせしてまいりたいと考えております。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）

出産祝金のことですが、このこともですけれども、子どもが産みやすいように美作市として対策を考えていきたいと思っております。

それから、斎場のことですが……

〔15番岩江正行君「対策じゃないんで、環境づくりで」と呼ぶ〕

わかりました。環境づくりに努めてまいりたいと思います。

それから斎場についてですが、十分注意を払いながら運営していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

議長（鈴木　悦子君）

岩江議員、３回目です。

１５番（岩江　正行君）

そんだけだったな、ほかは。

とりあえず讃甘に出てきようる、下庄町に出てきようる、古町にこの間も脇本陣の前に出てきた。それから、東粟倉に出てきようる。ですから、そういうふうに日本語の通じん人が、古町やこうはちょっと覆面を覆ったのが来て、それで前の人に怒られようるし、それから武蔵のねきではよその家に物色しょうるやつを、車２台、２人来とんよ、２人、それで物色しょうるやつを、こりゃあ、どがいことじゃというて言うたら、わけのわからん言葉をどえらい発して、ほれで警察言うぞというて言うたら、そがしたら警察の話をしたら、ぱっと出ましたというて言ようりました。そういうことなんで、公共施設どうのこうのじゃなしに、たくさんの今商工会で言よるのは３人や５人じゃというて、７人じゃというて言ようるけども、そうじゃなしに、はや何十人というて来とるわけじゃから、大原のほうでも、たくさんの人が。じゃから、よそからも

来るし、そういうことで市民の安全・安心を一番に考えた形の中でやっていただきたいと思います。

終わります。

議長（鈴木　悦子君）

続きまして、通告順番６番、議席番号３番岩﨑清治議員の発言を許可します。

３番（岩﨑　清治君）〔質問席〕

それでは、今まで説明された部分で納得した部分については省いていきますので、まず17ページなんですけど、営業活動費の賃金517万2,000円ですか、先ほどの答弁でもありましたけれども、支援学校の準備をするというふうな片方で言われてるんですけど、片方では地域の住民の方や議会にも十分説明して、その上で動かれる、何か順番が少し、どっちが正しいんか、もう無視してやって後で報告するんか、地域の人が納得した上で事務を進めていくんか、そのあたりのところを少し説明をしていただきたいな。地域の方やら議会の方にまず最初に説明していただいて、それから準備をすべきだと私は思うんですけど、やはり順番が違うと困るという気がしますので。

それから、同じところの19番なんですけど、自治創生事業補助金という1,000万円なんですけど、これお尋ねしたいのが、新規事業ですかどうですかという部分と、ちょっと中身がわからなかったんですけど、補助金交付要綱等をもちろんつくられてると思うんですけど、それを私ちょっと記憶がないんで、もしあれであればいただきたい、それで結構ですから。

それから、同じページなんですけど、社会福祉協議会の補助金645万円というのがあるんですけど、これの意味合いを教えていただきたい。

それから、19ページの斎場費、委託料のほうはもうわかりましたけれども、木材販売負担金26万7,000円、これの内容を教えてください。

それから、これも少し納得をしがたかったんですけど、26ページの体育施設費の工事費のうち、大芦高原の野球場の防球ネットをするんですよという話をされたんですけど、きのうですか、私の一般質問のときに、これ専用貸し付けをすると言われた施設ですわね、それと、先ほどの説明では高校の野球部の合宿等に使うというふうなことを言われた。きのうときょうとちょっと整合性がないんで、そのあたりの説明をお願いします。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部次長。

企画振興部次長（平田　幸春君）

失礼いたします。

岩﨑議員の御質問にお答えさせていただきます。

③の款２項１目37節７嘱託職員の賃金についての質問でございます。現在事務を行っておりますのが開校に必要……。失礼しました。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）

おっしゃるとおりでございまして、この支援学校については、議会の方々とはもう過去４年間さまざまな方向性の議論をし、そして地元の方々にもさまざまな機会を通じて話をし、そろそろ今度は専門的にカリキュラム等をつくりながら県との相談をしなきゃいけないという段になって、この方々が来られ、その話がまた大分ある程度できましたらまた地元の方がいると、階段を少しずつ上りながら常に地元や議員の方々と相

談をしながら進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部次長。

企画振興部次長（平田　幸春君）

岩﨑議員の⑨の款10項６目２節15工事請負費のことでございます。昨日の関係の貸し付けとの関係でございますけども、これにつきましては、１年間を貸し付けるというふうにしております。そういった中でこれにつきましては、ショウワコーポレーションのほうが大体土日を中心に練習をするということがございます。そういった中で、あいたところについては、市が使えるという条件もして、貸し付け許可を行っておりますので、そういった必要なものについては市が設置……。済みません、失礼しました、使用許可を与えております。先ほども言いましたように一般の利用も可能ということにしておりますので、問題はないと思っております。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部次長。

企画振興部次長（春名　信明君）

失礼します。

私のほうからは④の歳出、17ページ、美作市自治創生事業補助金についてでございますが、これは平成28年度から始まった事業でありまして、交付要綱等もございますので、また資料のほうは御提出させていただきます。

〔３番岩﨑清治君「補助要綱」と呼ぶ〕

御提出します。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

⑤番です。款３項１目１節19の社会福祉協議会への補助金645万円です。本予算につきましては、美作市社会福祉協議会人件費補助に係る予算でございます。平成26年以前は毎年5,000万円以上の補助額となっておりましたが、社会福祉協議会の基金積立額との関係、また議会からの御指摘もあり、平成27年度から社会福祉協議会の積立金の一部を取り崩すことにより市からの補助金の補助額の低減を図ってまいりました。しかし、必要となる運転資金の関係から取り崩せる基金が限度に近い数字が見込まれるということで、当初予算としては骨格予算として前年並みの予算計上しておりましたが、もともと予算要求のありました１名増の額に今回の補正予算で補正予算をさせていただき、645万円を増額要求をさせていただいているという内容でございます。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）

私のほうからは⑦番を説明させていただきます。

19ページの斎場費、負担金補助及び交付金の木材販売負担金26万7,000円ですが、これは美作火葬場の周辺整備に伴う搬出間伐を行う人工林、ヒノキの販売収入の２分の１相当を所有者の方に支払う費用を計上さ

せていただいております。よろしくお願いします。

議長（鈴木　悦子君）

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

１回答弁いただいて、１回で終わろうかなと思ったんですけど、終われません。

営業活動費の中の嘱託職員の支援学校の分については、市長のほうが先ほど地域住民の方や議会によく言ってありますよ、説明してますよ、今までと、お互いに事務処理を階段的に上がりますよと今言われたんですけど、３月議会に議員の皆さん何人か質問されたら、一切まだ決まっておりません、今後検討しますという状況だったわけです。施設をつくることについては、私個人的には大賛成、何とかつくってもらいたい。ただ、バレンタインパークにつくることについてはいろんな問題があるんで、そこはもっと考えてもらいたいというのが私の個人的考えです。だけど、そういう話も含めて、されてなかった。やり方については非常におかしい。もうお答えは要りません。市のやり方はこんなもんだな、ひでえもんだなという感じをするだけです。

それから、社会福祉費の社会福祉協議会の補助金、人件費だと言われて、非常に難しいというか、おかしいというか、言いづらいというか、答弁されたんですけど、人件費は骨格予算であろうともつくるべきだと思いますね。よろしいです、これも。

次の材木販売負担金というの、これ負担金で出すというのがちょっと私は理解ができません。人の山の木を切っていただいて補償するんであれば、補償費だろうし、負担金というこの意味合いがわかりませんけど、内容はわかりました。ただ、売った中でどうのこうのするという話であれば、やむを得んと思うんですけど、節なり細節なりの考え方というのは少し考えられるべきじゃないかなと、２分の１といっても、どうかなという気がするんですけど、ちょっと疑問が残りましたけども、これもよろしいです。

それから、大芦高原の野球場の部分、きのうの答弁と全然違いますし、条例があるわけですから、あいてる時間帯、あいてる日にちに市民の方に使っていただく、まるで反対です。完全な法律違反ですよ。

以上で終わります。

議長（鈴木　悦子君）

通告者の質疑が終了いたしました。

他に質疑を受けます。

ございますか。

内海議員。

１７番（内海　健次君）

質問は５ページの債務負担行為、恐らく28日最終日はこの問題がかなり熱くなると思いますので、環境部のほうにお願いをしておきます。

まず、クリーンセンターの仕事というのは焼却とリサイクルと収集、３つに分かれると思う。私が聞いたのか聞き間違えたのかわからないけれども、５年、10年と委託するんだけれども、５年、10年を分けて言うたのか、10年一発で言われたのか、もし５年、10年と分けているんならば、これは当然業務内容によって、量によって委託金額が違うわな。そういったところの説明が聞いてなかったような気がします。それで、産業建設委員会でされるんでしょうけれども、資料をもってやられるんでしょう。資料をもってされた後、最終日の28日には我々が委員長報告聞いてもわかるような資料をここへしっかり置いといてください。ぜひそれをお願いします。そうしないと、28日の最終は終わりません。

以上で質問を終わります。

議長（鈴木　悦子君）

環境部長。

環境部長（宿野　豊彦君）

資料はまたつくって、どういうもん、協議をさせてもらいます。内容を見ていただきたいと思います、文書を。

〔17番内海健次君「それは産建に言いなさい」と呼ぶ〕

わかりました。

議長（鈴木　悦子君）

ほかにはございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第60号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第61号「平成30年度美作市水道事業会計補正予算（第１号）」について、質疑を行います。

発言通告がございませんので、他に質疑を受けます。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第61号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第62号「平成30年度美作市下水道事業会計補正予算（第１号）」について、質疑を行います。

発言通告がございませんので、他に質疑を受けます。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第62号の質疑を終了いたします。

以上で全ての議案に対する質疑が終了いたしました。

これより議案の委員会付託を行います。

お手元に配付しております審査付託表をごらんください。

お諮りいたします。

ただいままでに上程されております各議案は、審査付託表に記載のとおり各委員会に付託することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。よって、付託表のとおり付託いたします。

日程第３　請願・陳情について

議長（鈴木　悦子君）

日程第３、「請願・陳情について」を議題とし、一括して上程いたします。

今定例会までに受理した請願・陳情につきましては、既に配付をいたしておりますので、付託表のとおり所管の委員会に付託いたします。

なお、請願第２号につきましては、紹介議員から請願の紹介をお願いいたします。

山本雅彦議員、お願いいたします。

１１番（山本　雅彦君）〔登壇〕

それでは、請願第２号について御説明申し上げます。

協同労働の協同組合法、これは仮称でございますけれども、この組合法の速やかな制定に関する意見書の提出を求める請願書。

趣旨、協同労働の協同組合法（仮称）の制定に向け、国会での徹底した議論と速やかなる制定を求める意見書を貴議会において採択し、政府及び関係行政官庁宛てに御提出いただきたくお願いを申し上げます。

理由、協同労働の協同組合は、組合に参加する人全てが協同で出資し、協同で経営するという協同で働く形をとっており、働くことを通じて人と人のつながりを取り戻し、コミュニティの再生を目指す活動を続けています。国内ではワーカーズコープ、ワーカーズコレクティブ、農村助成ワーカーズ、障がい者団体など、10万人以上がこの協同労働という働き方で20年、30年という長い歴史の中で働いてきましたが、自分たちの働き方に見合った法人格が欲しい、労働者として法的保護を受けられるような社会的認知をしてほしいと法律の整備を求めて活動を続けてまいりました。そのかいあって、この働き方や法人を認めるための協同労働の協同組合の法制度を求める取り組みが全国に広がり、国会で100名を超える超党派の議員連盟が立ち上がるなど、法制化の具体的な検討が始まりました。この協同労働の協同組合は企業で正規に雇用されない若者や退職した高齢者が集まり、働きやすい職場を自分たちでつくる新しい働き方としての期待や、地域のさまざまな課題に住民自身が取り組むための組織として期待をされています。私たちはこの法制化の流れを推し進めるため国会での議論と速やかな制定を強く要望いたします。誰もが仕事を通じて安心と豊かさを実感できるコミュニティをつくる、こうした働き方は市民事業による市民全体のまちづくりを創造するものであり、働くこと、生きることに困難を抱える人々自身が社会に参加する道を開くものです。

美作市におかれましては、本請願の趣旨について御理解をいただき、政府及び関係行政官庁宛てに速やかな制定を求める意見書を提出していただきたく請願をいたします。

なお、参考資料はそれぞれおつけしておりますので、御参考にしていただきたいと思います。

以上、よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

以上で本日の日程は全部終了いたしました。

お諮りをいたします。

明日15日の議事日程は議案質疑の予定でしたが、本日で議案質疑が終了いたしましたので、明日15日は休会といたしたいと思います。これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。明日15日は休会することに決定いたしました。

本日はこれで散会します。

再開は28日午前10時からです。

大変遅くまで御苦労さまでした。

午後６時51分　散会

平成３０年６月２８日

（第　　６　　号）

1. 議　事　日　程（６日目）

（平成30年第３回美作市議会６月定例会）

平成30年６月28日

午 前 10 時 開議

於　　議　　場

日程第１　議案第53号～議案第62号、請願第２号、陳情第４号（委員長報告、質疑、討論、採決）

追加日程第１　会議録署名議員の指名

追加日程第２　議案第60号「平成30年度美作市一般会計補正予算（第２号）」に対する附帯決議

追加日程第３　発議第２号「協同労働の協同組合法（仮称）」の速やかな制定に関する意見書の提出について

2. 出席議員は次のとおりである（18名）

１番	青　山　　慶	２番	和　田　広　宣
３番	岩　﨑　清　治	４番	岡　野　鉄　舟
５番	中　山　忠　明	６番	倉　地　重　夫
７番	重　平　直　樹	８番	安　藤　　功
９番	金　谷　の り 子	10番	岡　本　泰　介
11番	山　本　雅　彦	12番	萬　代　師　一
13番	山　本　重　行	14番	尾　髙　誉　久
15番	岩　江　正　行	16番	日　笠　一　成
17番	内　海　健　次	18番	鈴　木　悦　子

3. 欠席議員は次のとおりである（なし）

4. 地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名（21名）

市　　長	萩　原　誠　司	副 市 長	横　山　博　光
教 育 長	大　川　泰　栄	政策参与	山　下　　亨
政策審議監	春　名　利　亮	総務部長	岡　本　和　之
危機管理監	藤　原　陽　二	市民部長	角　南　良　雄
環境部長	宿　野　豊　彦	経済部長	遠　藤　宏　一
保健福祉部長	江　見　　勉	建設部長	真　野　弘　紀
教育次長	山　名　浩　二	消 防 長	皆　木　佳　久
会計管理者	山　本　和　毅	企画振興部次長	平　田　幸　春
企画振興部次長	春　名　信　明	都市住宅課長	小　林　英　樹
ｸﾘｰﾝｾﾝﾀｰ管理課長	森　元　浩　之	大原総合支所長	野　村　慎　恵
ｽﾎﾟｰﾂ振興課長	中　村　伸　介		

5. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名（３名）

議会事務局長	尾　崎　功　三		
課　　長	坂　元　省　吾		
係　　長	金　谷　裕　子		

午前10時00分　開議

議長（鈴木　悦子君）

皆さんおはようございます。

携帯電話の電源を切っていただきますようお願いいたします。

傍聴者の方は傍聴規則第８条にもありますように傍聴席にあるときは静粛にしていただきますようお願いいたします。傍聴者の方が傍聴規則が守れない場合は議場より退席をしていただきます。

それでは、本日の会議に入る前に皆様に御報告をいたします。

先般、６月22日に開催いたしました産業建設委員会の審議中に傍聴者が刃物を持ち出し、大声を上げる暴力事件が発生いたしました。本当にあってはならないことであり、まことに遺憾に思っております。幸い、ほかの傍聴者、職員、議員にはけががなく大事には至りませんでした。この件で市民の皆様には多大な御心配をおかけいたしましたことをこの場をおかりしておわびを申し上げます。22日の事件を受け、26日に全員協議会を開催いたしました。安全・安心、そして開かれた議会のもとに傍聴をしていただくためにはどのようにすればいいか議員からさまざまな意見がございましたが、庁舎管理という点から執行部との調整も必要であり、事件の再発防止と今後の議会運営につきましては引き続き協議をしてまいります。なお、25日に美作警察署に伺い、当面の間、警察官による人的配置をお願いしてまいりました。本日は警察官による警戒をしていただいております。ありがとうございます。

それでは、14日に引き続き会議を開きます。

議員は全員の出席です。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

大川教育長より発言がありますので、発言を許可いたします。

大川教育長。

教育長（大川　泰栄君）

失礼させていただきます。議長の許可をいただきましたのでお時間をいただきまして、６月18日に発生いたしました大阪北部地震に伴い、小学校のブロック塀が倒壊し女子児童１名が犠牲となる事故を受けまして、美作市内の状況につきまして御報告をさせていただきたいと思います。

市内の学校、幼稚園、保育園におきましては、施設の中等も点検をいたしまして心配は全くございませんでした。ブロック塀につきましては、地震翌日、６月19日に教育委員会の担当者が緊急点検を行いまして、一部の学校や園にはブロック塀はございましたが、袖壁等もあり特に心配のあるものはなかったとのことでございました。しかしながら、今後国や県からの指示に基づき、念のため通学路の点検を実施し、さらには施設内も十分に点検をし対応を検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

日程第１　　議案第５３号～議案第６２号、請願第２号、陳情第４号（委員長報告、質疑、討論、採決）

議長（鈴木　悦子君）

日程第１、「議案第53号～議案第62号、請願第２号、陳情第４号（委員長報告、質疑、討論、採決）」を一括して議題といたします。

これらの議案等につきましては、６月14日に各常任委員会に付託しております。いずれも各委員会において審査終了の旨報告がありました。審査結果報告書はお手元に配付のとおりであります。

この際、各委員長から審査結果の報告を求めることにいたします。

まず、総務委員長の報告を求めます。

安藤委員長。

８番（安藤　　功君）〔登壇〕

皆さんおはようございます。

それでは、平成30年６月美作市議会定例会総務常任委員会の委員長報告をさせていただきます。

去る６月19日火曜日午前10時から、美作市役所４階議員控室において総務委員全員出席、執行部より萩原市長、横山副市長、山下政策参与、春名政策審議監、各担当部課長以下関係職員出席のもと総務委員会を開催いたしましたので、その審査の経過並びに結果について御報告を申し上げます。

本委員会に付託されました案件は、議案第55号「美作市消防団条例の制定について」、議案第58号「美作市過疎地域自立促進市町村計画の変更について」、議案第59号「美作市内の辺地に係る総合整備計画の策定について」、そして議案第60号「平成30年度美作市一般会計補正予算（第２号）」の４件でありました。

これらの審査に当たりましては、執行部に説明を求め、慎重に審査をいたしました。

それでは、審査の過程において議論となった点について順次御報告を申し上げます。

まず、議案第55号「美作市消防団条例の制定について」では、委員から、機能別消防団員は上げられている業務の内容だけをするのか、また条例11条の服務規律には機能別消防団員は該当しないのかとの質問があり、執行部より、機能別消防団員は業務として直接現場に出ることはない、ラッパ隊については訓練、行事等でラッパの演奏がメーンになってくる、女性消防隊員は行事等の司会進行、火災予防、防災、救急法の普及啓発に従事し、学生消防隊は避難所が開設されたときの運営補助や女性消防隊と同じく火災予防、防災、救急法の普及啓発に従事することになる、また第11条については基本消防団員をメーンとしているとの答弁でありました。

また、委員より、上位法は組織法だと思う、消防団員としての任務があると思うがその任務には従わない消防団員と認識してよいかとの質問があり、執行部より、消防組織法で定められている消防団活動は現場に出る基本団員をベースにしたものである、機能別消防団員である学生消防隊については現在問題となっている消防団員の減少を食いとめ、消防団を維持し団員を増やすことを目的としており、総務省消防庁からも新しく学生消防隊という制度を自治体で導入するよう要請文が出されている、現場活動するのではなく後方支援に従事する隊員をつくり、以後地元を守っていくという精神を身につけた基本団員の確保に努めるものであるとの答弁でございました。

委員より、第11条について招集を受けない場合でも火災等の場合には活動しないといけない、組織法の中にも任務という形であると思うが、ラッパ隊や女性消防隊において問題が出るのではないか、また組織法の中で任務として定められていることに従わないわけだが、公務災害や費用弁償は適用される、これらが適用されるのに現場には一切出ないというのは矛盾があるのではないかとの質問があり、執行部より、ラッパ隊については専属の団員もいるが、基本消防団員に従事しながらラッパ隊にも入っている団員もいることからさび分けをしっかりする必要があると考えている、女性消防隊、学生消防隊については組織的には団本部付となるため、団長の指示を仰いでしっかりとした活動ができるよう運営していきたい、学生消防隊については年齢を15歳からと定めている、日ごろは勉学優先ということを加味して現場活動には従事させず、後方支援での活動が基本と考えており矛盾はしていないと判断しているとの答弁がありました。

他の委員から、現場に行かないとのことだが、例えば学生消防隊50人の中で近所で火事があった場合は放っておけないのではないか、機能別消防団員であるから現場に行かないということはできないと思う、この

制度が本当に美作市の子どもたちのためになるのか、特殊な例かもしれないが、いろいろなことが起こり得るため、学生消防隊が果たして市民のためになるかという思いが私にはあるとの意見がございました。執行部から、御意見を参考にさせていただき、今後の運用に反映させていきたいと思う、学生消防隊については条例改正が承認いただけたら、その後、美作市学生消防団活動認証制度要綱を定めることにしている、この要綱は学生の就職活動をバックアップをするものであり、申請により市長が証明書を発行することで学生の就職活動の支援も手がけることができ、その内容も含めた学生消防隊というふうに思っているとの回答がありました。

他の委員より、要綱は条例の下にあるもので条例に反してはできないものである、その上には国の法がある、そのため要綱はより詳しくしていくものであって、もとを変えられるものではない、規則第８条の中で方面隊長が機能別消防団員の指揮ができると定められているが、例えばどこの方面隊になるのかとの質問があり、執行部から、機能別消防団員については団本部付であるが、女性消防隊、学生消防隊については隊長がいないため、団長の指示を受け、方面隊長が指揮することになる、方面隊長については学生は美作市内のさまざまな地域にいることから、その地域の方面隊が該当となる、勝田方面隊であれば勝田方面隊の隊長、副隊長というようになるとの答弁でありました。

他の委員から、施行規則で機能別消防団員の業務内容に他に団長が認めた業務を行うことと書いてあるが、特に必要と認めるとはどういったことを想定しているのかとの質問があり、執行部より、年末夜警の手伝いであったり、また大規模災害が起きて人手が足りず必要だと判断したときには従前なる手当てをした上で団長は現場活動を命令することができるというものであるとの答弁があり、委員から、消防団を底上げしたいというのはわかるが、子どもたちに危険が及ぶのではないかと危惧する、15歳という年齢の機能別消防団員をここでつくる必要があるのか、非常に若く、それほど経験も判断能力もないのではないかとの意見が出され、執行部から、本件は美作市が独自で行っていることではなく、国、消防庁から一定の設計図が出ていて基本的にはそれを当市に当てはめたものであり、市だけではなく団本部の幹部が集まり、若いときから消防団活動になれ親しみ必要な社会規律を身につけることで今後の団の充実にもつながるだろうと議論したものである、また滋慶学園が開校したので学生消防隊ができたら学校にお願いに行きたいと考えているとの回答がございました。

他の委員から、議論の中で女性や子どもを災害や火災が起きたときにいかなる場合も危険な場所に配置しないという議論はされたのか、また団長や方面隊長など、機能別消防団員に指揮する立場にある人たちはそういう認識でいるのかとの質問があり、執行部から、議論の中でその話は出ている、条例が承認されれば改めて団本部会議を開き話を詰めていくとの答弁がありました。

また、他の委員から、欠格条項の第７条第４項で６カ月以上の長期にわたり消防活動に従事できない者とされているが、長期出張等の場合、その人が復帰し復団するときはどのような扱いになるのかとの質問があり、執行部から、６カ月の長期というのは岡山市で問題になった幽霊団員を防止するという意味もある、復帰については可能であり、その欠格事由が消滅したことをもって復帰ができるものとしているとの答弁がありました。

次の議案第58号、議案第59号については、委員からの質疑はありませんでした。

次の議案第60号「平成30年度美作市一般会計補正予算（第２号）」の消防本部所管分では、委員から、まといをもらうために58万円が必要ということでよろしいかとの確認があり、執行部より、まとい審査が通れば東京で表彰式があり、団幹部の方に行っていただくことになる、まといについては昭和54年に創設され全国に約2,200ある消防団の中から毎年10団体に限り授与されるもので、日本消防協会が行う基幹表彰の中で

最高位のもので最も名誉ある表彰である、申請には３つの条件があり日本消防協会表彰旗、消防庁長官旗を受賞していること、さらに全国消防操法大会出場または消防操法県大会優勝の条件がそろい県内での推薦が必要となるが、美作市では昭和53年に旧英田町が自動車ポンプ操法の部で県大会で優勝しており、これら全てをクリアしていることから今回チャレンジすることとしたとの回答であり、さらに他の委員より、昭和54年に創設でその１年前の優勝で旧町村単位でも問題ないのかとの質問があり、執行部より、県の消防協会からも了承されており間違いないとの答弁でありました。

次に、市民部所管分では、委員から、出産祝い金について子どもが第４子、第５子となる方もあるが、その場合はどうなるのかとの質問があり、執行部より、第４子、第５子についても第３子以降に含まれており20万円の支給になるとの答弁でありました。

委員から、斎場費の環境整備委託料について、市の財産でない場所を間伐するということであるが、所有者との契約を行い、その後の伐採の契約をするという２段階の契約となるのかとの質問があり、執行部より、対象は13筆で11名の所有である、予算が通過してからという前提ではあるが全所有者から御協力いただけるとの確認はとれている、第１段階で所有者との契約を行い、その後、間伐の委託契約を締結する流れとなるとの答弁があり、さらに委員より、所有者への木材販売分を負担金から支出するのが適当なのかとの質問があり、執行部より、財政課と協議して決めており、他の箇所でもこの扱いで実施しているため、同様の扱いとしているとの答弁がありました。

また、他の委員より、火葬場の環境整備において伐採することはよいと考えるが、半径100メートルも切る必要があるのかとの質問があり、執行部より、伐採は皆伐ではなく間伐を予定しているのである程度の距離で実施しないときれいな整備とならないため、基準を100メートルとしているとの答弁がありました。

委員より、防犯カメラについてはおおむね設置場所は決まっているのかとの質問があり、執行部から、大原の大原病院周辺交差点、作東の大還橋周辺、勝田のローソン周辺の３カ所への設置について協議を行っているとの答弁があり、さらに委員から、大原病院周辺の交差点については消防署や交番もあるので他の場所への設置を検討するのがよいのではないか、高速道路の入り口付近などの話も区長から聞いているとの意見があり、執行部より、その点も含めて今後検討したいとの答弁がありました。

他の委員から、防犯カメラの設置は年次計画で継続していくのかとの質問があり、執行部より、警察からの設置要望もあることから市としては継続して設置していきたいと考えているとの答弁があり、引き続き委員から、防犯カメラのランニングコストはどの程度かかるのかとの質問があり、執行部から、電気代が毎月数百円とＳＤカードが不良となればその取りかえに要する費用が必要になるとの答弁がありました。

次に、総務部所管分では、委員から、公衆無線ＬＡＮ環境整備事業の国庫補助対象経費についての質問があり、執行部から、全体事業費6,260万円のうち国の査定により補助対象経費は5,062万2,000円で、この補助対象経費の３分の２の3,374万8,000円が国庫補助金となっているとの答弁がありました。

委員から、公衆無線ＬＡＮ環境整備事業で補助対象外が1,200万円程度あるが、どのようなものかとの質問があり、執行部から、25施設への整備要望をしていたが補助の対象となる施設は避難所、官公庁、観光案内所であるとのことから国の査定により大芦高原温泉雲海が補助対象施設として認めてもらえなかった、公衆無線ＬＡＮ環境整備事業においてシステムの材料費、労務費の5,062万2,000円は補助対象経費として認めてもらえるが、直接的に施行する共通仮設費、現場の安全管理のための現場管理費、一般管理費等の間接経費947万8,000円及び大芦高原温泉雲海分整備費250万円の合計1,197万8,000円が補助対象外となっているとの答弁がございました。

委員から、美作・西粟倉防衛協力会の活動補助金30万円について活動内容の質問があり、執行部から、防

衛協力会は合併以前から旧大原町と東粟倉村、西粟倉村で設立されていた大原・粟倉防衛協力会と旧美作町の美作防衛協力会があったが、市全体での取り組みができていなかったことから平成29年３月28日、新たに美作・西粟倉防衛協力会が設立され、自衛隊員の募集、自衛隊体育学校の誘致活動等をしていただいている、その活動の中で自衛隊体育学校の視察を計画されており経費の一部を援助するものであるとの答弁がありました。

委員から、防衛協力会の財源について質問があり、執行部から、防衛協力会の財源は会員の会費により活動されており、奈義防衛協力会、津山地域防衛協力会との交流会、意見交換会の活動及び競歩、女子ラグビーの合宿活動など、活発に活動いただいているとの答弁がありました。引き続き委員から、西粟倉村は防衛協力会に補助されているのかとの質問があり、執行部から、補助金は出されていないと聞いている、このたびの予算は美作市内の会員の方を対象としているとの答弁がありました。

委員から、財産管理費の備品購入費370万円のトラックはどのようなトラックか、またレンタルとの比較はしたのかとの質問があり、執行部から、現在大原支所にある平成４年に登録した1.5トンのほろ付のトラックの更新である、主にイベント等で使用し悪天候でも使えるトラックでありレンタルとの比較は行っていないとの答弁があり、委員から、レンタルとの比較はしておくべきであるとの意見がありました。他の委員から、現在のトラックの使用頻度について質問があり、執行部から、使用は頻繁ではないがイベント等でたびたび使用されるものです、このトラックは大原支所だけで使用するものでなく軽トラック以外でほろがついているものは大原支所と社協のトラックだけであり、この２台により市内で行うイベント等の運搬を賄っていることから市に１台ぐらいは必要なものであるとの答弁でありました。

次に、企画振興部所管では、委員より、自治創生事業補助金について1,000万円で10件程度の交付を想定しているということだが内容を詳しく教えてほしい、また過去の交付実績は何件あったのかとの質問があり、執行部より、過去２年間で交付した事業の内容説明があり、交付件数については平成29年度13件、平成28年度12件であるとの回答がありました。

他の委員より、特別支援学校については、以前一般質問で聞いたときには場所は決まっていなかったと思う、いつ作東バレンタインパークになったのか、規模等についてもどの範囲まで決まっているのかとの質問があり、執行部から、どういう教育目標を設定するか、どこに持っていくか、１クラス８人が基準で２クラスか３クラス、２コース程度を設置し、自立でき、就職ができ、高校卒業免許は取得できるダブルスクールなどをどこで実施するかについて準備室で適否を検討した、そこでバレンタインパークがよいのではないかとなった、毎朝のグラウンドでの運動、山の散策、梅林などの農作業にも適しているとの答弁があり、さらに委員から、作東バレンタインパークとしたのは準備室なのか、２クラスか３クラスと言われた、２クラスとして16人の３学年全体で50名程度と理解していいのかとの質問があり、執行部より、２クラスとして16人の３倍が定数となる、倉敷市立で設置されているが当初からどんどん増加している、３クラス72人はかたいと考えている、場所は準備室でも検討しているところであるが、まだ岡山県の内諾はもらっていないとの答弁でありました。

委員から、公民館の建てかえに伴って防災拠点、支所機能を持たせると聞いている、70人程度の規模なら作東バレンタインパークは広い場所であるので支所機能を残しながら持ってこられるのでないかとの質問があり、執行部より、支所機能を残すことに否定することはないが、70人規模ではあるが通常高校300人規模に想定される、障がいがある生徒のため活用スペース、寄宿舎スペースなども必要となり通常とは比べにくい、災害種別で考えれば防災拠点として地震には対応可能だが水害は不可である、地元から公民館を建てかえるなら支所機能を持たせてほしいとの要望はあるが、教育委員会については要望がないため、どこに移転

するかは今後検討するとの答弁でありました。

他の委員より、大芦高原グラウンドゴルフ場の3,400万円が計上され、全体で7,310万円計上されている、設計等に係る経費が計上されていないがどうなっているのか、またグラウンドゴルフ場は何面整備するのかとの質問があり、執行部から、造成設計費用につきましては４月臨時議会において予算計上し、現在測量に入っている、本年度は造成まで行い来年度中に完成させる予定である、コースについては３コースの新設と旧テニスコートを改修して１コース、計４コースを予定している、また現在は専用のコースが１コース、多目的グラウンド内に２コースの計３コースを使用しているとの答弁でありました。

委員より、大芦高原野球場の防球ネットは既にあると思うが、2,700万円はどのような工事なのかとの質問があり、執行部から、昨年グラウンド内の内野部分の土の入れかえとそれに伴うベース等のマーカー設置、公道にボールが出ないようにするための防球ネットを整備した、今回計上している工事費はグラウンドもきれいになっており大芦高原雲海において野球の合宿誘致を計画している、そのためには練習試合等ができるグラウンドでなければ誘致が難しいため、110メートルの防球ネットを設置するものであるとの答弁がありました。

また、委員から、大芦高原交流の村設置条例の中には野球場という言葉はなく、多目的広場となっていると思うが、予算書等に野球場となっているのはどういうことかとの質問があり、執行部から、昨年と今回の改修工事の内容が野球に関する改修であったため野球場という文言を使用しているとの答弁があり、委員より、単なる単語の問題ということだが統一性を持っていただきたいとの意見が出されました。さらに委員より、今回の補正予算と直接関係はないが、ショウワコーポレーションが専用で使うというのは何を根拠にしているのかとの質問があり、執行部から、今回は行政財産の目的外使用という形で許可を行っている、行政財産は公用または公共用に供する財産であることから、地方自治法第238条の４第１項において私権の設定が制限されているが、同条第７項において当該財産の用途または目的を妨げない限度においてその使用を許可することができるとされている、また美作市公有財産規則第23条でもその用途または目的を妨げない限度において使用を許可することができると明記されており、その条件が６項目ある、そのうちの第４号公の施設等の普及宣伝、公共目的のために行われる講演会、研究会等または公の学術調査研究の用に供するために使用させるときと第６号の市長が特にやむを得ないと認めるときを適用しており、第４号につきましては公の施設等の普及宣伝を適用している、今回ショウワコーポレーション硬式野球部がホームグラウンドとすることにより試合会場での市旗の掲揚によるＰＲ効果や雲海での合宿誘致の知名度アップ、ショウワコーポレーションの人脈による合宿誘致につながると考えている、大芦高原の体育施設は大芦高原国際交流の村設置及び管理に関する条例に位置づけられておりスポーツ振興課の所管であるが、他の社会体育施設とは異なった位置づけとなっているとの答弁に加え、岡山ファジアーノがシティライトスタジアムを専用使用していると思うが、それは同じような理屈である、他にも広島市民球場を広島カープが専用使用に近い形で使用している、美作ラグビー・サッカー場も岡山湯郷Ｂｅｌｌｅが使用しており、このような流れが今まで日本で行われてきた行政上の実態で法令上は法第238条の４第７項が使われており、かつそれを附則するために条例等が整備されているとの答弁でありました。

さらに委員から、法第238条の４第７項でその用途または目的を妨げない限度においてその使用を許可することができるとなっているが、目的を妨げない限度とはどういう意味か、多目的広場の用途または目的を妨げるものではないのかとの質問があり、執行部より、解釈には２つあり、１つ例を挙げると本庁舎の駐車場を菊花展に貸している場合、駐車場の一部は使えなくなるが、この程度なら支障がないであろうという場合、もう一つは行政財産の目的が野球で使用する場合であれば妨げることはほとんどないが、議員が言われ

る他の方々が使用できるかについてはなるべく使用ができるような配慮が必要であるという配慮をもって妨げないという範囲の中で読んでいくことになる、もともとの目的がありその目的とずれた使用をする場合には、その使用の限度において妨げるかどうか、もともとの目的に合っているときには他の主体が完全に配慮がされているかどうかということをもって判断の基準としているとの答弁がありました。

委員から、多目的広場は利用率が低いようなので、通常どおり貸し付ければいいのではないかとの意見があり、執行部より、そういう考え方もあるが、湯郷Ｂｅｌｌｅがラグビー・サッカー場を使用する場合に１分の差で他からの申し込みを優先し、ホームゲームができなくなると大変なことになる、議員の意見もわかるが一定以上のレベルのチームになると御意見にある考えのほうが例外的になってくるとの答弁があり、これに対し委員から、行政財産というのはそれなりの手続を経て利用するものである、行政財産をなし崩し的に利用するとほかにも同じことが出ることが想定される、こういうことはよくないと思う、行政財産は用途または目的を妨げない限度と明記してあることから厳格に守るべきと思う、あいたときに市民が使うというのは本末転倒であるとの意見がありました。他の委員から、目的外使用の目的で市がお金を使うのはおかしい、災害等での短期間の使用ならわかるが、長期間専用に供するため市が予算を組んで工事をする、企業が全く負担をしないというのはおかしいのではないのかとの意見があり、執行部から、大芦高原多目的広場の昨年の利用状況は野球場で年間約240人、美作野球場の60分の１、市内利用者約100人で体協の大会を行ったりグラウンドゴルフ、宿泊者の利用等で市内者の利用は少ない状況である、昨年度も工事を行っているがグラウンド状態も草、コケ等が多く多目的広場の利用としてもすぐには使用できない状態となっていたため、きれいに改修して防球ネットも整備したところである、本年度の防球ネットの設置工事についてはショウワコーポレーションのために行うものではない、ショウワコーポレーションの使用に関しては練習が中心でバッティングケージ等を使用し、横に飛球しない状況にしている、これは雲海で合宿を誘致するに当たり現状のグラウンドのように練習のみの利用しかできない状況では合宿に来ていただけないことから練習試合等ができる状態にするため、球が飛んでいかないよう１塁側からバックネットまで防球ネットを設置するよう計画しているとの回答がありました。

他の委員から、現在多目的広場が使えなくなるのであればグラウンドゴルフ場の費用を半分負担して当然ではないか、そうでなければ通常どおりの予約をとって利用すればいいとの意見があり、執行部から、雲海は約６カ月前から予約を受け付けており、ゴールデンウイーク、夏休み等は予約が多く体育施設の利用も多い状態である、ショウワコーポレーションには毎年12月末までに翌年の１年間のスケジュールを提出いただきグラウンド確保を行っている、その他のあいているときに雲海で合宿等の予約を入れており、市内の方がどうしてもその日に使用したいということであれば、可能な限り使用できるよう協議するようにしている、予約については毎月予約を行うことは煩雑でもあり年間を通じた使用許可としているとの回答でありました。

また、委員より、なぜ料金を変更する必要があるのか、使用料金の説明をとの質問があり、執行部から、ショウワコーポレーションは旧英田地区内に寮を建設予定となっており、これは大きな投資である、地域の活性化にもつながるものと思うしショウワコーポレーションが来ることにより他のクラブチームが来ることで雲海の活性化や観光開発が進むと総合的に考えたとき、どちらが市にとっていいかということを考えていただきたい、また使用料金は行政財産の目的外使用という形で条例に基づき計算しており、そこから一部減免をしている、金銭的には過去３年間の施設使用料の平均額の約20万円程度を行政財産の使用料としている、今まで施設が稼いでいる額はショウワコーポレーションに保障していただいており、その上で空き時間の利用分が増加する見込みとなっているとの回答がありました。

以上、全議案の質疑を終えた後、総務委員会へ付託された議案について討論、採決に入りました。

議案第55号「美作市消防団条例の制定について」では、委員より、消防団本部が災害現場に出動する際の学生消防隊の規定が十分でない、またその任務が明らかでない点がありましたので反対いたしますなどの反対討論がありました。賛成討論はなく、採決の結果、賛成多数により可決されました。

次に、議案第58号「美作市過疎地域自立促進市町村計画の変更について」では、委員より、大芦高原多目的広場にあるグラウンドゴルフ場を移転して４面のグラウンドを新設するのはよいが、ある企業からの負担もなく事業を行うことはよろしくないと考えることから反対しますとの反対討論があり、このほかに討論はなく、採決の結果、賛成多数により可決されました。

次に、議案第59号「美作市内の辺地に係る総合整備計画の策定について」は、討論はなく、採決の結果、全員賛成により可決されました。

次に、議案第60号「平成30年度美作市一般会計補正予算（第２号）」の総務委員会所管分については、委員より、グラウンドゴルフ場や野球場について執行部の説明は100％わからないわけではないが、企業からの応分の負担がないことに納得できないこと、また優先使用ということではあるが、行政財産が侵害されるのではないかと考えるため反対いたします等の反対討論があり、賛成討論はなく、採決の結果、賛成多数により可決されました。

次に、議案の審議終了後、執行部同席のもと、本会議において本委員会に付託された陳情の審査に入り、陳情第４号「タクシー利用補助制度関係についての陳情書」について委員に意見を求めたところ、委員より、添付する写真の件については陳情書にあるとおりサイズを統一しておくと手間が省けると思われるとの意見がありました。他に意見はなく、討論、採決に入り、討論はなく、採決の結果、賛成多数で採択することに決定いたしました。

以上、本委員会における審査の経過並びに結果を御報告いたしました。執行部におかれましては、審査の過程で出された意見や要望を十分考慮し、事務事業の執行に当たられますようお願いし、総務委員会分科会の委員長報告とさせていただきます。御審議のほどよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、文教厚生委員長の報告を求めます。

金谷委員長。

９番（金谷のり子君）〔登壇〕

おはようございます。

文教厚生委員会における審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る６月20日午前10時から、美作市役所４階議員控室におきまして文教厚生委員会を開催し、委員全員出席のもと、執行部より萩原市長、横山副市長、大川教育長、山下政策参与、春名政策審議監のほか担当部長以下関係職員が出席し、当委員会に付託されました議案についての審査を行い、その審査の内容について御報告申し上げます。

議案審議につきましては、教育委員会所管分から審議を行い、議案第60号「美作市一般会計補正予算（第２号）」については、委員から、公民館長の１人増配はどこの公民館かとの質疑があり、執行部から、今回の要望は英田公民館に配置を予定している、地域住民の学びと交流の拠点施設として地域に密着した公民館を目指していきたいとの説明がありました。

他の委員から、監査委員の指摘にもあった理科の授業で使用した薬品の廃棄のことについて質疑があり、

執行部から、理科の薬品については塩酸や硫酸などの薬品類は排水に流すことができないので定期的に処理を行っている、ことしはその処理が必要であるための費用を計上しているとの説明がありました。

続いて、保健福祉部所管に移り、議案第53号「美作市附属機関設置条例の一部を改正する条例について」では、委員から、現在の協議会の人員の配置、また協議会を１つにすることのメリットは何かとの質疑があり、執行部から、包括支援センター運営協議会は委員が11名、介護保険運営協議会と地域密着型サービス運営委員会は共通の委員が11名、計画策定委員会は委員10名である、協議会を１つにするメリットは１つの会議にすることで説明を詳しく行うことができ協議を包括的に行っていただける、また実際に計画を立てた委員が計画運営がきちんとできているかをチェックして３年後の計画に反映させていくという流れができているので効果が非常に高いとの説明がありました。

委員から、報酬額が日額5,000円となっているが、昨年は協議会を１日で開催している、改正前と改正後で報酬の受取額に違いが出てくるのかとの質疑があり、執行部から、昨年１日に３回の会議に出席した委員はそれぞれに委員に選任されていただいているので報酬もそれぞれに支払いを行った、しかし今回の改正により協議会は恐らく半日程度で全ての協議ができると考えており、日額5,000円の報酬で済むと考えているとの説明がありました。

次に、議案第54号「美作市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について」では、委員から、放課後児童クラブの支援員の要件を緩和する条例の改正は国の上位法によって改正されたものか、また市長が適当と認めた者とはどういうことなのかとの質疑があり、執行部から、条例改正は国の基準が改正されたことにより行うものであり、また市長が適当と認めた者とは現在の基準では高等学校等卒業者等ではない者は放課後児童支援員の基礎資格を有していないが、勤務実績や勤務姿勢によりその資格を有することが適正であることを市が責任を持って認めるということになるとの説明がありました。

次に、議案第60号「平成30年度美作市一般会計補正予算（第２号）」についてでは、委員から、児童発達支援事業等拡大促進事業で事業所が１カ所新設予定であることだが、既存のめばえの規模とどうなのかとの質疑があり、執行部から、既存のめばえも開設予定の事業所も定員は10名規模である、めばえが児童発達支援と放課後デイサービスの事業を行っているが、開設の事業所は放課後等デイサービス事業のみとなる予定であるとの説明がありました。また、委員から、既存のめばえと開設予定の事業所の位置関係はどうなのかとの質疑があり、執行部から、既存のめばえは巨勢地区にあり、開設予定の事業所は栄町地内となる予定である、誕生寺支援学校の送迎バスの乗降場所が市役所の駐車場となっており、そこからの利用も想定予定であるとの説明がありました。

続きまして、全議案の質疑終了後、本会議におきまして文教厚生委員会に付託された議案について討論、採決に入り、議案第53号「美作市附属機関設置条例の一部を改正する条例について」、議案第54号「美作市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について」の２議案は、討論はなく、採決の結果、全員賛成により可決されました。

次に、議案第60号「平成30年度美作市一般会計補正予算（第２号）」の文教厚生委員会所管分については、討論はなく、採決の結果、賛成多数により可決されました。

以上をもちまして文教厚生委員会委員長報告とさせていただきます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

これより10分間休憩いたします。

午前10時49分　休憩

午前10時59分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

次に、産業建設委員長の報告を求めます。

中山委員長。

５番（中山　忠明君）〔登壇〕

平成30年６月美作市議会定例会産業建設委員会の委員長報告をいたします。

その前に、この場をおかりしまして、去る６月21日、22日両日、起きてはならない暴力事件、こういうことが起きましたことを心からおわび申し上げ、今後の我々がしなくてはいけない市民の生命と財産を守ることが我々に課せられた使命であることを再認識いたし、議員一丸となって今後このようなことのないように議会をとり行っていきたいと思うところでございます。まことに済みませんでした。

去る６月21日、22日の両日、午前10時より美作市役所４階議員控室におきまして、議長及び委員全員出席のもと、執行部からは21日は市長、ほか副市長、政策参与、政策審議監及び各担当部長以下関係職員が出席いたし、22日には市長、そして議長は公務のために出席できませんでしたが全員出席いたし、産業建設委員会に付託されました議案につきまして慎重に審査いたしました。審査の過程において議論となった点について御報告申し上げます。

まず、議案第56号「市道路線の認定について」及び議案第57号「市道路線の変更について」では、質疑はありませんでした。

次に、議案第60号「平成30年度美作市一般会計補正予算（第２号）」について、まず建設部所管では、委員より、測量設計等委託料及び景観維持等委託料について質問があり、執行部より、測量設計の場所としては来年度計画している箇所であり延長は4.8キロメートルとなる、景観維持等委託料は約20キロに伴う現道の側溝を清掃、倒木処理、年２回の草刈りなどを予定しているとの答弁がありました。委員より、測量設計等委託料の算出根拠について質問があり、執行部より、国の歩掛を採用しているとの答弁がありました。

委員より、道路の新設、改良の予算が多いが、その内容と当初予算に入っていた路線はないのか、また国県支出金事業にはならないのかとの質問があり、執行部より、新設、改良の路線名の説明と当初予算に入っていたものはない、財源不足のため国の配分が少なくなっているので申請はしても割り当てが来ない、そのため有利な起債を充当し事業を進めているとの答弁がありました。

委員より、歳入において公共施設整備基金を交通安全施設整備の白線事業に充当すると説明があったが、基金の条例に該当するのかとの質問があり、執行部より、財政課と協議の上で計上しているとの答弁がありました。

次に、委員より、除雪車は何台購入するのかと質問があり、執行部から、１台であるとの答弁がありました。

委員より、新規林道の接続箇所と西粟倉村の分担割合について質問があり、執行部より、新規林道の接続箇所は東粟倉の林道竹の頭線終点より西粟倉村の林道ダルガ峰線と接続する予定である、また負担割合については全体計画が対象であり事業量で案分し50％の負担割合としている、詳細設計及び工事費などについては市と西粟倉村がそれぞれ実施する予定であるとの答弁がありました。委員より、新規林道の全体事業費について質問があり、執行部より、事業費については本年度全体計画を実施するため未定であるとの答弁がありました。委員より、全体計画に当たって事業費以外における事務費などの負担について質問があり、執行

部より、事務費などの必要経費は市で負担するとの答弁がありました。委員より、受益者分担金について質問があり、執行部より、土地の寄附及び立木を無保障とすることにより分担金は免除しているとの答弁がありました。委員より、林道に伴う土地については以前から保障していないはずである、したがって今回も保障しないのが当然であり分担金は必要と思われるがとの質問があり、執行部より、将来的に新規路線の計画をする場合も今回と同じ考えで進める予定であるとの答弁がありました。次に、委員より、幅員はどのぐらいかとの質問があり、執行部より、全幅で４メーターを計画しているとの答弁がありました。

次に、環境部所管では、美作クリーンセンター長期包括的運営業務委託説明資料により美作クリーンセンターの現状、可能な選択肢、長期包括委託の特性、現時点での委託方針案、コスト削減の可能性及び業務分担について説明を受け、質疑に入りました。

委員より、現在焼却施設の運転管理をしている委託業者の職員数と年間委託契約額及び市の行２の職員数について、また４億200万円から４億1,000万円は決算額なのかとの質問があり、執行部より、委託業者の職員数は11名で契約金額は年間約6,000万円である、現在の市の行２職員10人という現状では直営による焼却施設の運転管理はできない、また市職員の配置は収集業務に５名、計量などとリサイクルの中央監視及びプラットホームに５名の計10名である、４億200万円から４億1,000万円は決算額であり、これには収集業務などの包括運営業務に委託しない費用も含まれている、クリーンセンター建設工事の瑕疵担保期間中であり決算額には修繕費用はほとんど含まれていない、収集業務などを引き続き市で行う業務を除いた業務と施設の修繕業務について包括運営委託するものであるとの答弁がありました。

委員より、償却に要する費用を含んだ年間約４億円程度かかる費用が包括委託することにより5,000万円程度減額になり３億5,000万円程度になるということかとの質問があり、執行部より、約5,000万円のコスト削減については包括委託する費用に包括に含まれない直営業務を合わせた場合と現行業務を10年間継続して直営で行った場合を比較検討した結果、10年間で約5,000万円安価になるとの答弁がありました。

委員より、津山圏域は20年、和気町は15年の契約となっている、他の市町村などと比較検討しているのか、今までは年間6,000万円の運転委託だったが、包括委託した場合は１年間に３億2,000万円かかる業務分担表で包括委託する業務が示されているが、各項目別また各期間別に費用を示して32億円の内容について説明してほしい、また１人当たりの負担金で考えた場合、他の市町村などと比較して高額となっているのではないかとの質問があり、執行部より、包括委託費32億円に含まれている費用の内訳については人件費、用益費、法定検査などの費用を決算の実績をもとに10年間を積み上げている、また修繕の費用については今後10年間のものであり、専門のプラント業者に見積もりを依頼し査定したもので年間実績４億円のうち包括に含まれない収集業務などを差し引いてそれぞれに修繕費を加えた10年間の費用が32億円である、他の市町村の各施設の焼却能力は施設規模も違い運転時間も異なり単純に比較できない、各項目別また各期間別の費用についてはこれから発生する業務となるため控えさせていただくとの答弁がありました。

委員より、包括委託の32億円で大きなウエートを占める部分はどこになるのか、人件費か、修繕費か、修繕費であるならばその分はどの程度算定しているのかとの質問があり、執行部より、人件費及び修繕費が大きなウエートを占める、32億円の費用の内訳として人件費約40％程度、施設の修繕費約35％程度、法定点検及び用益費15％程度を見込んでおり、残りは一般管理費などの経費となっている、約35％程度を占める修繕費の部分を競争により下げることが要点と考えているとの答弁がありました。

委員より、10年間で32億円になるとのことであるが、平成31年から35年までの前半と平成36年から平成40年までの後半のおおむねの内訳について質問があり、執行部より、前半５年間で約14億円、後半５年間で約18億円を見込んでいるとの答弁がありました。

委員より、何を目的にコスト削減して業者に包括させるのかとの質問があり、執行部より、運転管理をする人に修繕費用を負担させると修繕がなるべく発生しないように運転するので、現在最大で想定している修繕費が大幅に減ると考えており、今後年間約１億円程度発生する可能性がある修繕費をどうやって抑制するかが焦点の核となる、一番の目的は責任範囲を拡大することによって全体の運転をきれいにしてもらい修繕費を抑えてもらう、そこに削減の一番大きな可能性があり、それが包括運営委託により抑制できるとの答弁がありました。

委員より、包括委託について何がメリットで何がデメリットなのかとの質問があり、執行部より、今までの運転委託と包括運営の一番大きな差は最初に契約した金額の中で修理を全部するということ、決められた範囲の業務については全部受託者の責任と負担において運転管理も行い、修理も提案して契約金額の中で実施する責任と負担の構図を切りかえることが包括運営委託における一番のポイントであるとの答弁がありました。

委員より、決算書の費目において包括委託後に直営に残る部分の項目について質問があり、執行部より、人件費の一部、旅費、需用費のうち50％が指定ごみ袋の制作費で直営に残る、その他の印刷製本費、修繕料のうち収集業務に係る車両などの修繕料、役務費の通信運搬費、手数料、保険料の一部、委託料のうち電気、保安業務委託料、収集業務委託料、ガラス類ほか処理委託料、灰処理委託料のほか使用料、工事負担費、原料費、原材料費、備品購入費の一部、負担金補助及び交付金、公課費は残るとの答弁がありました。

委員より、10年間の委託期間は長い、前半と後半では委託内容が変わり金額も前半が14億円、後半が18億円ということなので４年後に見直しをかけて、その１年後から委託内容と金額を出して５年間にするとかして10年間にすることにより金額の圧縮が図れるのではないかとの意見と、また別の委員より、契約期間は長くしたほうがよいと考えている、焼却炉は維持管理や老朽化などにより常に修繕が伴うものであり、一括方式で委託すれば故障しても受託者が修繕するため10年間と言わず15年のほうがよいと考えている、５年で区切ってしまった場合、見直す段階で金額が高くなる場合もある、金額を抑えて年数を長くすることが最良と考えているとの意見があり、執行部より、契約期間についてはもう少し長いほうがよいのではないかとの考えもあったが、自信が持てないところが多過ぎて、そうする中で５年間という議論もあって、とりあえず合意の着地点は10年間という感じを受けた、ただし５年のときに節目が来るのであれば３年半後ぐらいに見て想定する、そのときには契約延長も含めて交渉する、いい時点でいろんな見直しをするという意見はありがたい提案だと思っているとの答弁がありました。

委員より、包括委託の場合は10年間というのが若干あった程度でほとんどが15年から20年というものだった、10年の期間の設定根拠について質問があり、執行部より、全国的には焼却施設の運転をする上で大規模な修繕、機能強化が必要になる時期というのが使用開始から15年程度とされている、これは今までの他の施設の実績であるが、これを踏まえて今年度末で５年経過するため、残りの10年間について包括委託を行う、この10年間のうちに長寿命化計画を作成し、その後新たな長寿命化計画を含めた新しい委託計画をするということで10年間を設定している、またいろいろな意見を参考にしながらまだわからないところもあるので中途で振りかえることも必要あるとの答弁がありました。

次に、経済部所管では、委員より、担い手確保経営強化支援事業について質問があり、執行部より、地域農業の担い手が融資を利用し農業用機械や施設を整備する際、支援するもので助成額は事業費の２分の１以内となっている、本年度はトラクター２台、大豆用コンバイン１台及びブドウ棚の整備が対象である、経営形態などについてポイントが決められており、その基準に基づいて選定されているとの答弁がありました。

委員より、東粟倉工房の修繕に伴う費用の負担について質問があり、執行部より、冷凍庫は市の所有で修

繕費の負担は貸借契約書の規定により協議した結果であるとの答弁がありました。

委員より、木材販売収入について質問があり、執行部より、杉、ヒノキの市況を参考に算出し搬出に要する経費を差し引いているとの答弁がありました。

委員より、ジビエ倍増モデル整備事業が市有地に整備されていることや事業主体、資金の流れについて質問があり、執行部より、事業主体はみまさか有害獣利活用研究コンソーシアムであるが、事業は構成員である美作市、真庭市がそれぞれ実施し、整備された施設は美作市、真庭市それぞれの所有となる、運転資金として補助金相当額を両市からコンソーシアムに貸し付け、国からの補助金がコンソーシアムに入金され次第返還を受ける、補助残を市からコンソーシアムに負担するが、獣肉処理施設の指定管理者である大黒天物産株式会社から自社で減容化施設に取り組みたいとの要望が以前あったことから、同社と協議を行い負担していただくことになっているとの答弁がありました。

委員より、コンソーシアムという組織について質問があり、執行部より、農林省の言っているコンソーシアムというのは実態をもった法人格を想定していない有意連合を組んでやってほしいということでジビエカーは真庭市の所有になる、減容化施設は美作市の所有になる、コンソーシアムの代表者も事務局も美作市が務めることで整備しているとの答弁がありました。

委員より、ジビエ倍増モデル整備事業がなぜ６月補正予算なのかとの質問があり、執行部より、この事業は国の補正予算によるものだが、平成29年度の最終に承認された平成30年度に繰り越された予算である、農林省が緊急公募を行ったもので昨年獣肉処理施設の指定管理者を選定していた時期にはこういった助成の話は一切なかったとの答弁がありました。

委員より、猟友会への説明について質問があり、執行部より、減容化施設の整備について猟友会の〔聴取不能〕で説明しているが、施設整備によるメリットや全頭処理を目標としており、搬入頭数を増やしてもらうことなどを説明するとの答弁がありました。

委員より、真庭市、奈義町の経費負担はどうなっているのかとの質問があり、執行部より、真庭市から枝肉を受けるが残渣は真庭市で処理されている、奈義町からは個体の搬入を受ける、それぞれ処理頭数に応じた使用料をいただく方向で検討しているとの答弁がありました。

委員より、コンソーシアムで整備する施設の所有権について改めて質問があり、執行部より、整備する施設の所有を明確にするため、コンソーシアムと美作市、真庭市で覚書を締結するとの答弁がありました。

委員より、個体を獣肉処理施設に搬入したときの奨励金の差額について質問があり、執行部より、国の捕獲奨励金はイノシシまたはニホンジカの成獣１頭当たり平成29年度は一律8,000円であったが、平成30年度から埋設した場合は7,000円、ジビエ利用の場合は9,000円と2,000円の差があるとの答弁がありました。

委員より、大黒天物産株式会社が３年で撤退した場合、負担いただいたお金をどうするのかとの質問があり、執行部より、指定管理者というと愛の村パークがあり、宿泊施設を整備したことについて指定管理料を減額する形で支払っていただいている、今回は一括して支払っていただく形になっている、したがって使用した期間によって清算が必要になり指定管理者が入れかわるときに使用期間に応じて案分した金額を次の指定管理者に支払っていただくことになるとの答弁がありました。

委員より、コンソーシアムの規約と構成員、スタート時期について質問があり、執行部より、美作市、真庭市、奈義町、２市１町の猟友会、岡山県日本ジビエ振興協議会が構成員である補助事業の申請時には規約を案という形で出している、交付決定が７月中旬から下旬になっていることから交付決定後のスタートになる、美作市または真庭市がコンソーシアムから委託を受けて全面的に発注管理などを行うとの答弁がありました。委員より、コンソーシアムへの資金を貸し付けする場合の規則について質問があり、執行部より、貸

付要綱を定める準備を行っているとの答弁がありました。

委員より、美作市観光振興協議会補助金のうち連泊補助金の昨年実績、対象範囲について質問があり、執行部より、昨年実績は203人で対象地域は美作市全域であるとの答弁がありました。委員より、働く車イベントの事業主体はどこかとの質問があり、執行部より、みまさか商工会青年部ですとの答弁がありました。委員より、外国人実習生受入事業補助金の実績はまたもう少し下げるという話であったが検討されたのかとの質問があり、執行部より、この事業は平成28年度から始めた事業で平成28年度の受け入れ実績は４名、平成29年度は３名である、補助金交付要綱では補助対象経費の３分の２で上限が400万円であるが、今後補助率を下げていくとの答弁がありました。委員より、この補助金は何を基準にしているのか、渡航費及び滞在費に幾らかかっているのかとの質問があり、執行部から、交付要綱では研修費、旅費、講習費及び負担金が補助対象経費であるが、申請では渡航費、滞在費等について１人１回10万円で２名が４回で80万円になっている、新規要望は６名となっており１カ月間の講習会経費も対象になっているとの答弁がありました。委員から、もっとわかりやすく実習生１人当たりに係る経費を明確にする必要がある、また他の団体などをよく調べ比較していく必要があるとの意見がありました。

次に、議案第61号「平成30年度美作市水道事業会計補正予算（第１号）」では、執行部よりＰＣＢ検査処理に伴う委託料の補正について説明を受けたが、質疑はありませんでした。

次に、議案第62号「平成30年度美作市下水道事業会計補正予算（第１号）」では、委員より、工事などの事業について起債の対象にならないのかとの質問があり、執行部より、財政課に確認したところ水質測定器については起債の対象になる可能性があることから、今後起債の対象になれば財源更正の補正を上程するとの答弁がありました。

続いて、全議案の質疑終了後、本会議において産業建設委員会へ付託された議案について討論、採決に入り、議案第56号「市道路線の認定について」及び議案第57号「市道路線の変更について」の２議案については討論はなく、採決の結果、全員賛成により可決されました。

次に、議案第60号「平成30年度美作市一般会計補正予算（第２号）」の産業建設委員会所管分については、委員より、長期包括運営委託契約の費用が他の自治体と比べても高いこと、32億円で10年間の委託だが、その委託経費について修繕料が年間１億円も含まれていること、コンソーシアムについて理解ができないことから反対しますとの反対討論や、外国人技能実習生の補助金については民間が既に行っていること、市役所と商工会が１つになって取り組んでいるが効果も上がっていないようであることから反対します、またジビエの関係については市の会計については実質的な負担は必要ないのですが、この予算を提出するまでになぜ説明がなかったのか、また内容に関しても不信感があることから反対しますなどの反対討論がありました。一方、長期包括運営委託契約については、今後プロポーザルによって全体経費を抑制し、なおかつ業者のほうに積極的な入札をお願いし、４年経過後には６年後以降の契約内容については十分に精査し見直すことを附則事項とした上で附帯決議を付すことで承認をしたいとの賛成討論がありました。採決の結果、賛成少数により否決されました。

次に、議案第61号「平成30年度美作市水道事業会計補正予算（第１号）」については、討論はなく、採決の結果、全員賛成により可決されました。

次に、議案第62号「平成30年度美作市下水道事業会計補正予算（第１号）」については、委員より、歳入については考慮する点があるが、その点を付して賛成すると賛成討論があり、反対討論はなく、採決の結果、全員賛成により可決されました。

次に、議案の審議終了後、執行部同席のもと、本会議において本委員会に付託された請願の審査に入り、

請願第２号「「協同労働の協同組合法（仮称）」の速やかな制定に関する意見書の提出を求める請願書」について、委員より、資料に書かれている内容については理解するが、現状との今の法律の部分と課題について理解ができず、賛成できかねることから反対するとの反対討論がありました。また、委員から、この団体の方々が法人格を取得される運動を行ってこられたもので、この取り組みについては添付された資料で理解できることから賛成しますとの賛成討論があり、採決の結果、賛成少数で不採択とすることに決定いたしました。

以上、産業建設委員会委員長報告とさせていただきます。御審議のほどよろしくお願い申し上げます。

〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

これより１時まで休憩いたします。

午前11時51分　休憩

午後１時00分　再開

議長（鈴木　悦子君）

それでは、休憩前に戻り会議を再開いたします。

各委員長からの審査結果の報告はただいまお聞きのとおりであります。

これより各委員長の報告に対する質疑を行います。

まず、総務委員長報告に対する質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

総務委員長報告に対する質疑はないようですので、これで総務委員長報告に対する質疑を終了いたします。

次に、文教厚生委員長報告に対する質疑はございませんか。

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

一般質問の後で議案質疑あったときに申し上げたんですけれども、計画策定というのは利用者ニーズに基づいて行われるだろうというふうに私は思います。それを策定して、今度は片一方は一緒にするほうが運営協議会、運営ということになっております。そこと一緒にするということです。運営ということになれば、あのときも申し上げましたが、経営的なもんだと思います。ですから、ニーズと運営とは相反することが起きるんじゃないかなと思います。そういったことに対してこの文教委員会ではどんな質疑があったのか。また、それに対して委員長はどのように思われてるのかということを聞きたいと思います。

〔「議案何号」と呼ぶ者あり〕

議案第53号です。

議長（鈴木　悦子君）

議案第53号「美作市附属機関設置条例の一部を改正する条例について」ですね。

金谷委員長。

９番（金谷のり子君）

委員からの質疑といたしましては、どのようなメリットがあるかということと、それから報酬についての質疑がありまして、その２つについては先ほどお答えさせていただいたとおりですので、その中にメリット

のほうが高いということであるということで進んでいくというふうに理解しておりますので、それをお答えとさせていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

委員会の報酬が少なくなるということはメリットだということは私はわかります。何人かおるのが、３つを１つにするんですから、それは少なくなるでしょう。でも、先ほど申しましたようにニーズと運営とは異なって相反することが起きてくるんじゃないかと。それにどのようにこの委員会は担保するのか。それを私知りたいんです。この新しくできるこの美作市介護保険運営協議会がもう全部やるようになっとるわけです。計画の策定も運営もどっちもする。私はこれはどうしても今までの説明では理解できないんです。ですから、その辺の明確なお答えをいただきたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

金谷議員。

９番（金谷のり子君）

委員の質疑の中では出ておりませんでしたが、昨年ありました私がこの協議会等に参加した中で、委員の方が計画ばかりでは進まないと、実際にこれを運営していくことが大事なのだというところでそれをチェックしたいという申し出もありましたのでこういう方向になっているのではないかと考えます。それをお答えとさせていただきます。ぜひチェックして行動したいという市民の方の御意見をもとに動いております。

議長（鈴木　悦子君）

よろしいですか。

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

それは住民ニーズが100％正しいと思ってるわけじゃないんです。できることもあればできないこともあるということは十分私もわかっとんです。でもね、それを一緒にするというのはどうしても私は納得できないんで。住民ニーズと運営とが本当に一体で、果たして市民のためになるのかなという思いが強いんで、このことをこの前からずっと申し上げてるわけでございます。今なお、金谷委員長の言葉にメリット、メリットと言われるけど、私はデメリットもあるという思いがありますので、そういったことに対して議会としてどういうふうに応えていくのかということをお聞かせいただけたらと思います。

議長（鈴木　悦子君）

金谷議員。

９番（金谷のり子君）

委員会出ておりませんのでこれを言うべきかどうかなんですが、やはりデメリットよりも岡本議員が言われますことが幾らかあったとしてもメリットのほうが大きいと私は考えます。

議長（鈴木　悦子君）

ほかにございませんか。

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

同じ議案第53号の附属機関の関係で介護保険の関係なんですけれども、介護保険料については今年度の当初予算、２月のとき、それにあわせてもいろいろな話が出た中で一番の問題と私が捉えているのは第６期の

介護保険料が実際の決算よりも大分下がったわけです。見込みですから、ぴったりはいかんのはこれ事実なんですけど、それにおいても１億円の上のお金が残ったということは介護保険事業計画、つまりサービス量の算定に間違いがあったということだと思うんです。これしかないわけです。普通そういうふうなミスが発生したら組織的な問題なんか、何なんかというのを検討して、今回はじゃあこれを改革しようという中で３つの委員会を１つにしてしまったという中で、こういうふうなミスがあったわけだから委員さんの全部の責任という意味じゃないんですけど、ミスが保険料と実績と乖離が非常に多かった。議会においてでも岡山県内の市で一番高いという議論まであったわけですから、それ何がもとかというたらサービス量の算定が過大過ぎたということですから、その部分のもとである介護保険事業計画をつくるものも今回１つにしてしまったと。その部分を反省した上で組織上どういうふうな議論の中でどれを拡充して、次の保険料、私たちの保険料をどのように決めていくんかという、そういう議論と、今までのやり方でおかしかった部分をどのように直されたんかという部分を２点を教えていただきたい。

議長（鈴木　悦子君）

金谷議員。

９番（金谷のり子君）

その件につきましては質疑ございませんでしたので、お答えできないと思います。

議長（鈴木　悦子君）

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

質疑されてないと言われればこれ以上答えられないんですけど、本来そういうことを委員会では質疑すべきじゃないでしょうか。というのは、改正する前の部分の中に介護保険事業計画という言葉もちゃんとあるわけです。介護保険のサービス量という言葉はないですよ。これは何の委員会でどうのこうのということを知った上で、この１つの会議になるというのをしないと委員会としては機能してないんじゃないかという気がするんですけど、それでもなおかつされてなければ仕方がないんで、仕方がないなという話なんですけど。決算においても同じような問題が出てくると思うんですけど、ちょっとおかしいなと思うんですけど、再度お願いします。

議長（鈴木　悦子君）

金谷議員。

９番（金谷のり子君）

岩﨑議員のおっしゃることも踏まえて、委員の判断でこの条例に対する賛成、全員が賛成ということになっておりますので御理解ください。

議長（鈴木　悦子君）

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

私の言ったことを踏まえてっていうのは踏まえてというのはどういうことですか。それで委員会で議論されてるわけでしょ。委員会で議論されてることについて、委員長も委員会の一員ですから、これはどうなんですかっていうことを聞けばいいわけですし。踏まえてという言葉が逆に言えばわからない。踏まえてあれば、議論されてて当たり前だと思うんですけど。

議長（鈴木　悦子君）

金谷議員。

９番（金谷のり子君）

議論しなくてもそういうことができると判断して、この賛成があったと理解しております。

議長（鈴木　悦子君）

ほかに質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで文教厚生委員長報告に対する質疑を終了いたします。

次に、産業建設委員長報告に対する質疑はございますか。

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

まず、ジビエ関連について４点質問させていただきます。

これはジビエ倍増モデル事業関係っていうのは御承知のように農林水産省が目玉としてやっている事業でございますが、私も農政局にいろいろと勉強しに行ってまいりますと、そのお話の一端を御紹介させていただくと、やはりコンソーシアムを組む事務局、そして構成団体でちゃんとしてもらわなきゃ困ると、こういった意見を聞いております。そういうことを踏まえまして質問の第１点でございますが、予算の組み立ての確実性についての議論はどのようになされたでしょうかということでございます。これはやはり国が補助金を出す第１番目に重要なことですが、具体的に申し上げれば、御承知のように予算については指定管理者からのお金が入ってくる、負担金として入ってくる、それが出に回る、今度は美作市のほうから貸し付けをコンソーシアムのほうにする、補助金を恐らくうまくいけば入るんですが、それを原資に貸付金を美作市のほうへ返すと、こういう予算の組み立てなんですが、一番気になるところはこの歳入予算と歳出予算がどのように委員会の中で議論されたかというのが第１点の質問でございます。

そして２つ目、農林水産省が、これも気にしとることでございますが、いわゆるこれだけ他市町とコンソーシアムを組むわけですから費用対効果が出なければ意味がないと。これは国もよくわかっているわけでございますが、恐らく補助金の申請を出す前提として費用対効果は何らかの書類を農政局のほうに出してると思いますが、こういったことを踏まえて委員会の中では議論をされたのでしょうかというのが２つ目の質問でございます。

そして３つ目でございます。これは予算組みをいろいろと議論する中で一番これが基本だろうと思うんですが、コンソーシアム構成団体間の共通認識がなければ話にならないわけですが、これはどのように、あるかないか、そしてどうあるべきかという議論がなされたかというのが３つ目の質問でございます。

そして４つ目でございますが、先ほどの３番目の質問にかかわることで、コンソーシアムの規約というのがマスタープランの中あるいはその実施要綱の中では必要なんですが、これを現実に委員会としては現物を見ることの中でこの規約のあり方について議論をされたかというのが４つ目の質問でございます。

そして、今度は話題をかえましてクリーンセンター関連について質問させていただきます。４点質問いたします。

第１点、10年間32億円の積み上げの根拠はいいのか悪いか、どのように議論をされたでしょうかというのが１点目です。

そして本予算は最終予算と同じように予算の一つの項目として債務負担行為でございますが、これはどのような意味合いを持つということの重要性を議論されたでしょうかというのが２つ目であります。

そして３つ目ですが、他団体との比較、今回は当市では10年間で32億円がということになっているわけで

すが、幾ら物事を議論する上でも金額についていえば自分のところはいいのか、あるいは安いのかというふうな議論をするのは常識でございますが、その辺はどのように議論がなされたでしょうかというのが３つ目です。

そして最後のクリーンセンターの４つ目の議論でございますが、先ほどの委員長報告の中では32億円のうち35％の割合で修繕が含まれていると、こういう御報告がありました。ざっと掛けますと恐らく１億1,000万円ぐらいになるんだろうと、１億円を超えるということになるんですが、先ほど３番目に質問いたしました他団体との比較の中で高いか低いかという議論がなされるべきであったと思いますが、この辺を債務負担行為との関係の中でどのように議論をされたか。

ジビエ関連で４点、クリーンセンター関連で４点の質問をいたします。

議長（鈴木　悦子君）

中山委員長。

５番（中山　忠明君）

岡野議員の質問でございますが、先ほど委員長報告をしたとおりで、それ以上のこともありませんでした。報告のとおりです。

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

余りにも不見識な答弁でないかと思います。私が今具体的に４点を申し上げております。そのような報告は一切なかったし、当然関連したところもございました。改めて、以上私が質問しました８点についてお答えいただきたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

中山議員。

５番（中山　忠明君）

委員長報告でしたとおりのことでございますので、よろしくお願いします。

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

じゃあ、委員長報告はなされてない点であったと思いますが、例えば今私も文教委員会に対して岩﨑議員が質問されました。委員からの質問がなければ、委員長はみずからそばに寄ることによって質問ができたわけでございますが、本件は先ほどの告知放送の案件と並んでクリーンセンター関連は32億円もの多大な税金を最終的には投入するわけです。そしてジビエ関連も地域産業の振興としては非常に今の時節においては重要なんですが、討論がなされなかったのであれば、委員長みずからどうしてその疑問を持って委員会の音頭をとるということをされなかったんでしょうか。３回目です。

議長（鈴木　悦子君）

中山議員。

５番（中山　忠明君）

委員長報告以外は何もありません。

〔４番岡野鉄舟君「〔聴取不能〕」と呼ぶ〕

議長（鈴木　悦子君）

ほかに産業建設委員長報告に対して質疑ありませんか。

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

私は21日、22日に両方とも傍聴させていただきました。そして今回起きた事件にも、どちらにも立ち会っております。先ほど委員長報告されるときに中山委員長は最初にお断りをされました。まことに済みませんでしたという断りを入れられたんですけど、私は何で中山委員長がお断りを入れられるんか、よく合点がいきません。それはさておいといて、21日は皆さん傍聴されとった人はわかりますけど、私もすぐそばへおったもんですからよくわかっとんですけど、仕切りの棒を振り上げられた。私は怖かったもんですぐ窓際のほうへ……。

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員、今言われてることは委員長報告に対する質疑じゃないんで質疑を変えてください。

１０番（岡本　泰介君）

関連しておるんで、全部私のこれは。ですから、包丁を持ったときもありました。そのときも私も逃げましたが、こういったことが起きたときに、私はきょうの議会は……。

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員。付託された案件についての質疑でございますので、委員長報告。

〔10番岡本泰介君「委員長報告されたんですもん、まことに済みませんでしたというて」と呼ぶ〕

そのことは……

〔10番岡本泰介君「そのことはというて同じことですがな。委員長報告、委員長が言われたことに対して私は物を言ってるんです」と呼ぶ〕

違います。委員長が言われたことに対しての質疑は受けておりません。

この議案に対する……

〔10番岡本泰介君「何で、委員長が言われたことに対しての質疑ですが」と呼ぶ〕

産業建設委員会に付託した案件について報告を受けました。その報告についての質疑をしてください。

〔10番岡本泰介君「そらおかしいわ。委員長の言われたことに対して私は言よんじゃから、物を。何でそんなことを言われるんか。議長もおかしかったですよ、議長何でお断りされたんか私には理解できんですよ、最初お断りされたのが。そのことは言わなんだんですけど、そのときに。言う機会がなかったから言わなんだんですけど、議長が何でお断りされるんか、私らわからなかったです」と呼ぶ〕

そういう議論は受けません。今は委員長報告に対する……

〔10番岡本泰介君「だから、委員長報告に対して今言ってるんですよ」と呼ぶ〕

質疑をしてください。

〔10番岡本泰介君「だから、委員長が言われたことに対して言ってるんですよ、今。何言っとんです。委員長言われたです、まことに済みませんって」と呼ぶ〕

委員長が報告されたのは議案第56号、57号、60号、61号、62号、そして請願第２号、この件について報告をされておりますので、これについて……

〔10番岡本泰介君「これ一番最初に言われたじゃないですか、委員長が。おかしいですよ、議長の言うたことは。ほな委員長に何もそんなこと言われる必要ないですがな。どうして委員長はそのときに委員長報告のときに、まことに済みませんでしたというような断りを受け付けるんですか。おかしいですよ。だから私発言してるんですよ」と呼ぶ〕

今の報告に対して質疑をしてください。

〔10番岡本泰介君「ですから、委員長言われたが、まことに済みませんでしたというて報告されたんですがな」と呼ぶ〕

休憩します。

午後１時19分　休憩

午後１時25分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

岡本議員に申し上げます。中山委員長がお断りされた件につきましては、委員長の報告の前に産建委員長としてお断りをするということでされております。ですから、審議の対象にはなりません。よって、岡本議員の今の質疑は受けることはできません。

以上です。

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

議長も委員長もおかしいですよ。

議長（鈴木　悦子君）

今、私が言ったとおりですので、これ以上、そのことを言われるようでしたら退席を命じたいと思います。

１０番（岡本　泰介君）

断りをされるこっちゃないんです。

それでは、質問します。

クリーンセンターですけれども、クリーンセンターは先ほど岡野議員も言われました。32億円の積み上げのことに関してどのようになっとるかというようなことも言われたんで、私もそれに対して疑問を持っております。32億円の積み上げの根拠をどのように議論されたか教えてください。それがどうも私にはまだ合点がいきません。

それから、ジビエのことなんですけど、ジビエのことで大黒天が六千二百何万円の負担金を持つということは予算書を見てわかります。それに対して施設の所有は美作市が持つということなんですけれども、大黒天の負担に対して美作市はどのようにするのかということが委員長の報告の中でありましたけども、言われたことの担保をどういうふうにするかということまで言われなかったんですけど、委員長報告の言われたことの担保はどのようにされるのかということをお聞きしたいと思います。

それから、もう一点はコンソーシアム、美作市、大黒天、この３者の関係はどのようになってくるのか。

そこら辺についてどのような議論がされたのか教えていただきたいと思います。

以上、２点お伺いします。

議長（鈴木　悦子君）

中山議員。

５番（中山　忠明君）

報告したとおりでございますので、それ以上言うことはありません。

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

委員長、報告されたことのとおりでもう説明がないんだったら、もう質疑やめましょうや。要らんですが、もう。もう委員長報告に対して質疑なんか受ける必要ないですが。そうじゃないですか。いや、議長どう思います。委員長報告されたこと以外に何もないんやったら、もう質疑する必要ないんです。やめたらいいんです、こんな時間、無駄な時間を。どうしてするんですか、そんな要らん質疑を。それは先ほど述べたとおりです、先ほど述べたとおりです、先ほど述べたとおりですでもう終わりですよ、それで。そうじゃないでしょ、議会は。そう思いません、議長。そこら辺のことを議運で諮ってください。どうですか、議員の皆さん。

〔「異議なし、〔聴取不能〕」と呼ぶ者あり〕

こがいなもんする必要ないですよ、議案質疑。質疑なんかする必要ない。

〔「そうそう」と呼ぶ者あり〕

もうやめましょう、この茶番みたいな議会は。それを議論してください、議長。

もう一点、質問します。それに追加してです。

まだクリーンセンターに関してですけど、まだわからないところがあるので中途で見直すかもしれないということを言われたというて私はこれメモしとりますが、私もそう聞きました。こんな見直すんだったら、わからないところがあるんで見直すんだったら、10年の32億円出すということ自体がおかしいですよ。これはもう一遍やり直さないけんと私は思います。もっと精査して、市民に対して、議会に対して責任あるもん出さなだめですよ。10年間の32億円だから途中で見直したらええんじゃと。そんなもんじゃないですよ。32億円、10年で認めたらひとり歩きしていくんですから。それは皆さんよう知っとられるでしょう。こんな議論をやったって何の意味もない。先ほどの委員長報告と一緒。こんなことをやってたら、もう議会は何もならん。意味ない。それに対して委員長どう思われますか。２点答えて。

議長（鈴木　悦子君）

中山議員。

５番（中山　忠明君）

委員会が不要論が出ておりますが……

〔10番岡本泰介君「委員会の不要論なんか言うとらへん」と呼ぶ〕

黙っとってくれるか。もともとそういう委員会なら要らんとかなんとか言うて言うとりますが、私たちは精いっぱいやっておるつもりでございますが、そういう考えがあるんなら、そういう方向でまた話を進めたらいいと思います。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

よろしいですか、岡本議員。

〔10番岡本泰介君「いや、いけん。もう一つの答えをもろうてない。１つだけで」と呼ぶ〕

中山議員。

５番（中山　忠明君）

全てもう委員長報告で終わりますから、それ以上のことはありません。

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員、３回目ですけどよろしいですか。

どうぞ。

１０番（岡本　泰介君）

やります。言いっ放しになると思いますけれども、先ほども言いましたように各委員長がいろいろ報告されます。それに対して議員が質問をしても委員長報告のとおりですという答弁だったら、もう委員長報告したら、もうすぐに質疑はせずにやったらいいんじゃないですか。それを私は提案します。そしてまた、それができんのんなら、またかわりの方法を考える。先ほど中山委員長言われたけど、委員会そのものも無意味かもわかりません。もう全体でやるようにしたほうがいいと思います。そしたら、私たちは委員会で言えれない、傍聴しとったら何も言えんわけですから。全体の委員会だったら全部質問できるわけですから、そういう方法をとったほうが皆さんの理解は深まると思います。そうしないと、ほかのとこのこと何も聞いても委員長報告のとおりです、報告のとおりでしたら、何も私たちはわからないこといっぱいある。それでは美作市民の負託に応えたとは言えない。

議長（鈴木　悦子君）

その件につきましては、また議員全員で話し合い、協議をしていけばいいと思います。委員長報告に対しては以上でよろしいでしょうか。

１０番（岡本　泰介君）

協議してくださることを約束してくださりゃ、それでもいいですけど。

議長（鈴木　悦子君）

ほかにはございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで産業建設委員会委員長報告に対する質疑を終了いたします。

〔４番岡野鉄舟君「動議」と呼ぶ〕

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

いささか先ほどの産業建設委員会の委員長の答弁にはあきれ果てて閉口しておりますが、そこでこれに関連した動議を出していただきます。

議案第60号「平成30年度美作市一般会計補正予算（第２号）」に対する修正動議を地方自治法第115条の３及び美作市議会会議規則第17条の規定により別紙の修正案を添えて提出いたします。案件でございますが、ジビエ倍増モデル整備事業及びクリーンセンター長期包括運営業務委託に係る減額修正であります。

議長（鈴木　悦子君）

ただいま岡野議員から議案第60号「平成30年度美作市一般会計補正予算（第２号）」に対する修正動議が

出されました。修正動議の要件が整っているかを確認いたしますので、その間、暫時休憩をいたします。

午後１時34分　休憩

午後１時49分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

先ほど岡野議員から提出がありました議案第60号「平成30年度美作市一般会計補正予算（第２号）」に対する修正案の動議につきまして、必要な要件が整っておりましたので成立いたしました。修正案につきましては、休憩中にお手元に配付をしております。

それでは、議案第60号「平成30年度美作市一般会計補正予算（第２号）」に対する修正案について、提出者の説明を求めます。

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）〔登壇〕

議案第60号「平成30年度美作市一般会計補正予算（第２号）」に対する修正案の内容を説明させていただきます。

私もざっと１年を過ぎましたが、支援をしていただいた方からもう少しわかりやすく平易にゆっくりしゃべれと、こういった忠言をいただいておりますので、できる限り傍聴にいらっしゃる方、そしてテレビを見ていらっしゃる方々にわかりやすく説明をさせていただきたいと考えます。

では、まず別紙をごらんください。内容は２つございます。

１つ目は、ジビエ倍増モデル整備事業に関する事業費総額１億3,924万8,000円を減額するもので、これに伴いその財源でありますその他特定財源１億3,924万8,000円につき、所要の減額をするものでございます。

２つ目は、クリーンセンターの業務委託に関する債務負担行為につき事項、期間、限度額につき所要の変更をするものでございます。この債務負担行為とはどういったものかということを少し説明をさせていただきますと、歳入歳出予算あるいは地方債、繰越明許費と言われるいわゆる予算の一つとされているものでございますが、これは複数年にわたって契約する、行政活動をする場合に契約する必要がございますので、これを債務負担行為という予算の一種として年度中途であれ契約するものでございます。この事項、期間、限度額について所要の変更をするものでございます。先ほどお話ししました議案第60号「平成30年度美作市一般会計補正予算（第２号）」に対する修正案でございますが、議案第60号「平成30年度美作市一般会計補正予算（第２号）」の一部を次のように修正するものでございます。

第１条第１項中、10億2,819万6,000円を８億8,894万8,000円に、212億106万4,000円を210億6,181万6,000円に改めるものでございます。これによりまして、第１条第２項中第１表歳入歳出予算補正の一部を次のように改めるものでございます。

まず、歳入でございますが、ジビエ倍増モデル整備事業に係るものでございます。款20諸収入につきましては、ジビエ倍増モデル整備事業貸付金収入7,692万3,000円、ジビエ倍増モデル整備事業負担金6,232万5,000円をそれぞれ減額するものでございます。この結果、補正額が、先ほど申しましたが８億8,894万8,000円となり、補正後の額が210億6,181万6,000円となるものでございます。

続きまして、歳出でございますが、款６農林水産業費のうちジビエ倍増モデル整備事業負担金6,232万5,000円、ジビエ倍増モデル整備事業貸付金7,692万3,000円をそれぞれ減額するものでございます。この結果、歳入と同じではございますが、補正額が８億8,894万8,000円となり、補正後の額が210億6,181万

6,000円となるものでございます。

続きまして、クリーンセンター絡みでございますが、第２条中第２表債務負担行為補正の１、追加の内容についてでございますが、次のページをおはぐりをいただきたいと思います、２ページ目でございますが。

まず、事項でございます。従前はといいますか、今回の６月議会の提案の事項は美作クリーンセンター長期包括運営業務委託となっておりますが、これを美作クリーンセンター焼却施設運転及び点検管理業務に、期間、平成31年度から平成40年度までを平成31年度から平成35年度までに、そして限度額32億円を３億円に変更するものでございます。これ後ほど提案理由のところで説明をさせていただきますが、今回、６月議会に上程されております債務負担行為の内容につきまして、現在やっている契約を継続したらどうかという意味合いのものでございます。

次のページでございますが、本来議決事項ではありませんが、平成30年度美作市一般会計補正予算（第２号）修正に関する説明書の歳入歳出補正予算事項別明細書でありますが、参考として添付しておりますのでお目通しいただければと思います。

では続きまして、本修正案の提案理由を説明させていただきます。

まず、ジビエ関連であります。去る平成30年３月９日、農林水産省はジビエ倍増事業として全国で17カ所のモデル地区を選定しております。岡山県美作地区はマスタープラン作成主体が美作市、真庭市、奈義町、岡山県、美作市と真庭市の猟友会、一般社団法人日本ジビエ振興協会、美作市鳥獣被害防止対策協議会を構成団体とするみまさか有害獣利活用研究コンソーシアムがこの一つとして選定されたところでございます。今回の予算内容は狩猟肉、つまりジビエの生産拡大につなげるために食肉処理施設内に微生物を使った個体処理施設や保管庫などを新設するものでございますが、地域振興等々の上でまことに時宜を得たものと思っております。しかるに残念なことでございますが、これまで委員会質疑、そしてきょうの本会議でもいろいろ議論が出ましたとおり、現時点では検討課題がまことに多くございます。したがいまして、以下の理由で今議会の予算は減額修正すべきものと考えております。

るる説明を申し上げますが、第１点は本件事業が現時点において国の鳥獣被害防止総合対策交付金対象事業、平成20年３月31日、農林水産省生産局長通知がございますが、この通知の内容にかなったものかということを問題提起させていただきます。この通知の中では、事業実施主体、つまりコンソーシアムにおいて構成団体間の連絡がとれ、〔聴取不能〕、役割分担、会計処理など、組織としての体制がつくられ、関係農林事業者を初め、地元地域住民の合意を得た被害防止計画及び事業実施計画の策定、実施基準の１でございますが。そして２つ目は、整備する施設等に係る利用計画の策定、実施基準８でございます。そして３つ目、収支均衡のとれた適正な収支計画を策定すること、実施基準の15。そして４番目は、適正な資金調達と償還計画の策定、実施基準の16等々の実施基準を遵守することは求められております。これら実施基準が励行されていくためには関係団体との情報収集する中で当市のコンソーシアム構成団体との連携、了解などができているだろうかと、できていなければいけないということでございますが、私が同僚議員とこれまで政務活動を重ねてきた中では極めて不安でございます。

そして２つ目の理由でございますが、予算の組み立てが確実であるかということでございます。今回、減額修正をしているわけでございますが、重ねて御説明を申し上げますと、補正予算の内容として１つ目は指定管理者からの負担金収入、そしてこれを財源とするコンソーシアムへの支出、そして市からのコンソーシアムの借り入れ、今度はコンソーシアムから市への返還の組み立てがなされているわけでございますが、これが確実に履行されるためには、今指定管理者としてお世話をいただいとる大黒天物産からの負担金がなければ事業の組み立てが崩れてしまいます。実際、政務活動する中で現場等のいろいろな意見も聞いておりま

すが、腑に落ちない部分がございます。そして、先ほど申し上げました農林水産省の通知の中でも収支均衡のとれた適正な収支計画の策定、実施基準の15番ありますが、このことが果たして示されているでしょうか。利益がある確実性がなくては指定管理者は6,000万円もの負担をしていただけるだろうかという不安でございます。農政局の担当官とも話しましたが、国からの補助金はコンソーシアムの組織、財務などの確実な体制がなければ交付されません。先般、９月議会で私はこぶしの里、愛の村の減額修正を出しましたが、残念なことにこぶしの里は中断をしております。そして補助金の7,500万円の国庫補助金を返還した経緯がございます。したがいまして、今回のジビエ倍増モデル事業、非常に地域振興のために利を得たものではございますが、このこぶしの里の轍を踏むことはあってはならないと考えます。

そして３番目の理由でございますが、同じ平成20年３月31日の生産局長通知で、費用対効果分析をすべきだという、そのマニュアルが示されております。これも私はインターネットで出しまして何回か見てまいりました。この一端を紹介させていただきますと、事業実施主体は整備事業及び拠点整備を実施する場合にあっては投資効果に対する効果が適正か否かを判断し、投資が過剰にならないように十分検討し、整備する施策などの導入効果につき農林水産省生産局長の定める手法により費用対効果分析を行うとあります。先ほど私は委員長報告に対して質疑をいたしましたが、先ほど報告したとおりであると、こう答弁をされました。しかし、私が仄聞することによりますと、このことは一切議論をされていないと承知をいたしております。この費用対効果分析は、このマスタープラン等を見る限りは２月にあるいはその若干後に内々の申請をするときに恐らく添付されとるものだろうとは思うんですが、産業建設委員会においてこの辺の内容が提示され議論されたという形跡はないと考えております。内容を少し改めてこの続きを言わせていただきますが、施設整備の計画でございますが、現在の食肉処理施設内に微生物を使った個体処理装置や保管庫等の新設をするとあるんですが、この経緯がこれまで、なぜこれを整備するかということが担当常任委員会においてさえ議論をされてないと承知をいたしております。先ほど私が申し上げました費用対効果分析が構成団体間で共有されているだろうか、そしてこの採算が成り立つだろうかということ、真庭市、そして美作市、奈義町、実際猟友会の方々にお世話になりながら個体をこちらに持ってくるわけでございますが、それの搬入経緯、そういったものが本当に費用対効果があるんだろうかと、こういったことが議論されているだろうかと考えましたときに、残念ながら否と考えざるを得ません。

そして４つ目でございますが、岡本議員も先ほど質問された経緯もございますが、コンソーシアムという整備主体と整備後の財産の所有権の帰属区分が明らかでないということでございます。つまり、どこが工事発注をして、整備後の財産はどこに帰属するのだろうかということでございます。もし、万が一採択されれば、7,000万円ぐらいは国からコンソーシアムに補助金が来るでしょう。ところが実際は構成団体間で機器の購入をし整備をするという建前でございますから、農林水産省としてもそこまでタッチはしてまいりませんが、国の国家予算を出す過程においては農林水産省は厳しいチェックをしなきゃいけないんですが、ここのところはやはりコンソーシアムとしての正しいこと、財務会計はやってもらえるだろうという期待感がございます。この財産の所有の帰属についても、これは実施プラン、そして対象事業要領等に定められていることでございますが、これが今の委員会の審議まで、そして本日の議会までにおいて明らかにされておりません。

ジビエ関係で最後の疑問点でございますが、今私がこのように申し上げるまでもなく、これまでの委員会審議において議会の審議が十分にできていないということがまことに残念であります。我々はあるときは二元代表制の責務として言わざるを得ないわけでございますが、執行部からの積極的な予算審議材料が提示され、そして内容を十分にそしゃくする中で是々非々の決断をするというのが議会制度のあり方だろうと思う

んですが、いかんせんそれも不十分ではありますが、本件ジビエ関連につきましても２月にコンソーシアムが組まれており、そのときには担当常任委員会の面々も知らない間に新聞記事が出るという、これまた格好の悪いことでございますが、まさに議会での審議が十分にできてないということを物語っております。

以上のとおりでございますが、本件予算、〔聴取不能〕等につき６月１日に議会が唐突に開会され予算を提示されただけでは十分な審議ができるはずもございません。

以上がジビエ関連の減額修正に対する理由でございますが、続きましてクリーンセンターに係る債務負担行為についての、なぜ減額修正をするかということのお話をさせていただきます。

まず１点は、現在の状況と今回の債務負担行為の目的でございます。まず現在の状況でございますが、傍聴に来ていらっしゃる方、そしてテレビを見ていらっしゃる方も御承知でない方もいらっしゃいますので若干触れてみたいと思いますが、平成26年10月から焼却施設の点検と焼却残渣の積み込みを業者委託し、それ以外を直営でこれまで運営をしてきております。今回の補正内容は平成31年から平成40年までの10年間を２期に分け、事業者へ包括委託を行う部分を暫時増やしていくための複数年間の契約を可能とするものでございます。先ほど債務負担行為について説明をさせていただいたとおりでございます。では、今回の補正予算の提示がどこが問題でしょうかということをこれからお話をさせていただきます。

第１点は、委員長報告に対して質疑をしました。岡本議員もされましたが、まず第１は10年間で32億円になるという根拠が明らかでないということでございます。私も議案質疑をし若干勉強する中で質問させていただきましたが、十分なお答えをいただいておりません。つまりどういったことかと申しますと、まずは長期委託業務の内容が何であるかということを委員会審議は当然のことですが、我々担当常任委員会以外のメンバーにもこのことをよく周知されるべきであっただろうと思います。そして２つ目の論点でございますが、業務の実施時期でございます。10年というわけでございますが、いろいろな施設があり耐用年数もあることでしょう。それによっていろいろと区分するというのが通常の仕事のやり方だろうと思いますが、この業務の実施時期はどうかといったことも、そして３つ目はこの長期委託業務の内容と業務の実施時期に関係してどれだけの金額が、今回の今やっている契約とどこが違うのかということを本来は担当常任委員会で丁寧に説明がなされるべきです。私は委員会メンバーではありませんが、委員会を２回にわたって傍聴しましたが、当然傍聴ですのでなかなかわかりにくいところが多くございました。この１つ目の問題点は、今申し上げましたように32億円の根拠が明らかでないということでございます。

そして２つ目、わかりやすいお話をさせていただきます。近隣比較で割高であるということでございます。私も同僚議員と赤磐、和気町、津山市に政務活動の一環として勉強に参りました。傍聴されている方、そしてテレビを見ていらっしゃる方々に現実を知っていただきたいと思ってここで御披露させていただきます。まず赤磐市でございますが、契約方式は５年間の短期委託をしております。そして契約業務でございますが、焼却炉の運転のみでございます。ただ、修繕については2,000万円の予算化がされていると知りました。では、人口割にして１人幾らだと思われるでしょうか。当然私どもより人口が多いんですが5,130円です、１人当たり。お隣、和気町に参りました。ここは長期包括委託契約をとっております。期間は、今回私どもの提案10年とは５年長く15年でございますが、ではどういった契約をやってるかと申し上げますと、まずは焼却炉の運転、そして修繕費を担当されております。そして光熱水費の中では電気代が入っております。これを人口割で１人にしてみますと8,571円です。修繕が入ってるから若干高いかなとは思いますが、それにしても私どもの金額よりも安いということがうなずけるんではないでしょうか。そして、津山市でございます。津山市の形はＤＢＯと言いまして建設当時からデザインとその建設とその運営を任せておられますので、若干施設ができた後の私どもとは違うんですが、これは20年間の長期包括委託契約でございます。

では何を委託しているかと申し上げますと、まず焼却炉の運転、そしてリサイクルのマテリアル部門、そして修繕も、この３つを委託しております。20年間でございますが、人口１人当たり3,178円でございます。では、私ども美作市の今回提示された10年32億円を西粟倉も入れての人口１人当たりを計算してみますと１万847円です。期間は10年です。契約の業務の内容ですが、焼却炉の運転と、今話題になっておる修繕です。32億円の35％という説明があったようでございますが、１億1,000万円ぐらいの修繕が含まれているわけでございます。これを皆さん、赤磐市の5,130円、和気町の8,571円、津山市の3,178円、これと比較して、我が美作市が今のままの予算が通るということになれば１万847円が、人口１人当たりです。私は今のところ妻と２人ですが、約２万2,000円ぐらいの年間負担をしなきゃいけない。家族４人であればその４倍の４万五、六千円の負担を１年間負担しなければいけない。年金が下がっている間の中でとてつもない金額であるということがおわかりいただけるんではないでしょうか。

そして次に、問題の項目でございますが、先ほども若干触れましたが債務負担行為の考え方でございます。去る産業建設委員会では、市長がこう答弁されたようです。上限ですからなと。必要であれば歳出予算を抑えればいいという発言があったと聞いておりますが、とんでもない発言です。債務負担行為という予算はそれぞれの積算基準があって、積み上げ、そしてその額が議会で議決されるべきであります。上限だから適当というわけ、こんないいかげんな話はなりません。つまり、これまでの実績、耐用年数などを総合的に考え、積み上げた限度額であるべきです。私が今回６月議会に提案された32億円、10年間というのを見て唖然としたのは端数が全くないということです。万以下がゼロが６つ並んでる。これはもうずさんな計算であるということが直ちにわかります。本来であれば、少なくとも千円単位まで出てくるはずです、細かい積み上げを実績等を踏まえてやっているのであれば。

そして４番目の内容でございますが、審議内容が今回の補正限りで審査できる内容ではないということでございます。

今回、減額修正の提案としては、提案をしているわけでございますが、長期で32億円で行くのか、あるいは私の考えでは本来執行部のほうでこれほど疑義を醸しているわけですから謙虚に補正予算を取り下げて新たにやり直す形があってもいいと私は今も思っておりますが、残念ながら今現在でその動きは全くないわけでございますが、今後は私も提案をしておりますように現行の枠組みを前提にしながら、そしてまた大事なことですが、このクリーンセンターができるときに、平成26年10月15日、地元地区と美作市の間で締結されております美作クリーンセンター設置に関する基本協定というのがございます。いろいろ私も基本協定を見てまいりましたが、地元への情報公開、そしていろいろな意見交換をするということ、いろいろな委員会なんかを開いていろいろ地元との協議をするという協定がたくさん盛り込まれておりますが、こういった協定の履行をすること。そしてまた、他団体の視察などの研究をする中で慎重に方向を決めるべきであろうと思います。先ほど金額比較をいたしましたように、今回提案されている金額がいかに根拠が薄いものかということがおわかりいただけたろうと思います。

以上のようにジビエ関連は確かに産業振興で必要です。私も大賛成であります。ただ、それが議会として承認されるためには納得のいく形、市民の方々に納得いく形でなければいけません。そして、クリーンセンターに係る補正予算についても１人当たりの金額を比較して今説明をさせていただきましたが、その他積算過程等で多くの課題があると考えております。慎重に判断される必要があり、このたび減額修正を提案するものでございます。どうか慎重、適切に御審議をいただきますようお願い申し上げ、提案の説明とさせていただきます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

提出者の説明が終わりました。

これより修正案に対する質疑に入ります。

質疑はございますか。ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

質疑はないようですので……

〔10番岡本泰介君「ちょっと待って」と呼ぶ〕

質疑ですか。

〔10番岡本泰介君「質疑。賛成から言うてもええんでしょ」と呼ぶ〕

いやいや、岡本議員は提出者になっておりますので、当然この件について賛成されておりますので質疑はお受けできません。

ないようですので、これで議案第60号「平成30年度美作市一般会計補正予算（第２号）」に対する修正案に対する質疑を終了いたします。

なお、討論、採決につきましては、この後、議案第53号から１議案ごとに順に行いますので、そのときに行います。

それでは、これより10分間休憩いたします。

午後２時21分　休憩

午後２時32分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

続きまして、討論、採決に移ります。

討論、採決は１議案ごとに行います。

初めに、議案第53号「美作市附属機関設置条例の一部を改正する条例について」、討論に入ります。

反対討論から。反対討論ございますか。

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

先ほど質疑の中で申し上げましたが、この策定をするほうと運営をするほうを１つにするという案が私の胸にはどうしてもすとんと落ちてきませんので、私はこれには反対させていただきます。やっぱし住民ニーズと経営を考えたときの相反するものを１つにするのは、私はいかがなものか、おかしいなという思いがありますので反対します。

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成討論はございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第53号「美作市附属機関設置条例の一部を改正する条例について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成多数。よって、議案第53号は委員長の報告どおり可決されました。

次に、議案第54号「美作市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について」、討論に入ります。

まず、反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

反対討論もありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成討論もございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第54号「美作市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、議案第54号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第55号「美作市消防団条例の制定について」、討論に入ります。

まず、反対討論ございませんか。

岩江議員。

１５番（岩江　正行君）

消防団条例の制定についてじゃな。反対の立場から討論させていただきますけれども、このことについて後方支援することについては反対はしておりません。けど、中身について学生の問題については少し疑問があるなという形の中で疑問がありますから反対をさせていただきます。その学生さんが安全・安心は市民の願いでございます。そういうような形の中で学生さん方に火災予防の活動じゃとか救急技術の普及活動及び防災啓発活動を行うという、このことについては賛成なんですが、50人というて頭をくくっとんですよ。こ

れについては、皆がその気持ちになら、今消防団が少のうなったからというふうな形の中でこういうふうな安全・安心のまちづくりをしようということでこれを上程しとんだったら、もう少し50人じゃ言わずに、市長さん、滋慶学園の話もしましたけれども、生徒の関係もしましたけれども、もう少し全員でこういうふうな後方支援についての避難所の開設のときの運営補助とかというような形の中での、学校の中で全体で取り組めるようなことだったら私はいいんですけれども、50人ということについての一つの疑問を持っておりますから反対をさせていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

反対討論ございますか。

山本議員。

１３番（山本　重行君）

先ほどの委員長報告の中で、市として質疑の内容について十分詳しく報告をしていただきました。特にその中で私があえてもう一度申し上げたいのは、本条例の中で第11条で消防団員は水害とか火災、その他の災害の発生を知ったときはあらかじめ指定するところに従い、直ちに出動し、職務に従事しなければならないと定めております。にもかかわらず、規則の中では機能別消防団員については業務の内容を限定されております。また、委員会の質疑の中でその機能別消防団員については災害時には現場に行かないんだと、そういった説明がありました。また、機能別消防団員についての命令系統も明確ではございません。方面隊との関係については十分ではございません。先ほど学生についてございましたけども、私はその学生に対して報酬を支払って拘束するということについては問題があるというふうにも思っております。また、条例形式においてもいささか問題がある。そういったことを踏まえて、まず何よりも消防組織法に定める消防の任は市民の生命と財産を守る、そういったことでございます。その観点から再考されまして、再度提案されますように要望して反対をいたします。

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、反対討論ございますか。

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

今回の消防団の条例につきましては、消防の弱体化を招くようなおそれがあると。私は地元民になって質問のときもしたんですけど、地域でも火事が発生したときございます。その現状を見たときに、今の消防団っていう方は勤めもあるし日中いない方もある。その人を補強しなきゃいけない。援助しなきゃいけない。地域のためにです。そのためには機能別消防団というのは、これはできない。火事の発生については出動しない、水害のときも出動しない、大規模災害以外はしないということであれば、弱体化のおそれがある。もう少し違った形で消防団強化。例えばの話なんですけど、消防団のＯＢ等々を雇って地域の中でやる、何かあった場合には地域全体で地域を守るというみたいな気持ちがこの条例には出てない。見せかけの部分の条例が多いということは、消防団の弱体化をいってるような気がしますんで反対の立場といたします。

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論はございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

反対討論ございますか。

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

先ほど岩﨑議員が言われたことに非常によく似てるんです。私も総務委員会で申し上げました。学生が消防団員として機能別の役割を担うということはわからんではないんですけれども、今昼間は近所周りに火事がいったときにその人が燃えよるところへ誰かを助けに行くようなことは起こり得るんですよ。そういった例をどういうふうにこの条例の中では例外的に扱えるかというようなことも書いてないし、いろんなことが起きることの想定がまだまだこの条例は不十分だと私は思います。そういった意味で、臨機応変に対応できない学生消防団をしても私は余り意味がないんじゃないかなという思いがいたします。岩江議員が言われたように、人数をもっと増やせという案も私はわからんではないんですけれども、将来の消防団員を増やすという意味ではわからないわけではないんですけど、近所周りで起きたときの火災なんかに対応できないような面が出てくるという思いがいたしますので、この案には今のところ私は反対させていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

山本議員。

１１番（山本　雅彦君）

この条例については私も読ませていただいて、また消防団幹部とも話をさせていただきました。その中で、確かにこの機能別消防団員というのは今全国的にはこれが一つの標準になりつつあるということはあると思います。そういった中で、この機能別消防団員が消防団活動の中で、本来消防団員がなかなか取り組めなかった分野にも進出することができる。例えばイベントを行って、そのイベントの準備とかスタッフとして一生懸命やるというようなことも当然可能になるわけであります。ただ、私が１つ懸念するのは、この学生消防隊員については年額の報酬を支払うようになっておりますけども、そのあたりを改めて少し検討されたほうがいいんじゃないかというふうに思います。これについては消防団、団のほうです、検討されるというふうに思いますけれども、全体においては私は賛成をいたします。こういったことで消防団活動を助けてもらう、また積極的に参加してもらう、そしていざ災害等が起きた場合はそういった避難所等の運営に当たってもらうと、そういったことも学生消防団員であればできるのかなというふうに思いますので、この議案については賛成の立場で意見を言わせていただきました。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

次に、反対討論はございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

尾髙議員。

１４番（尾髙　誉久君）

私は最初勘違いしておりまして、議運のときに説明があった学徒動員なのという思いでいた発言をとどめておりますけど、そうじゃなくて聞いてると、そりゃいいなと思ったのが、今度成人が18歳になります。成人式大変だなと思ったでしょ、18、19、20が成人式やるんで。そのことは置いといて、その18ということを考えたときに非常に体力的にも皆さん成長してきたなと、外国人にまさるとも劣らない体力を持ってきたと思ってます。その中で、こういう精神的な部分というものは非常に弱い、今の若い子は。だから、そういう意味合いにおいて15歳以上であるけども、義務教育に入る中学生は入ってないんですよね。その18という成人の観点から考えても、そういう大きな流れが来てるんかなと。また、若い消防に以前より望んでたことは地域の祭りだとかイベント、さっき山本議員が言われました。そういうようなことにぜひとも消防団が参加してもらいたいな、気持ちの中で、消防としてじゃないんですよ。参加していただきたいと、それがコミュニティだというふうに考える中から、私は非常にいい方向性じゃないのかなというふうに思ってます。あえてもう一つ言えば、市長が言われてる操法に関しては高校生の体力はすごいです、やっぱり。早い、それだからスピードがある。そういう点でいい18歳、17歳、高校生が入ってくださることは非常にいいことだと思ってます。

議長（鈴木　悦子君）

次に、反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成討論ございますか。

金谷議員。

９番（金谷のり子君）

先ほど尾髙議員がおっしゃいましたように18歳成人ということも踏まえまして、それから地域の人口も少なくなる中で、やはり高校生から消防団というものを知っていただくところから始めるということは、地域のつながり、そしていざというときに何らか助け合える幾らかの知識を持っていただけるという意味でぜひ必要なことであると思いますので賛成いたします。

議長（鈴木　悦子君）

次に、反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第55号「美作市消防団条例の制定について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成多数。よって、議案第55号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第56号「市道路線の認定について」、討論に入ります。

反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成討論。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第56号「市道路線の認定について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、議案第56号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第57号「市道路線の変更について」、討論に入ります。

まず、反対討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

反対討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成討論。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第57号「市道路線の変更について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、議案第57号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第58号「美作市過疎地域自立促進市町村計画の変更について」、討論に入ります。

まず、反対討論ございませんか。

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

これは行政財産の貸し付けに関する議論がいろいろとなされております。そういったことに関連しておりまして、私はいまだに行政財産の貸し付けが一民間企業に優遇されるということに対して少し疑義がございます。そしてその内容の整備が含まれた内容ですので、この案には反対させていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

続きまして、賛成討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、反対討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成討論はございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第58号「美作市過疎地域自立促進市町村計画の変更について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成多数。よって、議案第58号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第59号「美作市内の辺地に係る総合整備計画の策定について」、討論に入ります。

まず、反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成討論はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第59号「美作市内の辺地に係る総合整備計画の策定について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、議案第59号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第60号「平成30年度美作市一般会計補正予算（第２号）」の討論に入りますが、初めに討論の順序について申し上げます。

本案は修正案が提出されておりますので、まず１番目に原案に賛成の方、それから２番目に原案にも修正案にも反対の方、３番目に原案に賛成の方、４番目に修正案に賛成の方の順に討論を行い、１から４を繰り返しながら発言をしていただきます。また、討論は１つの議案について１人１回の原則がございますので御承知おきください。よろしいでしょうか。もう一度言いましょうか、よろしいですか。

〔「もう一回」と呼ぶ者あり〕

まず、これから修正案が出ましたのでこれから討論に入ります。一番最初に原案に賛成の方の討論をお聞きします。そして２番目に原案にも修正案にも反対の方の討論を聞きます。それから、３番目にもう一回原案に賛成の方の討論、それから４番目に修正案に賛成の方というふうに、今言った順番を繰り返しながら討論をしていただきます。また、討論は１つの議案について１人１回の原則がございますので御承知おきください。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

それでは、原案に賛成の方の討論に入ります。

原案について賛成の方の討論ございませんか。

青山議員。

１番（青山　　慶君）

原案に賛成の立場で討論いたします。

クリーンセンターについて、先ほど各市町村の個人負担のお話が出たんですが、単純に数字の比較だけとなっておりまして……。

〔「聞こえん」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

もう少し大きな声で。

１番（青山　　慶君）

済みません。それがひとり歩きしそうですので、まずその点について申し上げますと、赤磐市につきましては１人当たり5,000円というところで美作市と比較しますと約半分というところなんですが、赤磐市については旧システムで稼働しているというような話も聞いておりまして……。

〔４番岡野鉄舟君「聞こえません、議長」と呼ぶ〕

議長（鈴木　悦子君）

もう少し大きな声で。力いっぱい大きな声で言ってください。

１番（青山　　慶君）

済みません。旧システムで稼働してるというところもありまして、単純に美作市と数字だけの比較はできないというところがあると思います。続きまして、和気につきましてはリサイクル施設がない状態において

の8,500円ですので、美作市はリサイクル施設はありますので、それを鑑みると同等ぐらいになるんじゃないかなという気はします。そして津山におきましては、システムが24時間稼働してるというところがあり、美作市はそれに対して16時間の稼働であると。16時間の稼働になると立ち上げ、立ち下げというところでシステムの稼働に負荷がかかるというところと、あと温度変化が激しいというところで施設に大変なダメージを与えるということでランニングコストがかかるというふうに認識しております。そして美作市の今の枠組みで言いますと、美作市とあと西粟倉でのごみ処理事業ということになっているんですが、これは平成21年に津山圏域から脱退したというところでこういった枠組みになっているわけですが、それに伴いほかの地域と比べて効率の悪い構成になってるんではないかというところがあり、平成21年当時はそれなりの事情があってそういった判断をされていると思うんですが、今となってはこれが現状であるというところと、委員会において私も傍聴しておりましたが、執行部におかれましてはベストに近い努力をされてるというふうに感じました。これからというところを私は議論するべきだと思いまして、これから先に、例えば津山圏域に加盟している勝央町ですとか奈義町を美作市に参加してもらうですとか、逆に津山圏域に戻って、例えば西部と東部の２カ所に分かれるような事業を行うとか、そういった将来に向けた議論をするべきかなと私は感じております。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

続きまして、原案にも修正案にも反対の方の討論に入ります。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、原案に賛成の方の討論に入ります。

討論ございますか。

金谷議員。

９番（金谷のり子君）

原案に賛成の立場で……

〔４番岡野鉄舟君「声が小さい」と呼ぶ〕

原案に賛成の立場で申し上げます。

〔「もうちょっと大きい声して」と呼ぶ者あり〕

それで先ほど青山議員がありましたようにクリーンセンターについてはそのようなことで、しかしながら今後予算のほうを幾らでも落としていただくように努力は必要と思いますので、それは要望しておきますが。

ジビエ倍増モデルの事業につきましてですが、私も３年前に猟友会の方々の御意見を聞いて全頭処理施設をどうしてもつくってほしいという要望を持ちまして私は一般質問いたしました。そのときに大変コストがかかる、それから運転資金もかかる、それですので大変難しいと。それから、県のほうも今のところ難しいと思っているというところが、このような事業を国とコンソーシアムということでできるということは大変市民に有効な事業をしていただけるということで賛成をいたします。

議長（鈴木　悦子君）

次に、修正案に賛成の方の討論に入ります。

討論ございませんか。

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

まず１点は、今賛成討論を青山、金谷両議員がされたので、まずその討論がだめかというところを私なりに解明したいと思います。

まず赤磐のことを言われましたが、現実に青山議員はあそこへ行かれて説明を聞かれたんですかね。全然論点がずれておりますが、あそこは焼却炉の運転、人件費は込みなんですが修繕費用は含まれてません。ところがバグフィルターとか精密機能検査費用は、これは当然外れているんですが、確かにここは５年でマテリアルはやってません。人口割にすれば5,130円で、このとおりなんですが、今言われた何かそれは論点がずれとんじゃないかなということを言われたんですが、逆に現場を見ずしてどうしてそんなことが言えるかなという点でだめだなと。

それから、金谷議員が猟友会の人とも話をして賛成だと、こうジビエの関係で言われたんですが、私は猟友会の面々ともよく話をしておりますし、問題はフィーリングで賛成をするということじゃなくて、ここの論点は、私がそこで申し上げましたように１つは予算の組み立てがちゃんとできるかということが論点、そして２つ目は農水省が言ってますように費用対効果がとれるかということをコンソーシアムの中でやるかということが大きな論点なんです。あと私はいろいろるる申し上げましたように、その論点をもう少し。我々は議員として予算審議をしているわけですから、その観点からフォーカスしなきゃだめですよ。そういう表面のことだけを言って感情論ではできません。いろいろと申し上げたいんですが、私そこの席でいろいろと言いましたのでお二方のその賛成討論に対して、まず私はそれは反対、要するに論理がなってないということを言います。

議長（鈴木　悦子君）

次に、原案に賛成の方、討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、続きまして原案にも修正案にも反対の方の討論に入りますが、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、原案に賛成の方、討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

修正案に賛成の方の討論に入りますが、討論ございませんか。

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

岡野議員の提案理由の中でるる申し上げたんですけれども、私は費用対効果ということに絞って言いたいと思います。

私もあちこちに調査に行かせていただきました。真庭市にも行かせていただきましたが、真庭市の担当の方はこの施設に対して持ってくるものはないというふうにはっきりおっしゃいました。枝肉は年間200頭、鹿肉を持っていきたいと。しかし残滓に関しては、美作市に持っていくことはありません。イノシシは枝肉も残渣も１頭も持っていきません。こういうお答えでした。奈義町も、私の聞いている範囲では大体同じような、頭数に関してははっきりしませんけれども同じようなことだと思います。この溶解施設を使う残滓は

奈義町も持ってくる意思はないようでございます。金谷議員は先ほど全頭処理のことを言われました。私も全頭処理はいいことだと思っております。しかし、岩江議員が委員会でも言われましたけど、奥のほうから2,000円の差額で本当に持ってきてくれるんか、そういう保障を持ってあんたらはやっとんかということを言われました。確かに東粟倉のほうとか、真殿の奥のほうでとった鹿やイノシシが小さかったからといって2,000円の差額で持ってきてくれるだろうかなという危惧は持っております。そして、その残滓の処理のことですけれども、費用対効果ですので。この施設が年間どの程度ランニングコストがかかるんかというようなことを議論されたようにも私は聞いておりません。施設費がどのくらいかかるかということも聞いておりません。建物とか保管庫とか、その溶融施設全部で１億4,000万円弱ということしか今のところわかってないのが現実です。そして私は、今のジビエをやってる人に聞きました。今ジビエの処理しとる残滓の処理費に幾らかかっとんですかと聞いたんです。月に二、三万円かかりょうる。全部焼却センターへ持っていっとる。そういうふうにお聞きしました。大した金額じゃないなという思いがいたしました。１億4,000万円あったら何十年分あるんだか、何百年分あるんだろうかなという思いです。ですから、費用対効果という面においては、それほど私は価値のないものだという思いがいたしております。奥のほうの人が2,000円の差額でどんどん持ってきてくれて山に埋める労力が省ける、それができればそれは確かに価値はあると思いますけれども、先ほども申しましたけれども、この施設の年間の電気代幾らかかるんだろうかとか、修理費がどの程度かかるもんだろうかとか、薬品代とか何も要らないそうですけど、その施設を運転することに関してどの程度の経費がかかるんだろうかと。それが月に５万も10万もかかるんだったら何も費用対効果はないわけでございます。その辺の議論もなされておるようには聞いておりません。そういったことでジビエに関しては費用対効果が非常に不明瞭である。

それから、帰属がはっきりしない。どうも私は大黒天物産さんが六千二、三百万円持たせていただけるのが何か、何があるんだろうかなと思って。全頭処理して残滓を処理してもお金にかわるものは１円もないわけです。それに何で六千何百万円も美作市のために出していただけるんかな。向こうも商売人ですから何か考えられてることがあるんじゃないかとは思いますけれども、そこのところはよくわかりません。そういったことで帰属もはっきりしないものを賛成するわけにはいかないと。コンソーシアムというものをもっともっとうまく利用していく必要もあると思います。勝央町も津山市も入ってない。とんと飛んだ真庭市が入ってる。そして真庭市はそんなに利用する気もない。自分とこのジビエの処理カーを買うためにコンソーシアムに入ってるんだなという思いがいたしました。そういったことでこの件は余り私は立派な案ではないなという思いがしております。

それから、クリーンセンターの包括契約ですけれども、それは前にも申し上げましたけれども、どうも32億円の根拠が非常に曖昧なものが多いと思います。今現在、年間４億1,000万円ぐらいかかってるんだという説明がありましたけれども、その中には包括経営にならないものまで含まれております。例えば収集費用が入っていたり、包括経営に含まれない人件費だとか、いろんなさび分けしていかなければわからない。これは一部包括経営に入ります、これは包括経営に一部入りませんというさび分けをして、積み上げたもんがきっちり示されてない。ですから、わかりにくい。３億2,000万円の内容は本当にこれが正しいんだという確信がどうしても持てないんです、私は。ですから、この案は私は賛成するわけにもいきません。そしてあえて言うならば、こんな大きな10年間で32億円もの予算を使う案件を議会の冒頭にいきなり出して、わずかな期間で審議するという、この内容にも私はどうも合点がいきません。私はこういったことでもっともっと慎重な審議をして、市民の負託に応えるべきだという思いがいたします。ですから、この案には修正案には賛成し、原案には反対させていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

次に、原案に賛成の方の討論に入ります。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、原案にも修正案にも反対の方の討論に入ります。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

原案に賛成の方の討論に入ります。

討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、修正案に賛成の方の討論に入ります。

討論ございませんか。

重平議員。

７番（重平　直樹君）

産業建設委員会でも反対させてもらいました。修正案には賛成ということで討論させていただきます。

美作市ジビエの倍増モデル事業では、コンソーシアムと、大黒天物産と美作市での補助金、負担金、貸付金、返還金のところで非常にわかりづらく納得ができないので原案には反対でございます。

それと美作市の長期包括運営事業委託では、32億円の事業の中で修繕費が年に１億円、10年で10億円という納得できないごみ処理費で、他の市町村で年間一人頭3,000円から8,000円となっているが、美作市では１万円を超えるような非常に高くつくので原案では反対、修正案では賛成という立場で討論いたしました。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

次に、原案に対して賛成の方の討論に入ります。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、原案にも修正案にも反対の方の討論はございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

原案に賛成の方の討論はございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、修正案に賛成の方の討論はございますか。

倉地議員。

６番（倉地　重夫君）

修正案に賛成の立場から発言させていただきます。

クリーンセンターの業務というのは市民生活に直結したごみの処理ということで、もうごみを見ればその市の市民の暮らしがわかるというふうな、そういう業務じゃないかと思います。こういう業務を包括委託ということで外部に委託してしまっていいものか、まずその観点からこの包括委託に対して反対いたします。

それから、こういった大量の税金をつぎ込んでこういった業務を外部に委託するということは、結局市の税金を使う事業が皆そのお金が市以外に持ち出されとるということにもつながるんじゃないかと思います。美作市は、私が一般質問でも述べましたが、全国で所得水準が1,465位、県内でも最下位から３番目、下には奈義と美咲と西粟倉しかない。こういう下位の状況にあります。税金を使った業務が外部委託で全部、外部のほうへお金が出ていくんでなしに、しっかり市内でお金が活用されるような形で業務は行うべきという立場で包括委託ということに対して反対いたします。

議長（鈴木　悦子君）

それでは、原案に賛成の方の討論に入ります。

ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、原案にも修正案にも反対の方の討論に入りますが、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、原案に賛成の方の討論に入りますが、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、修正案に賛成の方の討論に入ります。

山本議員。

１３番（山本　重行君）

修正案に対して賛成の討論をしますが、ただ先ほどの消防団条例のほうにつきましても、最後に賛成の方が３人おられるっていうのは不思議です、これは。基本的には反対があって賛成。それが議事進行なんで、その点はやっぱし考えていただきたいということを要望します。

それと先ほどから賛成の討論をそれぞれ動議の中でも出てきました。１つにやっぱしまだはっきり32億円というのが私も正しいか間違ってるかよくわかりません。少なくとも、現行においては今の形で当面続けていって、今後検討すべきじゃないかというふうに思います。

それから、ジビエに関しましては、これ指定管理の審査会のところで新しい建物云々とか、大黒天物産の話の中で出てきておりました。これがなぜその当時話として出てこなかったのか非常に不思議でございます。そういった点で私は反対をします。

議長（鈴木　悦子君）

次に、原案に賛成の方の討論に入ります。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、原案にも修正案にも反対の方の討論に入ります。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、原案に賛成の方の討論に入ります。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、修正案に賛成の方の討論に入ります。

ございませんか。

岩江議員。

１５番（岩江　正行君）

修正案に賛成の立場から討論させていただきます。

今回のこのジビエの問題、全頭処理の関係、これも新設したときから全頭処理は誰も反対するというのがおらなんだ。初めから全頭処理を必要じゃと言うとったんよ。皆さん勘違いしとる。よう勉強しとらんと思うんです。初めからそういうような話だったんじゃ。

それとこの広域、ごみの関係。この美作市新クリーンセンターの長期包括運営事業の委託について。これを産業建設委員会で審議したのは、委員長が報告したとおりで中身見てもろうたらそのことなんじゃけども、とりあえずこれが32億円が多いか少ないかという問題、それと短うするか長うするかの問題、私は今言ようる、私はまだこれ10年じゃなしに15年したらええというような発言をしたんじゃけども、私がしても１人だけしてもどうもならないので、皆さん５年で一区切りというような形の中で修正が出ておりますので、その方向で私も賛成なんですが。この32億円の中の一番何が大事な、どこが論点なんかというて言うたら、美作市もたくさん商売しょうる人がおられます。何十人という従業員を抱えとる人もおる。５人や６人で家族でやりょうる人もおる。いつも武蔵の里でも愛の村でもこぶしの里でも、私所轄の委員会ですから質問するんですけども、人件費が委員長が報告したのこれ40％じゃいうとる、40％。こんなん企業だったらもうとうに破綻してしまうん、これ。破綻したええ例が大原にあるでしょう、武蔵のクアガーデン、これ人件費で食われてしもうとんじゃ。管理運営に金かかったんじゃないんじゃ。人件費が大変なんじゃ。それと修理代。これ35％。パーセンテージでいうたら35％言ようるけども。私は岡本議員とも岡野議員ともずっと和気から北房のほうまで行きました、あっちやこっちや。和気へも行く、津山へも行く、聞きました。今のところ、うちと同じような、ちょっとはずれとるけども、修理代が年間2,000万円ほど組んどったら、これほどはかかっとらん。ここの中の35％というたら１億円、年間。債務負担行為とこれ予算組んでしもうたら、委員会でも言うたんじゃけども、これで全部通ってしまうんよ。餅を団子にしてしまうんじゃ、これ受けたもんが。そんなばかなような、市民の税金を勝手に向こうに思うようにしていただきたいというような形の中でやられたんだったら、ここで議会で議論する必要も何もない。これが大体2,000万円以内で済ませとるやつが、これからは古うなったら鉛が窯にくっついたりして大修理もあるらしいですけれども、私は長うするんだったら15年ぐらいにしとって、この32億円をもっと少なくせえと。ちいとば足してもええけん、もう５年延ばしてせえというような話に持っていくか思よんたんじゃけども、皆さんの修正案でこういうなもんが出ましたから、これに同調して賛成させていただきょんじゃけども。年間１億円で、これ。市長も委員会で首かしげようた。一旦ここで、責任があるん、ここで予算可決してしもうたら。

こねえなとこどがい思うとんじゃろうかということと、それとこれ、広域行政の中でやられとんだったら何で鏡野に呼びかけたり、それから真庭じゃなしに津山市、美咲、それと勝央町、隣の。なぜここら辺に声

かけたんか、かけなかったんか。ちょっとこの辺のとこ多くの疑問が残る。それで鳥取市が同じようなやつだったん。八頭から若桜からね。もう智頭町から東部のほうから全部を鳥取県が中心になって、東部のほうが全部このジビエの組合をやっとるわけ。ここは29から39ぐらいな１つのグループができとんじゃ、ジビエの中に。コンソーシアムの中に参加しとる。鳥取銀行までが入っとる。それを美作市が今大黒天物産だけ。それと岡本議員が先ほど言われよったけども、この全頭処理の中でなぜ6,000万円出すんだったら全部寄附金してくれるんだったらわかるんだけども、何で負担金じゃとなというこの6,253万円か。これのお金の出し方、何か疑問、奥歯に物が挟まっとるような、ほいでうちの市の土地にその施設をして、最後になったらどがいな方向へ行ってしまうんじゃろうなという１つの大きな疑問を持っております。ほいで、あそこの本社へも行きました、大黒天物産の。名刺も置いて、携帯番号も置いとんじゃけど、いまだたって連絡も何もない。連絡がいただきたい、お話を聞きたいということで行ったんじゃけど。そのような、やっぱしジビエの関係にいたしましてもほんまに今おる従業員の方々、きのう行きました、私、ジビエにも。冷蔵庫へ入っとるようなもんじゃ、あっこの中おったら。時給何ぼですかというたら、何か知らんけど1,000円にも足らんような時給をもらいようるらしいです。この暑いのに冷房かけて、長袖皆着てナイロンの服着て、冬やこたまったもんじゃない思いますよ。中身をもう少し皆さん真剣に。学校についたらはや加西のほうに養護学校の視察に行きたいという。32億もね。学校は市長が10億円、10億円って言ようたけども、日体大の支援学校に10億円ほどということも議事録見てもろうたらわかるけど、けれどもこれは32億円かけるん、これ予算。

それにな、一遍も視察に行かずにここで皆さんが審議すること自体がわしはおかしい思うとる、これ。何を根拠に皆さんが手挙げたりおろしたりするん。おかしゅうてかなわん、わしは。どねえなっとんじゃろうかと思うて。もう委員長が報告したとおりじゃから、あんだけのことを２日間かけて産業建設委員会では議論しとるわけじゃから、私はこれが全頭処理がだめじゃて言うたり、一括方式がだめじゃというて言うたり、そういうなことを言うとんじゃねえんじゃ。とりあえずは今言ようる今回のやつは５年間でちょっともう少し真剣にやらにゃいけんと思うとるから私も参画しとるん。何でもかんでも執行部が出したら賛成賛成というような話じゃなしに、もう少し調査費も使えるんじゃから、政務調査費が使えるんじゃから、皆さんあらゆるとこへ行って、それでこの矢掛のほうに大黒天物産が処理場しとんでしょう、処理場を。この全頭処理の処理場するって言うとるけども、何トンのやつをここで美作市がするんじゃとか、ここに全体の建物が約このぐらいぐらいな、総額大体このぐらい、それから今言ようる施設の機械器具はこんだけの機械が要ってこのぐらいの予算じゃというのが、誰も聞いとる者、産建のもん聞いてもおらんですよ。私が初めてきのう部長に電話したん。どのぐらい、どがいにもあしたは議会があるんじゃけど、疑問なけんちょっと教えてくれえって言うたんじゃ。そしたら、機械関係が１億3,000万円ぐらい言うたな。そしたら、１億4,000万円ちびっと足らんのに、あと建物とあとどがいな形の中でするんか。どがいにも疑問疑問で、疑問疑問と今回の予算が不思議で不思議で、不思議と疑問でどがいにも今回のやつについては賛成することができません。そういうことで修正案が出とりますので、私は今回は修正案に賛成させていただきますけども。

それと、皆さんジビエ倍増モデルマスタープランの公募要領、農水省の農村振興局がこれ出しとるやつ。皆さんこれぐらい頭に入っとるか、皆見とるか、目通しとるか。今隣の議員に聞いたら、そがんなこと知らんというて。知らんのに建てるんかっていうたら建てるって言ようるけん建てるんでしょ。じゃけども、そういうなことが大きな市の市政をとんでもない方向に持っていくんで、これしっかりと見直す必要があると思いますんで、私は反対でございます。賛成でございます。

議長（鈴木　悦子君）

それでは、原案に賛成の方の討論に入ります。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

続きまして、原案にも修正案にも反対の方の討論に入ります。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、原案に賛成の方の討論に入ります。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、修正案に賛成の方の討論に入ります。

萬代議員。

１２番（萬代　師一君）

クリーンセンターにつきましては、委員長報告を聞かせていただきまして慎重に審議をされたということは理解をさせていただきました。その中で余りにも理解できないのが32億円の根拠でございます。そしてこの包括委託の期間が10年間ということでございます。私は将来的にはこのクリーンセンターにつきましては長期の包括運営委託というものは必要になってくるだろうというふうに考えてはおりますけれども、その委員長の説明の中でもございました、この主な32億円の内訳といたしましては人件費が40％相当、それから修繕費が35％相当、これを年額に置きかえますと大体１億円かかるということでございました。この１億円の根拠といたしましてはプラントメーカーからの意見を参考にして決めたという委員長報告でございましたし、また執行部のほうでもこの長期包括運営業務委託をするメリットとすれば運転委託を長期包括運営業務委託することで運転管理が丁寧となり修繕費等を抑えられる、こういうメリットがありますということも委員長報告の中で紹介をされました。であるならば、なぜそこまでを包括した32億円からもっと精査した積み上げの金額にならないのかなということでございます。その点が納得できません。

また、コンソーシアムにつきましては、先ほど来も討論で言われておりましたけども、これが農水省の補助基準をクリアしてるかなと、これ非常に疑問を持っております。クリアしてないということになると将来に遺恨を残す施設ということになるんではないかなと思いますし、また予算書の流れを見させていただきましても負担金等々非常に不透明な予算措置となっております。私はそのように理解をしております。ということで、本修正動議につきまして賛成の立場での討論とさせていただきます。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

それでは、次に原案に賛成の方の討論に入ります。

尾髙議員。

１４番（尾髙　誉久君）

非常にうれしいなと思ってるのが、産建では十分審議したと萬代議員から言われて本当にうれしく思います。本当に一生懸命審議したんです。一生懸命やりました。それで私はこの包括支援をなぜやらなきゃいけないかということは委員長のほうからも報告があったと思いますが。出とんかな、これ。聞こえよる。

議長（鈴木　悦子君）

聞こえます。

１４番（尾髙　誉久君）

現在の定員が10ということを報告したと思いますが、これから先退職される方どんどん増員はなしで職員数が減っていくわけです。それでクリーンセンターの技術力の保持の問題が顕在化しているということで、これに対応してする方法として包括支援という道を選んだんだと。そういうふうに長期包括支援業務委託。長期包括業務委託、そのように。このことで私はもともと技術者で入ったんで、設計金額というものと落札金額というものはおのずと違います。落札金額でもって設計金額と比較するというのはいかがなもんかなという点があります。その中でプラントというのは皆さん御存じだろうと思いますが、クリーンセンターをやるときに40年ないし50年に一度の事業なんだと。国のほうにこういう国の歩掛かりというものがない、これは事実です。だから、プラントというところでやる中でプロポーザル方式というのをとってると、設計施工ということ。それから、津山市の場合は設計施工管理ということでやって、和気はそれぞれの、うちと同様でない、24時間運転だったり16時間運転だったり、そのような青山議員が負荷がかかるんだというような話もありましたが、とりあえずはプロポーザルでもって競争原理が働けば、今の値段よりは非常に安く管理ができるであろうと、このように思います。それが結論です。いろんな細かい説明するとかえって頭の中が混乱するんで、私の頭の中では十分整理しておりますので、この金額というものは妥当な金額を出してるなと、このように思っております。それだけ。

以上。

議長（鈴木　悦子君）

続きまして、原案にも修正案にも反対の方の討論に入ります。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、原案に賛成の方の討論に入ります。

討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、修正案に賛成の方の討論に入ります。

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

私のほうは産業建設委員会のほうで反対の立場をとらせていただきました。そのときの話をさせていただきましたのは、クリーンセンターの長期包括、包括という部分の意味合いを具体的に尋ねました。これ皆さんがおられるんで改めての話なんですけど、市の水道代をなぜ包括の対象に入れるんですかと。私自身は包括について岡野議員とかほかの議員からいろいろな資料とかネットで調べた中で包括のメリットとデメリットっていうのはある程度ですけど知識の中であったんですけれども、市のほうに水道代何で入れるんですか、よそから入れても安くなりませんよ、美作市の水道ですから。なぜ包括の数字の中に入れるんですかという質問をしたんですけど、最後まで明確な回答が返っておりません。燃料はと言えば、燃料は市外からでもいいから安く入れるんですというふうな意味合いで答えは返していただきました。ただ、それが年間500万円下がりますよと、片方では修理費が１億円かかりますよと、今現在は瑕疵担〔聴取不能〕なんでゼ

ロですけどという話なんで。じゃあ、実際１億円かかって本当に10年で10億円も要るのと。これ市長のほうが10億円も要りませんけど、これは業者との話し合いになりますって言うんですけど。予算をしたからには32億円まで上限まで契約しても、予定価格がどこになるかは別ですけど、そこに行ったら仕方がないという気持ちもあるんです。だから、予算のときになぜもう少し勉強されて、議員のほうにもこれだから包括をしたいんですという話をされないんかな、不思議だなと。今現在は償却施設そのものの運転を業務委託としてお願いしてる。この金額が6,000万円弱、5,000万円台の数字があるんで、これは金額が多少上がろうがどうしょうか別として、11名の方に焼却をお願いしてるんで、これはしないと職員がいなくなるんで、いないんで、もう仕方がない、しなきゃしょうがない。そのように当分の間は工事費も含めて、修繕費も含めてめいめいでやるべきかなという意味でこれに賛成なんですけど。

なぜこの話をするかっていうと、皆さんも見られたらわかると思うんですけど、包括っていうのはまだまだ新しい契約の方法で、全国の市町村でも物すごく勉強されてるところもあるんです。それがネット上に出てるわけです。じゃあ、美作市のほうはどうなんか。私たち議員に包括しますからこういう勉強会があって、これをしたらこっちのほうが得になるんですというのをなぜ言えないんですかっていう部分で不安があるんです。というのが、市の大切なお金を少しでも安くという気持ちがどこまで持っとられるんかなという不安で、少しでも安くなる方法を検討すべきじゃないかなという気がして、クリーンセンターについては修正という意味ですし、それから一方ジビエの倍増モデル事業、この時点も委員会のときに私自身が補助金のこのジビエの関係の部分を探したんですけども、間違ったやつを探したんですけど、結局もともと何が言いたいかっていうと、指定管理をするときにおおむねの話ができてたわけです。そのときには同じような施設で150平米ほどですか、50坪ぐらい。この間の委員会のときにはそれが100平米ぐらい、50平米ほど減ったんですけど、そういう施設をつくりたいというふうな話があったんですけど、その部分については、委員会の部分については昨年11月ぐらいの委員会の議事録がどなたかが情報公開して出されてる。そのことを見ると、今まで私たちになぜこの話をしてないんか。なぜならば、指定管理業務の料金かわってくるんじゃないか、条件かわってくるんじゃないかという部分の疑問点がまず第１に発生しました。

２番目に補助金申請を１月末にされてるわけですね。ほしたら、今度の委員会でも規約とかお金の流れは聞きましたけれども、収支計算とかそういうものについて説明があってもしかるべきだろうと。こちらが聞かないと説明がないんですかという気持ちが非常にあります。といいますが、これ私のほうも補助金の交付要綱というんですか、それを見ましたら、ジビエを特産として売れる収支計算が黒字になる、赤字にならない状態をつくるのがこの一番の目的というふうに書いてあるわけです。それは収入を倍増と書いとる。美作市の現在のジビエの収入、肉の売り上げが1,800万円ほどだと思うんです、28、29を見たところ。それを倍増しても、多目に見て多目に見ても4,000万円弱です。今回、その指定管理をされてるところから6,000万円ものお金を負担金としていただいて、それも市長いわく指定管理業務の一括払いですよと。そのかわり、今の契約で３年した場合には次の指定管理者にかわった場合にはお金を出してもらわにゃいけんのんですという話をしたと。何年間の一括払いですか。説明をしないとわからない、質問しないと言わないっていうんと一緒であって非常にわかりにくい。特にお金の流れにしても不可解な面が非常にあります。

もう一個、収支計算の部分についてです。国のほうが55％、七千何万円、市になるかどこになるかわかりませんけど、45％の6,000万円ほど金かけて、そのかけた金が何年したら、指定管理の話は別として、〔聴取不能〕は戻ってくるんですかと。今年間の売上高が2,000万円弱です。もともと全頭処理という話は前からありまして全頭処理持っていったら突き返される、ごみの焼却場持っていかないけん、あそこで焼却施設つくるには億以上のお金が要る、においの影響もあったりいろいろするんで困るという問題があったりして

今の状態なんですけど、もともとこの計画をした場合に、特に議会のほうにはなぜ言わないのかと。予算にしても非常に不可解な部分、収支計算書にしてもどうにも理解できない部分があるんで、今の状況下ではどちらにしても同じ意味なんですけど、修正案について賛成せざるを得ない。わからないことについて無条件に賛成、反対というのは私はできないという意味で修正案に賛成。

議長（鈴木　悦子君）

それでは、次に原案に賛成の方の討論に入ります。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、原案にも修正案にも反対の方の討論に入ります。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、原案に賛成の方の討論に入ります。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

修正案に賛成の方の討論に入ります。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

それでは、討論がないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

〔４番岡野鉄舟君「議事進行の動議を提出させていただきます」と呼ぶ〕

はい。

４番（岡野　鉄舟君）

るる賛成、修正に賛成の人、それからほかいろいろ議論をいただきました。そして原案に賛成の討論をされた人はわずか３人です。今後の結果がどうなるかわかりませんが、議論は尽くされておりません。賛成するにせよ、反対するにせよ、万機公論に決すべし。こういった状態で鉛筆を倒すというような形で結論を出すということは美作市議会が調査されます。したがって、採決をおくらせて執行部からの説明を聞き直し、それぞれみんなが質問を出し、そして開かれた議会の場を尽くされることを提案いたします。私の動議です。

議長（鈴木　悦子君）

ここで暫時休憩いたします。

午後３時39分　休憩

午後３時51分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

先ほど岡野議員の発言がある前に私のほうが表決の宣告をしております。それは討論を終結し、これより

採決を行いますと、ここまで言いました。そして会議規則61条の中に、宣告後は何人も発言を求めることができないということが書いてありますので、それに該当いたしますので、これよりそのまま審議を進めさせていただきます。

〔「議長、退席します」と呼ぶ者あり〕

〔４番岡野鉄舟君「退席します。〔聴取不能〕のような理屈で裁断をすべきものじゃありません」と呼ぶ〕

理屈じゃございません。会議規則の中にきちっとうたってありますので。

〔４番岡野鉄舟君「鉛筆を倒すわけにいきませんので私は退席いたします」と呼ぶ〕

そういう言葉は通用いたしません。

〔「退場します」と呼ぶ者あり〕

〔３番岩﨑清治君、４番岡野鉄舟君、７番重平直樹君、10番岡本泰介君、12番萬代師一君、13番山本重行君、15番岩江正行君　退場〕

議長（鈴木　悦子君）

それでは、引き続き会議を開きます。

18名の議員の中で過半数はこの中におられますので定足数に達しております。会議をこのまま続行いたします。

それでは、初めに採決の方法について申し上げます。

まず修正案について採決をし、可決された場合は修正部分を除く原案について採決を行います。修正案が否決された場合は、原案全体について採決を行います。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

それでは、まず議案第60号「平成30年度美作市一般会計補正予算（第２号）」に対する修正案について、採決をいたします。

この修正案のとおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立少数〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成少数。よって、議案第60号「平成30年度美作市一般会計補正予算（第２号）」に対する修正案は否決されました。

修正案は否決されましたので、原案全体について採決をいたします。

それでは、議案第60号「平成30年度美作市一般会計補正予算（第２号）」について、原案のとおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成多数。よって、議案第60号は原案のとおり可決されました。

山本議員。

１１番（山本　雅彦君）

今退席をされておられますけども、それは議案第60号について退席されたんではないかと思うんですが、それ以後についてはどうされるか、まだ私どもにはわかりませんけども、少しそこのあたりを確認してもら

ったほうがいいんじゃないの。

議長（鈴木　悦子君）

暫時休憩をいたします。

午後３時54分　休憩

午後４時02分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に引き続き会議を行います。

６月１日、本定例会の会議録署名議員として13番山本重行議員を指名いたしましたが、退席のため、「会議録署名議員の指名」を日程に追加し、追加日程第１として議題とすることに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。したがって、「会議録署名議員の指名」を日程に追加し、追加日程第１とし議題とすることに決定しました。

追加日程第１　　会議録署名議員の指名

議長（鈴木　悦子君）

追加日程第１、「会議録署名議員の指名」を行います。

新たに会議録署名議員として16番日笠一成議員を指名いたします。

それでは、続きまして議案第61号「平成30年度美作市水道事業会計補正予算（第１号）」について、討論に入ります。

まず、反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第61号「平成30年度美作市水道事業会計補正予算（第１号）」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成多数。よって、議案第61号は……

〔「全員だろう、全員賛成だろう」と呼ぶ者あり〕

失礼しました。今の賛成多数は取り消します。

全員賛成。よって、議案第61号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第62号「平成30年度美作市下水道事業会計補正予算（第１号）」について、討論に入り

ます。

まず、反対討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

討論がないようでございますので、終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第62号「平成30年度美作市下水道事業会計補正予算（第１号）」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、議案第62号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、請願第２号「「協同労働の協同組合法（仮称）」の速やかな制定に関する意見書の提出を求める請願書」について、討論に入ります。

なお、討論は原案に対してとなりますので、原案に対する賛否の討論をお願いいたします。

反対討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成討論。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は不採択でありますので、原案についての採択となります。再度申し上げます。本案は原案についての採決となります。

それでは、請願第２号「「協同労働の協同組合法（仮称）」の速やかな制定に関する意見書の提出を求める請願書」について、原案のとおり採択することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、請願第２号は採択されました。

続きまして、陳情第４号「タクシー利用補助制度関係についての陳情書」について、討論に入ります。

まず、反対討論ございませんか。

青山議員。

１番（青山　　慶君）

反対の立場で討論いたします。

私は委員会では賛成をしたんですが、委員会のときは直前に市民の方に言われたというところもあり冷静さを欠いた状態で判断したと感じております。この件に関しましては大いに反省しております。まことに申しわけありません。

実際の反対の理由なんですが、内容につきましては実現できたら大変すばらしいものだというふうに思うんですが、ただ６月に条件が変わったばかりというところもあり、ここで改善の条件をつけるのは少し早いのではないかと。最適回がどうなるかどうなるかわからない状態で、地域によっては全く別のよりよい案というのがあるかもしれないので、ここは一旦採択しないでおいて、しっかり市民の方からアンケートをとった上でどうするべきかというところを考えるべきかと思いまして反対といたします。

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成討論。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は採択です。

陳情第４号「タクシー利用補助制度関係についての陳情書」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立少数〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成少数。よって、陳情第４号は不採択となりました。

山本議員。

１１番（山本　雅彦君）

動議の提出をいたします。

議案第60号「平成30年度美作市一般会計補正予算（第２号）」に対する附帯決議に関する動議を提出いたします。この動議を美作市議会会議規則第16条の規定により別紙のとおり提出いたします。よろしくお取り計らいをください。

議長（鈴木　悦子君）

ただいま山本雅彦議員から議案第60号「平成30年度美作市一般会計補正予算（第２号）」に対する附帯決議に関する動議について文書で提出したい旨の申し出がありました。

これより文書を確認するため、暫時休憩をいたします。

午後４時08分　休憩

午後４時16分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

先ほど山本雅彦議員から提出されました「議案第60号「平成30年度美作市一般会計補正予算（第２号）」に対する附帯決議」に関する動議をお手元に配付しております。

配付漏れはございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

この動議につきましては１名以上の賛成者の署名がございますので、会議規則第16条の規定により動議は成立いたしました。

次に、追加日程についてお諮りをいたします。

「議案第60号「平成30年度美作市一般会計補正予算（第２号）」に対する附帯決議」に関する動議を日程に追加し、追加日程第２として議題とすることに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成多数。したがって、日程に追加し、追加日程第２として議題とすることは可決されました。

追加日程第２　　議案第60号「平成30年度美作市一般会計補正予算（第２号）」に対する附帯決議

議長（鈴木　悦子君）

それでは、追加日程第２、「議案第60号「平成30年度美作市一般会計補正予算（第２号）」に対する附帯決議」に関する動議を議題といたします。

これより提出者の説明を求めます。

山本議員。

１１番（山本　雅彦君）〔登壇〕

それでは、「議案第60号「平成30年度美作市一般会計補正予算（第２号）」に対する附帯決議」を申し上げます。

平成30年度美作市一般会計補正予算（第２号）に計上されている美作クリーンセンター長期包括運営業務委託の債務負担行為の履行に当たっては、以下の事項に留意するよう求めるものであります。

１、債務負担行為限度額を抑制し、プロポーザルによる入札についてもできるだけ低廉な価格となるよう努めること。

２、委託を４年を経過した後、６年目からの委託については改めてその委託内容を精査、検討するよう求めるものであります。

以上、決議をいたします。

以上です。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

説明が終わりました。

これより本動議に対する質疑を行います。

質疑はございませんか。ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

質疑なしと認め、質疑を終了いたします。

次に、本件の委員会付託省略についてお諮りいたします。

本件は会議規則第37条第３項の規定に基づき、委員会付託を省略し、直ちに本会議において採決することにいたしたいと思いますが、これに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成多数。よって、「議案第60号「平成30年度美作市一般会計補正予算（第２号）」に対する附帯決議」に関する動議については、委員会付託を省略し、直ちに本会議において採決することに決定いたしました。

これより討論を行います。

まず、本件に反対の方の討論はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

続いて、本件に賛成の方の討論はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

反対討論ございますか。

倉地議員。

６番（倉地　重夫君）

予算そのものに反対をしておりますので、反対ということで。

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決をいたします。

「議案第60号「平成30年度美作市一般会計補正予算（第２号）」に対する附帯決議」に関する動議について、本件に賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成多数。よって、この動議は可決されました。

市長。

市長（萩原　誠司君）

議長のお許しをいただいたことで、先ほど可決をされました附帯決議について、当局として若干お話をいたしますが、動議の内容につきましては先ほど御説明があったとおり、債務負担行為限度額の抑制、それによる低廉な価格となるようにあらゆる努力をすること、そして４年を経過した後の見直しということでございますが、両件とも私どもとしても大変重要な指摘を頂戴したというふうに考えております。特に、個人的

にはまさに私が今後やらなければならないと思っていたことを議会の多数の意思としてお示しを頂戴したということでございますので、この両件とも誠実に執行するように努めさせていただきたいと思います。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

お諮りいたします。

本日の会議時間は議事の都合により延長したいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。よって、本日の会議時間を延長することは可決されました。

ここで暫時休憩いたします。

午後４時22分　休憩

午後４時40分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

休憩中に議会運営委員会を開催いたしておりますので、議会運営委員長より報告をお願いします。

尾髙議会運営委員長。

１４番（尾髙　誉久君）〔登壇〕

ただいまから議会運営委員会の委員長報告を行います。

先ほど休憩中に議員控室におきまして、議長、委員、市長、副市長、政策審議監、担当部長出席のもと、議会運営委員会を開催し、追加議案１件について協議いたしましたので、その結果を報告いたします。

議員から議案を提出したい旨の申し入れがあり、協議いたしました。議員からの議案は発議第２号「「協同労働の協同組合法（仮称）」の速やかな制定に関する意見書の提出について」の１件で、この発議は私尾髙、ほか５名の議員で発議いたします。発議第２号は、追加日程第３とし上程いたします。

以上、議会運営委員会の委員長報告といたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

ただいま議会運営委員長の報告がありましたように、発議第２号「「協同労働の協同組合法（仮称）」の速やかな制定に関する意見書の提出について」を日程に追加し、追加日程第３として議題とすることに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成です。発議第２号「「協同労働の協同組合法（仮称）」の速やかな制定に関する意見書の提出について」を日程に追加し、追加日程第３として議題とすることに決定いたしました。

これより議案を配付いたしますので、しばらくお待ちください。

〔資料配付〕

配付漏れはございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

追加日程第３　　発議第２号「協同労働の協同組合法（仮称）」の速やか

な制定に関する意見書の提出について

議長（鈴木　悦子君）

追加日程第３、発議第２号「「協同労働の協同組合法（仮称）」の速やかな制定に関する意見書の提出について」を議題とし、提出者の説明を求めます。

尾髙議員。

１４番（尾髙　誉久君）〔登壇〕

それでは、発議第２号を朗読をもって説明にかえさせていただきます。

〔以下朗読〕

以上でございます。よろしく御審議のほどを。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

説明が終わりました。

これより質疑を行います。

質疑はございませんか。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようでございますので、質疑を終了いたします。

本件は美作市議会申し合わせ事項及び会議規則第37条第３項の規定により委員会付託を省略し、直ちに本会議において採決することにいたしたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。よって、発議第２号は委員会付託を省略し、直ちに本会議において採決することに決定いたしました。

これより討論を行います。

まず、反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

討論がないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

発議第２号「「協同労働の協同組合法（仮称）」の速やかな制定に関する意見書の提出について」、本案に賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、発議第２号は原案のとおり可決されました。

以上で今議会の日程は全て終了いたしました。

この際、萩原市長より御挨拶をお願いいたします。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

皆さん御苦労さんでございます。平成30年６月の定例会の閉会、一言御挨拶を申し上げます。

まず、恒例によりまして会期中の動きについて振り返らせていただきます。

６月５日から６日両日、全国市長会議が開催されまして、ちょうどことしが市長会の創立120周年ということで、安倍総理、野田総務大臣ほか多くの方々も来られ、そして地方創生の推進、分権型社会の実現に関する決議というようなことで７つほどの重要な決議もさせていただきました。地方創生の実現、これは私ども消滅可能性自治体としてはどうしてもやり遂げなければならない。そういう気持ちの中で、他の自治体も私どもの考えに賛同をいただいている、心強いことでございました。そして、その時間帯を使いまして、６日午後でございますけども、第１回の東京オリンピック・パラリンピックホストタウン首長会議ということで総理官邸において開催され、そして担当大臣鈴木大臣も来られましたけれども、このオリンピックの成功が１つ東京だけではない、日本全国がこのオリンピックを通じてオリンピックムーブメントに参加する、あるいは国際交流の実際を捉えていくいいチャンスなんでみんなで頑張ろうということになったわけでございますけども、私どもは御案内のとおりベトナムのホストタウンということでございまして、これからもベトナムとの粘り強い努力をしますけれども、できればベトナム女子サッカーチームがアジアの予選で勝って本戦に出場すれば、ここでキャンプが張られるということで、ことしもベトナムのチームが本市でトレーニングキャンプをするんで、ぜひ強い気持ちを伝えていきたいと思います。また、空き時間を使いまして、文部科学省、防衛省に参りましたが、文部科学省のほうでは私どもが今検討をしている支援学校について強い関心とそして心からのサポート、これをするんだという話もあり、具体的にダブルスクールといった問題について文科省に上がってくれば積極的に考えるというお言葉も頂戴しました。また、防衛省につきましては、体育学校の件でございますけれども、よく来てくれたということで大変あったかいお言葉、具体的にはオリンピックまでは動きがとれないけども、決して諦めては困りますと、継続的に途切れることなく協議をしようよという呼びかけも頂戴したところであります。

また、最近の行事についても、近々の行事についても報告をしますが、30日土曜日でありますけども、滝で作州草刈りオリンピック第５回ということでございます。私どもの町が草刈りなくしては生きていけない町であります。その草刈りをともに競技として楽しみ、またその楽しみを通じてこれからの農地を守るその気持ちをお互いに確かめていきたいなというふうに考えております。

それから、そのすぐ次なんですけども、７月２日から５日ということで４日間、サッカーの日本女子代表候補合宿Ｕ17、つまり17歳以下の次のオリンピックを目指す方々なんですが、これがそのレベルでのワールドカップがあるんですが、それに向けてこの地で強化合宿をするということでありますし、Ｂｅｌｌｅとの強化試合も予定されてるということであります。

また、これも皆さん御存じのとおり、その次の週７日がのど自慢の予選、８日が本戦、この中にも出られる方がおられるかもしれませんけれども、ぜひ出られる方には力いっぱい頑張っていただきたい。なかなか高倍率の申し込みでありましたんで必ずしも運良く会場に見に行けない方もいらっしゃるかと思いますけども、予選の７日は基本的に誰もが見に行けるということでございます。身近な方の参加があれば、しっかり応援をする、そのことも含めてぜひ会場に足を運んでいただければというふうに思っております。

夏本番、健康にはくれぐれも、出席の議員の方々も、あるいは市民の方々もお気をつけいただく中でよい夏をお迎えいただきたいと思います。この議会、言論の場、自由な言論の場である議会の皆さんにとっては大変首をひねることが幾つかあったわけであります。我々としても、この大切な議会が今後とも市民の負託に応えて自由な議論ができる、賛成反対含めてしっかり最後まで議論ができる場になる、安全に議論ができ

る場になるようにすべき支援はしっかりとさせていただきたいというふうに思っております。

最後に、つけ加えさせていただきます。出席各位のますますの御健勝、市民の方々の御繁栄をもう一度祈念して御挨拶にいたします。よろしくお願いします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

それでは、ここで私のほうからも一言御挨拶を申し上げます。

平成30年第３回６月美作市議会定例会、いよいよ本日が閉会でございます。皆様には６月１日開会以来、本日までの28日間にわたり御熱心に御審議を賜り、適切な御決定によりここに全議案を議了し、閉会する運びとなりました。

市長を初め、執行部各位におかれましては、今定例会において成立いたしました諸議案の執行に当たりましては各委員長報告、今期中に発言されました各議員の意見を尊重していただき、市勢発展、向上のためにより一層の御尽力をいただきますようお願い申し上げます。

なお、かねてより準備をしておりました動画によるネット配信について、今定例会から代表質問、一般質問についてホームページでごらんいただけるようにしております。来週ぐらいからアップできると思いますので、御報告いたしておきます。

梅雨が明けますと、本当に夏本番で暑い暑い、本当に暑い真夏でございます。どうぞ皆さん、市民の皆さんも御自愛いただき、しっかりと活躍していただきたいと思います。どうぞお気をつけて頑張ってください。

お諮りをいたします。

今定例会の会議に付されました事件は全て終了いたしました。よって、会議規則第７条の規定により、本日をもって閉会したいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。

以上をもちまして平成30年第３回６月美作市議会定例会を閉会いたします。

大変御苦労さまでございました。

午後４時56分　閉会

上記会議次第は事務局長の記載したものであるが、その内容が正確であることを証するためにここに署名します。

平成30年６月28日

美作市議会議長　　鈴　木　悦　子

会議録署名議員　　山　本　重　行

会議録署名議員　　尾　髙　誉　久

会議録署名議員　　日　笠　一　成

その他資料

代表質問【平成３０年第３回（６月）美作市定例会】

通告順番	氏　　名	項　　目	質　問　の　要　旨	質問の相手	頁
1	公明党美作市議団 11番　山本雅彦	１.市長の所信表明について	①人口増へ向けての取組 ②財政運営について ③重度障がい者の方々の受け入れ施設について ④就労支援施設Ａ型、Ｂ型について ⑤女性が活躍できる美作市の実現について ⑥地域包括ケアシステムの周知、充実について ⑦子どもの貧困について ⑧特別支援学校設立に向けた取組について ⑨自衛隊体育学校の美作市誘致について ⑩ベトナム国との交流について ⑪外国人観光客の誘客について ⑫新告知放送について ⑬南部産業団地整備について ⑭特産館みまさかについて ⑮観光振興について ⑯有害鳥獣（クマ）について ⑰ため池や橋梁について ⑱災害対策について（河川の浚渫） ⑲市道管理と安全対策について ⑳クリーンセンターについて ㉑美作水道事業所について ㉒上下水道について ㉓タクシー利用補助事業制度について ㉔市民の安全、安心について ㉕学力向上についての取組 ㉖教育環境整備（エアコン設置）について ㉗市内の小学校におけるユニバーサルデザイン教育について	市　　長	90

一般質問【平成３０年第３回（６月）美作市定例会】

通告順番	氏　　名	項　　目	質　問　の　要　旨	質問の相手	頁
1	４番　岡野鉄舟	１.美作市の人口推計について	①平成２７年８月に作成された「美作市人口ビジョン」の見直しの必要性とそのスケジュールはどうか ②美作市の将来的な人口減少に起因して考えなければならない諸課題は何か ③諸課題を解決する為、どのような手順を踏むのか	市　　長 総合戦略監	114
		２.「公の施設」の管理と指定管理者制度の関係について	①公の施設である、「楽市楽座」、「武蔵の里研修センター」、「武蔵の里交流館」（旧大原町）、「愛の村パーク」（旧東粟倉村）の指定管理の平成２９年度の利用状況はどうか ②各々の施設の設置目的（各条例に規定）は何か また、この目的は、指定管理により達成できているか ③指定管理業務の評価・モニタリングはしているのか	経済部長	119
		３.放課後児童クラブの運営の現状について（指定管理のクラブ及び補助金交付クラブについて）	①資格を持っている支援員の確保はできているのか ②３年間（平成２７年から２９年度）の登録児童数と利用者数 ③保護者及び地域社会への放課後児童健全育成事業の説明は何時なされたのか（美作市放課後児童健全育成事業の設備運営に関する基準を定める条例第５条第３項） ④運営内容の評価及びその結果は、何時、どのように公表されたか（同第５条第４項） ⑤避難及び消火に対する訓練は定期的に実施するようになっているが、平成２９年度は、いつ実施されたか （同第６条第２項）	保健福祉部長	122
		４.土地の「所有者不明化」問題について	⑴固定資産税課税事務への影響 ①土地の地目ごとの所有者不明の件数とその割合 ②死亡者課税、課税保留、所有者居所不明と死亡者課税に係る不納欠損の件数 ⑵土地の「所有者不明化」問題の学習の場の提供 この問題の拡大を防ぐためには、土地が個人の財産であることと公共性の高い存在であることを、普段から一人ひとりが学び、次の世代に継承していくかを考えていくことが大切である 義務教育と生涯学習の観点で土地問題に関する学びの場の設定が必要ではないか	教 育 長 市民部長	125
		５.財政シミュレーションの作成について	①財政シミュレーションは、予算審議に際して、事業実施の是非、事業実施の可否、事業実施時期などを判断する場合の基本的な資料である 作成の有無などの現状を尋ねる	総務部長	129
		６.美作市スポーツ医療・看護専門学校について	①オープンスクール期間中の参加者数 ②定員に対して入学者数が大変少なかったと聞く 学科ごとの入学者数と入学者が少なかった理由をどのように分析したか ③今後の対策	総合戦略監	132

通告順番	氏　　名	項　　目	質　問　の　要　旨	質問の相手	頁
2	16番　日笠一成	1.特別な支援を必要とする子どもの支援と地域の活性化対策について	①支援学校の運営・経営方針等について ②学校施設の設置予定場所と既存公共施設（市役所他）との調整について	市　長 担当部長	134
		2.交通網の整備について	①交通弱者対策について	市　長 担当部長	138
		3.農業振興計画について	①農産物の販売収益増対策について	市　長 担当部長	139
3	8番　安藤　功	1.美作市の子育て支援の現状・今後の方針について	①産前産後の支援 ②乳幼児期の支援 ③義務教育時期の支援 ④美作市の大きな魅力の一つとなる様な支援策の充実	市　長 担当部長	145
		2.森林環境税について	①森林環境税の導入について	市　長 担当部長	151
		3.災害時・火災時等においてのドローンの活用について	①消防・災害救助等の現場におけるドローンの活用について	消防長 危機管理監	154
		4.営農組合について	①市内営農組合やそれに類する団体の現状と今後の課題	市　長 担当部長	156
		5.美作市の交通体系全般について	①デマンドバスの利用状況と今後の取組 ②美作市営バスの交通体系と利用状況 ③美作共同バスを含む民間交通業者の市内バス等の交通体系と利用状況 ④過疎・高齢化社会の公共交通をどう守るか	市　長 担当部長	159
4	17番　内海健次	1.美作地区など１７地区を対象としたイノシシやシカの捕獲から加工を担うモデル地区の指定について	①農水省が勧めるモデル地区とはどのようなものか ②モデル地区での整備事業内容は ③事業費について ④地元説明は ⑤運営状況と指定管理について ⑥モデル地区としての展開は	市　長 担当部長	164
5	13番　山本重行	1.美作市の地域防災の取り組みについて	①市民を災害から守るための施策について ②防災組織の内容について ③防災訓練内容について ④消防団の組織の維持について ⑤河川管理上の問題点について	市　長	169
		2.豪雨災害（平成２１）の被災地域の防災対策と地域の課題について	①この間被災地域（土居・江見）の防災対策はどのように進められたか ②土居地区のメガソーラーの問題点について ③大還橋の井堰の転倒化・改修にどのように取り組まれたか ④江見商業高校の跡地の利用について ⑤中央公民館の建てかえ予定があるのか	市　長	173
		3.滋慶学園の学生数及び愛の村の学生の宿泊数について	①スポーツ医療専門学校の募集定員と高等学校の募集定員と入学者数について ②愛の村の宿泊者数について	市　長	179
6	６番　倉地重夫	1.学校給食の保護者負担の軽減について	①１億２千万の食材費を負担していただいているとのことであるが、保護者の負担の軽減化を求めます ②昨年１年間で全国給食費無料化、軽減化に取り組まれた自治体が増加していると思うが、その実態を市ではどのように把握しているか	市　長 担当部長	182
		2.学校給食の公会計化について	①学校の働き方改革との関係で教員の事務負担の軽減化として、公会計化を求める	市　長 担当部長	186

通告順番	氏　　名	項　　目	質　問　の　要　旨	質問の相手	頁
		3.学校給食や病院、その他福祉施設などの食事の提供と食材について	①３月議会で学校給食に地場産の食材利用について、ニコニコ夢プランについてお尋ねしましたが、県産のものを５０％強利用しているとの答弁であったが、美作市産の食材を学校給食、そのほか食事を提供している現場に利用促進を図っていくことについて尋ねます	市　　長 担当部長	187
7	15番　岩江正行	1.作東地域に建設中のメガソーラー工事について	①岡山県、美作市、業者間で締結している自然保護協定締結書類　事業実施協定書の遵守について ②施行業者は地元への説明において岡山県の基準１．５倍の調整池の設置と説明しているが、対策は万全か ③農地、農作物被害についての対策は ④地球温暖化で一級河川の洪水発生の危険性を国土交通省が発表したが、対策は万全か	市　　長 副市長 教育長 政策審議監 総合戦略監 経済部長 総務部長 建設部長 危機管理監	190
		2.ヘイトスピーチと部落差別解消法法令遵守について	①部落差別解消法第６条部落差別の実態に係わる ②頻発しているインターネット上で野放し状態にあるヘイトスピーチを抑止するための取組について尋ねる		196
		3.公共投資の検証と将来の展望について	①野田レーシングスクールの状況について ②滋慶学園医療看護専門学校の状況について ③都市公園の進捗状況について ④指定管理業務委託について （イ）武蔵の里 （ロ）愛の村パーク （ハ）放課後児童クラブの経営内容について尋ねる		199
		4.空き家対策について	①空家、現状課題について ②財政支援措置について ③税制措置について ④全国版空き家・空き地バンクの構築の参加について ⑤空家対策計画の策定状況		206
		5.耕作放棄地再生にむけて	①耕作放棄地の再生に向けた整備計画について尋ねる ②農業所得の安全と儲かる農業の取組の現状について尋ねる		208
		6.時間帯による空バス運行と公共交通の見直しについて	①利用状況や支援ニーズ等を踏まえたサービス基盤整備について尋ねる （イ）７５歳以上免許自主返納 （ロ）障がい者、老人、子ども、医療機関、買物難民、移動手段、合理的配慮について		210
8	10番　岡本泰介	1.空き家の現状と対策	①市内空き家の実態は ②空家等対策の推進に関する特別措置法の制定は ③空き家バンクの推進	市　　長	216
		2.これからの美作市の農業について	①美作市における農業の位置づけは ②耕作放棄地の現状 ③耕作放棄地はなぜ発生するのか ④分析と対策 ⑤農産物の生産と販売戦略	市　　長	220
		3.ノダレーシングアカデミーの現状と今後	①現在の活動状況は ②誘致効果の分析は	市　　長	224
		4.社会増人口の動向は	①平成２９年度における社会増人口の動向は	市　　長	227

通告順番	氏　　名	項　　目	質　問　の　要　旨	質問の相手	頁
		5.ホーチミン像	①４月６日、ホーチミン像設置に抗議に訪問団が来られたが、その対応は ②５月１９日、ホーチミン生誕を祝う記念式典が開催されたと報道されたが、今後も市あるいは領事館主催の節目式典をするのか ③像設置以来ベトナム人観光客等の増加はあったのか	市　　長	231
		6.滋慶学園開校状況は	①６月現在の在校生の実数は	市　　長	234
９	３番　岩﨑清治	1.メガソーラー事業について	①職員による見回りによる業者指導と問題点事業の進捗率・工事の進め方 ②泥水の対策が出来ていないが何故か ③開発協定書・自然保護協定書と泥水等の対応	市　　長	235
		2.美作市の農林業について	①市の農林業収入は 市の目標収入額は ②市独自施策の方向性は		241
		3.美作市財産管理について	①土地貸付の有償・無償・減額の件数 ②貸付無償・減額の基準 ③財産条例第11条の解釈 ④他市においては無償貸付は不適当との指摘が出ているが ⑤貸付のプロセス（公募・応募） ⑥不測の事態が生じた場合、市の影響はどうなるのか ⑦雲海の多目的施設野球場等の契約内容は		245
１０	14番　尾髙誉久	1.公共施設の利活用について	①美作市公共施設等総合管理計画と今後の方針について ②主な公共施設の利用頻度について ③主な公共施設の貢献度は ④各施設の情報発信の現状と施策について	市　　長 担当部長	254
１１	９番　金谷のり子	1.市民の安全安心	①国道１７９号線、美作市平田から北原の鶴亀橋を渡り、左に直角に折れて川沿い約１００メートル間の国道の拡幅と歩道の設置について	市　　長 担当部長	259
		2.イクボス宣言	①本年１月４日に行われた「イクボス集団宣言」の意味、目的、意義の地域、庁舎内への浸透状況について	市　　長 担当部長	261
		3.子育て支援	①出産祝い金の増額について	市　　長 担当部長	266
１２	５番　中山忠明	1.新文化センター建設について	①新文化センターの建設の取組について ②建設時期とスケジュール ③合併時の「勝田文化センター」について	市　　長 担当部長	271
		2.高齢者の運転免許返納後の交通（乗物）について	①市としての取組 ②セニアカーのレンタル事業 ③公共バスの運行基準	市　　長 担当部長	272
		3.湯郷温泉活性化の為の秘策は有るのか 又、どういう計画が有るのか	①湯郷温泉活性化を市の長として、どのように考え又、どんな観光地に作っていきたいと考えているのか ②湯郷温泉活性化にはどの位の金を使ったら良いと考えているのか ③現在建設中の高速道路、山陽道と中国道をつなぐ事が出来たら、湯郷温泉がどうなると考えているのか 又、その時の為にどの様な用意をすれば良いと考えているのかを聞かせてください	市　　長 担当部長	276
		4.市内の防犯カメラの設置状況	①現在市内に設置している防犯カメラの数 ②防犯カメラの活用について	市　　長 担当部長	278

通告順番	氏　　名	項　　目	質　問　の　要　旨	質問の相手	頁
１３	２番　和田広宣	１.高齢者の安心・安全について	①緊急通報装置の普及状況について ②独居高齢者宅への住宅用火災報知器の普及状況について	市　　長 副 市 長 担当部長	280
		２.生徒・児童の安心・安全について	①学校での心肺蘇生教育の普及推進について ②通学路の安全対策強化について	市　　長 副 市 長 担当部長	284
		３.聴覚障害児支援について	①聴覚検診と補聴器・人工内耳の補助について	市　　長 副 市 長 担当部長	288
		４.２０２０オリンピックにむけて	①日本遺産登録申請について	担当部長	290
１４	１番　青山　慶	１.タクシー利用補助事業について	①利用者のアンケート結果と今年度事業内容への影響	担当部長	294
		２.スクールバスの使用基準について	①スクールバスの使用基準はどのようになっているか 特に中学生の部活動における県大会会場への移動に係る使用との関係を明確に	担当部長	296
		３.市内の子育て支援施設について	①現在、市内の子育て支援施設がいくつあり、今後の整備予定がどのようになっているか	市　　長 担当部長	297
		４.高齢者の健康づくりと孤立、コミュニティナースについて	①健康的なまちづくりが目的であり、高齢者を行政、医療機関、地域とつなぐことが期待できるコミュニティナースを自治体に取り込むことができないか	市　　長 担当部長	299